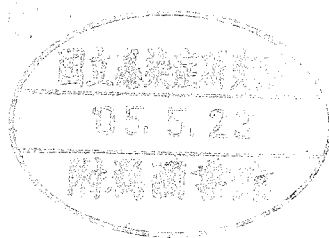




平成11年(4~12月)・12年

感染症発生動向調査事業年報



平成16年3月

厚生労働省健康局結核感染症課

国立感染症研究所



T0025004

2005年5月18日

病原微生物検出情報事務局

日頃より病原微生物検出情報に格別のご理解、ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

厚生労働省健康局結核感染症課により「平成11年(4~12月)・平成12年感染症発生動向調査事業年報」が発行されましたのでお届けいたします。

感染症法施行後の感染症発生動向調査の集計結果の他に、オンライン移行後の病原微生物検出情報・1999年&2000年の集計結果等もあわせて収録されております。

解析等の資料としてご利用いただけますと幸いに存じます。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

平成11年(4～12月)・12年 感染症発生動向調査事業年報

目 次

第1章 感染症発生動向調査概要

I 平成11(1999)年14週～52週	1
1. 1類感染症	1
2. 2類感染症	1
3. 3類感染症	2
4. 4類感染症全数把握疾患	2
5. 4類感染症定点把握疾患	5
II 平成12(2000)年	11
1. 1類感染症	11
2. 2類感染症	11
3. 3類感染症	12
4. 4類感染症全数把握疾患	12
5. 4類感染症定点把握疾患	15

第2章 感染症発生動向調査集計

I 平成11(1999)年14週～52週	21
1. 全数把握疾患(1～4類感染症)	21
1-1. 報告数 : 疾病・週別	21
1-2. 累積報告数 : 疾病・都道府県・性別	26
a 総数	26
b 男性	31
c 女性	36
1-3. 累積報告数 : 疾病・地域ブロック・性別	41
a 総数	41
b 男性	43
c 女性	45
1-4. 累積報告数 : 疾病・年齢階級別	47
2. 4類定点把握疾患(週報)	51
2-1. 報告数・定点当たり報告数 : 疾病・週別	51
2-2. 累積報告数・定点当たり累積報告数 : 疾病・都道府県・性別	54
a 総数	54
b 男性	57
c 女性	60
2-3. 累積報告数・定点当たり累積報告数 : 疾病・地域ブロック・性別	63
a 総数	63

b	男性	65
c	女性	67
2-4.	累積報告数・定点当たり累積報告数	：疾病・年齢階級・性別 69
a	総数	69
b	男性	73
c	女性	77
2-5.	週報定点数	：週・定点種別 81
2-6.	週報定点数	：都道府県・定点種別 82
2-7.	週報定点数	：地域ブロック・定点種別 83
2-8.	週対応表	：14週～52週 84
3.	4類定点把握疾患（月報）	85
3-1.	報告数・定点当たり報告数	：疾病・月別・性別 85
a	総数	85
b	男性	86
c	女性	87
3-2.	累積報告数・定点当たり累積報告数	：疾病・都道府県・性別 88
a	総数	88
b	男性	89
c	女性	90
3-3.	累積報告数・定点当たり累積報告数	：疾病・地域ブロック・性別 91
a	総数	91
b	男性	92
c	女性	93
3-4.	累積報告数・定点当たり累積報告数	：疾病・年齢階級・性別 94
a	総数	94
b	男性	96
c	女性	98
3-5.	月報定点数	：月・定点種別 100
3-6.	月報定点数	：都道府県・定点種別 101
3-7.	月報定点数	：地域ブロック・定点種別 102
II	平成12（2000）年	103
1.	全数把握疾患（1～4類感染症）	103
1-1.	報告数	：疾病・週別 103
1-2.	累積報告数	：疾病・都道府県・性別 108
a	総数	108
b	男性	113
c	女性	118
1-3.	累積報告数	：疾病・地域ブロック・性別 123

a	総数	123
b	男性	125
c	女性	129
1-4.	累積報告数：疾病・年齢階級別	129
2.	4類定点把握疾患（週報）	133
2-1.	報告数・定点当たり報告数：疾病・週別	133
2-2.	累積報告数・定点当たり累積報告数：疾病・都道府県・性別	136
a	総数	136
b	男性	139
c	女性	142
2-3.	累積報告数・定点当たり累積報告数：疾病・地域ブロック・性別	145
a	総数	145
b	男性	147
c	女性	149
2-4.	累積報告数・定点当たり累積報告数：疾病・年齢階級・性別	151
a	総数	151
b	男性	155
c	女性	159
2-5.	週報定点数：週・定点種別	163
2-6.	週報定点数：都道府県・定点種別	164
2-7.	週報定点数：地域ブロック・定点種別	165
2-8.	週対応表：1週～52週	166
3.	4類定点把握疾患（月報）	167
3-1.	報告数・定点当たり報告数：疾病・月別・性別	167
a	総数	167
b	男性	168
c	女性	169
3-2.	累積報告数・定点当たり累積報告数：疾病・都道府県・性別	170
a	総数	170
b	男性	171
c	女性	172
3-3.	累積報告数・定点当たり累積報告数：疾病・地域ブロック・性別	173
a	総数	173
b	男性	174
c	女性	175
3-4.	累積報告数・定点当たり累積報告数：疾病・年齢階級・性別	176
a	総数	176
b	男性	178
c	女性	180

3-5.	月報定点数	: 月・定点種別	182
3-6.	月報定点数	: 都道府県・定点種別	183
3-7.	月報定点数	: 地域ブロック・定点種別	184
第3章 病原微生物検出情報・特集記事 (Vol.21 No.1~ Vol.22 No.12)				186
第4章 病原体情報集計・病原細菌検出成績				235
I	平成11(1999)年・協力機関一覧			235
1.	病原細菌検出状況総括、由来ヒト、1999年			236
1-1.	地研・保健所、検疫所、都市立伝染病院			236
1-2.	医療機関			238
2.	病原細菌検出数の月別集計、由来ヒト、1999年			239
2-1.	地研・保健所			239
2-2.	検疫所			241
2-3.	都市立伝染病院			242
2-4.	医療機関			244
3.	サルモネラの菌型分布、1999年			249
3-1.	由来別集計、地研・保健所			249
3-2.	材料別集計、由来ヒト、医療機関			252
4.	チフス菌・パラチフスA菌のフェージ型分布、由来ヒト、1999年			254
4-1.	チフス菌の月別フェージ型分布			254
4-2.	パラチフスA菌の月別フェージ型分布			254
4-3.	チフス菌の都道府県別フェージ型分布			255
4-4.	パラチフスA菌の都道府県別フェージ型分布			256
5.	A群溶血性レンサ球菌の菌型分布、由来ヒト、1999年			257
5-1.	月別全国集計、地研・保健所			257
5-2.	月別全国集計、医療機関			257
6.	病原細菌検出数の年別集計、由来ヒト、1994~1999年			258
6-1.	地研・保健所			258
6-2.	検疫所			260
6-3.	都市立伝染病院			262
6-4.	医療機関			264
II	平成12(2000)年・協力機関一覧			267
1.	病原細菌検出数の地研・保健所集計、由来ヒト、2000年			268
1-1.	月別、2000年			268
1-2.	月別サルモネラ血清型の内訳、2000年			270
1-3.	月別A群溶血性レンサ球菌T型別の内訳、2000年			272
1-4.	年別、1995~2000年			273
1-5.	病原体個票による報告、月別、2000年			275

1-6. 集団発生病原体票による報告、2000年	281
1-6-1. 月別、2000年	281
1-6-2. 感染症発生動向調査2～4類全数報告疾患、2000年	282
2. 病原細菌検出数の検疫所集計、由来ヒト、2000年	283
2-1. 月別、2000年	283
2-2. 推定感染地、2000年	284
2-3. 年別、1995～2000年	286
3. チフス菌・パラチフスA菌のファージ型別成績、由来ヒト、2000年	288
3-1. チフス菌の月別ファージ型分布	288
3-2. パラチフスA菌の月別ファージ型分布	288
3-3. チフス菌の都道府県別ファージ型分布	289
3-4. パラチフスA菌の都道府県別ファージ型分布	290
4. 病原細菌検出数の都市立伝染病院集計、由来ヒト、2000年	291
4-1. 月別、2000年	291
4-2. 年別、1995～2000年	293

第5章 病原体情報集計・ウイルス、リケッチア、クラミジア、マイコプラズマ検出成績

I 平成11(1999)年	295
1. 検体採取月別、由来ヒト、1999年	295
2. 感染年齢、由来ヒト、1999年	297
2-1. 年齢別	297
2-2. 年齢群別	298
2-3. 0歳児の月齢	299
3. 性別、由来ヒト、1999年	300
4. 検体の種類、由来ヒト、1999年	301
5. 臨床診断名、由来ヒト、1999年	302
6. 臨床症状、由来ヒト、1999年	303
7. 検出方法、由来ヒト、1999年	304
8. 検体採取の理由、由来ヒト、1999年	305
9. 報告機関、由来ヒト、1999年	306
10. 年別、由来ヒト、1994～1999年	309
II 平成12(2000)年	313
1. 検体採取月別、由来ヒト、2000年	313
2. 感染年齢、由来ヒト、2000年	315
2-1. 年齢別	315
2-2. 年齢群別	316
2-3. 0歳児の月齢	317
3. 性別、由来ヒト、2000年	318
4. 検体の種類、由来ヒト、2000年	319

5. 臨床診断名、由来ヒト、2000年	320
6. 臨床症状、由来ヒト、2000年	321
7. 検出方法、由来ヒト、2000年	322
8. 検体採取の理由、由来ヒト、2000年	323
9. 報告機関、由来ヒト、2000年	324
10. 年別、由来ヒト、1995～2000年	327
11. 集団発生病原体票による報告、月別、由来ヒト、2000年	330
第6章 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の施行に伴う感染症 発生動向調査事業の実施について・・・(平成11年3月19日 健医発第458号)	
厚生省保健医療局長通知	331
・感染症発生動向調査実施要綱	332
別記様式一覧表	345
第7章 感染症新法に基づく医師から都道府県知事等への届出のための基準について・・・ (平成11年3月30日 健医感発第46号)	
厚生省保健医療局結核感染症課長通知	363

第1章 感染症発生動向調査概要

I 平成11（1999）年14週～52週

『平成11年感染症発生動向調査概要』

I 平成11（1999）年14週～52週

1. 1類感染症

エボラ出血熱
報告なし。

クリミア・コンゴ出血熱
報告なし。

ペスト
報告なし。

マールブルグ病
報告なし。

ラッサ熱
報告なし。

2. 2類感染症

コレラ

年間報告数は39例で、性別では男性25例（64%）、女性14例（36%）であった。年齢別では20歳代が最も多かったが、70歳以上まで幅広くみられた。時期的には特別な傾向はみられなかった。都道府県別では東京都（7例）、大阪府（6例）、愛知県（3例）などの報告がみられた。

細菌性赤痢

年間報告数は620例で、性別では男性290例（47%）、女性330例（53%）であった。年齢別では25～29歳をピークとし、その前後に多く分布していた。時期的には8月中旬～10月上旬にかけて多い傾向があったが、それ以降も43週（10月下旬）、46週（11月中旬）に急増していた。都道府県別では東京都（108例）、神奈川県（65例）、大阪府（55例）などの報告が多かった。

腸チフス

年間報告数は72例であり、性別では男性45例（63%）、女性27例（37%）であった。年齢別では20歳代に多くみられた。時期的には特別な傾向はみられなかった。都道府県別では東京都（28例）、大阪府（7例）、福岡県（7例）などの報告がみられた。

パラチフス

年間報告数は30例であり、性別では男性18例（60%）、女性12例（40%）であった。年齢別では20歳代に多くみられた。時期的には4月上旬～5月中旬にやや多い傾向がみられた。都道府県別では東京都（7例）からの報告が多かった。

急性灰白髄炎

報告なし。

ジフテリア

年間報告数は2例であり、性別では男性(65～69歳)、女性(25～29歳)各1例ずつであった。時期的には39週(9月下旬～10月上旬)と51週(12月下旬)であり、都道府県別では岐阜県、広島県より1例ずつの報告であった。

3. 3類感染症

腸管出血性大腸菌感染症

年間報告数は3,117例であり、性別では男1,476例(47%)、女1,641例(53%)であった。年齢別では1～4歳が最も多く、次いで5～9歳であったが、それ以上の年齢でも一定の割合でみられた。時期的には夏季に集積してみられ、6月上～中旬から9月下旬～10月上旬には週毎に100例を超え(38週を除く)、都道府県別では大阪府(256例)、東京都(234例)、兵庫県(227例)などの報告が多かった。

4. 4類感染症全数把握疾病

アメーバ赤痢

年間報告数は276例であり、性別では男性255例(92%)、女性21例(8%)と男性がほとんどを占めた。年齢別では30～34歳と50～54歳に2つのピークがみられ、19歳以下の報告は少なかった。時期的には特別な傾向はみられなかった。都道府県別では東京都(92例)、神奈川県(38例)、大阪府(34例)などの報告が多かった。

エキノコックス症

年間報告数は7例であり、性別では男性4例、女性3例であった。年齢別では全て30歳以上で、3例が70歳以上であった。時期的には特別な傾向はみられなかった。都道府県別では全て北海道からの報告であった。

黄熱

報告なし。

オウム病

年間報告数は23例であり、性別では男性8例(35%)、女性15例(65%)であった。年齢別ではほとんどが25歳以上であり、45～49歳と55～59歳に2つのピークがみられた。時期的には4月中旬～5月下旬にやや多い傾向がみられた。都道府県別では京都府、大阪府、兵庫県(各3例)などの報告がみられた。

回帰熱

報告なし。

急性ウイルス性肝炎

年間報告数は1,519例であり、性別では男性930例(61%)、女性589例(39%)であった。年齢別では20～34歳に多く、その後年齢の上昇に伴いゆるやかに減少する傾向がみられた。時期的には4～7月に多い傾向がみられた。都道府県別では東京都(272例)、大阪府(157例)、兵庫県(143例)などの報告が多かった。

Q熱

年間報告数は12例であり、性別では男性7例、女性5例であった。年齢別では20歳未満が9例を占めていた。時期的には35週の4例以外、特別な傾向はみられなかった。都道府県別では静岡県(6例)、愛媛県(5例)などの報告がみられた。

狂犬病

報告なし。

クリプトスポリジウム症

年間報告数は4例であり、性別では全て男性であった。年齢別では全て15～29歳に分布していた。時期的には全て6月下旬～7月上旬から9月中旬の報告であった。都道府県別では東京都（2例）、北海道、千葉県（各1例）から報告があった。

クロイツフェルト・ヤコブ病

年間報告数は92例であり、性別では男性36例（39%）、女性56例（61%）であった。年齢別では45～49歳より65～69歳までは年齢とともに増加し、70歳以上にも多くみられた。時期的には特別な傾向はみられなかった。都道府県別では東京都（14例）、大阪府（5例）、秋田県、神奈川県、京都府（それぞれ4例）などの報告がみられた。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症

年間報告数は22例であり、性別では男性12例（55%）、女性10例（45%）であった。年齢別では50～60歳代に多くみられた。時期的には特別な傾向はみられなかった。都道府県別では東京都（4例）、千葉県、愛知県、大阪府、和歌山県、岡山県（各2例）などの報告がみられた。

後天性免疫不全症候群

年間報告数は588例であり、性別では男性481例（82%）、女性107例（18%）で男性が多くを占めた。年齢別では25～29歳、30～34歳をピークとし、年齢が進むにつれて減少していた。なお、1～4歳で1例、15～19歳で4例、70歳以上で11例の報告があった。時期的には特別な傾向はみられなかった。都道府県別では東京都（225例）、神奈川県（55例）、大阪府（43例）などの報告が多かった。

コクシジオイデス症

報告なし。

ジアルジア症

年間報告数は42例であり、性別では男性32例（76%）、女性10例（24%）であった。年齢別では20歳代にピークがあったが、それ以上の年齢でも幅広くみられた。時期的には特別な傾向はみられなかった。都道府県別では東京都（15例）、神奈川県（7例）、大阪府（7例）などの報告がみられた。

腎症候性出血熱

報告なし。

髄膜炎菌性髄膜炎

年間報告数は10例であり、性別では全例男性であった。年齢別では0～4歳、15～24歳、40～54歳にみられた。時期的には特別な傾向はみられなかった。都道府県別では東京都（5例）からの報告が多かった。

先天性風疹症候群

報告なし。

炭疽

報告なし。

ツツガムシ病

年間患者数は556例であり、性別では男性287例(52%)、女性269例(48%)であった。年齢別では40歳代より60歳代まで年齢とともに増加傾向がみられ、70歳以上でも多くみられた。時期的には5月下旬～6月上旬に多少の集積があったが、主に10月下旬～12月下旬に多くみられた。都道府県別では千葉県(84例)、鹿児島県(71例)、秋田県、宮崎県(各45例)などの報告が多かった。

デング熱

年間報告数は9例であり、性別では男性7例、女性2例であった。年齢別では20歳代と40歳代にそれぞれ3例ずつみられた。時期的には特別な傾向はみられなかった。都道府県別では東京都(4例)、大阪府(2例)などの報告がみられた。

日本紅斑熱

年間報告数は39例であり、性別では男性21例(54%)、女性18例(46%)であった。年齢別では30歳以上ではどの年齢群にもみられ、特に70歳以上に多くみられた。時期的には特別な傾向はみられなかった。都道府県別では高知県(15例)、兵庫県(9例)、宮崎県(7例)などの報告がみられた。

日本脳炎

年間報告数は5例であり、性別では男性4例、女性1例であった。年齢別では1例が15～19歳であったが、他の4例は55歳以上であった。時期的には全例8～10月であった。都道府県別では徳島県、高知県、福岡県、長崎県、熊本県からそれぞれ1例ずつの報告であった。

乳児ポツリヌス症

年間報告数は1例で男性、年齢別では1～4歳であり、14週(4月)に広島県からの報告であった。

梅毒

年間報告数は751例で、性別では男性482例(64%)、女性269例(36%)であった。年齢別では幅広い年齢群にみられたが、20～34歳と70歳以上に2つのピークがみられた。時期的には6～7月にやや多いこと以外、特別な傾向はみられなかった。都道府県別では東京都(134例)、大阪府(127例)、兵庫県(48例)などの報告が多かった。

破傷風

年間報告数は66例であり、性別では男性31例(47%)、女性35例(53%)であった。年齢別では20歳未満の症例は4例のみで、55～59歳に12例、70歳以上に30例がみられた。時期的には特別な傾向はみられなかった。都道府県別では東京都(8例)、茨城県(5例)、福岡県、大分県(各4例)などの報告がみられた。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症

年間報告数は23例で、性別では男性11例(48%)、女性12例(52%)であった。年齢別では65～69歳(4例)、70歳以上(17例)に多くみられた。時期的には特別な傾向はみられなかった。都道府県別では福岡県(6例)の報告が多かったが、長野県(3例)、秋田県、東京都、鹿児島県(各2例)などの報告もみられた。

ハンタウイルス肺症候群

報告なし。

Bウイルス病
報告なし。

ブルセラ症
報告なし。

発疹チフス
報告なし。

マラリア

年間の報告数は112例であり、性別では男性86例（77%）、女性26例（23%）で男性が多くを占めた。年齢別では20～30歳代にピークがみられた。時期的には特別な傾向はみられなかった。都道府県別では東京都（54例）が非常に多く、次いで、神奈川県（9例）、大阪府（8例）などの報告がみられた。

ライム病

年間報告数は14例であり、性別では男性8例、女性6例であった。年齢別では40歳代（6例）に多くみられた。時期的には7月中旬～8月中旬にやや集積する傾向がみられた。都道府県別では北海道（9例）からの報告が最も多かったが、宮城県、東京都、新潟県、広島県、長崎県（各1例）からの報告もあった。

レジオネラ症

年間報告数は56例であり、性別では男性42例（75%）、女性14例（25%）であった。年齢別では0歳に1例みられたが、他は20歳以上であり、年齢とともに増加傾向がみられた。時期的には特別な傾向はみられなかった。都道府県別では三重県（7例）、岐阜県（6例）、東京都（5例）などの報告がみられた。

5. 4類感染症定点把握疾病

インフルエンザ

定点からの年間報告数は65,471例（定点当たり年間報告数15.86）であり、性別では男性52%、女性48%であった。年齢別では4歳をピークとして小児に多くみられたが、成人では20～39歳に多かった。時期的には12月に多くみられた（1999年分は、例年ピークになる1～3月が対象期間に含まれていない）。都道府県別では宮城県（定点当たり74.58）、大阪府（59.94）、奈良県（46.91）などの報告が多かった。

咽頭結膜熱

定点からの年間報告数は10,726例（定点当たり年間報告数3.73）であり、性別では男性が56%、女性44%であった。年齢別では1～4歳にピークがみられた。時期的には6～8月に多くみられた。都道府県別では鳥取県（定点当たり10.44）、愛媛県（9.46）、長野県（8.96）などの報告が多かった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点からの年間報告数は90,283例（定点当たり年間報告数は31.40）であり、性別では男性54%、女性46%であった。年齢別では5歳にピークがみられた。時期的には6月上旬と12月に2つのピークがみられた。都道府県別では鳥取県（定点当たり112.39）、大分県（73.81）、長野県（59.31）などの報告が多かった。

感染性胃腸炎

定点からの年間報告数は507,592例（定点当たり年間報告数は176.55）であり、

性別では男性53%、女性47%であった。年齢別では1歳にピークがみられた。時期的には夏季に少なく、冬季に急増し、12月中旬にピークがみられた。都道府県別では宮崎県（定点当たり409.41）、鳥取県（353.22）、福井県（348.27）などの報告が多かった。

水痘

定点からの年間報告数は162,424例（定点当たり年間報告数56.50）で、性別では男性53%、女性47%であった。年齢別では6ヶ月以降増加し、1～4歳にかけて幅広いピークがみられ、0～5歳が89%を占めた。時期的には6月と12月に2つのピークがみられた。都道府県別では山形県（定点当たり95.57）、福井県（91.09）、宮崎県（89.95）などの報告が多かった。

手足口病

定点からの年間報告数は50,814例（定点当たり年間報告数17.67）で、性別では男性55%、女性45%であった。年齢別では6ヶ月以降増加し、1歳で最多となり、それ以降の年齢で減少傾向であった。時期的にはほとんどが夏にみられ、7月にピークがみられた。都道府県別では愛媛県（定点当たり123.44）、宮崎県（88.89）、大分県（49.42）などの報告が多かった。

伝染性紅斑

定点からの年間報告数は18,607例（定点当たり年間報告数6.47）で、性別では男性50%、女性50%であった。年齢別では3～7歳に多く、5歳にピークがみられた。時期的には7月中旬にピークがみられ、その後減少したが、年末に向かい再びわずかに増加傾向を示した。都道府県別では大分県（定点当たり27.00）、新潟県（24.10）、青森県（17.59）などの報告が多かった。

突発性発疹

定点からの年間報告数は95,737例（定点当たり年間報告数33.30）であり、性別では男性52%、女性48%であった。年齢別では7～12ヶ月にピークがみられた。時期的には8月下旬～9月上旬になだらかなピークがみられた。都道府県別では佐賀県（定点当たり66.43）、鳥取県（54.89）、宮崎県（52.05）などの報告が多かった。

百日咳

定点からの年間報告数は2,653例（定点当たり年間報告数0.92）で、性別では男性52%、女性48%であった。年齢別では1歳未満にもっとも多く、それ以降年齢とともに減少した。時期的には4月以降ゆるやかな増加傾向がみられ、9月に多少のピークを示し、その後年末にかけてゆるやかに減少した。都道府県別では宮崎県（定点当たり3.19）、静岡県（2.23）、沖縄県（2.06）などの報告が多かった。

風疹

定点からの年間報告数は2,972例（定点当たり年間報告数1.03）であり、性別では男性51%、女性49%であった。年齢別では1歳にピークがみられたが、6ヶ月～6歳に集中しており、全体の74%を占めていた。また、女性（1,447例）の中で20歳以上は61例であり、4.2%を占めていた。時期的には春から夏にかけてわずかに多い傾向がみられた。都道府県別では埼玉県（定点当たり3.28）、北海道（2.85）、岡山県（2.56）などの報告が多かった。

ヘルパンギーナ

定点からの年間報告数は154,802例（定点当たり年間報告数53.84）で、性別では男性52%、女性48%であった。年齢別では6ヶ月～5歳に多く、1歳にピークがみられた。

時期的には5月から急激に増加し、7月下旬にピークがみられ、その後速やかに減少した。都道府県別では三重県（定点当たり113.96）、和歌山県（113.26）、新潟県（102.20）などの報告が多かった。

麻疹（成人麻疹を除く）

定点からの年間報告数は5,875例（定点当たり年間報告数2.04）であり、性別では男性55%、女性45%であった。年齢別では1歳にピークがみられた。時期的には春季にやや多く、夏季以降減少した。都道府県別では沖縄県（定点当たり29.55）、青森県（13.88）の2県が高値を示し、次いで埼玉県（6.59）であった。

流行性耳下腺炎

定点からの年間報告数は69,070例（定点当たりの年間報告数は24.02）であり、性別では男性55%、女性45%であった。年齢別では4歳をピークとし、1～8歳に集中していた。時期的には秋季にやや少ない傾向がみられた。都道府県別では鳥取県（定点当たり67.22）、兵庫県（62.77）、宮崎県（59.27）などの報告が多かった。

急性出血性結膜炎

定点からの年間報告数は1,084例（定点当たり年間報告数1.84）であり、性別では男性52%、女性48%であった。年齢別では1～6歳を中心に小児に多い傾向があったが、成人でも特に20～30歳代を中心に幅広くみられた。時期的には4～7月にやや多い傾向がみられた。都道府県別では長崎県（定点当たり26.14）からの報告が非常に多く、次いで宮城県（4.78）、宮崎県（3.50）などであった。

流行性角結膜炎

定点からの年間報告数は23,941例（定点当たり年間報告数40.65）であり、性別では男性54%、女性46%であった。年齢別では1～5歳の小児に多い傾向があったが、成人でも20～30歳代を中心に幅広くみられた。時期的には6～9月にやや多い傾向がみられた。都道府県別では愛媛県（定点当たり109.29）、茨城県（107.33）、鹿児島県（93.00）などの報告が多かった。

急性脳炎（日本脳炎を除く）

定点からの年間報告数は129例（定点当たり年間報告数0.28）であり、性別では男性69%、女性31%であった。年齢別では0～9歳と60歳以上に多くみられた。時期的には特別な傾向はみられなかった。都道府県別では大分県、鳥取県（ともに定点当たり1.25）、高知県（1.14）などの報告が多かった。

細菌性髄膜炎

定点からの年間報告数は235例（定点当たり年間報告数は0.52）であり、性別では男性57%、女性43%であった。年齢別では0～4歳が最も多く、全体の56%を占めていた。時期的には特別な傾向はみられなかった。都道府県別では千葉県（定点当たり2.00）、沖縄県（1.67）、佐賀県（1.33）などの報告が多かった。

無菌性髄膜炎

定点からの年間報告数は1,126例（定点当たり年間報告数は2.47）であり、性別では男性65%、女性35%であった。年齢別では0～9歳が多く、全体の66%を占めていた。時期的には夏～秋にかけて増え、7月下旬にピークがみられた。都道府県別では鳥取県（定点当たり11.00）、沖縄県（10.67）、新潟県（8.83）などの報告が多かった。

マイコプラズマ肺炎

定点からの年間報告数は1,134例(定点当たり年間報告数2.49)であり、性別では男性48%、女性52%であった。年齢別では1~9歳が多く、全体の67%を占めていた。時期的には11月中旬~12月上旬にやや多い傾向がみられた。都道府県別では沖縄県(定点当たり11.00)、愛知県(9.67)、鳥取県(8.00)などの報告が多かった。

クラミジア肺炎(オウム病を除く)

定点からの年間報告数は129例(定点当たり年間報告数0.28)であり、性別では男性63%、女性37%であった。年齢別では0~14歳と65歳以上に多くみられた。時期的には6月上~中旬にやや多くみられた。都道府県別では山口県(定点当たり2.38)、長野県(1.90)、宮城県(1.55)などの報告が多かった。

成人麻疹

定点からの年間報告数は83例(定点当たり年間報告数0.18)であり、性別では男性41%、女性59%であった。年齢別では20~24歳にピークがみられた。時期的には4月下旬に多く、それ以降次第に減少した。都道府県別では沖縄県(定点当たり3.50)が多く、次いで千葉県、鳥取県(ともに0.75)などであった。

性器クラミジア感染症

定点からの年間報告数は25,033例(定点当たり年間報告数29.28)であり、性別では男性44%、女性56%であった。年齢別では20~24歳と25~29歳に多くみられた。時期的には9~11月にやや多い傾向がみられた。都道府県別では福岡県(定点当たり73.56)、群馬県(60.13)、東京都(52.33)などの報告が多かった。

性器ヘルペスウイルス感染症

定点からの年間報告数は6,566例(定点当たり年間報告数7.68)であり、性別では男性45%、女性55%であった。年齢別では25~29歳、20~24歳、30~34歳などに多くみられた。時期的には特別な傾向はみられなかった。都道府県別では大阪府(定点当たり24.27)、東京都(19.08)、熊本県(15.07)などの報告が多かった。

尖形コンジローム

定点からの年間報告数は3,190例(定点当たり年間報告数3.73)であり、性別では男性57%、女性43%であった。年齢別では20~24歳、25~29歳などに多くみられた。時期的には9月にやや多くみられた。都道府県別では東京都(定点当たり10.55)、富山県(9.83)、福岡県(9.56)などの報告が多かった。

淋菌感染症

定点からの年間報告数は11,847例(定点当たり年間報告数13.86)であり、性別では男性85%、女性15%で男性に多くみられた。年齢別では20~24歳、25~29歳、30~34歳などに多くみられた。時期的には8~11月にやや多い傾向がみられた。都道府県別では福岡県(定点当たり58.19)、大阪府(38.09)、佐賀県(33.33)などの報告が多かった。

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

定点からの年間報告数は11,088例(定点当たり年間報告数は24.92)であり、性別では男性63%、女性37%であった。年齢別では45~49歳より年齢とともに増加し、70歳以上に最も多くみられた。時期的には8月にやや多い傾向がみられた。都道府県別では静岡県(定点当たり67.00)、栃木県(64.17)、沖縄県(61.67)などの報告が多かった。

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

定点からの年間報告数は2,129例（定点当たり年間報告数4.78）であり、性別では男性60%、女性40%であった。年齢別では特に0～4歳に多く、成人では少なかったが、55～59歳より年齢とともに増加がみられた。時期的には8～9月に減少し、10～12月には月毎に増加がみられた。都道府県別では千葉県（定点当たり51.17）、静岡県（19.44）、島根県（14.57）などの報告が多かった。

薬剤耐性緑膿菌感染症

定点からの年間報告数は437例（定点当たり年間報告数0.98）であり、性別では男性65%、女性35%であった。年齢別では0歳で多少みられたが、それ以降の年齢で減少し、45～49歳以降年齢とともに増加し、特に70歳以上に最も多くみられた。時期的には7月と11月に多い傾向がみられた。都道府県別では東京都（定点当たり4.92）、香川県（4.75）、高知県（2.86）などの報告が多かった。

註：都道府県別の記載は、報告のあった都道府県を示すもので、必ずしも感染地をあらわすものではありません。

第1章 感染症発生動向調査概要

II 平成12(2000)年

『平成12年感染症発生動向調査概要』

II 平成12（2000年）

1. 1類感染症

エボラ出血熱
報告なし。

クリミア・コンゴ出血熱
報告なし。

ペスト
報告なし。

マールブルグ病
報告なし。

ラッサ熱
報告なし。

2. 2類感染症

コレラ

年間報告数は58例であり、性別では男性36例（62%）、女性22例（38%）であった。年齢別では20～30歳代、50歳代、70歳以上などに多くみられた。時期的には38週（9月中～下旬）に7例と多くみられたが、全体的に特別な傾向はみられなかった。都道府県別では東京都（7例）、千葉県（6例）、北海道、愛知県、奈良県、広島県、福岡県（各4例）などの報告がみられた。

細菌性赤痢

年間報告数は843例で、性別では男性416例（49%）、女性427例（51%）であった。年齢別では20歳代に多かったが、全年齢層にわたってみられた。時期的には3月上旬～4月中旬と8月下旬～11月上旬に集積する傾向がみられた。都道府県別では東京都（142例）、神奈川県（71例）、大阪府（68例）などの報告が多かった。

腸チフス

年間報告数は86例であり、性別では男性59例（69%）、女性27例（31%）であった。年齢別では20歳代に多くみられた。時期的には4月に多くみられた。都道府県別では東京都（14例）、大阪府、兵庫県（各8例）などの報告がみられた。

パラチフス

年間報告数は20例であり、性別では男性9例（45%）、女性11例（55%）であった。年齢別では20歳代に多くみられた。時期的には5月下旬～11月上旬にやや多い傾向がみられた。都道府県別では東京都（7例）、千葉県、大阪府（各4例）などの報告がみられた。

急性灰白髄炎

年間報告数は1例で男性、年齢別では35～39歳で、22週（5月下旬～6月初旬）に宮崎県より報告された。患者便中よりワクチン株（Sabin3型）が確認されたが、患者本人はワクチン被接種者ではなく、二次的感染例であるとされている。

ジフテリア

年間報告数は1例で女性、年齢別では25～29歳であった。20週（5月中旬）に栃木県より報告された。

3. 3類感染症

腸管出血性大腸菌感染症

年間報告数は3,642例であり、性別では男1,632例（45%）、女2,010例（55%）であった。年齢別では1～4歳、5～9歳に多かったが、幅広い年齢層にわたってみられた。時期的には6月下旬より9月下旬にかけて多くみられた。都道府県別では大阪府（345例）、福岡県（317例）、東京都（312例）などの報告が多かった。

4. 4類感染症全数把握疾病

アメーバ赤痢

年間報告数は378例であり、性別では男性341例（90%）、女性37例（10%）で男性に多かった。年齢別では30歳代から50歳代にかけて多くみられた。時期的には特別な傾向はみられなかった。都道府県別では東京都（93例）、大阪府（55例）、兵庫県（39例）などの報告が多かった。

エキノコックス症

年間報告数は22例であり、性別では男性8例（36%）、女性14例（64%）であった。年齢別ではすべて25歳以上であったが、特に70歳以上に多くみられた。時期的には6週（2月上～中旬）に6件みられたこと以外、特別な傾向はみられなかった。都道府県別ではほとんどが北海道（21例）であったが、福島県（1例）からも報告があった。

黄熱

報告なし。

オウム病

年間報告数は18例であり、性別では男性7例（39%）、女性11例（61%）であった。年齢別では全て20歳以上にみられた。時期的には特別な傾向はみられなかった。都道府県別では福島県、東京都（各3例）、埼玉県、千葉県、岡山県（各2例）などの報告があった。

回帰熱

報告なし。

急性ウイルス性肝炎

年間報告数は991例であり、性別では男性623例（63%）、女性368例（37%）であった。年齢別では20歳代に多い傾向がみられたが、それ以上の年齢層でも少なからずみられた。時期的には10月に入ってからはやや少なかったこと以外、特別な傾向はみられなかった。都道府県別では兵庫県（111例）、東京都（105例）、大阪府（101例）などの報告が多かった。

Q熱

年間報告数は24例であり、性別では男性9例（38%）、女性15例（63%）であった。年齢別では特別な傾向はみられなかった。時期的には特別な傾向はみられなかった。都道府県別では北海道、宮城県（各8例）、静岡県（6例）などの報告がみられた。

狂犬病

報告なし。

クリプトスポリジウム症

年間報告数は3例であり、性別では男性2例、女性1例であった。年齢別では20～24歳が2例、30～34歳が1例であった。時期的には特別な傾向はみられなかった。都道府県別では千葉県（2例）、東京都（1例）から報告があった。

クロイトフェルト・ヤコブ病

年間報告数は108例であり、性別では男性49例（45%）、女性59例（55%）であった。年齢別では50歳代より急に増え始め、それ以降年齢とともに増加する傾向がみられた。時期的には特別な傾向はみられなかった。都道府県別では東京都（14例）、兵庫県（10例）、愛知県（9例）などの報告があった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症

年間報告数は47例であり、性別では男性26例（55%）、女性21例（45%）であった。年齢別では30歳代より年齢とともに増える傾向がみられた。時期的には特別な傾向はみられなかった。都道府県別では東京都（9例）、兵庫県（5例）、神奈川県（4例）などの報告があった。

後天性免疫不全症候群

年間報告数は794例であり、性別では男性673例（85%）、女性121例（15%）と男性に多かった。年齢別では25～29歳から35～39歳に多く、それ以降年齢とともに徐々に減少していた。時期的には特別な傾向はみられなかった。都道府県別では東京都（315例）、千葉県（60例）、神奈川県（58例）などの報告が多かった。

コクシジオイデス症

年間報告数は1例であり、男性であった。年齢別では25～29歳であった。15週（4月中旬）に東京都から報告された。

ジアルジア症

年間報告数は98例であり、性別では男性73例（74%）、女性25例（26%）であった。年齢別では20歳代に多い傾向がみられたが、それ以上の年齢でも多少の発生がみられた。時期的には15週（4月中旬）に8例みられたこと以外、特別な傾向はみられなかった。都道府県別では東京都（19例）、大阪府（14例）、神奈川県（12例）などの報告が多かった。

腎症候性出血熱

報告なし。

髄膜炎菌性髄膜炎

年間報告数は15例であり、性別では男性11例（73%）、女性4例（27%）であった。年齢別では20歳未満に多かったが、50歳代以上にも多少みられた。時期的には2月に5例と多くみられた。都道府県別では神奈川県（3例）、千葉県、静岡県（各2例）などの報告があった。

先天性風疹症候群

年間報告数は1例であり、女性であった。年齢別では0歳で、26週（6月下旬～7月上旬）に大阪府より報告された。

炭疽

報告なし。

ツツガムシ病

年間報告数は791例であり、性別では男性432例（55%）、女性359例（45%）であ

った。年齢別では40歳代から年齢とともに増加し、特に70歳以上に多くみられた。時期的には5月下旬～6月上旬と11月上旬～12月下旬の2シーズンに多くみられた。都道府県別では鹿児島県（134例）、宮崎県（93例）、千葉県（60例）などの報告が多かった。

デング熱

年間報告数は18例であり、性別では男性11例（61%）、女性7例（39%）であった。年齢別では20～44歳に多い傾向がみられた。時期的には6～9月にやや多い傾向がみられた。都道府県別では東京都（12例）からの報告が多かった。

日本紅斑熱

年間報告数は38例であり、性別では男性21例（55%）、女性17例（45%）であった。年齢別では65～69歳と70歳以上に多くみられた。時期的には全て5月以降であった。都道府県別では島根県（10例）、千葉県（9例）、兵庫県（6例）などの報告がみられた。

日本脳炎

年間報告数は7例であり、性別では男性1例、女性6例であった。年齢別では35～39歳、40～44歳に各1例、65～69歳に2例、70歳以上に3例みられた。時期的にはほとんどが9月にみられた。都道府県別では山口県（2例）、岡山県、高知県、佐賀県、長崎県、大分県（各1例）などの報告があった。

乳児ボツリヌス症

報告なし。

梅毒

年間報告数は759例で、性別では男性512例（67%）、女性247例（33%）であった。年齢別では20歳代に多く、それ以上の年齢ではゆるやかな減少傾向を示し、70歳以上ではまた増えていた。0歳児の梅毒患者が6例報告された。時期的には特別な傾向はみられなかった。都道府県別では大阪府（130例）、東京都（121例）、福岡県（60例）などの報告が多かった。

破傷風

年間報告数は91例であり、性別では男性59例（65%）、女性32例（35%）であった。年齢別では45歳以上で年齢とともに増加する傾向がみられ、70歳以上でも多くみられた。時期的には特別な傾向はみられなかった。都道府県別では鹿児島県（10例）、東京都（7例）、兵庫県（6例）などの報告がみられた。

バンコマイシン耐性腸球菌症

年間報告数は36例で、性別では男性20例（56%）、女性16例（44%）であった。年齢別では高齢者に多い傾向があり、70歳以上が20例を占めたが、25～29歳に3例、0歳児に4例の報告もみられた。時期的には特別な傾向はみられなかった。都道府県別では東京都（7例）、秋田県（5例）、埼玉県、千葉県、兵庫県、福岡県、鹿児島県（各3例）などの報告があった。

ハンタウイルス肺症候群

報告なし。

Bウイルス病

報告なし。

ブルセラ症
報告なし。

発疹チフス
報告なし。

マラリア

年間報告数は154例であり、性別では男性115例(75%)、女性39例(25%)であった。年齢別では20歳代、次いで30歳代に多くみられた。時期的には4月にやや多い傾向がみられた。都道府県別では東京都(61例)からの報告が多く、次いで神奈川県(17例)、大阪府(12例)などであった。

ライム病

年間報告数は12例であり、性別では男性7例、女性5例であった。年齢別では10～14歳から70歳以上にわたり、特別な傾向はみられなかった。時期的には4～11月に散発的にみられた。都道府県別ではほとんどが北海道(11例)からの報告であったが、兵庫県(1例)からの報告もあった。

レジオネラ症

年間報告数は154例であり、性別では男性125例(81%)、女性29例(19%)と男性に多くみられた。年齢別では45～49歳より年齢とともに増加する傾向がみられた。時期的には3月下旬～4月中旬と7月中旬～8月上旬に多くみられた。都道府県別では茨城県(31例)、静岡県(30例)、東京都(11例)などの報告がみられた。

5. 4類感染症定点把握疾病

インフルエンザ

定点からの年間報告数は769,964例(定点当たり年間報告数167.93)であり、性別では男性394,302例(51%)、女性375,662例(49%)であった。年齢別では5歳にピークがあり、10歳未満が全体の58%を占めた。時期的には1～2月に多く、5週(2月上旬)にピークがみられた。都道府県別では富山県(定点当たり317.44)、愛媛県(261.77)、三重県(261.38)などの報告が多かった。

咽頭結膜熱

定点からの年間報告数は20,295例(定点当たり年間報告数6.81)であり、性別では男性10,934例(54%)、女性9,361例(46%)であった。年齢別では3～4歳をピークとし、1～6歳に多くみられた。時期的には30週(7月下旬)をピークとし、夏季に多くみられた。都道府県別では和歌山県(定点当たり29.84)、徳島県(22.91)、愛媛県(19.72)などの報告が多かった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点からの年間報告数は158,143例(定点当たり年間報告数53.10)であり、性別では男性85,595例(54%)、女性72,548例(46%)であった。年齢別では5歳をピークとし、その前後の年齢に多くみられた。時期的には5月下旬～6月中旬と12月上～中旬に2つのピークがあり、夏季には少ない傾向がみられた。都道府県別では鳥取県(定点当たり251.79)、宮崎県(109.81)、新潟県(102.97)などの報告が多かった。

感染性胃腸炎

定点からの年間報告数は886,174例(定点当たり年間報告数297.57)であり、性別では男性467,293例(53%)、女性418,881例(47%)であった。年齢別では

1歳をピークとし、0～5歳に多くみられた。時期的には3月上～中旬と12月中～下旬に2つのピークがあり、夏季の後半～秋季の前半にかけて少ない傾向がみられた。都道府県別では鳥取県（定点当たり583.74）、福井県（562.52）、宮崎県（551.41）などの報告が多かった。

水痘

定点からの年間報告数は275,036例（定点当たり年間報告数92.36）であり、性別では男性144,307例（52%）、女性130,729例（48%）であった。年齢別では1～4歳に多く、1歳にピークがみられた。時期的には年末年始と5月頃にピークがあり、夏季の後半～秋季の前半にかけて減少する傾向がみられた。都道府県別では山形県（定点当たり146.14）、宮崎県（141.65）、新潟県（137.05）などの報告が多かった。

手足口病

定点からの年間報告数は205,365例（定点当たり年間報告数68.96）であり、性別では男性112,456例（55%）、女性92,909例（45%）であった。年齢別では1歳をピークとし、1～5歳に多くみられた。時期的には夏季に多くみられ、28週（7月中旬）にピークを形成し、冬季に少ない傾向がみられた。都道府県別では佐賀県（定点当たり170.78）、熊本県（167.04）、山形県（147.21）などの報告が多かった。

伝染性紅斑

定点からの年間報告数は34,253例（定点当たり年間報告数11.50）で、性別では男性17,060（50%）、女性17,193（50%）であった。年齢別では5歳をピークとし、3～7歳に多くみられた。時期的には5～7月に多く、年末年始にもなだらかなピークがみられた。都道府県別では山形県（定点当たり28.72）、宮城県（25.23）、長野県（22.18）などの報告が多かった。

突発性発疹

定点からの年間報告数は126,785例（定点当たり年間報告数42.57）であり、性別では男性65,467例（52%）、女性61,318例（48%）であった。年齢別では6～12ヶ月未満をピークとし、他はほとんどその前後の年齢であった。時期的には5～9月にやや多い傾向がみられた。都道府県別では佐賀県（定点当たり82.78）、大分県（65.56）、宮崎県（64.73）などの報告が多かった。

百日咳

定点からの年間報告数は3,804例（定点当たり年間報告数1.28）で、性別では男性1,858（49%）、女性1,946（51%）であった。年齢別では6～12ヶ月未満、6ヶ月未満などに多い傾向がみられた。時期的には4～9月にやや多い傾向がみられた。都道府県別では大分県（定点当たり3.50）、鹿児島県（2.73）、新潟県（2.55）などの報告が多かった。

風疹

定点からの年間報告数は3,123例（定点当たり年間報告数1.05）であり、性別では男性1,656例（53%）、女性1,467例（47%）であった。年齢別では1歳をピークとし、0～7歳が全体の76%を占めた。時期的には4～6月にやや多くみられた。都道府県別では宮崎県（定点当たり8.32）、千葉県（2.48）、滋賀県（1.97）などの報告が多かった。

ヘルパンギーナ

定点からの年間報告数は147,275例（定点当たり年間報告数49.45）で、性別では男性76,935（52%）、女性70,340（48%）であった。年齢別では1歳をピークと

し、次いで2歳、3歳に多くみられた。時期的には6～8月に多く、28週（7月中旬）にピークがみられた。都道府県別では宮城県（定点当たり101.26）、新潟県（95.58）、福島県（92.47）などの報告が多かった。

麻疹（成人麻疹を除く）

定点からの年間報告数は22,552例（定点当たり年間報告数7.57）であり、性別では男性12,327例（55%）、女性10,225例（45%）であった。年齢別では1歳をピークとし、その前後の年齢に多くみられた。時期的には春季になだらかなピークがみられた。都道府県別では高知県（定点当たり27.35）、香川県（27.09）、奈良県（26.79）などの報告が多かった。

流行性耳下腺炎

定点からの年間報告数は132,877例（定点当たり年間報告数44.62）であり、性別では男性71,430例（54%）、女性61,447例（46%）であった。年齢別では4～5歳にピークがみられた。時期的には7月にも多少みられたが、12月に最も多くみられた。都道府県別では熊本県（定点当たり108.27）、山口県（104.27）、群馬県（89.44）などの報告が多かった。

急性出血性結膜炎

定点からの年間報告数は1,430例（定点当たり年間報告数2.29）であり、性別では男性692例（48%）、女性738例（52%）であった。年齢別では10歳未満に多く、次いで30歳代、20歳代に多くみられた。時期的には特別な傾向を認めなかった。都道府県別では長崎県（定点当たり30.75）、長野県（5.20）、山口県（4.56）などの報告が多かった。

流行性角結膜炎

定点からの年間報告数は40,873例（定点当たり年間報告数65.40）であり、性別では男性20,811例（51%）、女性20,062例（49%）であった。年齢別では10歳未満に最も多く、次いで30歳代、20歳代に多くみられた。時期的には7～9月にやや多い傾向がみられた。都道府県別では茨城県（定点当たり186.63）、宮崎県（137.25）、長崎県（126.38）などの報告が多かった。

急性脳炎（日本脳炎を除く）

定点からの年間報告数は149例（定点当たり年間報告数0.32）であり、性別では男性81例（54%）、女性68例（46%）であった。年齢別では1～4歳をピークとし、0～9歳に多くみられた。時期的には特別な傾向はみられなかった。都道府県別では栃木県（定点当たり1.33）、沖縄県（1.14）、福井県（1.00）などの報告が多かった。

細菌性髄膜炎

定点からの年間報告数は256例（定点当たり年間報告数0.56）であり、性別では男性148例（58%）、女性108例（42%）であった。年齢別では0～4歳が多く、59%を占めていた。時期的には特別な傾向はみられなかった。都道府県別では沖縄県（定点当たり1.86）、佐賀県（1.80）、栃木県（1.67）などの報告が多かった。

無菌性髄膜炎

定点からの年間報告数は1,873例（定点当たり年間報告数4.08）であり、性別では男性1,159例（62%）、女性714例（38%）であった。年齢別では0～9歳が多く、全体の74%を占めていた。時期的には夏季に多く、30週（7月下旬）にピークがみられた。都道府県別では鳥取県（定点当たり22.20）、滋賀県（17.67）、熊本県（15.67）などの報告が多かった。

マイコプラズマ肺炎

定点からの年間報告数は2,090例（定点当たり年間報告数4.55）であり、性別では男性947例（45%）、女性1,143例（55%）であった。年齢別では5～9歳、1～4歳、10～14歳などに多くみられた。時期的には秋から漸増し、10月下旬から12月中～下旬にかけて最も多くみられた。都道府県別では宮城県（定点当たり26.64）、秋田県（17.71）、沖縄県（15.71）などの報告が多かった。

クラミジア肺炎（オウム病を除く）

定点からの年間報告数は178例（定点当たり年間報告数0.39例）であり、性別では男性103例（58%）、女性75例（42%）であった。年齢別では0～9歳と65歳以上に多くみられた。時期的には特別な傾向はみられなかった。都道府県別では宮城県（定点当たり6.00）、山口県（2.50）、岡山県（1.60）などの報告が多かった。

成人麻疹

定点からの年間報告数は426例（定点当たり年間報告数0.93）であり、性別では男性213例（50%）、女性213例（50%）であった。年齢別では20～24歳、15～19歳、25～29歳の順に多くみられた。時期的には5～7月にかけて多くみられ、その後減少したが、年末には再び増加がみられた。都道府県別では神奈川県（定点当たり7.00）、東京都（4.80）、和歌山県（2.70）などの報告が多かった。

性器クラミジア感染症

定点からの年間報告数は37,028例（定点当たり年間報告数41.28）であり、性別では男性15,856例（43%）、女性21,172例（57%）であった。年齢別では20～24歳、25～29歳、15～19歳の順に多くみられた。時期的には6～11月にやや多い傾向がみられた。都道府県別では福岡県（定点当たり75.42）、熊本県（74.43）、群馬県（72.48）などの報告が多かった。

性器ヘルペスウイルス感染症

定点からの年間報告数は8,946例（定点当たり年間報告数9.97）であり、性別では男性3,907例（44%）、女性5,039例（56%）であった。年齢別では25～29歳、20～24歳、30～34歳の順に多くみられた。時期的には夏季にやや多い傾向がみられた。都道府県別では大阪府（定点当たり31.33）、東京都（27.03）、熊本県（23.07）などの報告が多かった。

尖形コンジローム

定点からの年間報告数は4,553例（定点当たり年間報告数5.08）であり、性別では男性2,511例（55%）、女性2,042例（45%）であった。年齢別では20～24歳、25～29歳、15～19歳の順に多くみられた。時期的には夏季にやや多い傾向がみられた。都道府県別では東京都（定点当たり14.82）、大阪府（10.57）、富山県（9.43）などの報告が多かった。

淋菌感染症

定点からの年間報告数は16,926例（定点当たり年間報告数18.87）であり、性別では男性14,196例（84%）、女性2,730例（16%）で、男性に多くみられた。年齢別では20～24歳、25～29歳、30～34歳の順に多くみられた。時期的には夏～秋季にやや多い傾向がみられた。都道府県別では福岡県（60.92）、大阪府（定点当たり53.96）、熊本県（34.57）などの報告が多かった。

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

定点からの年間報告数は18,013例（定点当たり年間報告数39.42）であり、性別では男性11,349例（63%）、女性6,664例（37%）であった。年齢別では0歳に多く、それ以降の年齢では少なくなったが、45～49歳より年齢とともに再び増加し、70歳以上が全体の53%を占めた。時期的には8月に最も多くみられた。都道府県別では高知県（定点当たり99.57）、三重県（83.89）、島根県（83.71）などの報告が多かった。

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

定点からの年間報告数は4,321例（定点当たり年間報告数9.46）であり、性別では男性2,540例（59%）、女性1,781例（41%）であった。年齢別では0歳、1～4歳、および高齢者に多くみられた。時期的には5月に多く、8～9月にかけて減少し、年末にかけて再び増加がみられた。都道府県別では千葉県（定点当たり90.75）、宮城県（30.42）、山口県（29.83）などの報告が多かった。

薬剤耐性緑膿菌感染症

定点からの年間報告数は555例（定点当たり年間報告数1.21）であり、性別では男性364例（66%）、女性191例（34%）であった。年齢別では45～49歳より年齢とともに増加し、70歳以上が全体の52%を占めた。時期的には5～10月にかけて月毎に増加する傾向がみられた。都道府県別では高知県（定点当たり5.43）、広島県（4.65）、宮崎県（3.57）などの報告が多かった。

注：都道府県別の記載は、報告のあった都道府県を示すもので、必ずしも感染地をあらわすものではありません。

第2章 感染症発生動向調査集計

I 平成11（1999）年14週～52週

1-1. 平成11年 報告数：疾病・週別
 1-1. Number of cases by disease and week, 1999

1. 全数把握疾病 (1~4 類感染症)
 1. Notifiable diseases (Category HIV)

週	エボラ出血熱 Ebola hemorrhagic fever	クリミア・コンゴ出血熱 Crimean-Congo hemorrhagic fever	ペスト Plague	マールブルグ病 Marburg disease	ラッサ熱 Lassa fever	コレラ Cholera	細菌性赤痢 Shigellosis	腸チフス Typhoid fever	パラチフス Paratyphoid fever
総数	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases
01週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
02週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
03週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
04週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
05週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
06週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
07週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
08週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
09週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
11週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
14週	-	-	-	-	-	2	21	1	5
15週	-	-	-	-	-	-	12	6	2
16週	-	-	-	-	-	-	11	4	3
17週	-	-	-	-	-	-	8	2	2
18週	-	-	-	-	-	2	10	4	2
19週	-	-	-	-	-	-	18	4	2
20週	-	-	-	-	-	-	5	-	-
21週	-	-	-	-	-	-	6	3	3
22週	-	-	-	-	-	-	9	2	-
23週	-	-	-	-	-	-	12	4	-
24週	-	-	-	-	-	3	9	4	-
25週	-	-	-	-	-	3	14	3	-
26週	-	-	-	-	-	-	10	1	-
27週	-	-	-	-	-	1	19	3	-
28週	-	-	-	-	-	2	11	1	-
29週	-	-	-	-	-	5	9	3	-
30週	-	-	-	-	-	-	16	3	-
31週	-	-	-	-	-	1	11	-	-
32週	-	-	-	-	-	-	26	1	-
33週	-	-	-	-	-	-	25	-	-
34週	-	-	-	-	-	1	17	1	-
35週	-	-	-	-	-	3	23	3	-
36週	-	-	-	-	-	2	28	1	-
37週	-	-	-	-	-	-	22	2	-
38週	-	-	-	-	-	-	21	2	-
39週	-	-	-	-	-	-	27	4	-
40週	-	-	-	-	-	1	31	-	2
41週	-	-	-	-	-	1	5	-	-
42週	-	-	-	-	-	-	23	3	-
43週	-	-	-	-	-	-	38	1	-
44週	-	-	-	-	-	-	4	2	-
45週	-	-	-	-	-	2	5	2	-
46週	-	-	-	-	-	3	45	1	-
47週	-	-	-	-	-	1	15	1	-
48週	-	-	-	-	-	1	15	2	-
49週	-	-	-	-	-	1	9	1	-
50週	-	-	-	-	-	1	10	2	-
51週	-	-	-	-	-	-	9	-	-
52週	-	-	-	-	-	-	11	1	-
53週	-	-	-	-	-	-	-	-	-

急性灰白髄炎 Polioomyelitis	ジフテリア Diphtheria	腸管出血性大腸菌感染症 Enterohemorrhagic E. coli infection	アメーバ赤痢 Amebiasis	エキノкокクス症 Echinococcosis	黄熱 Yellow fever	オウム病 Psittacosis	回帰熱 Relapsing fever	急性ウイルス性肝炎 Acute viral hepatitis
報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases
総数	2	3117	276	7	-	23	-	1519
01週	-	-	-	-	-	-	-	-
02週	-	-	-	-	-	-	-	-
03週	-	-	-	-	-	-	-	-
04週	-	-	-	-	-	-	-	-
05週	-	-	-	-	-	-	-	-
06週	-	-	-	-	-	-	-	-
07週	-	-	-	-	-	-	-	-
08週	-	-	-	-	-	-	-	-
09週	-	-	-	-	-	-	-	-
10週	-	-	-	-	-	-	-	-
11週	-	-	-	-	-	-	-	-
12週	-	-	-	-	-	-	-	-
13週	-	20	9	-	-	1	-	52
14週	-	9	7	-	-	2	-	54
15週	-	20	8	-	-	-	-	66
16週	-	16	2	-	-	1	-	52
17週	-	13	4	-	-	2	-	41
18週	-	34	3	-	-	4	-	74
19週	-	54	7	-	-	1	-	52
20週	-	41	8	-	-	2	-	65
21週	-	62	7	-	-	1	-	84
22週	-	131	9	1	-	1	-	64
23週	-	109	13	-	-	1	-	85
24週	-	106	5	-	-	-	-	56
25週	-	109	11	-	-	1	-	57
26週	-	131	7	-	-	-	-	48
27週	-	130	5	-	-	1	-	60
28週	-	135	11	-	-	-	-	38
29週	-	144	7	-	-	-	-	30
30週	-	117	11	-	-	-	-	29
31週	-	116	7	1	-	-	-	36
32週	-	152	7	-	-	-	-	28
33週	-	190	9	1	-	-	-	36
34週	-	175	8	-	-	-	-	22
35週	-	169	10	-	-	-	-	29
36週	-	114	6	-	-	-	-	25
37週	-	73	6	1	-	-	-	25
38週	1	100	7	-	-	1	-	23
39週	-	67	7	-	-	1	-	16
40週	-	67	3	1	-	-	-	23
41週	-	96	6	-	-	-	-	30
42週	-	74	6	1	-	-	-	19
43週	-	62	2	-	-	-	-	19
44週	-	64	5	-	-	-	-	22
45週	-	57	11	-	-	-	-	16
46週	-	41	6	1	-	-	-	12
47週	-	32	6	-	-	-	-	29
48週	-	19	8	-	-	1	-	20
49週	-	25	7	-	-	-	-	26
50週	-	19	7	-	-	-	-	30
51週	1	9	8	-	-	1	-	26
52週	-	-	-	-	-	-	-	-
53週	-	-	-	-	-	-	-	-

週	Q熱 Q fever	狂犬病 Rabies	クリプトスポリジウム症 Cryptosporidiosis	クロイツフェルト ・ヤコブ病 Creutzfeldt-Jakob disease	劇症型溶血性 レンガ球菌感染症 Severe invasive streptococcal infections	後天性免疫不全症候群 AIDS	コクシジオイデス症 Coccidioidomycosis	ジアルジア症 Giardiasis	腎臓性出血熱 Hemorrhagic fever with renal syndrome
総数	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases
01週	12	-	4	92	22	588	-	42	-
02週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
03週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
04週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
05週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
06週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
07週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
08週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
09週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
11週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13週	-	-	-	2	1	18	-	2	-
14週	-	-	-	5	-	21	-	1	-
15週	-	-	-	2	1	17	-	1	-
16週	-	-	-	1	-	18	-	-	-
17週	1	-	-	3	-	4	-	2	-
18週	-	-	-	3	-	13	-	-	-
19週	-	-	-	3	-	13	-	-	-
20週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
21週	1	-	-	2	-	14	-	2	-
22週	-	-	-	3	-	10	-	1	-
23週	-	-	-	3	-	23	-	-	-
24週	-	-	-	1	-	23	-	-	-
25週	-	-	-	3	-	14	-	2	-
26週	1	-	1	4	1	18	-	2	-
27週	-	-	1	2	2	22	-	3	-
28週	-	-	-	1	-	13	-	2	-
29週	-	-	-	1	-	15	-	1	-
30週	-	-	-	5	-	10	-	1	-
31週	1	-	-	-	-	12	-	-	-
32週	-	-	-	3	-	17	-	-	-
33週	-	-	-	2	1	9	-	2	-
34週	-	-	-	2	-	22	-	-	-
35週	4	-	1	2	1	13	-	-	-
36週	1	-	1	4	-	14	-	2	-
37週	-	-	1	-	-	8	-	2	-
38週	-	-	-	5	1	9	-	3	-
39週	-	-	-	5	1	14	-	3	-
40週	-	-	-	-	-	15	-	-	-
41週	-	-	-	1	1	19	-	-	-
42週	-	-	-	2	2	20	-	2	-
43週	-	-	-	4	-	14	-	-	-
44週	-	-	-	1	-	16	-	1	-
45週	-	-	-	3	-	18	-	1	-
46週	-	-	-	3	1	20	-	2	-
47週	1	-	-	4	2	14	-	-	-
48週	-	-	-	2	1	18	-	-	-
49週	1	-	-	3	2	14	-	2	-
50週	-	-	-	2	1	16	-	-	-
51週	-	-	-	4	2	16	-	1	-
52週	1	-	-	-	1	4	-	1	-
53週	-	-	-	-	-	-	-	-	-

総数	髄膜炎 Meningococcal meningitis	先天性風疹症候群 Congenital rubella syndrome	炭 瘡 Anthrax	ツツガムシ病 Scrub typhus	デング熱 Dengue fever	日本紅斑熱 Japanese spotted fever	日本脳炎 Japanese encephalitis	乳児ボツリヌス症 Infant botulism	梅毒 Syphilis
	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases
01週	10	-	-	556	9	39	5	1	751
02週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
03週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
04週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
05週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
06週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
07週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
08週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
09週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
11週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
14週	-	-	-	1	1	-	-	1	15
15週	-	-	-	4	-	-	-	-	12
16週	-	-	-	3	-	-	-	-	18
17週	-	-	-	5	-	2	-	-	10
18週	-	-	-	9	-	-	-	-	13
19週	-	-	-	8	-	-	-	-	23
20週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
21週	1	-	-	20	1	1	-	-	25
22週	1	-	-	18	-	1	-	-	27
23週	1	-	-	13	-	1	-	-	35
24週	-	-	-	9	-	-	-	-	29
25週	-	-	-	6	-	1	-	-	22
26週	-	-	-	3	-	1	-	-	30
27週	1	-	-	1	-	1	-	-	31
28週	1	-	-	2	1	4	-	-	30
29週	1	-	-	1	-	-	-	-	21
30週	-	-	-	-	-	2	-	-	22
31週	-	-	-	4	-	-	-	-	18
32週	-	-	-	1	-	3	-	-	21
33週	-	-	-	1	-	-	1	-	18
34週	-	-	-	2	-	3	1	-	23
35週	-	-	-	3	1	1	-	-	16
36週	-	-	-	1	-	3	-	-	10
37週	-	-	-	1	-	5	1	-	13
38週	-	-	-	1	-	1	-	-	14
39週	1	-	-	1	2	-	-	-	15
40週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
41週	-	-	-	4	-	1	-	-	14
42週	-	-	-	3	-	1	-	-	22
43週	-	-	-	18	-	-	1	-	15
44週	1	-	-	21	-	-	-	-	16
45週	-	-	-	47	-	3	-	-	18
46週	-	-	-	69	2	-	-	-	23
47週	-	-	-	64	-	1	-	-	15
48週	2	-	-	55	-	-	-	-	11
49週	-	-	-	46	1	-	-	-	14
50週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
51週	1	-	-	40	-	3	-	-	16
52週	-	-	-	9	-	-	-	-	8
53週	-	-	-	-	-	-	-	-	-

破傷風 Tetanus	バンコマイシン 耐性腸球菌感染症 VRE infection	ハンタウイルス肺症候群 Hantavirus pulmonary syndrome	Bウイルス病 B virus disease	ブルセラ症 Brucellosis	発疹チフス Epidemic louse-borne typhus	マラリア Malaria	ライム病 Lyme disease	レジオネラ症 Legionellosis
報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases
66	23	-	-	-	-	112	14	56
01週	-	-	-	-	-	-	-	-
02週	-	-	-	-	-	-	-	-
03週	-	-	-	-	-	-	-	-
04週	-	-	-	-	-	-	-	-
05週	-	-	-	-	-	-	-	-
06週	-	-	-	-	-	-	-	-
07週	-	-	-	-	-	-	-	-
08週	-	-	-	-	-	-	-	-
09週	-	-	-	-	-	-	-	-
10週	-	-	-	-	-	-	-	-
11週	-	-	-	-	-	-	-	-
12週	-	-	-	-	-	-	-	-
13週	-	-	-	-	-	-	-	-
14週	-	-	-	-	-	2	-	2
15週	1	-	-	-	-	2	1	1
16週	1	-	-	-	-	2	1	1
17週	1	-	-	-	-	1	-	1
18週	2	-	-	-	-	3	-	1
19週	2	-	-	-	-	4	-	1
20週	3	-	-	-	-	4	-	2
21週	1	-	-	-	-	4	-	1
22週	1	-	-	-	-	3	-	3
23週	-	-	-	-	-	3	-	2
24週	6	1	-	-	-	3	-	2
25週	5	1	-	-	-	4	-	3
26週	2	-	-	-	-	-	1	3
27週	5	-	-	-	-	4	-	1
28週	3	2	-	-	-	1	1	2
29週	3	1	-	-	-	5	4	1
30週	-	1	-	-	-	3	1	-
31週	2	1	-	-	-	3	2	1
32週	1	1	-	-	-	4	1	2
33週	1	-	-	-	-	7	-	1
34週	1	1	-	-	-	6	-	2
35週	-	1	-	-	-	4	-	1
36週	3	-	-	-	-	1	-	1
37週	1	-	-	-	-	2	1	2
38週	1	1	-	-	-	7	1	1
39週	-	-	-	-	-	4	-	2
40週	2	-	-	-	-	-	1	2
41週	2	-	-	-	-	4	-	1
42週	2	-	-	-	-	-	-	-
43週	1	1	-	-	-	4	-	2
44週	1	1	-	-	-	-	-	-
45週	1	2	-	-	-	-	-	3
46週	4	3	-	-	-	2	-	2
47週	1	2	-	-	-	4	-	2
48週	2	-	-	-	-	1	1	1
49週	2	-	-	-	-	4	-	4
50週	1	-	-	-	-	-	-	1
51週	1	-	-	-	-	2	-	2
52週	1	-	-	-	-	3	-	-
53週	-	-	-	-	-	-	-	-

1-2. 平成11年 累積報告数：疾病・都道府県・性別 (総数)
 1-2. Number of cumulative cases by disease, prefecture and sex, 1999 (Total)

道 府 県	エボラ出血熱 累積報告数	クリミア 出血熱 累積報告数	ペスト 累積報告数	マールブルグ病 累積報告数	ラッサ熱 累積報告数	コレラ 累積報告数	細菌性赤痢 累積報告数	腸チフス 累積報告数	パラチフス 累積報告数
北海道	-	-	-	-	-	39	620	72	30
青森県	-	-	-	-	-	-	8	1	2
岩手県	-	-	-	-	-	1	2	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	1	4	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	1	3	2	-
山形県	-	-	-	-	-	1	5	-	-
福島県	-	-	-	-	-	1	3	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	1	14	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	3	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	5	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	1	35	6	1
千葉県	-	-	-	-	-	2	28	-	-
東京都	-	-	-	-	-	7	108	28	7
神奈川県	-	-	-	-	-	1	65	6	3
新潟県	-	-	-	-	-	-	14	-	2
富山県	-	-	-	-	-	-	4	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	2	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	1	-	-
長野県	-	-	-	-	-	2	11	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	2	8	1	1
愛知県	-	-	-	-	-	3	19	3	2
三重県	-	-	-	-	-	-	8	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	1	8	-	-
京都府	-	-	-	-	-	6	12	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	1	55	7	1
兵庫県	-	-	-	-	-	2	19	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	9	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	2	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	8	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	40	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	8	-	-
広島県	-	-	-	-	-	1	21	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	6	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	3	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	1	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	2	-	-
高知県	-	-	-	-	-	1	11	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	2	19	7	2
佐賀県	-	-	-	-	-	2	3	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	5	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	5	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	3	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	5	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	1	3	-	-
計	-	-	-	-	-	1	2	1	1

数	急性灰白髄炎 累積報告数	ジフテリア 累積報告数	腸管出血性 大腸菌感染症 累積報告数	アメーバ赤痢 累積報告数	エギノコックス症 累積報告数	黄 熱 累積報告数	オウム病 累積報告数	回帰熱 累積報告数	ウイルス性肝炎 累積報告数
総	2	3117	276	7	23	-	-	-	1519
北海道	-	200	4	7	-	-	1	-	31
青森県	-	12	-	-	-	-	-	-	6
岩手県	-	81	-	-	-	-	-	-	19
宮城県	-	72	3	-	-	-	-	-	39
秋田県	-	119	2	-	-	-	-	-	10
山形県	-	43	-	-	-	-	-	-	2
福島県	-	18	2	-	-	-	1	-	16
茨城県	-	50	5	-	-	-	-	-	10
栃木県	-	20	2	-	-	-	-	-	10
群馬県	-	27	3	-	-	-	-	-	32
埼玉県	-	60	3	-	-	-	2	-	27
千葉県	-	115	6	-	-	-	-	-	26
東京都	-	234	92	-	-	-	2	-	272
神奈川県	-	122	38	-	-	-	1	-	92
新潟県	-	18	2	-	-	-	1	-	10
富山県	-	38	4	-	-	-	-	-	15
石川県	-	20	-	-	-	-	-	-	21
福井県	-	30	-	-	-	-	-	-	11
山梨県	-	14	-	-	-	-	-	-	19
長野県	-	36	1	-	-	-	1	-	14
岐阜県	-	33	7	-	-	-	-	-	17
静岡県	-	33	3	-	-	-	1	-	54
愛知県	-	117	9	-	-	-	-	-	55
三重県	-	59	4	-	-	-	1	-	8
滋賀県	-	32	3	-	-	-	1	-	27
京都府	-	49	2	-	-	-	3	-	61
大阪府	-	256	34	-	-	-	3	-	157
兵庫県	-	227	17	-	-	-	3	-	143
奈良県	-	37	3	-	-	-	-	-	28
和歌山県	-	9	2	-	-	-	1	-	24
鳥取県	-	27	-	-	-	-	-	-	4
島根県	-	16	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	73	1	-	-	-	-	-	30
広島県	1	180	2	-	-	-	-	-	32
山口県	-	49	2	-	-	-	-	-	8
徳島県	-	13	1	-	-	-	-	-	59
香川県	-	14	4	-	-	-	-	-	9
愛媛県	-	32	1	-	-	-	-	-	21
高知県	-	11	1	-	-	-	-	-	13
福岡県	-	151	8	-	-	-	1	-	39
佐賀県	-	35	-	-	-	-	-	-	5
長崎県	-	60	-	-	-	-	-	-	5
熊本県	-	49	1	-	-	-	-	-	8
大分県	-	40	2	-	-	-	-	-	2
福岡県	-	74	-	-	-	-	-	-	14
鹿児島県	-	65	2	-	-	-	-	-	13
沖縄県	-	47	1	-	-	-	-	-	1

種 類	Q 熱 累積報告数	狂 犬 病 累積報告数	クリプト スポリジウム症 累積報告数	クロイツツェル ・ヤコブ病 累積報告数	劇症型溶血性 レンサ球菌感染症 累積報告数	髄天性 免疫不全症候群 累積報告数	コクシジ オイトリス症 累積報告数	ジアルジア症 累積報告数	腎症候性出血熱 累積報告数
総 数	12	-	4	92	22	508	-	42	-
北海道	-	-	1	3	-	5	-	-	-
青森県	-	-	-	1	-	4	-	-	-
岩手県	-	-	-	1	-	1	-	-	-
宮城県	-	-	-	4	-	3	-	-	-
秋田県	-	-	-	2	-	1	-	-	-
山形県	-	-	-	3	-	7	-	-	-
福島県	-	-	-	3	1	33	-	-	-
茨城県	-	-	-	3	-	17	-	-	-
栃木県	-	-	-	1	-	14	-	1	-
群馬県	-	-	-	1	-	-	-	1	-
埼玉県	-	-	1	1	2	21	-	-	-
千葉県	-	-	1	3	4	32	-	4	-
東京都	-	-	2	14	4	225	-	15	-
神奈川県	-	-	-	4	1	55	-	7	-
新潟県	-	-	-	2	1	10	-	-	-
静岡県	-	-	-	3	1	1	-	-	-
愛知県	-	-	-	3	1	1	-	-	-
岐阜県	-	-	-	2	1	6	-	-	-
富山県	-	-	-	3	-	16	-	-	-
石川県	-	-	-	3	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	2	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	3	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	3	1	4	-	-	-
岐阜県	-	-	-	3	1	17	-	-	-
静岡県	-	-	-	3	2	14	-	-	-
愛知県	-	-	-	3	-	6	-	-	-
三重県	-	-	-	1	-	2	-	-	-
滋賀県	-	-	-	3	-	2	-	-	-
京都府	-	-	-	4	2	2	-	3	-
大阪府	-	-	-	5	-	43	-	7	-
兵庫県	-	-	-	1	-	7	-	-	-
徳島県	-	-	-	3	2	2	-	-	-
香川県	-	-	-	1	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	1	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	1	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	2	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	2	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	3	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	2	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	3	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	3	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	1	-	-	-	-	-

種別	髄膜炎菌性髄膜炎	先天性風疹症候群	炭疽	ツツガムシ病	デング熱	日本紅斑熱	日本脳炎	乳児ボツリノス症	梅毒
数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数
北海道	10	-	-	556	9	39	5	1	751
青森県	-	-	-	16	-	-	-	-	13
岩手県	-	-	-	3	-	-	-	-	4
宮城県	1	-	-	7	-	-	-	-	21
秋田県	-	-	-	45	-	-	-	-	3
山形県	-	-	-	7	-	-	-	-	12
福島県	-	-	-	36	-	-	-	-	4
茨城県	-	-	-	2	-	-	-	-	5
栃木県	-	-	-	4	-	-	-	-	11
群馬県	-	-	-	16	-	-	-	-	3
埼玉県	-	-	-	1	-	1	-	-	4
千葉県	-	-	-	84	-	2	-	-	8
東京都	5	-	-	9	4	2	-	-	15
神奈川県	1	-	-	33	1	-	-	-	134
新潟県	-	-	-	20	-	-	-	-	29
富山県	-	-	-	7	-	-	-	-	5
石川県	-	-	-	2	-	-	-	-	3
福井県	1	-	-	-	-	-	-	-	11
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	6
長野県	-	-	-	6	-	-	-	-	4
岐阜県	-	-	-	6	-	-	-	-	8
静岡県	-	-	-	12	-	-	-	-	6
愛知県	-	-	-	5	-	-	-	-	25
三重県	-	-	-	1	-	-	-	-	15
滋賀県	-	-	-	1	-	-	-	-	6
京都府	1	-	-	1	2	-	-	-	10
大阪府	-	-	-	5	-	9	-	-	28
兵庫県	-	-	-	6	-	-	-	-	48
和歌山県	-	-	-	2	-	-	-	-	16
奈良県	-	-	-	2	-	-	-	-	9
鳥取県	-	-	-	8	-	-	-	-	5
島根県	-	-	-	3	-	-	-	-	4
岡山県	-	-	-	15	1	2	-	-	19
広島県	-	-	-	1	-	1	-	1	6
山口県	-	-	-	1	-	-	-	-	14
徳島県	-	-	-	1	-	1	-	-	14
香川県	-	-	-	1	-	-	-	-	2
愛媛県	-	-	-	5	-	15	-	-	13
高知県	1	-	-	9	-	-	-	-	2
福岡県	-	-	-	2	-	-	-	-	45
佐賀県	-	-	-	9	-	1	-	-	-
長崎県	-	-	-	24	-	1	-	-	1
熊本県	-	-	-	7	-	1	-	-	12
大分県	-	-	-	25	1	-	-	-	3
宮崎県	-	-	-	45	-	7	-	-	5
鹿児島県	-	-	-	71	-	-	-	-	5
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	8

破傷風 累積報告数	バンコマイシン 耐性腸球菌感染症 累積報告数	ハンタウウイルス 肺症候群 累積報告数	Bウイルス病 累積報告数	ブルセラ症 累積報告数	発疹チフス 累積報告数	マラリア 累積報告数	ライム病 累積報告数	レジオネラ症 累積報告数
66	23	112	14	56	-	-	-	-
1	1	4	9	-	-	-	-	-
-	-	1	-	-	-	-	-	-
1	2	-	1	-	-	-	1	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-
1	-	-	-	-	-	-	-	1
5	-	5	-	-	-	5	-	2
1	-	1	-	-	-	1	-	-
1	1	4	-	-	-	4	-	4
8	2	5	-	-	-	5	-	5
3	-	54	-	-	-	9	1	1
2	-	-	-	-	-	-	1	1
2	1	-	-	-	-	-	-	4
1	3	1	-	-	-	1	-	-
2	-	-	-	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-	-	-	-
2	1	-	-	-	-	2	-	6
1	1	-	-	-	-	3	-	4
-	-	-	-	-	-	3	-	4
-	-	-	-	-	-	1	-	4
-	-	-	-	-	-	1	-	1
3	1	-	-	-	-	2	1	1
1	-	-	-	-	-	1	-	1
3	-	-	-	-	-	1	-	1
1	-	-	-	-	-	1	-	1
2	6	-	-	-	-	2	-	1
2	-	-	-	-	-	-	-	-
1	-	-	-	-	-	-	-	-
2	-	-	-	-	-	-	-	-
1	1	-	-	-	-	-	-	1
1	-	-	-	-	-	-	-	1
4	-	-	-	-	-	-	-	1
1	1	-	-	-	-	-	-	-
1	-	-	-	-	-	-	-	-
1	-	-	-	-	-	-	-	-
4	6	-	-	-	-	2	-	-
1	-	-	-	-	-	-	-	1
1	-	-	-	-	-	-	-	1
4	-	-	-	-	-	-	-	1
2	-	-	-	-	-	-	-	1
3	1	-	-	-	-	-	-	1
3	2	-	-	-	-	-	-	2

1-2.平成11年 累積報告数：疾病・都道府県・性別 (男)
 1-2. Number of cumulative cases by disease, prefecture and sex, 1999 (Male)

数	エボラ出血熱 累積報告数	クリミア ・コンゴ出血熱 累積報告数	ベ ス ト 累積報告数	マ ー ル ブ ル グ 病 累積報告数	ラ ッ サ 熱 累積報告数	コ レ ラ 累積報告数	細菌性赤痢 累積報告数	腸チフス 累積報告数	パラチフス 累積報告数
総	-	-	25	-	-	290	45	18	-
北海道	-	-	-	-	-	4	-	-	-
青森県	-	-	1	-	-	1	-	-	-
岩手県	-	-	1	-	-	3	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	3	1	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	1	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	6	-	-	-
福島県	-	-	1	-	-	5	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	1	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	1	-	-	-
群馬県	-	-	1	-	-	11	6	-	-
埼玉県	-	-	2	-	-	10	-	-	-
千葉県	-	-	2	-	-	63	14	4	-
東京都	-	-	-	-	-	25	5	3	-
神奈川県	-	-	-	-	-	10	-	1	-
新潟県	-	-	-	-	-	1	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
梨県	-	-	2	-	-	3	1	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	2	-	-	3	1	1	-
愛知県	-	-	2	-	-	5	2	2	-
三重県	-	-	-	-	-	3	3	1	-
滋賀県	-	-	-	-	-	4	4	2	-
京都府	-	-	-	-	-	7	7	1	-
大阪府	-	-	3	-	-	9	5	-	-
兵庫県	-	-	1	-	-	24	1	-	-
奈良県	-	-	2	-	-	5	1	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	5	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	2	1	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	25	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	3	1	-	-
広島県	-	-	-	-	-	11	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	4	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	3	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	1	-	-	-
愛媛県	-	-	1	-	-	5	-	-	-
高知県	-	-	1	-	-	5	-	-	-
福岡県	-	-	2	-	-	2	5	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	2	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	2	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	4	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	2	-	-	-
鹿児島県	-	-	1	-	-	1	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	4	-	-	-

急 性 灰 白 髄 炎	ジ フ テ リ ア	腸 管 出 血 性 大 腸 菌 感 染 症	ア メ ー バ 赤 痢	エ キ ノ コ ク ス 症	黄 熱	オ ウ ム 病	回 帰 熱	ウ イ ル ス 性 肝 炎
累 積 報 告 数	累 積 報 告 数	累 積 報 告 数	累 積 報 告 数	累 積 報 告 数	累 積 報 告 数	累 積 報 告 数	累 積 報 告 数	累 積 報 告 数
-	1	1476	255	4	-	8	-	930
-	-	90	4	4	-	-	-	20
-	-	5	-	-	-	-	-	3
-	-	39	-	-	-	-	-	10
-	-	42	3	-	-	-	-	27
-	-	56	2	-	-	-	-	6
-	-	23	-	-	-	-	-	-
-	-	9	2	-	-	-	-	5
-	-	23	5	-	-	-	-	8
-	-	12	2	-	-	-	-	4
-	-	14	3	-	-	-	-	15
-	-	34	2	-	-	2	-	18
-	-	50	6	-	-	-	-	18
-	-	105	85	-	-	-	-	224
-	-	64	33	-	-	1	-	63
-	-	7	2	-	-	-	-	3
-	-	19	3	-	-	-	-	5
-	-	10	-	-	-	-	-	9
-	-	14	-	-	-	-	-	7
-	-	9	-	-	-	-	-	10
-	-	15	1	-	-	1	-	10
-	1	15	7	-	-	-	-	7
-	-	13	3	-	-	-	-	31
-	-	60	9	-	-	-	-	31
-	-	25	2	-	-	1	-	3
-	-	14	3	-	-	-	-	15
-	-	24	2	-	-	2	-	35
-	-	116	33	-	-	-	-	106
-	-	106	14	-	-	1	-	78
-	-	14	3	-	-	-	-	19
-	-	4	1	-	-	-	-	16
-	-	15	-	-	-	-	-	1
-	-	10	1	-	-	-	-	16
-	-	39	2	-	-	-	-	21
-	-	92	2	-	-	-	-	4
-	-	25	1	-	-	-	-	20
-	-	6	4	-	-	-	-	5
-	-	18	1	-	-	-	-	12
-	-	3	-	-	-	-	-	4
-	-	54	8	-	-	-	-	16
-	-	18	-	-	-	-	-	2
-	-	34	-	-	-	-	-	1
-	-	26	1	-	-	-	-	3
-	-	15	2	-	-	-	-	2
-	-	27	2	-	-	-	-	9
-	-	35	2	-	-	-	-	8
-	-	19	1	-	-	-	-	-

総 数

北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県 茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県 富山県 石川県 福井県 山梨県 長野県 岐阜県 静岡県 愛知県 三重県 滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県 鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県 徳島県 香川県 愛媛県 高松県 福岡県 佐賀県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県 沖縄県

道県	Q熱 累積報告数	狂犬病 累積報告数	クリプト スポリウム症 累積報告数	クロイツフェルト ・ヤコブ病 累積報告数	劇症型溶血性 レンサ球菌感染症 累積報告数	後天性 免疫不全症候群 累積報告数	コクシジ オイドス症 累積報告数	ジアルジア症 累積報告数	腎症候性出血熱 累積報告数	数
北海道	7	-	4	36	12	481	-	32	-	
青森県	-	-	1	2	-	5	-	-	-	
岩手県	-	-	-	1	-	4	-	-	-	
宮城県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
秋田県	-	-	-	1	-	2	-	-	-	
山形県	-	-	-	1	-	1	-	-	-	
福島県	-	-	-	1	-	5	-	-	-	
茨城県	-	-	-	1	-	19	-	-	-	
栃木県	-	-	-	1	-	12	-	-	-	
群馬県	-	-	-	-	-	10	-	1	-	
埼玉県	-	-	-	-	-	17	-	-	-	
千葉県	-	-	1	2	1	23	-	-	-	
東京都	-	-	2	4	3	199	-	12	-	
神奈川県	-	-	-	-	-	46	-	6	-	
新潟県	-	-	-	1	1	8	-	-	-	
富山県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
石川県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
福井県	-	-	-	1	1	-	-	-	-	
山梨県	-	-	-	2	-	3	-	-	-	
長野県	-	-	-	-	-	10	-	-	-	
岐阜県	5	-	-	1	1	2	-	-	-	
静岡県	-	-	-	2	-	13	-	-	-	
愛知県	-	-	-	2	-	11	-	-	-	
三重県	-	-	-	1	-	5	-	-	-	
滋賀県	-	-	-	2	-	2	-	-	-	
京都府	-	-	-	3	1	6	-	2	-	
大阪府	-	-	-	2	-	40	-	6	-	
兵庫県	-	-	-	2	-	5	-	-	-	
奈良県	-	-	-	1	1	2	-	-	-	
和歌山県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
徳島県	-	-	-	-	2	-	-	-	1	
岡山県	-	-	-	2	-	1	-	-	-	
広島県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
山口県	-	-	-	1	-	1	-	-	-	
島根県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
岡山県	1	-	-	-	-	2	-	-	-	
広島県	1	-	-	-	-	2	-	-	-	
高知県	-	-	-	-	-	8	-	-	-	
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
佐賀県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	
熊本県	-	-	-	1	-	2	-	-	-	
大分県	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
宮崎県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
鹿児島県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	
沖縄県	-	-	-	-	-	4	-	-	-	

種	髄膜炎菌性髄膜炎	先天性風疹症候群	炭 痘	ツツガムシ病	デング熱	日本紅斑熱	日本脳炎	乳児ボツリノス症	梅毒
数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数
總	10	287	7	21	4	1	482		
北海道	-	8	-	-	-	-	-	8	
青森県	-	2	-	-	-	-	-	2	
岩手県	1	7	-	-	-	-	-	9	
宮城県	-	18	-	-	-	-	-	3	
秋田県	-	2	-	-	-	-	-	5	
山形県	-	22	-	-	-	-	-	2	
福島県	-	2	-	-	-	-	-	4	
茨城県	-	2	-	-	-	-	-	8	
栃木県	-	8	-	-	-	-	-	2	
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	
千葉県	5	47	-	-	-	-	-	7	
東京都	1	6	4	-	-	-	-	13	
神奈川県	-	23	1	-	-	-	-	84	
新潟県	-	7	-	-	-	-	-	19	
石川県	-	4	-	-	-	-	-	2	
福井県	-	1	-	-	-	-	-	2	
岐阜県	1	-	-	-	-	-	-	7	
長野県	-	3	-	-	-	-	-	4	
岐阜県	-	5	-	-	-	-	-	4	
静岡県	-	6	-	-	-	-	-	5	
愛知県	-	3	-	-	-	-	-	13	
三重県	-	3	-	-	-	-	-	11	
滋賀県	-	1	-	-	-	-	-	3	
京都府	1	-	-	-	-	-	-	9	
大阪府	-	5	1	-	-	-	-	17	
兵庫県	-	3	-	-	-	-	-	102	
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	28	
香川県	-	-	-	-	-	-	-	9	
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	4	
高知県	-	-	-	-	-	-	-	3	
鳥取県	-	3	-	-	-	-	-	3	
島根県	-	2	-	-	-	-	-	10	
岡山県	-	7	-	-	-	-	-	2	
広島県	-	1	-	-	-	-	-	12	
山口県	-	1	-	-	-	-	-	8	
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	2	
香川県	-	-	-	-	-	-	-	8	
愛媛県	-	3	-	-	-	-	-	2	
高知県	1	-	-	-	-	-	-	24	
福岡県	-	6	1	-	-	-	-	-	
佐賀県	-	10	-	-	-	-	-	1	
熊本県	-	4	-	-	-	-	-	6	
大分県	-	13	1	-	-	-	-	3	
福岡県	-	18	-	-	-	-	-	5	
鹿児島県	-	31	-	-	-	-	-	2	
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	3	

数	破傷風 累積報告数	バンコマイシン 耐性腸球菌感染症 累積報告数	ハンタウウイルス 肺症候群 累積報告数	Bウイルス病 累積報告数	ブルセラ症 累積報告数	発疹チフス 累積報告数	マラリア 累積報告数	ライム病 累積報告数	レジオネラ症 累積報告数
道	31	11	-	-	-	-	86	8	42
北海道	-	-	-	-	-	-	3	6	-
青森県	-	-	-	-	-	-	1	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	1	-
宮城県	-	1	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	2	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	1	-	-	-	-	-	4	-	2
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	1	-	-	-	-	-	3	-	4
千葉県	4	2	-	-	-	-	4	-	5
東京都	1	-	-	-	-	-	39	-	1
神奈川県	1	-	-	-	-	-	7	-	1
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	1
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	1
石川県	-	1	-	-	-	-	1	-	2
福井県	1	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	1	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	2	-	-	-	-	-	2	-	6
静岡県	1	1	-	-	-	-	3	-	4
愛知県	1	-	-	-	-	-	2	-	2
三重県	-	-	-	-	-	-	1	-	4
滋賀県	-	-	-	-	-	-	1	-	1
京都府	-	-	-	-	-	-	1	-	1
大阪府	1	-	-	-	-	-	8	-	2
兵庫県	2	-	-	-	-	-	1	-	3
奈良県	1	-	-	-	-	-	1	-	1
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	1	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	1	-	-	-	-	-	-	1	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	1	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	1	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	1	3	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	2	-	-	-	-	-	2	-	-
佐賀県	1	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	1	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	1	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	2	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-

1-2.平成11年 累積報告数：疾病・都道府県・性別 (女)
 1-2. Number of cumulative cases by disease, prefecture and sex, 1999 (Female)

種別	エボラ出血熱 累積報告数	クリミア 出血熱 累積報告数	ペ ス ト 病 累 積 報 告 数	マ ー ブル ブ ル グ 病 累 積 報 告 数	ラ ッ サ 熱 累 積 報 告 数	コ レ ラ 累 積 報 告 数	細菌性赤痢 累積報告数	腸チフス 累積報告数	パラチフス 累積報告数
総	-	-	-	14	-	-	330	27	12
北海道	-	-	-	-	-	-	4	1	2
青森県	-	-	-	-	-	-	2	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	3	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	2	-	-
秋田県	-	-	-	1	-	-	2	1	-
山形県	-	-	-	-	-	-	2	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	9	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	2	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	4	1	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	24	-	1
埼玉県	-	-	-	-	-	-	18	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	45	14	3
東京都	-	-	-	5	-	-	40	1	-
神奈川県	-	-	-	1	-	-	4	-	1
新潟県	-	-	-	-	-	-	3	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	2	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	8	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	5	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	7	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	1	16	1	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	4	-	-
三重県	-	-	-	-	-	1	1	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	3	3	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	14	2	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	4	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	6	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	15	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	5	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	1	10	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	2	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	1	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	1	-	-
福岡県	-	-	-	1	-	-	6	2	1
佐賀県	-	-	-	-	-	-	1	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	3	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	1	1	-
大分県	-	-	-	-	-	-	1	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	1	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	1	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	4	1	-

数	急性灰白髄炎 累積報告数	ジフテリア 累積報告数	腸管出血性 大腸菌感染症 累積報告数	アムエーバ赤痢 累積報告数	エキノкокクス症 累積報告数	黄熱 累積報告数	オウム病 累積報告数	回歸熱 累積報告数	ウイルス性肝炎 累積報告数
総	1	1641	21	3	15	589			
北海道	-	110	-	3	-	11	-	-	11
青森県	-	7	-	-	-	3	-	-	3
岩手県	-	42	-	-	-	9	-	-	9
宮城県	-	30	-	-	-	12	-	-	12
秋田県	-	63	-	-	-	4	-	-	4
山形県	-	20	-	-	-	2	-	-	2
福島県	-	9	-	-	-	11	-	-	11
茨城県	-	27	-	-	-	2	-	-	2
栃木県	-	8	-	-	-	6	-	-	6
群馬県	-	13	-	-	-	17	-	-	17
埼玉県	-	26	1	-	-	9	-	-	9
千葉県	-	65	7	-	-	8	-	-	8
東京都	-	129	5	-	-	48	-	-	48
神奈川県	-	58	1	-	-	29	-	-	29
新潟県	-	11	-	-	-	7	-	-	7
富山県	-	19	-	-	-	10	-	-	10
石川県	-	10	-	-	-	12	-	-	12
福井県	-	16	-	-	-	4	-	-	4
山梨県	-	5	-	-	-	9	-	-	9
長野県	-	21	-	-	-	4	-	-	4
岐阜県	-	18	-	-	-	10	-	-	10
静岡県	-	20	-	-	-	23	-	-	23
愛知県	-	57	2	-	-	24	-	-	24
三重県	-	34	-	-	-	5	-	-	5
滋賀県	-	18	-	-	-	12	-	-	12
京都府	-	25	1	-	-	26	-	-	26
大阪府	-	140	3	-	-	51	-	-	51
兵庫県	-	121	1	-	-	65	-	-	65
奈良県	-	23	-	-	-	9	-	-	9
和歌山県	-	5	1	-	-	8	-	-	8
鳥取県	-	12	-	-	-	3	-	-	3
徳島県	-	6	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	34	-	-	-	14	-	-	14
広島県	1	88	-	-	-	11	-	-	11
山口県	-	24	-	-	-	4	-	-	4
徳島県	-	4	-	-	-	39	-	-	39
香川県	-	8	-	-	-	4	-	-	4
愛媛県	-	14	-	-	-	9	-	-	9
高知県	-	8	-	-	-	9	-	-	9
福岡県	-	97	-	-	-	23	-	-	23
佐賀県	-	17	-	-	-	3	-	-	3
長崎県	-	26	-	-	-	4	-	-	4
熊本県	-	23	-	-	-	5	-	-	5
大分県	-	25	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	47	-	-	-	5	-	-	5
鹿児島県	-	30	-	-	-	1	-	-	1
沖縄県	-	28	-	-	-	-	-	-	-

Q 熱 累積報告数	狂 犬 病 累積報告数	クリプト スポリジウム症 累積報告数	クロイツフェルト ・ヤコブ病 累積報告数	劇症型溶血性 レンカ球菌感染症 累積報告数	後天性 免疫不全症候群 累積報告数	コクシジ オイドシス症 累積報告数	ジアルジア症 累積報告数	腎症候性出血熱 累積報告数
5		56	107	10			10	
道 府 県 別								
北海道		1						
青 森 県		1						
岩 手 県		3						
宮 城 県		2						
山 形 県		2		1				
福 島 県		1						
茨 城 県								
栃 木 県								
群馬県		1						
埼玉県		10		1			4	
東京都		4		1			3	
神奈川県		1					1	
新潟県		3		1				
富 山 県		1						
石 川 県		1						
福 井 県								
山 梨 県								
長野県								
岐阜県								
静岡県		1						
愛 知 県		1		2				
豊 田 県		1						
山 梨 県		1						
徳 島 県		2						
香 川 県		1						
高 松 県		2						
愛 媛 県		1						
高 知 県		1						
福 岡 県								
佐 賀 県		2						
長 崎 県		1						
大 分 県								
宮 崎 県		2						
鹿 児 島 県								
那 覇 市								
沖 縄 県								
計	5	56	107	10			10	

種 別	肺炎球菌性髄膜炎	先天性風疹症候群	炭 疽	ツツガムシ病	デング熱	日本紅斑熱	日本脳炎	乳児ボツリノス症	梅 毒
累 積 報 告 数	累 積 報 告 数	累 積 報 告 数	累 積 報 告 数	累 積 報 告 数	累 積 報 告 数	累 積 報 告 数	累 積 報 告 数	累 積 報 告 数	累 積 報 告 数
総 数	-	-	-	269	2	18	1	-	269
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	5
青森県	-	-	-	8	-	-	-	-	2
岩手県	-	-	-	1	-	-	-	-	12
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	27	-	-	-	-	7
山形県	-	-	-	5	-	-	-	-	2
福島県	-	-	-	14	-	-	-	-	1
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	3
栃木県	-	-	-	2	-	-	-	-	1
群馬県	-	-	-	8	-	-	-	-	3
埼玉県	-	-	-	1	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	37	-	1	-	-	1
東京都	-	-	-	3	-	1	-	-	2
神奈川県	-	-	-	10	-	-	-	-	50
新潟県	-	-	-	13	-	-	-	-	10
富山県	-	-	-	1	-	-	-	-	3
石川県	-	-	-	3	-	-	-	-	1
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	4
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	2
長野県	-	-	-	3	-	-	-	-	3
岐阜県	-	-	-	1	-	-	-	-	1
静岡県	-	-	-	6	-	-	-	-	12
愛知県	-	-	-	3	-	-	-	-	4
三重県	-	-	-	2	-	-	-	-	3
滋賀県	-	-	-	1	-	-	-	-	1
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	11
大阪府	-	-	-	1	-	-	-	-	25
兵庫県	-	-	-	-	1	-	-	-	20
奈良県	-	-	-	-	-	3	-	-	7
和歌山県	-	-	-	3	-	-	-	-	5
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	2
香川県	-	-	-	2	-	-	-	-	1
愛媛県	-	-	-	5	-	-	-	-	9
高知県	-	-	-	1	-	-	-	-	4
福岡県	-	-	-	8	1	-	1	-	2
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	4
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	2
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	9
大分県	-	-	-	2	-	-	-	-	4
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	2
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	6
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	5
計	-	-	-	269	2	18	1	-	269

破 傷 風 累 積 報 告 数	バ ン コ コ イ ミ ン 耐 性 腸 球 菌 感 染 症 累 積 報 告 数	ハ ン タ ウ ウ イ ル ス 肺 症 候 群 累 積 報 告 数	日 ウ イ ル ス 病 累 積 報 告 数	ブ ル セ ラ 症 累 積 報 告 数	発 疹 チ ア フ ス 累 積 報 告 数	マ ラ リ ア 累 積 報 告 数	ラ イ ム 病 累 積 報 告 数	レ ジ オ ナ ネ ラ 症 累 積 報 告 数
35	12	-	-	-	-	26	6	14
北海道	1	-	-	-	-	1	3	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	1	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	1
茨城県	-	-	-	-	-	1	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	1	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	1	-	-	-	-	1	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	1	-	-
東京都	4	-	-	-	-	15	1	-
神奈川県	2	-	-	-	-	2	1	-
新潟県	2	-	-	-	-	-	-	-
富山県	1	-	-	-	-	-	-	1
石川県	1	-	-	-	-	-	-	2
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	1	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	3	-	-	-	-	-	-
岐阜県	1	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	1	-	-	-	-	1	-	2
愛知県	1	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	1	-	3
京都府	-	-	-	-	-	1	-	1
大阪府	2	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	1	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	1	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	1	-	-	-	-	-	-
愛媛県	2	-	-	-	-	-	-	1
高知県	1	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	2	3	-	-	-	-	-	-
佐賀県	1	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	1	1
大分県	3	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	2	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	3	-	-	-	-	1	-	2
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-
総 計	35	12	-	-	-	26	6	14

1-3. 平成11年 累積報告数：疾病・地域ブロック・性別 (総数)
 1-3. Number of cumulative cases by disease, geographical area and sex, 1999 (Total)

	総 数	北 海 道	東 北	関 東 甲 信 越	東 海	北 陸	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
エボラ出血熱											
累積報告数											
クリミア・コンゴ出血熱											
累積報告数											
ペスト											
累積報告数											
マールブルグ病											
累積報告数											
ラッサ熱											
累積報告数											
コレラ	39		3	14	5	10	2	5			
累積報告数	620	8	25	284	53	105	100	45			
細菌性赤痢	72	1	2	43	6	8	3	9			
累積報告数	30	2	1	13	3	4	3	4			
バラチフス											
累積報告数											
急性灰白髄炎											
累積報告数	2								1		
ジフテリア											
累積報告数	3117	200	345	696	330	610	415	521			
腸管出血性大腸菌感染症											
累積報告数	276	4	7	152	27	61	11	14			
アメーバ赤痢											
累積報告数	7	7									
エキノкокクス症											
累積報告数											
黄熱											
累積報告数	23		2	7	2	11		1			
オウム病											
累積報告数											
回帰熱											
累積報告数	1519	31	92	512	181	440	176	87			
ウイルス性肝炎											
累積報告数	12				6		6				
Q熱											
累積報告数											
狂犬病											
累積報告数	4	1		3							
クリプトスポリジウム症											
累積報告数	92	3	11	33	12	17	10	6			
クロイツフェルト・ヤコブ病											
累積報告数	22			9	4	4	4	1			
劇症型溶血性レンサ球菌感染症											
累積報告数											

	総数	北海道	東	北	関東甲信越	東海・北陸	近畿	中国・四国	九州・沖縄
後天性免疫不全症候群	588	5	16	429	43	62	8	25	
コクシジオイドス症	-	-	-	-	-	-	-	-	
ジアルジア症	42	-	-	28	-	10	3	1	
腎症候性出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	
髄膜炎菌性髄膜炎	10	-	1	7	-	1	-	1	
先天性風疹症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	
炭疽	-	-	-	-	-	-	-	-	
ツツガムシ病	556	-	114	175	38	13	30	186	
デング熱	9	-	-	5	-	2	1	1	
日本紅斑熱	39	-	-	3	-	9	18	9	
日本脳炎	5	-	-	-	-	-	2	3	
乳児ポツリノス症	1	-	-	-	-	-	1	-	
梅毒	751	13	49	221	72	238	79	79	
破傷風	66	1	2	23	9	7	9	15	
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	23	1	2	6	3	1	1	9	
ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	
Bウイルス病	-	-	-	-	-	-	-	-	
ブルセラ症	-	-	-	-	-	-	-	-	
発疹チフス	-	-	-	-	-	-	-	-	
マラリア	112	4	1	78	10	14	-	5	
ライム病	14	9	1	2	-	-	1	1	
レジオネラ症	56	-	-	13	27	9	2	5	

1-3. 平成11年 累積報告数：疾病・地域ブロック・性別 (男)

1-3. Number of cumulative cases by disease, geographical area and sex, 1999 (Male)

	総数	北海道	東北	関東甲信越	東海	北陸	近畿	中国・四国	九州・沖縄
エボラ出血熱									
累積報告数									
クリミア・コンゴ出血熱									
累積報告数									
ペスト									
累積報告数									
マールブルグ病									
累積報告数									
ラッサ熱									
累積報告数									
コレラ	25		2	8		4	6	1	4
累積報告数									
細菌性赤痢	290	4	14	130		16	52	54	20
累積報告数									
腸チフス	45		1	27		4	6	2	5
累積報告数									
パラチフス	18			8		3	2	2	3
累積報告数									
急性灰白髄炎									
累積報告数									
ジフテリア	1								
累積報告数									
腸管出血性大腸菌感染症	1476	90	174	333		156	278	217	228
累積報告数									
アメーバ赤痢	255	4	7	139		24	56	11	14
累積報告数									
エキノкокクス症	4	4							
累積報告数									
黄熱									
累積報告数									
オウム病	8			4		1	3		
累積報告数									
回帰熱									
累積報告数									
ウイルス性肝炎	930	20	51	373		93	269	83	41
累積報告数									
Q熱	7					5		2	
累積報告数									
狂犬病									
累積報告数									
クリプトスポリジウム症	4	1		3					
累積報告数									
クロイツフェルト・ヤコブ病	36	2	5	11		5	9	3	1
累積報告数									
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	12			6		1	2	2	1
累積報告数									

	総数	北海道	東北	関東甲信越	東海・北陸	近畿	中国・四国	九州・沖縄
後天性免疫不全症候群	481	5	13	347	33	56	8	19
コクシジオイデス症	-	-	-	-	-	-	-	-
ジアルジア症	32	-	-	20	-	8	3	1
胃症候性出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-
髄膜炎菌性髄膜炎	10	-	1	7	-	1	-	1
先天性風疹症候群	-	-	-	-	-	-	-	-
炭 疽	-	-	-	-	-	-	-	-
ツツガムシ病	287	-	59	98	22	9	14	85
デング熱	7	-	-	5	-	1	-	1
日本紅斑熱	21	-	-	2	-	6	8	5
日本髄炎	4	-	-	-	-	-	1	3
乳児ポツリノス症	1	-	-	-	-	-	1	-
梅毒	482	8	25	141	45	169	50	44
破 傷 風	31	-	2	11	5	5	4	4
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	11	-	1	2	2	-	-	6
ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-	-	-	-	-
ヒウイルス病	-	-	-	-	-	-	-	-
ブルセラ症	-	-	-	-	-	-	-	-
発疹チアス	-	-	-	-	-	-	-	-
マラリア	86	3	1	57	9	13	-	3
ライム病	8	6	1	-	-	-	1	-
レジオネラ症	42	-	-	12	19	8	1	2

1-3. 平成11年 累積報告数：疾病・地域ブロック・性別 (女)

1-3. Number of cumulative cases by disease, geographical area and sex, 1999 (Female)

	総 数	北海道	東 北	関東甲信越	東海・北陸	近 畿	中国・四国	九州・沖縄
エボラ出血熱								
クリミア・コンゴ出血熱								
ペ ス ト								
マールブルグ病								
ラッサ熱								
コレ ラ	14		1	6	1	4	1	1
細菌性赤痢	330	4	11	154	37	53	46	25
腸チフス	27	1	1	16	2	2	1	4
パラチフス	12	2	1	5		2	1	1
急性灰白髄炎								
ジフテリア	1						1	
腸管出血性大腸菌感染症	1641	110	171	363	174	332	198	293
ア メ ー バ 赤 痢	21			13	3	5		
エ キ ノ コ ク ス 症	3	3						
黄 熱								
オ ウ ム 病	15		2	3	1	8		1
回 帰 熱								
ウ イ ル ス 性 肝 炎	589	11	41	139	88	171	93	46
Q 熱	5				1		4	
狂 犬 病								
ク リ プ ト ス ポ リ ジ ウ ム 症								
ク ロ イ ツ フ ェ ル ト ・ ヤ コ ブ 病	56	1	6	22	7	8	7	5
劇 症 型 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 感 染 症	10			3	3	2	2	

	総数	北海道	京 京	北 北	関東甲信越	東海・北陸	近 近	畿 畿	中国・四国	九州・沖縄
後天性免疫不全症候群	107	-	-	3	82	10	6	-	-	6
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コクシジオイデス症	10	-	-	-	8	-	2	-	-	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ジアルジア症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
腎症候性出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
髄膜炎菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
先天性風疹症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
炭 疽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ツツガムシ病	269	-	-	55	77	16	4	16	101	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
デング熱	2	-	-	-	-	-	1	1	1	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日本紅斑熱	18	-	-	-	1	-	3	10	4	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日本脳炎	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
乳児ボツリヌス症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
梅毒	269	5	-	24	80	27	69	29	35	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
破 傷 風	35	1	-	-	12	4	2	5	11	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	12	1	1	1	4	1	1	1	3	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハンタウイルス肺炎候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Bウイルス病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
フルセラ症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
発疹チフス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マラリア	26	1	-	-	21	1	1	-	2	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ライム病	6	3	-	-	2	-	-	-	1	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
レジオネラ症	14	-	-	-	1	8	1	1	3	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

1-4.平成11年 累積報告数：疾病・年齢階級別
 1-4. Number of cumulative cases by disease and age group, 1999

	総数	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39
エボラ出血熱										
累積報告数										
クリミア・コンゴ出血熱										
累積報告数										
ペスト										
累積報告数										
マールブルグ病										
累積報告数										
ラッサ熱										
コレラ	39		1				7	4		2
累積報告数										
細菌性赤痢	620	3	19	14	20	56	106	130	56	42
累積報告数										
腸チフス	72	1	2	2	2	1	23	13	6	2
累積報告数										
パラチフス	30					1	7	8	3	2
累積報告数										
急性灰白髄炎										
累積報告数										
ジフテリア	2									
累積報告数										
腸管出血性大腸菌感染症										
累積報告数	3117	70	919	463	181	164	213	213	152	117
アメーバ赤痢	276	1	1			2	8	24	36	30
累積報告数										
エキノкокクス症	7								1	
累積報告数										
黄熱										
累積報告数										
オウム病	23				1			1	2	3
累積報告数										
回帰熱										
累積報告数										
ウイルス性肝炎										
累積報告数	1519	2	18	27	20	84	198	199	184	135
Q熱	12		2	3	2	2				
累積報告数										
狂犬病										
累積報告数										
クリプトスポリジウム症	4					1	2	1		
累積報告数										
クロイツフェルト・ヤコブ病	92									2
累積報告数										
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	22			1		1				2
累積報告数										

	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70歳以上
エボラ出血熱	-	-	-	-	-	-	-
クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-	-	-	-
ペスト	-	-	-	-	-	-	-
マールブルグ病	-	-	-	-	-	-	-
ラッサ熱	-	-	-	-	-	-	-
コレラ	3	4	3	3	3	3	6
細菌性赤痢	21	30	23	33	20	15	32
腸チフス	3	4	6	-	2	1	4
パラチフス	-	3	1	2	-	-	3
急性灰白髄炎	-	-	-	-	-	-	-
ジフテリア	-	-	-	-	-	1	-
腸管出血性大腸菌感染症	91	98	114	83	66	54	119
アメルバ赤痢	22	30	46	28	13	16	19
エキノコックス症	2	-	-	-	-	1	3
黄熱	-	-	-	-	-	-	-
オウム病	1	4	2	4	2	1	2
回帰熱	-	-	-	-	-	-	-
ウイルス性肝炎	131	133	132	73	59	45	79
G熱	-	-	1	-	-	-	2
狂犬病	-	-	-	-	-	-	-
クリプトスポリジウム症	-	-	-	-	-	-	-
クロイツフェルト・ヤコブ病	-	2	8	13	14	20	33
創症型溶血性レンサ球菌感染症	1	1	2	3	3	4	2

	総数	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39
後天性免疫不全症候群	588	-	1	-	-	4	54	106	115	71
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コクシジオイデス症	42	-	-	-	1	2	7	8	5	4
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ジアルジア症	10	2	1	-	-	1	2	-	-	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
腎症候性出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
髄膜炎菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
先天性風疹症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
炭疽	556	-	1	4	5	3	6	10	6	14
累積報告数	9	-	-	-	1	-	2	1	-	-
ツツガムシ病	39	-	1	-	1	-	-	-	2	1
累積報告数	5	-	-	-	-	1	-	-	-	-
日本紅斑熱	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数	751	1	1	-	3	13	74	82	78	50
乳児ポツリノス症	66	-	1	-	2	1	-	-	-	-
累積報告数	23	-	-	-	-	-	-	-	-	-
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハンタウイルス肺炎症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ブルセラ症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
発疹チフス	112	-	-	-	-	4	20	23	21	14
マラリア	14	-	-	-	1	1	-	-	1	-
ライム病	56	1	-	-	-	-	1	-	2	-
レジオネラ症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70歳以上
後天性免疫不全症候群	65	58	41	33	21	8	11
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-
コクシジオイデス症	2	5	-	4	2	1	1
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-
ジアルジア症	2	1	1	-	-	-	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-
胃症候性出血熱	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-
髄膜炎菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-
先天性風疹症候群	-	-	-	-	-	-	-
炭 疽	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-
ツツガムシ病	31	30	58	58	75	83	172
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-
デング熱	2	1	-	1	1	-	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-
日本紅斑熱	2	4	5	1	2	3	17
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-
日本脳炎	-	-	-	1	1	-	2
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-
乳児ボツリヌス症	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-
梅毒	46	47	48	41	31	45	191
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-
破 傷 風	2	5	3	12	5	5	30
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	1	1	-	4	17
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-
ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-
Bウイルス病	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-
ブルセラ症	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-
発疹チフス	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-
マラリア	11	9	5	3	-	-	1
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-
ライム病	4	2	2	-	2	1	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-
レジオネラ症	3	5	7	9	6	9	13
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-

2. 4 類定点把握疾病 (週報)

2. Sentinel-reporting diseases (Category IV Weekly)

2-1. 平成11年 報告数・定点当り報告数：疾病・週別

2-1. Number of cases and number of cases per sentinel by disease and week, 1999

	インフルエンザ Influenza	咽頭結核熱 Pharyngoconjunctival fever	A群溶血性レンカ球菌咽頭炎 Group A streptococcal pharyngitis	感染性胃腸炎 Infectious gastroenteritis	水痘 Varicella	手足口病 Hand, foot and mouth disease	伝染性紅斑 Erythema infectiosum	突発性発疹 Exanthem subitum	百日咳 Pertussis						
報告数 number of cases	定点当り報告数 per sentinel	報告数 number of cases	定点当り報告数 per sentinel	報告数 number of cases	定点当り報告数 per sentinel	報告数 number of cases	定点当り報告数 per sentinel	報告数 number of cases	定点当り報告数 per sentinel						
総数	65471	10726	31.40	507592	176.55	162424	56.50	50814	17.67	18607	6.47	95737	33.30	2653	0.92
01週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
02週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
03週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
04週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
05週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
06週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
07週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
08週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
09週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
11週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
14週	5694	141	0.05	10471	3.79	5279	1.91	231	0.08	523	0.19	2077	0.75	38	0.01
15週	4464	174	0.06	12003	4.41	4742	1.74	335	0.12	668	0.25	2344	0.86	48	0.02
16週	3404	167	0.06	12076	4.41	5042	1.84	523	0.19	671	0.25	2276	0.83	43	0.02
17週	2282	199	0.07	10400	3.73	4997	1.79	613	0.22	544	0.20	1997	0.72	30	0.01
18週	974	139	0.05	7357	2.74	5079	1.89	438	0.16	408	0.15	1415	0.53	25	0.01
19週	985	188	0.07	11284	4.16	6064	2.24	549	0.20	549	0.20	2370	0.87	54	0.02
20週	657	244	0.09	12312	4.31	5745	2.01	853	0.30	629	0.22	2408	0.84	53	0.02
21週	519	312	0.11	13582	4.77	6497	2.28	1033	0.36	688	0.24	2441	0.86	51	0.02
22週	409	374	0.13	14026	5.01	6470	2.31	1552	0.55	823	0.29	2497	0.89	54	0.02
23週	313	390	0.14	12558	4.38	7013	2.45	1703	0.59	711	0.25	2447	0.85	66	0.02
24週	248	367	0.13	11403	3.94	6259	2.16	2068	0.71	757	0.26	2624	0.91	52	0.02
25週	227	458	0.16	10628	3.68	6199	2.15	2520	0.87	750	0.26	2731	0.95	52	0.02
26週	208	483	0.17	9825	3.37	5050	1.73	3299	1.13	904	0.31	2740	0.94	69	0.02
27週	195	525	0.18	8637	3.08	5672	1.97	3556	1.24	862	0.30	2610	0.91	82	0.03
28週	203	583	0.20	7934	2.76	4490	1.56	3392	1.18	974	0.34	2713	0.94	71	0.02
29週	159	631	0.22	6154	2.15	4612	1.61	3483	1.22	780	0.27	2577	0.94	59	0.02
30週	160	641	0.22	6035	2.08	3509	1.21	3034	1.04	529	0.18	2179	0.76	77	0.03
31週	139	599	0.21	5929	2.07	2961	1.03	2409	0.84	390	0.14	2769	0.97	88	0.03
32週	64	416	0.14	4729	1.65	2090	0.73	1689	0.59	274	0.10	2223	0.77	50	0.02
33週	58	462	0.16	5340	1.86	1898	0.66	1266	0.44	336	0.12	2415	0.84	79	0.03
34週	93	408	0.14	5271	1.83	1626	0.56	1112	0.39	336	0.12	2952	1.02	91	0.03
35週	104	365	0.13	5365	1.87	1463	0.51	1160	0.40	341	0.12	3005	1.05	115	0.04
36週	132	351	0.12	5552	1.92	1425	0.49	1131	0.39	351	0.12	2932	1.01	112	0.04
37週	102	367	0.13	5545	1.92	1293	0.45	1076	0.37	268	0.09	2895	1.00	100	0.03
38週	102	233	0.08	5396	1.84	1325	0.45	1122	0.38	253	0.09	2652	0.90	95	0.03
39週	126	229	0.08	5569	1.90	1391	0.47	1284	0.44	222	0.08	2781	0.95	121	0.04
40週	172	163	0.06	5728	1.95	1512	0.51	994	0.34	209	0.07	2747	0.93	107	0.04
41週	224	99	0.03	5420	1.86	1363	0.47	910	0.31	245	0.08	2435	0.83	84	0.03
42週	303	93	0.03	6383	2.17	2048	0.70	910	0.31	233	0.08	2346	0.80	86	0.03
43週	367	82	0.03	7606	2.59	1762	0.60	743	0.25	267	0.09	2379	0.81	75	0.03
44週	377	66	0.02	8848	3.02	3230	1.10	695	0.24	227	0.08	2303	0.79	84	0.03
45週	430	83	0.03	12317	4.20	3047	1.04	728	0.25	256	0.09	2361	0.81	62	0.02
46週	727	88	0.03	17018	5.81	4408	1.50	718	0.24	333	0.11	2416	0.82	76	0.03
47週	907	91	0.03	21405	7.28	4563	1.55	778	0.26	362	0.12	2381	0.81	60	0.02
48週	1537	88	0.03	31008	10.58	5767	1.97	682	0.13	386	0.13	2379	0.81	68	0.02
49週	3258	116	0.04	40856	13.89	6354	2.16	736	0.25	418	0.14	2334	0.79	56	0.02
50週	6748	107	0.04	49951	17.00	7025	2.39	654	0.22	423	0.14	2315	0.79	50	0.02
51週	14167	128	0.04	47943	16.34	7655	2.61	507	0.17	442	0.15	2086	0.71	37	0.01
52週	14233	76	0.03	27528	9.37	5499	1.87	280	0.10	265	0.09	1485	0.51	33	0.01
53週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

風疹	ヘルパンギーナ	麻疹(成人麻疹を除く)	流行性耳下腺炎	急性出血性結核膜炎	流行性角結膜炎	急性脳炎(日本脳炎を除く)	細菌性髄膜炎	細菌性髄膜炎	細菌性髄膜炎
Rubella	Herpangina	Measles (excluding measles in adults)	Mumps	Acute hemorrhagic conjunctivitis	Epidemic keratoconjunctivitis	Acute encephalitis (excluding Japanese encephalitis)	Bacterial meningitis	Bacterial meningitis	Aseptic meningitis
報告数 number of cases	定点当たり報告数 per sentinel	報告数 number of cases	定点当たり報告数 per sentinel	報告数 number of cases	定点当たり報告数 per sentinel	報告数 number of cases	報告数 number of cases	定点当たり報告数 per sentinel	報告数 number of cases
2972	154802	5875	69070	1084	23941	129	235	0.52	1126
1.03	53.84	2.04	24.02	1.84	40.65	0.28	0.52	0.52	2.47
0.04	0.08	0.10	0.72	0.07	0.78	0.01	0.01	0.01	0.03
0.05	0.12	0.11	0.72	0.09	0.76	0.00	0.01	0.01	0.03
0.05	0.15	0.11	0.63	0.07	0.90	0.01	0.02	0.02	0.02
0.05	0.21	0.08	0.66	0.05	0.76	0.01	0.01	0.01	0.03
0.03	0.19	0.09	0.58	0.07	0.77	0.00	0.00	0.00	0.03
0.04	0.33	0.12	0.71	0.07	1.04	0.01	0.01	0.01	0.05
0.04	0.54	0.10	0.71	0.08	0.91	0.01	0.01	0.01	0.04
0.04	1893	0.10	0.70	0.05	608	0.01	0.02	0.02	0.06
0.05	2965	0.10	0.80	0.07	569	0.01	0.02	0.02	0.04
0.05	4233	0.09	0.75	0.05	618	0.00	0.01	0.01	0.04
0.04	5640	0.09	0.83	0.07	764	0.01	0.01	0.01	0.06
0.04	7903	0.08	0.77	0.04	706	0.01	0.01	0.01	0.05
0.04	11236	0.06	0.77	0.04	697	0.00	0.01	0.01	0.07
0.04	14693	0.07	0.79	0.06	710	0.01	0.02	0.02	0.09
0.03	16151	0.08	0.87	0.07	771	0.01	0.01	0.01	0.08
0.03	16701	0.09	0.74	0.05	732	0.00	0.01	0.01	0.09
0.03	15521	0.06	0.77	0.06	822	0.01	0.02	0.02	0.14
0.05	11515	0.06	0.77	0.05	726	0.01	0.01	0.01	0.13
0.03	7503	0.04	0.54	0.03	603	0.02	0.01	0.01	0.12
0.02	4920	0.03	0.60	0.05	848	0.01	0.01	0.01	0.13
0.02	4186	0.03	0.45	0.04	799	0.02	0.01	0.01	0.10
0.02	3670	0.03	0.50	0.04	843	0.01	0.02	0.02	0.08
0.01	37388	0.02	0.47	0.02	678	0.00	0.01	0.01	0.12
0.02	2789	0.02	0.47	0.03	691	0.01	0.00	0.00	0.07
0.02	2381	0.02	0.50	0.04	703	0.00	0.01	0.01	0.07
0.02	1701	0.01	0.48	0.03	669	0.00	0.01	0.01	0.10
0.01	1133	0.02	0.44	0.05	587	0.00	0.01	0.01	0.07
0.01	896	0.01	0.48	0.06	631	0.01	0.02	0.02	0.06
0.01	677	0.01	0.49	0.02	632	0.01	0.01	0.01	0.06
0.01	582	0.01	0.48	0.03	500	0.00	0.02	0.02	0.05
0.01	502	0.01	0.55	0.05	489	0.01	0.02	0.02	0.06
0.01	410	0.01	0.53	0.04	523	0.00	0.01	0.01	0.05
0.01	340	0.02	0.51	0.04	489	0.00	0.01	0.01	0.05
0.01	274	0.02	0.60	0.03	497	0.00	0.01	0.01	0.04
0.01	215	0.03	0.56	0.04	539	0.01	0.02	0.02	0.04
0.01	198	0.03	0.62	0.03	588	0.01	0.00	0.00	0.02
0.01	151	0.04	0.59	0.04	548	0.01	0.02	0.02	0.02
0.01	90	0.04	0.39	0.02	358	0.01	0.01	0.01	0.03

週	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎(オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数 number of cases	定点当たり報告数 per sentinel	報告数 number of cases	定点当たり報告数 per sentinel	報告数 number of cases	定点当たり報告数 per sentinel
01週	-	-	-	-	-	-
02週	-	-	-	-	-	-
03週	-	-	-	-	-	-
04週	-	-	-	-	-	-
05週	-	-	-	-	-	-
06週	-	-	-	-	-	-
07週	-	-	-	-	-	-
08週	-	-	-	-	-	-
09週	-	-	-	-	-	-
10週	-	-	-	-	-	-
11週	-	-	-	-	-	-
12週	-	-	-	-	-	-
13週	-	-	-	-	-	-
14週	17	0.04	1	0.00	1	0.00
15週	16	0.04	3	0.01	3	0.01
16週	10	0.02	2	0.00	6	0.01
17週	18	0.04	2	0.00	9	0.02
18週	6	0.01	3	0.01	1	0.00
19週	37	0.09	4	0.01	-	-
20週	30	0.07	6	0.01	6	0.01
21週	35	0.08	3	0.01	6	0.01
22週	30	0.07	1	0.00	3	0.01
23週	23	0.05	18	0.04	2	0.00
24週	31	0.07	3	0.01	2	0.00
25週	22	0.05	3	0.01	6	0.01
26週	25	0.05	-	-	4	0.01
27週	23	0.05	5	0.01	4	0.01
28週	26	0.06	2	0.00	5	0.01
29週	19	0.04	2	0.00	3	0.01
30週	36	0.08	7	0.02	3	0.01
31週	33	0.07	1	0.00	2	0.00
32週	27	0.06	2	0.00	3	0.01
33週	26	0.06	1	0.00	2	0.00
34週	33	0.07	4	0.01	1	0.00
35週	36	0.08	4	0.01	-	-
36週	22	0.05	2	0.00	2	0.00
37週	26	0.06	4	0.01	1	0.00
38週	31	0.07	6	0.01	-	-
39週	26	0.06	3	0.01	2	0.00
40週	21	0.05	1	0.00	2	0.00
41週	35	0.08	2	0.00	-	-
42週	33	0.07	4	0.01	-	-
43週	32	0.07	3	0.01	-	-
44週	32	0.07	1	0.00	-	-
45週	49	0.11	2	0.00	2	0.00
46週	34	0.07	3	0.01	-	-
47週	52	0.11	2	0.00	1	0.00
48週	32	0.07	4	0.01	-	-
49週	50	0.11	-	-	-	-
50週	36	0.08	7	0.02	-	-
51週	35	0.08	2	0.00	-	-
52週	29	0.06	6	0.01	1	0.00
53週	-	-	-	-	-	-
総数	1134	2.49	129	0.28	83	0.18

2-2.平成11年累積報告数・定点当り累積報告数：疾病・都道府県・性別 (総数)
 2-2. Number of cumulative cases and number of cumulative cases per sentinel by disease, prefecture and sex, 1999 (Total)

総数	インフルエンザ	咽頭扁桃線	A群溶血性レンカ球菌髄膜炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百日咳		
			累積	定点当り	累積	定点当り	累積	定点当り	累積	定点当り	累積	定点当り	累積	定点当り			
北海道	5230	23.14	324	2.27	6939	48.52	10682	74.70	10231	562	3.93	1907	13.34	4019	28.10	57	0.40
青森県	2026	11.63	71	1.73	928	32.63	2295	55.98	2430	59.27	7.21	17.99	910	22.20	28	0.68	
岩手県	1225	20.08	303	7.97	1242	32.68	3973	101.92	2419	229	6.03	113	2.97	1074	28.26	52	1.37
宮城県	6563	74.38	82	1.49	2368	43.42	11223	204.05	4372	381	6.93	522	9.49	2517	45.76	10	0.18
秋田県	1407	26.06	130	3.71	1996	57.03	5841	166.89	2323	66.37	12.31	32.37	1052	30.06	14	0.40	
山形県	349	7.43	81	2.70	1291	43.03	6289	209.63	2857	140	4.67	71	1.64	1267	42.23	40	1.33
福島県	356	4.95	79	1.85	1020	21.25	6547	136.40	3315	152	3.17	791	16.48	1427	29.73	65	1.35
茨城県	647	6.34	150	2.11	1842	25.94	10095	142.18	3014	274	3.86	315	4.44	1412	19.89	52	0.73
栃木県	330	5.79	55	1.22	1333	29.62	9930	220.67	2322	715	15.99	88	1.96	1556	34.58	63	1.40
群馬県	828	8.54	200	3.28	2639	43.26	10117	165.85	3442	410	6.72	275	4.51	2165	35.49	89	1.46
埼玉県	2800	16.57	686	6.18	5467	49.25	28949	259.90	6972	685	6.17	684	6.16	4533	40.84	84	0.76
千葉県	1210	6.40	509	4.07	4431	35.45	21319	170.55	4580	920	7.36	748	5.98	3558	28.46	120	0.96
東京都	1518	9.49	283	1.98	24179	14.11	4455	31.15	7464	791	5.53	849	5.94	3078	21.52	40	0.28
神奈川県	3797	13.05	706	3.66	5078	26.31	32988	170.92	7864	3685	19.09	1743	9.03	7394	38.31	119	0.62
新潟県	971	11.70	267	4.53	3418	57.93	11161	189.17	5284	589	9.98	1422	24.10	2342	39.69	61	1.03
富山県	534	11.36	53	1.83	1098	37.86	4670	161.03	1905	305	10.52	82	2.83	973	33.55	5	0.17
石川県	418	8.89	45	1.55	946	22.43	6523	224.93	2231	244	8.41	97	3.34	820	28.28	3	0.10
福井県	202	6.31	59	2.68	724	32.91	7662	348.27	2004	134	6.09	52	2.36	886	40.27	26	1.18
静岡県	602	15.84	52	2.17	606	25.25	2997	124.88	752	591	24.63	59	2.46	469	19.54	1	0.04
愛知県	1307	16.54	457	8.96	3025	59.31	13221	259.24	4393	1327	26.02	785	15.39	1864	36.55	15	0.29
岐阜県	1266	16.03	200	3.92	1241	24.33	4848	95.06	2615	606	11.88	119	2.33	1271	24.92	78	1.53
静岡県	663	4.98	495	5.76	2861	33.27	21145	245.87	5571	4176	48.56	560	6.51	3685	42.85	192	2.23
愛知県	3738	20.21	718	3.97	4961	27.41	26109	144.25	10639	6765	37.38	526	2.91	6597	36.45	172	0.95
三重県	549	7.96	209	4.64	1579	35.09	13143	292.07	2900	785	17.44	77	1.71	2342	52.04	29	0.64
滋賀県	613	12.26	187	6.03	988	31.87	2847	91.84	1311	391	12.61	822	1.97	322	26.52	28	0.90
京都府	3128	25.02	193	2.54	1434	18.87	15682	206.34	3045	1642	21.61	150	1.97	2003	26.36	76	1.00
大阪府	8811	59.94	544	3.36	2560	15.80	20871	128.83	5376	1352	8.35	258	1.89	4040	24.94	248	1.53
兵庫県	2503	12.71	457	3.60	3033	23.88	29011	228.43	7627	1423	11.20	405	3.19	5043	39.71	158	1.24
奈良県	2533	46.91	145	4.14	690	19.71	6727	192.20	2297	443	12.66	130	3.71	1173	33.51	40	1.14
和歌山県	1136	22.72	137	4.42	830	26.77	3851	124.23	2570	223	7.19	383	12.35	994	32.06	35	1.13
鳥取県	258	9.21	188	10.44	2023	112.39	6358	353.22	1441	255	14.17	56	3.11	988	54.89	16	0.89
島根県	372	11.63	62	2.82	639	29.05	3661	166.41	999	124	5.64	83	3.77	643	29.23	30	1.00
岡山県	901	7.02	122	2.26	1063	19.69	16144	2804	2804	731	13.54	226	4.19	1170	21.67	22	0.56
広島県	415	6.73	162	3.38	1680	15.18	13718	152.42	3637	806	8.36	180	2.00	2076	23.07	68	0.76
山口県	589	17.32	24	1.09	647	29.41	9895	206.15	2188	219	9.95	100	2.08	1717	35.77	21	0.44
徳島県	162	3.18	101	3.16	590	18.44	3608	164.00	1227	219	9.95	97	4.41	905	41.14	29	1.32
香川県	733	11.63	369	9.46	1962	50.31	9285	165.47	1978	584	18.25	83	2.59	1107	34.59	7	0.22
高知県	588	12.00	217	7.00	946	30.52	3010	97.10	2903	4814	123.44	133	3.41	1897	48.64	17	0.44
福岡県	-	-	231	5.02	1523	33.11	11671	253.72	1322	676	21.81	291	9.39	799	25.77	50	1.61
佐賀県	459	11.77	50	2.17	834	36.26	3371	146.57	1665	818	17.78	422	9.17	1828	39.74	42	0.91
長崎県	310	7.38	84	1.95	463	10.44	3889	90.44	2224	556	24.17	357	15.52	1528	66.43	6	0.26
熊本県	401	4.89	183	3.73	1358	27.71	9256	188.90	3453	496	11.53	136	3.16	1249	29.05	25	0.58
大分県	454	7.96	185	5.14	2657	73.81	10334	287.06	3125	1779	49.42	374	7.63	2312	47.18	53	1.08
宮崎県	355	5.92	201	5.43	2000	54.05	15148	409.41	3328	3289	88.89	93	2.51	1840	51.11	50	1.39
鹿児島県	1068	11.24	246	4.24	1605	27.87	14505	259.09	4196	2346	48.45	509	8.78	1926	52.05	119	3.19
沖縄県	570	11.18	43	1.30	321	9.73	1175	35.61	1991	609	18.45	69	2.09	1836	31.66	31	0.53

風 疹	ヘルパンギーナ	麻疹 (成人麻疹を除く)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	急性肺炎 (日本肺炎を除く)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎
累積	累積	累積	累積	累積	累積	累積	累積	累積
定点当り	定点当り	定点当り	定点当り	定点当り	定点当り	定点当り	定点当り	定点当り
407	6489	170	3975	20	1341	-	3	-
71	2104	569	905	7	243	-	1	2.40
28	2026	126	517	20	278	-	3	0.33
91	4051	179	955	43	142	0.18	3	0.36
23	2582	14	662	9	120	-	1	0.86
14	1071	4	574	8	151	0.11	7	2.22
37	3083	138	649	15	394	-	1	0.09
85	2250	267	845	36	1610	0.09	1	0.09
19	1943	67	490	12	504	0.67	7	3.00
49	2912	93	2814	28	896	0.33	9	2.89
364	5618	732	2749	26	1076	0.13	7	2.25
74	7876	395	2735	41	1093	0.75	16	3.38
186	5268	246	2258	22	611	0.29	12	1.38
140	10787	331	3307	77	2012	0.30	12	4.10
32	6030	27	960	12	216	-	4	8.83
13	2391	9	92	7	162	0.20	-	3.60
5	1507	5	104	3	239	0.50	3	1.50
18	1547	74	196	1	13	0.80	6	3.80
9	623	8	128	8	71	0.22	2	0.89
19	3880	29	1304	22	561	0.70	5	1.90
38	2366	59	1231	2	260	0.25	2	1.00
133	5285	56	2591	12	838	-	2	3.22
85	8907	67	3061	41	1064	0.08	7	1.75
17	5128	12	1143	8	188	0.25	10	5.75
50	1096	92	746	17	87	0.33	1	1.83
63	2845	54	1354	26	529	0.17	2	2.83
163	7552	359	2535	92	780	0.43	5	1.29
131	8827	229	7972	55	1011	0.54	7	5.46
16	2838	27	1279	23	360	1.00	4	8.60
22	3511	25	1776	8	66	0.45	9	1.36
11	1378	10	1210	-	53	1.25	5	11.00
19	895	9	760	1	95	-	2	5.71
138	2043	14	1340	11	504	-	1	1.80
69	3332	86	2083	59	683	0.56	10	2.68
18	2628	14	2056	23	28.46	-	2	0.25
12	1917	26	305	6	187	0.33	4	0.83
5	2445	5	781	1	126	-	3	1.80
13	750	16	1046	23	109.29	-	3	1.20
37	2666	20	1511	10	194	1.14	6	4.14
4	1449	21	784	8	742	-	-	-
14	829	44	416	11	252	0.67	8	1.83
35	2844	33	1098	183	558	0.09	2	1.45
16	2715	9	824	7	706	0.27	15	4.67
35	2154	83	629	14	336	1.25	1	2.00
45	2298	34	2193	2	311	0.35	7	7.43
80	2399	975	1705	6	465	0.73	4	2.73
			422		673	0.67	10	10.67
			12.79		74.78			
			18.09		63.00			
			25.53		79.71			
			16.82		78.44			
			17.47		67.20			
			59.27		77.75			
			29.40		93.00			
			12.79		74.78			

種	マイコプラズマ		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	麻疹 累積	定点当り 2.49	累積 129	定点当り 0.28	累積 83	定点当り 0.18
北海道	22	1.00	1	0.05	-	-
青森県	11	2.20	-	-	-	-
岩手県	8	0.44	14	0.78	1	0.06
宮城県	56	5.09	17	1.55	8	0.73
秋田県	28	4.00	-	-	-	-
山形県	27	3.00	-	-	-	-
福島県	9	1.29	-	-	1	0.14
茨城県	1	0.09	-	-	5	0.45
栃木県	14	2.33	3	0.50	1	0.17
群馬県	15	1.67	-	-	1	0.11
埼玉県	2	0.25	1	0.13	3	0.38
千葉県	34	4.25	5	0.63	6	0.75
東京都	19	0.79	4	0.17	8	0.33
神奈川県	33	3.30	3	0.30	7	0.70
新潟県	92	7.67	3	0.25	-	-
富山県	16	3.20	1	0.20	-	-
石川県	10	2.50	1	0.25	-	-
福井県	22	4.40	-	-	-	-
山梨県	31	3.44	2	0.22	-	-
長野県	39	3.90	19	1.90	2	0.20
岐阜県	1	0.25	-	-	-	-
静岡県	20	2.22	5	0.56	2	0.22
愛知県	116	9.67	2	0.17	3	0.25
三重県	9	1.13	2	0.25	-	-
滋賀県	6	1.00	-	-	-	-
京都府	5	0.83	1	0.17	1	0.17
大阪府	7	1.00	-	-	-	-
兵庫県	40	3.08	-	-	-	-
奈良県	34	6.80	1	0.20	-	-
和歌山県	22	2.00	2	0.18	-	-
鳥取県	32	8.00	-	-	3	0.75
島根県	3	0.43	-	-	-	-
岡山県	28	5.60	5	1.00	-	-
広島県	45	1.80	2	0.08	2	0.08
山口県	23	2.38	19	2.38	1	0.13
徳島県	8	1.33	1	0.17	2	0.33
香川県	8	1.60	-	-	-	-
愛媛県	10	2.00	-	-	-	-
高知県	7	1.00	-	-	-	-
福岡県	15	2.50	1	0.17	-	-
佐賀県	1	0.09	1	0.09	-	-
熊本県	66	4.40	1	0.07	-	-
大分県	13	1.63	1	0.13	1	0.13
宮崎県	43	6.14	-	-	2	0.29
鹿児島県	17	1.55	3	0.27	2	0.18
沖縄県	66	11.00	8	1.33	21	3.50

2-2. 平成11年 累積報告数・定点当り累積報告数：疾病・都道府県・性別 (男)

2-2. Number of cumulative cases and number of cumulative cases per sentinel by disease, prefecture and sex, 1999 (Male)

総 数	インフルエンザ		咽頭結核熱		A 群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水 痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百 日 咳	
	累積	定点当り	累積	定点当り	累積	定点当り	累積	定点当り	累積	定点当り	累積	定点当り	累積	定点当り	累積	定点当り	累積	定点当り
	34120	8.27	5970	2.08	49172	17.10	270618	94.13	86516	30.09	28129	9.78	9373	3.26	49566	17.24	1372	0.48
北海道	2649	11.72	162	1.13	3754	25.25	5676	39.69	5537	38.72	309	2.16	928	6.49	2038	14.25	28	0.20
青森県	1008	16.00	45	1.10	510	12.44	1281	31.24	1310	31.95	164	4.00	376	9.17	488	11.90	15	0.37
岩手県	616	10.10	191	5.03	709	18.66	5919	55.47	1312	34.53	136	3.58	49	1.29	561	14.76	24	0.63
宮城県	3458	39.30	39	0.71	1282	23.31	5919	107.62	2352	42.76	232	6.83	271	4.93	1297	23.58	3	0.05
秋田県	751	13.91	67	1.91	1131	32.31	3058	87.37	1300	37.14	239	6.83	243	6.94	573	16.37	8	0.23
山形県	180	3.83	38	1.27	734	24.47	3534	117.80	1556	51.87	75	2.50	35	1.17	688	22.93	17	0.57
福島県	200	2.50	48	1.00	558	11.63	3433	71.52	1727	35.98	89	1.85	411	8.56	734	15.29	38	0.79
茨城県	341	3.34	82	1.15	1018	14.34	5383	75.82	1628	22.93	156	2.20	149	2.10	754	10.62	25	0.35
栃木県	187	3.28	26	0.58	687	15.27	5137	114.16	1287	28.50	370	8.22	38	0.84	787	17.49	34	0.76
群馬県	417	4.30	131	2.15	1422	23.31	5343	87.59	1801	29.52	248	4.07	127	2.08	1088	17.84	51	0.84
埼玉県	1511	8.94	358	3.23	2923	26.33	14968	134.85	3753	33.81	379	3.41	326	2.94	2329	20.98	43	0.39
千葉県	616	3.25	291	2.33	2363	18.90	10870	86.96	2376	19.01	505	4.04	359	2.87	1789	14.31	56	0.45
東京都	772	4.83	150	1.05	1108	7.75	12738	89.08	2447	17.11	449	3.14	420	2.94	1603	11.21	23	0.16
神奈川県	1989	6.84	387	2.91	2667	13.82	17375	102.03	4190	21.71	1985	10.28	887	4.60	3746	19.41	63	0.33
新潟県	486	5.86	156	2.64	1871	31.71	6024	102.10	2653	44.97	342	5.80	722	12.24	1198	20.31	29	0.49
富山県	265	5.64	35	1.21	634	21.86	2459	84.79	1000	34.48	187	6.45	36	1.24	505	17.45	3	0.10
石川県	230	4.89	25	0.86	502	17.31	3410	117.59	1180	40.69	139	4.79	55	1.90	436	15.03	2	0.07
福井県	107	3.34	31	1.41	397	18.05	4202	191.00	1086	49.36	80	3.64	25	1.14	457	20.77	10	0.45
山梨県	337	8.87	30	1.25	315	13.13	1601	66.71	396	16.50	328	13.67	36	1.50	237	9.88	1	0.04
長野県	693	8.77	241	4.73	1590	31.18	7211	141.39	2329	45.67	714	14.00	434	8.51	921	18.06	6	0.12
岐阜県	687	8.70	113	2.22	722	14.16	2621	51.39	1405	27.55	371	7.27	53	1.04	684	13.41	52	1.02
静岡県	342	10.59	268	3.12	1603	18.64	11195	130.17	3020	35.12	2336	20.25	282	3.28	1935	22.50	100	1.16
愛知県	1959	4.23	417	2.30	2804	15.49	13847	76.50	5664	31.29	3665	20.25	284	1.57	3398	18.77	81	0.45
三重県	295	6.64	113	2.51	844	18.76	7128	158.40	1510	33.56	432	9.60	30	0.67	1299	28.87	15	0.33
滋賀県	332	6.84	104	3.35	529	17.06	1849	49.97	699	22.85	204	6.58	31	1.00	429	13.84	15	0.48
京都府	1482	11.86	112	1.47	736	9.68	8341	109.75	1666	21.92	897	11.80	73	0.96	1019	13.41	50	0.66
大阪府	4682	31.85	302	1.86	1398	8.63	11289	69.69	2894	17.86	758	4.68	121	0.75	2162	13.35	127	0.78
兵庫県	1346	6.83	251	1.98	1628	12.82	15667	122.57	4041	31.82	793	6.24	217	1.71	2638	20.77	90	0.71
奈良県	1343	24.87	78	2.23	391	11.17	3547	101.34	1168	33.37	263	7.51	73	2.09	582	16.63	30	0.86
和歌山県	604	12.08	83	2.68	459	14.81	2102	67.81	1346	43.42	127	4.10	205	6.61	492	15.87	16	0.52
鳥取県	133	4.75	100	5.56	1097	60.94	3446	191.44	739	41.06	148	8.22	29	1.61	519	28.83	11	0.61
島根県	190	5.94	30	1.36	344	15.64	2074	94.27	505	22.95	68	3.09	37	1.68	330	15.00	12	0.55
岡山県	274	3.34	77	1.43	569	10.54	4511	83.54	1474	27.30	377	6.98	118	2.19	589	10.91	19	0.35
広島県	433	3.26	212	2.36	726	8.07	7449	82.77	1947	21.63	431	4.79	97	1.08	1122	12.47	36	0.40
山口県	215	3.64	80	1.67	937	19.52	5341	111.27	1140	23.75	400	8.33	49	1.02	877	18.27	12	0.25
徳島県	315	9.26	11	0.60	377	17.14	2015	91.59	684	31.09	150	6.82	49	2.23	483	21.95	22	1.00
香川県	101	1.98	52	1.63	365	11.41	2884	90.13	1090	34.06	342	10.69	38	1.19	574	17.94	4	0.13
愛媛県	384	6.10	206	5.28	1065	27.31	5048	129.44	1525	39.10	2538	65.08	63	1.62	996	25.54	4	0.10
高知県	319	6.51	128	4.13	498	16.06	697	53.90	657	22.48	370	11.94	127	4.10	436	14.06	17	0.55
福岡県	-	-	118	2.57	821	17.85	6234	135.52	1440	31.30	456	9.91	209	4.54	957	20.80	20	0.43
佐賀県	240	6.15	22	0.96	418	18.17	1771	77.00	882	38.35	319	13.87	164	7.13	801	34.83	3	0.13
長崎県	172	4.10	54	1.26	255	5.93	2207	51.33	1195	27.79	300	6.98	73	1.70	686	15.95	11	0.26
熊本県	198	2.41	108	2.20	818	16.69	4895	99.90	1825	37.24	767	15.65	205	4.18	1169	23.86	25	0.51
大分県	234	4.11	111	3.08	1426	39.61	5563	154.53	1687	46.66	999	27.75	481	13.36	909	25.25	25	0.69
宮崎県	182	3.03	120	3.24	1139	30.78	8182	221.14	1747	47.22	1813	49.00	45	1.22	1000	27.03	64	1.73
鹿児島県	540	5.68	141	2.43	864	14.90	7763	133.84	2213	38.16	1308	22.55	258	4.45	914	15.76	8	0.14
沖縄県	305	5.98	26	0.79	164	4.97	648	19.64	1093	33.12	371	11.24	35	1.06	336	10.18	24	0.73

風 疹	ヘルパンギーナ	麻疹 (成人麻疹を除く)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	急性腸炎 (日本腸炎を除く)	細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
							累積	定点当り	累積	定点当り
1525	81132	3244	37654	567	12868	89	133	727	159	
210	3390	92	2182	15	741	-	2	-	-	
37	1072	320	504	5	177	-	1	8	1.60	
14	1078	80	232	6	132	-	1	3	0.17	
46	2130	37	555	22	388	0.18	2	1	0.09	
12	1316	8	371	6	59	-	2	2	0.29	
10	3760	1	322	6	74	-	5	15	1.67	
18	577	74	339	4	216	-	-	2	0.29	
47	1636	138	480	14	831	0.09	1	1	0.09	
9	1217	36	255	7	266	-	4	11	1.83	
25	1531	52	1572	14	477	0.22	5	20	2.22	
189	2959	415	1479	12	578	0.13	2	12	1.50	
43	4133	202	1469	15	606	0.50	7	18	2.25	
88	2770	151	1249	13	348	0.21	8	17	0.71	
73	5685	178	1812	40	1084	0.30	2	32	3.20	
18	3081	15	540	6	117	-	1	57	4.75	
6	1282	5	58	2	94	0.20	-	9	1.80	
4	783	2	65	1	123	0.25	2	5	1.25	
14	802	41	124	1	6	0.80	5	11	2.20	
5	321	6	76	1	41	-	1	6	0.67	
9	2032	15	691	11	305	0.50	3	16	1.60	
18	1249	41	669	-	147	0.25	2	3	0.75	
75	2780	28	1414	9	434	-	2	21	2.33	
38	4685	37	1673	23	599	0.08	5	15	1.25	
7	2683	8	609	3	99	-	7	33	4.13	
26	597	60	417	12	46	0.33	1	5	0.83	
21	1488	33	751	14	310	0.17	1	12	2.00	
73	4038	198	1423	52	1174	0.29	2	8	1.14	
79	4634	123	4301	24	531	0.31	4	48	3.69	
7	1438	13	691	9	194	0.60	1	28	5.60	
6	1852	14	952	5	38	0.45	6	11	1.00	
6	711	7	684	-	33	0.75	5	28	7.00	
11	479	7	406	-	49	-	2	27	3.86	
79	1031	10	738	5	301	-	-	5	1.00	
41	1778	45	1122	34	356	0.42	7	44	1.76	
5	1429	9	1089	11	203	0.32	2	1	0.13	
10	956	11	175	2	103	0.17	2	2	0.33	
8	995	17	437	1	65	-	3	6	1.20	
2	1311	4	543	12	437	-	3	6	1.20	
6	390	7	816	7	109	1.00	3	6	1.20	
18	1424	14	444	1	376	-	3	21	3.00	
3	690	10	207	4	143	-	-	-	-	
8	422	27	504	105	271	0.67	4	9	1.50	
20	1505	18	462	13	409	0.20	1	10	0.91	
9	1368	2	355	4	152	0.88	9	38	2.53	
16	1139	42	1127	6	189	0.55	1	9	1.13	
14	1198	23	908	1	238	0.20	2	36	1.14	
42	166	528	242	5	362	0.56	6	19	1.73	
							2	36	6.00	

総数	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎(オウム病を除く)		成人麻疹	
	累積	定点当り	累積	定点当り	累積	定点当り
546	1.20	-	81	0.18	34	0.07
北海道	14	0.64	1	0.05	-	-
青森県	6	1.20	-	-	-	-
岩手県	6	0.33	7	0.39	1	0.06
宮城県	29	2.64	11	1.00	3	0.27
秋田県	15	2.14	-	-	-	-
山形県	11	1.22	-	-	-	-
福島県	3	0.43	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	2	0.18
栃木県	9	1.50	2	0.33	1	0.17
群馬県	7	0.78	-	-	-	-
埼玉県	1	0.13	1	0.13	-	-
千葉県	17	2.13	5	0.63	2	0.25
東京都	9	0.38	2	0.08	3	0.13
神奈川県	16	1.60	2	0.20	4	0.40
新潟県	41	3.42	1	0.08	-	-
静岡県	10	2.00	1	0.20	-	-
富山県	5	1.25	-	-	-	-
石川県	14	2.80	-	-	-	-
福井県	12	1.33	-	-	-	-
山梨県	17	1.70	10	1.00	-	-
岐阜県	1	0.25	-	-	-	-
静岡県	11	1.22	3	0.33	2	0.22
愛知県	50	4.17	2	0.17	1	0.08
三重県	5	0.63	2	0.25	-	-
滋賀県	2	0.33	-	-	-	-
京都府	2	0.33	1	0.17	1	0.17
大阪府	4	0.57	-	-	-	-
兵庫県	19	1.46	-	-	-	-
奈良県	15	3.00	1	0.20	-	-
和歌山県	11	1.00	-	-	-	-
徳島県	17	4.25	-	-	2	0.50
香川県	1	0.14	-	-	-	-
岡山県	10	2.00	4	0.80	-	-
広島県	23	0.92	2	0.08	1	0.04
山口県	11	1.38	13	1.63	-	-
徳島県	4	0.67	1	0.17	-	-
香川県	4	0.80	-	-	-	-
愛媛県	2	0.40	-	-	-	-
高知県	4	0.57	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-
佐賀県	3	0.50	-	-	-	-
熊本県	1	0.09	1	0.09	-	-
大分県	28	1.87	-	-	-	-
宮崎県	10	1.25	-	-	1	0.13
鹿児島県	25	3.57	-	-	1	0.14
沖縄県	5	0.45	3	0.27	-	-
計	36	6.00	5	0.83	9	1.50

2-2. 平成11年 累積報告数・定点点当り累積報告数：疾病・都道府県・性別 (女)
 2-2. Number of cumulative cases and number of cumulative cases per sentinel by disease, prefecture and sex, 1999 (Female)

総 数	インフルエンザ		咽頭結核菌		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百日咳	
	累積	定点点当り	累積	定点点当り	累積	定点点当り	累積	定点点当り	累積	定点点当り	累積	定点点当り	累積	定点点当り	累積	定点点当り	累積	定点点当り
31351	7.59	1.65	41111	14.30	236974	82.43	75908	26.40	22685	7.89	9234	3.21	46171	16.06	1281	0.45		
2581	11.42	1.13	3185	22.27	5006	35.01	4894	32.83	253	1.77	979	6.85	1881	13.85	29	0.20		
1018	16.16	0.63	418	10.20	1014	24.73	1120	27.32	135	3.29	345	8.41	422	10.29	13	0.32		
609	9.98	2.95	533	14.03	1765	46.45	1107	29.13	135	2.45	64	1.68	513	13.50	28	0.74		
3105	35.28	0.78	1106	20.11	5304	96.44	2020	36.73	149	2.71	251	4.56	1270	22.18	7	0.13		
656	12.15	1.80	865	24.71	2783	29.51	1023	29.23	192	5.49	190	5.43	479	13.69	6	0.17		
169	3.60	1.43	557	18.57	2755	91.83	1311	43.70	65	2.17	36	1.20	579	19.30	23	0.56		
156	1.95	0.65	462	9.63	3114	64.88	1588	33.08	63	1.31	380	7.92	693	14.44	27	0.56		
306	3.00	0.96	824	11.61	4712	66.37	1386	19.52	118	1.66	166	2.34	658	9.27	27	0.38		
143	2.51	0.64	646	14.36	4793	106.51	1035	23.00	345	7.67	50	1.11	769	17.09	29	0.64		
411	4.24	1.13	1217	19.95	4774	78.26	1641	26.90	162	2.66	148	2.43	1077	17.66	38	0.62		
1289	7.63	2.95	2544	22.92	13881	125.05	3219	29.00	306	2.76	358	3.23	2204	19.86	41	0.37		
594	3.14	1.74	2068	16.54	10449	83.59	2204	17.63	415	3.32	389	3.11	1769	14.15	64	0.51		
746	4.66	0.93	910	6.36	11441	80.01	2008	14.04	342	2.39	429	3.00	1475	10.31	17	0.12		
1808	6.21	1.65	2411	12.49	15613	80.90	3674	19.04	1700	8.81	856	4.44	3648	18.90	56	0.29		
485	5.84	1.88	1547	26.22	5137	87.07	2631	44.59	247	4.19	709	11.86	1144	19.39	32	0.54		
269	5.72	0.62	464	16.00	2211	76.24	905	31.21	118	4.07	46	1.59	467	16.10	2	0.07		
189	2.97	0.69	444	15.31	3113	107.34	1051	36.24	105	3.62	42	1.45	354	13.24	1	0.03		
95	4.00	1.27	327	14.86	3460	157.27	918	41.73	54	2.45	27	1.23	429	19.50	16	0.73		
265	6.97	0.92	291	12.13	1396	58.17	356	14.83	263	10.96	23	0.96	232	9.67	-	-		
614	7.77	4.24	1435	28.14	6010	117.84	2064	40.47	613	12.02	351	6.88	943	18.49	9	0.18		
579	7.33	1.71	519	10.18	2227	43.67	1210	23.73	235	4.61	66	1.29	587	11.51	26	0.51		
321	2.36	2.64	1258	14.63	9950	115.70	2966	29.66	1840	21.40	278	3.23	1790	20.35	92	1.07		
1779	9.62	1.66	2157	11.92	12262	67.75	4975	27.49	3100	17.13	242	1.34	3199	17.67	91	0.50		
254	3.68	2.13	735	16.33	6015	133.67	1390	30.99	353	7.84	47	1.04	1033	23.18	14	0.31		
281	5.62	2.68	459	14.81	1298	41.87	612	19.74	187	6.03	30	0.97	393	12.68	13	0.42		
1646	13.17	1.07	698	9.18	7341	96.59	1379	18.14	745	9.80	77	1.01	984	12.95	26	0.34		
4129	28.09	1.49	1162	7.17	9592	59.15	2482	15.32	594	3.67	137	0.85	1878	11.59	121	0.75		
1157	5.87	1.62	1405	11.06	13444	105.86	3586	28.24	630	4.96	188	1.48	2405	18.94	68	0.54		
1190	22.04	1.91	299	8.54	3180	90.86	1129	32.26	180	5.14	57	1.63	591	16.89	10	0.29		
532	10.64	1.74	371	11.97	1749	56.42	1224	39.48	96	3.10	178	5.74	502	16.19	19	0.61		
125	4.46	4.89	926	51.44	2912	161.78	702	39.00	107	5.94	27	1.50	469	26.06	5	0.28		
162	5.69	1.45	295	13.41	1587	72.14	494	22.45	56	2.55	46	2.09	313	14.23	10	0.45		
302	3.68	0.83	494	9.15	4207	77.91	1390	24.63	354	6.56	108	2.00	581	10.76	11	0.20		
468	3.52	1.88	640	7.11	6269	69.66	1690	18.78	375	4.17	83	0.92	954	10.60	32	0.36		
200	3.39	1.71	743	15.48	4554	94.88	1048	21.63	283	5.90	51	1.06	840	17.50	9	0.19		
274	8.06	0.59	270	12.27	1593	72.41	543	24.68	69	3.14	48	2.18	422	19.18	7	0.32		
61	1.20	1.53	225	7.03	2411	75.34	898	27.75	242	7.56	45	1.41	533	16.66	3	0.09		
349	5.54	4.18	897	23.00	4237	108.64	1378	35.33	2276	58.36	70	1.79	901	23.10	13	0.33		
269	5.49	2.87	448	14.45	1339	43.19	625	20.16	306	9.87	164	5.29	363	11.71	33	1.06		
-	-	2.46	702	15.26	5437	118.20	1377	29.93	362	7.87	213	4.63	871	18.93	22	0.48		
219	5.62	1.22	416	18.09	1600	69.57	783	34.04	237	10.30	193	8.39	727	31.61	3	0.13		
138	3.29	0.70	208	4.84	1692	39.12	1029	23.93	196	4.56	63	1.47	563	13.09	14	0.33		
203	2.48	1.53	540	11.02	4361	89.00	1628	33.22	592	12.08	169	3.45	1143	23.33	28	0.57		
220	3.86	2.06	1231	34.19	13253	132.53	1438	39.94	790	21.67	491	13.64	981	25.86	25	0.69		
173	2.88	2.19	861	23.27	6966	188.27	1476	42.73	1476	39.89	48	1.30	926	25.03	54	1.46		
528	5.56	1.81	741	12.78	6742	116.24	1983	34.19	1038	17.90	251	4.33	922	15.90	23	0.40		
265	5.20	0.52	157	4.76	527	15.97	898	27.21	238	7.21	34	1.03	294	8.91	44	1.33		

総数	風疹		ヘルパンギーナ		麻疹 (成人麻疹を除く)		流行性下腺炎		急性出血性結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	累積	定点当り	累積	定点当り	累積	定点当り	累積	定点当り	累積	定点当り	累積	定点当り	累積	定点当り	累積	定点当り	累積	定点当り
北海道	197	1.38	3099	21.57	1793	12.54	5	0.18	600	21.43	40	0.09	1	0.05	399	0.88	-	-
青森県	34	0.83	1032	25.17	401	9.78	2	0.20	116	11.60	-	-	1	0.06	4	0.80	-	-
岩手県	14	0.37	948	24.95	225	5.92	14	1.17	146	12.17	-	-	1	0.06	3	0.17	-	-
宮城県	45	0.82	1921	34.93	92	7.27	21	2.33	54	5.00	-	-	1	0.09	3	0.27	-	-
秋田県	11	0.31	1266	36.17	291	8.31	3	0.43	61	8.71	-	-	1	0.14	4	0.57	-	-
山形県	4	0.13	494	16.47	252	8.40	2	0.29	77	11.00	1	0.11	2	0.22	5	0.56	-	-
福島県	19	0.40	1447	30.15	310	6.46	11	0.92	178	14.83	-	-	1	0.14	-	-	-	-
茨城県	38	0.54	1033	14.55	355	5.14	22	1.47	779	51.93	4	0.67	3	0.50	7	1.17	-	-
栃木県	10	0.22	992	22.04	235	5.22	5	0.45	238	21.64	4	0.67	3	0.50	7	1.17	-	-
群馬県	24	0.39	1381	22.54	1242	20.35	14	1.00	419	29.93	1	0.11	4	0.44	6	0.67	-	-
埼玉県	175	1.58	2659	23.95	1270	11.44	14	0.56	498	19.92	-	-	5	0.63	6	0.75	-	-
千葉県	31	0.25	3743	17.94	1266	10.13	26	0.81	487	15.22	2	0.25	9	1.13	9	1.13	-	-
東京都	98	0.69	2498	17.47	1609	7.06	9	0.64	263	18.79	2	0.08	4	0.17	16	0.67	-	-
神奈川県	67	0.35	5102	26.44	1495	7.75	37	0.95	928	23.79	2	0.08	4	0.17	9	0.90	-	-
新潟県	14	0.24	2949	49.98	420	7.12	6	0.75	99	12.38	-	-	10	1.00	9	0.90	-	-
富山県	7	0.24	1109	38.24	34	1.17	5	0.71	68	9.71	-	-	3	0.25	49	4.08	-	-
石川県	1	0.03	724	24.97	39	1.34	2	0.29	116	16.57	1	0.25	1	0.25	1	0.25	-	-
福井県	4	0.18	745	33.86	72	3.27	7	1.00	30	10.00	-	-	1	0.20	8	1.60	-	-
山梨県	4	0.17	302	12.58	52	2.17	3	1.00	30	10.00	-	-	1	0.11	2	0.22	-	-
長野県	10	0.20	1848	36.24	613	12.02	11	1.22	256	28.44	2	0.20	2	0.20	3	0.30	-	-
岐阜県	20	0.39	1117	21.90	562	11.02	2	0.20	113	11.30	-	-	-	-	1	0.25	-	-
静岡県	58	0.67	2535	29.48	1177	13.69	3	0.16	404	21.26	-	-	-	-	8	0.89	-	-
愛知県	47	0.26	4242	23.44	1388	7.67	18	0.51	495	14.14	-	-	2	0.17	6	0.50	-	-
三重県	10	0.22	2445	54.33	534	11.87	5	0.42	89	7.42	2	0.25	3	0.38	13	1.63	-	-
滋賀県	24	0.77	499	16.10	329	10.61	5	0.71	41	5.86	2	0.25	3	0.38	6	1.00	-	-
京都府	42	0.56	1357	17.86	603	7.93	12	0.67	219	12.17	-	-	1	0.17	5	0.83	-	-
大阪府	90	0.55	3514	21.69	1112	6.86	40	1.14	369	10.54	-	-	3	0.43	1	0.14	-	-
兵庫県	52	0.41	4193	33.02	3671	28.91	31	0.91	480	14.12	3	0.23	3	0.23	23	1.77	-	-
奈良県	9	0.26	1400	40.00	588	16.80	14	1.56	166	18.44	2	0.40	3	0.60	15	3.00	-	-
和歌山県	16	0.52	1659	53.52	844	27.23	3	0.75	28	7.00	-	-	3	0.27	4	0.36	-	-
鳥取県	5	0.28	667	37.06	546	30.33	-	-	20	6.67	2	0.50	-	-	16	4.00	-	-
島根県	8	0.36	416	18.91	354	16.09	1	0.33	46	15.33	-	-	-	-	13	1.86	-	-
岡山県	59	1.09	1012	18.74	602	11.15	6	0.50	203	16.92	-	-	1	0.20	4	0.80	-	-
広島県	28	0.31	1554	17.27	961	10.68	25	1.04	327	13.63	6	0.24	3	0.12	23	0.92	-	-
山口県	14	0.29	1199	24.98	967	20.15	12	1.33	172	19.11	-	-	3	0.12	1	0.13	-	-
徳島県	8	0.36	811	36.86	130	5.91	4	1.00	84	21.00	1	0.17	2	0.33	3	0.50	-	-
香川県	4	0.13	922	28.81	344	10.75	-	-	61	20.33	-	-	-	-	3	0.60	-	-
愛媛県	3	0.08	1134	29.08	503	12.90	11	1.57	328	46.86	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	7	0.23	360	11.61	695	22.42	3	1.00	85	28.33	1	0.14	3	0.43	-	-	-	-
福岡県	19	0.41	1242	27.00	340	7.39	7	0.88	366	45.75	-	-	-	-	8	1.14	-	-
佐賀県	1	0.04	759	33.00	209	9.09	7	1.75	109	27.25	-	-	4	0.67	2	0.33	-	-
長崎県	6	0.14	407	9.47	494	11.49	78	11.14	287	41.00	1	0.09	1	0.09	6	0.55	-	-
熊本県	15	0.31	1339	27.33	362	7.39	5	0.55	297	33.00	1	0.07	6	0.40	32	2.13	-	-
大分県	7	0.19	1347	37.42	274	7.61	3	0.60	184	36.80	3	0.38	3	-	7	0.88	-	-
宮崎県	19	0.51	1015	27.43	1066	28.81	8	2.00	142	35.50	2	0.18	5	0.71	16	2.29	-	-
鹿児島県	31	0.53	1100	18.97	797	13.74	1	0.20	227	45.40	2	0.18	2	0.18	11	1.00	-	-
沖縄県	38	1.15	133	4.03	180	5.45	1	0.11	311	34.56	2	0.33	7	1.17	28	4.67	-	-

道 県	マイコプラズマ		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	肺炎 累積	定当り 1.29	累積	定当り 0.11	累積	定当り 0.11
北海道	8	0.36	-	-	-	-
青森県	5	1.00	-	-	-	-
岩手県	2	0.11	7	0.39	-	-
宮城県	27	2.45	6	0.55	5	0.45
秋田県	13	1.86	-	-	-	-
山形県	16	1.78	-	-	-	-
福島県	6	0.86	-	-	1	0.14
茨城県	1	0.09	-	-	3	0.27
栃木県	5	0.83	1	0.17	-	-
群馬県	8	0.89	-	-	1	0.11
埼玉県	1	0.13	-	-	3	0.38
千葉県	17	2.13	-	-	4	0.50
東京都	10	0.42	2	0.08	5	0.21
神奈川県	17	1.70	1	0.10	3	0.30
新潟県	51	4.25	2	0.17	-	-
富山県	6	1.20	-	-	-	-
石川県	5	1.25	1	0.25	-	-
福井県	8	1.60	-	-	-	-
山梨県	19	2.11	2	0.22	-	-
長野県	22	2.20	9	0.90	2	0.20
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	9	1.00	2	0.22	-	-
愛知県	66	5.50	-	-	2	0.17
三重県	4	0.67	-	-	-	-
滋賀県	4	0.67	-	-	-	-
京都府	3	0.50	-	-	-	-
大阪府	3	0.43	-	-	-	-
兵庫県	21	1.62	-	-	-	-
奈良県	19	3.80	-	-	-	-
和歌山県	11	1.00	2	0.18	-	-
鳥取県	15	3.75	-	-	1	0.25
徳島県	2	0.29	-	-	-	-
香川県	18	3.60	1	0.20	-	-
岡山県	22	0.88	-	-	1	0.04
広島県	12	1.50	6	0.75	1	0.13
山口県	4	0.67	-	-	2	0.33
徳島県	4	0.80	-	-	-	-
香川県	4	1.60	-	-	-	-
高知県	8	0.43	-	-	-	-
福岡県	3	-	-	-	-	-
佐賀県	12	2.00	1	0.17	-	-
熊本県	38	2.53	1	0.07	-	-
大分県	3	0.38	1	0.13	-	-
宮崎県	18	2.57	-	-	1	0.14
鹿児島県	12	1.09	-	-	2	0.18
沖縄県	30	5.00	3	0.50	12	2.00
総 計	588	1.29	48	0.11	49	0.11

2-3. 平成11年 累積報告数・定点当り累積報告数；疾病・地域ブロック・性別 (総数)

2-3. Number of cumulative cases and number of cumulative cases per sentinel by disease, geographical area and sex, 1999 (Total)

インフルエンザ	総数	北海道	東	北	関東甲信越	東海	北陸	近	畿	中国	四国	九州	沖縄
	65471	5230	11926	14010	18724	4594	18724	4594	3617	8.60	7.60	1223	3.73
累積報告数	15.86	23.14	30.12	11.04	29.91	8.60	29.91	8.60	7.60				
定点当り													
咽頭結膜熱	10726	324	746	3365	1663	1626	1779	1663	1223	4.53	3.73	1223	3.73
累積報告数	3.73	2.27	3.02	3.79	3.59	4.53	4.01	3.59	3.73				
定点当り													
A群溶血性	90283	6939	8865	29857	9535	10916	13410	9535	10761	30.41	32.81	10761	32.81
レンサ球菌咽頭炎	31.40	48.52	35.89	33.66	20.59	30.41	30.20	20.59	32.81				
累積報告数													
定点当り													
感染性胃腸炎	507592	10682	36068	164856	78989	63548	84100	78989	69349	177.01	211.43	69349	211.43
累積報告数	176.55	74.70	146.02	185.86	170.60	177.01	189.41	170.60	211.43				
定点当り													
水痘	162424	10231	17726	43078	22226	18499	27865	22226	22799	51.53	69.51	22799	69.51
累積報告数	56.50	71.55	71.77	48.57	48.00	51.53	62.76	48.00	69.51				
定点当り													
手足口病	50814	562	1632	9987	5474	8892	13015	5474	11252	24.77	34.30	11252	34.30
累積報告数	17.67	3.93	6.61	11.26	11.82	11.25	29.31	11.82	34.30				
定点当り													
伝染性紅斑	18607	1907	2651	6968	1387	1249	1513	1387	2932	3.48	8.94	2932	8.94
累積報告数	6.47	13.34	10.73	7.86	3.00	3.48	3.41	3.00	8.94				
定点当り													
突発性発疹	95737	4019	8247	28371	14075	11302	16574	14075	13149	31.48	40.09	13149	40.09
累積報告数	33.30	28.10	33.39	31.99	30.40	31.48	37.33	30.40	40.09				
定点当り													
百日咳	2653	57	209	644	585	260	505	585	393	0.72	1.20	393	1.20
累積報告数	0.92	0.40	0.85	0.73	1.26	0.72	1.14	1.26	1.20				
定点当り													
風疹	2972	407	264	977	445	304	309	445	266	0.85	0.81	266	0.81
累積報告数	1.03	2.85	1.07	1.10	0.96	0.85	0.70	0.96	0.81				
定点当り													
ヘルパンギーナ	154802	6489	14917	47187	26669	17155	27131	26669	15254	47.79	46.51	15254	46.51
累積報告数	53.84	45.38	60.39	53.20	57.60	47.79	61.11	57.60	46.51				
定点当り													
麻疹 (成人麻疹を除く)	5875	170	1030	2195	786	193	282	786	1219	0.54	3.72	1219	3.72
累積報告数	2.04	1.19	4.17	2.47	1.70	0.54	0.64	1.70	3.72				
定点当り													
流行性耳下腺炎	69070	3975	4262	17590	15662	11092	8418	15662	8071	30.90	24.61	8071	24.61
累積報告数	24.02	27.80	17.26	19.83	33.83	30.90	18.96	33.83	24.61				
定点当り													

	総 数	北海道	東 京	北 関	東甲信越	東海・北陸	近 畿	中国・四国	九州・沖縄
急性出血性結膜炎	1084 1.84	20 0.71	102 1.76	1328 22.90	284 1.63	74 0.78	221 2.07	134 1.97	249 4.53
流行性角結膜炎	23941 40.65	1341 47.89	1328 22.90	8650 49.71	2764 29.09	2833 26.48	2982 43.85	4043 73.51	
急性脳炎 (日本脳炎を除く)	129 0.28	-	3 0.05	32 0.29	11 0.22	23 0.45	29 0.39	31 0.37	
細菌性髄膜炎	235 0.52	3 0.14	16 0.27	75 0.67	30 0.59	28 0.55	36 0.49	47 0.56	
無菌性髄膜炎	1126 2.47	-	50 0.85	297 2.65	143 2.80	166 3.25	211 2.85	259 3.08	
マイコプラズマ肺炎	1134 2.49	22 1.00	139 2.36	280 2.50	194 3.80	114 2.24	164 2.22	221 2.63	
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	129 0.28	1 0.05	31 0.53	40 0.36	11 0.22	4 0.08	27 0.36	15 0.18	
成人麻疹	83 0.18	-	10 0.17	33 0.29	5 0.10	1 0.02	8 0.11	26 0.31	

2-3. 平成11年 累積報告数・定点点当り累積報告数：疾病・地域ブロック・性別 (男)

2-3. Number of cumulative cases and number of cumulative cases per sentinel by disease, geographical area and sex, 1999 (Male)

インフルエンザ	総数	北海道	東北	北関東	甲信越	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州	沖縄
	34120	2649	6213	7349	3885	9789	2364	1871	4.43	2364	1871	3.93
累積報告数	8.27	11.72	15.69	5.79	6.50	15.64	4.43	3.93				
定点点当り												
咽頭結核熱	5970	162	428	1852	1002	930	896	700				
累積報告数	2.08	1.13	1.73	2.09	2.26	2.01	2.50	2.13				
定点点当り												
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	49172	3754	4924	15964	7506	5141	5978	5905				
累積報告数	17.10	26.25	19.94	18.00	16.91	11.10	16.65	18.00				
定点点当り												
感染性胃腸炎	270618	5676	19333	86650	44862	42395	34439	37263				
累積報告数	94.13	39.69	78.27	97.69	101.04	91.57	95.93	113.61				
定点点当り												
水痘	86516	5537	9557	22860	14865	11814	9801	12082				
累積報告数	30.09	38.72	38.69	25.77	33.48	25.52	27.30	36.84				
定点点当り												
手足口病	28129	309	935	5476	7210	3042	4824	6333				
累積報告数	9.78	2.16	3.79	6.17	16.24	6.57	13.44	19.31				
定点点当り												
伝染性紅斑	9373	928	1385	3498	765	720	607	1470				
累積報告数	3.26	6.49	5.61	3.94	1.72	1.56	1.69	4.48				
定点点当り												
突発性発疹	49566	2038	4341	14452	8715	7322	5926	6772				
累積報告数	17.24	14.25	17.57	16.29	19.63	15.81	16.51	20.65				
定点点当り												
百日咳	1372	28	105	331	263	328	137	180				
累積報告数	0.48	0.20	0.43	0.37	0.59	0.71	0.38	0.55				
定点点当り												
風疹	1525	210	137	506	162	212	168	130				
累積報告数	0.53	1.47	0.55	0.57	0.36	0.46	0.47	0.40				
定点点当り												
ヘルパンギーナ	81132	3390	7809	24680	14214	14047	9080	7912				
累積報告数	28.22	23.71	31.62	27.82	32.01	30.34	25.29	24.12				
定点点当り												
麻疹 (成人麻疹を除く)	3244	92	570	1208	162	441	107	664				
累積報告数	1.13	0.64	2.31	1.36	0.36	0.95	0.30	2.02				
定点点当り												
流行性耳下腺炎	37654	2182	2383	9623	4612	8515	5990	4349				
累積報告数	13.10	15.26	9.65	10.85	10.39	18.39	16.69	13.26				
定点点当り												

	総 数	北海道	東 京	北 關 東	甲 信 越	東 海	北 陸	近 畿	中 國	西 國	九 州	沖 繩
急性出血性結膜炎	567 0.96	15 0.54	49 0.84	696 12.00	137 0.79	4653 26.74	39 0.41	116 1.08	72 1.06	139 2.53		
流行性角結膜炎	12868 21.85	741 26.46	696 12.00	4653 26.74	1472 15.49	1530 14.30	1656 24.35	2120 38.55				
急性肺炎 (日本肺炎を除く)	89 0.20	-	2 0.03	21 0.19	8 0.16	17 0.33	19 0.26	22 0.26				
細菌性脳膜炎	133 0.29	2 0.09	10 0.17	34 0.30	23 0.45	15 0.29	27 0.36	22 0.26				
無菌性脳膜炎	727 1.59	-	31 0.53	190 1.70	97 1.90	112 2.20	140 1.89	157 1.87				
マイコプラズマ肺炎	546 1.20	14 0.64	70 1.19	129 1.15	96 1.88	53 1.04	76 1.03	108 1.29				
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	81 0.18	1 0.05	18 0.31	23 0.21	8 0.16	2 0.04	20 0.27	9 0.11				
成人麻疹	34 0.07	-	4 0.07	12 0.11	3 0.06	1 0.02	3 0.04	11 0.13				

2-3.平成11年 累積報告数・定点当り累積報告数：疾病・地域ブロック・性別 (女)
 2-3. Number of cumulative cases and number of cumulative cases per sentinel by disease, geographical area and sex, 1999 (Female)

インフルエンザ	総数	北海道	東	北	関東	甲信越	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州	沖縄
累積報告数	31351	2581	5713	6661	8935	2230	1746	8935	2230	1746	8935	2230	1746
定点当り	7.59	11.42	14.43	5.25	14.27	4.18	3.67	14.27	4.18	3.67	14.27	4.18	3.67
咽頭結膜熱	4756	162	318	1513	777	733	523	777	733	523	777	733	523
定点当り	1.65	1.13	1.29	1.71	1.75	2.03	1.59	1.75	2.03	1.59	1.75	2.03	1.59
A群溶血性	41111	3185	3941	13893	5904	4394	4856	5904	4394	4856	5904	4394	4856
レンサ球菌咽頭炎	14.30	22.27	15.96	15.66	13.30	9.49	14.80	13.30	9.49	14.80	13.30	9.49	14.80
感染性胃腸炎	236974	5006	16735	78206	39238	36594	32086	39238	36594	32086	39238	36594	32086
定点当り	82.43	35.01	67.75	88.17	88.37	79.04	97.82	88.37	79.04	97.82	88.37	79.04	97.82
水痘	75908	4694	8169	20218	13000	10412	10717	13000	10412	10717	13000	10412	10717
定点当り	26.40	32.83	33.07	22.79	29.28	24.23	32.67	29.28	24.23	32.67	29.28	24.23	32.67
手足口病	22685	253	697	4511	5805	2432	4919	5805	2432	4919	5805	2432	4919
定点当り	7.89	1.77	2.82	5.09	13.07	5.25	15.00	13.07	5.25	15.00	13.07	5.25	15.00
伝染性紅斑	9234	979	1266	3470	748	667	1462	748	667	1462	748	667	1462
定点当り	3.21	6.85	5.13	3.91	1.68	1.44	4.46	1.68	1.44	4.46	1.68	1.44	4.46
突発性発疹	46171	1981	3906	13919	7859	6753	6377	7859	6753	6377	7859	6753	6377
定点当り	16.06	13.85	15.81	15.69	17.70	14.59	19.44	17.70	14.59	19.44	17.70	14.59	19.44
百日咳	1281	29	104	313	242	257	213	242	257	213	242	257	213
定点当り	0.45	0.20	0.42	0.35	0.55	0.56	0.65	0.55	0.56	0.65	0.55	0.56	0.65
風疹	1447	197	127	471	147	233	136	147	233	136	147	233	136
定点当り	0.50	1.38	0.51	0.53	0.33	0.50	0.41	0.33	0.50	0.41	0.33	0.50	0.41
ヘルパンギーナ	73670	3099	7108	22507	12917	12622	7342	12917	12622	7342	12917	12622	7342
定点当り	25.62	21.67	28.78	25.37	29.09	27.26	22.38	29.09	27.26	22.38	29.09	27.26	22.38
麻疹 (成人麻疹を除く)	2631	78	460	987	120	345	555	120	345	86	86	555	86
定点当り	0.92	0.55	1.86	1.11	0.27	0.75	1.69	0.27	0.75	0.24	0.24	1.69	0.24
流行性耳下腺炎	31416	1793	1879	7967	3806	7147	3722	3806	7147	5102	5102	3722	5102
定点当り	10.93	12.54	7.61	8.98	8.57	15.44	11.35	8.57	15.44	14.21	14.21	11.35	14.21

	総 数	北海道	東 北	関東甲信越	東海・北陸	近 畿	中国・四国	九州・沖縄
急性出血性結膜炎	517 0.88	5 0.18	53 0.91	147 0.84	35 0.37	105 0.98	62 0.91	110 2.00
流行性角結膜炎	11073 18.80	600 21.43	632 10.90	3997 22.97	1292 13.60	1303 12.13	1326 19.50	1923 34.96
急性肺炎 (日本肺炎を除く)	40 0.09	-	1 0.02	11 0.10	3 0.06	6 0.12	10 0.14	9 0.11
細菌性髄膜炎	102 0.22	1 0.05	6 0.10	41 0.37	7 0.14	13 0.25	9 0.12	25 0.30
無菌性髄膜炎	399 0.88	-	19 0.32	107 0.96	46 0.90	54 1.06	71 0.96	102 1.21
マイコプラズマ肺炎	588 1.29	8 0.36	69 1.17	151 1.35	98 1.92	61 1.20	88 1.19	113 1.35
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	48 0.11	-	13 0.22	17 0.15	3 0.06	2 0.04	7 0.09	6 0.07
成人麻疹	49 0.11	-	6 0.10	21 0.19	2 0.04	-	5 0.07	15 0.18

2-4. 平成11年 累積報告数・定点当り累積報告数：疾病・年齢階級別・性別 (総数)

2-4. Number of cumulative cases and number of cumulative cases per sentinel by disease, age group and sex, 1999 (Total)

	総数	～6ヶ月		～12ヶ月		1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳
		累積報告数	定点当り	累積報告数	定点当り	累積報告数	定点当り	累積報告数	定点当り	累積報告数	定点当り	累積報告数	定点当り
インフルエンザ	65471 15.86	217 0.05	898 0.22	3117 0.76	3550 0.86	4166 1.01	4579 1.11	4101 0.99	3958 0.96	3787 0.92	2698 0.65		
咽頭結膜熱	10726 3.73	84 0.03	523 0.18	1636 0.57	1511 0.53	1658 0.58	1522 0.53	1224 0.43	755 0.26	534 0.19	363 0.13		
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	90283 31.40	115 0.04	458 0.16	2025 0.70	4225 1.47	8702 3.03	14368 5.00	16048 5.58	13437 4.67	10309 3.59	6551 2.28		
感染性胃腸炎	507592 176.55	8399 2.92	33092 11.51	69560 24.19	57982 20.17	55796 19.41	52558 18.28	45683 15.89	33970 11.82	26582 9.25	20284 7.06		
水痘	162424 56.50	4832 1.68	11763 4.09	30345 10.55	28703 9.98	28302 9.84	24365 8.47	15872 5.52	7479 2.60	3783 1.32	2070 0.72		
手足口病	50814 17.67	509 0.18	3530 1.23	12688 4.41	10058 3.50	8514 2.96	6644 2.31	4072 1.42	1918 0.67	1011 0.35	582 0.20		
伝染性紅斑	18607 6.47	335 0.12	1351 0.47	1213 0.42	1212 0.42	1755 0.61	2335 0.81	2726 0.95	2199 0.76	1808 0.63	1236 0.43		
突発性発疹	95737 33.30	15604 5.43	59985 20.86	18692 6.50	987 0.34	134 0.05	60 0.02	56 0.02	48 0.02	40 0.01	28 0.01		
百日咳	2653 0.92	487 0.17	601 0.21	538 0.19	212 0.07	164 0.06	137 0.05	88 0.03	78 0.03	60 0.02	42 0.01		
風疹	2972 1.03	40 0.01	255 0.09	544 0.19	322 0.11	269 0.09	302 0.11	255 0.09	240 0.08	143 0.05	115 0.04		
ヘルパンギーナ	154802 53.84	2028 0.71	13252 4.61	37093 12.90	30297 10.54	24388 8.48	19394 6.75	12414 4.32	6083 2.12	3422 1.19	1925 0.67		

	9歳	10-14	15-19	20歳以上 20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80歳以上
インフルエンザ	1948 0.47	5765 1.40	3184 0.77	6550 1.59	6601 1.60	3366 0.82	2747 0.67	2241 0.54	1418 0.34	580 0.14
咽頭結核熱	236 0.08	415 0.14	38 0.01	227 0.08						
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	3943 1.37	6343 2.21	581 0.20	3170 1.11						
感染性胃腸炎	15844 5.51	37715 13.12	9284 3.23	40843 14.21						
水痘	1211 0.42	2271 0.79	278 0.10	1150 0.40						
手足口病	322 0.11	550 0.19	53 0.02	363 0.13						
伝染性紅斑	800 0.28	1172 0.41	76 0.03	389 0.14						
突発性発疹	26 0.01	25 0.01	6 0.00	46 0.02						
百日咳	35 0.01	117 0.04	14 0.00	80 0.03						
風疹	94 0.03	219 0.08	55 0.02	119 0.04						
ヘルパンギーナ	1207 0.42	1793 0.62	330 0.11	1176 0.41						

	総数	～6ヶ月		～12ヶ月		1歳		2歳		3歳		4歳		5歳		6歳		7歳		8歳	
		0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44										
麻疹 (成人麻疹を除く)	5875 2.04	152 0.05	922 0.32	1524 0.53	660 0.23	486 0.17	378 0.13	242 0.08	195 0.07	153 0.05											
流行性耳下腺炎	69070 24.02	61 0.02	447 0.16	3179 1.11	5954 2.07	9622 3.35	12637 4.40	8121 2.82	5615 1.95	3469 1.21											
急性出血性結膜炎	1084 1.84	6 0.01	16 0.03	28 0.05	33 0.06	35 0.06	39 0.07	24 0.04	9 0.02	13 0.02											
流行性角結膜炎	23941 40.65	160 0.27	201 0.34	625 1.06	626 1.06	664 1.13	677 1.15	417 0.71	334 0.57	287 0.49											
急性脳炎 (日本脳炎を除く)	129 0.28	9 0.02	22 0.05	18 0.04	9 0.02	4 0.01	4 0.01	4 0.01	3 0.01	3 0.01											
細菌性髄膜炎	235 0.52	64 0.14	67 0.15	16 0.04	5 0.01	8 0.02	6 0.01	3 0.01	5 0.01	5 0.01											
無菌性髄膜炎	1126 2.47	162 0.36	227 0.50	359 0.79	92 0.20	34 0.07	45 0.10	36 0.08	26 0.06	18 0.04											
マイコプラズマ肺炎	1134 2.49	32 0.07	328 0.72	428 0.94	193 0.42	32 0.07	14 0.03	14 0.03	20 0.04	9 0.02											
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	129 0.28	19 0.04	18 0.04	14 0.03	12 0.03	2 0.00	5 0.01	3 0.01	4 0.01	2 0.00											
成人麻疹	83 0.18	-	-	-	1 0.00	23 0.05	30 0.07	14 0.03	4 0.01	-											

	9歳		10-14		15-19		20歳以上		30-39		40-49		50-59		60-69		70歳以上	
	45-49	138 0.05	50-54	468 0.16	55-59	120 0.04	60-64	92 0.03	65-69	204 0.35	70歳以上	89 0.15	89 0.15	88 0.15	1757 2.98	1102 1.87		
麻疹 (成人麻疹を除く)	累積報告数																	
	定点当り																	
流行性耳下腺炎	累積報告数	2380	4382	387	1189													
	定点当り	0.83	1.52	0.13	0.41													
急性出血性結膜炎	累積報告数	16	49	63	218													
	定点当り	0.03	0.08	0.11	0.37													
流行性角結膜炎	累積報告数	274	988	1334	4547													
	定点当り	0.47	1.69	2.26	7.72													
急性脳炎 (日本脳炎を除く)	累積報告数	4	2	4	10													
	定点当り	0.01	0.00	0.01	0.02													
細菌性髄膜炎	累積報告数	3	6	4	6													
	定点当り	0.01	0.01	0.01	0.01													
無菌性髄膜炎	累積報告数	10	15	8	12													
	定点当り	0.02	0.03	0.02	0.03													
マイコプラズマ肺炎	累積報告数	8	7	4	6													
	定点当り	0.02	0.02	0.01	0.01													
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	累積報告数	3	1	2	5													
	定点当り	0.01	0.00	0.00	0.01													
成人麻疹	累積報告数	-	-	-	-													
	定点当り	-	-	-	-													

2-4. 平成11年 累積報告数・定点当り累積報告数：疾病・年齢階級別・性別 (男)
 2-4. Number of cumulative cases and number of cumulative cases per sentinel by disease, age group and sex, 1999 (Male)

	総数											
	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳		
インフルエンザ	34120 8.27	506 0.12	1749 0.42	1877 0.45	2232 0.54	2373 0.57	2231 0.54	2091 0.51	2005 0.49	1423 0.34		
咽頭結膜熱	5970 2.08	291 0.10	963 0.33	867 0.30	950 0.33	813 0.28	676 0.24	400 0.14	290 0.10	190 0.07		
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	49172 17.10	248 0.09	1126 0.39	2417 0.84	5092 1.77	8205 2.85	9154 3.18	7341 2.55	5486 1.91	3359 1.17		
感染性胃腸炎	270618 94.13	4592 1.60	17875 13.43	31331 10.90	30193 10.50	28288 9.84	25028 8.71	18647 6.49	14427 5.02	10948 3.81		
水痘	86516 30.09	2347 0.82	16164 5.62	15206 5.29	15264 5.31	13043 4.54	8657 3.01	3938 1.37	2056 0.72	1096 0.38		
手足口病	28129 9.78	285 0.10	7170 2.49	5576 1.94	4711 1.64	3733 1.30	2256 0.78	1018 0.35	539 0.19	293 0.10		
伝染性紅斑	9373 3.26	178 0.06	685 0.24	620 0.22	954 0.33	1192 0.41	1455 0.51	1063 0.37	885 0.31	587 0.20		
突発性発疹	49566 17.24	7867 2.74	31111 10.82	504 0.18	72 0.03	34 0.01	29 0.01	21 0.01	17 0.01	17 0.01		
百日咳	1372 0.48	252 0.09	292 0.10	109 0.04	91 0.03	66 0.02	41 0.01	34 0.01	24 0.01	24 0.01		
風疹	1525 0.53	24 0.01	134 0.05	174 0.06	148 0.05	148 0.05	133 0.05	119 0.04	71 0.02	54 0.02		
ヘルパンギーナ	81132 28.22	1111 0.39	19972 6.95	15596 5.42	12784 4.45	9923 3.45	6553 2.28	3126 1.09	1705 0.59	931 0.32		

	9歳	10-14		15-19		20歳以上		30-39		40-49		50-59		60-69		70-79		80歳以上		
		累積報告数 定点当り	累積報告数 定点当り	累積報告数 定点当り	累積報告数 定点当り	累積報告数 定点当り	累積報告数 定点当り	累積報告数 定点当り	累積報告数 定点当り	累積報告数 定点当り	累積報告数 定点当り	累積報告数 定点当り	累積報告数 定点当り	累積報告数 定点当り	累積報告数 定点当り	累積報告数 定点当り	累積報告数 定点当り	累積報告数 定点当り	累積報告数 定点当り	累積報告数 定点当り
インフルエンザ	1038 0.25	3241 0.79	1819 0.44	3113 0.75	3240 0.78	1804 0.44	1326 0.32	1046 0.25	640 0.16	250 0.06										
咽頭結膜熱	137 0.05	232 0.08	22 0.01	89 0.03																
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	2012 0.70	3411 1.19	260 0.09	1001 0.35																
感染性胃腸炎	8632 3.00	21496 7.48	4811 1.67	15733 5.47																
水痘	628 0.22	1226 0.43	139 0.05	579 0.20																
手足口病	173 0.06	276 0.10	16 0.01	83 0.03																
伝染性紅斑	390 0.14	576 0.20	27 0.01	65 0.02																
突発性発疹	6 0.00	9 0.00	-	24 0.01																
百日咳	19 0.01	59 0.02	6 0.00	34 0.01																
風疹	46 0.02	112 0.04	38 0.01	58 0.02																
ヘルパンギーナ	617 0.21	991 0.34	172 0.06	451 0.16																

病名	総数											
	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	7歳	8歳
麻疹 (成人麻疹を除く)	3244 1.13	491 0.17	863 0.30	390 0.14	276 0.10	189 0.07	200 0.07	137 0.05	103 0.04	90 0.03		
流行性耳下腺炎	37654 13.10	261 0.09	1871 0.65	3289 1.14	5299 1.84	6933 2.41	6484 2.26	4341 1.51	3062 1.07	1839 0.64		
急性出血性結膜炎	567 0.96	9 0.02	17 0.03	17 0.03	21 0.04	20 0.03	10 0.02	9 0.02	1 0.00	5 0.01		
流行性角結膜炎	12868 21.85	115 0.20	384 0.65	342 0.58	359 0.61	359 0.61	336 0.57	238 0.40	174 0.30	170 0.29		
急性脳炎 (日本脳炎を除く)	89 0.20	14 0.03	14 0.03	5 0.01	1 0.00	3 0.01	4 0.01	3 0.01	1 0.00	2 0.00		
細菌性髄膜炎	133 0.29	33 0.07	12 0.03	3 0.01	6 0.01	3 0.01	2 0.00	1 0.00	2 0.00	5 0.01		
無菌性髄膜炎	727 1.59	142 0.31	265 0.58	64 0.14	17 0.04	27 0.06	26 0.06	14 0.03	16 0.04	8 0.02		
マイコプラズマ肺炎	546 1.20	167 0.37	221 0.48	83 0.18	15 0.03	10 0.02	4 0.01	6 0.01	7 0.02	3 0.01		
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	81 0.18	10 0.02	9 0.02	6 0.01	2 0.00	4 0.01	-	-	4 0.01	2 0.00		
成人麻疹	34 0.07	-	-	-	11 0.02	13 0.03	2 0.00	6 0.01	1 0.00	-		

	9歳		10-14		15-19		20歳以上		30-39		40-49		50-59		60-69		70歳以上	
	45-49	67	50-54	255	55-59	62	60-64	35	65-69	119	70歳以上	48	48	1149	806	447	48	16
麻疹 (成人麻疹を除く)	0.02	0.02	0.09	0.09	0.02	0.02	0.01	0.01	0.20	0.20	0.08	0.08	0.08	1.95	1.37	0.03	0.07	0.03
流行性耳下腺炎	1293	0.45	2356	0.82	188	0.07	411	0.14	119	0.20	48	48	48	1149	806	447	48	16
急性出血性結膜炎	8	0.01	28	0.05	26	0.04	120	0.20	119	0.20	48	48	48	1149	806	447	48	16
流行性角結膜炎	149	0.25	534	0.91	688	1.17	2447	4.15	2608	4.43	1480	1480	1480	1149	806	447	48	16
急性脳炎 (日本脳炎を除く)	2	0.00	2	0.00	4	0.01	6	0.01	8	0.02	13	13	13	1149	806	447	48	16
細菌性髄膜炎	3	0.01	4	0.01	2	0.00	5	0.01	6	0.01	11	11	11	1149	806	447	48	16
細菌性髄膜炎	6	0.01	11	0.02	6	0.01	7	0.02	8	0.02	11	11	11	1149	806	447	48	16
マイコプラズマ肺炎	2	0.00	3	0.01	2	0.00	2	0.00	5	0.01	6	6	6	1149	806	447	48	16
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	1	0.00	-	-	1	0.00	5	0.01	7	0.02	20	20	20	1149	806	447	48	16
成人麻疹	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

2-4. 平成11年 累積報告数・定点当り累積報告数：疾病・年齢階級別・性別（女）
 2-4. Number of cumulative cases and number of cumulative cases per sentinel by disease, age group and sex, 1999 (Female)

	総数	～6ヶ月		～12ヶ月	1歳		2歳		3歳		4歳		5歳		6歳		7歳		8歳	
		累積報告数 定点当り	101 0.02	392 0.09	1368 0.33	1673 0.41	1934 0.47	2206 0.53	1870 0.45	1867 0.45	1782 0.43	1775 0.31								
インフルエンザ	31351 7.59																			
咽頭結膜熱	4756 1.65	34 0.01	232 0.08	673 0.23	644 0.22	708 0.25	709 0.25	548 0.19	355 0.12	244 0.08	173 0.06									
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	4111 14.30	55 0.02	210 0.07	899 0.31	1808 0.63	3610 1.26	6163 2.14	6894 2.40	6096 2.12	4823 1.68	3192 1.11									
感染性胃腸炎	236974 82.43	3807 1.32	15217 5.29	30943 10.76	26651 9.27	25603 8.91	24270 8.44	20655 7.18	15323 5.33	12155 4.23	9336 3.25									
水痘	75908 26.40	2485 0.86	5590 1.94	14181 4.93	13497 4.69	13038 4.53	11322 3.94	7215 2.51	3541 1.23	1727 0.60	974 0.34									
手足口病	22685 7.89	224 0.08	1530 0.53	5518 1.92	4482 1.56	3803 1.32	2911 1.01	1816 0.63	900 0.31	472 0.16	289 0.10									
伝染性紅斑	9234 3.21	157 0.05	655 0.23	528 0.18	592 0.21	801 0.28	1143 0.40	1271 0.44	1136 0.40	923 0.32	649 0.23									
突発性発疹	46171 16.06	7737 2.69	28874 10.04	8837 3.07	483 0.17	62 0.02	26 0.01	27 0.01	27 0.01	23 0.01	11 0.00									
百日咳	1281 0.45	235 0.08	280 0.10	246 0.09	103 0.04	73 0.03	71 0.02	47 0.02	44 0.02	36 0.01	18 0.01									
風疹	1447 0.50	16 0.01	121 0.04	278 0.10	148 0.05	121 0.04	154 0.05	122 0.04	121 0.04	72 0.03	61 0.02									
ヘルパンギーナ	73670 25.62	917 0.32	6052 2.11	17121 5.96	14701 5.11	11604 4.04	9471 3.29	5861 2.04	2957 1.03	1717 0.60	994 0.35									

	9歳	10-14	15-19	20歳以上		30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80歳以上
				20-29	30-39						
インフルエンザ	910 0.22	2524 0.61	1365 0.33	3437 0.83	3361 0.81	1562 0.38	1421 0.34	1195 0.29	778 0.19	330 0.08	
咽頭結膜熱	99 0.03	183 0.06	16 0.01	138 0.05							
A群溶血性 レンガ球菌咽頭炎	1931 0.67	2932 1.02	321 0.11	2177 0.76							
感染性胃腸炎	7212 2.51	16219 5.64	4473 1.56	25110 8.73							
水痘	583 0.20	1045 0.36	139 0.05	571 0.20							
手足口病	149 0.05	274 0.10	37 0.01	280 0.10							
伝染性紅斑	410 0.14	596 0.21	49 0.02	324 0.11							
突発性発疹	20 0.01	16 0.01	6 0.00	22 0.01							
百日咳	16 0.01	58 0.02	8 0.00	46 0.02							
風疹	48 0.02	107 0.04	17 0.01	61 0.02							
ヘルパンギーナ	590 0.21	802 0.28	158 0.05	725 0.25							

総数	～6ヶ月		～12ヶ月		1歳		2歳		3歳		4歳		5歳		6歳		7歳		8歳	
	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	定数	率	定数	率	定数	率	定数	率	定数	率
麻疹 (成人麻疹を除く)	2631 0.92	431 0.15	661 0.23	270 0.09	210 0.07	189 0.07	145 0.05	105 0.04	92 0.03	63 0.02	累積報告数 定数当り									
流行性耳下腺炎	31416 10.93	186 0.06	1308 0.45	2665 0.93	4323 1.50	5704 1.98	5133 1.79	3780 1.31	2553 0.89	1630 0.57	累積報告数 定数当り									
急性出血性結膜炎	517 0.88	7 0.01	11 0.02	16 0.03	14 0.02	19 0.03	15 0.03	15 0.03	8 0.01	8 0.01	累積報告数 定数当り									
流行性角結膜炎	11073 18.80	86 0.15	241 0.41	284 0.48	305 0.52	318 0.54	253 0.43	179 0.30	160 0.27	117 0.20	累積報告数 定数当り									
急性脳炎 (日本脳炎を除く)	40 0.09	8 0.02	4 0.01	4 0.01	3 0.01	1 0.00	1 0.00	1 0.00	2 0.00	1 0.00	累積報告数 定数当り									
細菌性髄膜炎	102 0.22	34 0.07	4 0.01	2 0.00	2 0.00	3 0.01	4 0.01	2 0.00	3 0.01	2 0.00	累積報告数 定数当り									
無菌性髄膜炎	399 0.88	85 0.19	94 0.21	28 0.06	17 0.04	18 0.04	30 0.07	22 0.05	10 0.02	10 0.02	累積報告数 定数当り									
マイコプラズマ肺炎	588 1.29	161 0.35	207 0.45	110 0.24	17 0.04	4 0.01	16 0.04	8 0.02	13 0.03	6 0.01	累積報告数 定数当り									
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	48 0.11	8 0.02	5 0.01	6 0.01	-	1 0.00	1 0.00	3 0.01	-	-	累積報告数 定数当り									
成人麻疹	49 0.11	-	-	1 0.00	12 0.03	17 0.04	8 0.02	8 0.02	3 0.01	-	累積報告数 定数当り									

	9歳		10-14		15-19		20歳以上		30-39		40-49		50-59		60-69		70歳以上	
	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70歳以上	70歳以上	70歳以上	70歳以上	70歳以上	70歳以上	70歳以上	70歳以上	70歳以上	70歳以上	70歳以上	70歳以上	70歳以上
麻疹 (成人麻疹を除く)	71 0.02	213 0.07	58 0.02	57 0.02														
流行性耳下腺炎	1097 0.38	2026 0.70	199 0.07	778 0.27														
急性出血性結膜炎	8 0.01	21 0.04	37 0.06	98 0.17	85 0.14	41 0.07	41 0.07	48 0.08	41 0.07	48 0.08	24 0.04							
流行性角結膜炎	125 0.21	464 0.79	646 1.10	2100 3.57	1945 3.30	971 1.65	971 1.65	1196 2.03	1196 2.03	951 1.61	655 1.11							
急性肺炎 (日本肺炎を除く)	2 0.00	-	-	4 0.01	3 0.01	4 0.01	4 0.01											
細菌性髄膜炎	-	2 0.00	2 0.00	1 0.00	3 0.01	11 0.02												
無菌性髄膜炎	4 0.01	4 0.01	2 0.00	5 0.01	4 0.01	3 0.01	3 0.01											
マイコプラズマ肺炎	6 0.01	4 0.01	2 0.00	4 0.01	1 0.00	7 0.02												
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	2 0.00	1 0.00	1 0.00	-	3 0.01	8 0.02												
成人麻疹	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

2-5.平成11年 週報定点数：週・定点種別
 2-5. Number of sentinel clinics by week and category, 1999 (Weekly)

平均	インフルエンザ Influenza	小児科定点 Pediatric	眼科定点 Ophthalmic	診療科定点 Specialty-designated	456
01週	4128	2875	589		
02週	-	-	-		
03週	-	-	-		
04週	-	-	-		
05週	-	-	-		
06週	-	-	-		
07週	-	-	-		
08週	-	-	-		
09週	-	-	-		
10週	-	-	-		
11週	-	-	-		
12週	-	-	-		
13週	-	-	-		
14週	3800	2764	561	435	
15週	3671	2724	547	436	
16週	3769	2737	546	443	
17週	3896	2788	565	446	
18週	3703	2688	533	437	
19週	3711	2710	539	435	
20週	3971	2858	575	450	
21週	3949	2850	579	453	
22週	3936	2799	569	440	
23週	4011	2864	580	451	
24週	4026	2896	577	449	
25週	4040	4040	584	458	
26週	4057	2912	586	465	
27週	3969	2873	580	454	
28週	4063	2877	584	460	
29週	4009	2858	577	456	
30週	4086	2906	584	461	
31週	4041	2868	582	463	
32週	4040	2870	579	461	
33週	4072	2865	582	465	
34週	4102	2886	588	463	
35週	4115	2872	583	460	
36週	4109	2809	590	460	
37週	4133	2893	593	471	
38週	4374	2934	613	459	
39週	4378	2935	613	472	
40週	4380	2938	615	463	
41週	4335	2921	610	460	
42週	4374	2939	616	463	
43週	4348	2936	619	465	
44週	4371	2931	615	462	
45週	4381	2930	615	463	
46週	4361	2931	613	464	
47週	4398	2939	615	460	
48週	4394	2931	612	461	
49週	4394	2942	614	457	
50週	4418	2939	620	463	
51週	4403	2934	615	460	
52週	4428	2937	614	466	
53週	-	-	-	-	

2-6.平成11年 週報定点数：都道府県・定点種別

2-6.Number of sentinel clinics by prefecture and category, 1999 (Weekly)

総数(平均)	小児科	眼科	基幹病院(週報)
4128	2875	589	456
226	143	28	22
63	41	10	5
61	38	12	18
88	55	9	11
54	35	7	7
47	30	7	9
80	48	12	7
102	71	15	11
97	45	11	6
61	61	14	9
169	111	25	8
189	125	32	8
160	143	14	24
291	193	39	10
83	59	8	12
47	29	7	5
47	29	7	4
32	22	3	5
38	24	3	9
79	51	9	10
79	51	10	4
136	86	19	9
185	181	35	12
69	45	12	8
31	31	7	6
50	50	6	6
125	76	18	6
147	162	35	7
197	127	34	13
54	35	9	5
50	31	4	11
28	18	3	4
32	22	3	7
82	54	12	5
133	90	24	25
159	48	9	8
34	22	4	6
51	32	3	5
63	39	3	5
49	31	7	7
47	46	8	17
39	23	4	6
42	43	7	11
82	49	9	15
57	36	5	8
60	37	4	7
95	58	5	11
51	33	9	6

2-7. 平成11年 週報定点数：地域ブロック・定点種別

2-7. Number of sentinel clinics by geographical area and category, 1999 (Weekly)

総数(平均)	北海道	東北	関東甲信越	東海・北陸	近畿	中国・四国	九州・沖縄
イワシガ	4128	396	1269	598	626	534	476
小児科	226	247	887	444	463	359	328
眼科	143	58	174	95	107	68	55
基幹病院(週報)	28	59	112	51	51	74	84
	22						

2-8. 週対応表：14週～52週

週対応表 1999年

	週	月	火	水	木	金	土	日
4月	14	5	6	7	8	9	10	11
	15	12	13	14	15	16	17	18
	16	19	20	21	22	23	24	25
	17	26	27	28	29	30	1	2
5月	18	3	4	5	6	7	8	9
	19	10	11	12	13	14	15	16
	20	17	18	19	20	21	22	23
	21	24	25	26	27	28	29	30
	22	31	1	2	3	4	5	6
6月	23	7	8	9	10	11	12	13
	24	14	15	16	17	18	19	20
	25	21	22	23	24	25	26	27
	26	28	29	30	1	2	3	4
7月	27	5	6	7	8	9	10	11
	28	12	13	14	15	16	17	18
	29	19	20	21	22	23	24	25
	30	26	27	28	29	30	31	1
8月	31	2	3	4	5	6	7	8
	32	9	10	11	12	13	14	15
	33	16	17	18	19	20	21	22
	34	23	24	25	26	27	28	29
	35	30	31	1	2	3	4	5
9月	36	6	7	8	9	10	11	12
	37	13	14	15	16	17	18	19
	38	20	21	22	23	24	25	26
	39	27	28	29	30	1	2	3
10月	40	4	5	6	7	8	9	10
	41	11	12	13	14	15	16	17
	42	18	19	20	21	22	23	24
	43	25	26	27	28	29	30	31
11月	44	1	2	3	4	5	6	7
	45	8	9	10	11	12	13	14
	46	15	16	17	18	19	20	21
	47	22	23	24	25	26	27	28
	48	29	30	1	2	3	4	5
12月	49	6	7	8	9	10	11	12
	50	13	14	15	16	17	18	19
	51	20	21	22	23	24	25	26
	52	27	28	29	30	31	1	2

3. 4 類定点把握疾病 (月報)

3. Sentinel-reporting diseases (Category IV monthly)

疾病名 Disease name	報告数 number of cases	3-1. 平成11年 報告数・定点当り報告数：疾病・月別・性別 (総数) 3-1. Number of cases and number of cases per sentinel by disease, month and sex, 1999 (Total)											
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
性器クラミジア感染症 Genital chlamydial infection	99年 number of cases 25033 定点当り報告数 per sentinel 29.28	-	-	-	2254	2562	2820	2799	2800	3053	2892	3067	2786
性器ヘルペスウイルス感染症 Genital herpetic infection	99年 number of cases 6566 定点当り報告数 per sentinel 7.68	-	-	-	734	668	830	738	748	747	645	750	706
尖形コンジローム Condyloma acuminatum	99年 number of cases 3190 定点当り報告数 per sentinel 3.73	-	-	-	320	318	361	312	366	446	354	383	330
淋菌感染症 Gonorrhea	99年 number of cases 11847 定点当り報告数 per sentinel 13.86	-	-	-	1014	1092	1320	1371	1485	1452	1344	1475	1294
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 MRSA infection	99年 number of cases 11088 定点当り報告数 per sentinel 24.92	-	-	-	837	981	1285	1305	1434	1316	1340	1300	1290
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 PRSP infection	99年 number of cases 2129 定点当り報告数 per sentinel 4.78	-	-	-	199	236	298	301	310	286	289	283	282
薬剤耐性緑膿菌感染症 Pseudomonas aeruginosa infection	99年 number of cases 437 定点当り報告数 per sentinel 0.98	-	-	-	21	25	53	60	43	52	53	81	49

3-1. 平成11年 報告数・定点当り報告数：疾病・月別・性別（男）
 3-1. Number of cases and number of cases per sentinel by disease, month and sex, 1999 (Male)

	報告数 number of cases	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
性器クラミジア感染症 Genital chlamydia infection	99年 報告数 number of cases 12.87 定点当り報告数 per sentinel 1.44	-	-	-	1001	1148	1235	1279	1261	1352	1234	1326	1171
性器ヘルペスウイルス感染症 Genital herpes infection	99年 報告数 number of cases 3.48 定点当り報告数 per sentinel 0.43	-	-	-	335	310	398	328	336	328	290	333	317
尖形コンジローム Condyloma acuminatum	99年 報告数 number of cases 1820 定点当り報告数 per sentinel 2.13	-	-	-	185	174	207	173	220	243	204	231	183
淋菌感染症 Gonorrhoea	99年 報告数 number of cases 10115 定点当り報告数 per sentinel 1.83	-	-	-	846	945	1129	1172	1275	1260	1133	1241	1114
β内酰胺性黄色ブドウ球菌感染症 MRSA infection	99年 報告数 number of cases 6971 定点当り報告数 per sentinel 15.67	-	-	-	1.08	1.17	1.31	1.36	1.46	1.44	1.28	1.41	1.27
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 PRSP infection	99年 報告数 number of cases 1267 定点当り報告数 per sentinel 2.85	-	-	-	516	620	787	816	898	817	869	824	824
薬剤耐性緑膿菌感染症 Multidrug-resistant Pseudomonas aeruginosa infection	99年 報告数 number of cases 282 定点当り報告数 per sentinel 0.63	-	-	-	1.23	1.49	1.83	1.88	1.94	1.78	1.87	1.79	1.80
		-	-	-	64	137	165	136	91	99	142	219	214
		-	-	-	0.15	0.33	0.38	0.31	0.20	0.22	0.31	0.48	0.47
		-	-	-	16	14	24	47	29	36	41	44	31
		-	-	-	0.04	0.03	0.06	0.11	0.06	0.08	0.09	0.10	0.07

3-1. 平成11年 報告数・定点当り報告数：疾病・月別・性別（女）
 3-1. Number of cases and number of cases per sentinel by disease, month and sex, 1999 (Female)

	報告数 number of cases	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
性器クラミジア感染症 Genital chlamydial infection	報告数 number of cases	14026	-	-	1253	1414	1585	1520	1539	1701	1658	1741	1615
	定点当り報告数 per sentinel	16.40	-	-	1.60	1.75	1.84	1.77	1.76	1.95	1.88	1.98	1.84
性器ヘルペスウイルス感染症 Genital herpetic infection	報告数 number of cases	3591	-	-	399	358	432	410	412	419	355	417	389
	定点当り報告数 per sentinel	4.20	-	-	0.51	0.44	0.50	0.48	0.47	0.48	0.40	0.47	0.44
尖形コンジローム Condyloma acuminatum	報告数 number of cases	1370	-	-	135	144	154	139	146	203	150	152	147
	定点当り報告数 per sentinel	1.60	-	-	0.17	0.18	0.18	0.16	0.17	0.23	0.17	0.17	0.17
淋菌感染症 Gonorrhea	報告数 number of cases	1732	-	-	168	147	191	199	210	192	211	234	180
	定点当り報告数 per sentinel	2.03	-	-	0.22	0.18	0.22	0.23	0.24	0.22	0.24	0.27	0.20
緑膿菌性黄色ブドウ球菌感染症 MRSA infection	報告数 number of cases	4117	-	-	321	361	498	489	536	499	471	476	466
	定点当り報告数 per sentinel	9.25	-	-	0.76	0.87	1.16	1.13	1.16	1.08	1.02	1.03	1.02
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 PRSP infection	報告数 number of cases	862	-	-	50	74	94	105	71	53	112	144	159
	定点当り報告数 per sentinel	1.94	-	-	0.12	0.18	0.22	0.24	0.15	0.12	0.24	0.31	0.35
薬剤耐性緑膿菌感染症 Multidrug-resistant <i>Pseudomonas aeruginosa</i> infection	報告数 number of cases	155	-	-	5	11	29	13	14	16	12	37	18
	定点当り報告数 per sentinel	0.35	-	-	0.01	0.03	0.07	0.03	0.03	0.03	0.03	0.08	0.04

3-2. 平成11年 累積報告数・定点当り累積報告数：疾病・都道府県・性別 (総数)

3-2. Number of cumulative cases and number of cumulative cases per sentinel by disease, prefecture and sex, 1999 (Total)

種 別	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖形コンジローム		淋菌感染症		アトピー性皮膚炎		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症	
	累積	定点当り	累積	定点当り	累積	定点当り	累積	定点当り	累積	定点当り	累積	定点当り	累積	定点当り
総 数	25033	29.28	6566	7.68	3190	3.73	11847	13.86	11088	24.92	2129	4.78	437	0.98
北海道	2097	51.15	352	8.59	168	4.10	1048	25.56	376	17.09	14	0.64	4	0.18
青森県	377	29.00	75	5.77	61	4.69	114	8.77	69	13.80	-	-	-	-
岩手県	807	38.67	79	5.42	65	4.69	106	8.83	412	21.68	110	5.79	14	0.74
宮城県	176	47.47	174	10.24	122	7.18	187	11.00	367	33.36	143	13.00	9	0.82
秋田県	176	16.00	23	2.09	30	2.73	28	2.55	96	12.29	42	6.00	-	-
山形県	278	27.80	35	3.50	17	1.70	48	4.80	368	40.89	79	8.76	16	1.78
福島県	353	22.06	43	2.69	60	3.75	210	13.13	22	3.14	-	-	1	0.14
茨城県	788	39.40	82	4.10	65	3.25	280	14.00	122	13.56	3	0.33	6	0.67
栃木県	476	31.73	43	2.87	44	2.93	152	10.13	385	64.17	20	3.33	3	0.50
群馬県	1443	60.13	174	7.25	67	2.79	414	17.25	343	38.11	18	2.00	20	2.22
埼玉県	1143	31.75	207	5.75	104	2.89	294	8.17	270	33.75	14	1.75	4	0.50
千葉県	581	17.09	205	6.03	114	3.35	208	6.12	276	46.00	307	51.17	9	1.50
東京都	2093	52.33	763	19.08	422	10.55	982	24.55	823	34.29	160	6.67	118	4.92
神奈川県	1190	21.64	264	4.80	132	2.40	669	12.16	215	21.50	79	7.90	5	0.50
新潟県	367	20.37	112	5.89	77	4.05	176	9.26	91	7.58	13	1.08	19	1.58
富山県	275	45.83	29	4.83	59	9.83	79	13.17	267	53.40	34	6.80	6	1.20
石川県	222	24.67	61	6.78	19	2.11	57	6.33	111	27.75	29	7.25	3	0.75
福井県	107	26.75	15	3.75	5	1.25	11	2.75	266	53.20	53	10.60	5	1.00
山梨県	90	18.00	3	0.60	-	-	37	7.40	207	25.88	81	10.13	3	0.38
長野県	343	24.50	78	5.57	42	3.00	64	4.57	178	17.80	63	6.30	2	0.20
岐阜県	161	11.50	62	4.43	38	2.71	135	9.64	104	20.80	19	3.80	-	-
静岡県	756	26.07	132	4.55	76	2.62	140	4.83	603	67.00	175	19.44	5	0.56
愛知県	1504	30.08	398	7.96	237	4.74	967	19.34	318	26.50	44	3.67	6	0.50
三重県	294	21.00	58	4.14	35	2.50	141	10.07	458	57.25	7	0.88	3	0.38
滋賀県	113	12.56	21	2.33	19	2.11	75	8.33	208	34.67	7	1.17	3	0.50
京都府	637	27.70	121	5.26	31	1.35	72	3.13	35	5.83	13	2.17	4	0.67
大阪府	1980	44.00	1092	24.27	310	6.89	1714	38.09	63	7.88	11	1.38	5	0.63
兵庫県	743	16.51	248	5.51	133	2.96	371	8.24	278	19.86	62	4.43	-	-
奈良県	150	16.67	65	7.22	26	2.89	110	12.22	168	28.00	67	11.17	13	2.17
和歌山県	55	6.88	78	9.75	17	2.13	72	9.00	168	16.80	18	1.80	16	1.60
鳥取県	126	25.20	4	0.80	1	0.20	58	11.60	74	14.80	3	0.60	-	-
島根県	77	15.40	20	4.00	7	1.40	64	12.80	378	54.00	102	14.57	17	2.43
岡山県	673	42.06	138	8.63	70	4.38	253	15.81	106	26.50	11	3.50	11	2.75
広島県	426	15.21	133	4.75	51	1.82	223	7.96	564	25.64	111	5.05	22	1.00
山口県	143	13.00	97	8.82	36	3.27	113	10.27	268	38.29	47	6.71	3	0.43
徳島県	44	8.80	30	6.00	15	3.00	7	1.40	106	17.67	3	0.50	14	2.33
香川県	189	23.63	40	5.00	32	4.00	73	9.13	189	47.25	35	8.75	19	4.75
愛媛県	313	31.30	70	7.00	27	2.70	147	14.70	54	10.80	6	1.20	-	-
高知県	10	11.67	13	2.17	3	0.50	24	4.00	164	23.43	7	1.00	20	2.86
福岡県	1177	73.56	209	13.06	153	9.56	931	58.19	-	-	-	-	-	-
佐賀県	265	44.17	75	12.50	10	1.67	200	33.33	185	37.00	12	2.40	6	1.20
長崎県	103	10.30	81	8.10	20	2.00	32	3.20	1	0.09	-	-	-	-
熊本県	518	37.00	211	15.07	50	3.57	345	24.64	251	16.73	12	0.80	-	-
大分県	101	10.10	128	12.80	22	2.20	85	8.50	440	48.89	33	3.67	5	0.56
宮崎県	293	26.64	81	7.36	21	1.91	103	9.36	168	24.00	4	0.57	16	2.29
鹿児島県	190	11.88	114	7.13	43	2.69	185	11.56	113	10.27	1	0.09	1	0.09
沖縄県	242	22.00	30	2.73	34	3.09	43	3.91	370	61.67	54	9.00	1	0.17

3-2.平成11年 累積報告数・定点当り累積報告数：疾病・都道府県・性別 (男)
 3-2. Number of cumulative cases and number of cumulative cases per sentinel by disease, prefecture and sex, 1999 (Male)

総数	性器クラミジア 感染症 累積 11007 定点当り 12.87	性器ヘルペス ウイルス感染症 累積 2975 定点当り 3.48	尖形コンジローム 累積 1820 定点当り 2.13	淋菌感染症 累積 10115 定点当り 11.83	チドリ球菌黄色 菌感染症 累積 6971 定点当り 15.67	ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症 累積 1267 定点当り 2.85	薬剤耐性 緑膿菌感染症 累積 282 定点当り 0.63
北海道	908	142	62	898	238	11	3
青森県	198	45	21	90	49	-	-
岩手県	189	29	32	87	275	70	12
宮城県	286	42	68	166	208	84	7
秋田県	32	1	3	14	54	21	-
山形県	110	11	9	41	230	38	11
福島県	162	14	25	174	10	1	1
茨城県	392	10.13	162	254	70	3	2
栃木県	212	19.60	46	145	240	11	1
群馬県	781	14.13	25	174	221	10	13
		32.54	37	371	241	10	13
				15.46	24.56	1.11	1.44
埼玉県	288	8.00	40	260	162	10	1
千葉県	208	6.12	69	181	163	188	7
東京都	998	347	281	790	542	85	80
神奈川県	625	11.36	84	641	145	41	3
新潟県	195	10.26	51	154	62	9	9
富山県	72	12.00	13	72	165	22	6
石川県	101	11.22	6	55	66	15	2
福井県	26	6.50	5	11	173	35	2
山梨県	14	2.80	-	34	116	42	2
長野県	48	3.43	19	54	111	40	2
			1.36	3.86	11.10	4.00	0.20
岐阜県	102	7.29	34	131	59	13	-
静岡県	195	6.72	44	107	380	117	3
愛知県	990	19.80	175	850	186	29	3
三重県	100	7.14	25	137	314	5	3
滋賀県	61	6.78	9	73	125	4	3
京都府	48	2.09	12	55	23	4	3
大阪府	1011	22.47	232	1231	27.36	8	5
兵庫県	360	8.00	83	344	193	33	-
奈良県	96	10.67	23	106	108	39	11
和歌山県	28	3.50	13	68	104	11	7
			1.63	8.50	10.40	1.10	0.70
鳥取県	70	14.00	-	56	47	1	-
島根県	41	8.20	4	64	245	63	7
岡山県	210	13.13	26	214	73	6	7
広島県	182	6.50	21	190	360	73	12
山口県	58	5.27	24	95	174	21	2
徳島県	25	5.00	5	7	60	2	8
香川県	62	7.75	25	72	113	20	11
愛媛県	90	9.00	15	132	37	5	-
高知県	23	3.83	1	22	108	4	12
福岡県	660	41.25	71	818	-	-	-
			4.44	51.13	15.43	0.57	1.71
佐賀県	174	29.00	5	167	120	8	4
長崎県	7	0.70	5	31	1	-	-
熊本県	187	13.36	25	291	148	8	-
鹿児島県	76	7.60	7	82	274	21	1
沖縄県	155	14.09	10	94	108	1	13
			0.91	8.55	15.43	0.14	1.86
			1.25	10.25	6.18	-	0.09
			0.91	2.00	34.00	4.67	0.17

3-2. 平成11年 累積報告数・定点当り累積報告数：疾病・都道府県・性別 (女)
 3-2. Number of cumulative cases and number of cumulative cases per sentinel by disease, prefecture and sex, 1999 (Female)

種 数	性器クラミジア 感染症		性ヘルペス ウイルス感染症		尖形コンジローム		淋菌感染症		β-D-ラクタマーゼ 産生性黄色 ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症	
	累積 14026	定点当り 16.40	累積 3591	定点当り 4.20	累積 1370	定点当り 1.60	累積 1732	定点当り 2.03	累積 4117	定点当り 9.25	累積 862	定点当り 1.94	累積 155	定点当り 0.35
北海道	1189	29.00	210	5.12	106	2.59	150	3.66	138	6.27	3	0.14	1	0.05
青森県	179	13.77	30	2.31	40	3.08	24	1.85	20	4.00	-	-	-	-
岩手県	179	13.77	30	2.31	40	3.08	24	1.85	20	4.00	-	-	-	-
宮城県	521	30.65	132	7.76	54	3.18	21	1.24	159	14.45	40	2.11	2	0.11
秋田県	144	13.09	22	2.00	27	2.45	14	1.27	32	4.57	59	5.36	2	0.18
山形県	168	16.80	24	2.40	8	0.80	7	0.70	138	15.33	21	3.00	5	0.56
福島県	191	11.94	29	1.81	35	2.19	36	2.25	12	1.71	-	-	-	-
茨城県	396	19.80	50	2.50	19	0.95	26	1.30	52	5.78	-	-	4	0.44
栃木県	264	17.60	36	2.40	19	1.27	7	0.47	145	24.17	9	1.50	4	0.33
群馬県	662	27.58	100	4.17	30	1.25	43	1.79	122	13.56	8	0.89	7	0.78
埼玉県	855	23.75	140	3.89	64	1.78	34	0.94	108	13.50	4	0.50	3	0.38
千葉県	373	10.97	96	2.82	45	1.32	27	0.79	113	18.83	119	19.83	2	0.33
東京都	1095	27.38	416	10.40	141	3.53	192	4.80	281	11.71	75	3.13	38	1.58
神奈川県	565	10.27	110	2.00	48	0.87	28	0.51	70	7.00	38	3.80	2	0.20
新潟県	192	10.11	61	3.21	26	1.37	22	1.16	29	2.42	2	0.17	10	0.83
富山県	203	33.83	21	3.50	46	7.67	7	1.17	102	20.40	12	2.40	-	-
石川県	121	13.44	38	4.22	13	1.44	2	0.22	45	11.25	14	3.50	1	0.25
福井県	81	20.25	1	0.25	-	-	-	-	93	18.60	18	3.60	3	0.60
山梨県	76	15.20	3	0.60	-	-	3	0.60	91	11.38	39	4.88	1	0.13
長野県	295	21.07	51	3.64	23	1.64	10	0.71	67	6.70	23	2.30	-	-
岐阜県	59	4.21	28	3.00	4	0.29	4	0.29	45	9.00	6	1.20	-	-
静岡県	561	19.34	95	3.28	32	1.10	33	1.14	223	24.78	58	6.44	2	0.22
愛知県	514	10.28	132	2.64	62	1.24	117	2.34	132	11.00	15	1.25	3	0.25
三重県	194	13.86	23	1.64	10	0.71	4	0.29	144	18.00	2	0.25	-	-
滋賀県	52	5.78	16	1.78	10	1.11	2	0.22	83	13.83	3	0.50	-	-
京都府	589	25.61	111	4.83	19	0.83	17	0.74	12	2.00	3	0.50	-	-
大阪府	969	21.53	476	10.58	78	1.73	483	10.73	24	3.00	3	0.38	-	-
兵庫県	383	8.51	168	3.73	50	1.11	27	0.60	85	6.07	29	2.07	2	0.33
奈良県	54	6.00	14	1.56	3	0.33	4	0.44	60	10.00	28	4.67	2	0.33
和歌山県	27	3.38	45	5.63	4	0.50	4	0.50	64	6.40	7	0.70	9	0.90
鳥取県	56	11.20	2	0.40	1	0.20	2	0.40	27	5.40	2	0.40	-	-
島根県	36	7.20	12	2.40	3	0.60	-	-	133	19.00	39	5.57	10	1.43
岡山県	463	28.94	121	7.56	44	2.75	39	2.44	33	8.25	8	2.00	4	1.00
広島県	244	8.71	86	3.07	30	1.07	33	1.18	204	9.27	38	1.73	10	0.45
山口県	85	7.73	69	6.27	12	1.09	18	1.64	94	13.43	26	3.71	1	0.14
徳島県	19	3.80	8	1.60	10	2.00	-	-	46	7.67	1	0.17	6	1.00
香川県	127	15.88	11	1.38	7	0.88	1	0.13	76	19.00	15	3.75	8	2.00
愛媛県	223	22.30	20	2.00	12	1.20	15	1.50	17	3.40	1	0.20	-	-
高知県	47	7.83	13	2.17	2	0.33	2	0.33	56	8.00	3	0.43	-	-
福岡県	517	32.31	95	5.94	82	5.13	113	7.06	-	-	-	-	-	-
佐賀県	91	15.17	68	11.33	5	0.83	33	5.50	65	13.00	4	0.80	2	0.40
長崎県	96	9.60	50	5.00	15	1.50	1	0.10	-	-	-	-	-	-
熊本県	331	23.64	110	7.86	25	1.79	54	3.86	103	6.87	4	0.27	-	-
大分県	25	2.50	70	7.00	15	1.50	3	0.30	166	18.44	12	1.33	4	0.44
宮崎県	138	12.55	51	4.64	11	1.00	9	0.82	60	8.57	3	0.43	3	0.43
鹿児島県	69	4.31	57	3.56	23	1.44	21	1.31	45	4.09	1	0.09	-	-
沖縄県	212	19.27	20	1.82	24	2.18	21	1.91	166	27.67	26	4.33	-	-

3-3. 平成11年 累積報告数・定点当り累積報告数：疾病・地域ブロック・性別 (総数)
 3-3. Number of cumulative cases and number of cumulative cases per sentinel by disease, geographical area and sex, 1999 (Total)

疾病	累積報告数 定点当り	総 数	地域ブロック					近 畿	中国	四国	九州	沖縄
			北海道	東 北	関 東	北 陸	東 海					
性器クラミジア感染症		25033 29.28	2097 51.15	2455 30.31	8534 32.08	3319 25.34	3678 26.46	2061 21.03			2889 30.41	
性器ヘルペスウイルス 感染症		6566 7.68	352 8.59	429 5.30	1931 7.26	755 5.76	1625 11.69	545 5.56			929 9.78	
尖形コングローム		3190 3.73	168 4.10	355 4.38	1067 4.01	469 3.58	536 3.86	242 2.47			353 3.72	
淋菌感染症		11847 13.86	1048 25.56	693 8.56	3276 12.32	1530 11.68	2414 17.37	962 9.82			1924 20.25	
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		11088 24.92	376 17.09	1324 22.07	2910 27.20	2127 41.71	920 18.04	1903 26.80			1528 18.86	
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		2129 4.78	14 0.64	374 6.23	758 7.08	361 7.08	178 3.49	328 4.62			116 1.43	
薬剤耐性緑膿菌感染症		437 0.98	4 0.18	40 0.67	189 1.77	28 0.55	41 0.80	106 1.49			29 0.36	

3-3. 平成11年 累積報告数・定点当り累積報告数：疾病・地域ブロック・性別 (男)

3-3. Number of cumulative cases and number of cumulative cases per sentinel by disease, geographical area and sex, 1999 (Male)

疾病	総数	北海道	東北	関東甲信越	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州・沖縄
性器クラミジア感染症	11007 12.87	908 22.15	977 12.06	3761 14.14	1586 12.11	1604 11.54	761 7.77	1410 14.84		
累積報告数 定点当り	2975 3.48	142 3.46	142 1.75	868 3.26	417 3.18	795 5.72	203 2.07	408 4.29		
性器ヘルペスウイルス 感染症	1820 2.13	62 1.51	158 1.95	652 2.45	302 2.31	372 2.68	121 1.23	153 1.61		
累積報告数 定点当り	10115 11.83	898 21.90	572 7.06	2894 10.84	1363 10.40	1877 13.50	852 8.69	1669 17.57		
淋菌感染症	6971 15.67	238 10.82	826 13.77	1832 17.12	1343 26.33	592 11.61	1217 17.14	923 11.40		
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	1267 2.85	11 0.50	213 3.55	441 4.12	236 4.63	105 2.06	195 2.75	66 0.81		
累積報告数 定点当り	282 0.63	3 0.14	31 0.52	120 1.12	19 0.37	30 0.59	59 0.83	20 0.25		
薬剤耐性腐蝕菌感染症										

3-3. 平成11年 累積報告数・定点当り累積報告数：疾病・地域ブロック・性別 (女)
 3-3. Number of cumulative cases and number of cumulative cases per sentinel by disease, geographical area and sex, 1999 (Female)

疾病	総数	地域ブロック									
		北海道	東北	北関東	甲信越	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州・沖縄
性器クラミジア感染症	14026 16.40	1189 29.00	1478 18.25	4773 17.94	1063 4.00	338 2.58	1733 13.23	2074 14.92	1300 13.27	1479 15.57	
性器ヘルペスウイルス感染症	3591 4.20	210 5.12	287 3.54	1063 4.00	1063 4.00	338 2.58	1733 13.23	2074 14.92	1300 13.27	1479 15.57	
尖形コンジローム	1370 1.60	106 2.59	197 2.43	415 1.56	415 1.56	167 1.27	164 1.18	164 1.18	121 1.23	200 2.11	
淋菌感染症	1732 2.03	150 3.66	121 1.49	392 1.47	392 1.47	167 1.27	167 1.27	537 3.86	110 1.12	255 2.68	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	4117 9.25	138 6.27	498 8.30	1078 10.07	1078 10.07	784 15.37	784 15.37	328 6.43	686 9.66	605 7.47	
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	862 1.94	3 0.14	161 2.68	317 2.96	317 2.96	125 2.45	125 2.45	73 1.43	133 1.87	50 0.62	
薬剤耐性緑膿菌感染症	155 0.35	1 0.05	9 0.15	69 0.64	69 0.64	9 0.18	9 0.18	11 0.22	47 0.66	9 0.11	

3-4. 平成11年 累積報告数・定点当り累積報告数：疾病・年齢階級別・性別 (総数)
 3-4. Number of cumulative cases and number of cumulative cases per sentinel by disease, age group and sex, 1999 (Total)

疾病	累積報告数 定点当り	総数	年齢階級 (歳)									
			0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	
性器クラミジア感染症	25033 29.28	11 0.01		1 0.00			25 0.03	3639 4.26	7546 8.83	5731 6.70	3468 4.06	2037 2.38
性器ヘルペスウイルス 感染症	6566 7.68	1 0.00	4 0.00	6 0.01	8 0.01			327 0.38	1073 1.25	1140 1.33	948 1.11	731 0.85
尖形コンジローム	3190 3.73	-	4 0.00	2 0.00	6 0.01			412 0.48	1009 1.18	656 0.77	416 0.49	243 0.28
淋菌感染症	11847 13.86	-	7 0.01	3 0.00	9 0.01			1106 1.29	3024 3.54	2875 3.36	1942 2.27	1243 1.45
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	11088 24.92	662 1.49	556 1.25	237 0.53	73 0.16			82 0.18	115 0.26	166 0.37	153 0.34	137 0.31
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	2129 4.78	261 0.59	827 1.86	169 0.38	35 0.08			10 0.02	18 0.04	34 0.08	41 0.09	40 0.09
薬剤耐性緑膿菌感染症	437 0.98	17 0.04	12 0.03	4 0.01	3 0.01			6 0.01	8 0.02	6 0.01	5 0.01	6 0.01

	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70歳以上
性器クラミジア感染症	1085 1.27	707 0.83	444 0.52	176 0.21	81 0.09	54 0.06	28 0.03
性器ヘルペスウイルス 感染症	491 0.57	429 0.50	421 0.49	293 0.34	251 0.29	218 0.25	225 0.26
尖形コンジローム	165 0.19	102 0.12	61 0.07	42 0.05	41 0.05	15 0.02	16 0.02
淋菌感染症	676 0.79	465 0.54	265 0.31	124 0.15	61 0.07	31 0.04	16 0.02
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	151 0.34	291 0.65	398 0.89	549 1.23	763 1.71	1158 2.60	5597 12.58
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	24 0.05	20 0.04	36 0.08	65 0.15	74 0.17	124 0.28	351 0.79
薬剤耐性緑膿菌感染症	6 0.01	15 0.03	20 0.04	37 0.08	41 0.09	57 0.13	194 0.44

3-4. 平成11年 累積報告数・定点点当り累積報告数：疾病・年齢階級別・性別 (男)
 3-4. Number of cumulative cases and number of cumulative cases per sentinel by disease, age group and sex, 1999 (Male)

性器クラミジア感染症	累積報告数 定点点当り	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39											
											総数	11007	12.87	5	0.01	-	-	4	0.00	1004	1.17
性器ヘルペスウイルス 感染症	累積報告数 定点点当り	2975	3.48	0.00	1	0.00	2	0.00	2	0.00	86	0.10	342	0.40	423	0.49	458	0.54	418	0.49	
尖形コンジローム	累積報告数 定点点当り	1820	2.13	-	2	0.00	2	0.00	4	0.00	157	0.18	470	0.55	354	0.41	298	0.35	195	0.23	
淋菌感染症	累積報告数 定点点当り	10115	11.83	-	1	0.00	-	-	3	0.00	747	0.87	2438	2.85	2495	2.92	1759	2.07	1136	1.33	
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	累積報告数 定点点当り	6971	15.67	393	0.88	302	0.68	139	0.31	49	0.11	50	0.14	64	0.16	73	0.18	80	0.17	75	0.17
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	累積報告数 定点点当り	1267	2.85	154	0.35	485	1.09	91	0.20	19	0.04	3	0.01	5	0.04	18	0.03	13	0.05	22	0.05
薬剤耐性緑膿菌感染症	累積報告数 定点点当り	282	0.63	9	0.02	2	0.00	2	0.00	1	0.00	6	0.01	5	0.01	3	0.01	4	0.01	3	0.01

	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70歳以上
性器クラミジア感染症	718 0.84	493 0.58	330 0.39	124 0.15	64 0.07	42 0.05	19 0.02
性器ヘルペスウイルス感染症	299 0.35	236 0.28	242 0.28	141 0.16	133 0.16	98 0.11	93 0.11
尖形コンジローム	123 0.14	77 0.09	48 0.06	32 0.04	33 0.04	12 0.01	13 0.02
淋菌感染症	639 0.75	441 0.52	237 0.28	110 0.13	56 0.07	30 0.04	13 0.02
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	94 0.21	177 0.40	261 0.59	348 0.78	535 1.20	803 1.80	3528 7.93
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	11 0.02	14 0.03	24 0.05	37 0.08	42 0.09	94 0.21	235 0.53
薬剤耐性緑膿菌感染症	6 0.01	10 0.02	12 0.03	28 0.06	27 0.06	37 0.08	127 0.29

3-4. 平成11年 累積報告数・定点点当り累積報告数：疾病・年齢階級別・性別（女）
 3-4. Number of cumulative cases and number of cumulative cases per sentinel by disease, age group and sex, 1999 (Female)

疾病	累積報告数 定点点当り	総 数	年齢階級									
			0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	
性器クラミジア感染症	16.40	14026	0.01	0.00	0.00	0.02	21	2635	4682	3311	1733	852
性器ヘルペスウイルス 感染症	4.20	3591	-	0.00	0.00	0.01	6	241	731	717	490	313
尖形コングローム	1.60	1370	-	0.00	-	0.00	2	255	539	302	118	48
淋菌感染症	2.03	1732	-	0.01	0.00	0.01	6	359	586	380	173	107
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	9.25	4117	0.60	0.57	0.22	0.05	24	32	51	93	73	62
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	1.94	862	0.24	0.77	0.18	0.04	16	7	13	16	28	18
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.35	155	0.02	0.02	0.00	0.00	2	-	3	3	1	3

	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70歳以上
性器クラミジア感染症	累積報告数 367 定点点当り 0.43	214 0.25	114 0.13	52 0.06	17 0.02	12 0.01	9 0.01
性器ヘルペスウイルス 感染症	192 0.22	193 0.23	179 0.21	152 0.18	118 0.14	120 0.14	132 0.15
尖形コンジローム	42 0.05	25 0.03	13 0.02	10 0.01	8 0.01	3 0.00	3 0.00
淋菌感染症	37 0.04	24 0.03	28 0.03	14 0.02	5 0.01	1 0.00	3 0.00
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	57 0.13	114 0.26	137 0.31	201 0.45	228 0.51	355 0.80	2069 4.65
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	13 0.03	6 0.01	12 0.03	28 0.06	32 0.07	30 0.07	116 0.26
薬剤耐性緑膿菌感染症	-	5 0.01	8 0.02	9 0.02	14 0.03	20 0.04	67 0.15

3-5. 平成11年 月報定点数：月・定点種別
 3-5. Number of sentinel clinics by month and category, 1999 (Monthly)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平均	-	-	-	781	810	860	861	873	873	882	878	880
STD定点 STD 特别指定点 (月報) Specially-designated	-	-	-	421	415	431	434	463	460	464	460	458

3-6. 平成11年 月報定点数：都道府県・定点種別

3-6. Number of sentinel clinics by prefecture and category, 1999 (Monthly)

数(平均)	S T D	基幹病院(月報)
総	855	445
北海道	41	22
青森県	13	5
岩手県	12	19
宮城県	17	11
秋田県	11	7
山形県	10	9
福島県	16	7
茨城県	20	9
栃木県	15	6
群馬県	24	9
埼玉県	36	8
千葉県	34	6
東京都	40	24
神奈川県	55	10
新潟県	19	12
富山県	6	5
石川県	9	4
福井県	4	3
山梨県	5	5
長野県	14	8
岐阜県	14	10
静岡県	29	5
愛知県	50	9
三重県	14	12
滋賀県	9	8
京都府	23	6
大阪府	45	6
兵庫県	45	8
奈良県	9	14
和歌山県	8	10
鳥取県	5	8
島根県	5	5
岡山県	16	7
広島県	28	4
山口県	11	22
徳島県	5	7
香川県	8	6
愛媛県	10	4
高知県	6	5
福岡県	16	7
佐賀県	6	13
長崎県	10	5
熊本県	14	11
大分県	10	15
宮崎県	11	9
鹿児島県	16	7
沖縄県	11	11
		6

3-7. 平成11年 月報定点数：地域ブロック・定点種別

3-7. Number of sentinel clinics by geographical area and category, 1999 (Monthly)

	北海道	東北	関東甲信越	東海・北陸	近畿	中国・四国	九州・沖縄
総数(平均)	41	81	266	131	139	98	95
S T D	22	60	107	51	51	71	81
基幹病院(月報)							

第2章 感染症発生動向調査集計

II 平成12(2000)年

1-1. 平成12年 報告数：疾病・週別

1-1. Number of cases by disease and week, 2000

1. 全数把握疾病 (1~4 類感染症)

1. Notifiable diseases (Category I-IV)

週	エボラ出血熱 Ebola hemorrhagic fever	クリミア・コンゴ出血熱 Crimean-Congo hemorrhagic fever	ペスト Plague	マールブルグ病 Marburg disease	ラッサ熱 Lassa fever	コレラ Cholera	細菌性赤痢 Shigellosis	腸チフス Typhoid fever	パラチフス Paratyphoid fever
総数	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases
01週	-	-	-	-	-	-	16	-	-
02週	-	-	-	-	-	-	14	-	-
03週	-	-	-	-	-	2	13	-	1
04週	-	-	-	-	-	1	6	2	-
05週	-	-	-	-	-	2	11	3	-
06週	-	-	-	-	-	2	9	2	-
07週	-	-	-	-	-	-	12	2	-
08週	-	-	-	-	-	-	12	3	-
09週	-	-	-	-	-	1	23	1	-
10週	-	-	-	-	-	-	22	1	-
11週	-	-	-	-	-	1	20	1	-
12週	-	-	-	-	-	1	20	2	-
13週	-	-	-	-	-	-	18	5	-
14週	-	-	-	-	-	-	26	7	-
15週	-	-	-	-	-	1	31	7	-
16週	-	-	-	-	-	2	25	7	-
17週	-	-	-	-	-	-	13	3	2
18週	-	-	-	-	-	1	15	2	-
19週	-	-	-	-	-	1	16	2	-
20週	-	-	-	-	-	2	5	-	-
21週	-	-	-	-	-	-	4	2	1
22週	-	-	-	-	-	-	9	1	1
23週	-	-	-	-	-	2	6	1	1
24週	-	-	-	-	-	1	11	2	1
25週	-	-	-	-	-	-	9	1	1
26週	-	-	-	-	-	-	15	4	1
27週	-	-	-	-	-	-	8	3	1
28週	-	-	-	-	-	2	12	-	-
29週	-	-	-	-	-	2	11	-	-
30週	-	-	-	-	-	2	13	1	1
31週	-	-	-	-	-	2	9	2	-
32週	-	-	-	-	-	2	21	1	-
33週	-	-	-	-	-	1	7	2	3
34週	-	-	-	-	-	4	27	1	-
35週	-	-	-	-	-	1	21	1	-
36週	-	-	-	-	-	1	21	1	1
37週	-	-	-	-	-	7	24	2	1
38週	-	-	-	-	-	2	33	4	1
39週	-	-	-	-	-	3	15	1	1
40週	-	-	-	-	-	-	28	-	-
41週	-	-	-	-	-	2	10	-	1
42週	-	-	-	-	-	-	34	1	-
43週	-	-	-	-	-	-	52	-	1
44週	-	-	-	-	-	1	21	2	1
45週	-	-	-	-	-	-	18	1	-
46週	-	-	-	-	-	1	13	1	-
47週	-	-	-	-	-	-	15	1	-
48週	-	-	-	-	-	1	16	1	-
49週	-	-	-	-	-	2	13	-	-
50週	-	-	-	-	-	-	8	-	-
51週	-	-	-	-	-	1	7	1	-
52週	-	-	-	-	-	3	5	-	-
53週	-	-	-	-	-	-	-	-	-

総数	Q熱 Q fever	狂犬病 Rabies	クリプトスポリジウム症 Cryptosporidiosis	クローンフェルト ・ヤコブ病 Creutzfeldt-Jakob disease	劇症型溶血性 レンサ球菌感染症 Severe invasive streptococcal infections	後天性免疫不全症候群 AIDS	コクシジディオシス Coccidioidomycosis	ジアルジア症 Giardiasis	腎症候性出血熱 Hemorrhagic fever with renal syndrome
	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases
01週	24	-	3	108	47	794	1	98	-
02週	-	-	-	1	-	11	-	1	-
03週	-	-	-	2	1	4	-	1	-
04週	-	-	-	3	2	12	-	2	-
05週	-	-	-	2	1	15	-	3	-
06週	-	-	-	1	1	10	-	1	-
07週	-	-	-	4	2	13	-	1	-
08週	-	-	-	3	-	12	-	2	-
09週	2	-	-	3	3	15	-	1	-
10週	-	-	-	3	1	13	-	1	-
11週	-	-	-	1	1	16	-	-	-
12週	-	-	-	1	-	19	-	2	-
13週	3	-	1	3	1	16	-	3	-
14週	2	-	-	-	1	15	-	2	-
15週	-	-	-	1	1	16	1	8	-
16週	1	-	-	2	-	16	-	4	-
17週	-	-	1	1	2	16	-	2	-
18週	-	-	-	1	-	11	-	1	-
19週	1	-	-	1	1	19	-	3	-
20週	-	-	-	2	2	17	-	1	-
21週	-	-	-	1	3	17	-	4	-
22週	1	-	-	4	1	10	-	1	-
23週	-	-	-	2	-	11	-	2	-
24週	-	-	-	3	-	17	-	4	-
25週	-	-	-	2	2	25	-	2	-
26週	-	-	-	3	1	16	-	1	-
27週	-	-	-	2	1	17	-	4	-
28週	-	-	-	2	-	16	-	3	-
29週	-	-	-	2	-	20	-	1	-
30週	1	-	1	5	1	22	-	-	-
31週	1	-	-	1	-	17	-	1	-
32週	-	-	-	4	2	14	-	2	-
33週	-	-	-	1	1	16	-	3	-
34週	-	-	-	1	1	22	-	2	-
35週	-	-	-	1	1	18	-	1	-
36週	-	-	-	4	1	9	-	2	-
37週	1	-	-	-	1	9	-	1	-
38週	1	-	-	2	1	23	-	1	-
39週	1	-	-	2	-	22	-	3	-
40週	-	-	-	-	-	22	-	-	-
41週	-	-	-	3	1	15	-	-	-
42週	-	-	-	-	-	18	-	-	-
43週	1	-	-	2	1	17	-	3	-
44週	-	-	-	2	1	11	-	3	-
45週	-	-	-	2	2	20	-	-	-
46週	1	-	-	5	2	14	-	2	-
47週	3	-	-	4	1	8	-	4	-
48週	-	-	-	2	-	16	-	3	-
49週	2	-	-	3	1	11	-	1	-
50週	-	-	-	2	1	8	-	3	-
51週	2	-	-	5	1	20	-	1	-
52週	-	-	-	1	-	18	-	1	-
53週	-	-	-	-	-	-	-	-	-

梅毒 Syphilis	乳児ボツリヌス症 infant botulism	日本脳炎 Japanese encephalitis	日本紅斑熱 Japanese spotted fever	デング熱 Dengue fever	ツツガムシ病 Scrub typhus	炭疽 Anthrax	先天性風疹症候群 Congenital rubella syndrome	髄膜炎 Meningococcal meningitis	総数
報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	
759	-	7	38	18	791	-	1	15	
18	-	-	-	-	16	-	-	-	01
14	-	-	-	-	12	-	-	-	02
22	-	-	-	-	11	-	-	-	03
16	-	-	-	-	6	-	-	-	04
12	-	-	-	-	3	-	-	2	05
25	-	-	-	-	1	-	-	2	06
15	-	-	-	-	4	-	-	1	07
22	-	-	-	-	5	-	-	-	08
16	-	-	-	-	1	-	-	-	09
14	-	-	-	-	2	-	-	-	10
17	-	-	-	-	-	-	-	1	11
11	-	-	-	-	-	-	-	1	12
12	-	-	-	-	2	-	-	1	13
17	-	-	-	1	-	-	-	1	14
21	-	-	-	1	-	-	-	1	15
14	-	-	-	-	3	-	-	-	16
11	-	-	-	-	3	-	-	-	17
6	-	-	1	-	6	-	-	-	18
13	-	-	1	-	9	-	-	-	19
21	-	-	2	-	10	-	-	-	20
23	-	-	-	-	25	-	-	1	21
15	-	-	-	-	33	-	-	1	22
15	-	-	-	2	24	-	-	-	23
18	-	-	-	-	14	-	-	-	24
18	-	-	-	-	9	-	-	-	25
18	-	-	-	1	3	-	-	-	26
10	-	-	-	1	8	-	-	-	27
15	-	-	-	1	4	-	-	-	28
15	-	-	-	1	1	-	-	-	29
14	-	-	-	2	2	-	-	-	30
12	-	-	-	-	1	-	-	1	31
15	-	-	5	-	-	-	-	1	32
8	-	-	-	-	1	-	-	-	33
18	-	-	-	-	1	-	-	-	34
14	-	-	-	1	1	-	-	-	35
13	-	-	-	1	1	-	-	-	36
14	-	2	-	-	1	-	-	-	37
12	-	1	-	-	1	-	-	1	38
15	-	2	-	1	2	-	-	2	39
20	-	-	-	-	4	-	-	-	40
5	-	-	2	1	4	-	-	-	41
21	-	-	2	-	11	-	-	-	42
10	-	-	2	-	19	-	-	1	43
12	-	-	1	-	35	-	-	-	44
15	-	-	4	-	61	-	-	-	45
16	-	-	1	2	94	-	-	-	46
8	-	-	1	1	82	-	-	-	47
10	-	1	-	1	66	-	-	-	48
11	-	-	-	-	59	-	-	-	49
12	-	-	-	-	42	-	-	-	50
17	-	-	-	-	30	-	-	-	51
8	-	-	-	-	4	-	-	-	52
-	-	-	-	-	3	-	-	-	53

週	破傷風 Tetanus	バンコムマイシン 耐性腸球菌感染症 VRE infection	ハンタウイルス肺症候群 Hantavirus pulmonary syndrome	Bウイルス病 B virus disease	ブルセラ症 Brucellosis	発疹チフス Epidemic louse-borne typhus	マラリア Malaria	ライム病 Lyme disease	レジオネラ症 Legionellosis
総	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases
01週	3	36	-	-	-	-	154	12	154
02週	1	-	-	-	-	-	1	-	4
03週	1	-	-	-	-	-	3	-	1
04週	2	-	-	-	-	-	5	-	3
05週	-	-	-	-	-	-	3	-	2
06週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
07週	2	-	-	-	-	-	1	-	2
08週	1	-	-	-	-	-	2	-	2
09週	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10週	-	-	-	-	-	-	2	-	2
11週	1	-	-	-	-	-	5	-	3
12週	-	2	-	-	-	-	3	-	4
13週	-	1	-	-	-	-	5	-	4
14週	2	1	-	-	-	-	3	-	8
15週	1	-	-	-	-	-	3	-	9
16週	1	-	-	-	-	-	9	-	7
17週	2	-	-	-	-	-	9	-	4
18週	3	-	-	-	-	-	3	-	4
19週	3	-	-	-	-	-	5	-	4
20週	2	-	-	-	-	-	7	-	3
21週	2	-	-	-	-	-	5	-	2
22週	3	-	-	-	-	-	5	-	-
23週	3	2	-	-	-	-	5	1	3
24週	3	2	-	-	-	-	1	2	1
25週	1	-	-	-	-	-	5	-	-
26週	2	-	-	-	-	-	1	-	7
27週	3	-	-	-	-	-	3	-	5
28週	3	-	-	-	-	-	1	-	4
29週	3	-	-	-	-	-	3	-	5
30週	2	2	-	-	-	-	7	-	3
31週	5	-	-	-	-	-	5	-	2
32週	5	1	-	-	-	-	2	1	9
33週	3	3	-	-	-	-	3	-	3
34週	3	2	-	-	-	-	1	-	5
35週	1	3	-	-	-	-	5	-	5
36週	5	2	-	-	-	-	5	1	3
37週	1	2	-	-	-	-	1	-	1
38週	1	1	-	-	-	-	5	-	1
39週	1	1	-	-	-	-	3	-	1
40週	4	1	-	-	-	-	3	-	1
41週	1	1	-	-	-	-	4	-	2
42週	1	2	-	-	-	-	2	-	1
43週	3	2	-	-	-	-	2	-	1
44週	-	2	-	-	-	-	4	-	3
45週	1	-	-	-	-	-	2	2	-
46週	1	-	-	-	-	-	4	-	-
47週	1	-	-	-	-	-	2	-	3
48週	1	1	-	-	-	-	3	-	1
49週	3	1	-	-	-	-	4	-	1
50週	-	2	-	-	-	-	1	-	8
51週	2	-	-	-	-	-	2	-	4
52週	1	-	-	-	-	-	4	-	1
53週	-	-	-	-	-	-	-	-	-

1-2. 平成12年 累積報告数：疾病・都道府県・性別 (総数)

1-2. Number of cumulative cases by disease, prefecture and sex, 2000 (Total)

総数	エボラ出血熱 累積報告数	クリミア ・コンゴ出血熱 累積報告数	ペスト 累積報告数	マールブルグ病 累積報告数	ラッサ熱 累積報告数	コレラ 累積報告数	細菌性赤痢 累積報告数	腸チフス 累積報告数	パラチフス 累積報告数
北海道	-	-	-	-	-	4	26	3	-
青森県	-	-	-	-	-	1	2	1	-
岩手県	-	-	-	-	-	3	2	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	1	6	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	5	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	17	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	3	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	1	8	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	4	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	10	2	-
埼玉県	-	-	-	-	-	1	22	3	-
千葉県	-	-	-	-	-	6	28	5	4
東京都	-	-	-	-	-	7	142	7	-
神奈川県	-	-	-	-	-	2	71	14	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	20	6	1
富山県	-	-	-	-	-	-	5	1	-
石川県	-	-	-	-	-	1	7	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	1	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	4	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	20	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	11	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	2	29	5	1
愛知県	-	-	-	-	-	4	45	7	1
三重県	-	-	-	-	-	1	7	1	1
滋賀県	-	-	-	-	-	-	9	-	-
京都府	-	-	-	-	-	3	28	2	-
大阪府	-	-	-	-	-	1	68	8	4
兵庫県	-	-	-	-	-	2	34	3	-
奈良県	-	-	-	-	-	4	15	1	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	5	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	1	1	-	-
島根県	-	-	-	-	-	1	8	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	4	12	1	1
広島県	-	-	-	-	-	-	14	-	-
山口県	-	-	-	-	-	2	1	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	5	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	1	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	50	1	-
高知県	-	-	-	-	-	-	4	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	4	43	2	-
佐賀県	-	-	-	-	-	1	4	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	1	10	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	1	3	2	-
大分県	-	-	-	-	-	-	19	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	9	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	1	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	4	-	-

数	急性灰白髄炎 累積報告数	ジフテリア 累積報告数	腸管出血性 大腸菌感染症 累積報告数	アメーバ赤痢 累積報告数	エキノкокウクス症 累積報告数	黄熱 累積報告数	オウム病 累積報告数	回帰熱 累積報告数	ウイルス性肝炎 累積報告数
総	1	1	3642	378	22	-	18	-	991
北海道	-	-	101	6	21	-	-	-	18
青森県	-	-	44	1	-	-	-	-	7
岩手県	-	-	117	-	-	-	-	-	8
宮城県	-	-	57	9	-	-	-	-	19
秋田県	-	-	58	-	-	-	-	-	12
山形県	-	-	44	-	-	-	-	-	3
福島県	-	-	23	6	1	-	3	-	3
茨城県	-	1	32	2	-	-	-	-	9
栃木県	-	-	16	1	-	-	-	-	6
群馬県	-	-	27	3	-	-	-	-	24
埼玉県	-	-	96	14	-	-	2	-	10
千葉県	-	-	154	15	-	-	2	-	14
東京都	-	-	312	93	-	-	3	-	105
神奈川県	-	-	183	28	-	-	-	-	55
新潟県	-	-	20	5	-	-	-	-	4
富山県	-	-	52	1	-	-	-	-	6
石川県	-	-	58	-	-	-	-	-	22
福井県	-	-	14	1	-	-	1	-	-
山梨県	-	-	16	1	-	-	-	-	14
長野県	-	-	36	2	-	-	1	-	4
岐阜県	-	-	34	7	-	-	-	-	39
静岡県	-	-	59	8	-	-	-	-	39
愛知県	-	-	238	20	-	-	-	-	30
三重県	-	-	60	3	-	-	-	-	5
滋賀県	-	-	41	1	-	-	-	-	8
京都府	-	-	59	9	-	-	-	-	30
大阪府	-	-	345	55	-	-	1	-	101
兵庫県	-	-	191	39	-	-	-	-	111
奈良県	-	-	33	4	-	-	-	-	20
和歌山県	-	-	47	5	-	-	-	-	9
鳥取県	-	-	32	3	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	51	-	-	-	-	-	2
岡山県	-	-	99	7	-	-	2	-	32
広島県	-	-	124	6	-	-	1	-	24
山口県	-	-	51	2	-	-	-	-	4
徳島県	-	-	16	1	-	-	-	-	32
香川県	-	-	25	-	-	-	-	-	12
愛媛県	-	-	26	4	-	-	-	-	27
高知県	-	-	8	2	-	-	-	-	9
福岡県	-	-	317	11	-	-	-	-	51
佐賀県	-	-	63	-	-	-	1	-	3
長崎県	-	-	55	1	-	-	-	-	1
熊本県	-	-	36	1	-	-	-	-	18
大分県	-	-	33	-	-	-	-	-	8
宮崎県	1	-	47	1	-	-	1	-	16
鹿児島県	-	-	47	-	-	-	-	-	17
沖縄県	-	-	45	-	-	-	-	-	-

種	Q 熱 累積報告数	24	狂 犬 病 累積報告数	クリプト スポリジウム症 累積報告数	3	クロイツフェルト ・ヤコブ病 累積報告数	108	劇症型溶血性 レンカク球菌感染症 累積報告数	47	後天性 免疫不全症候群 累積報告数	794	コクシジ オイトリス症 累積報告数	1	シアルジア症 累積報告数	98	腎症候性出血熱 累積報告数
北海道	8	-	-	-	-	3	1	9	-	-	-	-	-	2	-	-
青森県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	8	-	-	-	-	4	1	3	-	-	-	-	-	1	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	2	2	4	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	1	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	1	1	21	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	2	1	11	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	1	1	11	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	2	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	4	3	33	3	-	-	-	-	7	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	3	3	60	3	-	-	-	-	3	-	-
東京都	-	-	-	-	-	14	9	315	4	-	-	1	-	19	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	6	4	58	1	-	-	-	-	12	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	1	1	6	1	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	2	1	2	1	-	-	-	-	1	-	-
石川県	-	-	-	-	-	1	1	2	1	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	1	1	2	1	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	3	-	4	-	-	-	-	-	3	-	-
長野県	-	-	-	-	-	3	-	14	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	3	1	7	-	-	-	-	-	1	-	-
静岡県	6	-	-	-	-	5	2	23	1	-	-	-	-	1	-	-
愛知県	1	-	-	-	-	9	3	26	3	-	-	-	-	2	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	12	-	-	-	-	-	3	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	7	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	6	2	51	2	-	-	-	-	14	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	10	5	19	5	-	-	-	-	7	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	2	-	3	-	-	-	-	-	3	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	2	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	1	2	3	-	-	-	-	-	1	-	-
広島県	-	-	-	-	-	3	1	12	-	-	-	-	-	1	-	-
山口県	-	-	-	-	-	4	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
高松県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	1	-	-	-	-	1	1	2	-	-	-	-	-	1	-	-
高知県	-	-	-	-	-	4	1	8	-	-	-	-	-	1	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	1	1	3	-	-	-	-	-	1	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	1	1	2	-	-	-	-	-	2	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	1	1	2	-	-	-	-	-	1	-	-
								3								
								6								
								2								
								3								
								4								
								5								
								6								
								7								
								8								
								9								
								10								
								11								
								12								
								13								
								14								
								15								
								16								
								17								
								18								
								19								
								20								
								21								
								22								
								23								
								24								
								25								
								26								
								27								
								28								
								29								
								30								
								31								
								32								
								33								
								34								
								35								
								36								

種別	髄膜炎菌性髄膜炎	先天性風疹症候群	炭疽	ツツガムシ病	デング熱	日本紅斑熱	日本脳炎	乳児ボツリヌス症	梅毒
数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数
総	15	1	-	791	18	38	7	-	759
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	14
青森県	-	-	-	18	-	-	-	-	5
岩手県	-	-	-	7	-	-	-	-	15
宮城県	1	-	-	10	-	-	-	-	8
秋田県	-	-	-	48	-	-	-	-	12
山形県	-	-	-	14	-	-	-	-	1
福島県	-	-	-	40	-	-	-	-	8
茨城県	-	-	-	4	-	-	-	-	5
栃木県	-	-	-	2	-	-	-	-	3
群馬県	-	-	-	24	1	-	-	-	2
埼玉県	-	-	-	-	1	-	-	-	15
千葉県	2	-	-	-	1	9	-	-	23
東京都	1	-	-	60	12	-	-	-	121
神奈川県	3	-	-	15	-	-	-	-	39
新潟県	-	-	-	44	-	-	-	-	6
富山県	-	-	-	27	-	-	-	-	2
石川県	1	-	-	6	-	-	-	-	7
福井県	-	-	-	1	-	-	-	-	1
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	1	-	-	-	-	-	-	-	2
岐阜県	-	-	-	10	-	-	-	-	6
静岡県	2	-	-	31	-	1	-	-	3
愛知県	-	-	-	21	2	-	-	-	10
三重県	-	-	-	5	-	-	-	-	25
滋賀県	-	-	-	3	1	-	-	-	9
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	11
大阪府	1	-	-	-	-	-	-	-	17
兵庫県	-	-	-	15	-	6	-	-	130
奈良県	-	-	-	-	1	-	-	-	48
和歌山県	-	-	-	6	-	4	-	-	11
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	6
島根県	-	-	-	3	-	10	-	-	2
岡山県	-	-	-	12	-	-	-	-	4
広島県	-	-	-	4	-	-	1	-	18
山口県	-	-	-	18	-	-	2	-	9
徳島県	-	-	-	3	-	-	-	-	37
香川県	-	-	-	1	-	-	-	-	8
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	13
高知県	-	-	-	1	-	3	1	-	11
福岡県	1	-	-	9	-	-	-	-	3
佐賀県	-	-	-	7	-	-	-	-	60
熊本県	-	-	-	6	-	-	1	-	3
鹿児島県	-	-	-	30	-	-	1	-	2
沖縄県	-	-	-	19	-	-	1	-	7
分庁	-	-	-	40	-	-	1	-	1
分庁	-	-	-	93	-	-	-	-	2
分庁	1	-	-	134	-	5	-	-	11
分庁	1	-	-	-	-	-	-	-	3

破傷風	バンコマイシン耐性肺炎球菌感染症	ハンタウイルス	Bウイルス病	ブルセラ症	発疹チフス	マラリア	ライム病	レジオネラ症
累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数
91	36	-	-	-	-	154	12	154
2	-	-	-	-	-	4	11	1
3	-	-	-	-	-	-	-	-
1	-	-	-	-	-	-	-	-
4	5	-	-	-	-	2	-	3
2	-	-	-	-	-	-	-	9
1	1	-	-	-	-	2	-	1
2	-	-	-	-	-	1	-	3
1	-	-	-	-	-	7	-	4
4	-	-	-	-	-	-	-	-
3	3	-	-	-	-	3	-	4
7	7	-	-	-	-	6	-	6
2	2	-	-	-	-	17	-	11
1	-	-	-	-	-	2	-	2
3	-	-	-	-	-	1	-	3
1	-	-	-	-	-	-	-	-
2	1	-	-	-	-	1	-	1
2	-	-	-	-	-	-	-	-
2	-	-	-	-	-	1	-	-
4	-	-	-	-	-	2	-	-
4	1	-	-	-	-	8	-	30
-	1	-	-	-	-	2	-	8
-	-	-	-	-	-	2	-	4
-	-	-	-	-	-	-	-	2
3	2	-	-	-	-	2	-	4
3	3	-	-	-	-	12	-	5
6	1	-	-	-	-	2	1	3
-	-	-	-	-	-	1	-	-
1	-	-	-	-	-	-	-	-
1	-	-	-	-	-	1	-	-
3	-	-	-	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	3	-	1
1	-	-	-	-	-	2	-	-
1	-	-	-	-	-	-	-	-
3	3	-	-	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	4	-	-
1	-	-	-	-	-	-	-	-
1	-	-	-	-	-	-	-	-
3	3	-	-	-	-	-	-	-
2	-	-	-	-	-	-	-	-
2	-	-	-	-	-	-	-	-
1	1	-	-	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-	-
1	-	-	-	-	-	-	-	-
1	-	-	-	-	-	-	-	-
3	3	-	-	-	-	-	-	-
2	1	-	-	-	-	-	-	-
1	-	-	-	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-	-	-	-
10	-	-	-	-	-	-	-	-

1-2. 平成12年 累積報告数：疾病・都道府県・性別 (男)
 1-2. Number of cumulative cases by disease, prefecture and sex, 2000 (Male)

総数	エボラ出血熱 累積報告数	クリミア 出血熱 累積報告数	ベ ス ト 累積報告数	マールブルグ病 累積報告数	ラッサ熱 累積報告数	コ レ ラ 累積報告数	細菌性赤痢 累積報告数	腸チフス 累積報告数	パラチフス 累積報告数
北海道	-	-	-	-	-	3	13	2	-
青森県	-	-	-	-	-	1	1	1	-
岩手県	-	-	-	-	-	3	4	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	4	4	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	4	14	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	4	-	-
福島県	-	-	-	-	-	1	3	1	-
茨城県	-	-	-	-	-	1	4	1	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	4	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	4	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	1	6	3	2
千葉県	-	-	-	-	-	3	12	4	-
東京都	-	-	-	-	-	3	67	9	3
神奈川県	-	-	-	-	-	2	27	4	3
新潟県	-	-	-	-	-	-	9	1	-
富山県	-	-	-	-	-	-	4	-	-
石川県	-	-	-	-	-	1	2	-	-
福井県	-	-	-	-	-	1	1	1	-
長野県	-	-	-	-	-	-	10	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	6	4	-
静岡県	-	-	-	-	-	1	16	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	3	24	3	1
三重県	-	-	-	-	-	1	3	3	1
滋賀県	-	-	-	-	-	-	4	-	-
京都府	-	-	-	-	-	1	12	2	2
大阪府	-	-	-	-	-	1	35	6	-
兵庫県	-	-	-	-	-	2	17	2	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	11	2	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	1	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	1	5	1	-
徳島県	-	-	-	-	-	1	3	1	-
岡山県	-	-	-	-	-	2	5	-	-
広島県	-	-	-	-	-	1	2	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	2	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	1	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	1	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	33	2	-
高知県	-	-	-	-	-	-	2	1	-
福岡県	-	-	-	-	-	2	25	1	-
佐賀県	-	-	-	-	-	1	2	1	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	2	2	-
熊本県	-	-	-	-	-	1	6	2	-
大分県	-	-	-	-	-	-	1	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	11	1	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	4	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	2	-	-

急性灰白髄炎	ジフテリア	腸管出血性大腸菌感染症	アメーバ赤痢	エキノコックス症	黄熱	オウム病	回帰熱	ウイルス性肝炎	総数
累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	
1	-	1632	341	8	-	7	-	623	
-	-	54	6	7	-	-	-	9	北海道
-	-	22	1	-	-	-	-	4	青森県
-	-	59	7	-	-	-	-	3	岩手県
-	-	25	-	-	-	-	-	13	宮城県
-	-	21	-	-	-	-	-	7	秋田県
-	-	20	-	-	-	-	-	1	山形県
-	-	8	4	1	-	2	-	1	福島県
-	-	17	2	-	-	-	-	1	茨城県
-	-	6	1	-	-	-	-	2	栃木県
-	-	13	3	-	-	-	-	12	群馬県
-	-	44	12	-	-	1	-	7	埼玉県
-	-	74	14	-	-	1	-	12	千葉県
-	-	115	79	-	-	-	-	84	東京都
-	-	67	25	-	-	-	-	41	神奈川県
-	-	9	5	-	-	-	-	2	新潟県
-	-	20	1	-	-	-	-	2	富山県
-	-	21	1	-	-	-	-	9	石川県
-	-	9	-	-	-	-	-	-	福井県
-	-	21	-	-	-	-	-	2	山梨県
-	-	8	1	-	-	-	-	-	長野県
-	-	14	2	-	-	-	-	9	岐阜県
-	-	19	7	-	-	-	-	27	静岡県
-	-	25	8	-	-	-	-	24	愛知県
-	-	95	18	-	-	-	-	22	三重県
-	-	31	3	-	-	-	-	3	滋賀県
-	-	21	1	-	-	-	-	6	京都府
-	-	30	7	-	-	-	-	15	大阪府
-	-	151	53	-	-	-	-	62	兵庫県
-	-	82	36	-	-	-	-	76	大阪府
-	-	18	4	-	-	-	-	11	奈良県
-	-	23	5	-	-	-	-	4	和歌山県
-	-	15	3	-	-	-	-	-	鳥取県
-	-	25	-	-	-	-	-	1	島根県
-	-	57	6	-	-	2	-	22	岡山県
-	-	60	2	-	-	-	-	13	広島県
-	-	25	2	-	-	-	-	2	山口県
-	-	8	1	-	-	-	-	14	徳島県
-	-	8	-	-	-	-	-	7	香川県
-	-	14	4	-	-	-	-	13	愛媛県
-	-	4	2	-	-	-	-	3	高知県
-	-	144	9	-	-	-	-	31	福岡県
-	-	26	-	-	-	1	-	1	佐賀県
-	-	27	1	-	-	-	-	1	熊本県
-	-	16	-	-	-	-	-	14	鹿児島県
-	-	14	-	-	-	-	-	5	宮崎県
-	-	17	-	-	-	-	-	10	大分県
-	-	24	-	-	-	-	-	10	福岡県
-	-	27	-	-	-	-	-	-	沖縄県

数	Q 熱 累積報告数	9	狂 犬 病 累積報告数	ク リ プ ト ス ポ リ ジ ウ ム 症 累積報告数	2	ク ロ イ ツ エ ル ト ・ ヤ コ フ ァ 病 累積報告数	49	劇 症 型 溶 血 性 レ ン 球 菌 感 染 症 累積報告数	26	後 天 性 免 疫 不 全 症 候 群 累積報告数	673	コ ク シ ジ オ イ デ ィ ア 症 累積報告数	1	ジ ア ル ジ ア 症 累積報告数	73	腎 症 候 性 出 血 熱 累積報告数	-
道 北 海 道	5	-	-	-	3	-	1	9	-	-	-	-	-	1	-	-	-
青 森 県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩 手 県	2	-	-	-	4	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮 城 県	-	-	-	-	1	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山 形 県	-	-	-	-	1	-	2	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福 島 県	-	-	-	-	1	-	-	37	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨 城 県	-	-	-	-	1	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃 木 県	-	-	-	-	-	-	1	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群 馬 県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼 玉 県	-	-	-	-	2	-	2	31	-	-	-	-	-	4	-	-	-
千 葉 県	-	-	-	2	2	-	3	46	-	-	-	-	-	2	-	-	-
京 都 府	-	-	-	-	6	-	4	281	-	-	-	-	1	12	-	-	-
神 奈 川 県	-	-	-	-	4	-	-	46	-	-	-	-	-	12	-	-	-
新 潟 県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富 山 県	-	-	-	-	1	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石 川 県	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福 井 県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山 梨 県	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長 野 県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	3	-	-	-
岐 阜 県	-	-	-	-	2	-	1	6	-	-	-	-	-	1	-	-	-
愛 知 県	1	-	-	-	1	-	1	19	-	-	-	-	-	1	-	-	-
豊 田 県	1	-	-	-	2	-	2	24	-	-	-	-	-	2	-	-	-
三 重 県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋 賀 府	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	5	-	-	-
京 都 府	-	-	-	-	1	-	2	6	-	-	-	-	-	1	-	-	-
大 阪 府	-	-	-	-	3	-	2	50	-	-	-	-	-	11	-	-	-
兵 庫 県	-	-	-	-	2	-	2	19	-	-	-	-	-	7	-	-	-
淡 路 県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	2	-	-	-
和 歌 山 県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥 取 県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
徳 島 県	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香 川 県	-	-	-	-	1	-	1	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-
高 松 県	-	-	-	-	3	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛 媛 県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高 知 県	-	-	-	-	1	-	1	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福 岡 県	-	-	-	-	3	-	3	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐 賀 県	-	-	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長 崎 県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊 本 県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-
大 分 県	-	-	-	-	1	-	1	2	-	-	-	-	-	2	-	-	-
宮 崎 県	-	-	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿 児 島 県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖 縄 県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-

種	髄膜炎菌性髄膜炎	先天性風疹症候群	炭 疽	ツツガムシ病	デング熱	日本紅斑熱	日本脳炎	乳児ボツリノス症	梅毒
数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数
総	11	-	-	432	11	21	1	-	512
北海道	-	-	-	8	-	-	-	-	8
青森県	-	-	-	3	-	-	-	-	3
岩手県	-	-	-	8	-	-	-	-	6
宮城県	-	-	-	20	-	-	-	-	5
秋田県	-	-	-	5	-	-	-	-	5
山形県	-	-	-	18	-	-	-	-	1
福島県	-	-	-	1	-	-	-	-	5
茨城県	-	-	-	2	-	-	-	-	4
栃木県	-	-	-	18	-	-	-	-	3
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	1
埼玉県	2	-	-	-	1	-	-	-	9
千葉県	1	-	-	33	-	6	-	-	13
東京都	2	-	-	11	7	-	-	-	83
神奈川県	-	-	-	34	-	-	-	-	27
新潟県	-	-	-	16	-	-	-	-	3
富山県	-	-	-	1	-	-	-	-	2
石川県	1	-	-	1	-	-	-	-	2
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	4	-	-	-	-	5
岐阜県	2	-	-	11	-	1	-	-	2
静岡県	-	-	-	18	-	-	-	-	6
愛知県	-	-	-	3	1	-	-	-	17
三重県	-	-	-	3	1	-	-	-	5
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	9
京都府	1	-	-	-	-	-	-	-	9
大阪府	-	-	-	13	-	5	-	-	107
兵庫県	-	-	-	3	1	3	-	-	30
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	5
和歌山県	-	-	-	1	-	-	-	-	5
鳥取県	-	-	-	1	-	-	-	-	1
徳島県	-	-	-	9	-	5	-	-	3
岡山県	-	-	-	3	-	-	-	-	8
広島県	-	-	-	10	-	-	-	-	4
山口県	-	-	-	1	-	-	-	-	31
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	5
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	9
広島県	-	-	-	1	-	-	-	-	7
山口県	1	-	-	7	-	1	-	-	1
徳島県	-	-	-	4	-	-	-	-	38
佐賀県	-	-	-	2	-	-	-	-	3
長崎県	-	-	-	21	-	-	-	-	2
熊本県	-	-	-	6	-	-	-	-	4
大分県	-	-	-	17	-	-	-	-	1
宮崎県	-	-	-	51	-	-	-	-	2
鹿児島県	1	-	-	65	-	-	-	-	9
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	2

数	破傷風 累積報告数	バンコマイシン 耐性腸球菌感染症 累積報告数	20	ハンタウウイルス 肺症候群 累積報告数	Bウイルス病 累積報告数	ブルセラ症 累積報告数	発疹チフス 累積報告数	マラリア 累積報告数	115	ライム病 累積報告数	7	レジオネラ症 累積報告数	125
総	59	20						115		7		125	
北海道	1	-						4		6		-	-
青森県	1	-						-		-		-	-
岩手県	1	-						-		-		-	-
宮城県	4	-						-		-		-	3
秋田県	-	2						-		-		-	1
山形県	-	-						-		-		-	9
福島県	-	-						-		-		-	1
茨城県	1	1						2		-		-	22
栃木県	1	-						6		-		-	4
群馬県	-	-						-		-		-	-
埼玉県	3	2						3		-		-	3
千葉県	2	1						4		-		-	4
東京都	4	5						46		-		-	10
神奈川県	2	1						13		-		-	2
新潟県	1	-						1		-		-	2
富山県	-	-						-		-		-	3
石川県	1	-						-		-		-	-
福井県	-	-						-		-		-	-
長野県	-	1						-		-		-	-
岐阜県	1	-						1		-		-	-
静岡県	2	-						1		-		-	27
愛知県	3	-						7		-		-	1
三重県	-	-						2		-		-	1
滋賀県	-	-						-		-		-	-
京都府	2	-						1		-		-	5
大阪府	3	2						9		-		-	2
兵庫県	4	-						1		-		-	-
奈良県	-	-						-		-		-	-
和歌山県	-	-						-		-		-	-
鳥取県	-	-						-		-		-	-
島根県	1	-						1		-		-	-
岡山県	3	-						-		-		-	1
広島県	2	-						3		-		-	2
山口県	1	-						-		-		-	-
徳島県	1	-						-		-		-	-
香川県	1	-						-		-		-	-
愛媛県	1	-						-		-		-	-
高知県	1	2						3		-		-	2
福岡県	-	-						-		-		-	4
佐賀県	-	-						-		-		-	-
長崎県	1	-						-		-		-	4
熊本県	-	-						-		-		-	-
大分県	3	-						-		-		-	-
宮崎県	7	-						-		-		-	-
鹿児島県	-	2						-		-		-	2
沖縄県	-	-						-		-		-	1

1-2. 平成12年 累積報告数：疾病・都道府県・性別 (女)
 1-2. Number of cumulative cases by disease, prefecture and sex, 2000 (Female)

総数	エボラ出血熱 累積報告数	クリミア ・コンゴ出血熱 累積報告数	ペスト 累積報告数	マールブルグ病 累積報告数	ラッサ熱 累積報告数	コレラ 累積報告数	細菌性赤痢 累積報告数	腸チフス 累積報告数	パラチフス 累積報告数
北海道	-	-	-	-	-	1	13	1	-
青森県	-	-	-	-	-	-	2	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	1	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	1	1	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	3	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	3	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	4	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	1	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	6	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	16	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	3	16	1	2
千葉県	-	-	-	-	-	4	75	5	4
東京都	-	-	-	-	-	-	44	2	1
神奈川県	-	-	-	-	-	-	11	-	1
新潟県	-	-	-	-	-	-	1	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	5	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	1	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	3	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	10	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	5	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	1	13	1	-
愛知県	-	-	-	-	-	1	21	4	-
三重県	-	-	-	-	-	-	4	1	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	5	1	-
京都府	-	-	-	-	-	2	16	3	2
大阪府	-	-	-	-	-	1	33	2	-
兵庫県	-	-	-	-	-	1	17	1	-
奈良県	-	-	-	-	-	2	4	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	4	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	1	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	3	-	-
香川県	-	-	-	-	-	2	9	-	1
高松県	-	-	-	-	-	-	9	-	-
山口県	-	-	-	-	-	1	1	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	3	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	2	17	1	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	2	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	18	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	2	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	4	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	2	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	8	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	5	-	-
計	-	-	-	-	-	22	427	27	11

急性灰白髄炎	ジフテリア	腸管出血性大腸菌感染症	アムールバ赤痢	エキノコックス症	黄熱	オウム病	回歸熱	ウイルス性肝炎
累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数
-	1	2010	37	14	-	11	-	368
-	-	47	-	14	-	-	-	9
-	-	22	-	-	-	-	-	3
-	-	58	-	-	-	-	-	5
-	-	32	2	-	-	-	-	6
-	-	37	-	-	-	-	-	5
-	-	24	-	-	-	-	-	2
-	-	15	2	-	-	1	-	2
-	-	15	-	-	-	-	-	3
-	1	10	-	-	-	-	-	4
-	-	14	-	-	-	-	-	12
-	-	52	2	-	-	1	-	3
-	-	80	1	-	-	1	-	2
-	-	197	14	-	-	3	-	21
-	-	116	3	-	-	-	-	14
-	-	11	-	-	-	-	-	2
-	-	32	-	-	-	-	-	4
-	-	37	-	-	-	-	-	13
-	-	5	1	-	-	1	-	-
-	-	8	-	-	-	-	-	5
-	-	22	-	-	-	1	-	2
-	-	15	-	-	-	-	-	12
-	-	34	-	-	-	-	-	15
-	-	143	2	-	-	-	-	8
-	-	29	-	-	-	-	-	2
-	-	20	-	-	-	-	-	2
-	-	29	2	-	-	-	-	15
-	-	194	2	-	-	1	-	39
-	-	109	3	-	-	-	-	35
-	-	15	-	-	-	-	-	9
-	-	24	-	-	-	-	-	5
-	-	17	-	-	-	-	-	-
-	-	26	-	-	-	-	-	1
-	-	42	1	-	-	-	-	10
-	-	64	-	-	-	1	-	11
-	-	26	-	-	-	-	-	2
-	-	17	-	-	-	-	-	18
-	-	12	-	-	-	-	-	5
-	-	4	-	-	-	-	-	14
-	-	173	2	-	-	-	-	6
-	-	37	-	-	-	-	-	20
-	-	28	-	-	-	-	-	2
-	-	20	-	-	-	-	-	4
-	-	19	-	-	-	-	-	3
-	-	30	-	-	-	1	-	6
-	-	23	-	-	-	-	-	7
-	-	18	-	-	-	-	-	-

北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 福岛県 茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県 新潟県 富山県 石川県 福井県 梨県 長野県 岐阜県 静岡県 愛知県 三重県 滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県 鳥取県 徳島県 岡山県 広島県 山口県 徳島県 香川県 愛媛県 高知県 福岡県 佐賀県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県 沖縄県

種	Q熱 累積報告数	狂犬病 累積報告数	クリプト スポリジウム症 累積報告数	クロイツフェル ・ヤコブ病 累積報告数	劇症型溶血性 レンサ球菌感染症 累積報告数	後天性 免疫不全症候群 累積報告数	コクシジ オイトシス症 累積報告数	ジアルジア症 累積報告数	腎症候性出血熱 累積報告数
総	15	-	1	59	21	121	-	25	-
北海道	3	-	-	1	-	-	-	1	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	6	-	-	-	-	-	-	1	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	12	-	-	-
山形県	-	-	-	-	2	8	-	-	-
福島県	-	-	-	-	1	1	-	-	-
茨城県	-	-	-	2	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	1	2	-	3	-
群馬県	-	-	-	1	5	14	-	1	-
埼玉県	-	-	1	8	4	34	-	1	-
千葉県	-	-	-	2	1	12	-	7	-
東京都	-	-	-	1	1	1	-	-	-
神奈川県	-	-	-	1	-	1	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	1	-	2	-	-	-
石川県	-	-	-	2	-	8	-	-	-
福井県	-	-	-	3	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	5	-	-	1	1	1	-	1	-
岐阜県	-	-	-	4	-	4	-	2	-
静岡県	-	-	-	7	-	27	-	1	-
愛知県	-	-	-	-	-	7	-	2	-
三重県	-	-	-	-	-	2	-	3	-
滋賀県	-	-	-	5	3	1	-	1	-
京都府	-	-	-	7	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	1	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	1	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	1	1	1	-	-	-
香川県	-	-	-	2	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	1	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	1	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	1	-	-	1	-	-	-	1	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	1	-
大分県	-	-	-	2	-	1	-	-	-
宮崎県	-	-	-	1	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	2	-	-	-
						3			

種 数	髄膜炎菌性髄膜炎	先天性風疹症候群	炭 痘	ツツガムシ病	デング熱	日本紅斑熱	日本脳炎	乳児ポツリノス症	梅 毒
	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数	累積報告数
総	4	1	-	359	7	17	6	-	247
北海道	-	-	-	10	-	-	-	-	6
青森県	-	-	-	4	-	-	-	-	2
岩手県	-	-	-	2	-	-	-	-	9
宮城県	1	-	-	28	-	-	-	-	3
秋田県	-	-	-	9	-	-	-	-	7
山形県	-	-	-	22	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	3	-	-	-	-	3
茨城県	-	-	-	6	1	-	-	-	1
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	1
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	27	-	3	-	-	6
千葉県	-	-	-	4	-	-	-	-	10
東京都	-	-	-	10	5	-	-	-	38
神奈川県	1	-	-	11	-	-	-	-	12
新潟県	-	-	-	5	-	-	-	-	3
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	5
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	1	-	-	6	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	20	-	-	-	-	1
静岡県	-	-	-	3	1	-	-	-	4
愛知県	-	-	-	2	-	-	-	-	8
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	4
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	2
京都府	-	1	-	2	-	1	-	-	8
大阪府	-	-	-	3	-	1	-	-	23
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	18
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	6
和歌山県	-	-	-	2	-	1	-	-	1
鳥取県	-	-	-	2	-	-	-	-	1
徳島県	-	-	-	3	-	5	-	-	1
岡山県	-	-	-	1	-	-	-	-	10
広島県	-	-	-	8	-	-	-	-	5
山口県	-	-	-	2	-	-	-	-	6
広島県	-	-	-	1	-	-	-	-	3
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	4
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	4
愛媛県	-	-	-	2	-	2	-	-	2
高知県	-	-	-	3	-	-	-	-	22
福岡県	-	-	-	4	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	9	-	-	1	-	-
長崎県	-	-	-	13	-	-	1	-	-
熊本県	-	-	-	23	-	-	1	-	3
大分県	-	-	-	42	-	-	1	-	-
宮崎県	-	-	-	69	-	-	-	-	2
鹿児島県	-	-	-	-	-	5	-	-	1
沖縄県	1	-	-	-	-	-	-	-	-

破傷風	ハンタウウイルス 肺炎候症 累積報告数	Bウイルス病 累積報告数	ブルセラ症 累積報告数	発疹チフス 累積報告数	マラリア 累積報告数	ライム病 累積報告数	レジオネラ症 累積報告数
32	16	-	-	-	39	5	29
1	-	-	-	-	-	5	1
2	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	1	-	-
-	3	-	-	-	-	-	-
2	-	-	-	-	-	-	9
-	-	-	-	-	1	-	-
1	-	-	-	-	-	-	-
1	-	-	-	-	-	-	1
3	1	-	-	-	2	-	2
-	2	-	-	-	15	-	1
-	1	-	-	-	4	-	1
-	-	-	-	-	1	-	1
2	-	-	-	-	1	-	-
1	-	-	-	-	-	-	-
2	-	-	-	-	-	-	1
1	-	-	-	-	-	-	-
1	-	-	-	-	1	-	3
1	1	-	-	-	1	-	1
-	-	-	-	-	-	-	3
-	-	-	-	-	-	-	1
-	-	-	-	-	1	-	-
-	-	-	-	-	3	-	-
-	-	-	-	-	1	-	1
-	-	-	-	-	1	-	-
1	-	-	-	-	-	-	-
2	-	-	-	-	-	-	1
-	-	-	-	-	2	-	-
-	-	-	-	-	-	-	2
-	-	-	-	-	-	-	-
1	1	-	-	-	-	-	-
1	-	-	-	-	-	-	-
2	1	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
3	1	-	-	-	2	-	-

1-3. 平成12年 累積報告数：疾病・地域ブロック・性別 (総数)
 1-3. Number of cumulative cases by disease, geographical area and sex, 2000 (Total)

	総 数	北 海 道	東 北	関 東	甲 信 越	東 海	北 陸	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 繩
エボラ出血熱	累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クリミア・コンゴ出血熱	累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ペスト	累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マールブルグ病	累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ラッサ熱	累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コレラ	累積報告数	58	4	5	17	8	10	8	6	93		
細菌性赤痢	累積報告数	843	26	35	329	105	159	96	23	4	8	
腸チフス	累積報告数	86	3	1	34	13	23	4	4	1	-	1
パラチフス	累積報告数	20	-	-	13	2	4	1	-	-	-	-
急性灰白髄炎	累積報告数	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ジフテリア	累積報告数	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
腸管出血性大腸菌感染症	累積報告数	3642	101	343	892	515	716	432	643	14		
アメーバ赤痢	累積報告数	378	6	16	164	40	113	25	14	-		
エキノкокクス症	累積報告数	22	21	1	-	-	-	-	-	-	-	-
黄熱	累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オウム病	累積報告数	18	-	3	8	1	1	3	2	-	-	-
回帰熱	累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ウイルス性肝炎	累積報告数	991	18	52	245	141	279	142	114	1		
G熱	累積報告数	24	8	8	-	7	-	1	-	-	-	-
狂犬病	累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クリプトスポリジウム症	累積報告数	3	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-
クロイツフェルト・ヤコブ病	累積報告数	108	3	9	38	21	18	9	10	4		
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	累積報告数	47	1	3	24	7	7	4	1			

	総	北海道	東北	関東甲信越	東海・北陸	近畿	中国・四国	九州・沖縄
	794	9	10	571	76	87	17	24
後天性免疫不全症候群								
累積報告数	1	-	-	1	-	-	-	-
コクシジオイド症								
累積報告数	98	2	2	46	8	31	6	3
ジアルジア症								
胃症候性出血熱								
累積報告数	15	-	1	7	3	1	-	3
髄膜炎菌性髄膜炎								
累積報告数	1	-	-	-	-	1	-	-
先天性風疹症候群								
炭疽								
累積報告数	791	-	137	186	67	21	51	329
ツツガムシ病								
累積報告数	18	-	-	14	2	2	-	-
デング熱								
累積報告数	38	-	-	9	1	10	13	5
日本紅斑熱								
累積報告数	7	-	-	-	-	-	4	3
日本髄炎								
乳児ボツリノス症								
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-
梅毒								
累積報告数	759	14	49	222	57	223	105	89
破傷風								
累積報告数	91	2	10	23	12	12	14	18
バンコマイシン耐性腸球菌感染症								
累積報告数	36	-	5	17	1	6	-	7
ハンタウイルス肺症候群								
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-
Eウイルス病								
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-
ブルセラ症								
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-
発疹チフス								
累積報告数	154	4	4	98	15	18	7	8
マラリア								
累積報告数	12	11	-	-	-	1	-	-
ライム病								
累積報告数	154	1	14	62	46	10	10	11
レジオネラ症								

1-3. 平成12年 累積報告数：疾病・地域ブロック・性別 (男)
 1-3. Number of cumulative cases by disease, geographical area and sex, 2000 (Male)

	総数	北海道	東北	北関東	東甲信越	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州	沖縄
エボラ出血熱	累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クリミア・コンゴ出血熱	累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ペスト	累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マールブルグ病	累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ラッサ熱	累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コレラ	累積報告数	36	3	4	10	6	4	5	4	5	4	4
細菌性赤痢	累積報告数	416	13	23	143	55	80	51	51	51	51	51
腸チフス	累積報告数	59	2	1	24	7	15	4	4	4	6	6
パラチフス	累積報告数	9	-	-	5	2	2	-	-	-	-	-
急性灰白髄炎	累積報告数	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
ジフテリア	累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
腸管出血性大腸菌感染症	累積報告数	1632	54	155	367	220	325	216	216	216	295	295
アメーバ赤痢	累積報告数	341	6	12	144	37	106	24	24	24	12	12
エキノкокクス症	累積報告数	8	7	1	-	-	-	-	-	-	-	-
黄熱	累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オウム病	累積報告数	7	-	2	2	-	-	2	2	2	1	1
回帰熱	累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ウイルス性肝炎	累積報告数	623	9	29	177	87	174	75	75	75	72	72
Q熱	累積報告数	9	5	2	-	2	-	-	-	-	-	-
狂犬病	累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クリプトスポリジウム症	累積報告数	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
クロイツフェルト・ヤコブ病	累積報告数	49	3	6	16	7	6	5	5	5	6	6
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	累積報告数	26	1	3	10	5	4	2	2	2	1	1

	総	北	東	北	関	東	近	中	四	九	沖
	数	海	京	北	東	海	畿	国	国	州	縄
	673	道	9	10	甲	・	59	15	18		
					信	東					
					越	海					
					479						
後天性免疫不全症候群											
コクシジオイド症	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
ジアリジア症	73	1	1	1	35	4	25	4	3		
腎症候性出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
菌膜炎菌性髄膜炎	11	-	-	-	5	3	1	-	2		
先天性風疹症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
炭 疽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ツツガムシ病	432	-	-	62	119	37	16	32	166		
デング熱	11	-	-	-	8	1	2	-	-		
日本紅斑熱	21	-	-	-	6	1	8	6	-		
日本髄炎	1	-	-	-	-	-	-	1	-		
乳児ボツリノス症	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
梅毒	512	8	8	25	149	35	165	69	61		
破 傷 風	59	1	1	6	14	7	9	10	12		
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	20	-	-	2	11	-	3	-	4		
ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
Bウイルス病	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
ブルセラ症	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
発疹チフス	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
マラリア	115	4	4	3	75	12	12	5	4		
ライム病	7	-	6	-	-	-	1	-	-		
レジオネラ症	125	-	-	14	47	38	8	7	11		

1-3. 平成12年 累積報告数：疾病・地域ブロック・性別 (女)
 1-3. Number of cumulative cases by disease, geographical area and sex, 2000 (Female)

	総数	北海道	東北	北関東	東甲信越	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州	沖縄
エボラ出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ペスト	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マールブルグ病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ラッサ熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コレラ	22	1	1	7	2	6	3	2				
細菌性赤痢	427	13	12	186	50	79	45	42				
腸チフス	27	1	-	10	6	8	-	2				
パラチフス	11	-	-	8	-	2	1	-				
急性灰白髄炎	-	-	-	-	-	-	-	-				
ジフテリア	1	-	-	1	-	-	-	-				
腸管出血性大腸菌感染症	2010	47	188	525	295	391	216	348				
アメーバ赤痢	37	-	4	20	3	7	1	2				
エキノкокクス症	14	14	-	-	-	-	-	-				
黄熱	-	-	-	-	-	-	-	-				
オウム病	11	-	1	6	1	1	1	1				
回帰熱	-	-	-	-	-	-	-	-				
ウィルス性肝炎	368	9	23	68	54	105	67	42				
Q熱	15	3	6	-	5	-	1	-				
狂犬病	-	-	-	-	-	-	-	-				
クリプトスポリジウム症	1	-	-	1	-	-	-	-				
クロイツフェルト・ヤコブ病	59	-	3	22	14	12	4	4				
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	21	-	-	14	2	3	2	-				

	総数	北海道	東北	関東甲信越	東海・北陸	近畿	中国・四国	九州・沖縄
後天性免疫不全症候群	121	-	-	92	17	4	2	6
コクシジオイデス症	-	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数	25	1	1	11	4	6	2	-
ジアルジア症	-	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数	4	-	1	2	-	-	-	1
腎症候性出血熱	1	-	-	-	-	1	-	-
髄膜炎菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数	359	-	75	67	30	5	19	163
炭疽	7	-	-	6	1	-	-	-
ツツガムシ病	17	-	-	3	-	2	7	5
デング熱	6	-	-	-	-	-	3	3
日本紅斑熱	-	-	-	-	-	-	-	-
日本脳炎	247	6	24	73	22	58	36	28
乳児ボツリノス症	32	1	4	9	5	3	4	6
梅毒	16	-	3	6	1	3	-	3
破傷風	-	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-	-
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	-	-	-	-	-	-
ハンタウイルス肺炎候群	-	-	-	-	-	-	-	-
Bウイルス病	-	-	-	-	-	-	-	-
ブルセラ症	-	-	-	-	-	-	-	-
発疹チアス	-	-	-	-	-	-	-	-
マラリア	39	-	1	23	3	6	2	4
ライム病	5	5	-	-	-	-	-	-
レジオネラ症	29	1	-	15	8	2	3	-

1-4. 平成12年 累積報告数：疾病・年齢階級別
 1-4. Number of cumulative cases by disease and age group, 2000

	総数	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39
エボラ出血熱										
累積報告数										
クリミア・コンゴ出血熱										
累積報告数										
ペスト										
累積報告数										
マールブルグ病										
累積報告数										
ラッサ熱										
コレラ	58	1	1	1	1	1	8	5	6	7
累積報告数										
細菌性赤痢	843	1	25	43	13	32	192	173	93	50
累積報告数										
腸チフス	86	1	1	1	2	5	32	12	8	5
累積報告数										
パラチフス	20	-	1	-	1	1	5	3	3	-
累積報告数										
急性灰白髄炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
累積報告数										
ジフテリア	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-
累積報告数										
腸管出血性大腸菌感染症	3642	69	929	555	252	201	257	208	168	139
累積報告数										
アメーバ赤痢	378	-	-	1	-	2	14	28	42	48
累積報告数										
エキノコックス症	22	-	-	-	-	-	-	1	2	2
累積報告数										
黄熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数										
オウム病	18	-	-	-	-	-	1	-	1	2
累積報告数										
回帰熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数										
ウイルス性肝炎	991	3	6	16	15	61	115	132	103	81
累積報告数										
Q熱	24	-	1	-	2	1	-	2	2	2
累積報告数										
狂犬病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数										
クリプトスポリジウム症	3	-	-	-	-	-	2	-	1	-
累積報告数										
クロイツフェルト・ヤコブ病	108	-	-	-	-	-	-	1	-	1
累積報告数										
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	47	-	-	1	-	-	1	-	1	4
累積報告数										

	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70歳以上
エボラ出血熱	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数							
クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数							
ペスト	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数							
マールブルグ病	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数							
ラッサ熱	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数							
コレラ	2	3	7	5	2	1	9
累積報告数							
細菌性赤痢	38	28	39	32	30	24	30
累積報告数							
腸チフス	4	1	3	2	2	2	5
累積報告数							
パラチフス	1	-	2	-	-	1	2
累積報告数							
急性灰白髄炎	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数							
ジフテリア	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数							
腸管出血性大腸菌感染症	109	107	141	125	95	59	228
累積報告数							
アメーバ赤痢	37	48	53	46	24	18	17
累積報告数							
エキソコックス症	1	1	1	1	2	1	10
累積報告数							
黄熱	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数							
オウム病	2	3	2	2	2	1	2
累積報告数							
回帰熱	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数							
ウイルス性肝炎	72	83	98	55	33	48	70
累積報告数							
G熱	3	1	-	1	3	2	4
累積報告数							
狂犬病	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数							
クリプトスポリジウム症	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数							
クロイツフェルト・ヤコブ病	3	2	5	17	16	23	40
累積報告数							
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	3	5	4	5	8	13
累積報告数							

	総数	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39
後天性免疫不全症候群	794	1	3	1	-	4	59	125	163	107
累積報告数										
コクシジオイデス症	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-
累積報告数										
ジアルジア症	98	-	1	1	-	-	22	11	8	6
腎症候性出血熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数										
髄膜炎菌性髄膜炎	15	2	-	2	2	3	-	1	-	-
累積報告数										
先天性風疹症候群	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数										
炭疽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数										
ツツガムン病	791	-	2	5	9	14	7	11	8	14
累積報告数										
デング熱	18	-	-	-	-	-	4	4	1	3
累積報告数										
日本紅斑熱	38	-	-	1	-	1	-	1	1	1
累積報告数										
日本脳炎	7	-	-	-	-	-	-	-	-	1
累積報告数										
乳児ボツリヌス症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数										
梅毒	759	6	1	-	-	17	74	94	67	61
累積報告数										
破傷風	91	-	-	-	-	1	-	2	1	2
累積報告数										
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	36	4	-	-	-	-	-	3	-	-
累積報告数										
ハンタウイルス肺炎症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数										
Bウイルス病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数										
ブルセラ症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数										
発疹チフス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数										
マラリア	154	-	1	1	1	4	27	31	25	20
累積報告数										
ライム病	12	-	-	-	1	-	-	1	1	-
累積報告数										
レジオネラ症	154	3	2	-	-	-	1	3	1	2
累積報告数										

	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70歳以上
後天性免疫不全症候群	69	77	73	55	36	14	7
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-
コクシジオイデス症	4	6	9	8	9	4	9
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-
ジアルジア症	-	-	1	1	2	-	1
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-
胃症候性出血熱	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-
髄膜炎菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-
先天性風疹症候群	-	-	-	-	-	-	-
炭 疽	36	59	75	59	96	116	280
累積報告数	4	1	1	-	-	-	-
ツツガムシ病	-	2	4	2	3	7	15
累積報告数	1	-	-	-	-	2	3
デング熱	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-
日本紅斑熱	51	52	67	45	33	40	151
累積報告数	1	7	5	6	11	13	42
日本脳炎	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-
乳児ボツリノス症	-	-	-	-	-	-	-
梅 毒	51	52	67	45	33	40	151
累積報告数	1	7	5	6	11	13	42
破 傷 風	-	-	1	3	4	1	20
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-
ハンタウイルス肺炎症候群	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-
ヒウイルス病	-	-	-	-	-	-	-
ブルセラ症	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-
発疹チフス	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数	12	7	13	5	5	2	-
マラリア	1	1	2	2	-	1	2
累積報告数	2	13	16	20	27	24	40
ライム病	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-
レジオネラ症	-	-	-	-	-	-	-
累積報告数	-	-	-	-	-	-	-

2. 4 類定点把握疾病 (週報)

2. Sentinel-reporting diseases (Category IV Weekly)

週次	インフルエンザ Influenza		咽頭結核熱 Pharyngoconjunctival fever		A群溶血性レンカ球菌咽頭炎 Group A streptococcal pharyngitis		感染性胃腸炎 Infectious gastroenteritis		水痘 Varicella		手足口病 Hand, foot and mouth disease		Erythema infectiosum		突発性発疹 Exanthem subitum		百日咳 Pertussis	
	報告数 number of cases	定点当たり報告数 per sentinel	報告数 number of cases	定点当たり報告数 per sentinel	報告数 number of cases	定点当たり報告数 per sentinel	報告数 number of cases	定点当たり報告数 per sentinel	報告数 number of cases	定点当たり報告数 per sentinel	報告数 number of cases	定点当たり報告数 per sentinel	報告数 number of cases	定点当たり報告数 per sentinel	報告数 number of cases	定点当たり報告数 per sentinel	報告数 number of cases	定点当たり報告数 per sentinel
総数	769964	167.93	20295	6.81	158143	53.10	886174	297.57	92.36	205365	68.96	34253	11.50	126785	42.57	3804	1.28	
01週	28022	6.15	98	0.03	1671	0.57	23252	7.88	3.21	228	0.08	469	0.16	1952	0.66	46	0.02	
02週	46959	10.24	59	0.02	2060	0.70	22798	7.72	2.43	241	0.08	622	0.21	2441	0.83	59	0.02	
03週	106630	23.32	76	0.03	3142	1.07	64029	8.22	2.18	322	0.11	690	0.23	2296	0.78	38	0.01	
04週	156445	34.26	95	0.03	2930	0.99	23181	7.87	2.04	280	0.10	686	0.23	2123	0.74	43	0.01	
05週	165423	36.16	90	0.03	2601	0.88	22706	7.69	1.86	214	0.07	546	0.18	2123	0.72	57	0.02	
06週	113057	24.70	80	0.03	2213	0.75	20810	7.05	1.77	186	0.06	406	0.14	1967	0.67	32	0.01	
07週	63079	13.80	100	0.03	3283	1.12	25069	8.50	2.01	190	0.06	382	0.13	2048	0.69	71	0.02	
08週	38189	8.36	108	0.04	2810	0.95	28347	9.60	1.86	207	0.07	382	0.13	2155	0.73	69	0.02	
09週	21099	4.62	83	0.03	3323	1.12	32233	10.90	1.94	260	0.09	377	0.13	2125	0.72	50	0.02	
10週	11016	2.41	93	0.03	3656	1.24	35157	11.89	1.94	260	0.09	417	0.14	2257	0.76	46	0.02	
11週	5448	1.20	107	0.04	3750	1.28	34584	11.78	1.86	267	0.09	403	0.14	2133	0.73	62	0.02	
12週	2315	0.51	104	0.04	2923	1.00	27522	9.43	2.00	255	0.09	417	0.14	2031	0.70	43	0.01	
13週	1176	0.26	83	0.03	2747	0.94	24584	8.38	1.98	264	0.09	503	0.17	2169	0.74	73	0.03	
14週	590	0.13	109	0.04	2437	0.82	21422	7.19	2.17	320	0.11	615	0.21	2471	0.83	79	0.03	
15週	466	0.10	124	0.04	3028	1.01	20283	6.76	1.87	416	0.14	679	0.23	2568	0.86	89	0.03	
16週	331	0.07	151	0.05	3961	1.32	12123	5.797	1.94	565	0.19	810	0.27	2540	0.85	104	0.03	
17週	243	0.05	165	0.06	3893	1.30	19630	6.54	1.89	740	0.25	739	0.25	2083	0.69	111	0.04	
18週	149	0.03	201	0.07	3198	1.07	14095	4.70	2.12	770	0.26	629	0.21	1721	0.57	72	0.02	
19週	188	0.04	222	0.07	4145	1.38	17349	5.79	3.16	1007	0.34	824	0.27	2446	0.82	119	0.04	
20週	133	0.03	301	0.10	5079	1.70	17377	5.80	2.61	1683	0.56	924	0.31	2880	0.96	102	0.03	
21週	118	0.03	419	0.14	5276	1.76	16679	5.57	2.82	2966	0.99	1292	0.43	2904	0.97	99	0.03	
22週	137	0.03	397	0.13	4939	1.65	14838	4.95	2.82	3929	1.31	1187	0.40	2836	0.95	95	0.03	
23週	124	0.03	440	0.15	5043	1.68	13376	4.46	2.36	5599	1.87	1162	0.39	2970	0.99	94	0.03	
24週	110	0.02	492	0.16	5263	1.75	12757	4.25	2.58	7455	2.48	1102	0.37	2938	0.98	130	0.04	
25週	85	0.02	525	0.18	4586	1.54	11322	3.79	2.27	10169	3.40	1359	0.45	2887	0.97	104	0.03	
26週	77	0.02	665	0.22	4317	1.45	9922	3.33	2.29	13449	4.52	1354	0.45	2918	0.98	116	0.04	
27週	70	0.02	500	0.30	3376	1.13	8060	2.69	1.67	16761	5.59	1118	0.37	2781	0.93	97	0.03	
28週	68	0.01	957	0.32	3011	1.00	7771	2.59	1.73	17576	5.86	1190	0.40	2772	0.92	111	0.04	
29週	59	0.01	1157	0.39	2304	0.77	6114	2.04	1.26	16108	5.38	908	0.30	2562	0.86	78	0.03	
30週	45	0.01	1258	0.42	1870	0.63	5942	1.99	1.22	13385	4.48	702	0.24	2666	0.89	107	0.04	
31週	57	0.01	1093	0.36	1419	0.47	5543	1.85	0.93	10881	3.63	599	0.20	2603	0.87	90	0.03	
32週	29	0.01	956	0.32	1173	0.40	4903	1.65	0.83	8449	2.85	503	0.17	2467	0.83	76	0.03	
33週	39	0.01	332	0.27	941	0.32	3955	1.35	0.68	5316	1.81	365	0.12	2024	0.69	85	0.03	
34週	46	0.01	798	0.27	1133	0.38	4889	1.64	0.67	4529	1.52	524	0.18	2815	0.94	103	0.03	
35週	49	0.01	786	0.26	1176	0.39	5263	1.76	0.55	5166	1.73	519	0.17	3111	1.04	111	0.04	
36週	48	0.01	843	0.28	1363	0.45	5434	1.81	0.55	4948	1.63	439	0.15	2960	0.99	99	0.03	
37週	54	0.01	1436	0.21	1436	0.48	5268	1.76	0.49	4827	1.61	388	0.13	2803	0.94	99	0.03	
38週	64	0.01	487	0.16	1304	0.44	5079	1.70	0.54	4957	1.65	399	0.13	2624	0.88	75	0.03	
39週	76	0.02	347	0.12	1631	0.55	5440	1.82	0.57	4329	1.45	343	0.11	2705	0.90	91	0.03	
40週	76	0.02	260	0.09	2054	0.69	5703	1.91	0.63	3730	1.25	360	0.12	2575	0.86	63	0.02	
41週	93	0.02	270	0.09	1761	0.60	5272	1.78	0.68	3468	1.17	375	0.13	2344	0.79	62	0.02	
42週	139	0.03	273	0.09	2277	0.76	6316	2.11	0.82	3222	1.08	367	0.12	2537	0.85	65	0.02	
43週	135	0.03	187	0.06	2878	0.96	7114	2.38	0.87	3180	1.06	464	0.15	2433	0.81	62	0.02	
44週	196	0.04	250	0.08	3029	1.01	7710	2.57	1.19	3294	1.10	419	0.14	2162	0.72	44	0.01	
45週	249	0.05	262	0.09	3267	1.09	9922	3.31	0.92	3219	1.07	478	0.16	2172	0.72	43	0.01	
46週	294	0.06	257	0.09	3763	1.26	13338	4.46	1.70	3274	1.09	522	0.17	2329	0.78	34	0.01	
47週	375	0.08	318	0.11	3915	1.31	16249	5.43	1.81	2903	0.97	576	0.19	2215	0.74	26	0.01	
48週	667	0.15	310	0.10	4217	1.41	22617	7.56	2.38	2841	0.95	654	0.22	2328	0.78	31	0.01	
49週	1058	0.23	380	0.13	4748	1.59	33436	11.19	2.41	2214	0.74	707	0.24	2274	0.76	42	0.01	
50週	1264	0.27	396	0.13	4738	1.58	44608	14.89	2.91	1912	0.64	791	0.26	2382	0.80	42	0.01	
51週	1494	0.32	403	0.13	4474	1.49	46526	15.52	3.09	1454	0.48	828	0.28	2163	0.72	37	0.01	
52週	1611	0.36	361	0.12	3511	1.19	39107	13.26	8902	1180	0.40	739	0.25	1934	0.66	28	0.01	
53週	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

風 疹 Rubella	ヘルパンギーナ herpangina	麻疹(成人麻疹を除く) Measles in adults	流行性腮腺炎 Mumps	急性出血性結膜炎 Acute hemorrhagic conjunctivitis	流行性角膜炎 Epidemic keratoconjunctivitis	急性脳炎(日本脳炎を除く) Acute encephalitis(excluding Japanese encephalitis)	細菌性髄膜炎 Bacterial meningitis	無菌性髄膜炎 Aseptic meningitis
報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases	報告数 number of cases
定率 per sentinel	定率 per sentinel	定率 per sentinel	定率 per sentinel	定率 per sentinel	定率 per sentinel	定率 per sentinel	定率 per sentinel	定率 per sentinel
3123	147275	22552	132877	1430	40873	149	256	1873
1.05	49.45	7.57	44.62	2.29	65.40	0.32	0.56	4.08
0.01	0.03	0.05	0.66	0.05	0.59	0.01	0.01	0.01
0.01	0.03	0.07	0.61	0.04	0.96	0.01	0.02	0.04
0.01	0.04	0.06	0.41	0.03	0.88	0.01	0.01	0.02
0.01	0.02	0.08	1.254	0.03	0.79	0.01	0.01	0.01
0.02	0.03	0.06	0.42	0.07	0.82	0.01	0.01	0.02
0.01	0.01	0.07	0.36	0.02	0.77	0.01	0.00	0.03
0.01	0.02	0.08	0.48	0.04	0.93	0.01	0.01	0.02
0.01	0.03	0.09	0.50	0.04	0.97	0.00	0.00	0.02
0.02	0.03	0.10	0.47	0.03	0.95	0.01	0.01	0.04
0.02	0.03	0.14	0.59	0.06	1.01	0.01	0.01	0.02
0.02	0.03	0.14	0.61	0.06	1.01	0.00	0.01	0.03
0.02	0.03	0.16	0.58	0.06	1.00	0.01	0.01	0.02
0.02	0.04	0.21	0.62	0.05	1.07	0.00	0.02	0.03
0.03	0.04	0.24	0.63	0.04	1.00	0.00	0.01	0.04
0.03	0.06	0.24	0.63	0.04	1.00	0.00	0.01	0.02
0.03	0.08	0.25	0.58	0.04	1.02	0.01	0.02	0.02
0.03	0.08	0.27	0.53	0.05	0.94	0.01	0.01	0.04
0.03	0.08	0.26	0.53	0.05	0.90	0.01	0.01	0.03
0.03	0.14	0.34	0.76	0.06	1.30	0.01	0.02	0.05
0.05	0.14	0.32	0.81	0.07	1.24	0.01	0.02	0.06
0.04	0.22	0.32	0.81	0.07	1.24	0.01	0.02	0.06
0.04	0.36	0.30	0.70	0.05	1.15	0.01	0.01	0.07
0.05	0.65	0.29	0.94	0.06	1.36	0.01	0.01	0.10
0.04	1.07	0.26	0.91	0.04	1.34	0.00	0.01	0.13
0.04	1.66	0.24	0.97	0.04	1.19	0.01	0.00	0.14
0.04	2.80	0.25	0.99	0.04	1.37	0.01	0.01	0.15
0.04	11767	0.20	1.09	0.04	1.42	0.01	0.03	0.16
0.03	17113	0.20	1.02	0.08	1.56	0.00	0.01	0.20
0.02	18180	0.20	1.10	0.04	1.63	0.00	0.01	0.23
0.02	16888	0.19	1.12	0.04	1.48	0.00	0.02	0.24
0.03	13092	0.18	1.07	0.07	1.60	0.00	0.03	0.25
0.02	9993	0.17	1.09	0.04	1.58	0.00	0.01	0.21
0.01	7105	0.16	0.86	0.04	1.49	0.00	0.00	0.18
0.01	4530	0.13	0.79	0.03	1.44	0.01	0.01	0.14
0.02	4042	0.12	0.89	0.06	1.83	0.01	0.01	0.13
0.01	3690	0.11	0.71	0.05	1.67	0.02	0.01	0.11
0.01	3137	0.09	0.69	0.04	1.75	0.00	0.01	0.11
0.01	2895	0.08	0.73	0.03	1.52	0.01	0.01	0.10
0.01	2232	0.06	0.64	0.05	1.64	0.01	0.00	0.09
0.01	1773	0.07	0.94	0.04	1.73	0.01	0.01	0.06
0.01	1403	0.06	0.82	0.03	1.56	0.01	0.01	0.07
0.01	1107	0.05	0.85	0.03	1.34	0.01	0.01	0.08
0.01	880	0.06	1.12	0.04	1.47	0.00	0.00	0.05
0.01	842	0.06	0.89	0.03	1.43	0.00	0.02	0.06
0.01	789	0.06	0.98	0.03	1.07	0.01	0.00	0.05
0.02	704	0.06	1.35	0.04	1.29	0.01	0.02	0.08
0.01	567	0.06	1.22	0.04	1.32	0.01	0.02	0.08
0.01	467	0.06	0.83	0.03	1.24	0.01	0.01	0.05
0.01	534	0.06	1.32	0.04	1.24	0.00	0.02	0.05
0.01	402	0.08	1.45	0.03	1.30	0.00	0.02	0.05
0.01	347	0.09	1.60	0.03	1.30	0.01	0.01	0.04
0.01	288	0.11	1.52	0.04	1.40	0.00	0.00	0.05
0.01	226	0.08	1.55	0.05	1.18	0.01	0.00	0.03
0.01	167	0.06	1.49	0.05	1.06	0.01	0.00	0.03

総 数	マイコプラズマ肺炎 Mycoplasma pneumoniae		クラミジア肺炎(オウム癆を除く) Chlamydial pneumonia (excluding psittacosis)		成人麻疹 Measles in adults	
	報告数 number of cases	定点当たり報告数 per sentinel	報告数 number of cases	定点当たり報告数 per sentinel	報告数 number of cases	定点当たり報告数 per sentinel
01週	32	0.07	-	-	1	0.00
02週	29	0.06	2	0.00	2	0.00
03週	25	0.06	9	0.02	2	0.00
04週	40	0.09	4	0.01	3	0.01
05週	27	0.06	8	0.02	1	0.00
06週	17	0.04	-	-	4	-
07週	30	0.07	8	0.02	4	0.01
08週	28	0.06	10	0.02	2	0.00
09週	31	0.07	3	0.01	3	0.01
10週	41	0.09	2	0.00	3	0.01
11週	23	0.05	4	0.01	3	0.01
12週	17	0.04	7	0.02	2	0.00
13週	24	0.05	6	0.01	7	0.02
14週	21	0.05	2	0.00	9	0.02
15週	22	0.05	9	0.02	10	0.02
16週	18	0.04	8	0.02	15	0.03
17週	27	0.06	5	0.01	15	0.03
18週	11	0.02	3	0.01	6	0.01
19週	20	0.04	4	0.01	27	0.06
20週	28	0.06	4	0.01	20	0.04
21週	34	0.07	2	0.00	16	0.03
22週	35	0.08	5	0.01	26	0.06
23週	32	0.07	3	0.01	28	0.06
24週	51	0.11	3	0.01	18	0.04
25週	28	0.06	3	0.01	23	0.05
26週	30	0.07	4	0.01	13	0.03
27週	41	0.09	4	0.01	17	0.04
28週	37	0.08	1	0.00	15	0.03
29週	24	0.05	2	0.00	15	0.03
30週	35	0.08	7	0.02	21	0.05
31週	44	0.10	2	0.00	8	0.02
32週	39	0.08	4	0.01	5	0.01
33週	37	0.08	-	-	9	0.02
34週	42	0.09	1	0.00	5	0.01
35週	34	0.07	2	0.00	6	0.01
36週	35	0.08	2	0.00	4	0.01
37週	28	0.06	1	0.00	4	0.01
38週	38	0.08	2	0.00	6	0.01
39週	45	0.10	3	0.01	4	0.01
40週	53	0.12	-	-	5	0.01
41週	48	0.11	3	0.01	5	0.01
42週	59	0.13	2	0.00	3	0.01
43週	87	0.19	3	0.01	-	-
44週	48	0.10	1	0.00	-	-
45週	66	0.14	-	-	2	0.00
46週	73	0.16	2	0.00	3	0.01
47週	76	0.16	1	0.00	2	0.00
48週	96	0.21	1	0.00	4	0.01
49週	72	0.16	2	0.00	4	0.01
50週	72	0.16	3	0.01	2	0.00
51週	83	0.18	7	0.02	6	0.01
52週	57	0.13	4	0.01	14	0.03
53週	-	-	-	-	-	-

(総数)

2-2. 平成12年 累積報告数・定点当り累積報告数・疾病・都道府県・性別 (Total)

感染症	インフルエンザ	咽頭結核菌	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳
累積	定点当り	累積	定点当り	累積	定点当り	累積	定点当り	累積	定点当り
総	769964	20295	158143	886174	275036	205365	34253	126785	3904
北海道	153.49	456	8995	18842	129.05	8715	2681	5040	51
青森県	202.37	89	1252	4942	111.90	1607	672	1121	25
岩手県	222.90	41	1685	5977	87.37	851	796	1313	35
宮城県	145.54	184	3254	10906	114.25	2791	1438	3285	106
秋田県	199.75	111	2332	10906	82.41	712	582	1235	31
山形県	231.83	99	2749	11430	146.14	4269	833	1567	71
福島県	155.91	151	1678	15096	99.17	2229	875	1964	103
茨城県	103.17	88	3271	16333	74.13	3448	592	1980	59
栃木県	148.61	125	3721	10238	76.64	4704	175	1901	25
群馬県	168.54	127	5063	14975	100.67	7147	507	2454	43
埼玉県	156.71	1117	11218	50831	89.14	13676	2295	6733	149
千葉県	157.94	604	9957	38634	99.34	8270	2699	5414	152
東京都	99.55	489	33070	229.65	48.41	6464	1739	3660	56
神奈川県	143.41	1018	9331	56870	82.80	12506	4017	9990	104
新潟県	226.60	441	6178	277.41	82.80	3166	1263	2795	153
富山県	317.44	99	1954	9545	94.14	1378	83	46.58	18
石川県	247.67	200	1273	437.07	114.62	1753	210	1100	25
福井県	261.33	107	1181	562.52	128.10	1323	186	1090	25
山梨県	61.61	77	1021	182.96	62.92	967	186	527	3
長野県	219.84	631	3441	18605	109.80	4209	1131	2360	36
岐阜県	173.47	197	2943	9755	83.42	1842	248	1607	52
静岡県	188.64	1132	4209	32110	112.15	6623	652	4643	163
愛知県	176.22	631	4967	252.36	108.36	3772	2494	7756	213
三重県	261.31	305	2270	1177.47	70.97	3743	230	2792	51
滋賀県	156.38	167	1604	175.33	70.97	1364	70	1005	41
京都府	141.51	238	2320	342.35	66.48	3564	390	2560	55
大阪府	87.92	1913	6454	40697	68.06	12430	874	7032	294
兵庫県	158.47	1532	5111	369.80	104.98	11493	875	6410	214
奈良県	142.30	111	1276	296.68	90.24	4963	142	1318	44
和歌山県	208.90	925	38.94	7942	112.94	3737	165	1281	49
鳥取県	173.47	197	2943	9755	83.42	1842	248	1607	52
徳島県	188.64	1132	4209	32110	112.15	6623	652	4643	163
香川県	176.22	631	4967	252.36	108.36	3772	230	2792	51
愛媛県	261.31	305	2270	1177.47	70.97	1364	70	1005	41
高知県	156.38	167	1604	175.33	70.97	1364	70	1005	41
福岡県	141.51	238	2320	342.35	66.48	3564	390	2560	55
大分県	87.92	1913	6454	40697	68.06	12430	874	7032	294
佐賀県	158.47	1532	5111	369.80	104.98	11493	875	6410	214
熊本県	142.30	111	1276	296.68	90.24	4963	142	1318	44
鹿児島県	208.90	925	38.94	7942	112.94	3737	165	1281	49
沖縄県	189.18	221	4784	11091	101.37	1767	94	1186	28
鹿児島	194.59	91	670	5854	91.14	1267	53	681	48
宮崎県	156.40	872	2085	14727	86.02	1589	363	1882	128
鹿児島	174.41	1015	2994	22844	76.53	3922	457	2937	128
鹿児島	211.04	461	3313	69.02	108.48	3299	213	2862	75
鹿児島	189.84	527	688	6354	107.35	1560	64	1161	56
鹿児島	109.02	501	973	269.44	84.03	1968	268	1471	51
鹿児島	261.77	789	2152	455.36	103.82	2891	155	2171	34
鹿児島	192.23	255	1523	6835	112.15	1200	99	1108	175
鹿児島	199.38	377	3561	35905	460.32	8294	1149	3814	175
鹿児島	183.03	28	1232	7819	131.13	3928	415	1904	15
鹿児島	157.40	60	965	8697	80.65	3275	158	1459	45
鹿児島	172.10	394	1929	323.59	126.92	8185	583	2924	86
鹿児島	258.61	550	2466	18180	133.00	3797	726	2360	126
鹿児島	201.75	462	109.81	20402	141.65	2764	425	2395	90
鹿児島	168.64	208	2279	354.92	97.61	5842	213	2499	161
鹿児島	158.02	99	918	1789	111.59	1681	111	755	26

種	風疹		ヘルパンギーナ		麻疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	累積	定ポイント	累積	定ポイント	累積	定ポイント	累積	定ポイント	累積	定ポイント	累積	定ポイント	累積	定ポイント	累積	定ポイント	累積	定ポイント
総	3123	1.05	147275	49.45	22552	7.57	132877	44.52	1430	2.29	40873	55.40	149	0.32	256	0.56	1573	4.08
北海道	121	0.83	4809	32.94	889	6.09	8486	58.12	28	0.97	1176	40.55	-	-	2	0.09	76	3.30
青森県	50	1.22	1600	52.68	133	3.24	2227	54.32	8	0.73	393	35.73	-	-	-	-	5	1.00
岩手県	33	0.87	1898	49.95	456	12.00	811	21.34	40	3.33	533	44.42	-	-	3	0.16	3	0.16
宮城県	48	1.04	5772	101.26	274	4.81	816	10.12	17	1.70	285	28.50	1	0.09	7	0.64	4	0.36
秋田県	34	1.00	1964	57.76	22	0.65	576	24.00	5	0.83	219	36.50	-	-	2	0.29	9	1.29
山形県	4	0.14	1080	37.24	5	0.17	719	24.79	8	0.80	279	34.88	4	0.44	6	0.67	16	1.78
福島県	49	1.04	4346	92.47	266	5.66	807	17.17	19	1.73	738	67.09	-	-	1	0.17	2	0.33
茨城県	116	1.61	3246	45.08	861	11.96	1969	27.35	50	3.13	2986	186.63	1	0.09	1	0.17	4	0.36
栃木県	55	1.25	1828	41.55	667	15.16	605	13.75	10	0.91	1052	95.64	8	1.33	10	1.67	26	4.33
群馬県	35	0.57	3978	65.21	62	1.02	5456	89.44	39	2.79	1277	91.21	6	0.60	6	0.60	34	3.40
埼玉県	126	0.86	10929	74.86	751	5.14	12049	82.53	49	1.48	2338	70.85	-	-	9	1.00	14	1.56
千葉県	325	2.48	10920	83.36	1896	14.47	7409	56.56	95	2.88	2588	78.42	8	0.67	12	1.00	28	2.33
東京都	226	1.57	6577	45.67	589	4.09	4804	33.36	11	0.79	1240	88.57	12	0.48	14	0.56	83	3.32
神奈川県	237	1.16	12513	61.04	939	4.58	10980	53.56	71	1.73	3414	83.27	6	0.55	11	1.00	108	9.82
新潟県	11	0.18	5735	95.58	51	0.85	3467	57.78	10	1.11	331	36.78	1	0.08	3	0.23	43	3.31
富山県	20	0.69	1895	65.34	24	0.83	309	10.66	4	0.57	84	12.00	1	0.08	3	0.60	17	3.40
石川県	22	0.76	822	28.34	57	1.97	205	7.07	1	0.14	250	35.71	4	0.80	4	0.80	4	0.80
福井県	14	0.67	1181	56.24	55	2.62	1189	56.62	12	4.00	42	14.00	5	1.00	8	1.60	21	4.20
山梨県	18	0.75	702	29.25	61	2.54	232	9.67	4	1.33	26	8.67	2	0.22	4	0.44	16	1.78
長野県	25	0.49	4194	82.24	54	1.06	1458	28.59	52	5.20	815	81.50	6	0.55	9	0.82	40	3.64
岐阜県	41	0.77	2618	49.40	690	13.02	1892	35.70	13	1.18	494	44.91	1	0.20	1	0.20	4	0.80
静岡県	72	0.84	5129	59.64	238	2.77	7063	82.13	16	0.80	912	45.60	4	0.50	1	0.13	62	7.75
愛知県	115	0.64	8505	46.99	591	3.27	7714	42.62	55	1.62	1800	52.94	7	0.54	7	0.54	42	3.23
三重県	28	0.62	2066	45.91	241	5.36	2855	63.44	6	0.50	379	31.58	1	0.13	2	0.25	113	14.13
滋賀県	59	1.97	480	16.00	560	18.67	818	27.27	17	2.83	542	90.33	5	0.83	5	0.83	106	17.67
京都府	55	0.73	1462	19.49	359	4.79	2727	28.20	17	1.67	958	53.22	5	0.83	5	0.83	13	2.17
大阪府	240	1.27	5237	27.71	4241	22.44	6245	33.04	155	3.04	1991	39.04	4	0.50	2	0.25	19	2.38
兵庫県	88	0.69	5676	44.69	1011	7.96	5784	45.54	83	2.37	1889	53.97	4	0.29	9	0.64	72	5.14
奈良県	22	0.65	438	12.88	911	26.79	1189	34.97	25	3.13	900	112.50	3	0.60	4	0.80	69	13.80
和歌山県	18	0.58	589	18.35	575	18.55	582	18.77	6	1.50	166	41.50	4	0.40	5	0.50	34	3.40
鳥取県	2	0.11	1147	60.37	21	1.11	943	49.63	-	-	39	13.00	2	0.40	3	0.60	111	22.20
島根県	8	0.38	460	21.90	76	3.62	1209	57.57	2	1.00	112	56.00	1	0.14	2	0.29	6	0.86
岡山県	51	0.96	2100	39.62	643	12.13	1386	26.15	16	1.33	771	64.25	2	0.40	2	0.40	3	0.60
広島県	77	1.04	2984	40.32	411	5.55	3502	47.32	57	2.85	1357	67.85	5	0.24	6	0.29	90	4.29
山口県	12	0.25	2309	48.10	92	1.92	5005	104.27	41	4.56	681	75.67	3	0.38	-	-	5	0.63
徳島県	10	0.43	562	24.43	129	5.61	230	10.00	4	1.00	163	40.75	-	-	1	0.17	6	1.00
香川県	32	1.00	1519	47.47	867	27.09	1333	41.66	3	1.00	151	50.33	-	-	1	0.40	1	0.20
愛媛県	26	0.67	2682	68.77	134	3.44	866	22.21	25	3.57	862	123.14	2	0.40	2	0.40	57	11.40
高知県	39	1.26	1495	48.23	848	27.35	1394	44.97	10	3.33	302	100.67	4	0.57	4	0.57	37	5.29
福岡県	58	0.74	2742	35.15	604	7.74	3869	49.60	23	1.35	1789	105.24	8	0.53	20	1.33	53	3.53
佐賀県	5	0.27	1232	53.57	60	2.61	1702	74.00	2	0.50	180	45.00	-	-	9	1.80	32	6.40
長崎県	20	1.18	957	22.26	49	1.14	1130	26.28	26	30.75	1011	126.38	1	0.08	1	0.08	10	0.83
熊本県	58	0.84	2690	54.90	66	1.35	5305	108.27	14	1.56	1011	112.33	11	0.73	18	1.20	235	15.67
大分県	308	0.32	2119	58.86	504	14.00	931	25.86	8	1.60	389	77.80	2	0.22	3	0.33	19	2.11
宮崎県	54	0.92	1162	19.69	262	4.44	1896	51.24	16	4.00	549	137.25	2	0.29	10	1.43	32	4.57
鹿児島県	54	0.92	1162	19.69	262	4.44	1896	51.24	16	4.00	549	137.25	2	0.29	10	1.43	32	4.57
沖縄県	36	1.06	222	6.53	188	5.53	373	10.97	17	1.70	1038	103.80	8	1.14	13	1.86	68	9.71

種	マイコプラズマ肺炎 累積 定点当り	クラミジア肺炎 (オウム病を除く) 累積 定点当り	成人麻疹 累積 定点当り
北海道	78	-	5
青森県	7	-	-
岩手県	96	1	21
宮城県	293	6.00	8
秋田県	124	0.29	-
山形県	50	-	-
福島県	21	-	2
茨城県	-	-	-
栃木県	18	1.33	3
群馬県	23	0.20	-
埼玉県	2	1.44	9
千葉県	39	3.25	8
東京都	22	0.04	120
神奈川県	29	2.64	77
新潟県	79	6.08	3
富山県	11	1.00	2
石川県	16	-	2
福井県	40	-	-
山梨県	53	-	5
長野県	27	1.00	20
岐阜県	-	-	-
静岡県	28	4	2
愛知県	128	1	8
三重県	34	4	4
滋賀県	45	3	1
京都府	2	0.33	1
大阪府	17	2.13	9
兵庫県	57	4.07	23
奈良県	52	10.40	2
和歌山県	28	2.80	27
鳥取県	45	9.00	-
島根県	5	0.71	-
岡山県	49	9.80	9
広島県	93	4.43	2
山口県	28	2.50	-
徳島県	23	3.83	6
香川県	6	1.20	7
愛媛県	62	12.40	-
高知県	22	3.14	15
福岡県	22	1.47	3
佐賀県	4	0.80	1
長崎県	6	0.50	-
熊本県	67	4.47	1
大分県	23	2.56	17
宮崎県	55	9.29	2
鹿児島県	41	3.73	1
沖縄県	110	15.71	3

2-2. 平成12年 累積報告数・定当り累積報告数：疾病・都道府県・性別（男）

2-2. Number of cumulative cases and number of cumulative cases per sentinel by disease, prefecture and sex, 2000 (Male)

總	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘	手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百日咳		
			累積	定当り	累積	定当り		累積	定当り	累積	定当り	累積	定当り		累積	定当り
394302	10934	3.67	85595	28.74	467293	156.92	144307	48.46	112456	37.76	17060	5.73	69467	21.98	1858	0.62
19227	250	1.71	4961	33.98	9983	68.45	7175	49.14	4762	32.62	1331	9.12	2567	17.58	27	0.18
6517	46	1.12	679	16.56	2718	66.29	2402	58.59	898	21.90	361	8.56	583	14.22	13	0.32
7051	22	0.58	934	24.58	3213	84.55	1772	46.63	506	13.32	389	10.24	688	18.11	18	0.47
7585	104	1.62	2246	39.40	14856	260.63	3371	59.14	1548	27.16	720	12.63	1714	30.07	49	0.86
7071	56	1.65	1294	38.06	5758	169.35	1500	44.12	420	12.35	111	3.26	652	19.18	15	0.44
5622	37	1.28	1469	50.66	6237	215.07	2184	74.62	2335	80.52	403	13.90	814	26.07	38	1.31
6227	70	1.49	889	18.91	7724	164.34	2482	52.81	1243	26.45	429	9.13	998	21.23	57	1.21
5852	39	0.54	2120	29.44	8687	120.65	2854	39.64	1912	26.56	332	4.61	1050	14.58	30	0.42
5215	71	1.61	1941	44.11	5280	120.00	1742	39.59	2640	60.00	87	1.98	978	22.23	11	0.25
8447	68	1.11	2667	43.72	7809	128.02	3215	52.70	3846	63.05	252	4.13	1258	20.62	21	0.34
18486	634	4.34	6035	41.34	26509	181.57	6891	47.20	7467	51.14	1135	7.77	3518	24.10	77	0.53
16100	307	2.34	5416	12.34	19783	151.02	6769	51.67	4562	34.82	1297	9.90	2821	21.53	69	0.53
51.73	247	1.72	1769	12.28	17038	118.32	3623	25.16	3511	24.38	907	6.30	1876	13.03	23	0.16
23159	555	2.71	5130	25.02	29486	143.83	9084	44.12	6836	33.35	1980	9.66	5080	24.78	55	0.27
11555	233	3.88	3309	55.15	10842	180.70	4293	71.55	1752	29.20	637	10.62	1414	23.57	74	1.23
7775	63	2.17	1058	36.48	5110	176.21	1488	50.62	761	26.24	42	1.45	631	21.76	10	0.34
6081	102	3.52	699	24.10	6686	230.55	1741	60.03	955	32.93	110	4.79	577	19.90	15	0.52
4091	54	2.57	926	44.10	6242	297.24	1359	64.71	723	34.43	50	2.38	584	27.81	11	0.52
3267	41	1.71	561	23.38	2317	96.54	834	34.75	557	23.21	97	4.04	281	11.71	1	0.04
9140	328	6.43	1786	38.02	9816	192.47	2893	56.73	2297	45.04	558	10.94	1199	23.51	24	0.47
7711	96	1.81	1743	32.98	5290	99.81	2391	45.11	1046	19.74	144	2.72	890	16.79	30	0.57
13193	654	1.60	2320	26.98	16975	197.38	5129	59.64	3636	42.28	338	3.93	2404	27.95	74	0.36
17381	366	2.02	5068	28.60	8260	131.46	23794	45.64	4756	26.28	1194	6.54	3873	21.40	94	0.62
9294	166	3.69	1201	26.69	11559	256.87	2595	57.67	2075	46.11	111	2.47	1500	33.33	28	0.52
3861	99	3.30	859	28.63	2848	94.97	1118	37.27	749	24.97	36	1.20	548	18.27	17	0.57
9009	129	1.72	1295	16.73	13998	178.64	2605	34.73	1960	26.13	188	2.51	1378	18.37	24	0.32
12257	975	5.16	3491	18.47	21592	114.24	6818	36.07	6744	35.68	442	2.34	3613	19.12	148	0.78
16056	838	6.60	2693	21.20	24893	196.01	7001	55.13	6318	49.75	447	3.52	3339	26.29	104	0.82
3852	58	1.71	657	19.32	5278	155.24	1593	46.85	2625	77.21	74	2.18	642	18.88	27	0.79
5367	519	16.74	699	22.55	4329	139.65	1818	58.65	2082	67.16	93	3.00	669	21.58	26	0.84
2640	110	5.79	2598	136.74	5717	300.89	998	52.53	917	48.26	43	2.25	628	33.05	10	0.53
3422	49	2.33	325	15.48	147.10	1004	47.81	33.14	696	33.14	24	1.14	353	16.81	17	0.81
6699	454	8.57	1086	20.49	7223	141.94	2387	44.09	871	16.43	181	3.42	961	18.13	58	1.09
10385	556	7.51	1629	22.01	12758	172.41	3002	40.57	1862	25.16	218	2.95	1551	20.96	10	0.81
7380	269	5.60	1774	36.96	11763	245.06	2735	56.98	1723	35.90	106	2.21	1490	31.04	30	0.63
3753	292	12.70	374	16.26	3543	154.04	1278	55.57	862	37.48	32	1.39	575	25.00	29	1.26
2885	266	8.31	563	17.59	4643	145.09	1427	44.59	1046	32.69	146	4.56	754	23.88	30	0.94
8676	413	10.59	1146	29.38	9393	240.85	2008	51.49	1549	39.72	90	2.31	1103	28.82	18	0.46
4794	130	4.19	790	25.43	3681	118.74	1131	36.48	645	20.81	50	1.61	556	17.94	41	1.32
15634	192	2.46	1924	24.67	19202	246.18	4566	58.54	4556	58.41	551	7.06	2004	25.69	94	1.21
3609	11	0.48	678	29.48	4101	178.30	1575	68.48	2137	92.91	207	9.00	966	42.00	7	0.30
5741	33	0.77	538	12.51	4728	109.95	1834	42.65	1923	42.40	83	1.93	789	18.35	22	0.51
7148	218	4.45	1094	22.33	3287	173.33	3287	67.08	4499	91.82	307	6.27	1515	30.92	50	1.02
7621	293	8.14	1342	37.28	2449	269.39	2449	68.03	2053	57.03	395	10.97	1166	32.39	59	1.64
6132	250	6.76	1267	58.57	10798	291.84	2707	73.16	1534	41.46	199	5.38	1229	33.22	45	1.22
8281	119	2.02	1198	20.31	11188	189.63	3036	51.46	3205	54.32	107	1.81	1270	21.53	65	1.10
4687	52	1.53	489	14.38	914	26.88	2013	59.21	956	28.12	46	1.35	408	12.00	13	0.38

種	風 疹	ヘルパンギーナ	麻疹 (成人麻疹を除く)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	急性脳炎 (日本脳炎を除く)	細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
								累積	定点当り	累積	定点当り
総	1656	76935	12327	71430	692	20811	81	148	1159		
北海道	74	2514	501	4343	17	659	-	2	43	1.87	
青森県	26	1159	76	1193	5	188	-	-	4	0.80	
岩手県	17	970	247	433	18	273	-	1	2	0.11	
宮城県	22	3017	145	354	8	170	0.09	3	3	0.27	
秋田県	17	1027	8	455	3	118	0.14	1	6	0.86	
山形県	1	587	3	408	5	129	0.22	3	10	1.11	
福島県	23	2202	138	434	12	384	-	-	3	0.17	
茨城県	61	1699	507	1045	21	1474	-	-	1	0.27	
栃木県	30	956	358	330	4	538	1.00	6	19	3.17	
群馬県	17	2083	36	2915	17	625	0.30	3	24	2.40	
埼玉県	67	5765	407	6463	24	1162	-	7	9	1.00	
千葉県	171	5587	1022	3887	43	1265	0.33	9	12	1.00	
東京都	104	3437	315	2558	6	637	0.36	8	46	1.84	
神奈川県	123	6638	508	5962	31	1723	0.36	5	77	7.00	
新潟県	5	2972	29	1855	6	172	0.08	2	31	2.38	
富山県	8	971	18	105	-	41	0.86	2	10	2.00	
石川県	13	449	28	182	-	124	0.20	3	3	0.60	
福井県	8	604	40	646	7	22	0.20	7	12	2.40	
山梨県	13	359	42	127	3	13	0.11	1	7	0.78	
長野県	14	2212	31	774	23	415	0.27	5	31	2.82	
岐阜県	22	1382	385	1086	9	256	0.20	-	3	0.60	
静岡県	35	2647	134	3803	8	444	0.25	1	42	5.25	
愛知県	65	4382	322	4242	32	913	-	3	28	2.15	
三重県	14	1122	145	1547	2	167	-	2	70	8.75	
滋賀県	35	286	287	454	11	250	0.33	5	62	10.33	
京都府	27	790	211	1168	11	489	0.38	3	12	2.00	
大阪府	129	2679	2341	3411	66	1067	0.07	1	11	1.38	
兵庫県	54	2328	566	3091	41	978	0.20	4	43	3.07	
奈良県	14	228	504	643	16	469	0.60	3	50	10.00	
和歌山県	14	311	321	334	5	89	0.10	2	23	2.30	
徳島県	2	571	6	488	-	21	0.40	-	64	12.80	
香川県	5	230	38	657	1	57	0.14	-	6	0.86	
岡山県	18	1106	346	717	9	428	0.20	1	1	0.20	
広島県	48	1556	215	1841	34	644	0.14	4	64	3.05	
山口県	6	1207	48	2627	25	349	0.38	-	2	0.25	
徳島県	7	309	73	134	2	84	0.17	1	3	0.50	
香川県	23	806	463	738	9	95	-	2	1	0.20	
愛媛県	16	1412	70	485	9	440	0.29	2	38	7.60	
高知県	26	799	470	792	4	179	0.40	2	20	2.86	
福岡県	26	1454	317	2117	11	918	0.40	13	30	2.00	
佐賀県	4	624	28	894	1	100	-	7	24	4.80	
熊本県	8	506	27	635	109	491	0.40	-	2	0.17	
大分県	29	1433	37	2803	9	528	0.11	1	127	8.47	
宮崎県	13	1093	261	508	4	204	0.15	1	13	1.44	
鹿児島県	159	1124	37	1037	5	270	0.45	5	25	3.57	
沖縄県	26	617	116	532	3	178	0.60	2	10	0.91	
沖縄県	17	125	100	197	12	570	1.20	6	32	4.57	

総 数	マイコプラズマ 肺炎		クラミア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	累積 947	定点当り 2.06	累積 103	定点当り 0.22	累積 213	定点当り 0.46
北海道	34	1.48	-	-	2	0.09
青森県	1	0.20	-	-	-	-
岩手県	50	2.63	1	0.05	10	0.53
宮城県	130	12.55	43	3.91	3	0.27
秋田県	44	6.29	1	0.14	-	-
山形県	24	2.67	-	-	-	-
福島県	9	1.50	-	-	1	0.17
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	7	1.17	6	1.00	3	0.50
群馬県	13	1.30	-	-	-	-
埼玉県	2	0.22	5	0.56	4	0.44
千葉県	18	1.50	1	0.08	5	0.42
東京都	12	0.48	1	0.04	59	2.36
神奈川県	13	1.18	-	-	40	3.64
新潟県	33	2.54	-	-	2	0.15
富山県	4	0.80	3	0.60	2	0.40
石川県	12	2.40	-	-	-	-
福井県	20	4.00	-	-	-	-
山梨県	29	3.22	-	-	2	0.22
長野県	7	0.64	8	0.73	11	1.00
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	12	1.50	1	0.13	-	-
愛知県	52	4.00	-	-	2	0.15
三重県	12	1.50	-	-	2	0.25
滋賀県	23	3.83	2	0.33	-	-
京都府	-	-	-	-	1	0.17
大阪府	10	1.25	-	-	6	0.75
兵庫県	23	1.64	1	0.07	11	0.79
奈良県	31	6.20	1	0.20	-	-
和歌山県	10	1.00	-	-	15	1.50
鳥取県	19	3.80	-	-	-	-
島根県	1	0.14	-	-	-	-
岡山県	19	3.80	8	1.60	4	0.80
広島県	42	2.00	4	0.19	-	-
山口県	12	1.50	8	1.00	-	-
徳島県	12	2.00	-	-	2	0.33
香川県	4	0.80	-	-	3	0.60
愛媛県	25	5.00	-	-	-	-
高知県	10	1.43	-	-	6	0.86
福岡県	11	0.73	1	0.07	1	0.07
佐賀県	3	0.60	-	-	-	-
長崎県	3	0.25	-	-	-	-
熊本県	34	2.27	4	0.27	1	0.07
大分県	11	1.22	-	-	10	1.11
宮崎県	29	4.14	1	0.14	2	0.29
鹿児島県	18	1.64	-	-	-	-
沖縄県	51	7.29	3	0.43	3	0.43

2-2. 平成12年 累積報告数・定点当り累積報告数：疾病・都道府県・性別 (女)

2-2. Number of cumulative cases and number of cumulative cases per sentinel by disease, prefecture and sex, 2000 (Female)

総 数	インフルエンザ		咽頭結核菌		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百日咳	
	累積	定点当り	累積	定点当り	累積	定点当り	累積	定点当り	累積	定点当り	累積	定点当り	累積	定点当り	累積	定点当り	累積	定点当り
375662	81.93	3.14	72548	24.36	418881	140.66	130729	43.90	92909	31.20	17193	5.77	61318	20.59	1946	0.65		
17537	75.27	1.41	4034	27.63	8849	60.61	6419	43.97	3953	27.08	1350	9.25	2473	16.94	24	0.16		
6232	98.92	1.05	573	13.98	2224	54.24	2186	53.32	709	17.29	321	7.83	536	13.12	12	0.29		
6769	109.18	0.50	751	19.76	2764	72.74	1548	40.74	345	9.08	407	10.71	625	16.45	17	0.45		
6869	73.36	1.40	1968	34.53	13436	235.75	3141	55.11	1243	21.81	718	12.60	1571	27.56	57	1.00		
6904	127.85	1.62	1038	30.53	15148	151.41	302	38.29	292	8.59	87	2.56	583	17.15	16	0.47		
5274	112.21	2.14	1280	44.14	5193	179.07	2074	71.52	1934	66.69	430	14.83	753	25.97	33	1.14		
6090	77.09	1.72	789	16.79	7372	156.85	2179	46.36	986	20.98	446	9.49	966	20.55	46	0.90		
5993	49.48	0.68	1705	23.68	7466	106.19	2483	34.49	1336	21.33	260	3.61	830	12.92	29	0.40		
4742	70.78	1.23	1780	48.45	4958	112.68	1630	37.05	2064	46.91	88	2.00	923	20.98	14	0.32		
8230	83.21	0.97	2396	39.28	7166	117.48	2926	47.97	3301	54.11	255	4.18	1196	19.61	22	0.36		
18340	78.04	3.31	5183	35.50	24322	166.59	6124	41.95	6209	42.53	1160	7.95	3215	22.02	72	0.49		
15646	77.84	2.27	4541	34.66	19851	143.90	6245	47.67	3708	28.31	1402	10.70	2593	19.79	93	0.63		
8654	47.81	1.68	1490	10.35	16032	111.33	3348	23.25	2953	20.51	832	5.78	1784	12.39	33	0.23		
22588	70.81	2.26	4201	20.49	27384	133.58	7930	38.68	5670	27.66	2037	9.94	4910	23.95	49	0.24		
11076	111.88	3.47	2869	47.82	9711	161.85	3930	65.50	1414	23.57	626	10.43	1381	23.02	79	1.32		
7462	155.46	1.24	896	30.90	4435	152.93	1262	43.52	617	21.28	41	1.41	652	22.48	8	0.28		
5807	120.98	3.38	574	19.79	5989	206.52	1583	54.59	798	27.52	100	3.45	523	18.03	10	0.34		
3749	124.97	2.52	806	38.39	5571	265.29	1331	63.38	600	28.57	57	2.71	596	24.10	15	0.71		
2894	72.35	1.50	460	18.17	2074	86.42	676	28.17	430	17.92	89	3.71	246	10.25	2	0.08		
8447	105.59	5.94	1655	32.45	7767	172.33	2707	53.08	1912	37.49	573	11.24	1161	22.76	12	0.24		
7381	84.84	1.91	1195	22.55	4465	84.25	2030	38.30	796	15.02	104	1.96	717	13.53	22	0.42		
12651	92.34	5.56	1889	21.97	15135	175.99	4516	52.51	2967	34.73	314	3.65	2239	26.03	89	1.03		
16454	85.70	1.46	4208	23.25	21883	120.90	7697	42.52	3986	22.02	1310	7.24	3883	21.45	119	0.66		
8480	124.71	3.09	1669	23.76	9619	213.76	2281	50.69	1898	37.73	119	2.64	1292	28.71	23	0.51		
3489	74.23	2.27	745	24.83	2411	80.37	1011	33.70	615	20.50	34	1.13	457	15.23	24	0.80		
8680	69.44	1.45	1065	14.20	12278	163.71	2391	31.75	1604	21.39	202	1.92	1192	15.76	31	0.41		
11568	42.69	4.96	2363	15.68	19105	101.08	6045	31.98	5686	30.08	432	2.29	3419	18.09	146	0.77		
15163	76.97	5.46	2418	19.04	22071	173.79	6332	49.86	5175	40.75	428	3.37	3071	24.18	110	0.67		
3832	70.96	1.56	619	18.21	4809	141.44	1475	43.38	2338	68.76	68	2.00	676	19.88	17	0.50		
4869	98.37	13.10	598	16.39	3613	116.55	1683	54.29	1855	53.39	72	2.32	612	19.74	23	0.74		
2657	94.89	5.04	2186	115.05	5374	282.84	928	48.84	850	44.74	51	2.68	558	29.37	18	0.95		
3194	93.94	2.00	345	16.43	2765	131.67	910	43.33	571	27.19	29	1.38	328	15.62	31	1.48		
6282	75.69	7.89	999	18.85	7204	135.92	2222	41.92	718	13.55	182	3.43	921	17.38	70	1.32		
10021	85.69	6.20	1365	18.45	11086	149.81	2661	35.96	1460	19.73	239	3.23	1386	18.73	68	0.92		
7182	104.09	4.00	1539	32.06	10370	216.04	2472	51.50	1576	32.83	107	2.23	1372	28.58	45	0.94		
3461	91.08	10.22	314	13.65	2811	122.22	1191	51.78	698	30.35	32	1.39	596	25.48	27	1.17		
2675	52.45	7.34	410	12.81	3979	124.34	1262	39.44	922	28.81	122	3.81	707	22.09	31	0.97		
8077	126.20	9.13	1006	25.79	8366	214.51	2041	52.33	1342	34.41	65	1.67	1068	27.38	16	0.41		
4433	92.35	4.03	733	23.65	3155	101.77	1001	32.29	555	17.90	49	1.58	552	17.81	34	1.10		
15070	97.86	2.37	1637	20.99	16703	214.14	4182	53.62	3738	47.92	598	7.67	1810	23.21	81	1.04		
3346	86.05	0.74	554	24.09	3718	161.65	1441	62.65	1791	77.87	298	9.04	958	40.78	8	0.35		
5277	75.39	0.63	427	9.93	3969	92.30	1634	38.00	1452	33.77	75	1.74	670	15.58	23	0.53		
6792	63.85	3.59	835	17.04	7363	150.27	2932	59.64	3696	75.22	276	5.63	1409	28.76	36	0.73		
7131	125.11	7.14	1124	31.22	8482	236.61	2339	64.97	1744	48.44	401	11.14	1194	33.17	67	1.86		
5973	89.55	5.73	1896	51.24	9604	259.59	2534	68.49	1230	33.24	166	6.11	1166	31.51	45	1.22		
8077	83.27	1.51	1081	18.32	9752	165.29	2723	46.15	2637	44.69	106	1.80	1229	20.83	96	1.63		
4636	78.58	1.38	429	12.62	875	25.74	1781	52.38	725	21.32	65	1.91	347	10.21	13	0.38		

総	風疹	ヘルパンギーナ	麻疹 (成人麻疹を除く)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎
							累積	定点当り		
北海道	47	2295	388	4143	11	517	-	-	-	33
青森県	24	1001	57	1034	3	205	-	-	-	1
岩手県	16	928	209	378	22	260	-	-	0.11	1
宮城県	26	2755	129	223	9	115	-	-	0.36	1
秋田県	17	937	14	361	2	101	-	-	0.14	3
山形県	3	493	2	311	3	150	0.22	0.22	0.33	6
福島県	26	2144	128	373	7	354	-	-	0.17	1
茨城県	55	1547	354	924	29	1512	0.09	0.09	0.67	1
栃木県	25	872	309	275	6	514	0.33	0.33	0.67	7
群馬県	18	1895	26	2541	22	652	0.30	0.30	0.30	10
埼玉県	59	5164	344	5586	25	1176	-	-	0.22	5
千葉県	154	5333	874	3522	52	1322	0.33	0.33	0.25	16
東京都	122	3140	274	2246	5	603	0.12	0.12	0.24	37
神奈川県	114	5875	431	5018	40	1691	0.18	0.18	0.55	31
新潟県	6	2763	22	1612	4	159	-	-	0.08	12
富山県	12	924	6	127	4	43	-	-	0.20	7
石川県	9	373	29	100	1	126	0.60	0.60	0.20	1
福井県	6	577	15	543	5	20	0.80	0.80	0.20	9
山梨県	5	343	19	105	1	13	0.22	0.22	0.33	9
長野県	11	1982	23	684	29	400	0.27	0.27	0.36	9
岐阜県	19	1236	305	826	4	238	-	-	0.20	1
静岡県	37	2482	104	3260	8	468	0.25	0.25	-	20
愛知県	50	4123	269	3472	23	887	-	-	0.31	14
三重県	14	944	96	1308	4	212	0.13	0.13	-	43
滋賀県	24	194	273	364	6	292	0.50	0.50	-	44
京都府	28	672	148	947	19	469	-	-	0.33	1
大阪府	111	2558	1900	2834	89	924	0.13	0.13	0.13	8
兵庫県	34	2748	445	2693	42	911	0.21	0.21	0.36	29
奈良県	8	210	407	546	9	431	0.40	0.40	0.20	19
和歌山県	4	258	254	248	1	77	0.30	0.30	0.30	11
鳥取県	-	576	15	455	-	18	-	-	0.60	47
島根県	3	230	38	552	1	55	-	-	0.14	-
岡山県	33	994	297	669	7	343	-	-	0.20	2
広島県	29	1428	196	1661	23	713	0.10	0.10	0.10	26
山口県	6	1102	44	2378	16	332	-	-	-	3
徳島県	3	253	56	96	2	79	-	-	-	3
香川県	9	513	404	595	3	56	-	-	-	-
愛媛県	10	1270	64	381	16	422	0.20	0.20	-	19
高知県	13	696	378	602	6	123	0.29	0.29	-	17
福岡県	32	1288	287	1752	12	871	0.13	0.13	0.47	23
佐賀県	1	608	32	808	1	80	-	-	0.40	8
長崎県	12	451	22	495	137	520	0.08	0.08	0.08	8
熊本県	29	1257	29	2502	5	483	0.33	0.33	0.47	108
大分県	7	1026	243	423	4	185	0.11	0.11	0.22	6
宮崎県	149	1040	32	859	11	279	0.14	0.14	0.71	7
鹿児島県	28	545	146	439	4	193	0.45	0.45	0.45	5
沖縄県	19	97	88	176	5	468	0.50	0.50	1.00	11

総 数	マイコプラズマ		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	肺炎 累積	定点当り	累積	定点当り	累積	定点当り
北海道	44	1.91	-	-	3	0.13
青森県	6	1.20	-	-	-	-
岩手県	46	2.42	-	-	11	0.58
宮城県	155	14.09	23	2.09	5	0.45
秋田県	80	11.43	1	0.14	-	-
山形県	26	2.89	-	-	1	0.17
福島県	12	2.00	-	-	-	-
茨城県	11	1.83	2	0.33	-	-
栃木県	10	1.00	2	0.20	-	-
群馬県	-	-	8	0.89	5	0.56
埼玉県	21	1.75	2	0.17	3	0.25
千葉県	10	0.40	-	-	61	2.44
東京都	16	1.45	-	-	37	3.36
神奈川県	46	3.54	1	0.08	1	0.08
新潟県	7	1.40	2	0.40	-	-
富山県	4	0.80	-	-	2	0.40
石川県	20	4.00	-	-	3	0.33
福井県	24	2.67	-	-	9	0.82
山梨県	20	1.82	3	0.27	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	16	2.00	3	0.38	2	0.25
愛知県	76	5.85	1	0.08	6	0.46
三重県	22	2.75	4	0.50	2	0.25
滋賀県	22	3.67	1	0.17	-	-
京都府	2	0.33	1	0.17	-	-
大阪府	7	0.88	-	-	3	0.38
兵庫県	34	2.43	1	0.07	12	0.86
奈良県	21	4.20	1	0.20	-	-
和歌山県	18	1.80	-	-	12	1.20
徳島県	26	5.20	-	-	-	-
香川県	4	0.57	-	-	-	-
岡山県	30	6.00	-	-	5	1.00
広島県	51	2.43	-	-	2	0.10
山口県	16	2.00	12	1.50	-	-
徳島県	11	1.83	-	-	4	0.67
香川県	2	0.40	-	-	4	0.80
高松県	37	7.40	1	0.20	-	-
愛媛県	12	1.71	2	0.13	9	1.29
福岡県	11	0.73	-	-	2	0.13
佐賀県	1	0.20	-	-	1	0.20
熊本県	3	0.25	-	-	-	-
大分県	12	1.33	-	-	7	0.78
宮崎県	36	5.14	3	0.43	-	-
鹿児島県	23	2.09	-	-	1	0.09
沖縄県	59	8.43	1	0.14	-	-

2-3. 平成12年 累積報告数・定点当り累積報告数：疾病・地域ブロック・性別 (総数)

2-3. Number of cumulative cases and number of cumulative cases per sentinel by disease, geographical area and sex, 2000 (Total)

	総数		北海道		東北		北陸		関東甲信越		東海		中国		四国		九州		沖縄	
	累積報告数	定点当り	累積報告数	定点当り	累積報告数	定点当り	累積報告数	定点当り	累積報告数	定点当り	累積報告数	定点当り	累積報告数	定点当り	累積報告数	定点当り	累積報告数	定点当り	累積報告数	定点当り
インフルエンザ	769964	167.93	35764	153.49	78311	195.29	216605	208.69	127510	208.69	98003	131.20	98616	184.33	115155	186.03				
咽頭結膜熱	20295	6.81	456	3.12	675	2.72	4717	5.01	2671	6.00	4886	9.99	4712	13.74	2178	6.05				
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	158143	53.10	8995	61.61	13910	56.09	57014	60.52	23657	53.16	17972	36.75	19182	55.92	17413	48.37				
感染性胃腸炎	886174	297.57	18842	129.05	76645	309.05	264500	280.79	142753	320.79	136626	279.40	117220	341.75	129588	359.97				
水痘	275036	92.36	13594	93.11	26121	105.33	80157	85.09	43643	98.07	39880	81.55	30608	89.24	41033	113.98				
手足口病	205365	68.96	8715	59.69	12459	50.24	64577	68.55	25434	57.16	37551	76.79	18863	54.99	37766	104.91				
伝染性紅斑	34253	11.50	2681	18.36	4812	19.40	14604	15.50	4024	9.04	2516	5.15	1766	5.15	3850	10.69				
突発性発疹	126785	42.57	5040	34.52	10485	42.28	37814	40.14	20271	45.55	19606	40.09	15459	45.07	18110	50.31				
百日咳	3804	1.28	51	0.35	371	1.50	780	0.83	548	1.23	697	1.43	633	1.85	724	2.01				
風疹	3123	1.05	121	0.83	218	0.88	1174	1.25	312	0.70	482	0.99	257	0.75	559	1.55				
ヘルパンギーナ	147275	49.45	4809	32.94	17220	69.44	60622	64.35	22216	49.92	13862	28.35	15258	44.48	13288	36.91				
麻疹 (成人麻疹を除く)	22552	7.57	889	6.09	1156	4.66	5931	6.30	1896	4.26	7657	15.66	3221	9.39	1802	5.01				
流行性耳下腺炎	132877	44.62	8486	58.12	5957	24.02	48429	51.41	21227	47.70	16733	34.22	15868	46.26	16177	44.94				

	総	北海道	東	北	関東甲信越	東海	北陸	近	中国	四国	九州	沖縄
急性出血性髄膜炎	1430 2.29	28 0.97	97 1.52	391 2.09	107 1.13	316 2.55	158 2.51	333 5.29				
流行性角結膜炎	40873 65.40	1176 40.55	2447 40.78	16067 85.92	3961 41.69	6446 51.98	4438 70.44	6338 100.60				
急性脳炎 (日本脳炎を除く)	149 0.32	-	5 0.08	50 0.42	15 0.29	20 0.39	17 0.24	42 0.51				
細菌性髄膜炎	256 0.56	2 0.09	19 0.32	78 0.66	26 0.51	30 0.59	20 0.28	81 0.99				
無菌性髄膜炎	1873 4.08	76 3.30	39 0.65	396 3.33	263 5.16	313 6.14	316 4.45	470 5.73				
マイコプラズマ肺炎	2090 4.55	78 3.39	591 9.85	292 2.45	257 5.04	201 3.94	333 4.69	338 4.12				
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	178 0.39	-	69 1.15	39 0.33	14 0.27	8 0.16	33 0.46	15 0.18				
成人麻疹	426 0.93	5 0.22	31 0.52	245 2.06	18 0.35	60 1.18	39 0.55	28 0.34				

2-3. 平成12年 累積報告数・定点当り累積報告数：疾病・地域ブロック・性別 (男)

2-3. Number of cumulative cases and number of cumulative cases per sentinel by disease, geographical area and sex, 2000 (Male)

インフルエンザ	総数	北海道	東	北	関東甲信越	東海	北陸	近	畿	中国	四国	九州	沖縄
累積報告数	394302	18227	40073	110587	50402	65526	50402	50634	58853	50634	58853	58853	58853
定点当り	86.00	78.23	99.93	77.06	107.24	107.24	107.24	94.64	94.64	94.64	94.64	94.64	95.08
咽頭結核熱	10934	250	335	2523	2618	1501	2618	2539	1168	2539	2539	2539	3.24
定点当り	3.67	1.71	1.35	2.68	3.37	3.37	3.37	7.40	3.24	7.40	7.40	7.40	3.24
A群溶血性	85595	4961	7511	30734	9654	13020	9654	10285	9430	10285	10285	10285	9430
レンサ球菌咽頭炎	28.74	33.98	30.29	32.63	19.74	29.26	19.74	29.99	26.19	29.99	29.99	29.99	26.19
感染性胃腸炎	467293	9993	40506	137567	72339	75656	72339	62110	69122	62110	62110	62110	192.01
定点当り	156.92	68.45	163.33	146.04	147.93	170.01	147.93	181.08	192.01	181.08	181.08	181.08	192.01
水痘	144307	7175	13691	42158	20953	22943	20953	15920	21467	15920	15920	15920	59.63
定点当り	48.46	49.14	55.21	44.75	42.85	51.56	42.85	46.41	59.63	46.41	46.41	46.41	59.63
手足口病	112456	4762	6950	35380	20478	13952	20478	10171	20763	10171	10171	10171	57.67
定点当り	37.76	32.62	28.02	37.56	41.88	31.35	41.88	29.65	57.67	29.65	29.65	29.65	57.67
伝染性紅斑	17060	1331	2403	7282	1280	1979	1280	890	1895	890	890	890	5.26
定点当り	5.73	9.12	9.69	7.73	2.62	4.45	2.62	2.59	5.26	2.59	2.59	2.59	5.26
突発性発疹	65467	2567	5449	19475	10189	10459	10189	7981	9347	7981	7981	7981	25.96
定点当り	21.98	17.58	21.97	20.67	20.84	23.50	20.84	23.27	25.96	23.27	23.27	23.27	25.96
百日咳	1858	27	190	385	346	262	346	293	355	293	293	293	0.99
定点当り	0.62	0.18	0.77	0.41	0.71	0.59	0.71	0.85	0.99	0.85	0.85	0.85	0.99
風疹	1656	74	106	605	273	165	273	151	282	151	151	151	0.78
定点当り	0.56	0.51	0.43	0.64	0.56	0.37	0.56	0.44	0.78	0.44	0.44	0.44	0.78
ヘルパンギーナ	76935	2514	8962	31708	7222	11557	7222	7996	6976	7996	7996	7996	19.38
定点当り	25.83	17.22	36.14	33.66	14.77	25.97	14.77	23.31	19.38	23.31	23.31	23.31	19.38
麻疹 (成人麻疹を除く)	12327	501	617	3255	4230	1072	4230	1729	923	1729	1729	1729	2.56
定点当り	4.14	3.43	2.49	3.46	8.65	2.41	8.65	5.04	2.56	5.04	5.04	5.04	2.56
流行性耳下腺炎	71430	4343	3277	25916	9101	11591	9101	8479	8723	8479	8479	8479	24.23
定点当り	23.99	29.75	13.21	27.51	18.61	26.05	18.61	24.72	24.23	24.72	24.72	24.72	24.23

	総 数	北海道	東 北	関東甲信越	東海・北陸	近 畿	中国・四国	九州・沖縄
急性出血性結膜炎	692 1.11	17 0.59	51 0.85	178 0.95	58 0.61	150 1.21	84 1.33	154 2.44
流行性角結膜炎	20811 33.30	659 22.72	1262 21.03	8025 42.91	1967 20.71	3342 26.95	2297 36.46	3259 51.73
急性脳炎 (日本脳炎を除く)	81 0.18	-	3 0.05	30 0.25	5 0.10	8 0.16	12 0.17	23 0.28
細菌性髄膜炎	148 0.32	2 0.09	8 0.13	46 0.39	18 0.35	18 0.35	11 0.15	45 0.55
無菌性髄膜炎	1159 2.53	43 1.87	26 0.43	259 2.18	168 3.29	201 3.94	199 2.80	263 3.21
マイコプラズマ肺炎	947 2.06	34 1.48	266 4.43	134 1.13	112 2.20	97 1.90	144 2.03	160 1.95
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	103 0.22	-	45 0.75	21 0.18	4 0.08	4 0.08	20 0.28	9 0.11
成人麻疹	213 0.46	2 0.09	14 0.23	126 1.06	6 0.12	33 0.63	15 0.21	17 0.21

2-3. 平成12年 累積報告数・定ポイント当り累積報告数：疾病・地域ブロック・性別 (女)
 2-3. Number of cumulative cases and number of cumulative cases per sentinel by disease, geographical area and sex, 2000 (Female)

	総数	北海道	東	北	関東甲信越	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州・沖縄
インフルエンザ	累積報告数 375662 定ポイント当り 81.93	17537 75.27	206 1.41	340 1.37	106018 73.88	61984 101.45	47601 63.72	47982 89.69	56302 90.96		
咽頭結膜熱	累積報告数 9361 定ポイント当り 3.14	206 1.41	340 1.37	2194 2.33	1170 2.63	2268 4.64	2173 6.34	1010 2.81			
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	累積報告数 72548 定ポイント当り 24.36	4034 27.63	6399 25.80	26280 27.90	10637 23.90	8318 17.01	8897 25.94	7983 22.18			
感染性胃腸炎	累積報告数 418881 定ポイント当り 140.66	8849 60.61	36139 145.72	126933 134.75	67097 150.78	64287 131.47	55110 160.67	60466 167.96			
水痘	累積報告数 130729 定ポイント当り 43.90	6419 43.97	12430 50.12	37999 40.34	20700 46.52	18927 38.71	14688 42.82	19566 54.35			
手足口病	累積報告数 92909 定ポイント当り 31.20	3953 27.08	5509 22.21	29197 30.99	11482 25.80	17073 34.91	8692 25.34	17003 47.23			
伝染性紅斑	累積報告数 17193 定ポイント当り 5.77	1350 9.25	2409 9.71	7322 7.77	2045 4.60	1236 2.53	876 2.55	1955 5.43			
突発性発疹	累積報告数 61318 定ポイント当り 20.59	2473 16.94	5036 20.31	18339 19.47	9812 22.05	9417 19.26	7478 21.80	8763 24.34			
百日咳	累積報告数 1946 定ポイント当り 0.65	24 0.16	181 0.73	395 0.42	286 0.64	351 0.72	340 0.99	369 1.02			
風疹	累積報告数 1467 定ポイント当り 0.49	47 0.32	112 0.45	569 0.60	147 0.33	209 0.43	106 0.31	277 0.77			
ヘルパンギーナ	累積報告数 70340 定ポイント当り 23.62	2295 15.72	8258 33.30	28914 30.69	10659 23.95	6640 13.58	7262 21.17	6312 17.53			
麻疹 (成人麻疹を除く)	累積報告数 10225 定ポイント当り 3.43	388 2.66	539 2.17	2676 2.84	824 1.85	3427 7.01	1492 4.35	879 2.44			
流行性耳下腺炎	累積報告数 61447 定ポイント当り 20.63	4143 28.38	2680 10.81	22513 23.90	9636 21.65	7632 15.61	7389 21.54	7454 20.71			

	総 数	北海道	東 北	関東甲信越	東海・北陸・近 畿	中国・四国	九州・沖縄
急性出血性結膜炎	738 1.18	11 0.38	46 0.77	213 1.14	166 1.34	74 1.17	179 2.84
果糖報告数 定数当り							
流行性角結膜炎	20062 32.10	517 17.83	1185 19.75	8042 43.01	3104 25.03	2141 33.98	3079 48.87
果糖報告数 定数当り							
急性脳炎 (日本脳炎を除く)	68 0.15	-	2 0.03	20 0.17	10 0.20	5 0.07	19 0.23
果糖報告数 定数当り							
細菌性髄膜炎	108 0.24	-	11 0.18	32 0.27	8 0.16	9 0.13	36 0.44
果糖報告数 定数当り							
無菌性髄膜炎	714 1.56	33 1.43	13 0.22	137 1.15	95 1.86	117 1.65	207 2.52
果糖報告数 定数当り							
マイコプラズマ肺炎	1143 2.49	44 1.91	325 5.42	158 1.33	145 2.84	189 2.66	178 2.17
果糖報告数 定数当り							
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	75 0.16	-	24 0.40	18 0.15	10 0.20	13 0.18	6 0.07
果糖報告数 定数当り							
成人麻疹	213 0.46	3 0.13	17 0.28	119 1.00	12 0.24	24 0.34	11 0.13
果糖報告数 定数当り							

2-4. 平成12年 累積報告数・定点当り累積報告数：疾病・年齢階級別・性別 (総数)

2-4. Number of cumulative cases and number of cumulative cases per sentinel by disease, age group and sex, 2000 (Total)

	総数	～6ヶ月		～12ヶ月		1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳
		累積報告数 定点当り	2913 0.64	11642 2.54	39245 8.56	44050 9.61	49531 10.80	55356 12.29	58804 13.04	56964 12.42	56114 12.24	41542 9.06	
インフルエンザ	769864 167.93	2913 0.64	11642 2.54	39245 8.56	44050 9.61	49531 10.80	55356 12.29	58804 13.04	56964 12.42	56114 12.24	41542 9.06		
咽頭結核熱	20295 6.81	131 0.04	741 0.25	2743 0.92	2670 0.90	3064 1.03	3046 1.02	2590 0.87	1636 0.55	1026 0.34	700 0.24		
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	158143 53.10	182 0.06	826 0.28	3688 1.24	7659 2.57	15019 5.04	24300 8.16	27996 9.40	23268 7.81	16919 5.68	11503 3.86		
感染性胃腸炎	886174 297.57	12050 4.05	57970 19.47	125160 42.03	98464 33.06	92192 30.96	85474 28.70	75302 25.29	59154 19.86	48050 16.13	38340 12.87		
水痘	275036 92.36	7591 2.55	18522 6.22	50810 17.06	48670 16.34	47138 15.83	41236 13.85	28193 9.47	13848 4.65	6758 2.27	3819 1.28		
手足口病	205365 68.95	1499 0.50	10426 3.50	41839 14.05	40707 13.67	33363 11.20	29117 9.78	21313 7.16	10482 3.52	5649 1.90	3346 1.12		
伝染性紅斑	34253 11.50	338 0.11	1886 0.63	1913 0.64	2150 0.72	3276 1.10	4379 1.47	5177 1.74	4331 1.45	3622 1.22	2571 0.86		
突発性発疹	126785 42.57	16429 5.52	81263 27.29	26770 8.99	1522 0.51	212 0.07	96 0.03	106 0.04	88 0.03	77 0.03	64 0.02		
百日咳	3804 1.28	757 0.25	1018 0.34	687 0.23	289 0.10	223 0.07	171 0.06	157 0.05	95 0.03	79 0.03	74 0.02		
風疹	3123 1.05	53 0.02	226 0.08	536 0.18	336 0.11	298 0.10	263 0.09	217 0.07	227 0.08	203 0.07	109 0.04		
ヘルパンギーナ	147275 49.45	1863 0.63	12392 4.16	33156 11.13	27362 9.19	23446 7.87	18562 6.23	12986 4.36	6873 2.31	3793 1.27	2150 0.72		

	9歳	10-14	15-19	20歳以上 20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80歳以上	
インフルエンザ	累積報告数 走点当り	30325 6.61	93798 20.46	39322 8.98	47993 10.47	56670 12.36	31856 6.95	23686 5.17	16309 3.56	8983 1.94	2971 0.65
咽頭結核熱	累積報告数 走点当り	451 0.15	675 0.23	86 0.03	736 0.25						
A群溶血性 レンガ球菌咽頭炎	累積報告数 走点当り	7301 2.45	11227 3.77	1045 0.35	7210 2.42						
感染性胃腸炎	累積報告数 走点当り	30287 10.17	72131 24.22	16136 5.42	75464 25.34						
水痘	累積報告数 走点当り	2338 0.79	3902 1.28	458 0.15	1853 0.62						
手足口病	累積報告数 走点当り	2056 0.69	2994 1.01	253 0.08	2321 0.78						
伝染性紅斑	累積報告数 走点当り	1652 0.55	2141 0.72	95 0.03	722 0.24						
突発性発疹	累積報告数 走点当り	37 0.01	70 0.02	10 0.00	41 0.01						
百日咳	累積報告数 走点当り	41 0.01	120 0.04	11 0.00	82 0.03						
風疹	累積報告数 走点当り	97 0.03	259 0.09	82 0.03	217 0.07						
ヘルパンギーナ	累積報告数 走点当り	1375 0.46	1874 0.63	307 0.10	1136 0.38						

病名	総数	年齢											
		0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	7歳	8歳
麻疹 (成人麻疹を除く)	22552 7.57	335 0.11	3007 1.01	5507 1.85	2461 0.83	1846 0.62	1504 0.51	1227 0.41	1094 0.37	867 0.29	775 0.26		
流行性耳下腺炎	132877 44.62	79 0.03	762 0.26	5740 1.93	11477 3.85	18100 6.08	24241 8.14	23919 8.03	16936 5.69	10601 3.56	6609 2.22		
急性出血性結膜炎	1430 2.29	11 0.02	9 0.01	54 0.09	37 0.06	53 0.08	57 0.09	32 0.05	28 0.04	23 0.04	15 0.02		
流行性角結膜炎	40873 65.40	301 0.48	330 0.53	1267 2.03	1255 2.01	1281 2.05	1400 2.24	1229 1.97	823 1.32	633 1.01	576 0.92		
急性脳炎 (日本脳炎を除く)	149 0.32	11 0.02	44 0.10	22 0.05	7 0.02	7 0.02	7 0.02	5 0.01	2 0.00	-	2 0.00		
細菌性髄膜炎	256 0.56	70 0.15	80 0.17	17 0.04	6 0.01	6 0.01	3 0.01	12 0.03	3 0.01	1 0.00	7 0.02		
無菌性髄膜炎	1873 4.08	224 0.49	539 1.17	619 1.35	139 0.30	49 0.11	34 0.07	48 0.10	71 0.15	39 0.08	19 0.04		
マイコプラズマ肺炎	2090 4.55	53 0.12	612 1.33	773 1.68	338 0.74	51 0.11	31 0.07	40 0.09	44 0.10	34 0.07	28 0.06		
クラジミア肺炎 (オウム病を除く)	178 0.39	12 0.03	15 0.03	13 0.03	8 0.02	2 0.00	5 0.01	5 0.01	1 0.00	1 0.00	4 0.01		
成人麻疹	426 0.93	-	2 0.00	4 0.01	2 0.00	124 0.27	146 0.32	81 0.18	39 0.08	17 0.04	5 0.01		

	9歳		10-14		15-19		20歳以上		30-39		40-49		50-59		60-69		70歳以上	
	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74	75-79	80-84	85-89	90-94	95-99	100歳以上	105-109	110-114	115-119	120-124	125-129	130歳以上
麻疹 (成人麻疹を除く)	674 0.23	2193 0.74	638 0.21	424 0.14	290 0.46	133 0.21	136 0.22	118 0.19	47 0.08									
流行性耳下腺炎	4172 1.40	7227 2.43	689 0.23	2326 0.78	8290 13.26	4064 6.50	3829 6.13	2834 4.53	1892 3.03									
急性出血性結膜炎	11 0.02	71 0.11	65 0.10	240 0.38	290 0.46	133 0.21	136 0.22	118 0.19	47 0.08									
流行性角結膜炎	426 0.68	1683 2.69	1790 2.86	6970 11.15	8290 13.26	4064 6.50	3829 6.13	2834 4.53	1892 3.03									
急性脳炎 (日本脳炎を除く)	7 0.02	3 0.01	6 0.01	5 0.01	6 0.01	15 0.03												
細菌性髄膜炎	3 0.01	4 0.01	9 0.02	5 0.01	8 0.02	22 0.05												
無菌性髄膜炎	16 0.03	17 0.04	13 0.03	11 0.02	17 0.04	18 0.04												
マイコプラズマ肺炎	10 0.02	7 0.02	12 0.03	10 0.02	10 0.02	37 0.08												
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	3 0.01	1 0.00	3 0.01	7 0.02	16 0.03	82 0.18												
成人麻疹	3 0.01	2 0.00	1 0.00	-	-	-												

2-4. 平成12年 累積報告数・定点当り累積報告数：疾病・年齢階級別・性別 (男)

2-4. Number of cumulative cases and number of cumulative cases per sentinel by disease, age group and sex, 2000 (Male)

	総数		～6ヶ月		～12ヶ月		1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳								
	累積報告数	定点当り	累積報告数	定点当り	累積報告数	定点当り	累積報告数	定点当り	累積報告数	定点当り	累積報告数	定点当り	累積報告数	定点当り								
インフルエンザ	394302	86.00	1544	0.34	6216	1.36	21161	4.62	23017	5.02	26209	5.72	29438	6.42	31850	6.95	29967	6.54	29511	6.44	21660	4.72
咽頭結核熱	10934	3.67	67	0.02	396	0.13	1523	0.51	1451	0.49	1674	0.56	1657	0.56	1470	0.49	903	0.30	552	0.19	356	0.12
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	85595	28.74	89	0.03	452	0.15	2101	0.71	4231	1.42	8485	2.85	13746	4.62	16046	5.39	12861	4.32	8969	3.01	6004	2.02
感染性胃腸炎	467293	156.92	6586	2.21	31343	10.52	68443	22.98	52929	17.77	49662	16.68	45592	15.31	41096	13.80	31816	10.68	25601	8.60	20675	6.94
水痘	144307	48.46	3833	1.29	9604	3.22	26999	9.07	25347	8.51	24756	8.31	21514	7.22	15136	5.08	7229	2.43	3562	1.20	1956	0.66
手足口病	112456	37.76	811	0.27	5734	1.93	23384	7.85	22310	7.49	18454	6.20	16001	5.37	11908	4.00	5754	1.93	3049	1.02	1795	0.60
伝染性紅斑	17060	5.73	149	0.05	966	0.32	1022	0.34	1134	0.38	1715	0.58	2201	0.74	2599	0.87	2213	0.74	1763	0.59	1271	0.43
突発性発疹	65467	21.98	8255	2.77	41760	14.02	14223	4.78	803	0.27	95	0.03	48	0.02	66	0.02	49	0.02	49	0.02	33	0.01
百日咳	1858	0.62	377	0.13	510	0.17	367	0.12	131	0.04	95	0.03	67	0.02	80	0.03	39	0.01	41	0.01	43	0.01
風疹	1656	0.56	24	0.01	125	0.04	287	0.10	170	0.06	156	0.05	142	0.05	125	0.04	128	0.04	106	0.04	60	0.02
ヘルパンギーナ	76935	25.83	1015	0.34	6691	2.25	17748	5.96	14139	4.75	12255	4.12	9439	3.17	6757	2.27	3553	1.19	1985	0.67	1063	0.36

	9歳	10-14	15-19	20歳以上 20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80歳以上
インフルエンザ	15771 3.44	50349 10.98	21727 4.74	21449 4.68	24241 5.29	15949 3.48	11096 2.42	7625 1.66	4290 0.94	1232 0.27
咽頭結核熱	212 0.07	389 0.13	46 0.02	238 0.08						
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	3792 1.27	5984 2.01	497 0.17	2338 0.79						
感染性胃腸炎	16447 5.52	41028 13.78	8011 2.69	28064 9.42						
水痘	1225 0.41	1976 0.66	245 0.08	925 0.31						
手足口病	1106 0.37	1555 0.52	104 0.03	491 0.16						
伝染性紅斑	790 0.27	1076 0.36	30 0.01	131 0.04						
突発性発疹	23 0.01	38 0.01	7 0.00	18 0.01						
百日咳	20 0.01	65 0.02	2 0.00	21 0.01						
風疹	42 0.01	137 0.05	46 0.02	108 0.04						
ヘルパンギーナ	705 0.24	1007 0.34	154 0.05	414 0.14						

	総数																			
	～6ヶ月		～12ヶ月		1歳		2歳		3歳		4歳		5歳		6歳		7歳		8歳	
麻疹 (成人麻疹を除く)	累積報告数	12327	195	1635	3065	1359	989	802	676	594	491	452								
	定点当り	4.14	0.07	0.55	1.03	0.46	0.33	0.27	0.23	0.20	0.16	0.15								
流行性耳下腺炎	累積報告数	71430	45	451	3295	6419	9893	12979	13040	9072	5648	3432								
	定点当り	23.99	0.02	0.15	1.11	2.16	3.32	4.36	4.38	3.05	1.90	1.15								
急性出血性結膜炎	累積報告数	692	7	3	33	19	34	24	18	12	14	8								
	定点当り	1.11	0.01	0.00	0.05	0.03	0.05	0.04	0.03	0.02	0.02	0.01								
流行性角結膜炎	累積報告数	20811	163	188	725	675	712	744	652	455	314	313								
	定点当り	33.30	0.26	0.30	1.16	1.08	1.14	1.19	1.04	0.73	0.50	0.50								
急性脳炎 (日本脳炎を除く)	累積報告数	81	5	25	10	4	4	3	3	1	-	-								
	定点当り	0.18	0.01	0.05	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00	-	-								
細菌性髄膜炎	累積報告数	148	40	44	10	5	5	2	7	2	-	3								
	定点当り	0.32	0.09	0.10	0.02	0.01	0.01	0.00	0.02	0.00	-	0.01								
無菌性髄膜炎	累積報告数	1159	130	337	415	82	31	20	25	36	22	11								
	定点当り	2.53	0.28	0.73	0.90	0.18	0.07	0.04	0.05	0.08	0.05	0.02								
マイコプラズマ肺炎	累積報告数	947	25	280	357	157	19	10	10	19	14	8								
	定点当り	2.06	0.05	0.61	0.78	0.34	0.04	0.02	0.02	0.04	0.03	0.02								
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	累積報告数	103	6	5	7	7	1	-	2	-	-	2								
	定点当り	0.22	0.01	0.01	0.02	0.02	0.00	-	0.00	-	-	0.00								
成人麻疹	累積報告数	213	-	1	1	2	66	68	39	19	7	4								
	定点当り	0.46	-	0.00	0.00	0.00	0.14	0.15	0.08	0.04	0.02	0.01								

	9歳		10-14		15-19		20歳以上		30-39		40-49		50-59		60-69		70歳以上	
	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70歳以上	70歳以上	70歳以上	70歳以上	70歳以上	70歳以上	70歳以上	70歳以上	70歳以上	70歳以上	70歳以上	70歳以上	70歳以上
麻疹 (成人麻疹を除く)	348 0.12	1193 0.40	345 0.12	183 0.06														
流行性耳下腺炎	2222 0.75	3864 1.30	297 0.10	773 0.26														
急性出血性結膜炎	7 0.01	38 0.06	31 0.05	108 0.17	141 0.23	65 0.10	56 0.09	51 0.08	23 0.04									
流行性角結膜炎	209 0.33	943 1.51	932 1.49	3459 5.53	4365 6.98	2387 3.82	1691 2.71	1194 1.91	690 1.10									
急性脳炎 (日本脳炎を除く)	3 0.01	1 0.00	5 0.01	4 0.01	4 0.01	9 0.02												
細菌性髄膜炎	2 0.00	3 0.01	5 0.01	2 0.00	5 0.01	13 0.03												
無菌性髄膜炎	8 0.02	10 0.02	10 0.02	7 0.02	7 0.02	8 0.02												
マイコプラズマ肺炎	9 0.02	3 0.01	2 0.00	1 0.00	8 0.02	25 0.05												
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	2 0.00	1 0.00	3 0.01	4 0.01	14 0.03	49 0.11												
成人麻疹	3 0.01	2 0.00	1 0.00	-	-	-												

2-4. 平成12年 累積報告数・定点当り累積報告数；疾病・年齢階級別・性別 (女)

2-4. Number of cumulative cases and number of cumulative cases per sentinel by disease, age group and sex, 2000 (Female)

	総数		年齢階級							
	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳
インフルエンザ	累積報告数 81.93	375662 1.18	1369 3.94	18084 4.59	21033 5.09	23322 5.87	26918 6.10	27954 5.89	26997 5.80	19882 4.34
咽頭結膜熱	累積報告数 3.14	9361 0.12	64 0.41	1219 0.41	1390 0.47	1389 0.47	1120 0.38	733 0.25	474 0.16	344 0.12
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	累積報告数 24.36	72548 0.13	93 0.53	3428 1.15	6534 2.19	10554 3.54	11950 4.01	10407 3.49	7950 2.67	5499 1.85
感染性胃腸炎	累積報告数 140.66	418881 8.94	5464 1.83	45535 15.29	42530 14.28	39882 13.39	34206 11.49	27338 9.18	22449 7.54	17665 5.93
水痘	累積報告数 43.90	130729 2.99	3758 1.26	23323 7.83	22382 7.52	19722 6.62	13057 4.38	6619 2.22	3196 1.07	1863 0.63
手足口病	累積報告数 31.20	92909 1.58	688 0.23	18397 6.18	14909 5.01	13116 4.40	9405 3.16	4728 1.59	2600 0.87	1551 0.52
伝染性紅斑	累積報告数 5.77	17193 0.31	189 0.06	1016 0.34	1561 0.52	2178 0.73	2578 0.87	2118 0.71	1859 0.62	1300 0.44
突発性発疹	累積報告数 20.59	61318 13.26	8174 2.74	719 0.24	117 0.04	48 0.02	40 0.01	39 0.01	28 0.01	31 0.01
百日咳	累積報告数 0.65	1946 0.17	380 0.13	158 0.05	128 0.04	104 0.03	77 0.03	56 0.02	38 0.01	31 0.01
風疹	累積報告数 0.49	1467 0.03	29 0.01	166 0.06	142 0.05	121 0.04	92 0.03	99 0.03	97 0.03	49 0.02
ヘルパンギーナ	累積報告数 23.62	70340 1.91	848 0.28	13223 4.44	11181 3.75	9123 3.06	6229 2.09	3320 1.11	1808 0.61	1087 0.37

	9歳	10-14	15-19	20歳以上 20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80歳以上
インフルエンザ	14554 3.17	43439 9.47	17595 3.84	26544 5.79	32429 7.07	15907 3.47	12590 2.75	8684 1.89	4553 1.00	1739 0.38
咽頭結核熱	239 0.08	286 0.10	40 0.01	498 0.17						
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	3509 1.18	5243 1.76	548 0.18	4872 1.54						
感染性胃腸炎	13840 4.65	31103 10.44	8125 2.73	47400 15.92						
水痘	1113 0.37	1826 0.61	213 0.07	928 0.31						
手足口病	950 0.32	1439 0.48	149 0.05	1830 0.61						
伝染性紅斑	862 0.29	1065 0.36	65 0.02	591 0.20						
突発性発疹	14 0.00	32 0.01	3 0.00	23 0.01						
百日咳	21 0.01	55 0.02	9 0.00	61 0.02						
風疹	55 0.02	122 0.04	36 0.01	109 0.04						
ヘルパンギーナ	670 0.22	867 0.29	153 0.05	722 0.24						

	総数	～6ヶ月		1歳		2歳		3歳		4歳		5歳		6歳		7歳		8歳	
		0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44								
麻疹 (成人麻疹を除く)	10225 3.43	140 0.05	1372 0.46	2442 0.82	1102 0.37	857 0.29	702 0.24	500 0.17	376 0.13	323 0.11									
流行性耳下腺炎	61447 20.63	34 0.01	311 0.10	2445 0.82	5058 1.70	8207 2.76	11262 3.78	7864 2.64	4953 1.66	3177 1.07									
急性出血性結膜炎	738 1.18	4 0.01	6 0.01	21 0.03	18 0.03	19 0.03	33 0.05	16 0.03	9 0.01	7 0.01									
流行性角結膜炎	20062 32.10	138 0.22	142 0.23	542 0.87	580 0.93	569 0.91	656 1.05	368 0.59	319 0.51	263 0.42									
急性脳炎 (日本脳炎を除く)	68 0.15	6 0.01	19 0.04	12 0.03	3 0.01	3 0.01	4 0.01	1 0.00	-	2 0.00									
細菌性髄膜炎	108 0.24	30 0.07	36 0.08	7 0.02	1 0.00	1 0.00	1 0.00	1 0.00	1 0.00	4 0.01									
無菌性髄膜炎	714 1.56	94 0.20	202 0.44	204 0.44	57 0.12	18 0.04	14 0.03	35 0.08	17 0.04	8 0.02									
マイコプラズマ肺炎	1143 2.49	28 0.06	332 0.72	416 0.91	181 0.39	32 0.07	21 0.05	25 0.05	20 0.04	20 0.04									
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	75 0.16	6 0.01	10 0.02	6 0.01	1 0.00	1 0.00	5 0.01	1 0.00	1 0.00	2 0.00									
成人麻疹	213 0.46	-	1 0.00	3 0.01	-	58 0.13	78 0.17	20 0.04	10 0.02	1 0.00									

	9歳		10-14		15-19		20歳以上		30-39		40-49		50-59		60-69		70歳以上	
	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70歳以上	70歳以上	70歳以上	70歳以上	70歳以上	70歳以上	70歳以上	70歳以上	70歳以上	70歳以上	70歳以上	70歳以上	70歳以上
麻疹	326	1000	293	241														
(成人麻疹を除く)	0.11	0.34	0.10	0.08														
流行性耳下腺炎	1950	3363	391	1553														
	0.65	1.13	0.13	0.52														
急性出血性結膜炎	4	33	34	132	149	68	80	24										
	0.01	0.05	0.05	0.21	0.24	0.11	0.13	0.04										
流行性角結膜炎	217	740	858	3511	3925	1677	2138	1202										
	0.35	1.18	1.37	5.62	6.28	2.68	3.42	1.92										
急性脳炎 (日本脳炎を除く)	4	2	1	1	2	6												
	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01												
細菌性髄膜炎	1	1	4	3	3	9												
	0.00	0.00	0.01	0.01	0.01	0.02												
細菌性髄膜炎	8	7	3	4	10	10												
	0.02	0.02	0.01	0.01	0.02	0.02												
マイコプラズマ肺炎	1	4	10	9	2	12												
	0.00	0.01	0.02	0.02	0.00	0.03												
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	1	-	-	3	2	33												
	0.00	-	-	0.01	0.00	0.07												
成人麻疹	-	-	-	-	-	-												
	-	-	-	-	-	-												

2-5. 平成12年 定点数：週・定点種別
 2-5. Number of sentinel clinics by week and category, 2000

平均	インフルエンザ Influenza	小児科定点 Pediatric	眼科定点 Ophthalmic	基幹病院定点 (選給) Specially-designated
01週	4585	2978	625	459
02週	4553	2952	619	457
03週	4587	2954	619	455
04週	4573	2942	620	452
05週	4567	2946	618	453
06週	4575	2954	620	458
07週	4577	2951	621	456
08週	4572	2951	621	458
09週	4566	2953	619	458
10週	4571	2958	621	457
11週	4573	2956	621	460
12週	4543	2936	617	457
13週	4510	2919	615	454
14週	4537	2935	623	456
15週	4602	2979	628	456
16週	4631	3001	630	462
17週	4609	2994	630	462
18週	4598	3000	628	463
19週	4592	2996	627	463
20週	4581	2997	631	462
21週	4584	2995	630	461
22週	4603	2995	628	463
23週	4596	2995	628	463
24週	4609	2996	628	464
25週	4619	3000	629	465
26週	4660	2987	625	464
27週	4565	2976	623	459
28週	4605	2997	629	464
29週	4601	2998	628	462
30週	4595	2995	628	463
31週	4586	2987	629	465
32週	4593	2995	632	461
33週	4548	2967	620	460
34週	4541	2940	622	458
35週	4583	2981	629	461
36週	4593	2991	629	460
37週	4594	2997	630	460
38週	4595	2996	630	461
39週	4593	2996	630	461
40週	4588	2991	631	462
41週	4589	2985	627	459
42週	4548	2959	623	454
43週	4597	2994	630	461
44週	4599	2994	630	461
45週	4599	2995	630	461
46週	4593	2997	629	461
47週	4595	2993	631	461
48週	4593	2995	628	462
49週	4593	2991	628	461
50週	4587	2988	626	461
51週	4599	2995	629	462
52週	4619	2998	629	461
53週	4534	2949	620	454

2-6. 平成12年 定点数：都道府県・定点種別

2-6. Number of sentinel clinics by prefecture and category, 2000

数(平均)	小児科	眼科	基幹病院(週報)
総数	4585	625	459
北海道	233	29	23
青森県	63	11	5
岩手県	62	12	19
宮城県	95	10	11
秋田県	54	6	7
山形県	47	8	9
福島県	79	11	6
茨城県	109	16	11
栃木県	67	11	6
群馬県	99	14	10
埼玉県	235	33	9
千葉県	201	33	12
東京都	181	14	25
神奈川県	319	41	11
新潟県	99	9	13
富山県	48	7	5
石川県	48	7	5
福井県	30	3	5
山梨県	24	3	9
長野県	80	10	11
岐阜県	87	11	5
静岡県	137	20	8
愛知県	192	34	13
三重県	68	12	8
滋賀県	45	6	6
京都府	30	6	6
大阪府	75	18	8
兵庫県	189	51	8
奈良県	127	35	14
和歌山県	34	8	5
鳥取県	31	4	10
徳島県	49	3	5
高松県	28	3	7
岡山県	34	2	5
広島県	83	12	7
山口県	117	20	5
島根県	69	9	21
徳島県	38	4	8
香川県	51	4	6
愛媛県	39	3	5
高知県	64	7	5
福岡県	48	3	7
佐賀県	154	17	15
熊本県	38	4	5
大分県	70	8	12
長崎県	81	9	15
熊本県	57	5	9
宮崎県	60	4	7
鹿児島県	97	5	11
沖縄県	59	10	7

2-7. 平成12年 定点数：地域ブロック・定点種別

2-7. Number of sentinel clinics by geographical area and category, 2000

総数(平均)	北海道	東北	関東甲信越	東海・北陸	近畿	中国・四国	九州・沖縄
心臓血管科	233	401	1435	611	747	535	619
小児科	146	248	942	445	489	343	360
眼科	29	60	187	95	124	63	63
基幹病院(週報)	23	60	119	51	51	71	82

2-8. 週対応表：1週～52週

週対応表 2000年

	週	月	火	水	木	金	土	日
1月	1	3	4	5	6	7	8	9
	2	10	11	12	13	14	15	16
	3	17	18	19	20	21	22	23
	4	24	25	26	27	28	29	30
	5	31	1	2	3	4	5	6
2月	6	7	8	9	10	11	12	13
	7	14	15	16	17	18	19	20
	8	21	22	23	24	25	26	27
	9	28	29	1	2	3	4	5
3月	10	6	7	8	9	10	11	12
	11	13	14	15	16	17	18	19
	12	20	21	22	23	24	25	26
	13	27	28	29	30	31	1	2
4月	14	3	4	5	6	7	8	9
	15	10	11	12	13	14	15	16
	16	17	18	19	20	21	22	23
	17	24	25	26	27	28	29	30
5月	18	1	2	3	4	5	6	7
	19	8	9	10	11	12	13	14
	20	15	16	17	18	19	20	21
	21	22	23	24	25	26	27	28
	22	29	30	31	1	2	3	4
6月	23	5	6	7	8	9	10	11
	24	12	13	14	15	16	17	18
	25	19	20	21	22	23	24	25
	26	26	27	28	29	30	1	2
7月	27	3	4	5	6	7	8	9
	28	10	11	12	13	14	15	16
	29	17	18	19	20	21	22	23
	30	24	25	26	27	28	29	30
	31	31	1	2	3	4	5	6
8月	32	7	8	9	10	11	12	13
	33	14	15	16	17	18	19	20
	34	21	22	23	24	25	26	27
	35	28	29	30	31	1	2	3
9月	36	4	5	6	7	8	9	10
	37	11	12	13	14	15	16	17
	38	18	19	20	21	22	23	24
	39	25	26	27	28	29	30	1
10	40	2	3	4	5	6	7	8
	41	9	10	11	12	13	14	15
	42	16	17	18	19	20	21	22
	43	23	24	25	26	27	28	29
	44	30	31	1	2	3	4	5
11	45	6	7	8	9	10	11	12
	46	13	14	15	16	17	18	19
	47	20	21	22	23	24	25	26
	48	27	28	29	30	1	2	3
12	49	4	5	6	7	8	9	10
	50	11	12	13	14	15	16	17
	51	18	19	20	21	22	23	24
	52	25	26	27	28	29	30	31

3. 4 類定点把握疾病 (月報)

3. Sentinel-reporting diseases (Category IV monthly)

疾病名 Disease name	報告数 number of cases	平成12年 報告数・定点当り報告数・疾病・月別・性別 (総数) 2000年 報告数・定点当り報告数・疾病・month and sex, 2000 (Total)											
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
性器クラミジア感染症 Genital chlamydial infection	37028	2777	2590	2739	2808	3072	3212	3310	3411	3449	3517	3251	2892
	41.28	2.96	2.96	3.14	3.11	3.39	3.57	3.64	3.76	3.81	3.88	3.58	3.24
性器ヘルペスウイルス感染症 Genital herpesic infection	8946	626	657	746	730	794	789	831	779	762	797	726	709
	9.97	0.75	0.75	0.85	0.81	0.88	0.88	0.91	0.86	0.84	0.88	0.80	0.79
尖形コンジローマ Condyloma acuminatum	4553	324	302	391	344	406	434	403	439	382	431	386	311
	5.08	0.37	0.34	0.45	0.38	0.45	0.48	0.44	0.48	0.42	0.48	0.42	0.35
淋菌感染症 Gonorrhea	16926	1475	1150	1135	1229	1342	1418	1601	1628	1556	1559	1447	1386
	18.87	1.31	1.31	1.30	1.36	1.48	1.58	1.76	1.79	1.72	1.72	1.59	1.55
好氧性黄色ブドウ球菌感染症 MRSA infection	18013	1419	1426	1500	1431	1452	1383	1567	1702	1607	1560	1473	1493
	39.42	3.12	3.12	3.30	3.13	3.17	3.05	3.41	3.70	3.46	3.38	3.17	3.31
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 PRSP infection	4321	428	435	334	330	450	361	317	262	239	313	426	426
	9.46	0.94	0.95	0.74	0.72	0.98	0.80	0.69	0.57	0.51	0.68	0.92	0.94
薬剤耐性緑膿菌感染症 Multidrug-resistant <i>Pseudomonas aeruginosa</i> infection	555	41	39	43	29	45	48	55	47	56	67	43	42
	1.21	0.09	0.09	0.09	0.06	0.10	0.11	0.12	0.10	0.12	0.15	0.09	0.09

3-1. 平成12年 報告数・定点当り報告数：疾病・月別・性別（男）
 3-1. Number of cases and number of cases per sentinel by disease, month and sex, 2000 (Male)

	2000年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
性器クラミジア感染症 Genital chlamydial infection	報告数 number of cases 15856	1227	1085	1142	1208	1304	1450	1436	1459	1467	1533	1350	1195
	定点当り報告数 per sentinel	1.40	1.24	1.31	1.34	1.44	1.61	1.58	1.61	1.62	1.69	1.49	1.34
性器ヘルペスウイルス感染症 Genital herpetic infection	報告数 number of cases 3907	303	290	337	313	340	340	362	353	344	351	272	302
	定点当り報告数 per sentinel	0.35	0.33	0.39	0.35	0.38	0.39	0.40	0.39	0.38	0.39	0.30	0.34
尖形コンジローム Condyloma acuminatum	報告数 number of cases 2511	187	176	212	198	234	236	231	228	221	236	189	163
	定点当り報告数 per sentinel	0.21	0.20	0.24	0.22	0.26	0.25	0.25	0.25	0.24	0.26	0.21	0.18
淋菌感染症 Gonorrhoea	報告数 number of cases 14196	1258	979	954	1029	1134	1191	1358	1359	1279	1303	1201	1151
	定点当り報告数 per sentinel	1.44	1.12	1.09	1.14	1.25	1.32	1.49	1.50	1.41	1.44	1.32	1.29
好小菌性黄色ブドウ球菌感染症 MRSA infection	報告数 number of cases 11349	879	916	928	906	940	865	959	1029	1021	988	943	975
	定点当り報告数 per sentinel	1.93	2.00	2.04	1.98	2.05	1.91	2.08	2.24	2.20	2.14	2.03	2.16
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 PRSP infection	報告数 number of cases 2540	260	237	194	189	256	225	199	149	152	176	251	252
	定点当り報告数 per sentinel	0.57	0.52	0.43	0.41	0.56	0.50	0.43	0.32	0.33	0.38	0.54	0.56
薬剤耐性緑膿菌感染症 Multidrug-resistant Pseudomonas aeruginosa infection	報告数 number of cases 364	25	25	31	21	27	36	34	28	42	42	26	27
	定点当り報告数 per sentinel	0.80	0.05	0.07	0.05	0.06	0.08	0.07	0.06	0.09	0.09	0.06	0.06

3-1. 平成12年 報告数・定点当り報告数：疾病・月別・性別（女）
 3-1. Number of cases and number of cases per sentinel by disease, month and sex, 2000 (Female)

	報告数 number of cases	1月 1550	2月 1505	3月 1597	4月 1600	5月 1768	6月 1762	7月 1874	8月 1952	9月 1982	10月 1984	11月 1901	12月 1697
性器クラミジア感染症 Genital chlamydial infection	総数 21172	1.77	1.72	1.83	1.77	1.95	1.96	2.06	2.15	2.19	2.19	2.09	1.90
	2000年 number of cases	23.60	1.72	1.83	1.77	1.95	1.96	2.06	2.15	2.19	2.19	2.09	1.90
	定点当り報告数 per sentinel	0.37	0.42	0.47	0.46	0.50	0.50	0.52	0.47	0.46	0.49	0.50	0.46
性器ヘルペスウイルス感染症 Genital herpetic infection	報告数 5039	323	367	409	417	454	449	469	426	418	446	454	407
	2000年 number of cases	5.62	0.42	0.47	0.46	0.50	0.50	0.52	0.47	0.46	0.49	0.50	0.46
	定点当り報告数 per sentinel	0.37	0.42	0.47	0.46	0.50	0.50	0.52	0.47	0.46	0.49	0.50	0.46
尖形コンジローム Condylioma acuminatum	報告数 2042	137	126	179	146	172	198	172	211	161	195	197	148
	2000年 number of cases	2.28	0.16	0.21	0.16	0.19	0.22	0.19	0.23	0.18	0.21	0.22	0.17
	定点当り報告数 per sentinel	0.25	0.20	0.21	0.22	0.23	0.25	0.27	0.30	0.31	0.28	0.27	0.26
淋菌感染症 Gonorrhea	報告数 2730	217	171	181	200	208	227	243	269	277	256	246	235
	2000年 number of cases	3.04	0.25	0.21	0.22	0.23	0.25	0.27	0.30	0.31	0.28	0.27	0.26
	定点当り報告数 per sentinel	0.25	0.20	0.21	0.22	0.23	0.25	0.27	0.30	0.31	0.28	0.27	0.26
緑膿菌感染症 MRSA infection	報告数 6664	540	510	572	525	512	518	608	673	586	572	530	518
	2000年 number of cases	14.58	1.19	1.26	1.15	1.12	1.14	1.32	1.46	1.26	1.24	1.14	1.15
	定点当り報告数 per sentinel	0.37	0.43	0.31	0.31	0.42	0.30	0.26	0.25	0.19	0.30	0.38	0.39
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 PRSP infection	報告数 1781	168	198	140	141	194	136	118	113	87	137	175	174
	2000年 number of cases	3.90	0.37	0.43	0.31	0.42	0.30	0.26	0.25	0.19	0.30	0.38	0.39
	定点当り報告数 per sentinel	0.37	0.43	0.31	0.31	0.42	0.30	0.26	0.25	0.19	0.30	0.38	0.39
薬剤耐性緑膿菌感染症 Multidrug-resistant Pseudomonas aeruginosa infection	報告数 191	16	14	12	8	18	12	21	19	14	25	17	15
	2000年 number of cases	0.42	0.04	0.03	0.02	0.04	0.03	0.05	0.04	0.03	0.05	0.04	0.03
	定点当り報告数 per sentinel	0.42	0.04	0.03	0.02	0.04	0.03	0.05	0.04	0.03	0.05	0.04	0.03

3-2. 平成12年 累積報告数・定点当り累積報告数：疾病・都道府県・性別 (総数)

3-2. Number of cumulative cases and number of cumulative cases per sentinel by disease, prefecture and sex, 2000 (Total)

総数	性器クラミジア 感染症 累積 37028	性器ヘルパス ウイルス感染症 累積 8946	尖形コンジローム 累積 4553	淋菌感染症 累積 16926	アトピー性アレルギー 球菌感染症 累積 18013	ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症 累積 4321	薬剤耐性 緑膿菌感染症 累積 555
	定点当り 41.20	定点当り 9.97	定点当り 5.08	定点当り 18.87	定点当り 39.42	定点当り 9.46	定点当り 1.21
北海道	2498	455	263	731	472	48	6
青森県	492	98	68	152	137	1	1
岩手県	669	106	87	186	701	54	20
宮城県	1045	208	154	365	821	365	10
秋田県	201	26	55	35	144	92	3
山形県	429	27	55	70	433	123	24
福島県	370	63	78	180	58	-	-
茨城県	967	111	78	482	148	5	1
栃木県	643	38	62	289	310	24	3
群馬県	1812	203	92	655	400	95	21
埼玉県	2320	296	202	635	286	23	17
千葉県	1027	354	197	372	347	726	6
東京都	2688	1054	578	1204	1456	338	85
神奈川県	1469	333	157	720	320	133	5
新潟県	450	98	93	333	458	45	4
富山県	279	51	66	47	326	96	7
石川県	264	76	32	118	114	51	4
福井県	138	26	11	33	418	151	13
山梨県	143	9	3	54	308	167	6
長野県	506	100	77	116	300	150	-
岐阜県	265	107	58	160	216	28	-
静岡県	1114	137	97	190	696	140	2
愛知県	2253	468	260	1455	566	20	14
三重県	331	70	30	129	755	6	1
滋賀県	131	16	21	85	325	10	14
京都府	1291	159	54	115	33	5	6
大阪府	3707	1692	571	2914	302	36	7
兵庫県	1143	364	139	613	582	132	2
奈良県	209	85	38	171	263	137	10
和歌山県	54	87	22	93	309	44	36
鳥取県	202	6	3	24	112	6	-
徳島県	133	31	12	75	586	146	3
岡山県	877	177	84	416	105	9	8
広島県	771	177	116	295	973	199	93
山口県	276	68	40	166	428	179	14
徳島県	81	27	13	10	124	11	8
香川県	391	59	41	139	370	19	1
愛媛県	354	63	50	224	38	1	4
高知県	117	10	4	65	697	184	38
福岡県	1810	415	196	1462	316	39	5
佐賀県	302	103	17	190	257	16	7
長崎県	63	106	11	40	1	2	-
熊本県	1042	323	75	484	508	23	10
大分県	162	153	39	135	498	49	10
宮崎県	649	125	35	171	287	16	25
鹿児島県	483	192	87	348	199	4	1
沖縄県	407	34	60	119	510	173	-

3-2. 平成12年 累積報告数・定ポイント当り累積報告数：疾病・都道府県・性別 (男)

3-2. Number of cumulative cases and number of cumulative cases per sentinel by disease, prefecture and sex, 2000 (Male)

総数	性器クラミジア		性器ヘルペスウイルス感染症		尖形コンジローム		淋菌感染症		好酸球性黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		薬剤耐性緑膿菌感染症	
	累積	定ポイント当り	累積	定ポイント当り	累積	定ポイント当り	累積	定ポイント当り	累積	定ポイント当り	累積	定ポイント当り	累積	定ポイント当り
15856	17.68	4.36	3907	4.36	2511	2.80	14196	15.83	11349	24.83	2540	5.56	364	0.80
537	12.20	1.80	79	1.80	69	1.57	496	11.27	307	13.95	27	1.23	4	0.18
261	18.64	3.36	47	3.36	26	3.31	117	8.36	96	19.20	-	-	1	0.20
244	18.77	2.92	38	2.92	43	3.31	120	9.23	446	22.30	34	1.70	15	0.75
413	24.29	3.18	54	3.18	43	4.18	288	16.94	463	38.58	223	18.58	7	0.58
48	3.43	0.14	2	0.14	10	0.71	27	1.93	93	13.29	57	8.14	1	0.14
189	18.90	-	-	-	13	1.30	61	6.10	280	31.11	68	7.56	18	2.00
190	11.88	1.88	30	1.88	28	1.75	159	9.94	7.50	-	-	-	-	-
461	23.05	1.80	36	1.80	52	2.60	411	20.55	95	9.50	3	0.30	1	0.10
293	19.53	0.53	8	0.53	31	2.07	266	17.73	178	25.43	12	1.71	1	0.14
952	38.08	3.92	98	3.92	24	0.96	547	21.88	261	26.10	48	4.80	11	1.10
719	15.30	1.96	92	1.96	117	2.49	546	11.62	178	19.78	14	1.56	14	1.56
404	10.36	4.38	171	4.38	108	2.77	331	8.49	242	30.25	400	50.00	5	0.63
1389	35.62	12.38	483	12.38	374	9.59	977	25.05	929	37.16	208	8.32	57	2.28
907	15.37	3.08	182	3.08	89	1.51	693	11.75	190	17.27	84	7.64	4	0.36
288	15.16	5.9	59	5.9	70	3.68	314	16.53	318	26.50	26	2.17	3	0.25
84	12.00	2.14	15	2.14	15	2.14	38	5.43	203	40.60	56	11.20	7	1.40
159	15.90	4.00	40	4.00	24	2.40	115	11.50	63	12.60	31	6.20	3	0.60
47	11.75	5.00	20	5.00	11	2.75	32	8.00	247	41.17	94	15.67	10	1.67
30	6.00	-	-	-	2	0.40	47	9.40	199	22.11	110	12.22	3	0.33
102	6.80	2.33	35	2.33	29	1.93	76	5.07	191	19.10	97	9.70	-	-
161	10.73	3.93	59	3.93	48	3.20	148	9.87	127	25.40	12	2.40	-	-
340	11.33	1.37	41	1.37	50	1.67	162	5.40	442	44.20	79	7.90	2	0.20
1428	28.56	6.46	323	6.46	216	4.32	1313	26.26	361	27.77	14	1.08	9	0.69
130	8.67	2.80	42	2.80	23	1.53	124	8.27	511	56.78	6	0.67	-	-
56	7.00	0.25	2	0.25	2	0.25	83	10.38	217	31.00	6	0.86	10	1.43
180	7.83	1.04	24	1.04	24	1.04	85	3.70	21	3.50	1	0.17	6	1.00
1703	31.54	14.91	805	14.91	359	6.65	2080	38.52	178	22.25	22	2.75	5	0.63
627	13.93	3.47	156	3.47	98	2.18	586	13.02	374	28.77	74	5.69	2	0.15
150	16.67	7.78	70	7.78	36	4.00	167	18.56	177	29.50	74	12.33	6	1.00
30	3.75	5.25	42	5.25	17	2.13	83	10.38	190	17.27	32	2.91	28	2.55
62	12.40	-	-	-	1	0.20	21	4.20	68	13.60	4	0.80	-	-
68	13.60	1.40	7	1.40	4	0.80	68	13.60	353	50.43	89	12.71	3	0.43
243	14.29	1.12	19	1.12	37	2.18	329	19.35	71	14.20	7	1.40	3	1.40
227	9.08	3.04	76	3.04	38	1.52	262	10.48	607	30.35	112	5.60	48	2.40
48	8.91	1.55	17	1.55	26	2.36	129	11.73	275	45.83	92	15.33	6	1.00
48	8.00	2.67	16	2.67	3	0.50	6	1.00	78	11.14	13	2.60	4	0.57
123	13.67	5.44	49	5.44	33	3.67	134	14.89	226	45.20	13	2.60	1	0.20
111	10.09	4.64	51	4.64	37	3.36	221	20.09	21	3.50	1	0.17	-	-
56	9.33	0.17	1	0.17	1	0.17	54	9.00	446	63.71	111	15.86	25	3.57
1058	44.08	9.00	216	9.00	107	4.46	1261	52.54	196	12.25	22	1.38	3	0.19
190	27.14	1.71	12	1.71	4	0.57	170	24.29	159	26.50	12	2.00	5	0.83
27	2.70	5.60	56	5.60	1	0.10	37	3.70	1	0.08	-	-	-	-
353	25.21	10.00	140	10.00	40	2.86	365	26.07	318	21.20	13	0.87	6	0.40
112	11.20	7.00	25	7.00	25	2.50	126	12.60	311	34.56	26	2.89	9	1.00
254	23.09	2.36	26	2.36	15	1.36	138	12.55	176	25.14	5	0.71	14	2.00
255	15.94	5.69	91	5.69	43	2.69	314	19.63	125	10.42	4	0.33	-	-
49	4.45	0.64	7	0.64	17	1.55	69	6.27	296	42.29	109	15.57	-	-

3-2. 平成12年 累積報告数・定点点当り累積報告数：疾病・都道府県・性別 (女)
 3-2. Number of cumulative cases and number of cumulative cases per sentinel by disease, prefecture and sex, 2000 (Female)

総 数	性器クラミジア 感染症 累積 21172 定点点当り 23.60	性器ヘルペス ウイルス感染症 累積 5099 定点点当り 5.62	尖形コンジローム 累積 2042 定点点当り 2.28	淋菌感染症 累積 2730 定点点当り 3.04	ブドウ球菌感染症 累積 6664 定点点当り 14.58	ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症 累積 1781 定点点当り 3.90	薬剤耐性 細菌感染症 累積 191 定点点当り 0.42
北海道	1961	376	194	235	165	21	2
青森県	231	51	42	35	41	1	-
岩手県	425	68	44	16	255	5	5
宮城県	632	154	83	28	358	142	3
秋田県	153	24	45	8	51	35	2
山形県	240	27	14	9	153	55	6
福島県	180	33	50	21	13	-	-
茨城県	506	75	26	31	53	2	2
栃木県	350	30	31	23	132	12	2
群馬県	860	105	68	108	139	47	10
埼玉県	1601	204	85	89	108	9	3
千葉県	623	183	89	41	105	326	1
東京都	1299	571	204	227	527	130	28
神奈川県	562	151	68	27	130	49	1
新潟県	162	39	23	19	140	19	1
富山県	195	36	51	9	123	40	-
石川県	105	36	8	3	51	20	1
福井県	91	6	-	1	171	57	3
山梨県	113	9	1	7	109	57	3
長野県	404	65	48	40	109	53	-
岐阜県	104	48	10	12	89	16	-
静岡県	774	96	47	28	254	61	-
愛知県	825	145	44	142	205	6	5
三重県	201	28	7	5	244	27	1
滋賀県	75	14	19	2	108	4	4
京都府	1111	135	30	30	12	4	-
大阪府	2004	887	212	834	124	14	2
兵庫県	516	208	41	27	208	58	-
奈良県	59	15	2	4	86	63	4
和歌山県	24	45	5	10	119	12	8
鳥取県	140	6	2	3	44	2	-
島根県	65	24	8	7	233	57	-
岡山県	634	118	47	87	34	1	1
広島県	544	101	78	33	366	87	45
山口県	178	51	14	37	153	14	8
徳島県	33	11	10	4	46	3	4
香川県	268	10	8	5	144	6	-
愛媛県	243	12	13	3	17	-	4
高知県	61	9	3	11	251	73	13
福岡県	752	199	89	201	120	17	2
佐賀県	112	91	13	20	98	4	2
長崎県	36	50	10	3	-	2	-
熊本県	689	49	35	119	190	10	4
大分県	50	83	14	9	187	23	1
宮崎県	395	99	20	33	111	11	11
鹿児島県	228	101	44	34	74	-	1
沖縄県	358	27	43	50	214	64	-

3-3. 平成12年 累積報告数・定点当り累積報告数：疾病・地域ブロック・性別 (総数)

3-3. Number of cumulative cases and number of cumulative cases per sentinel by disease, geographical area and sex, 2000 (Total)

	総 数	北海道	東 北	関東甲信越	東海	北陸	近 畿	中国	四国	九州	沖縄
性器クラミジア感染症	37028 41.28	2498 56.77	3206 38.17	12025 42.05	4644 35.18	6535 43.86	3202 33.71	4918 47.75			
性器ヘルペスウイルス 感染症	8946 9.97	455 10.34	528 6.29	2596 9.08	935 7.08	2403 16.13	578 6.08	1451 14.09			
尖形コンジローム	4553 5.08	263 5.98	469 5.58	1539 5.38	554 4.20	845 5.67	363 3.82	520 5.05			
淋菌感染症	16926 18.87	731 16.61	889 10.58	4820 16.85	2132 16.15	3991 26.79	1414 14.88	2949 28.63			
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	18013 39.42	472 21.45	2294 37.61	4333 37.68	3091 58.32	1814 35.57	3433 49.75	2576 30.67			
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	4321 9.46	48 2.18	535 10.41	1706 14.83	492 9.28	364 7.14	754 10.93	322 3.83			
薬剤耐性緑膿菌感染症	555 1.21	6 0.27	58 0.95	148 1.29	41 0.77	75 1.47	169 2.45	58 0.69			

3-3. 平成12年 累積報告数・定点当り累積報告数：疾病・地域ブロック・性別 (男)

3-3. Number of cumulative cases and number of cumulative cases per sentinel by disease, geographical area and sex, 2000 (Male)

性器クラミジア感染症	総 数		北 海 道		京 都		北 京		東 海		近 畿		中 国		四 国		九 州		沖 縄	
	累積報告数	定点当り	累積報告数	定点当り	累積報告数	定点当り	累積報告数	定点当り	累積報告数	定点当り	累積報告数	定点当り	累積報告数	定点当り	累積報告数	定点当り	累積報告数	定点当り	累積報告数	定点当り
性器ヘルペスウイルス感染症	15856	17.68	537	12.20	1335	16.01	5545	19.39	2746	18.43	2349	17.80	1036	10.91	2298	22.31	618	6.00		
尖形コンジローム	2511	2.80	69	1.57	191	2.27	896	3.13	536	3.60	180	2.52	189	1.89	252	2.45				
淋菌感染症	14196	15.83	496	11.27	772	9.19	4208	14.71	3084	20.70	1224	14.64	1288	12.88	2480	24.08				
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	11349	24.83	307	13.95	1423	23.33	2781	24.18	1157	22.69	2145	36.87	31.09	31.09	1592	18.83				
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2540	5.56	27	1.23	382	6.26	1002	8.71	209	4.10	437	5.61	6.33	6.33	191	2.27				
薬剤耐性緑膿菌感染症	364	0.80	4	0.18	42	0.69	99	0.86	57	1.12	94	0.58	1.36	1.36	37	0.44				

3-3. 平成12年 累積報告数・定点当り累積報告数：疾病・地域ブロック・性別 (女)

3-3. Number of cumulative cases and number of cumulative cases per sentinel by disease, geographical area and sex, 2000 (Female)

疾病	累積報告数 定点当り	総 数	地域ブロック														
			北海道	東	北	関東甲信越	東海	北陸	近	畿	中国	四国	九州	沖縄			
性器クラミジア感染症	21172 23.60	1961 44.57	1861 22.15	6480 22.66	3789 25.43	2166 22.80	2620 25.44	1432 5.01	395 2.99	2295 17.39	342 3.60	833 8.09					
性器ヘルペスウイルス 感染症	5039 5.62	376 8.55	357 4.25	1432 5.01	395 2.99	2295 17.39	342 3.60	833 8.09	2042 2.28	194 4.41	643 2.25	167 1.27	309 2.07	183 1.93	268 2.60		
尖形コンジローム	2730 3.04	235 5.34	117 1.39	612 2.14	200 1.52	907 6.09	190 2.00	469 4.55	6664 14.58	165 7.50	1552 13.50	1137 21.45	657 12.88	1288 18.67	994 11.83		
淋菌感染症	6664 14.58	1781 3.90	253 4.15	704 6.12	200 3.77	155 3.04	317 4.59	131 1.56	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	1781 3.90	21 0.95	200 3.77	155 3.04	317 4.59	131 1.56		
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	1781 3.90	2 0.09	16 0.26	49 0.43	10 0.19	18 0.35	75 1.09	21 0.25	ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	191 0.42	2 0.09	16 0.26	49 0.43	10 0.19	18 0.35	75 1.09	21 0.25
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	191 0.42	2 0.09	16 0.26	49 0.43	10 0.19	18 0.35	75 1.09	21 0.25	薬剤耐性緑膿菌感染症	2 0.09	16 0.26	49 0.43	10 0.19	18 0.35	75 1.09	21 0.25	
薬剤耐性緑膿菌感染症	2 0.09	16 0.26	49 0.43	10 0.19	18 0.35	75 1.09	21 0.25										

3-4. 平成12年 累積報告数・定点当り累積報告数：疾病・年齢階級別・性別 (総数)

3-4. Number of cumulative cases and number of cumulative cases per sentinel by disease, age group and sex, 2000 (Total)

	総数	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39
性器クラミジア感染症	37028 41.28	8 0.01	-	-	51 0.06	5646 6.29	11475 12.79	8263 9.21	4939 5.51	2999 3.34
性器ヘルペスウイルス感染症	8946 9.97	1 0.00	6 0.01	4 0.00	13 0.01	462 0.52	1503 1.68	1630 1.82	1286 1.43	969 1.08
尖形コンジローム	4553 5.08	-	1 0.00	2 0.00	3 0.00	654 0.73	1347 1.50	911 1.02	597 0.67	361 0.40
淋菌感染症	16926 18.87	1 0.00	5 0.01	6 0.01	15 0.02	1653 1.84	4303 4.80	3971 4.43	2796 3.12	1857 2.07
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	18013 39.42	1075 2.35	881 1.93	377 0.82	118 0.26	134 0.29	178 0.39	208 0.46	218 0.48	194 0.42
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	4321 9.46	463 1.01	1704 3.73	363 0.79	63 0.14	13 0.03	38 0.08	78 0.17	77 0.17	74 0.16
薬剤耐性緑膿菌感染症	555 1.21	12 0.03	9 0.02	5 0.01	12 0.03	7 0.02	10 0.02	4 0.01	4 0.01	7 0.02

	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70歳以上
性器クラミジア感染症	累積報告数 1535 1.71	955 1.06	631 0.70	280 0.31	136 0.15	62 0.07	48 0.05
性器ヘルペスウイルス 感染症	累積報告数 689 0.77	558 0.62	581 0.65	359 0.40	340 0.38	241 0.27	304 0.34
尖形コンジローム	累積報告数 247 0.28	152 0.17	140 0.16	44 0.05	33 0.04	17 0.02	44 0.05
淋菌感染症	累積報告数 984 1.10	611 0.68	416 0.46	188 0.21	79 0.09	26 0.03	15 0.02
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	累積報告数 224 0.49	399 0.87	649 1.42	826 1.81	1143 2.50	1820 3.98	9569 20.94
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	累積報告数 40 0.09	34 0.07	67 0.15	104 0.23	171 0.37	247 0.54	785 1.72
薬剤耐性球菌感染症	累積報告数 10 0.02	22 0.05	28 0.06	31 0.07	41 0.09	65 0.14	288 0.63

3-4. 平成12年 累積報告数・定点当り累積報告数：疾病・年齢階級別・性別 (男)

3-4. Number of cumulative cases and number of cumulative cases per sentinel by disease, age group and sex, 2000 (Male)

	総数	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39
性器クラミジア感染症 累積報告数	15856	1	-	-	6	1544	4139	3477	2343	1710
定点当り	17.68	0.00	-	-	0.01	1.72	4.61	3.88	2.61	1.91
性器ヘルペスウイルス 感染症	3907	-	2	0.00	1	113	411	592	623	524
定点当り	4.36	-	0.00	0.00	0.00	0.13	0.46	0.66	0.69	0.58
尖形コンジローム	2511	-	1	0.00	1	231	576	500	422	261
累積報告数	2.80	-	0.00	0.00	0.00	0.26	0.64	0.56	0.47	0.29
定点当り	14196	-	2	0.00	1	1081	3340	3414	2507	1684
淋菌感染症	15.83	-	0.00	0.00	0.01	1.21	3.72	3.81	2.79	1.98
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	11349	584	479	232	71	85	106	108	107	100
累積報告数	24.83	1.28	1.05	0.51	0.16	0.19	0.23	0.24	0.23	0.22
定点当り	2540	249	963	213	39	8	18	30	40	30
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	5.56	0.54	2.11	0.47	0.09	0.02	0.04	0.07	0.09	0.07
薬剤耐性緑膿菌感染症	364	4	6	3	3	7	5	3	3	5
累積報告数	0.80	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01
定点当り										

	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70歳以上
性器クラミジア感染症	1047 1.17	688 0.77	500 0.56	216 0.24	112 0.12	50 0.06	23 0.03
性器ヘルペスウイルス 感染症	428 0.48	301 0.34	324 0.36	185 0.21	158 0.18	116 0.13	128 0.14
尖形コンジローム	190 0.21	118 0.13	106 0.12	32 0.04	28 0.03	12 0.01	31 0.03
淋菌感染症	919 1.02	565 0.63	384 0.43	178 0.20	76 0.08	23 0.03	15 0.02
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	133 0.29	240 0.53	429 0.94	549 1.20	793 1.74	1296 2.84	6037 13.21
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	22 0.05	22 0.05	40 0.09	52 0.11	105 0.23	177 0.39	532 1.16
薬剤耐性緑膿菌感染症	6 0.01	16 0.04	18 0.04	24 0.05	26 0.06	41 0.09	194 0.42

3-4. 平成12年 累積報告数・定点当り累積報告数：疾病・年齢階級別・性別 (女)

3-4. Number of cumulative cases and number of cumulative cases per sentinel by disease, age group and sex, 2000 (Female)

疾病	累積報告数 定点当り	総数	年齢階級別										
			0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39		
性器クラミジア感染症	2172 23.60	7 0.01	-	-	-	45 0.05	4102 4.57	7336 8.18	4786 5.34	2596 2.89	1289 1.44		
性器ヘルペスウイルス 感染症	5039 5.62	1 0.00	4 0.00	3 0.00	12 0.01	349 0.39	1092 1.22	1038 1.16	663 0.74	445 0.50			
尖形コンジローム	2042 2.28	-	-	1 0.00	1 0.00	423 0.47	771 0.86	411 0.46	175 0.20	100 0.11			
淋菌感染症	2730 3.04	1 0.00	3 0.00	5 0.01	8 0.01	572 0.64	963 1.07	557 0.62	289 0.32	173 0.19			
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	6664 14.58	491 1.07	402 0.88	145 0.32	47 0.10	49 0.11	72 0.16	100 0.22	111 0.24	94 0.21			
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	1781 3.90	214 0.47	741 1.62	150 0.33	24 0.05	5 0.01	20 0.04	48 0.11	37 0.08	44 0.10			
薬剤耐性緑膿菌感染症	191 0.42	8 0.02	3 0.01	2 0.00	9 0.02	-	5 0.01	1 0.00	1 0.00	2 0.00			

	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70歳以上
性器クラミジア感染症	488 0.54	267 0.30	131 0.15	64 0.07	24 0.03	12 0.01	25 0.03
性器ヘルペスウイルス 感染症	261 0.29	257 0.29	257 0.29	174 0.19	182 0.20	125 0.14	176 0.20
尖形コンジローム	57 0.06	34 0.04	34 0.04	12 0.01	5 0.01	5 0.01	13 0.01
淋菌感染症	65 0.07	46 0.05	32 0.04	10 0.01	3 0.00	3 0.00	- -
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	91 0.20	159 0.35	220 0.48	277 0.61	350 0.77	524 1.15	3532 7.73
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	18 0.04	12 0.03	27 0.06	52 0.11	66 0.14	70 0.15	253 0.55
薬剤耐性緑膿菌感染症	4 0.01	6 0.01	10 0.02	7 0.02	15 0.03	24 0.05	94 0.21

3-5. 平成12年 定点数：月・定点種別

3-5. Number of sentinel clinics by month and category, 2000

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
STD定点	876	876	873	903	906	900	909	908	906	907	909	892
要診係属定点 (月報)	455	457	454	457	458	453	460	460	465	461	464	451
Specially-designated												
平均	897											
	457											

3-6. 平成12年 定点数：都道府県・定点種別
 3-6. Number of sentinel clinics by prefecture and category, 2000

数 (平均)	S T D	基幹病院(月報)
44	897	457
14		22
13		5
17		20
14		12
10		7
16		9
20		6
15		10
25		10
47		9
39		8
39		25
59		11
19		12
7		5
10		5
4		6
4		9
5		9
15		10
15		5
30		10
50		13
15		9
8		7
23		6
54		8
45		13
9		6
8		11
5		5
5		7
17		5
25		20
11		6
6		7
9		5
9		6
6		7
24		16
7		6
10		12
14		15
10		9
11		7
16		12
11		7

北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県 茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県 新潟県 富山県 石川県 福井県 梨川県 長野県 岐阜県 静岡県 愛知県 三重県 滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県 鳥取県 徳島県 岡山県 広島県 山口県 島根県 徳島県 香川県 愛媛県 高知県 福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 鹿児島県 沖縄県

3-7. 平成12年 定点数：地域ブロック・定点種別

3-7. Number of sentinel clinics by geographical area and category, 2000

ST D 基幹病院(月報)	総数(平均)	北海道	東北	関東甲信越	東海・北陸	近畿	中国・四国	九州・沖縄
	897	44	84	286	132	149	95	103
	457	22	61	115	53	51	69	84

第3章 病原微生物検出情報特集記事

Vol.21 No.1～Vol.22 No.12

病原微生物検出情報

月刊

Infectious Agents Surveillance Report (IASR)
http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html

Vol.21 No.1 (No.239)

2000年1月発行

国立感染症研究所
厚生省保健医療局
結核感染症課

事務局 感染症情報センター

〒162-8640 新宿区戸山1-23-1

Tel 03(5285)1111 Fax 03(5285)1177

E-mail iasr-c@nih.go.jp

(禁、無断転載)

全国市町村における風疹ワクチン接種方式と接種実施率3, 風疹ウイルス胎児感染率の低下4, CRS 28症例のウイルス遺伝子診断とその可能期間4, 妊婦の風疹IgG抗体avidityの有用性5, 母体の再感染によるCRS6, インフルエンザ分離速報: 集団かぜからのAソ連型: 宮城県7, 脳症からのA香港型: 北海道8, 無症状者を主としたEHEC O26集団発生: 千葉県8, S. Braenderup 流行: 兵庫県9, デング熱とジアルジア症を同時発症したフィリピンからの帰国者10, 同一検体からのインフルエンザウイルスとエコー30の分離10, 麻疹撲滅計画: 世界11, 京地中海地域11, C型肝炎有病率: 世界11, 百日咳に対するエリスロマイシン予防投与後の肥厚性幽門狭窄症: 米国12, 薬剤耐性菌情報12, チフス菌・パラチフス菌のファージ型別成績13

本誌に掲載された統計資料は、1)「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく感染症発生動向調査によって報告された、患者発生および病原体検出に関するデータ、2) 感染症に関する前記以外のデータに由来する。データは次の諸機関の協力により提供された: 保健所, 地方衛生研究所, 厚生省食品保健課, 検疫所, 感染性腸炎研究会。

<特集> 風疹 1995~1999

図1. 風疹患者報告数の推移, 1982~1999年 (感染症サーベイランス情報)

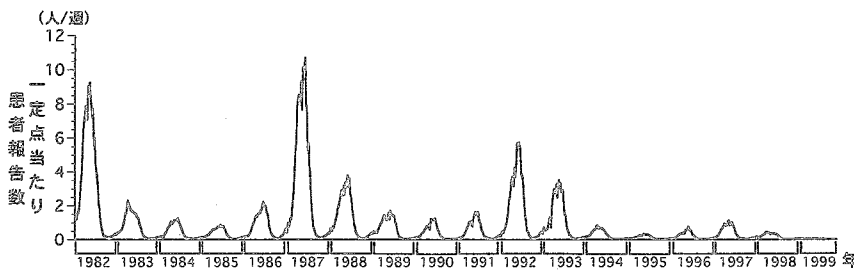


図2. 都道府県別風疹患者発生状況, 1995~1999年 (感染症サーベイランス情報)

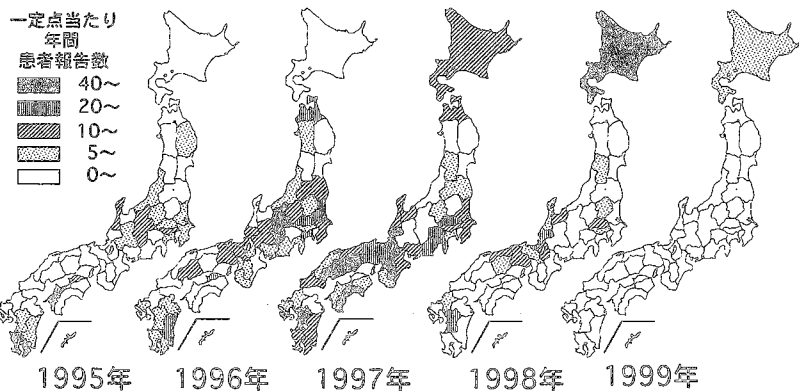


表1. 風疹患者報告数の推移 (感染症サーベイランス情報)

年	報告数	定点当たり
1982	321,880	163.55
1983	82,739	40.29
1984	48,693	23.11
1985	38,279	17.86
1986	88,141	41.13
1987	411,772	172.94
1988	160,863	67.42
1989	78,465	32.87
1990	49,651	20.63
1991	65,641	27.29
1992	223,758	92.69
1993	147,861	60.97
1994	35,858	14.79
1995	16,283	6.67
1996	26,783	11.10
1997	47,193	19.57
1998	22,039	9.14
1999*	4,288	1.61

*1~47週

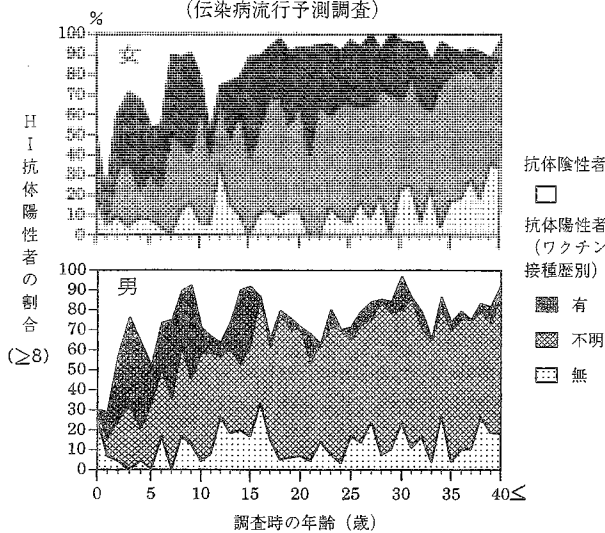
風疹は、一般的には小児の比較的軽症のウイルス性発疹性疾患で春から初夏に流行がみられる。しかし、妊婦が妊娠初期に感染し、胎児が経胎盤感染すると、難聴、白内障、心奇形などの障害を主症状とする先天性風疹症候群 (CRS) を起こすことがある。従って、風疹のサーベイランスや対策は、この CRS 予防を第一にした観点から行われている。1995年4月1日に施行された改正予防接種法では、予防接種の努力義務化 (勧奨接種)、集団接種から個別接種への移行などが行われた。風疹ワクチンは引き続き定期接種となったが、接種対象が改正前の「13~15歳女子」から「生後12~90カ月までの男女児 (以下本文では年少児と略)」に変更された。また、1999年4月1日から施行された「感染症新法」において、風疹は小児科定点報告の4類感染症、CRSは全医師に届け出義務のある4類感染症となった (本誌 Vol. 20, No. 4 参照)。

風疹患者: 厚生省感染症発生動向調査に基づく定点報告による風疹患者発生数を見ると (図1), 風疹の全国的大流行は、調査事業の開始された1982年, 1987~88年, 1992~93年と、ほぼ5年ごとに繰り返されてきたが、1994年以降は大流行は無く、局地流行や小流行に留まっている (図2)。定点 (約2,400) 当たりの患者数は、大流行年の1987年に最高値を記録した。1994年以後は低値で推移し、特に1999年は大きく減少しており、今後の報告追加を見込んでも過去最低値となっている (表1)。

CRS 患者: 1999年4月1日以降 (1999年12月15日現在)、「感染症新法」による患者の届出は1例もない。1993年に実施した聾学校 (門屋ら, 臨床とウイルス, 23, 141-147, 1995) および病院 (加藤, 臨床とウイルス, 23, 148-154, 1995) へのアンケート調査が CRS 患者全国調査の最後であり、これらによれば1963~92

(特集つづき)

図3. 性別年齢別風疹抗体保有状況, 1997年
(伝染病流行予測調査)



年に639例(門屋ら), 1978~93年に301例(加藤)が把握された。それ以降も1998年の北海道における風疹の局地的流行などに伴って, 数例のCRS患者が報告されている(本号7ページ表1参照)。風疹患者数が減少してきた1994年以降はCRS患者数も減少していると推測される。

流行ウイルス株の系統樹: 1966~97年の間に分離された風疹ウイルス25株についてHA活性を持つE1蛋白をコードする遺伝子の1,441塩基の配列を比較すると, 各年代の分離株が系統樹上にそれぞれのグループを形成しており, 風疹ウイルスは地域ごとに固有の株が繰り返し流行しているのではなく, 全国規模の流行のたびに, 流行ウイルス株が交代していると考えられる(Sanogoら, 第47回日本ウイルス学会, 1999)。しかし, 抗原性の大きな変化はなく, 現行ワクチン株の免疫効果に問題は無い。

定期接種対象年齢と予防接種率: 予防接種法の改正で風疹ワクチンの接種対象となった年少児には標準接種年齢として12~36カ月以下で接種されているが, 以前に風疹単味または麻疹・おたふくかぜ・風疹混合(MMR)ワクチンを受けたことがない者に対する経過措置として, ①1995年度に小学校1~2年生の者, ②1996~99年度に小学校1年生の者, ③2003年9月までで12~16歳未満(標準は中学生)の男女も定期接種の対象とされている。しかし改正前に比べ女子中学生の接種率の低下が指摘されている。磯村の調査に

よれば1997年の実績は年少児60%, 中学生46%であった。さらに中学生の接種方式別接種率をみると, 個別無料接種が28%, 集団無料接種が71%と両者の差が大きかった(本号3ページ参照)。

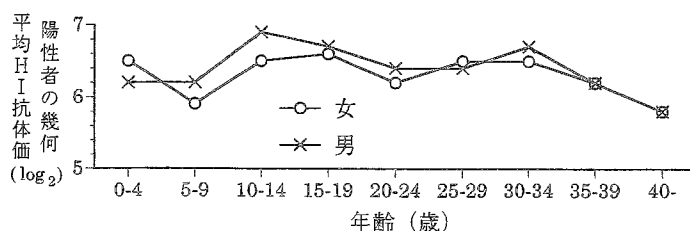
抗体保有状況: 1997年の厚生省伝染病流行予測調査によれば, 17~32歳の女性の90%以上は抗体を保有していた。一方, 同年齢の男性では, 約70%の保有率であり, 1977年以降現在まで継続されている女子中学生に対する予防接種の大きな効果が読み取れる(図3)。10歳未満の男女に共通する抗体保有率の2つのピークは, ①法改正後の幼児接種群(2~4歳), ②MMR接種(1989年4月~1993年3月)および法改正後の小学生への経過措置群(7~10歳)に対応しており, 予防接種による抗体獲得を反映している。しかし, 11~14歳は50~79%と保有率が低い。1997年調査時にこの年齢であった者は, ワクチン接種によって抗体を獲得することが望ましい(対象年齢を超えた者も任意接種は可能)。集団の免疫レベルの指標である抗体陽性者の平均抗体価は, 男女とも10代~30代まで1:2⁶(1:64)以上の十分な免疫を保っている(図4)。

考察: 1994年以降大きな流行がない理由は, 1989~93年の間に男女の幼児へMMRワクチンが接種されたこと, および, 1995年4月から風疹ワクチンの接種対象が拡大されて, 接種率は不十分であるものの流行の主体である年少児が免疫されたことの効果と考えられる。今後, ワクチン接種が推進・維持されれば, 全国規模の大流行は起こらないことが期待される。

ギリシャにおいて, 1970年代半ば~1987年にかけて小児の風疹ワクチン接種率が50%以下の低い状態が続き, 妊婦の抗体陰性者(感受性者)が1980年の11%から1990~91年の36%に上昇した。1993年の風疹流行で妊婦を含む若年成人に感染が増加し, 1993年7月~1994年6月にCRSが25例発生した(BMJ 319: 1462-1467, 1999)。同様の問題を起こさないためには, わが国でも現在の低い接種率を向上させ, 高い予防接種率の維持を目指すことが重要である。

流行規模の縮小により野外ウイルスの再感染(主に不顕性)による免疫ブースター効果が期待できなくなる状況も考えられる。また, 将来国内の風疹発生が抑えられても外国からウイルスが輸入される可能性もあるので, CRSを無くすためには, 妊娠可能年齢の女性における高い抗体保有率と高い抗体価を維持させなくてはならない。そのためには年齢別の免疫状況の推移をモニターしている感染症(旧伝染病)流行予測調査事業による血清疫学調査を今後も継続する必要がある。1995年の予防接種法改正では小児全員が免疫されることを目指しているが, 妊婦での免疫を維持するために追加接種の可否を検討しておく必要がある。

図4. 性別年齢群別平均風疹抗体価, 1997年(伝染病流行予測調査)



病原微生物検出情報

月報

Infectious Agents Surveillance Report (IASR)
http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html

Vol.21 No.2 (No.240)

2000年2月発行

国立感染症研究所
厚生省保健医療局
結核感染症課

事務局 感染症情報センター

〒162-8640 新宿区戸山1-23-1

Tel 03(5285)1111 Fax 03(5285)1177

E-mail iasr-c@nih.go.jp

(禁、無断転載)

アデノウイルス血清疫学：九州地区3，アデノ7型分離状況：広島市4，1987年のアデノ7型肺炎：大阪府5，B型インフルエンザウイルス分離速報：福岡市&広島県6，小学校で発生したSRSV嘔吐下痢症：神奈川県6，インフルエンザA(H1N1)による急性脳症：大阪府7，今冬のRSVの動向：大阪府7，ボルンホルム病の流行：愛知県8，NLVsの遺伝子系統解析：山形県9，食品からの腸炎ピリオ O3：K6検出：広島市10，大分県11，保育園におけるEHEC O111集発：福岡市12，飼育牛からの感染が疑われたEHEC O26：宮城県12，ウイルス病死亡事例：宮城県12，インフルエンザ：英国13，西アフリカからの輸入ラッサ熱死亡例：ドイツ13，旋毛虫症集発：英国13，薬剤耐性菌情報14，日本のエイズ患者・HIV感染者15

本誌に掲載された統計資料は、1)「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく感染症発生動向調査によって報告された、患者発生および病原体検出に関するデータ、2) 感染症に関する前記以外のデータに由来する。データは次の諸機関の協力により提供された：保健所、地方衛生研究所、厚生省食品保健課、検疫所、感染性腸炎研究会。

<特集> アデノウイルス 1995~1999

表1. 年別アデノウイルス検出報告数, 1991~1999年

血清型(群)	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	1995~1999年			
										例数	鼻咽喉*	眼*	便*
1 (C)	163	179	152	193	175	207	269	311	237	1,199	1,028	16	175
2 (C)	260	321	242	280	296	328	457	492	443	2,016	1,719	26	361
3 (B)	687	567	462	647	545	394	437	1,421	303	3,100	2,723	231	280
4 (E)	229	225	60	57	70	21	23	74	20	208	82	128	4
5 (C)	120	105	129	139	126	123	138	134	155	676	558	3	142
6 (C)	39	49	31	51	37	44	49	40	42	212	171	3	43
7 (B)	-	15	3	-	104	220	302	292	41	959	758	68	228
8 (D)	91	42	20	25	144	61	37	15	7	264	6	256	2
11 (B)	19	59	50	49	53	59	12	9	3	136	9	9	3
14 (B)	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
15 (D)	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	1	-	-
19 (D)	39	10	15	23	6	27	170	141	29	373	13	355	3
22 (D)	-	-	-	-	-	2	-	1	-	3	-	3	-
31 (A)	2	-	1	-	2	1	1	1	-	5	-	-	5
34/35 (B)	-	-	-	-	2	-	1	-	-	3	2	2	2
35 (B)	-	-	-	-	-	-	1	1	-	2	-	-	-
37 (D)	86	23	4	30	78	40	20	8	6	152	1	151	-
40 (F)	-	7	4	-	3	5	-	-	2	10	-	-	10
41 (F)	17	9	5	4	-	-	-	3	-	3	-	-	3
40/41 (F)	-	-	13	5	21	15	67	45	61	209	1	-	209
未同定	112	87	107	95	152	123	102	69	33	479	135	70	207
合計	1,865	1,698	1,298	1,598	1,814	1,670	2,087	3,057	1,382	10,010	7,207	1,321	1,677

(病原微生物検出情報：2000年1月26日現在報告数) *同一人の異なる材料から検出された例を含む

アデノウイルスには49の血清型があり、これらは生物学的特徴、造腫瘍性やDNAホモロジーなどの指標によりA~Fの6群に分類されている。アデノウイルス感染は多彩な臨床症状を起こす。上気道炎、角結膜炎、胃腸炎の3つが主要症状であるが、群により主要症状に差がみられる。A群は造腫瘍性が高く他の群とは一線を画しており、感染症発生動向調査による病原体サーベイランスにおける検出報告は稀である。B群とE群は上気道炎患者と角結膜炎患者、C群は上気道炎患者、D群は角結膜炎患者、F群は胃腸炎患者から主として検出される。本特集では全国の地方衛生研究所(地研)等で分離または検出(以下検出)されたアデノウイルスの最近の動向をまとめた。

1991~1999年に検出されたアデノウイルスの血清型を年別に表1に示した(1990年以前は本月報Vol.16, No.5参照)。1995~1999年の最近5年間についてみると、総検出数は10,010で(2000年1月26日現在報告数)、1型~41型まで17の血清型、34型と35型の中間型の34/35型、市販のELISAキットによる検出のため40型と41型の区別ができていない40/41型とが報告された。最も検出数が多かったのは3型で、以下

2型、1型、7型、5型、19型、8型、6型、40/41型、4型、37型、11型の順で多く、その他の型は稀であった。1998年の3型の検出数(1,421)は過去最高数であった1987年(932)を上回った。4型は流行性角結膜炎および咽頭結膜熱の病原体で、1991~1992年に増加したが、1993年以降の検出は少ない。稀であった31型は胃腸炎患者から、35型は出血性膀胱炎患者からの検出が報告されている(本月報Vol.18, No.2およびVol.19, No.2参照)。

アデノウイルスは主要症状を反映して上気道炎患者の鼻咽喉材料、角結膜炎患者の眼ぬぐい液、胃腸炎患者の便からの検出が大部分を占める(本月報Vol.15, No.5参照)。1995~1999年の検出例について鼻咽喉材料、眼ぬぐい液および便からの検出数をみると(表1)、B群とC群は主として鼻咽喉材料、D群は大部分が眼ぬぐい液、F群は全例が便から検出されている。B群の11型はその例外で、出血性膀胱炎の起因ウイルスであるため尿からの検出が多く、表に示した材料からの検出は少ない。

次ページ図1に群別に主な血清型の月別検出数の推移を示した。B群の3型は咽頭結膜熱の病原体であり、

(特集つづき)

1998年7月をピークに大きく増加した。同じくB群の7型は1995年から日本に再出現し(本月報 Vol. 17, No. 5 & Vol. 18, No. 4 参照), 1996~1998年に増加して肺炎等の重症例・死亡例が発生したため注目されたが(本月報 Vol. 19, No. 7, 155ページ参照), 1999年には減少した。7型も検出数の多かった1997年と1998年は6~7月にピークがみられた。C群の1, 2, 5型は毎年コンスタントに検出されているが, 季節性ははっきりしない。D群も季節性は明瞭ではないが, 夏から秋にかけて幅広く検出が増加している。8型と37型は1995年~1996年前半, 19型は1996年後半~1998年にかけて検出数が多く, 角結膜炎の起因アデノウイルスの血清型が1996年7月を境に交替していることがわかる。F群は検出数のやや多かった1997年および1999年には11~12月にかけて増加している。

図2に1995~1999年に報告された小児科定点当たり咽頭結膜熱患者数(1999年第13週までは眼科定点からの報告も含む)と眼科定点当たり流行性角結膜炎の患者数の推移を示した。咽頭結膜熱患者発生は毎年夏にピークがみられ(1990~1994年は本月報 Vol. 16, No. 5 参照), この5年間は図1に示したB群の検出数の推移と連動している。特に1998年の患者増加は上記の病原体検出データより3型の流行を反映していると考えられる。流行性角結膜炎患者は通年的に発生しているが, 第3四半期を中心に幅広い山を示し, 図1のD群検出数と同様のパターンで推移している。

アデノウイルスの主要症状のうち, 上気道炎と胃腸

図2. 咽頭結膜熱と流行性角結膜炎患者報告数の推移, 1995~1999年
(感染症サーベイランス情報)

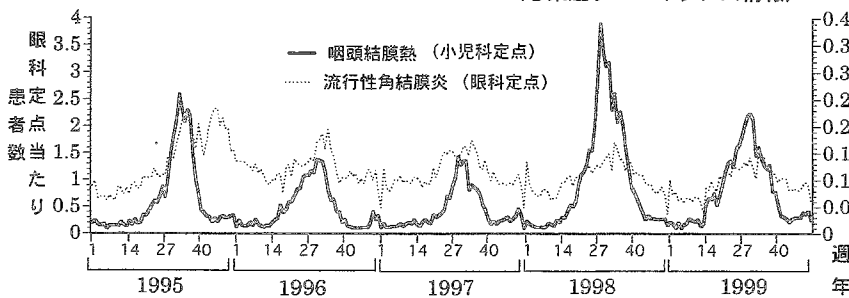


図3. アデノウイルス検出例の年齢, 1995~1999年 (病原微生物検出情報: 2000年1月26日現在報告数)

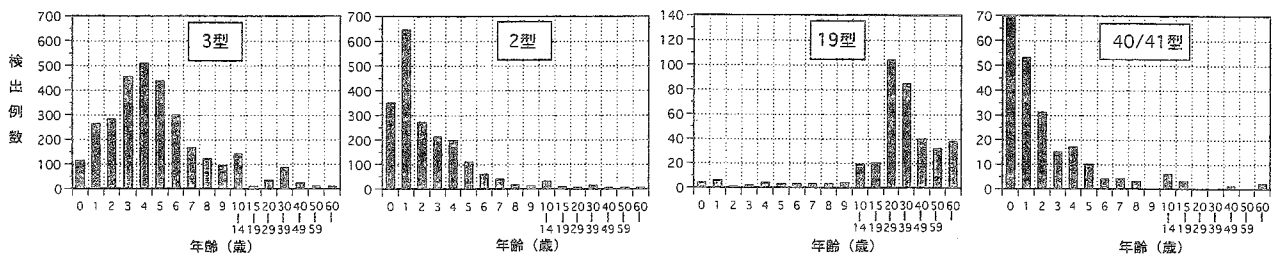
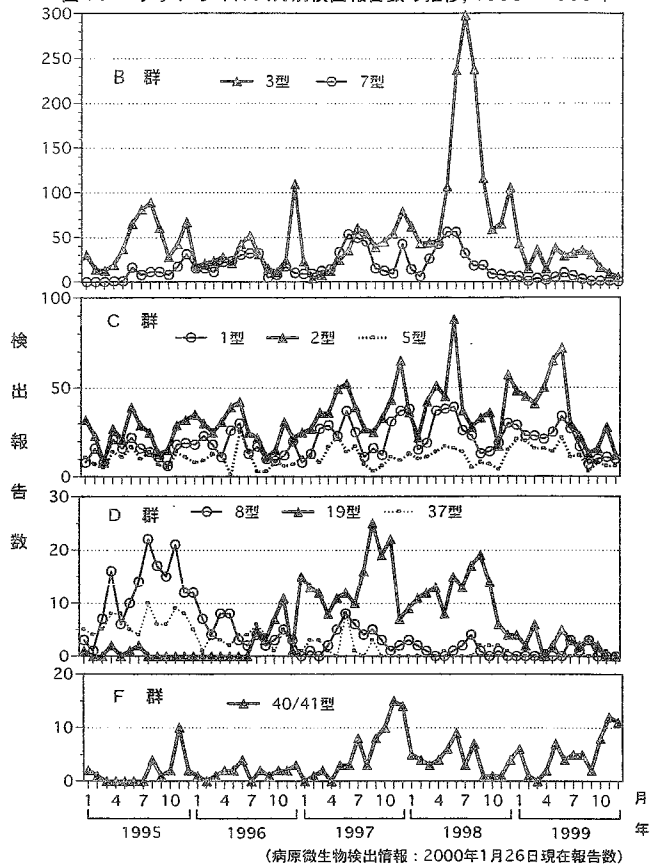


図1. アデノウイルス月別検出報告数の推移, 1995~1999年



炎は主に小児にみられ, 角結膜炎は成人に多い(本月報 Vol. 15, No. 5 & Vol. 16, No. 5 参照)。図3に1995~1999年に各群で最も検出数が多かった3型(B群), 2型(C群), 19型(D群), 40/41型(F群)を典型例として検出例の年齢分布を示した。3型は4歳をピークに, 2型は1歳をピークに, 40/41型は0歳をピークに小児からの検出が多く, これとは対照的に19型が検出された患者は成人が多かった。3型は30歳代にもう一つの小さなピークがみられるが, 成人は結膜炎患者からの検出が多い。

病原微生物検出情報



Vol.21 No.3 (No.241)

2000年3月発行

Infectious Agents Surveillance Report (IASR)
http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html

国立感染症研究所
厚生省保健医療局
結核感染症課

事務局 感染症情報センター

〒162-8640 新宿区戸山1-23-1

Tel 03(5285)1111 Fax 03(5285)1177

E-mail iasr-c@nih.go.jp

(禁、無断転載)

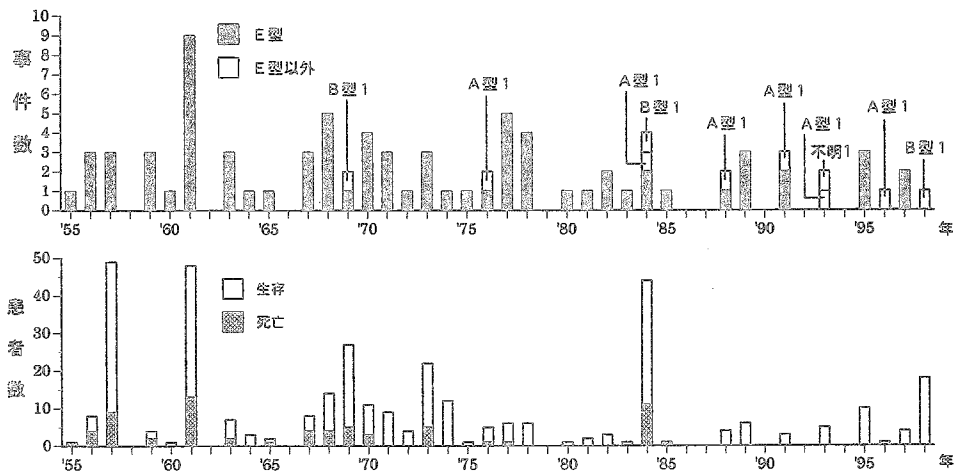
ボツリヌス症3, 東京都内で発生したB型ボツリヌス食中毒事例4, 髄膜炎菌性髄膜炎・敗血症: 東京都6, ETEC O153 食中毒集発: 長崎市6, 老人福祉施設におけるインフルエンザ集発: 滋賀県7, 今シーズンのインフルエンザの動向: 群馬県8, 東京都内で採取されたコロモジラミの殺虫剤感受性9, 1998年ツツガムシ病・紅斑熱様患者集計報告10, 創傷性ボツリヌス症: スイス11, リステリア症集発: フランス12, 赤痢集発: 米国12, S. Enteritidis 集発: 米国12, 髄膜炎菌感染症の増加: スコットランド12, 麻疹の流行: オランダ13, 小児定期予防接種スケジュール: 米国13, 天然痘研究諮問委員会報告14, ワクチン添加物としてのチメロサル14, 薬剤耐性菌情報14, チフス菌・パラチフス菌のファージ型別成編15

本誌に掲載された統計資料は、1)「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく感染症発生動向調査によって報告された、患者発生および病原体検出に関するデータ、2) 感染症に関する前記以外のデータに由来する。データは次の諸機関の協力により提供された: 保健所, 地方衛生研究所, 厚生省食品保健課, 検疫所, 感染性腸炎研究会。

<特集> ボツリヌス症

ボツリヌス症は、ボツリヌス菌 (*Clostridium botulinum*) が産生する毒素によって神経麻痺症状が発現する疾患である。毒素の型にはA~G型があり、ヒトの中毒はA, B, E, F型による。本菌は嫌気性菌で、耐熱性の芽胞を形成して土壌中に存在する。ボツリヌス症はいわゆる食中毒としての食餌性ボツリヌス症、乳児ボツリヌス症、創傷

図1. ボツリヌス食中毒発生状況, 1955~1998年 (厚生省食中毒統計)



性ボツリヌス症等に分類される(本号3ページ参照)。本特集では、わが国における食餌性ボツリヌス症と乳児ボツリヌス症について、前者は厚生省食品保健課「食中毒統計」に基づき、後者は文献報告などから確認された症例をまとめた。

食餌性ボツリヌス症: 食品がボツリヌス菌の芽胞に汚染され、低酸素状態に置かれた時、菌が増殖して毒素を産生する。その毒素汚染食品を食べて発病する。本症は、1951年に北海道で明らかにされて以来、自家製の「いづし」あるいはこれに類似する魚類の発酵食品を原因食品とし、主に北海道、青森などの北日本に限局して発生する傾向がみられ、毎年数例の報告が続いていた。毒素型はE型が主で、現在では数は少なくなってきたが、なお発生している。

本症は食品衛生法に基づくボツリヌス食中毒として発生届け出が行われている。1955~1998年までのボツリヌス菌による食中毒事件は、86件発生している。図1に年別の発生状況を示した。毒素型はA型6件、B型3件、型別不明1件で、残り76件はE型によると考えられる。圧倒的にE型毒素産生菌による事例が多いが、1事例当たりの患者数は少ない。本症の患者数は合計351名、うち死者68名で、致死率は、19%である。毒素型による内訳は、E型263名(死者53名)、

表1. ボツリヌス食中毒事件, 1977~1998年

発生年	都道府県	毒素型	患者数	原因食品
1977	北海道	E	1 (1)	マスのいづし
	北海道	E	1	はたはたいづし
	青森	E	1	いづし
	福島	E	1	アユいづし
	福島	E	2 (1)	アユいづし
1978	青森	E	1	シイラのいづし
	青森	E	2	カレイのいづし
	青森	E	2	カレイのいづし
	青森	E	1	イワシいづし
	青森	E	1	タナゴのいづし
1980				
1981	福島	E	2	アユいづし
1982	北海道	E	2	サケのいづし
	青森	E	2	イワシいづし
1983	北海道	E	1	サメガレイのきりこみ
1984	青森	E	6	ハタハタとサケのいづし
	青森	E	1	イワシのいづし
	栃木	B	1	不明(家庭)
	14都道府県	A	36 (11)	カラシレンコン*1
1985	北海道	E	1 (1)	イワシいづし
1988	岡山	A	1	不明
	北海道	E	3	自家製サケの調味乾燥品*2
	北海道	E	1	ニンイづし
1989	北海道	E	2	カレイいづし
	北海道	E	3	ハス(淡水魚) 寿司
1991	青森	E	1	ウグイいづし
	青森	E	1	アユいづし
	広島	A	1	不明
	大阪	?	1	不明
	秋田	A	4	笹詰の翌幸*3
1995	北海道	E	6	サケいづし
	青森	E	1	コハダいづし
	青森	E	3	ウグイいづし
1996	千葉	A	1	不明
1997	福島	E	3	ハヤいづし
	福島	E	1	イワシいづし
1998	東京	B	18	瀬越めりープ*4

*1~*4は IASR Vol.5 No.11, Vol.10 No.2, Vol.14 No.8, 本号p.4-5参照

A型45名(12名)、B型42名(3名)、型別不明1名(0名)である。

表1および次ページ図2に1977~1998年に発生した事例を示す。北海道・東北以外における地域で発生

(特集つづき)

図2. 都道府県別ボツリヌス食中毒事件発生状況, 1977~1998年

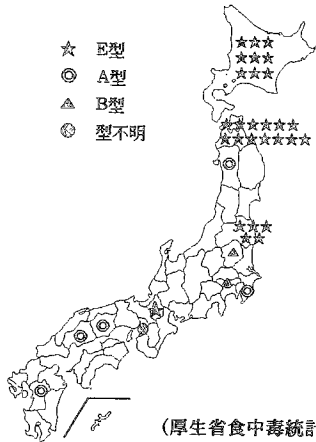


表2. 国内の乳児ボツリヌス症発生状況

No.	場所	発症年月	年齢 (日)	性別	型	便中 毒素	中 毒菌	血清中の 毒素	ハチミツ 摂取歴	菌分離	備考
1	千葉	1986年 5月	83	男女	A	+	+	-	+	+	IASR Vol.7 No.9&11(1986)
2	京都	1987年 7月	40	男女	A	+	+	+	+	-	Jpn J Med Sci Biol 43:233-237(1990)
3	大阪	1987年 7月	49	男女	?	-	-	-	+	-	未発表
4	石川	1987年 7月	62	男女	A	+	+	+	+	+	IASR Vol.9 No.3(1988)
5	大阪	1987年 8月	38	男女	A	+	+	+	+	+	小児科診療 52:2799-2804(1989)
6	京都	1987年 8月	93	男女	?	?	?	?	+	-	未発表
7	愛媛	1987年 9月	146	男女	?	?	?	?	+	?	未発表
8	愛媛	1987年10月	135	男女	A	+	+	-	+	+	IASR Vol.9 No.3(1988)
9	神奈川	1987年10月	132	男女	A	+	+	-	+	+	治療学 25:207-209(1991)
10	岐阜	1987年10月	99	男女	A	+	+	-	+	+	小児科臨床 41:551-554(1988)
11	神奈川	1989年 2月	122	男女	A	+	+	+	+	+	Acta Paediatr Jpn 33:394-397(1991)
12	岡山	1989年10月	54	男女	A	+	+	-	+	+	第22回日本小児感染症学会
13	北海道	1990年 2月	171	男女	C	+	+	-	?	?	Lancet 336:1449-1450(1990)
14	大阪	1992年 9月	66	男女	A	+	+	-	-	+	感染症学雑誌 68:259-262(1994)
15	石川	1995年 3月	183	男女	B	+	+	-	-	-	Acta Paediatr Jpn 38:541-543(1996)
16	東京	1996年 4月	91	男女	A	+	+	-	-	-	IASR Vol.17 No.10
17	広島	1999年 3月	212	男女	A	+	+	-	-	-	IASR Vol.20 No.12

?: 不明 ND: 検査せず

した事例は、主に市販食品が原因食になっており、E型以外の型を原因とすることが多い。1969年に宮崎県で発生した西ドイツ産キャビアによる食中毒事件はB型が原因で、患者23名死者3名を出した。1984年に発生した熊本産カラシレンコンによる事件はA型が原因で、14都府県において患者36名、死者11名を出した(本月報 Vol.5, No.11参照)。1998年に東京都で発生したイタリア産グリーンオリーブによる食中毒事件はB型が原因で、患者18名であった(本号4~5ページ参照)。これらのA型、B型による事例は原因食品が流通した広い地域で発生がみられ、患者数が比較的多いのが特徴である。その後1999年に千葉県で発生した真空パック詰め食品(加圧加熱殺菌したレトルト食品とは異なる)による患者1名の事件の原因はA型であった(本月報 Vol.20, No.11 & 12参照)。

汚染源となる土壌中の本菌の芽胞の分布はかなり広範囲である。わが国では北日本を中心に土壌からE型菌が分離されており、A型菌も少数であるが国内の土壌から分離されている(ボツリヌス菌, 食中毒菌の制御 p.72-85, 中央法規)。食品・食材の流通が国際的に頻繁に行われている現在, 外国の土壌に芽胞として存在するボツリヌス菌が食品に混入して輸入される可能性については常に注意が必要と思われる。

ボツリヌス食中毒は発生件数が少ないが, 他の食中毒と異なり致死率が高い。治療は抗毒素療法と対症療法である。本症の存在を忘れずに, ギラン・バレー症候群様症状などの疑わしい症状を示す患者については積極的に病原診断を行い, 原因食品を迅速に特定して, その情報を公衆衛生関係者と臨床現場などに広く提供することが, 同じ食品に関連する患者・死者を増やさないための対策として重要である。

乳児ボツリヌス症: 乳児の腸管内でボツリヌス菌が増殖し, 産生された毒素によって発病する。本症は, 米国でボツリヌス症を疑う乳児の便検査が診断法に取り入れられた結果, 1976年に初めて確認されたものである。日本国内では10年後の1986年, 千葉県で初め

て本症が確認された。1987年には本症に対する医療現場の関心の高まりを反映するように9例が報告されたが, 全例が蜂蜜を摂っていた。厚生省は同年10月に乳児に蜂蜜を与えないこと, 検査体制を整備することなどを通知し(本月報 Vol.8, No.11参照), その後の本症患者の報告は少なくなっている。

現在までに確認された17症例を表2に示した。患者発生には地域特異性, 季節性および男女の差は見られない。患者便からA型菌および毒素が検出され, 患児に与えた蜂蜜から同型菌が分離された例が多かった。3症例(No.3, No.6, No.7)では患者からも蜂蜜からも菌は分離されていないが, 臨床症状と蜂蜜の投与事実から診断されている。1990年以後は蜂蜜摂取歴が全くない例が報告され, 野菜スープが原因食と判明した例がある(No.16)。1990年にはC型, 1995年にはB型毒素産生菌が分離されている。

海外では乳児の突然死症候群(SIDS)には本症による死亡が約5%含まれると推定されているが(Arnon S.S. Rev. Infect. Dis. 6: S193-201, 1986), No.12とNo.13の症例はSIDSと同様の臨床経過であったが死を免れた例(ニアミス例)である。突然死あるいは死に至らないまでもSIDSニアミスを起こすような症例については本症が関与している可能性も考慮する必要がある。

本症の一般的な治療はペニシリン系の抗生物質の投与である。ウマ血清を使用する抗毒素療法は慎重を要する。

患児が感染後排泄する便の中には菌と毒素が含まれており, ピーク時には便1g中に菌100万CFU, 毒素10万MLD(マウス致死量)と多量となり, 頑固な便秘を呈するために菌と毒素は1カ月以上排出された報告がある。従って, 患児の糞便の処理には注意が必要である。

乳児ボツリヌス症は1999年4月から施行された「感染症の予防および感染症の患者に関する医療に関する法律」において全臨床医に届け出義務のある4類感染症として分類された。同法による届け出患者は2000年2月現在まで1例(表2 No.17)である。

病原微生物検出情報



Vol.21 No.4 (No.242)

2000年4月発行

Infectious Agents Surveillance Report (IASR)
http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html

国立感染症研究所
厚生省保健医療局
結核感染症課

事務局 感染症情報センター

〒162-8640 新宿区戸山1-23-1

Tel 03(5285)1111 Fax 03(5285)1177

E-mail iasr-c@nih.go.jp

(禁、無断転載)

A型肝炎の分子疫学的重要性 3, B型肝炎母子感染防止事業開始後に出生した小児のHBVキャリアー率 3, 1999/2000シーズンB型インフルエンザウイルスの分離: 仙台市4, 大阪市5, 手足口病患者からのEV71分離状況: 北九州市5, *S. flexneri* 2aによる集団感染事例5, 食品・患者から同型菌が分離された腸炎ヒブリア食中毒事例: 埼玉県6, A型肝炎ワクチン: WHO 7, 2000/2001シーズンの北半球用インフルエンザワクチン推奨株: WHO 7, 麻疹の流行: アイルランド8, 爬虫類ペットによる新生児髄膜炎: 英国8, サルモネラ菌血症死亡事例: デンマーク8, 糞産生性 *C. ulcerans* 感染: 英国9, *S. aureus* 菌血症: 英国9, ホテルでのレジオネラ症: 英国9, HIV感染症サーベイランスの強化: 英国9, 薬剤耐性菌情報9, 日本のエイズ患者・HIV感染者10

本誌に掲載された統計資料は、1)「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく感染症発生動向調査によって報告された、患者発生および病原体検出に関するデータ、2) 感染症に関する前記以外のデータに由来する。データは次の諸機関の協力により提供された: 保健所, 地方衛生研究所, 厚生省食品保健課, 検疫所, 感染性腸炎研究会。

<特集> 急性ウイルス性肝炎 1999. 4~12

急性ウイルス性肝炎は1987年に感染症サーベイランスの対象疾病に加えられ、500余りの病院定点から月単位の報告が1999年3月まで行われていたが、1999年4月に施行された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（以下感染症新法）」において、全臨床医に届け出義務のある4類感染症として位置づけられた。医師は本症を診断後1週間以内に保健所に届け出なくてはならない。この疾病の届け出は新規の感染による急性肝炎の把握を目的としており、B型やC型肝炎の慢性肝疾患、無症候性ウイルス保有者（キャリアー）および、これらの急性増悪例は対象ではない。新法施行後1999年12月までの9カ月間に報告された急性ウイルス性肝炎患者は1,455例で、その内訳はA型肝炎713例（49%）、B型肝炎497例（34%）、C型肝炎138例（9%）、E型肝炎2例、その他70例（5%）、不明35例（2%）であった（図1）。

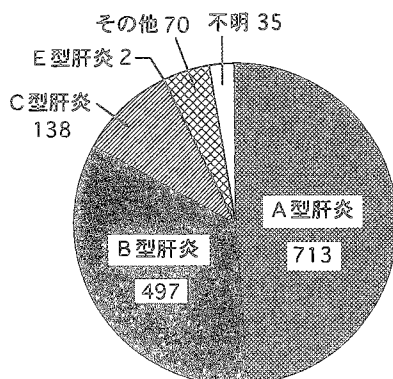
A型肝炎: A型肝炎はピコルナウイルス科のA型肝炎ウイルス（HAV）が病原体であり、主に患者の便中に排泄されたHAVが経口的に感染して起こるが、慢性化することは無い。小児は不顕性感染に終わることも多いが、成人は小児に比して発症しやすく、重症化することも稀ではない。感染症新法施行以前のサーベイランスでは、病院定点から年間353~1,881例の報

告があり、1990年をピークに、その後報告数は減少してきていた（本月報Vol. 18, No. 10参照）。

1999年4~12月に報告された713例は、男性64%（456例）、女性36%（257例）と男性が多く、年齢分布をみると男性は20~30代、女性は30~40代が多かった（次ページ図2-a）。推定感染地は、海外は6%（40例）のみで、国内88%（625例）、不明7%（48例）であった。海外での主な感染地はインド、中国などアジア諸国であった。国内感染例について人口10万人当たりの報告数を都道府県別にみると、徳島、山梨、東京の順に多く、徳島では1999年11~12月にA型肝炎患者発生の集積がみられた。近畿地区も比較的報告数が多かった（図3）。感染経路として生カキなどの摂食が疑われた例もあるが、潜伏期間が長い（平均4週間）こと、環境や食材からのHAV分離が困難であることなどから感染源が特定された例は少ない。また、男性同性愛者間での感染例が15例あった。

日本では上下水道の整備とともに感染機会が減少し、A型肝炎の抗体を保有していない人が50歳以下で増加している（本月報Vol. 18, No. 10参照）。HAVは-

図1. 急性ウイルス性肝炎患者の内訳, 1999年4~12月 (厚生省感染症発生動向調査)



(2000年2月10日現在報告数)

図3. 都道府県別A型肝炎患者発生状況, 1999年4~12月 (厚生省感染症発生動向調査)

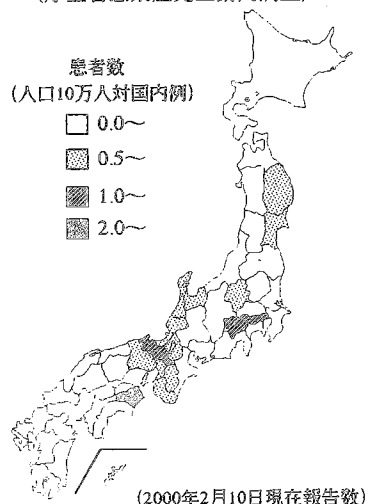
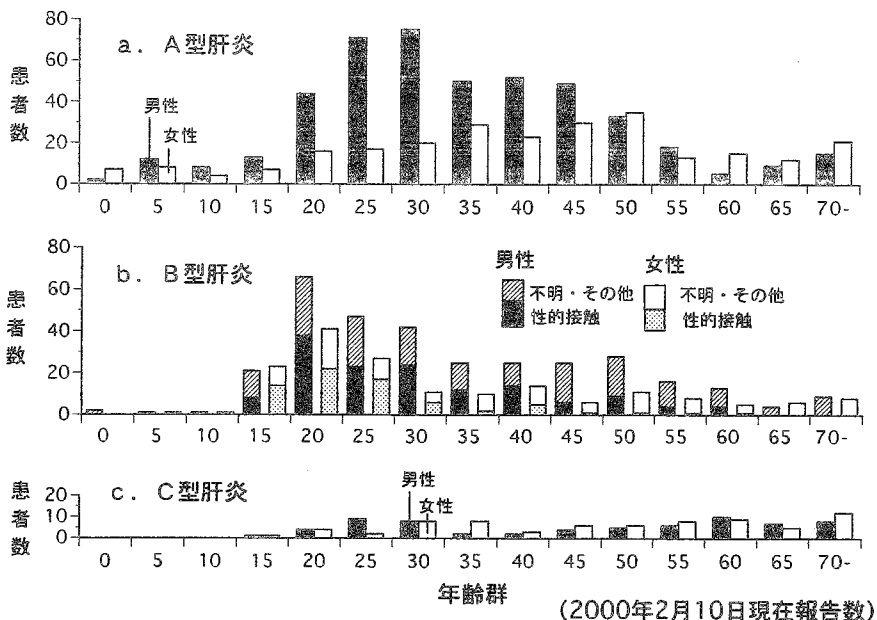


図2. 急性ウイルス性肝炎患者の性別年齢分布, 1999年4~12月
(厚生省感染症発生動向調査)



比較的長い潜伏期の間に便中に排泄され、かつ種々の環境条件(酸、界面活性剤、熱など)にも強いため、ウイルスが伝播しやすい集団(家族、施設、男性同性愛者など)に入ると感染が広がりやすい(本月報 Vol. 18, No. 10 および Vol. 17, No. 3 参照)。また、調理人から飲食客へと数週間にわたって感染が続いたと思われる事例も報告されている(本月報 Vol. 15, No. 5 および Vol. 16, No. 10 参照)。患者の便検体ばかりでなく血清中の HAV 遺伝子を PCR で増幅することも可能である。さらに、その塩基配列の相同性の比較が感染源調査に有用な情報となる(本号 3 ページ参照)。

予防は、A 型肝炎ワクチンを接種することにより可能である。米国では、流行地への渡航者だけでなく、男性同性愛者、静注薬物常用者や職業的暴露を受ける可能性のある人などに接種を推奨しているが、小児への定期接種を推奨し始めた州もある(本月報 Vol. 21, No. 3 参照)。WHO も最近 A 型肝炎ワクチンの指針を示した(本号 7 ページ参照)。

B 型肝炎: B 型肝炎ウイルス(HBV)はヘパドナウイルス科に属し、血液や性的接触を介して感染する。通常一過性の症状発現の後にウイルスが排除されて治癒する。HBe 抗原陽性の母親から生まれた児が出生時に感染を受けると無症候性ウイルス保有者(キャリア)になりやすい。キャリアは成人になってから肝硬変や肝細胞癌に進展する危険性があるため、1985 年から「B 型肝炎母子感染防止事業」が開始された(1986 年以降に出生した児が対象)。1995 年までは HBe 抗原陽性、現在は HBs 抗原陽性の母親から生まれた児に抗 HBs 免疫グロブリンと B 型肝炎ワクチンが投与され、母子感染によるキャリアの発生は劇的に減

少している(本号 3 ページ参照)。

1999 年 4~12 月に報告された 497 例は男性 65% (325 例)、女性 35% (172 例)と男性が多く、男女ともに 20 代の報告が最も多かった(図 2-b)。感染経路として性的接触による感染と報告された例が全体の 43% (213 例)を占めた。成人の感染では正常の免疫機能があれば慢性化することはほとんど無いものの、患者の約 1~2% が劇症化するといわれている。今後、性感染症として再認識し、予防教育などに力を注ぐ必要がある。

C 型肝炎: C 型肝炎は 1989 年に抗体測定試薬が開発され、非 A 非 B 型肝炎の主な原因であることがわかった。その後 C 型肝炎ウイルスはフラビウイルス科に分類された。感染経路は不明な部分もあるが主に血液等を介した感染と考えられている。1999 年 4~12 月に報告された 138 例は、男性 52% (72 例)、女性 48% (66 例)であり、男女とも比較的高年齢者が多かった(図 2-c)。感染症新法下での届け出基準では、初感染による急性ウイルス性肝炎の報告が求められているが、現状では慢性肝炎や無症候性キャリアの急性増悪などの紛れ込みの可能性も否定できない。輸血による感染は B 型同様、献血血液のスクリーニングにより激減したが、針刺し事故による感染が 5 例報告された。

その他の肝炎: D 型肝炎は B 型肝炎患者に同時感染や重感染を起こし、重症化しやすい。E 型肝炎は主に水系感染による感染が多いといわれている。1999 年 4~12 月には D 型肝炎の報告は無かったが、E 型肝炎は中国での感染例が 2 例報告された。その他のウイルスによる肝炎は 70 例報告され、このうち EB ウイルスが 41 例、サイトメガロウイルスが 14 例であった。

病原微生物検出情報

Infectious Agents Surveillance Report (IASR)
http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html



Vol.21 No.5 (No.243)

2000年5月発行

国立感染症研究所
厚生省保健医療局
結核感染症課

事務局 感染症情報センター

〒162-8640 新宿区戸山1-23-1

Tel 03(5285)1111 Fax 03(5285)1177

E-mail iasr-c@nih.go.jp

(禁、無断転載)

non-O157 EHECの血清型別成績3, 中国修学旅行生のEHEC O157:H7集団感染事例:秋田県3, 健康者から分離された大腸菌の血清型と病原因子保有状況:埼玉県4, 肥育牛におけるEHEC O157の感染発症事例5, Infl. A/H3感染による急性壊死性脳症死亡例:香川県6, インフルエンザシーズンにおけるCB5散发流行:香川県7, キャンプでのEHEC O111:H8集団発生:米国8, ヒナドリが関係したサルモネラ症:米国8, NLVによる胃腸炎集団発生:米国8, 香港8, ドイツ9, 院内感染のモニタリング:米国9, 薬剤耐性菌情報9, テフス菌・パラテフス菌のファージ型別成績16

本誌に掲載された統計資料は、1)「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく感染症発生動向調査によって報告された、患者発生および病原体検出に関するデータ、2)感染症に関する前記以外のデータに由来する。データは次の諸機関の協力により提供された:保健所, 地方衛生研究所, 厚生省食品保健課, 検疫所, 感染性腸炎研究会。

<特集> 腸管出血性大腸菌感染症 2000年3月現在

腸管出血性大腸菌 (Enterohemorrhagic *Escherichia coli*: EHEC, あるいは Vero 毒素産生性大腸菌: VTEC, 志賀毒素産生性大腸菌: STEC とも呼ばれている) による感染症は、わが国において1996年7月に7,000名を超える患者が報告された (本月報 Vol. 18, No. 7 参照)。同年8月に指定伝染病となり、その患者 (保菌者を含む) の届け出が義務付けられた。さらに、1999年4月に施行された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律 (感染症新法)」においては、3類感染症として位置づけられ、全臨床医に患者および無症状病原体保有者を届け出る義務が課せられている (診断基準は http://www.mhw.go.jp/search/docj/other/topics/todokede/tp1018-1_11.html 参照)。

表1に厚生省伝染病統計および感染症発生動向調査に基づいたEHEC感染症届出患者数を示す。患者数

表1. 腸管出血性大腸菌感染症届出患者数

年	期間	患者数
1996	8/6~12/31	1,287 *
1997	1/1~12/31	1,941 *
1998	1/1~12/31	2,077 *
1999	1/1~3/31	108 *
1999	4/1~12/31	2,882 **
2000	1/1~3/31	202 **

*厚生省伝染病統計

**感染症発生動向調査 (2000年4月21日現在報告数)

は、1997年1,941人、1998年2,077人、1999年は2,990人であった。新法施行後1999年4月~12月までの都道府県別の患者2,882人 (無症状病原体保有者1,086人を含む) の発生状況をみると、東北、近畿、中国地方の一部と九州地方にやや多い傾向があり、地域差がみられる (図1)。図2に同期間の患者の性別年齢分布を示す。有症者の比率は若年層で高く (19歳以下で75%), 成人層では約半数 (20歳以上で55%) が無症状者であった。

一方、地方衛生研究所から感染症情報センターに報告されたEHEC検出数をみると、1991~1995年までは毎年100前後であったが (本月報 Vol. 17, No. 1 参照)、1996年に3,021と激増して以来、1997年2,020、1998年2,053、1999年1,840で推移している (次ページ図3)。また、集団事例は、1996年には小学校を中心として多発したものの、1997年以降は小学校では発生しておらず、発生規模も小さくなってきている。これは学校給食における衛生管理の強化によるものと考えられるが、保育園等衛生指導、管理が十分に行き届きにくい施設においては依然として集団発生がおこっている (次ページ表2)。これらの集団事例の中で、鹿児島県の保育園では中華サラダ、富山県の飲食店ではイクラ、山口

図1. 都道府県別腸管出血性大腸菌感染症患者の発生状況, 1999年4~12月 (感染症発生動向調査)

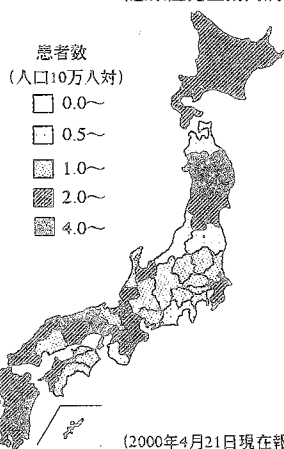
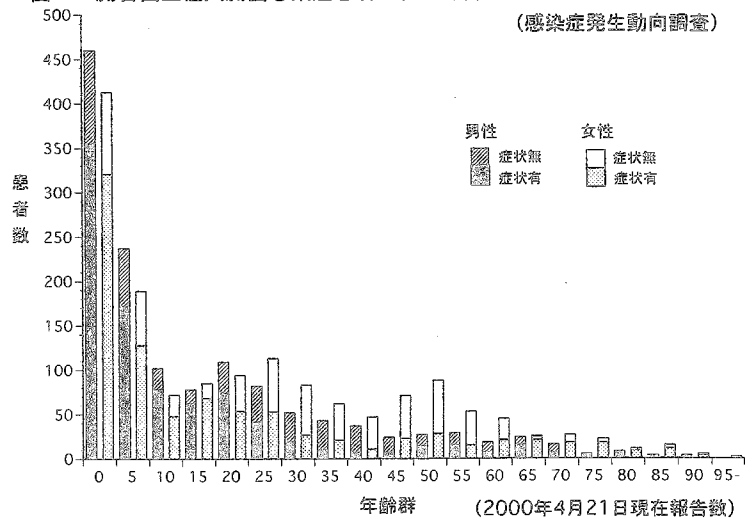


図2. 腸管出血性大腸菌感染症患者の性別年齢分布, 1999年4~12月 (感染症発生動向調査)



(特集つづき)

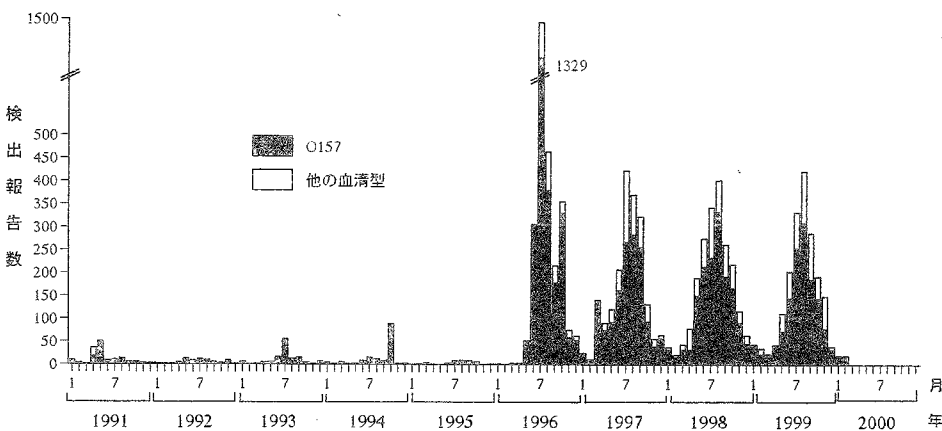
県の老人ホームではサラダ、長野県の事例では小規模水道水および配水池の水から原因菌が分離された。また、いわゆる diffuse outbreak (散发例の広域多発) として、1997年3月に関東南部から東海地域にかけて発生した O157 による事例 (本月報 Vol. 19, No. 6 参照) や 1998年5月に富山県、首都圏を含む7都府県で患者計49名が

発生した事例等も報告された。これらの事例においては、分離菌株 DNA の制限酵素 (XbaI) 切断後のパルスフィールド・ゲル電気泳動によって、それぞれの事例由来菌は同じ遺伝子型であることが示され、diffuse outbreak の発見に威力を発揮した。

検出された EHEC の血清型および毒素型を表3に示した (1991~1996年は本月報 Vol. 19, No. 6 参照)。最も多く検出される血清型である O157:H7 の割合は、1991~1995年は83% (436/525)、1996年76% (2,307/3,021)、1997年67% (1,347/2,020)、1998年64% (1,320/2,053)、1999年55% (1,003/1,840) と漸減傾向にある。一方、O157以外の血清型 (non-O157) の分離頻度の年別推移をみると、1991~1995年9.3%、1996年11%、1997年25%、1998年25%、1999年28%と漸増傾向がみられた。その中で検出頻度の高い血清型は、O26:H11、O26:H-、O111:H- などがある。これらの傾向は、1998年と1999年の集団発生事例の原因菌の血清型を反映していると考えられ (表2)、今後は non-O157 菌の動向についても詳細に把握する必要がある (週別、地域別の EHEC 検出状況の詳細および速報は感染症情報センターホームページ <http://idsc.nih.go.jp/prompt/vtec-j.html> 参照)。実際、1999年には O86 感染での溶血性尿毒症症候群 (HUS) による死亡例も報告されている (本月報 Vol. 20, No. 11 参照)。患者から分離された菌は VT2 陽性であったが、*eaeA* 陰性であり、enteroaggregative *E. coli* (EAEC) の遺伝子マーカーである pCVD432 プラスミドを保持していた。

O157:H7 の毒素型をみると、1996年は87%が VT1 と VT2 の両毒素産生性であったが、1999年にはその頻度が57%まで減少した。一方、O157:H7 で VT2

図3. 腸管出血性大腸菌月別検出状況, 1991年1月~2000年2月



(病原微生物検出情報: 2000年3月29日現在報告数)

表2. 腸管出血性大腸菌による集団発生事例 1998~1999年

発生地	発生日	菌陽性者数*	発生施設	血清型	毒素型	備考
富山県	1998年3月	132	保育園	O26:H11	VT1	IASR Vol.19, No.8
鹿児島県	1998年5月	11	保育園	O111:H-	VT1+VT2	
沖縄県	1998年5月	16	保育園	O26:H11	VT1	
富山県**	1998年5月	17	飲食店	O157:H7	VT1+VT2	IASR Vol.19, No.8
仙台市	1998年7月	13	保育園	O157:H7	VT1+VT2	
京都市	1998年7月	10	保育園	O26:H11	VT1	
長野県	1998年7月	45	保育園	O26:HNT	VT1	
和歌山市	1998年7月	10	高校	O157:H7	VT2	
福岡市	1998年8月	27	保育園	O157:H7	VT2	
山口県	1998年11月	9	老人ホーム	O157:H7	VT2	IASR Vol.20, No.5
札幌市	1999年7月	64	保育園	O26:HNT	VT2	
長野県	1999年7月	21	家庭	O157:H7	VT1+VT2	IASR Vol.20, No.12
尼崎市	1999年8月	12	保育園	O157:H7	VT2	
大阪市	1999年9月	11	保育園	O26:H11	VT1	
千葉県	1999年9月	13	保育園	O26:H11	VT1	IASR Vol.21, No.1
長崎県	1999年10月	17	保育園	O26:H11	VT1	
福岡市	1999年11月	16	保育園	O111:H-	VT1	IASR Vol.21, No.2

*「流行・集団発生情報」による菌陽性者 (無症状者を含む) 9人以上の事例を示す。

**イクラを原因食品とし、7都府県で患者計49名、保菌者13名の発生 (IASR Vol.19, No.9) (病原微生物検出情報: 2000年2月28日現在報告数)

表3. 腸管出血性大腸菌の血清型と毒素型

血清型	1997年				1998年				1999年			
	VT1	VT2	VT1&2	不明	VT1	VT2	VT1&2	不明	VT1	VT2	VT1&2	不明
O157:H7	19	416	908	4	18	418	883	1	16	411	572	4
O157:H-	3	36	43	-	-	47	35	-	1	29	49	1
O157:HNT	1	26	66	1	3	54	79	1	11	96	135	1
O26:H7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
O26:H11	270	-	9	-	224	8	9	-	178	-	4	-
O26:H20	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
O26:H21	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
O26:H27	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
O26:H-	47	-	8	-	26	-	1	-	32	-	5	-
O26:HNT	39	-	3	2	92	1	-	1	100	-	3	-
O111:H9	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
O111:H21	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
O111:H40	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
O111:H49	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
O111:H-	35	2	11	-	29	3	18	-	41	-	17	1
O111:HNT	13	1	3	-	9	-	1	1	19	-	-	-
その他	18	18	9	-	40	32	12	6	55	39	13	4
計	447	505	1061	7	442	563	1038	10	456	575	798	11

(病原微生物検出情報: 2000年2月28日現在報告数)

単独産生性の菌は、1996年は13%であったが、1999年には41%まで増加した。その他の血清型では8割以上が VT1 単独の傾向を示している。

2000年の患者届け出数は3月31日までで202件である (表1, 2000年4月21日現在) が、本年も夏場に向けて患者発生の増加が予測されるので、十分な警戒が必要である。

病原微生物検出情報



Infectious Agents Surveillance Report (IASR)
http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html

Vol.21 No.6 (No.244)

2000年6月発行

国立感染症研究所
厚生省保健医療局
結核感染症課

事務局 感染症情報センター

〒162-8640 新宿区戸山1-23-1

Tel 03(5285)1111 Fax 03(5285)1177

E-mail iasr-c@nih.go.jp

(禁、無断転載)

デング熱・デング出血熱の症状、診断、治療 3, 日本人海外旅行者のデングウイルス感染症例: 大阪府 3, 長崎大熱帯研 5, 成田空港 5, デング熱患者発生: 東京都 5, 手足口病・細菌性髄膜炎患者からの EV 71 分離速報: 熊本県 6, インド, 東南アジア旅行者からの S. Typhi 検出速報 6, ホタルイカ生食と旋尾線虫幼虫移行症 7, 生ホタルイカからの旋尾線虫幼虫検出速報 7, S. Enteritidis 集団食中毒事例: 愛媛県 7, S. Thompson 食中毒事例: 宮城県 8, 豚からのインフルエンザウイルス分離: 埼玉県 9, 輸入デング熱: 米国 9, 1999年第1四半期髄膜炎菌性髄膜炎罹患率: 欧州 9, メッカ巡礼者の髄膜炎菌性髄膜炎: 欧州 10, 米国 10, 保育園でのサルモネラ症集団発生: 英国 10, 水族館関連レジオネラ症集団発生: オーストラリア 11, 薬剤耐性菌情報 11, 日本のエイズ患者・HIV 感染者 12

本誌に掲載された統計資料は、1)「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく感染症発生動向調査によって報告された、患者発生および病原体検出に関するデータ、2) 感染症に関する前記以外のデータに由来する。データは次の諸機関の協力により提供された: 保健所, 地方衛生研究所, 厚生省食品保健課, 検疫所, 感染性腸炎研究会。

<特集> 輸入感染症としてのデング熱

ヒトはデングウイルスを保有するネッタイシマカやヒトスジシマカの刺咬によりデングウイルスに感染する。単に発熱のみを症状として終わる場合もあるが、典型的な症状を示す場合、デング熱とデング出血熱と呼ばれる2つの異なる病態を示す(本号3ページ参照)。

デング熱は1942~1945年にかけて西日本において流行したことが報告されている(堀田, Med. Entomol. Zool. Vol. 49 No. 4 p.267-274, 1998)。流行は1942年7月長崎市において始まり、続いて佐世保, 広島, 呉, 神戸, 大阪などの諸都市においても発生した。発生時期からみて、1942年の各地域での流行はそれぞれ独立して起こったと推察される。ウイルスは東南アジアから帰国した軍用船の乗組員中のデング熱罹患患者によって国内にもたらされ、各都市で大量に発生していた土着のヒトスジシマカにより流行が引き起こされた可能性が高い。ただし、当時船中にネッタイシマカの存在が確認されている。流行が複数年継続した理由については、①ウイルスが毎年海外からもたらされた可能性、②ウイルスがヒトスジシマカで経卵伝達されて越冬した可能性、のいずれも考えられるが不明である。患者総数は20万人を下らないと推察されている(Hotta S., J. Trop. Med. Hyg. Vol. 56, p.83, 1953)。本流行はデングウイルス1型によるものであった。長崎の患者の血液よりデングウイルス1型が分離されており、

また、後の検査で当時の長崎の患者にデングウイルス1型に対する中和抗体が確認されている。

現在、日本国内にはデングウイルスは常在せず、従って、国内感染によるデング熱の発生はない。しかし、デングウイルスが常在する熱帯・亜熱帯地域への旅行中にデングウイルスに感染し、帰国後発症する輸入例が存在する。これまで、国内でデングウイルス感染の病原診断(詳細は本号3ページ参照)を継続的に行ってきた施設は限られており、輸入感染症としてのデング熱患者数も各施設において独自に記録されているものがあるのみである(本号3~5ページ参照)。国立感染症研究所(感研)ウイルス第一部において、デングウイルス感染と病原診断された例数は表1のとおりである。1985~1989年までは年間5人未満であったが、1990年以降は患者数10人以上の年が多い。特に1998年は40人以上の患者数であったことが注目される。なお、1992~1999年にPCR法により感染した

表2. デングウイルス感染例の渡航国の内訳, 1985~1999年

	1985-89年	1990-94年	1995-99年	計
アジア				
タイ	7	24	34	65
インド	2	7	18	27
フィリピン	5	9	12	26
インドネシア	1	6	11	18
マレーシア	1	2	5	8
ミャンマー	0	0	8	8
カンボジア	1	1	5	7
シンガポール	1	1	5	7
ネパール	1	2	2	5
ラオス	0	2	3	5
ベトナム	0	1	3	4
バングラデシュ	1	0	2	3
モルディブ	0	1	2	3
台湾	2	0	0	2
中国	0	0	2	2
スリランカ	0	0	1	1
オセアニア・南太平洋				
オーストラリア	0	1	0	1
ニューカレドニア	0	0	1	1
フィジー	0	1	0	1
タヒチ	0	0	1	1
中米				
ドミニカ	0	1	0	1
グアテマラ	0	0	1	1
アフリカ				
ナイジェリア	0	0	1	1
リベリア	0	0	1	1
コートジボワール	0	0	1	1

(国立感染症研究所ウイルス第一部)

表1. デングウイルス感染診断例数, 1985~1999年

年	国立感染症研究所	大阪府立 公衆衛生研究所	長崎大学 熱帯医学研究所
1985	4	ND	0
1986	1	ND	0
1987	4	ND	0
1988	4	ND	0
1989	1	ND	0
1990	11*	ND	0
1991	6*	ND	0
1992	13	ND	0
1993	7	ND	0
1994	11	5	2
1995	16	3	1
1996	15	0	2
1997	6	1	8
1998	42	9	7
1999	11	2	0

*デング出血熱患者1例を含む。ND:検査せず 0:不明

(特集つづき)

表3. 東南アジア・南アジア各国のデング熱・デング出血熱患者報告数, 1991~1999年

国名	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年
カンボジア	1,882	4,809	3,913	1,498	10,199	1,433	4,224	16,216	.
ラオス	249	265	343	2,585	7,781	8,179	.	7,671	2,507 d
マレーシア	6,628	5,473	5,589	3,133	6,543	14,255	19,544	27,373	9,312 d
フィリピン	11,317	9,108	5,715	5,603	7,413	13,613	12,811	35,648	9,221 d
ベトナム	111,817	51,311	53,674	44,944	80,447	89,963	108,000	234,866	20,861 d
シンガポール	2,179	2,878	946	1,239	2,008	3,128	4,300	5,183	1,355 d
インドネシア	21,120	17,620	17,418	18,783	35,102	44,650	.	.	.
タイ	43,511 a	41,125 a	67,017	51,688	59,911	34,618	92,173 b	.	.
インド	6,291	2,683	11,125	7,494	7,847	13,069	.	.	.
台湾	.	.	165 c	1,027 c	1,798 c	1,081 c	688 c	1,336 c	1,106 c

・不明

Wld. Hlth. Statist. Quart. Vol. 50, p. 161, 1997

Weekly Epidemiological Record Vol. 73, p. 273, 1998

WPRO Communicable Disease Bulletin No. 1, 1999

a) Obtained from Dr. Andjaparidze, SEARO

b) Department of Public Health, Thailand

c) Epidemiology Bulletin, Taiwan R.O.C. Vols. 11-16, 1995-2000

d) Obtained from Dr. Oshitani, WPRO

表4. デングウイルス感染例の性別, 1996~1999年

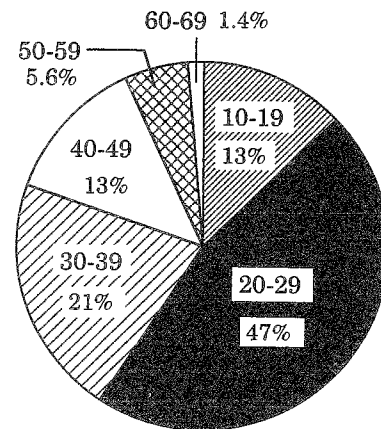
年	男性	女性	合計
1996	14	1	15
1997	3	3	6
1998	28	14	42
1999	8	3	11
合計	53	21	74

(国立感染症研究所ウイルス第一部)

型が確定された26例についてみると、1型9人(35%)、2型11人(42%)、3型4人(15%)、4型2人(8%)であった。大阪府立公衆衛生研究所、長崎大学熱帯医学研究所において病原診断された例数は、前者においては1994年以降年10人未満、後者においても1996年以降年10人未満である。これらはいずれも臨床医がデングウイルス感染を疑い検体を送付したものであるが、日本全体のデングウイルス感染者のごく一部と思われる。

1985~1999年に感染研においてデングウイルス感染と診断された患者が発症前に訪問した国は25カ国であった(前ページ表2)。多い国としてはタイ65例、インド27例、フィリピン26例、インドネシア18例、マレーシア8例、ミャンマー8例、カンボジア7例、シンガポール7例で、アジア諸国が圧倒的に多く96%を占めていた(ただし複数の国を旅行している例があり、延べ人数は患者総数より多くなる)。東南アジア、南アジア諸国においても1990年代に入りデング熱・デング出血熱患者数は増加傾向にある。また、台湾においても1,000人を超える患者発生が報告されている(表3)。さらにオセアニア・南太平洋、中米、アフリカの国々を訪問中に感染した例が近年みられることも注目される(表2)。渡航先の多様化と、中米、南太平洋でのデングウイルス感染の拡大がその背後にあるのであろう(Pinheiro et al., Wld. Hlth. Statist., Quart., Vol. 50, p.161, 1997)。以上のデータから、東南アジア、南アジア諸国からの帰国者、入国者の熱性疾患の場合はデング熱を常に鑑別診断に入れるべきであるが、オセアニア、南太平洋、中南米、アフリカ等他の熱帯・亜熱帯地域の国を旅行した後に発症した

図1. デングウイルス感染例の年齢, 1996~1999年



(国立感染症研究所ウイルス第一部)

熱性疾患においてもデング熱の可能性を考慮しておくべきである。

1996~1999年の4年間に感染研においてデングウイルス感染と診断された74例の性別は男性53名、女性21名であった(表4)。デングウイルスに対する感受性に男女差があるとは考えられていないので、女性に比べ男性の方がデングウイルス侵淫地域に出かけ、ウイルスに暴露される機会が多いのであろう。年齢分布は20代が約半分を占め、10代、30代、40代がそれぞれ13、21、13%を占めていた(図1)。

現在、国内でのデングウイルス感染の報告は無い。しかし、媒介蚊であるヒトスジシマカは存在している。国内に存在しないネッタイシマカも航空機や船舶により一時的に侵入し、生息する可能性もある。1940年代にデング熱が流行した事実からしても、これらの蚊が患者からウイルスを媒介し、国内感染を起こす可能性は十分考慮しておくべきである。

1999年4月に施行された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」において、デング熱は全臨床医に届出の義務がある4類感染症として位置付けられた。1999年9例、2000年は5月28日現在2例が報告されている。

病原微生物検出情報



Vol.21 No.7 (No.245)

2000年7月発行

Infectious Agents Surveillance Report (IASR)
http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html

国立感染症研究所
厚生省保健医療局
結核感染症課

事務局 感染症情報センター

〒162-8640 新宿区戸山1-23-1

Tel 03(5285)1111 Fax 03(5285)1177

E-mail iasr-c@nih.go.jp

(禁、無断転載)

日本の HIV/AIDS の将来予測 3, HIV/STD 関連知識, 性行動等の全国調査 4, 献血者の HIV 感染状況 5, 日本で流行している HIV-1 サブタイプ 6, HIV-1 治療薬に対する薬剤耐性変異 7, 手足口病患者からの CA16 分離 8, A 群ロタウイルス血清型 2 型の集団発生: 山梨県 9, 神戸市 9, 千葉県 10, 鳥取県 10, 6 月のインフルエンザウイルス分離: 仙台市 11, C 型インフルエンザウイルスの分離: 埼玉県 11, 広島県 12, 環境の腸炎ピブリオ検査 12, HIV 陽性診断後の性行動の変化: 米国 13, 今シーズンのインフルエンザ流行状況と来シーズン用ワクチン組成: 米国 13, インフルエンザ定期予防接種対象拡大: 英国 14, 麻薬使用者の創傷ボツリヌス症: 英国 14, アレルギー様食中毒: 米国 14, 狂犬病の暴露後処置: デンマーク 14, 思春期のワクチン接種: WHO 15, 風疹ワクチン: WHO 15, 薬剤耐性菌情報 16, テフス・パラチフス菌のファージ型別成績 22

本誌に掲載された統計資料は、1) 「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく感染症発生動向調査によって報告された、患者発生および病原体検出に関するデータ、2) 感染症に関する前記以外のデータに由来する。データは次の諸機関の協力により提供された: 保健所, 地方衛生研究所, 厚生省食品保健課, 検疫所, 感染性腸炎研究会。

<特集> HIV/AIDS 1999年12月31日現在

エイズ発生動向調査は1984年に開始され、1989年～1999年3月31日までは「後天性免疫不全症候群の予防に関する法律」に基づいて実施されてきた(凝固因子製剤による感染例を除く)。1999年4月1日からは、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく感染症発生動向調査の対象疾病の1つ(4類感染症)として行われている。HIV感染者またはAIDS患者を診断した医師は、「後天性免疫不全症候群発生届(HIV感染症を含む)」を7日以内に最寄りの保健所に提出することが義務づけられており、保健所はオンラインを通して、都道府県等(都道府県、保健所を設置する市および特別区)および中央

感染症情報センター(国立感染症研究所感染症情報センター内に設置)に報告する。報告内容は、性、年齢、HIV感染者・AIDS患者の別、診断方法、発病年月日、診断年月日、AIDS診断指標疾患、居住地、推定される感染地、感染経路などである。本特集はエイズ動向委員会によって2000年4月21日に確定された1999年エイズ発生動向年報集計に基づく。

1. 1999年のHIV/AIDS発生状況

1999年に新たに報告されたHIV感染者(AIDS未発症者、以下HIVと省略)は530人、AIDS患者(以下AIDSと省略)は300人であった。感染経路別では、性的接触による感染例が最も多く、HIV報告の77%、AIDS報告の73%を占めた。国籍・性別では、日本国籍男性がHIVの72%、AIDSの71%と多数を占めた(図1)。男女比はHIVが約4:1、AIDSが約6:1だった。感染地別では、日本国籍例の大半が国内感染(HIV79%、AIDS69%)である(図2)。報告地別では、東京・その他の関東・甲信越ブロックが最も多く(HIV76%、AIDS71%)、次いで近畿ブロックが多かった(HIV、AIDSともに11%)。

2. 1998年報告との比較

1999年のHIV報告は前年より108人増加し(約26%増)、発生動向調査開始以来最高の年間報告数を記録した。1998年同様、日本国籍男性の国内感染が多く、同性間および異性間の性的接触による感染が増加した。また報告地別では、特に東京と九州ブロックの増加が目立った。AIDS報告は前年より69人増加し(約30%増)、日本国籍・外国国籍ともに異性間の性的接触で増加した。なお、上述した1999年4月1日の発生動向調査の変更に伴い、その前後で一時的に報告が増加した可能性があり、比較に際しては留意が必要である。

3. 1985年～1999年12月31日までの累積報告数と発生動向

1999年12月31日までの累積報告数は、HIV 3,443、AIDS 1,586であつ

図1. HIV感染者およびAIDS患者の国籍・性別内訳, 1999年(厚生省エイズ動向委員会)

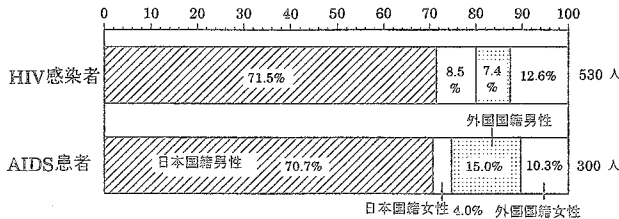


図2. HIV感染者およびAIDS患者の感染地別内訳, 1999年(厚生省エイズ動向委員会)

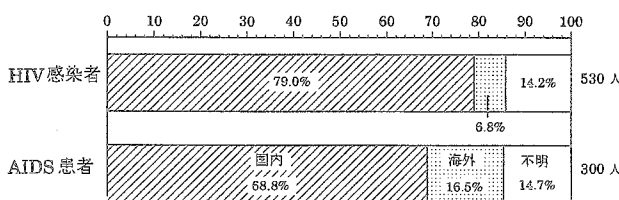
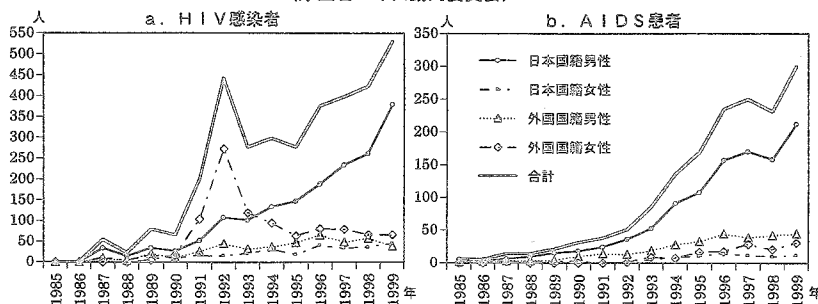


図3. HIV感染者およびAIDS患者の国籍・性別年次推移, 1985～1999年(厚生省エイズ動向委員会)



(特集つづき)

た。本発生動向調査とは別に、厚生省研究班によって、凝固因子製剤による HIV 1,434, AIDS 631 が確認されている (1997年10月末時点)。以下、凝固因子製剤による感染例を除いた発生動向を要約する。

1) HIV の年間報告数は1992年のピーク後減少したが、1995年以降一貫して増加傾向にある (前ページ図3a)。HIV の増加は日本国籍男性の国内感染例の増加によるものであり、日本国籍女性も緩やかな増加傾向にある。外国国籍男性・女性では過去6年間、横這いなし減少の傾向にある。外国国籍例の割合は1999年では約20%で、過去6年間漸減傾向にある。

累積報告例について感染経路別にみると、性的接触による感染が最も多く (異性間47%, 同性間26%), 静注薬物濫用、母子感染によるものはいずれも0.6%と低かった (図4)。日本国籍例では、異性間および同性間の性的接触と感染経路不明が増加を続けているのに対し、外国国籍例ではいずれの感染経路も減少ないし横這いである (図5)。1999年には、日本国籍例で同性間性的接触が急増し、異性間性的接触を上回った。感染経路不明例は例年外国国籍例の約40%前後を占めているが、日本国籍例においても例年15%前後で推移している。

年齢分布は、国籍にかかわらず男性では25~34歳、女性20~29歳にピークが見られる。感染地別では日本国籍男性の国内感染と感染地不明例が増加を続け、外国国籍男性の日本国内での感染が増加傾向にあることが注目される。外国国籍例を世界地域区分別にみる

と、東南アジアから来日した者が最も多く、次いでラテンアメリカ、サハラ以南アフリカが多い。

2) AIDS の年間報告数は1997年まで増加を続け、1998年に初めて減少に転じたが、1999年には再び増加している (前ページ図3b)。AIDS は日本国籍男性において増加が著しく、他の国籍・性別区分ではいずれも微増傾向であった。外国国籍例の割合は1999年には約25%であり、過去6年間では25~30%でほぼ一定している。

感染経路別にみると、HIV 感染と同様に性的接触が最も多く (異性間46%, 同性間23%), 静注薬物濫用、母子感染によるものは0.9%, 0.8%と低かった。日本国籍例では異性間の性的接触による報告が増加し、同性間の性的接触および感染経路不明は過去6年間で増減を繰り返している。感染経路不明の割合は外国国籍の45%以上、日本国籍の25%以上である。

年齢分布は日本国籍男性では40~49歳にピークがあるが、日本国籍女性および外国国籍男女では25~34歳にピークがみられる。感染地別では日本国籍男性の国内感染例が増加している。

日本国籍と外国国籍の AIDS の累積報告数 (1,149 と 437) を分母として、AIDS の指標疾患の分布をみると、両群とも類似の分布を示し、ニューモシスチス・カリニ肺炎がそれぞれ46%, 40%と最多で、カンジダ症 (21%, 14%), HIV 消耗性症候群 (12%, 13%) がそれに次いだ。両群では活動性結核に差が認められ、日本国籍では7.0%であるのに対し、外国国籍では14%とほぼ2倍であった。

3) 献血者の HIV 抗体陽性率は年々増加を続け、1999年には過去最高値の献血10万件当たり1.02となった (図6, および本月報 Vol. 21, No. 6, p. 14参照)。一方、1999年の保健所における HIV 抗体検査および相談の総実施件数は、それぞれ48,218件 (1998年は53,218件), 103,206件 (同111,046件) であり、前年に比べ大きく減少した。利便性の高い場所と時間帯を配慮した検査・相談の実施や、より積極的なエイズ予防に関する普及啓発活動が望まれる。

図4. HIV感染者の感染経路, 1985~1999年 (厚生省エイズ動向委員会)

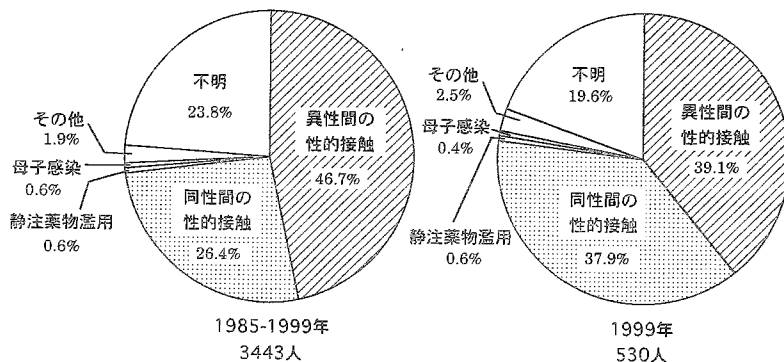


図5. HIV感染者の国籍・感染経路別年次推移, 1985~1999年 (厚生省エイズ動向委員会)

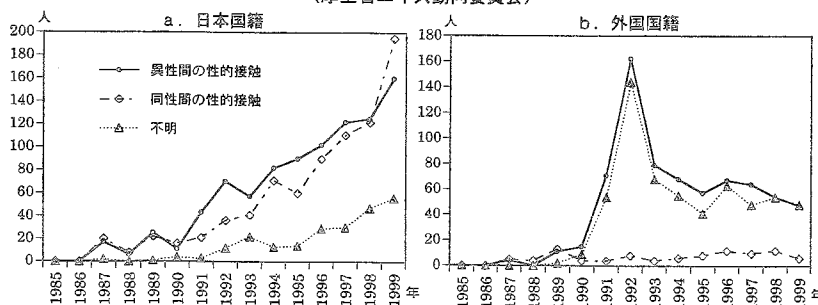
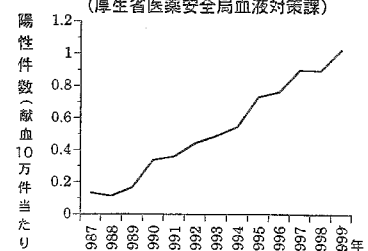


図6. 献血における HIV 抗体確認検査陽性件数, 1987~1999年 (厚生省医薬安全局血液対策課)



病原微生物検出情報



Vol. 21 No. 8 (No. 246)

2000年8月発行

Infectious Agents Surveillance Report (IASR)
http://idsc.nih.gov/iasr/index-j.html

国立感染症研究所
厚生省保健医療局
結核感染症課

事務局 感染症情報センター
〒162-8640 新宿区戸山1-23-1
Tel 03(5285)1111 Fax 03(5285)1177
E-mail iasr-c@nih.gov.jp

(禁、無断転載)

S. Weltevreden による食中毒事例：沖縄県 3, 牛生レバー喫食後の EHEC O157 感染事例の続発：和歌山市 3, ウェルシュ菌集団食中毒事例：新潟県 4, 1999年夏季に多発したレプトスピラ症：沖縄県 4, セラチアによる院内感染：東京都 5, セラチアの輸液中での増殖実験 6, 手足口病患者からのウイルス分離速報：EV71 北九州府 6, CA16 栃木県 7, エコーウイルス 9 型分離速報：宮崎県 7, 奈良県 8, C 群ロタウイルス集団胃腸炎事例：岡山県 8, 秋田県でエキノコックス症として届けられその後肝臓症と確定診断された症例 9, 海浜公園での胃腸炎集団発生：米田 10, デング熱/デング出血熱：WHO 10, HBe 抗原陰性の B 型肝炎感染医療従事者からの感染予防新ガイドライン：英国 11, 薬剤耐性菌情報 11, 日本のエイズ患者・HIV 感染者 12

本誌に掲載された統計資料は、1)「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく感染症発生動向調査によって報告された、患者発生および病原体検出に関するデータ、2) 感染症に関する前記以外のデータに由来する。データは次の諸機関の協力により提供された：保健所、地方衛生研究所、厚生省食品保健課、検疫所、感染性腸炎研究会。

<特集> サルモネラ症 2000年6月現在

厚生省食中毒統計によると、細菌性食中毒の患者総数は1996年は38,408名、1997年29,104名、1998年36,337名、1999年27,741名と推移している。この中でサルモネラによる患者数の占める割合は、1996年は43% (16,334名)、1997年38% (10,926名)、1998年32% (11,471名)、1999年43% (11,888名)であり、1998年に腸炎ピブリオが第1位を占めた(本月報 Vol. 20, No. 7 参照)のを除き、病因物質として引き続き第1位を占めている。サルモネラ食中毒1事件あたりの患者数は、1996年は47名であったが、1997年21名、1998年15名、1999年14名と減少傾向にある。これは1997年後半から散発例の報告が増加していることによるもので、2人以上の事件に関しては1998年の1事件あたりの患者数は35名である。患者数500名以上の事件は1996年~1998年の

表1. 患者数 500名以上のサルモネラ食中毒事件, 1996~1998年 (厚生省食中毒統計)

発生年月日	発生場所	患者数	原因食品	原因菌 (ファージ型)	原因施設
1996. 7.29	大分県	903	仕出し弁当 (卵焼き)	S. Enteritidis (PT1)	仕出し屋
1996. 8.24	北海道	1,833	学校給食 (ゆでホウレン草とシーチキンあえ)	S. Enteritidis	学校、その他
1996.10.25	福岡県*	644	学校給食 (ホウレン草のピーナツあえ)	S. Enteritidis (PT1)	学校、その他
1997.11.26	浜松市	744	給食弁当	S. Enteritidis (PT4)	仕出し屋
1998. 1.21	群馬県	558	卵巾着	S. Enteritidis (PT1)	仕出し屋
1998. 3.11	大阪府**	1,371	洋菓子 (三色ケーキ)	S. Enteritidis (PT4)	製造所

* IASR Vol.18, No.6, ** IASR Vol.19, No.6参照

間に6件発生している(表1)。月別の発生状況は図1に示すように、9月をピークに夏場に多く発生している。

全国の地研・保健所から国立感染症研究所感染症情報センター (IDSC) に報告されたサルモネラの検出数は、近年は年間5,000~6,000とほぼ横ばい状態にある(図2)。このうち血清型上位15位は表2に示す通りであり、1989年以来 *Salmonella enterica* subsp. *enterica* serovar Enteritidis (S. Enteritidis) が第1位を占めている。その割合は1996年は58%, 1997年55%, 1998年62%, 1999年46%であり、これは2位

図1. 月別サルモネラ食中毒発生状況, 1996~1998年 (厚生省食中毒統計)

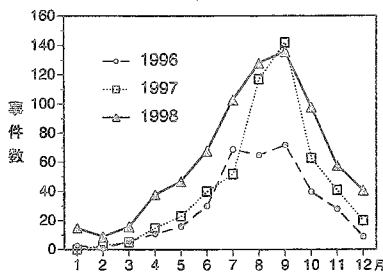


図2. ヒト由来サルモネラ年別検出状況, 1986~1999年 (地研・保健所集計)

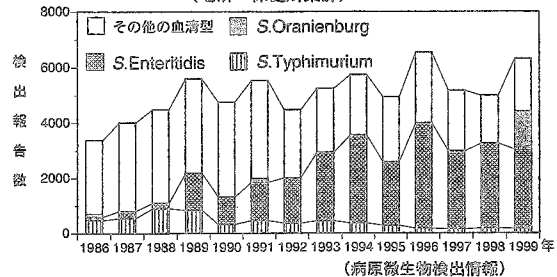


表2. サルモネラ検出状況, 1996~2000年 (血清型上位15, ヒト由来、地研・保健所集計)

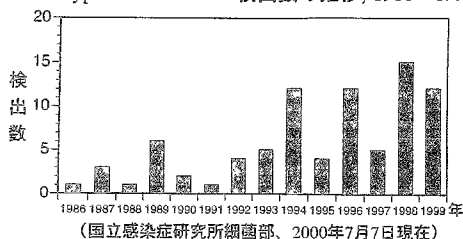
順位	1996	1997	1998	1999	2000*
1	Enteritidis 3,830	Enteritidis 2,836	Enteritidis 3,072	Enteritidis 2,874	Enteritidis 173
2	Infantis 183	Corvallis 255	Typhimurium 190	Oranienburg 1,375	Infantis 34
3	Typhimurium 173	Thompson 161	Infantis 171	Infantis 355	Typhimurium 19
4	Heidelberg 173	Typhimurium 151	Corvallis 163	Thompson 182	Oranienburg 13
5	Thompson 160	Hadar 124	Thompson 118	Typhimurium 168	Thompson 8
6	Hadar 97	Infantis 123	Hadar 89	Agona 158	Agona 6
7	Montevideo 89	Litchfield 68	Virchow 71	Corvallis 107	Newport 4
8	Virchow 87	Montevideo 60	Agona 68	Montevideo 59	Saintpaul 4
9	Litchfield 85	Saintpaul 53	Montevideo 59	Saintpaul 57	Anatum 4
10	Corvallis 62	Agona 51	Litchfield 58	Agona 56	Weltevreden 4
11	Tennessee 56	Newport 51	Anatum 36	Litchfield 55	Cerro 4
12	Newport 55	Tennessee 48	Newport 34	Typhi 45	Paratyphi B 4
13	Anatum 54	Bareilly 48	Paratyphi A 32	Braenderup 38	Tennessee 4
14	Agona 49	Braenderup 45	Typhi 31	Hadar 38	Hadar 3
15	Bareilly 46	Typhi 43	Braenderup 28	Newport 29	Litchfield 3
				Tennessee 29	Javiana 3
	その他 1,352	その他 1,061	その他 771	その他 690	その他 76
合計	6,551	5,178	4,991	6,315	366

(病原微生物検出情報)

*2000年7月25日現在報告数

(特集つづき)

図3. S. Typhimurium DT104検出数の推移, 1986~1999年



(国立感染症研究所細菌部、2000年7月7日現在)

以下の10倍以上にあたる(1999年を除く)。

一方、1988年まで第1位を占めていたS. Typhimurium(本月報 Vol. 14, No. 1, Vol. 16, No. 1 & Vol. 18, No. 3 参照)は1996年は第3位, 1997年第4位, 1998年第2位, 1999年第5位であった。欧米では多剤耐性(主としてアンピシリン, クロラムフェニコール, ストレプトマイシン, スルホンアミドおよびテトラサイクリンに耐性)で、ファージ型がdefinitive type 104(DT104)というS. Typhimuriumが流行しており(本月報 Vol. 18, No. 6 & Vol. 21, No. 6 参照), わが国でも同じ型のS. Typhimuriumが分離されているが、現在のところS. Enteritidisのような急激な増加はみられていない(図3)。

他の血清型ではS. Oranienburgの急激な増加が1999年にみられた。S. Oranienburgはこの15年間で、1986年第8位(検出数104/3,384), 1991年第9位(同130/5,550)であったが、これらの年を除いて上位15位にあがったことはなかった。しかしながら、1999年には6,315中1,375と22%を占めた(表2)。これは同菌に汚染された乾燥イカの加工品を原因食とした、1998年末~1999年5月にかけて発生した一連の食中毒事件(いわゆるdiffuse outbreak)によるものである。

表3. サルモネラ集団発生(患者数10名以上、病原微生物検出情報の速報による、2000年7月25日現在)

O群	1996年		1997年		1998年		1999年	
	血清型	事件数	血清型	事件数	血清型	事件数	血清型	事件数
O2					Paratyphi A	1		
O4	Heidelberg*1	3	Saintpaul	2	Bredeney	1	Agona	1
	Typhimurium	4			Typhimurium	4	Saintpaul	1
							Typhimurium	1
							不明	1
O7	Infantis	1	Bareilly	1	Infantis	2	Infantis	1
	Montevideo	1	Montevideo	1	Oranienburg	1	Oranienburg*3	11
	Singapore	2	Thompson	2	Thompson	1	Thompson	4
	Thompson	1	不明	1	Virchow	1	Virchow	1
	Virchow	1			不明	1		
	不明	2						
O8	Hadar	1	Corvallis	2	Litchfield	1	Hadar	1
	Litchfield	1	Hadar	2			Litchfield	2
	Muenchen	1	Newport	1				
	PakistanまたはLitchfield	1						
O9	Enteritidis	88	Enteritidis	91	Enteritidis	64	Enteritidis	67
	不明	7			不明	1	不明	3
O3,10	Anatum	1			Anatum	1	Weltevreden	1
	型複数分離*2	1			型複数分離*3	1	型複数分離*3	7
合計		116		103		80		102

*1 国際線機内食による事件

*2 Infantis, Tennessee, Enteritidis, Eastbourne

*3 OranienburgおよびChesterに汚染された乾燥イカによる一連の食中毒に含まれる事件

表4. S. Enteritidisのファージ型分布(集団および家族内感染事件数)

年	ファージ型																UT 検査事件数		
	1	3	4	5	5a	6	6a	7	8	9a	9b	14b	18	21	34	47		RDNC	
1996	26	1	28	1	-	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	3	1	64
1997	75	3	97	1	-	9	4	-	1	-	-	-	-	3	-	9	4	206	
1998	58	-	72	8	1	8	1	-	1	-	-	1	4	2	2	13	2	173	
1999	51	-	63	3	1	6	13	-	-	1	1	-	9	1	17	21	5	192	
2000	5	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	13	

RDNC: 現行のファージに感受性はあるがいずれの型にもあてはまらないもの

UT: 現行のすべてのファージに感受性のないもの

(国立感染症研究所細菌部、2000年7月7日現在)

本事件では汚染された原材料が駄菓子に加工され安価なおやつとして子供を中心に食されたこと、加工品が全国に流通したことなどから患者総数は1,505名にのぼった(本月報 Vol. 20, No. 4~No. 7 参照)。本事件では死亡者は出なかったものの、後腹膜膿瘍形成(本月報 Vol. 20, No. 6), 化膿性脊椎炎(本月報 Vol. 20, No. 10)などの症例が報告されている。

血清型別検出数におけるこうした傾向はサルモネラによる食中毒集団発生原因菌の血清型分布にも表れている(表3)。1996~1999年にIDSCに報告された集団発生のうち、患者数が10名以上の事件から検出されたサルモネラの血清型は毎年10種類前後であった。事件数は1996年116件, 1997年103件, 1998年80件, 1999年102件と大きな変動はみられない。そのうちS. Enteritidisによるものは、1996年76%, 1997年88%, 1998年80%, 1999年66%で、上述の乾燥イカによる集団発生の影響を受けた1999年を除き高い割合であった。S. Enteritidisによる集団発生においては鶏卵が使用されている例が多く、また2次汚染も重要な発生要因の一つと考えられている(本月報 Vol. 18, No. 9)。

感染研細菌部に送付されたS. Enteritidisのうち、家族内感染を含む集団発生由来株のファージ型別の結果を表4に示す。ファージ型(PT)4が1996年は44%, 1997年47%, 1998年42%, 1999年33%と第1位を、次いでPT1が第2位を占める状態が続いている。しかし、PT1とPT4の合計は1996年の85%から1999年には60%に減少しており、他方PT6, 6a, 21, 47およびRDNCなどがしばしば検出されるようになってきている。

サルモネラは下痢等の腸内感染にとどまらず敗血症等の全身感染に移行して患者を死亡させる場合もあるので(本月報 Vol. 19, No. 2 & Vol. 20, No. 11), 早めに医師に診てもらい、また症状の変化には十分な注意を払う必要がある。昨今、わが国においてはS. Enteritidisが蔓延している状態が続いており、本年も7月25日現在で173の菌株が報告されている(表2)。しかしながらサルモネラの血清型は2,300種以上もあり、1999年の乾燥イカによる事件のように、今までに検出例の少ない血清型によっても大規模食中毒が発生する可能性がある。また、欧米では多剤耐性S. Typhimurium DT104が流行しており、わが国でも同菌が分離されてきている。こうした状況から今後もサルモネラによる食中毒およびその原因菌の血清型の動向に注意を払うとともに、特に夏場にかけて、食材の保存、取り扱い等に注意するなど、食中毒予防に関する啓発が重要である。

病原微生物検出情報



Infectious Agents Surveillance Report (IASR)
http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html

Vol.21 No.9 (No.247)

2000年9月発行

国立感染症研究所
厚生省保健医療局
結核感染症課

事務局 感染症情報センター

〒162-8640 新宿区戸山1-23-1

Tel 03(5285)1111 Fax 03(5285)1177

E-mail iasr-c@nih.go.jp

(禁、無断転載)

レジオネラ症集団発生：静岡県3，茨城県3，レジオネラ肺炎肺炎：山形県4，新生児レジオネラ肺炎5，院内レジオネラ肺炎6，遊覧物等におけるレジオネラ症防止対策7，EHEC O157:H7 集団感染事例：富山県8，サイクロスポーラ症：沖縄県9，非流行期のB型インフルエンザ分離：静岡県10，EV71手足口病と右上下肢弛緩性麻痺合併例10，EV71手足口病流行：愛媛県11，熊本県11，無菌性髄膜炎地域流行：滋賀県12，NLV genogroup 1 集団嘔吐下痢症：兵庫県13，RT-PCRによるSLV検出：岩手県13，西ナイルウイルス最新情報：米14，アレンウイルス感染症：米14，インフルエンザ予防接種対象年齢引き下げ：英15，デメロサルに関する共同声明：米15，薬剤耐性菌情報15，チフス・パラチフス菌ファージ型別成績22

本誌に掲載された統計資料は、1)「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく感染症発生動向調査によって報告された、患者発生および病原体検出に関するデータ、2) 感染症に関する前記以外のデータに由来する。データは次の諸機関の協力により提供された：保健所、地方衛生研究所、厚生省食品保健課、検査所、感染性腸炎研究会。

<特集> レジオネラ症 1999.4~2000.7

レジオネラ症はレジオネラ属菌による感染症で、その病型には肺炎型と感冒様のポンティアック熱型とがある。レジオネラ肺炎に特有な症状はないため、症状のみでは他の肺炎との鑑別は困難である。四肢の脱力や、意識障害などの神経・筋症状を伴う例や、急速に全身症状が悪化する例がある点に注意が必要である。レジオネラ属菌は一般的には水中や湿った土壌中など環境中に存在する細菌で、20~50℃で繁殖し、36℃前後で最もよく繁殖する。空調施設の冷却塔の水、循環式浴槽水、給湯器の水などの人工温水中に生息する原虫類(アメーバ)の細胞内で大量に増殖する。人がこれらの水から発生したエアロゾルを吸入することによってレジオネラ属菌の経気道感染が起こり、体内では食細胞内で増殖することが知られている。高齢者や新生児、および免疫力の低下をきたす基礎疾患を有す

る者が本症のリスクグループを形成する。

レジオネラ症は1999年4月に施行された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)」において全臨床医に届け出義務のある4類感染症となった。その結果、感染症法施行から2000年7月31日までに145例のレジオネラ症患者が報告された。届け出の時点で死亡が報告されたのは10例(6.9%)であった。ちなみに厚生省レジオネラ症研究班(研究代表者：上田 泰)による1979~1992年の患者集計では、患者数は14年間でわずか86例にとどまり、稀な疾患との感があったが、致死率は32%であった。

感染症法施行後の患者発生状況(初診年月日を月別に集計)は、図1のように季節性がない。2000年の3月と6月に患者数が突出しているが、それぞれ後述の入浴施設での集団感染事例を反映したものである。従来、レジオネラ症は冷房機の稼働に伴い8月に患者発生が増加するとみられていたが、それとは明らかに異なった傾向であった。表1からもわかるように、推定感染源が記載されていた患者報告は69例と少ないが、入浴施設等が59例(86%)を占めている。

2000年3月に静岡県内の温泉の循環浴槽水を感染源として発生した集団感染では、患者23名、死者2名が報告された(本号3ページ参照)。6月に茨城県内

図1. レジオネラ症患者発生状況, 1999年4月~2000年7月
(厚生省感染症発生動向調査)

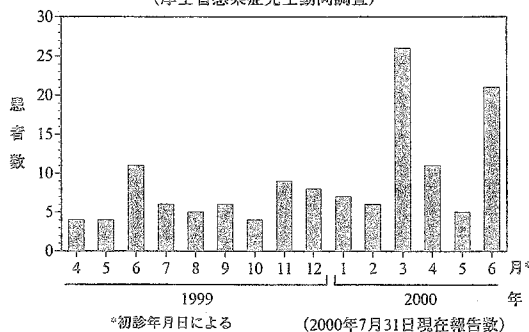


図2. レジオネラ症患者の性別年齢分布, 1999年4月~2000年7月
(厚生省感染症発生動向調査)

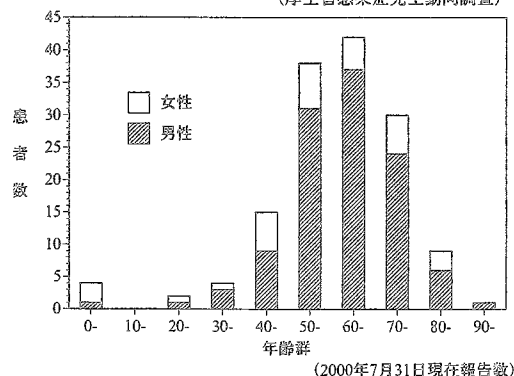


表1. 推定されるレジオネラ感染源
1999年4月~2000年7月

記載あり	69例
温泉、公共入浴施設等	52
24時間風呂	7
空調、冷却塔等	3
土、塵埃	3
スポーツ施設、プール等	2
井戸水	1
浄水場	1
記載なし	76例
計	145例

(厚生省感染症発生動向調査:
2000年7月31日現在報告数)

表2. レジオネラ症患者の症状
1999年4月~2000年7月

記載あり*	134例
発熱	84
咳嗽	51
呼吸困難	49
喀痰	27
神経・筋症状	15
倦怠感	8
食欲不振	8
筋肉痛	7
肝障害	5
低酸素血症	5
胸痛	4
横紋筋融解症	4
腎不全	4
記載なし	11例
計	145例

*症状は重複記載あり
(厚生省感染症発生動向調査:
2000年7月31日現在報告数)

(特集つづき)

表3. レジオネラ症の診断法, 1999年4月~2000年7月

診断法	例数	初診から診断までの日数											
		-7	-14	-21	-28	-35	-42	-49	-56	-63	-70	71-	(平均)
記載あり	135	30	32	25	18	10	6	6	3	1	1	3	
血清抗体価測定	48		6	10	11	8	5	3	2	1	1	1	(29.6)
尿中抗原検出	46	19	11	10	3	1	1					1	(12.5)
培養	22	4	11	3	2	1		1					(14.1)
PCR	6		1	2	1			2					-
抗体&抗原	7	5	1				1						-
抗原&培養	4	1	2								1		-
抗体&培養	2	1			1								-
記載なし	10	4	3	1		2							
計	145	34	35	26	18	10	8	6	3	1	1	3	(19.2)

(厚生省感染症発生動向調査: 2000年7月31日現在報告数)

表4. 環境からのレジオネラ属菌の検出 (地研・保健所集計)
(1997年1月~2000年6月)

種名	血清群	冷却塔水 (%)	温泉、循環風呂等 (%)
<i>Legionella pneumophila</i>	1	106 (60.9)	43 (12.5)
<i>Legionella pneumophila</i>	2	1 (0.6)	10 (2.9)
<i>Legionella pneumophila</i>	3	1 (0.6)	41 (12.0)
<i>Legionella pneumophila</i>	4	23 (13.2)	26 (7.6)
<i>Legionella pneumophila</i>	5	3 (1.7)	96 (28.0)
<i>Legionella pneumophila</i>	6	8 (4.6)	52 (15.2)
<i>Legionella pneumophila</i>	UT	29 (16.7)	66 (19.2)
<i>Legionella sp.</i>		3 (1.7)	9 (2.6)
合計		174 (100.0)	343 (100.0)

(病原微生物検出情報: 2000年7月25日現在報告数)

の総合福祉センターの入浴施設で発生した集団感染は、患者43名、死者3名という大規模な事例となった(本号3ページ参照)。その他、山形県では4~8月に7名の患者が発生しているが、感染源の解明には至っていない(本号4ページ参照)。また、2000年1月に広島県の病院で加湿器が感染源と考えられる2名の新生児のレジオネラ肺炎が起きている。

報告された患者の年齢は0~1歳および21~91歳に広く分布し、平均年齢は60.1歳で、50代~70代にかけてピークが見られた(前ページ図2)。性別は男性患者が全体の78%を占めており、レジオネラ肺炎は女性に比して3倍程度男性に多いという従来の知見と同様であった。報告に記載された患者の症状は前ページ表2に示すとおり、発熱と呼吸器症状が主であった。

確定診断に用いた検査法が記載されていた135例中、血清抗体価の測定と尿中抗原検出がそれぞれ57例(42%)で、培養は28例(21%)であった。血清抗体価測定のみの場合には抗原検出、培養に比べ診断までに日数を要する(表3)。PCRは検出率の高い方法だが6例(4.4%)と少なく、レジオネラ症の診断法としてはまだ一般的ではない。

起因菌が記載されていたものの内訳は、*Legionella pneumophila*が17症例(うち、血清群が判明しているものは血清群1が7症例、血清群6が3症例)、*L. micdadei*、*L. gormanii*各1症例と、*L. pneumophila*を起因菌とした症例がほとんどであった。上述した集団感染事例はすべて*L. pneumophila*血清群1によるものであった。ちなみに、民間検査機関における血清抗体価の測定は*L. pneumophila*血清群1に対してであり、また尿中抗原測定キットも*L. pneumophila*血清群1以外の検出感度が低いことが知られている。し

たがって、現在のところ報告症例の起因菌が*L. pneumophila*血清群1に偏る傾向がある。

一方、全国各地の12地研から国立感染症研究所感染症情報センターに報告された環境からのレジオネラ属菌の検出情報によると、冷却塔水からは*L. pneumophila*血清群1が優勢であるものの、温泉、循環風呂などからは、1以外の血清群も多数検出されている

(表4)。レジオネラ属菌の培養が広く行われ、*L. pneumophila*の他の血清群や本種以外のレジオネラ属菌の検出が実用化されれば、他の起因菌による報告症例も増加するものと考えられる。

レジオネラ属菌は細胞内寄生細菌であるので、臨床的には治療薬の選択が重要である。一般に肺炎の第一選択薬として使用頻度の高いβ-ラクタム剤の有効性は認められておらず、宿主細胞に浸透性を有するエリスロマイシン、リファンピシン、フルオロキノロン剤などが第一選択薬となる。

レジオネラ属菌が土埃などととも冷却塔水、循環式浴槽、給湯設備、加湿器などの人工環境水系へ混入することは避けられない。適当な水温が保たれた水環境ではレジオネラ属菌は宿主となる原虫との共存により急速に増殖する。したがって、本症の予防には、人工環境水設備の管理マニュアルに沿った適切な換水や清掃、消毒が必須で、営業を目的とした施設では運転・管理記録の作成と保存が重要である。7割前後の循環式浴槽水からレジオネラ属菌およびその宿主のアメーバが検出されており(黒木ら、感染症誌Vol. 72, 1050-1063, 1998)、入浴設備等の衛生管理を周知徹底しなければ今後も大規模な集団感染が起こる可能性がある。特に本症のリスクグループである高齢者・新生児を対象とした各種施設や病院の空調設備、給湯・入浴設備、加湿器などの衛生管理には注意が必要である(本号7ページ「レジオネラ症防止指針」参照)。

新法施行後の16カ月間に、上記厚生省研究班で調査を行った14年間の患者数をはるかに上回る報告があった。これは感染症法の施行を契機として本症に対する認識が深まり、また検査法の発達に伴い確定診断にまで至る例が増えたことによると考えられる。レジオネラ症の最も迅速簡便な診断方法である尿中抗原検査法が普及すれば、今後患者は迅速で適切な治療を施され、さらなる致死率の低下につながる事が期待される。

病原微生物検出情報

Infectious Agents Surveillance Report (IASR)
http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html



Vol.21 No.10 (No.248)

2000年10月発行

国立感染症研究所
厚生省保健医療局
結核感染症課

事務局 感染症情報センター

〒162-8640 新宿区戸山1-23-1

Tel 03(5285)1111 Fax 03(5285)1177

E-mail iasr-c@nih.go.jp

(禁、無断転載)

日本のポリオ3, 中国の野生ポリオ5, ポリオワクチンの一時中止と再開6, 今夏のエンテロウイルス:愛知県7, EV71の流行:滋賀県9, 病院・介護老人保健施設におけるEHEC O157:H7感染症集発:神奈川県10, *C. coli*による食中毒事例:金沢市11, 2000/01シーズン用インフルエンザワクチン株12, EV71感染症:香港13, 鉢植え土によるレジオネラ症:米国13, マジョルカ島への旅行者に発生したクリプトスポリジウム症:英国13, プルセラ症:ドイツ13, 薬剤耐性結核:英国14, 空港マラリアの危険性:WHO 14, 医療従事者の血液媒介ウイルス暴露サーベイランス:英国14, 献血血液におけるウイルス感染サーベイランス:英国15, 薬剤耐性菌情報15, 日本のエイズ患者・HIV感染者16

本誌に掲載された統計資料は、1)「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく感染症発生動向調査によって報告された、患者発生および病原体検出に関するデータ、2) 感染症に関する前記以外のデータに由来する。データは次の諸機関の協力により提供された: 保健所, 地方衛生研究所, 厚生省食品保健課, 検疫所, 感染性腸炎研究会。

<特集> エンテロウイルスサーベイランス 1982~1999

エンテロウイルスが引き起こす臨床症状は極めて多彩であるが、そのうち、ポリオウイルスは急性灰白髄炎を起こし、四肢麻痺などの後遺症を残すことが知られている。日本ではポリオ生ワクチン(OPV)の投与開始を契機として1962年に厚生省伝染病流行予測調査(現在は感染症流行予測調査)が開始され、地方衛生研究所(地研)によって健康者のポリオ抗体調査(感受性調査)と、OPV非投与時期の健康児の便からのウイルス分離(感染源調査)が実施され、ポリオウイルスおよび他のエンテロウイルスの動向が全国レベルで調査されている。

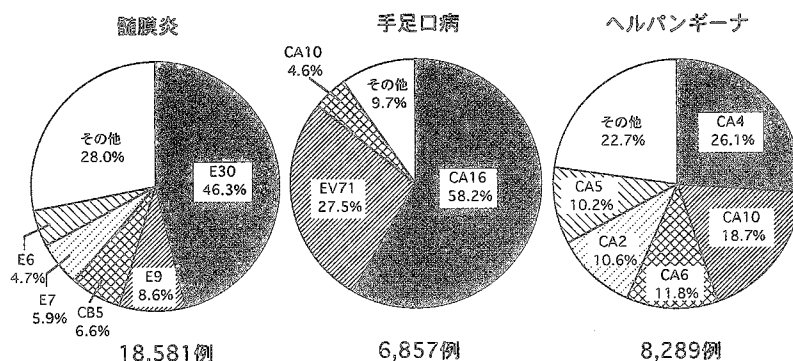
一方、1981年、厚生省感染症サーベイランス事業の開始にあたって、小児の代表的なエンテロウイルス感染症である無菌性髄膜炎(AM)、手足口病(HFMD)、ヘルパンギーナが対象疾病となり、患者材料からのエンテロウイルスの分離同定が全国の地研で実施されている。1999年4月の感染症法施行後も感染症発生動向調査の一環として継続され、その結果は国立感染症研究所感染症情報センターに蓄積されている。わが国ではエンテロウイルスが毎年夏季に、AM、HFMD、ヘルパンギーナ、発熱と上気道炎を主症状とするいわゆる夏かぜや発疹症などの流行を起こしていること、秋以降にもこれらの流行が遅延する場合があることが明らかとなっている(本月報Vol.17, No.3, Vol.19, No.7, Vol.19, No.8参照)。

1982~1999年に分離されたエンテロウイルス報告総数は59,567で、53の血清型が報告されている(次ページ表1)[エンテロウイルスには、ポリオ、コクサッキーA群:CA、コクサッキーB群:CB、エコー:E、エンテロ(EV)68~71が含まれる]。型別にみると、この間3度の全国的なAMの大流行を起こしたE30が最も多く、次いでCA16, E9, CB3, CB5, CA4の順であった。エンテロウイルスが分離された臨床材料は、鼻咽材料、便、髄液が大部分を占める。E30の過半数は髄液から、他の血清型は主に鼻咽材料、便から分離された。また、CA16とEV71は水疱内容からも分離されている。

疾患別のエンテロウイルス血清型を図1に示す。髄膜炎患者18,581例、HFMD患者6,857例、ヘルパンギーナ患者8,289例からエンテロウイルスが分離された。髄膜炎患者からはE30が最も多く、HFMD患者からはCA16が過半数を占め、ヘルパンギーナ患者からはCA4, CA10などのCAが大部分を占めた。

ポリオウイルスは毎年100前後の分離(全エンテロウイルス中3.1%)が報告される(表1)。1982~1999年の分離例の年齢は0~1歳が85%(1,551/1,825)を占め、ワクチン接種者からの分離がほとんどであった。接種対象年齢(生後3カ月~90カ月、標準は3カ月~18カ月)以上の者からの分離も報告されているが(本号3ページおよび6ページ参照)、このうち非ワク

図1. 髄膜炎、手足口病、ヘルパンギーナ患者から分離されたエンテロウイルス、1982~1999年(病原微生物検出情報:2000年9月25日現在報告数)



(特集つづき)

表 1. 年別エンテロウイルス検出状況(由来ヒト), 1982~1999年(病原微生物検出情報:2000年9月25日現在報告数)

	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	合計	2000*
CA NT	20	11	3	3	2	-	-	-	1	1	6	-	-	-	-	-	2	3	52	-
CA1	1	5	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	10	-
CA2	15	109	19	70	38	6	148	6	126	269	14	25	99	19	51	137	45	111	1307	14
CA3	122	1	4	13	3	6	1	34	15	2	8	11	3	7	-	7	55	4	296	4
CA4	125	59	144	171	104	360	115	376	107	184	226	179	87	208	97	139	116	224	3021	84
CA5	41	43	136	45	114	125	33	36	112	50	45	64	81	55	38	83	42	31	1174	6
CA6	46	142	22	35	216	3	29	58	45	260	60	84	30	74	159	22	95	170	1550	37
CA7	-	-	1	2	3	2	1	1	4	2	1	-	2	-	1	1	-	2	23	3
CA8	15	-	-	3	3	46	-	48	3	4	2	20	3	4	36	1	7	8	203	4
CA9	81	54	95	43	224	16	5	220	76	54	107	97	82	72	49	42	71	27	1415	15
CA10	47	10	600	31	29	61	235	35	269	29	271	46	204	39	209	89	113	29	2346	128
CA12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	13	1	20	-
CA14	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
CA16	578	15	129	536	8	294	560	57	347	106	171	170	124	712	56	67	538	152	4620	85
CA21	-	-	-	9	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-
CA24	-	-	-	17	11	-	5	44	-	-	-	30	3	4	3	4	2	-	123	-
CB NT	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-
CB1	1	1	48	148	86	7	18	26	21	170	261	7	107	11	70	81	61	106	1230	62
CB2	11	4	131	152	135	175	17	117	224	43	112	94	338	79	127	180	133	144	2216	14
CB3	304	5	137	232	109	521	9	28	339	80	49	97	188	467	25	324	179	52	3145	66
CB4	36	194	197	52	101	170	72	349	25	57	208	108	212	101	351	34	32	339	2638	72
CB5	10	5	766	90	21	255	33	397	224	37	38	88	379	269	125	119	112	149	3117	138
CB6	3	1	5	20	12	5	17	5	31	4	3	-	3	9	15	12	3	3	151	4
Echo NT	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	26	-	-	31	-
E1	-	1	1	2	1	-	1	-	-	-	-	-	2	1	-	1	3	-	13	-
E2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	1	-	-	-	11	-
E3	-	-	24	89	10	21	88	40	3	2	73	101	15	-	6	31	51	557	52	-
E4	-	6	-	-	3	2	16	247	-	3	13	7	7	2	16	1	4	1	328	2
E5	2	34	-	-	2	2	4	3	46	94	4	5	-	1	7	-	-	-	204	-
E6	-	7	14	503	118	4	35	13	23	55	658	40	17	12	7	10	70	295	1881	25
E7	-	1	-	8	1720	8	11	5	3	-	2	127	23	326	288	48	4	2	2578	-
E9	1	100	127	20	36	59	9	17	433	350	662	186	592	58	56	407	105	33	3251	174
E11	38	28	141	79	13	17	46	451	98	22	75	511	59	14	32	23	359	91	2097	21
E12	1	-	2	-	1	-	7	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	-
E14	2	13	2	1	33	9	10	16	32	9	3	10	6	18	7	22	9	2	204	-
E15	2	-	-	-	-	1	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	6	-
E16	2	5	67	112	8	8	13	11	3	2	42	23	7	71	6	15	6	1	402	1
E17	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	3	14	12	6	-	2	77	82	199	11
E18	13	8	41	3	2	78	1025	21	5	8	24	51	26	9	7	23	436	84	1864	27
E19	2	1	3	3	-	1	-	1	2	1	3	-	-	-	1	-	-	-	18	-
E20	-	-	21	12	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	44	1
E21	2	-	2	12	2	29	97	5	5	-	-	-	-	-	7	5	1	3	170	1
E22	11	55	26	28	21	33	18	24	7	33	16	21	21	15	12	10	15	10	376	8
E23	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-
E24	5	130	9	-	2	1	7	5	10	3	275	3	9	1	15	5	-	-	481	2
E25	10	2	1	10	67	44	11	37	69	33	9	21	50	94	39	88	15	50	650	132
E27	-	-	2	-	1	-	-	-	-	6	3	4	-	-	-	-	-	-	16	-
E30	9	615	66	1	102	10	12	525	573	4063	63	93	8	4	4	1417	3608	36	11209	15
E31	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	7	-
E32	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
E33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	11	-
Polio NT	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	1	4	-
Polio 1	24	21	28	37	39	32	39	36	27	43	33	53	38	41	44	41	33	57	666	18
Polio 2	29	29	34	47	39	33	47	41	21	31	34	49	29	30	40	60	41	56	690	18
Polio 3	18	23	30	30	33	16	23	26	20	39	29	37	21	16	30	23	26	25	465	8
Entero 70	12	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16	-
Entero 71	143	338	22	102	97	135	87	62	443	50	53	305	153	49	41	266	45	43	2434	220
合計	1785	2084	3104	2773	3573	2595	2905	3425	3750	6153	3685	2755	3144	2920	2057	3868	6513	2478	59567	1472

*1~9月

チン株と報告されたのは1984年の1型1例(7歳女児, 脳炎, 咽頭ぬぐい液), 1993年の3型1例(13歳男児, 上気道炎, 咽頭ぬぐい液)のみで(本月報 Vol. 18, No. 1 参照), いずれも麻痺患者からではなく, 株の由来は明らかでない。他はワクチン由来株と考えられる。

1988年からWHOを中心に地球上からのポリオ根絶計画が始まり, ワクチン接種の普及と急性弛緩性麻痺(AFP)患者サーベイランスが行われている。わが国では, 1981年以降麻痺患者からの野生ポリオウイルスは分離されておらず, 野生株によるポリオはすでに制圧されている状態であった。しかし, WHOの根絶認定の条件を満たしていることを確認するために, 1997年よりAFPサーベイランスを強化し(本月報 Vol. 19, No. 5 参照), その結果, ポリオ患者を見逃していないことが再確認された(本号3ページ参照)。この背景として, これまでエンテロウイルスサーベイランスが

長年にわたって行われてきたことの意義は大きい。WHO 西太平洋地域(WPRO)は2000年10月に, ポリオ根絶宣言を行う予定である(本号3ページ参照)。

2000年の分離状況: 9月25日現在のエンテロウイルス分離報告数はEV71が最も多い(表1)。HFMD患者からはEV71とCA16がともに分離されているが, EV71の報告が増加中である(1997年はEV71, 1998~1999年はCA16の方が多かった)。髄膜炎を伴った患者からもEV71の分離が増加している(本月報 Vol. 21, No. 4~8, 本号9ページ, <http://idsc.nih.gov/j/iasr/index-j.html> 参照)。また, 脳炎, 心筋炎などを起こした重症例からのEV71分離報告も散見される。1997年のマレーシア, 1998年の台湾のような小児死亡例の多発(本月報 Vol. 19, No. 7 参照)は日本ではみられていないが, 今後も監視が必要である。

病原微生物検出情報

Infectious Agents Surveillance Report (IASR)
<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>



Vol.21 No.11 (No.249)

2000年11月発行

国立感染症研究所
 厚生省保健医療局
 結核感染症課

事務局 感染症情報センター

〒162-8640 新宿区戸山1-23-1

Tel 03(5285)1111 Fax 03(5285)1177

E-mail iasr-c@nih.go.jp

(禁、無断転載)

溶連菌レファレンスセンター窓口3, *V. vulnificus* 感染症例: 千葉県3, 新潟県4, *S. Nagoya* による集団食中毒事例: 静岡県4, *P. shigelloides* による食中毒事例: 浜松市5, 手足口病患者からのウイルス分離: 岩手県5, エボラ出血熱: ウガンダ6, ウマの西ナイルウイルス感染: フランス6, エコー13によるウイルス性髄膜炎感染: ドイツ7, *S. Typhimurium* DT204bによる感染: 英国&欧州7, ハリネズミを介したサルモネラ症感染: ノルウェー7, 水泳プール関連クリプトスポリジウム感染の地域感染: オーストラリア8, 新生児におけるB群レンサ球菌感染症: 米国8, 先天性風疹症候群対策: WHO8, 全数サーベイランス対象疾患の変更: 米国9, 薬剤耐性菌情報9, チフス・パラチフス菌のファージ型別成續16

本誌に掲載された統計資料は、1)「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく感染症発生動向調査によって報告された、患者発生および病原体検出に関するデータ、2) 感染症に関する前記以外のデータに由来する。データは次の諸機関の協力により提供された: 保健所, 地方衛生研究所, 厚生省食品保健課, 検疫所, 感染性腸炎研究会。

<特集> 溶血性レンサ球菌感染症 1996~2000

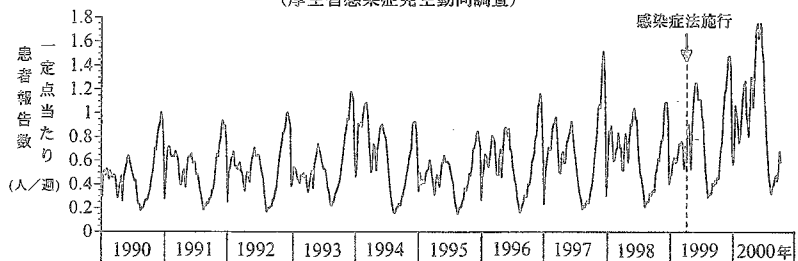
1981年に開始された厚生省感染症サーベイランス事業では、小児科・内科定地点からA群溶血性レンサ球菌 (*Streptococcus pyogenes*) によると疑われる咽頭炎(猩紅熱も含む)が「溶連菌感染症」の疾病名で報告されていた。1999年4月に施行された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)」では、「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎」と名称が変更され、引き続き小児科定地点から報告される4類感染症となった。また、同法では新たに「劇症型溶血性レンサ球菌感染症」が全医師に届け出義務のある4類感染症として位置付けられた(診断基準は <http://idsc.nih.go.jp/kansen/> 参照)。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎」の1定点医療機関当たり患者報告数は、1996年は30.7、1997年34.9、1998年34.1、1999年39.9、2000年は41週現在で42.1(患者数117,134)である。一定点当たり患者報告数は毎年夏に減少する(図1)。また、患者の年齢分布も、1996~1999年において大きな変化はみられない(図2、および本月報 Vol. 15, No. 11 参照)。

S. pyogenes を血清学的に分類する方法の一つとしてT型別がある。1982~1999年に地研・保健所で実施されたT型別成績を図3に示した。各年で検出数

図1. 溶連菌感染症/A群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者報告数の推移, 1990~2000年41週 (厚生省感染症発生動向調査)



* 1999年3月までは約2,500の小児科・内科定地点からの「溶連菌感染症」の報告を累計、1999年4月以降は約3,000の小児科定地点からの「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎」の報告を累計。

が上位のT型はT12, T1およびT4で、この3つの型で各年の分離数の50%以上を占めている。また、これらは検出数全体に対する割合の年次変動が少ない。このような傾向は、T11, T18, T22, T28, TB3264のような血清型でも同様に認められる。一方、年次変動が大きい血清型としては、T3, T6, T25型があり、T3型は1985~1986年と1993~1994年、T6型は1988~1989年と1997年、T25型は1999年をピークとする急激な変動が見られている。T型の年次変動における一つの特徴として、一定の割合を保つ型と、急激な変化を示す型に大別される。

図3. A群溶血性レンサ球菌のT型別割合, 1982~1999年 (地研・保健所集計)

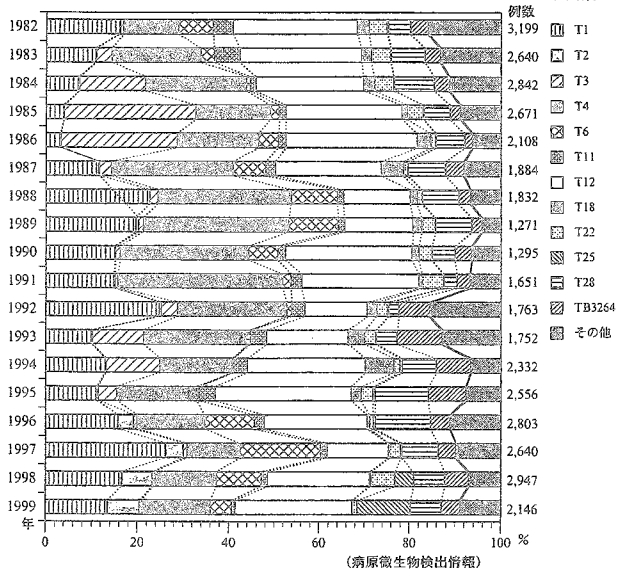
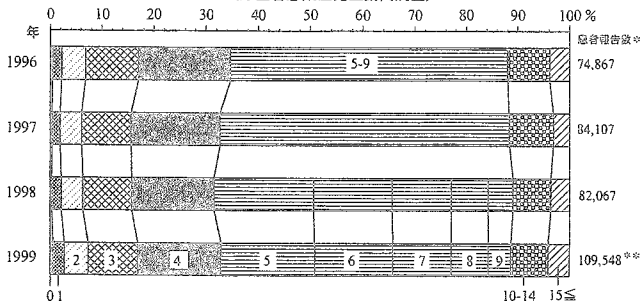


図2. 溶連菌感染症/A群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者の年齢分布, 1996~1999年 (厚生省感染症発生動向調査)



* 1999年3月までは約2,500の小児科・内科定地点からの「溶連菌感染症」の報告を累計。
 * 1999年4月以降は約3,000の小児科定地点からの「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎」の報告を累計。
 ** 1999年の患者報告数は1~3月18,552(定点当たり7.81)、4月~12月90,996(同32.09)。

(特集つづき)

劇症型溶血性レンサ球菌感染症

1980年代後半から、欧米をはじめアジアにおいても、*S. pyogenes*により引き起こされる「劇症型溶血性レンサ球菌感染症」(toxic shock-like syndrome: TSLS, いわゆる“人食いバクテリア”による劇症型感染症)が問題になっている。TSLS患者は、免疫不全などの重篤な基礎疾患をほとんど持っていないにもかかわらず、突然発病する例が多い。初期症状としては、咽頭炎、四肢の疼痛、発熱、血圧低下などで、発病から病状の進行が非常に急激かつ劇的で、いったん発病すると数十時間以内には軟部組織壊死、急性腎不全、成人型呼吸窮迫症候群(ARDS)、播種性血管内凝固症候群(DIC)、多臓器不全(MOF)を引き起こし、患者をショック症状から死に至らしめる。

わが国では、1992年に典型的なTSLS患者が報告されて以来、この感染症についてのサーベイランスが開始された(本月報Vol. 18, No. 2参照)。2000年8月までに衛生微生物技術協議会溶血レンサ球菌レファレンスシステムセンター(レファレンスセンター)が、TSLS患者から分離された64菌株についてT型別を調査した結果、T1型が31症例で、全体の47%を占めており、それに続いてT3, T12, T28が多かった(図4A)。上述したようにA群溶血性レンサ球菌咽頭炎を引き起こす主な血清型はT12, T1, T4型であるが(図4B), T4, T12型は必ずしもTSLSを引き起こす主なT型とはなっていない。同じような傾向が諸外国でも報告されている。一方、興味あることにT3型については、1993~1994年をピークに急激に増加するに従いTSLSを示す症例も増加したが、その後咽頭炎由来菌株の分離数が減少するに伴いT3型によるTSLSがみられなくなってきた。なお、レファレンスセンターによるTSLSの症例や菌株のT型別などの集計は、感染症情報センターのホームページの感染症各論(<http://idsc.nih.go.jp/pathogen>)の中にある「溶血性レンサ球菌レファレンスセンター報

図6. 都道府県別劇症型溶血性レンサ球菌感染症患者発生状況, 1999年4月~2000年9月 (厚生省感染症発生動向調査)

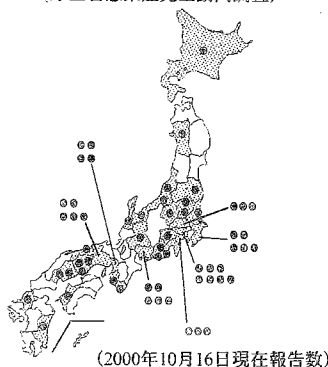


図4. A群溶血性レンサ球菌のT型別割合, 1992~2000年8月

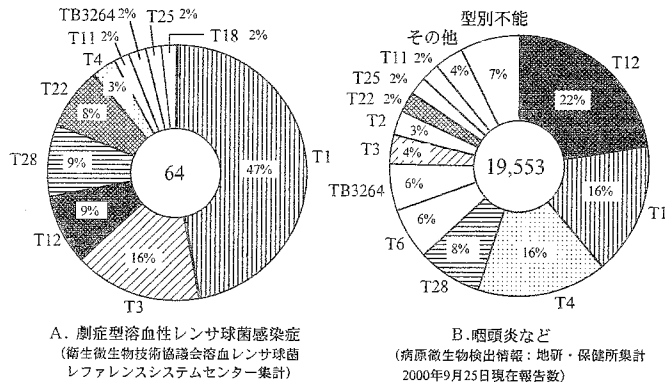
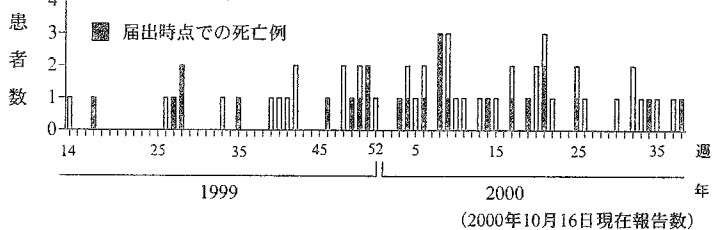


図5. 劇症型溶血性レンサ球菌感染症患者発生状況, 1999年4月~2000年9月 (厚生省感染症発生動向調査)

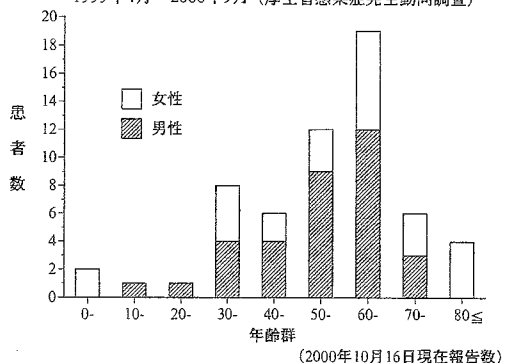


告書(短縮版)]で見ることができる。

1999年4月の感染症法施行後届けられたTSLS患者は、1999年に22例、2000年に37例、計59例で(2000年10月16日現在)、届け出時点で死亡が報告されたのは25例であった(図5)。患者の分布は全国26都道府県にわたっており、特に発生の地域差は認められない(図6)。患者は50~60歳代に多く、平均年齢は55.7歳であった(図7)。

最近、同じような劇症型の症状を引き起こす細菌として注目されているのが *Vibrio vulnificus* である(<http://idsc.nih.go.jp/others/vvulni.html>参照)。この細菌による劇症型感染症は、肝疾患等の基礎疾患を有する人が当該菌に汚染された魚介類を喫食したり(本号3~4ページ参照)、当該菌が傷口から侵入した場合に発生しやすい。臨床的にはTSLSと類似する点が多いが、治療に際しては、TSLSにはペニシリン系薬剤やクリンダマイシンが使用されるのに対し、*V. vulnificus* 感染症には第3世代セフェムやミノサイクリンが一般的に使用されるので、両者を適切に鑑別診断する必要がある。

図7. 劇症型溶血性レンサ球菌感染症患者の性別年齢分布, 1999年4月~2000年9月 (厚生省感染症発生動向調査)



病原微生物検出情報



Vol.21 No.12 (No.250)

2000年12月発行

Infectious Agents Surveillance Report (IASR)
http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html

国立感染症研究所
厚生省保健医療局
結核感染症課

事務局 感染症情報センター

〒162-8640 新宿区戸山1-23-1

Tel 03(5285)1111 Fax 03(5285)1177

E-mail iasr-c@nih.go.jp

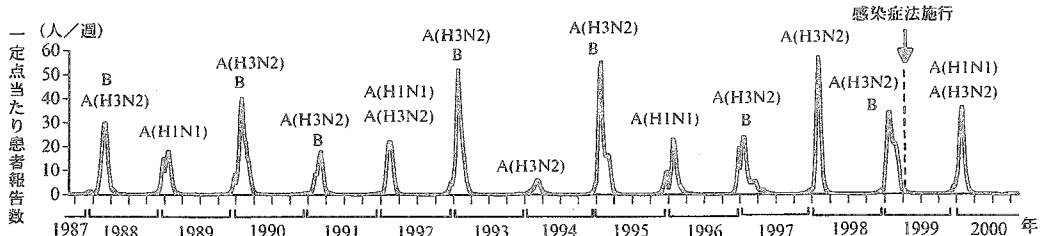
(禁、無断転載)

昨シーズンのインフルエンザウイルスの抗原分析と遺伝子解析3, 今シーズンインフルエンザ HA ワクチン製造株の選定6, インフルエンザ流行に伴う超過死亡6, 今シーズン流行前のインフルエンザ抗体保有状況8, 今シーズン初のA/香港型ウイルスの分離: 広島県9, 非流行期のA/香港型ウイルスの分離: 愛知県9, 今冬のインフルエンザ総合対策: 厚生省9, オンラインシステムの機能改善11, キャンプにおけるEHEC O157:H7の糞発: 大阪府12, 老人施設におけるEHEC O157糞発: 埼玉県13, 保育園におけるEHEC O26:H11糞発: 福岡市14, 手足口病の流行: 福岡市14, 山形県15, 北半球でのインフルエンザ分離状況: WHO 16, コレラ糞発: 南アフリカ16, エボラ出血熱: ウガンダ16, リフトバレー熱: サウジアラビア16, 薬剤耐性淋菌: 米国16, 薬剤耐性菌情報17, 日本のエイズ患者・HIV感染者18

本誌に掲載された統計資料は、1)「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく感染症発生動向調査によって報告された、患者発生および病原体検出に関するデータ、2) 感染症に関する前記以外のデータに由来する。データは次の諸機関の協力により提供された: 保健所, 地方衛生研究所, 厚生省食品保健課, 検疫所, 感染性腸炎研究会。

<特集> インフルエンザ 1999/2000シーズン

図1. インフルエンザ患者報告数の推移, 1987年第36週~2000年第46週 (厚生省感染症発生動向調査)
(各シーズン500以上検出された型を多順に上から記載した: 病原微生物検出情報)



* 1999年3月までは約2,500の小児科・内科定点からの「インフルエンザ様疾患」の報告を集計。
1999年4月以降は約5,000のインフルエンザ定点 (約3,000の小児科+約2,000の内科) からの報告を集計。

図2. 都道府県別インフルエンザ患者発生状況, 2000年第3~6週 (厚生省感染症発生動向調査)

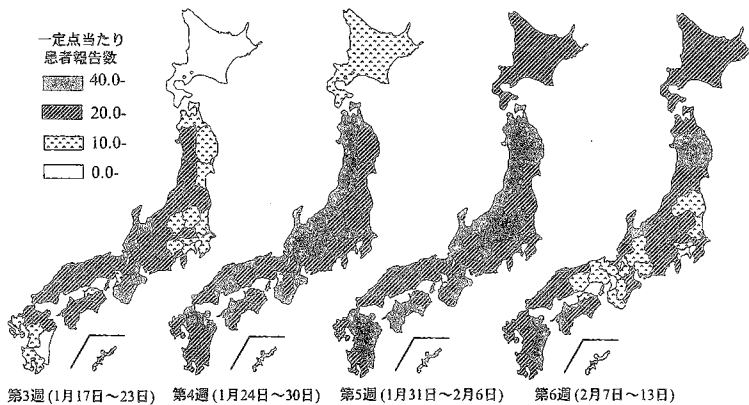


表1. インフルエンザ患者の年齢, 1999年第36週~2000年第35週 (感染症発生動向調査)

年齢	累積報告数	定点当り	(%)
~6ヶ月	3019	0.66	(0.4%)
~12ヶ月	12089	2.65	(1.5%)
1歳	40788	8.96	(5.1%)
2歳	45959	10.11	(5.7%)
3歳	51838	11.4	(6.4%)
4歳	59054	12.99	(7.3%)
5歳	62421	13.74	(7.8%)
6歳	59609	13.12	(7.4%)
7歳	58698	12.93	(7.3%)
8歳	43299	9.52	(5.4%)
9歳	31458	6.91	(3.9%)
10-14歳	96718	21.24	(12.0%)
15-19歳	40808	8.97	(5.1%)
20-29歳	51141	11.29	(6.4%)
30-39歳	59798	13.17	(7.4%)
40-49歳	33427	7.36	(4.2%)
50-59歳	24802	5.46	(3.1%)
60-69歳	17035	3.74	(2.1%)
70-79歳	9271	2.04	(1.2%)
80歳以上	3122	0.68	(0.4%)
総数	804354	176.96	(100.0%)

わが国では1987年より約2,500の小児科・内科定点 (主に小児科) で「インフルエンザ様疾患」の患者サーベイランスが行われていたが、1999年4月の感染症法施行に伴い、「インフルエンザ定点」約5,000が定められた (小児科約3,000定点に、成人におけるインフルエンザ動向を把握するため、内科約2,000定点を加えた)。

患者発生状況: 図1に過去13シーズンのインフルエンザ患者週別発生状況を示した。1999/2000シーズンは、例年より2, 3週早い12月初めより流行が立ち上がり始め、2000年の第4~5週で急速にピークに達し、全国に及んだ (図2)。その後患者は速やかに減少し、第12週には定点当たり1人以下となった。

1999年4月からの新システムでは、従来は一括され

ていた30歳以上の患者年齢区分が、10歳ごとに細分されている (表1)。2000年第1四半期 (第1~13週) に報告されたインフルエンザ患者の年齢を旧システムの1999年同期と比較してみると、0~9歳の年齢別割合はほぼ同様で、10~14歳が減少した (次ページ図3)。30歳以上の患者数は増加しているがそれほど顕著ではない。

ウイルス分離状況: 次ページ図4に全国の地方衛生研究所 (地研) で分離されたインフルエンザウイルスの最近5シーズンの週別報告数の推移を示した。1999/2000シーズンは、4シーズン連続のA(H3N2)型流行に4シーズンぶりのA(H1N1)型流行が重なった混合流行であった。2つのA型はほぼ同時に流行が立ち

(特集つづき)

上がり、ピークもほぼ同時期であった。分離報告数はA(H1N1)型がA(H3N2)型を6対4の割合で上回ったが、2つのA型がともに多数分離されたのは1982年の病原体サーベイランス開始以来初めてである(表2および本月報Vol.17, No.11参照)。B型の分離は極めて少なかった。

都道府県別にウイルス分離状況を見ると、A(H1N1)型、A(H3N2)型は報告数にばらつきはあるがほぼ全国的に分離され、B型も報告数は少なかったものの、地域的な偏りはなく各地で分離された。

インフルエンザウイルス検出例の年齢は、1999/2000シーズンのA(H3N2)型検出例は1歳がピークで、各

図3. インフルエンザ患者の年齢別割合, 1998/99および1999/2000シーズン
(厚生省感染症発生動向調査)

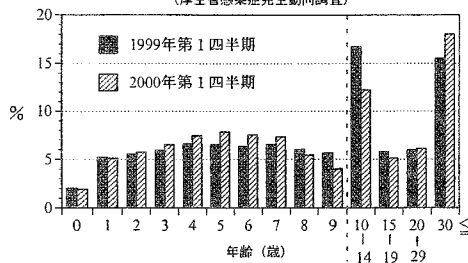


図5. インフルエンザウイルス検出例の年齢, 1998/99および1999/2000シーズン
(病原微生物検出情報: 2000年11月24日現在報告数)

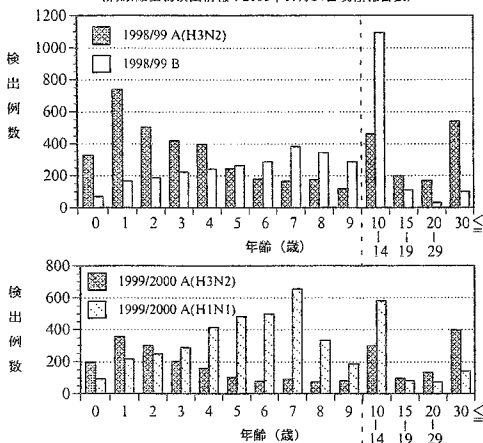


図4. 週別インフルエンザウイルス分離報告数の推移, 1995/96~1999/2000シーズン
(病原微生物検出情報: 2000年11月24日現在報告数)

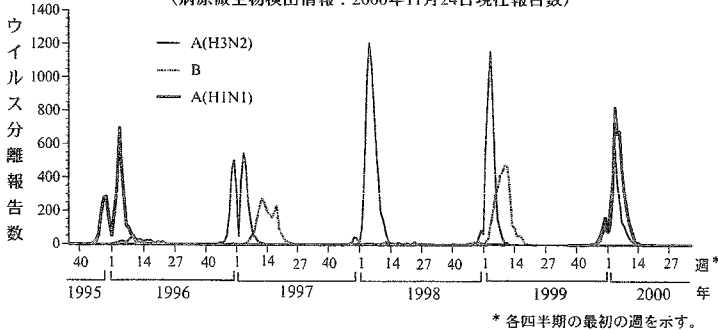


表2. インフルエンザウイルス分離報告数, 1987/88シーズン~1999/2000シーズン

型	87/88	88/89	89/90	90/91	91/92	92/93	93/94	94/95	95/96	96/97	97/98	98/99	99/00
A(H1N1)	6	1,499	-	248	2,017	-	2	115	3,317	-	16	16	4,328
A(H3N2)	705	46	2,035	2,045	866	2,382	1,765	3,752	415	3,593	6,117	5,007	2,592
B	1,098	33	1,586	579	48	2,464	189	1,920	11	2,471	146	4,129	9
A HN 未同定	-	9	-	1	10	9	-	-	21	8	-	-	-
C	1	6	-	5	-	6	-	-	8	-	2	-	10
合計	1,810	1,593	3,621	2,878	2,941	4,861	1,956	5,787	3,772	6,072	6,281	9,152	6,939

各シーズン9月~翌年8月の報告数(病原微生物検出情報: 2000年11月24日現在報告数)

年齢群とも1998/99シーズンの分離数を下回っていた。一方、A(H1N1)型は7歳をピークに分離され、3歳以上、10~14歳まで、A(H3N2)型の分離数を上回った(図5)。

なお1999/2000シーズンのA(H3N2)型分離株の93%は同シーズンのワクチン株A/Sydney/5/97類似株であったが、HI抗原性がこれより変異したA/Panama/2007/99(2000/01シーズンワクチン株)類似株も少数分離されていた。一方、A(H1N1)型分離株の47%は1999/2000シーズンのワクチン株A/Beijing(北京)/262/95類似株であったが、A/New Caledonia/20/99(2000/01シーズンワクチン株)類似株も増加していた(本号3ページ, および本月報Vol.21, No.10参照)。

超過死亡: 1999/2000シーズンの総死亡数における超過死亡は約8千人で、1998/99シーズンの4分の1と推定されている(本号6ページ参照)。

脳炎・脳症: インフルエンザ流行シーズンには小児の急性脳炎・脳症の発生が多くみられることが最近明らかとなってきている。厚生省研究班(研究班長・森島恒雄・名古屋大学教授)による全国規模での調査では、1999年1月1日~3月31日の期間に238例が報告され、217例を該当例とした(厚生省ホームページ <http://www.mhw.go.jp/> 関連情報参照)。2000年1月1日~3月31日では142例が報告され、109例を該当例とした。1999/2000シーズン中に、地研において急性脳炎・脳症患者の咽頭や髄液からインフルエンザウイルスが分離・検出されたとの報告は65例で、このうちA(H3N2)型34例、A(H1N1)型31例であった。

抗体保有状況速報とウイルス分離速報: 2000/01シーズン前の2000年秋に実施された感染症流行予測調査(13県分の集計速報)による健康人のインフルエンザ抗体保有率(HI抗体価40以上)は、A/New Caledonia/20/99(H1N1)に対しては若年層では20~40%であったが、成人では低い。A/Panama/2007/99(H3N2)に対しては0~14歳では高いが、成人、高齢者では低い。B/Yamanashi(山梨)/166/98に対しては10~14歳を除き、全年齢層で低い(本号8ページ参照)。

2000/01シーズンに入り、9月4日に広島県でA(H3N2)型が分離され(本号9ページ参照)、9月25日に横浜市でA(H1)型が、10月下旬に愛知県でA(H3)型3株が検出されている。これらの速報は、感染症情報センターホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)上で随時更新されている。

厚生省は平成12年11月2日、地方衛生部宛「今冬のインフルエンザ総合対策について」の通知を出した(本号9ページ参照)。

病原微生物検出情報

Infectious Agents Surveillance Report (IASR)

<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>

月報

Vol.22 No. 1 (No.251)

2001年1月発行

国立感染症研究所
厚生労働省健康局
結核感染症課

事務局 感染研感染症情報センター

〒162-8640 新宿区戸山1-23-1

Tel 03(5285)1111 Fax 03(5285)1177

E-mail iasr-c@nih.go.jp

(禁) 無断転載

ハンセン病診療協カネットワーク3, らい菌検出の意義3, ハンセン病のPCR検査4, マレーシア・ボルネオ島で感染したレプトスピラ症5, インフルエンザウイルス分離速報:B型(静岡県)6, AH1型(静岡県)6, AH3型(大阪府)6, 世界のハンセン病6, ハンセン病制圧キャンペーン8, 世界のAIDS/HIV感染状況8, AIDS世界の情勢9, 世界エイズデー:米国9, ウェストナイルウイルス最新状況:米国9, ポリオ集団発生:カボベルデ10, コクシジオイデス症集団発生:米国10, vCJDの輸血による感染に対する予防措置10, Medeva社製経口ポリオワクチンのリコール:英国11, 経口ポリオワクチンと腸重積11, 薬剤耐性菌情報11, チフス菌・パラチフス菌のファージ型別成績18

本誌に掲載された統計資料は、1)「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく感染症発生動向調査によって報告された、患者発生および病原体検出に関するデータ、2) 感染症に関する前記以外のデータに由来する。データは次の諸機関の協力により提供された:保健所, 地方衛生研究所, 厚生労働省食品保健部, 検疫所, 感染性腸炎研究会。

<特集> ハンセン病

ハンセン病とは:ハンセン病は抗酸菌の一種であるらい菌 (*Mycobacterium leprae*) による感染症である。現在までらい菌の培養には成功していないため、らい菌はヌードマウスの足蹠へ接種して増殖させている。らい菌には亜型や毒素などを認めていない。ハンセン病は主に皮膚, 末梢神経に病変をおこす。有効な抗ハンセン病剤での治療が行われていなかった時代(1955年頃まで)には四肢や顔面などの変形が重度になったことなどで、患者は偏見や差別を受けてきた。患者および病気に対する誤解や偏見は現在でも完全には解消されたとはいえない。

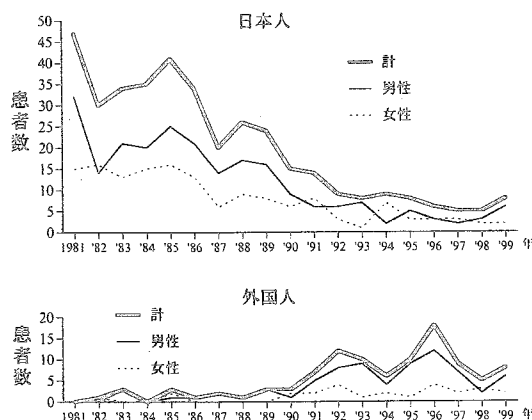
感染と発病, 病型:人への感染は乳幼児期に、らい菌を多数排菌している患者との濃厚接触によって、らい菌が経気道的に入り起こる。感染後数年から十数年の潜伏期を経て発病する。最近の日本人の症例では数十年の潜伏期を経たと考えられる高齢者での発病も報告されている。

各個人のらい菌特異的な免疫能の差によって病型に差がみられる。発症初期はI群(indeterminate leprosy, 未定型群)といい、その後病気が進行し病像が完成されていく。完成された病型は免疫能が高いTT型(tuberculoid leprosy, 類結核型), らい菌に対して免疫能がないLL型(lepromatous leprosy, らい

腫型), それらの中間のB群(borderline leprosy, 境界群)に分類される(B群はさらにBT型, BL型, BB型に細分できる)。また菌の多少で少菌型(paucibacillary:PB)と多菌型(multibacillary:MB)に分類され、治療法の選択に応用されている。検査でらい菌を検出しにくいTT型などはPB, 検査でらい菌を検出できるLL型などはMBに分類される。

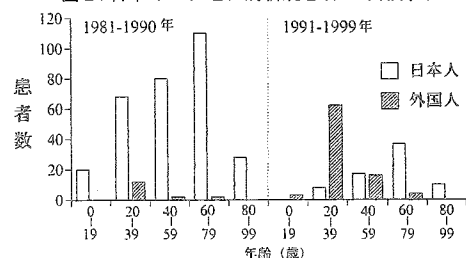
法律:わが国では、1907年(明治40年)にハンセン病に関する「癩予防ニ関スル法律」が公布され、その後数回の改正を経て1953年(昭和28年)に「らい予防法」になり、療養所中心の医療が行われてきた。「らい予防法」には強制入所や、外出制限、秩序維持のための所長の権限などが規定されていた。医師が患者を診察した際に、「伝染」させるおそれがある患者は療養所入所となり、そこで生涯を終えることが多かった。今日、わが国ではハンセン病の発病率は低く、また仮に発病しても感染力は弱く、適切な治療により完治するため、1996年この予防法は廃止され、病名は「らい」から「ハンセン病」に変わった。新規患者は一般医療機関で診療が行われている。長期に亘って療養所での診療が行われてきたため、一般の医療関係者にはなじみが薄い疾患である。また、1999年施行の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の前文には「我が国においては、過去にハンセン病、後天性免疫不全症候群等の感染症の患者等に対するいわれのない差別や偏見が存在したという事実を重く受け止め、これを教訓として今後に生かすことが必要である」と明記された。療養所入所者などの意

図1. 日本のハンセン病新規患者数, 1981~1999年



(Ishii: Int. J. Leprosy 68:172-6, 2000)

図2. 日本のハンセン病新規患者の年齢分布



(Ishii: Int. J. Leprosy 68:172-6, 2000)

(特集つづき)

表1. ハンセン病外来患者数 (1995年調査)

施設	施設数	患者数				計
		日本人		外国人		
		男	女	男	女	
国立療養所内	6	142	76	11	1	230
特殊診療所	2	209	103	0	0	312
大学病院	10	89	54	13	4	160
一般病院	4	11	6	3	0	20
療養所医師出張	2	7	2	0	0	9
一般診療所	1	1	0	1	0	2
計	25	459	241	28	5	733

(石井ら：日本皮膚科学会雑誌 105: 1757-62, 1995)

見が取り入れられ、感染症発生動向調査の対象とはなっていないため、現在、新規患者の発生動向調査は日本ハンセン病学会を中心にして実施されている。

日本のハンセン病患者数：1900年（明治33年）には約3万人のハンセン病患者が報告されたが、1919年（大正8年）には約1万6千人と減少した。1955年頃からは公衆衛生の向上、治療剤の登場などで急速に新規患者数は減少し、最近では毎年10名以下となり（前頁図1）、患者数の多かった沖縄県でも減少が著しい。一方、外国人患者（輸入例）は1991年頃から増加し、毎年10名前後みられる。日本人の新規患者は半数以上が高齢者（60歳以上）で（前頁図2）、日本人のハンセン病の発生はそう遠くないうちに無くなるであろうと推測される。しかし、外国人では20～30代の患者が多く、特にいまだ患者の多いブラジルやフィリピンからの労働者の発病が散見される。なお、全国15のハンセン病療養所には約4,500名が入所している（平均年齢74歳）。ほとんどは治療しているが、後遺症や高齢化などのため引き続き療養所にとどまっている。なお現在患者は通常半年～数年の治療で治療するが、再発や後遺症の経過観察のため、700名余（元療養所入所者や外来患者など）が通院している（表1）。

ハンセン病の診断：皮膚所見のほか、神経所見、菌の証明、病理組織所見を総合して行う。菌の証明には、①皮膚スミア検査（皮膚にメスを刺し、組織液を採取、スライドガラスに塗抹、抗酸菌染色し、1,000倍油浸で検鏡。各施設で実施）、②皮膚や神経の病理組織を抗酸菌染色して検出（各施設などで実施）、③PCR検査（皮膚組織、血液）でらい菌特異的遺伝子を検出（後述の施設で実施）、などがある。皮膚スミア検査陽性、または病理組織で菌陽性であれば、皮膚/神経所見と総合して、診断は容易である。しかし、両者とも陰性の場合には、PCR検査を参考に皮膚/神経/病理所見を総合して診断する（PCR検査はサンプルの状態や偽陽性・偽陰性の問題もあり、現時点ではPCRの結果は「参考資料」と位置づけられている）。らい菌の検出状況を表2に示した。病理組織検査では、HE染色の他、抗酸菌染色（Ziehl-Neelsen染色、原田法）、S100染色、抗PGL-I（らい菌特異的抗原）抗体染色などが行われている。その他、血清の抗PGL-I抗体検査は補助的診断および治療効果判定などに用いられる。なお、現在ではレプロミン反応は用いられない。ハンセン病の患者数が少ないため、特殊な検査は国立感

表2. らい菌の検出

患者	病型	皮膚スミア検査	病理組織	PCR法	
				末梢血	組織
1	MB (LL)	+	+	+	+
2	MB (BL)	+	+	+	+
3	MB (BL)	+	+	+	+
4	MB (BB)	+	+	+	+
5	PB (BT)	-	-	-	-
6	PB (BT)	-	-	+	+
7	PB (TT)	-	-	-	-
8	PB (TT)	-	-	+	+

(横浜市立大学皮膚科、1991～1995年)

染症研究所ハンセン病研究センター（病理検査、PCR検査、血清抗PGL-I抗体検査）、横浜市立大学皮膚科、琉球大学皮膚科などで実施されているのみである。

治療：WHOが提唱している多剤併用療法（multi-drug therapy: MDT）を基本に行われている。リファンピシン（RFP）、ジアフェニルスルホン（DDS）、クロファジミン（CLF、色素系抗菌剤）の3剤を病型によって半年間（PB）ないし1年間（MB）内服する。日本ではMDTを一部修飾して内服剤を増加、治療期間を延長するなどしている。

ハンセン病ネットワーク：ハンセン病を診療する機会の少ない医師・医療関係者に、診療・検査・治療などをアドバイスするネットワークがあり、日本ハンセン病学会を中心に治療経験の多い医師が登録されている（本号3ページ参照）。

世界の状況：WHOが推進しているMDTにより1985年から1999年末までに全世界で1,000万人以上が治療した。2000年当初の有病者数は75万人に減少し、有病率は1.25/人口1万人と、1985年に比べ86%減少した（PBでは6カ月間、MBでは1年間の治療で治療とみなし、WHOの登録から削除される。WHOのサーベイランスの診断基準はWHO Expert Committee on Leprosy 7th Report, 1998参照）。再発率は年間0.1%程度である。MDTに対する耐性はほとんど無い。また、末梢神経の障害から後遺症が残り（200～300万人）、社会生活困難な患者も多い。WHOのMDT推進にもかかわらず、新規患者数はいまだに毎年約70万人であるが、これは患者発見技術の向上や、サーベイランスにより今まで見逃していた例を把握できるようになってきたことが一因と考えられる。なお年間の新規ハンセン病患者登録数が多い国はインド（約52.7万人）、ブラジル（約7.3万人）、インドネシア（約2.9万人）、バングラデシュ、ミャンマー、ネパール、ナイジェリア（各約1.3万人）、フィリピン（約0.9万人）などである（WHO, WER 75: 226-231 & 361-368, 本号6～8ページ参照）。

今後の課題：後遺症を残さず治療する最良の方法は早期発見、早期治療である。そのためのより簡便な検査法の開発が望まれる。また、短期間で治療可能な抗ハンセン病剤、内服する薬剤の組み合わせ、ワクチンなどについて一層の研究推進が必要である。また世界にはアジアを中心に多数のハンセン病患者がいるので、ハンセン病制圧のために日本の協力が期待される。

病原微生物検出情報 月報

Infectious Agents Surveillance Report (IASR)

http://idsc.nih.gov.jp/iasr/index-j.html

Vol.22 No. 2 (No.252)

2001年2月発行

国立感染症研究所
厚生労働省健康局
結核感染症課

事務局 感染研感染症情報センター

〒162-8640 新宿区戸山1-23-1

Tel 03(5285)1111 Fax 03(5285)1177

E-mail iasr-c@nih.gov.jp

(巻 無断転載)

PCR法によるマラリアDNA診断3, マラリア抗原診断4, 検疫所のマラリア検査5, 抗マラリア薬供給体制6, 熱帯熱マラリア原虫体の薬剤感受性7, インフルエンザウイルス分離速報: B型静岡県8, A/H3N2型神戸市8, 幼稚園で発生したNV感染性胃腸炎: 栃木県9, 社員食堂で発生したウイルス性食中毒: 滋賀県9, C群口タウイルス急性胃腸炎発生: 佐賀県10, アデノウイルス感染症の流行: 仙台市&山形市11, Rhinovirusの検出: 横浜市12, 赤痢発生: 愛媛県13, S. Schwarzengrund集団食中毒: 広島市13, S. Enteritidis PT18食中毒: 長野県14, S. Saintpaulの発生: 岐阜県14, 黄色ブドウ球菌食中毒: 姫路市16, セラチア院内感染: 堺市16, アフリカ旅行者へのマラリアの危険: WHO 18, 野兔病流行: 北政19, 回帰熱輸入症例: ドイツ19, リステリア症広域発生: 米国19, ヒトの狂犬病: 米国&カナダ20, 麻疹・風疹・CRS: 米国&メキシコ20, 薬剤耐性菌情報20

本誌に掲載された統計資料は、1)「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく感染症発生動向調査によって報告された、患者発生および病原体検出に関するデータ、2) 感染症に関する前記以外のデータに由来する。データは次の諸機関の協力により提供された: 保健所, 地方衛生研究所, 厚生労働省食品保健部, 検疫所, 感染性腸炎研究会。

<特集> 輸入マラリア 2000年12月現在

マラリアは、蚊（ハマダラカ属）の刺咬によって媒介される原虫感染症である。Plasmodium falciparum, P. vivax, P. ovale, P. malariaeの4種の原虫により、それぞれ熱帯熱マラリア、三日熱マラリア、卵形マラリア、四日熱マラリアが引き起こされる。世界では年間に3～5億人の罹患者と150～270万人の死亡者があると推定されている。特に熱帯熱マラリアは脳症、肺水腫/急性呼吸窮迫症候群（ARDS）、腎不全、出血傾向、代謝性アシドーシス等を生じて短期間に重症化・死亡する危険がある。さらに、従来マラリアが流行していなかった地域での新たな流行も報告されている。近隣の韓国では1993年から三日熱マラリアが一部地域で再興している（WHO, WER, 74: 265-270,

1999参照）。種々のマラリア流行地域へ日本人が出かけている現在、国内でのマラリアへの対応はますます重要になるであろう。

国内患者発生状況：ほとんどが海外で感染した輸入例であるが、輸血関連の症例も散見される（本月報 Vol. 18, No. 11 参照）。マラリアは、伝染病予防法（旧法）で届出が義務づけられていた感染症で、年間50～80例程度の患者が報告されていたが（図1）、研究班での調査では、それより多い100例以上の患者が把握されていた（表1）。その後、1999年4月施行の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（感染症法）に基づく感染症発生動向調査でも、全医師の届出が義務づけられた全数把握の4類感染症となった。1999年4～12月の9か月間では110例が報告され、1999年の患者発生数は旧法下で1～3月に届出のあった10例と合わせて120例となった。2000年1～12月は152例に増加した（図1）。報告数の増加については、実数の増加とともに、法律の改正を機会に医療機関がきちんと報告するようになったことも影響していると推測される。また、徐々にではあるが熱帯熱マラリアが増加する傾向にあり、1994年、1998年、2000年では三日熱マラリアを上回り最も多くなっ

図1. マラリア患者報告数, 1990～2000年

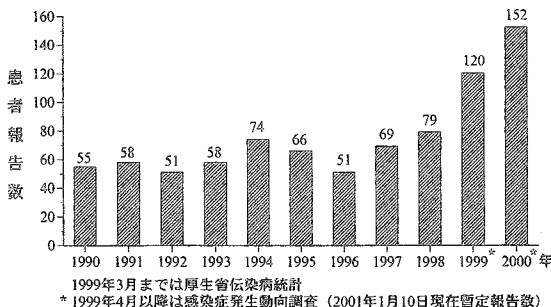
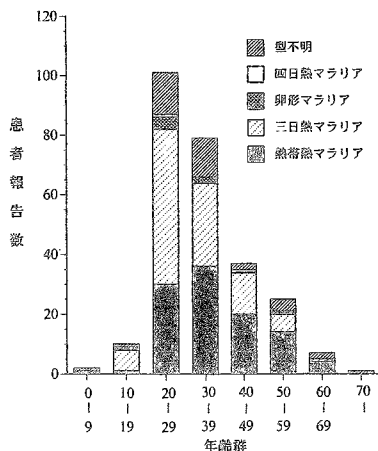


図2. 感染症法施行後の型別・年齢別にみたマラリア患者報告数, 1999年4月～2000年12月



(感染症発生動向調査: 2001年1月10日現在報告数)

表1. アンケート調査による国内でのマラリア患者数の推移, 1990～1999年

年	マラリア原虫種					計
	熱帯熱	卵形	三日熱	四日熱	混合感染	
1990	40 (1)	62	3	0	5	116 [28]
1991	43 (2)	63	0	3	3	114 [41]
1992	26 (1)	70	3	0	4	104 [38]
1993	40 (0)	60	5	2	3	112 [27]
1994	46 (2)	39	4	3	5	104 [28]
1995	56 (1)	58	6	1	4	125 [30]
1996	42 (0)	50	9	1	0	105 [36]
1997	46 (0)	54	2	1	3	113 [28]
1998	52 (4)	45	2	1	2	105 [20]
1999	40 (3)	66	4	1	4	119 [28]

(): 死亡例再掲, []: 外国人再掲
ヒューマンサイエンス振興財団「輸入熱帯病・寄生虫症に対するオーファンドラッグの臨床評価に関する研究」(主任研究者: 大友 弘士)による

表2. 感染症法施行後のマラリア患者報告数

	熱帯熱	三日熱	卵形	四日熱	型不明	計
1999年4月～12月	41 (37.3)	53 (48.2)	3 (2.7)	0	13 (11.8)	110 (100.0)
2000年1月～12月	64 (42.1)	55 (36.2)	6 (3.9)	2 (1.3)	25 (16.4)	152 (100.0)
計	105 (40.1)	108 (41.2)	9 (3.4)	2 (0.8)	38 (14.5)	262 (100.0)

(): % (感染症発生動向調査: 2001年1月10日現在報告数)

(特集つづき)

ている(前ページ表1, 2)。

1999年4月～2000年12月の患者発生状況を月別に見ると、3～5月と8～9月にやや多い傾向が見られる。年齢分布を見ると三日熱マラリアでは20歳代が多く、熱帯熱マラリアでは30歳代が最も多い(前ページ図2)。性別は男198例(76%)、女64例(24%)であった。マラリア型別の推定感染地を図3に示す。三日熱マラリアはアジア・太平洋地域に多いが、熱帯熱マラリアはサハラ以南アフリカ諸国が含まれるのが目立つ。

診断: マラリア診断の基本はあくまでも100年以上も行われているギムザ染色血液標本の光学顕微鏡検査であり、今後もそうであろうと思われる。しかし、この方法では熟練していないと原虫の見逃し、原虫種同定の誤りなどの問題が起こりうる。それゆえに、下記の優れた補助的診断法を活用して適切に診断を行うことも勧められる。

アクリジン・オレンジ法(名古屋大学・川本)は、薄層塗抹血液標本上で染色するものである。蛍光顕微鏡にて暗い視野に原虫の核酸が蛍光を発生して観察され、熟練すれば短時間で、しかも見逃しが少なく検査が可能である。他に、PCR-MPH法(岡山大・綿矢ら)は簡便に4種類のマラリア原虫を感度良く検出する方法である(本号3ページ参照)。また、海外では特に熱帯熱マラリアを対象として、簡便迅速で感度・特異度の高い抗原検出キットも市販されており、国内でも一部の医療機関で使用されている(本号4ページ参照)。

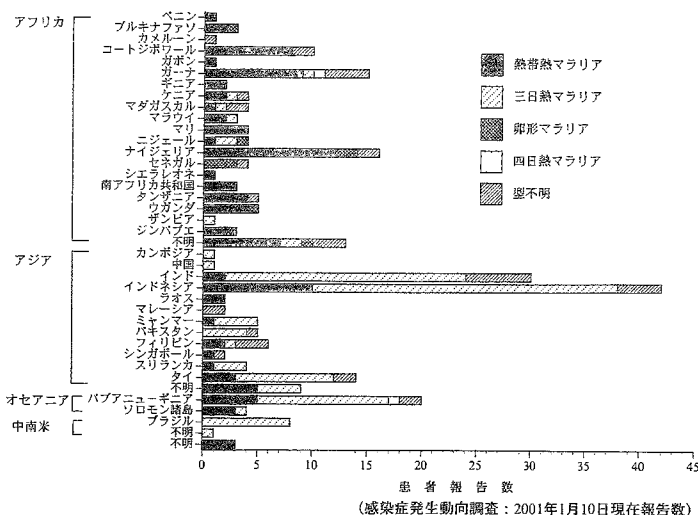
1997年10月から新東京(成田)、関西、1998年4月から福岡、名古屋の国際空港検疫所では希望する該当者に対して入国時にマラリアの迅速診断のための検査を行っている。これまでに247人を検査し、10人が陽性であった。このシステムは他の国で例を見ない画期的なものである(本号5ページ参照)。

治療: 現在国内で認可されている抗マラリア薬はスルファドキシシ/ピリメタミン合剤(ファンシダール®)と経口キニーネの2種類のみであり、他の抗マラリア薬は研究班から供給されている(本号6ページ参照)。また、抗マラリア原虫療法以外に、病態に応じた適切な支持療法も不可欠である。

しかし、三日熱マラリアでは既にパプアニューギニア、インドネシアなどでクロロキン耐性、プリマキン低感受性も出現している。熱帯熱マラリアではクロロキン、スルファドキシシ/ピリメタミン合剤などには耐性が増えつつあり、また、タイ・カンボジア、タイ・ミャンマーなどの国境地帯ではメフロキン耐性が高頻度に見られる。熱帯熱マラリアでは試験管内薬剤感受性試験が可能であり、適切な治療薬剤を選択する上で臨床的にも有用なことがある(本号7ページ参照)。

予防: 1) 個人的防蚊手段(暗くなってからの外出

図3. マラリア型別に応じた推定感染地, 1999年4月～2000年12月



の回避、長袖長ズボンの着用、昆虫忌避剤使用、エアコン付きの部屋、蚊帳、蚊取線香)、2) 薬物予防、3) スタンバイ治療(緊急治療あるいは自己治療。旅行者がマラリア治療薬を携行し、マラリアが疑わしいが24時間以内に医療機関を受診できない場合に自分の判断で服用すること)、などの方法がある。欧米では薬物予防が積極的に行われており、メフロキンを中心にクロロキン/プログアニル併用、ドキシサイクリンなどが用いられている。最近ではアトバコン/プログアニル合剤(マラロン®)が注目されている。このうち国内で市販されているのはドキシサイクリンのみで、ただし、その適用はマラリア予防薬でなく、細菌感染症の治療薬としてである。

問題点: わが国の旅行者は欧米の旅行者に比べて薬物予防を行わない傾向があると、欧米のマラリア予防の専門家から指摘されている。その理由としては1) 薬物予防法があることの認識不足、2) 薬剤の入手難、3) わずかでも副作用があると服用したがる、あるいは服用を勧めない、などが考えられる。マラリア予防、なかでも薬物予防による効果や副作用、その適切な応用、スタンバイ治療の適切な実施などの問題は、最近国内でも発達し始めた「旅行医学(travel medicine)」の分野で活発に論議されている。

熱帯熱マラリアも早期診断・早期治療を行えば治療可能な疾患であるが、実際には重症化して死亡する例が散見される(前ページ表1)。この傾向はわが国だけでなく欧米諸国でも問題になっている(WHO, WER, 76:25-27および本号18ページ参照)。今回のサーベイランスデータから、受診の遅れた例が多いことが明らかになった。熱帯地域からの帰国者の不明発熱時には、マラリアを含む疾患の鑑別を迅速に行うことが重要である(本月報 Vol. 18, No. 11参照)。感染症指定医療機関、大学等の感染症・熱帯医学の専門家に相談を請う必要もある。

病原微生物検出情報

Infectious Agents Surveillance Report (IASR)
<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>

月刊

Vol.22 No. 3 (No.253)

2001年3月発行

国立感染症研究所
 厚生労働省健康局
 結核感染症課

事務局 感染研感染症情報センター
 〒162-8640 新宿区戸山1-23-1
 Tel 03(5285)1111 Fax 03(5285)1177
 E-mail iasr-c@nih.go.jp

(禁) 無断転載

ニューキノロン低感受性チフス菌・パラチフス A 菌 3, 腸チフスワクチン 3, エボラ出血熱集団発生: ウガンダ 3, 今季インフルエンザウイルス分離速報: 福井県 5, 島根県 6, 広島県 6, 鹿児島県 7, 今季前半の NLV 検出状況: 岩手県 7, 小学校での NLV 感染性胃腸炎: 神奈川県 8, 薬食中毒事例からの NLV Gi 検出: 岡山県 8, ワクチン関連成人ポリオ麻痺事例: 宮崎県 9, 抗 EV71 血清で中和されない EV71 分離・同定: 大阪府 9, 広東住血線虫症多発: 沖縄県 10, 近隣リゾート島での旋毛虫症発症: シンガポール 11, 今季インフルエンザ状況: 米国 12, ワクチン由来 2 型ポリオウイルスの循環: エジプト 12, エコチャレンジ参加者のレプトスピラ症発症: マレーシア 13, 髄膜炎菌感染症とメッカ巡礼: 英国 13, IDU の感染症: ノルウェー 13, 2001 年小児予防接種スケジュール変更: 米国 14, 薬剤耐性菌情報 14, 日本の AIDS 患者・HIV 感染者 15, チフス菌・パラチフス菌ファージ型別成績 22

本誌に掲載された統計資料は、1) 「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく感染症発生動向調査によって報告された、患者発生および病原体検出に関するデータ、2) 感染症に関する前記以外のデータに由来する。データは次の諸機関の協力により提供された: 保健所, 地方衛生研究所, 厚生労働省食品保健部, 検疫所, 感染性腸炎研究会。

<特集> 腸チフス・パラチフス 1997~2000

腸チフス・パラチフスは、それぞれチフス菌 (*Salmonella Typhi*), パラチフス A 菌 (*S. Paratyphi A*) の感染によって起こる全身性疾患である。従来、法定伝染病として届け出が義務づけられており、1999年4月施行の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(感染症法)でも、2類感染症に位置づけられている。患者、疑似症患者および無症状病原体保有者(保菌者)を診断した医師は速やかに最寄りの保健所を通じて都道府県知事に届けなければならない。都道府県衛生部は、厚生労働省に発生を報告すると同時に、ファージ型等による菌株の解析結果を流行の制御および保菌者対策に利用するため、患者・保菌者から分離された菌株を国立感染症研究所(感染研)に送付することが義務づけられている(昭和41年衛発第788号, 衛防第60号, 平成11年健医感発第44号)。なお、チフス菌, パラチフス A 菌以外にもまれにヒトにチフス様症状を起こすことのあるサルモネラ属菌 (*S. Sendai*, *S. Paratyphi B*, *S. Paratyphi C*) もあるが、これらはサルモネラ症として扱われる。

感染症法施行後の患者届け出は、1999年4~12月に腸チフス66例, パラチフス24例, 2000年1~12月に腸チフス82例, パラチフス19例であった。腸チフス計148例中108例(73%), パラチフス計43例中31例(72%)は国外での感染が推定され、感染者は従来

通り20代男性が最も多い(図1)。腸チフス58例, パラチフス18例はインド亜大陸が感染地と推定されている。

感染研細菌部では、送付菌株のファージ型, 薬剤感受性試験を行い、その結果を都道府県へ還元している。菌株送付書および送付菌株から得られた情報を解析すると、特徴的なことは、近年腸チフスの発生総数が減少するとともに、相対的に海外輸入例の割合が増加していることである。1997年1月~2000年12月までの発生状況をみると、腸チフス発生数(患者・保菌者を合わせた総数)は1997年76件, 1998年61件, 1999年86件, 2000年51件である。パラチフスは1997年36件, 1998年49件, 1999年28件, 2000年13件であった(表1)。感染症法施行後に感染研に送付された菌株数が患者届け出件数より少ないのは、都道府県への届け出には疑似症患者も含まれており、さらに感染研に菌株が送付されない場合があるためである。

次ページ図2に1990年1月~2000年12月の月別発生数を示す。発生数は、腸チフス・パラチフスともに春~夏にかけて多い傾向にある。1998年4~5月にパラチフスの国内発生例が増加したが、これは千葉県で集団発生があったためであり(本月報 Vol. 20, No. 7 参照)。1週間程の期間にある飲食店で食事をした客のうち、有症者26人中19人からパラチフス A 菌が分離された。患者から分離されたパラチフス A 菌は

図1. 腸チフス・パラチフス患者の性別年齢分布, 1999年4月~2000年12月 (感染症発生動向調査)

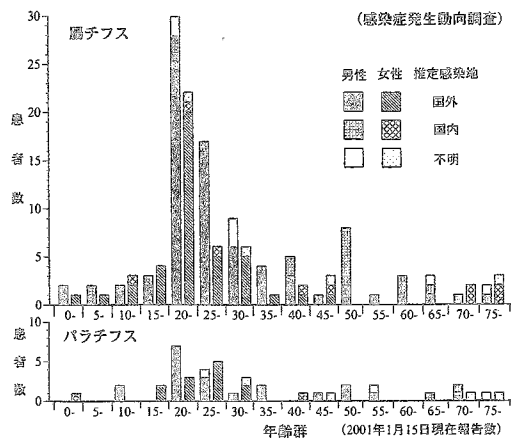


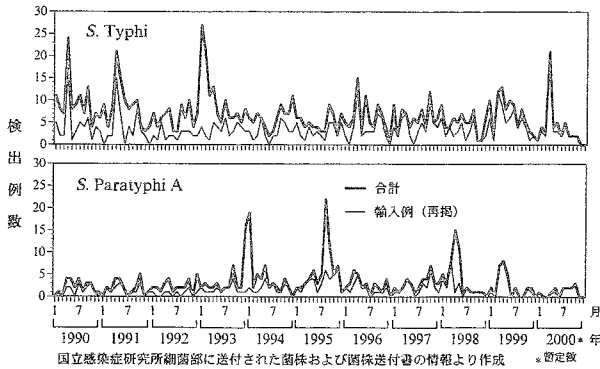
表1. 日本における腸チフス・パラチフス発生状況, 1991~2000年

年	腸チフス		パラチフス	
	発生数	輸入例 (%)	発生数	輸入例 (%)
1991	106	45 (42)	22	16 (73)
1992	76	28 (37)	29	8 (28)
1993	126	42 (33)	44	19 (43)
1994	74	35 (47)	51	21 (41)
1995	61	37 (61)	71	40 (56)
1996	76	46 (61)	31	20 (65)
1997	76	50 (66)	36	26 (72)
1998	61	36 (59)	49	24 (49)
1999	86	64 (74)	28	25 (89)
2000	51	44 (86)	13	11 (85)

発生数: 患者・保菌者の合計、輸入例: 再掲
 %: 発生数に占める輸入例の割合
 国立感染症研究所細菌部に送付された菌株および菌株送付書の情報より作成。

(特集つづき)

図2. 月別チフス菌・パラチフスA菌検出状況, 1990年1月~2000年12月



すべてがファージ型4で一致し、かつパルスフィールド・ゲル電気泳動による解析でもすべての株が同一パターンを示したことから、患者から分離された19株は同一の感染源に由来すると考えられた。しかし、種々の調査が行われたが、最終的に感染源は特定されなかった。

表2にチフス菌、表3にパラチフスA菌のファージ型別の結果を示した。チフス菌ではD2, E1, M1が多く、1999年、2000年には特にE1の割合が高くなっていた。パラチフスA菌では従来と同じく1, 4型が多かった。

多剤耐性チフス菌はインド亜大陸、中央アジア、東南アジアで現在も流行し、時に集団発生を起こしている。これらの多剤耐性チフス菌のファージ型はE1, UVSが多い。わが国でもインド亜大陸、タイへの渡航歴のある者からアンピシリン (ABPC), クロラムフェニコール (CP), テトラサイクリン (TC), ストレプトマイシン (SM), スルファメトキサゾール/トリメトプリム (ST) の5剤に耐性を持つ多剤耐性チフス菌が分離されている。パラチフスA菌においては多剤耐性菌はほとんどみられないが、CP, SM, あるいはSTなど1種類の薬剤だけに耐性の株が増加してきている。

従来、腸チフス、パラチフスはCP, ABPC, STのいずれかの抗菌薬の投与による治療が行われてきた。多剤耐性菌の増加に伴い、従来の抗菌薬は効果が期待されなくなったため、ニューキノロン剤が使用されるようになり、現在では腸チフス・パラチフスの治療の第1選択薬となっている。しかし、1995年頃よりニューキノロン剤に耐性を持つ株の存在が外国で多数報告されるようになるにつれ、日本国内でもニューキノロン剤に対する感受性が低下したチフス菌やパラチフスA菌(ニューキノロン低感受性株)がすでに分離されてきている。臨床的にも、ニューキノロン剤を投与しても速やかに解熱しない感染例が国内ですでにいくつか報告されている。ニューキノロン低感受性株とは、シプロフロキサシン (CPFX) のMIC値が0.125~4.0 µg/mlの株で、感受性試験では“感受性”と判定されてしまうが(≥4 µg/mlが耐性とされている)、臨床的には治療効果がみられないため、気付かれるケースが多

表2. チフス菌のファージ型別分布, 1997~2000年

ファージ型	1997年 例数 (輸入例)	1998年 例数 (輸入例)	1999年 例数 (輸入例)	2000年 例数 (輸入例)
A	5 (3)	4 (3)	1 (1)	3 (1)
B1	7 (6)	8 (5)	4 (4)	1 (1)
B2	3 (1)	4 (1)	1 (0)	1 (1)
C1	1 (1)	- (-)	3 (3)	- (-)
C2	- (-)	1 (1)	2 (2)	- (-)
C4	- (-)	1 (0)	- (-)	- (-)
C5	1 (0)	- (-)	- (-)	- (-)
D1	- (-)	1 (0)	3 (2)	5 (5)
D2	13 (5)	9 (3)	7 (4)	6 (4)
D8	- (-)	1 (1)	- (-)	- (-)
D9	- (-)	- (-)	- (-)	1 (1)
E1	7 (7)	9 (9)	29 (23)	19 (18)
E2	1 (1)	- (-)	1 (1)	1 (1)
E3	- (-)	- (-)	1 (1)	- (-)
E9	1 (1)	- (-)	- (-)	- (-)
E11	- (-)	- (-)	2 (2)	- (-)
E14	- (-)	- (-)	1 (1)	1 (1)
F6	- (-)	- (-)	1 (1)	1 (1)
G1	- (-)	- (-)	- (-)	1 (0)
J1	2 (2)	- (-)	- (-)	- (-)
M1	9 (4)	5 (1)	4 (2)	1 (1)
M4	- (-)	2 (1)	2 (2)	- (-)
O	1 (1)	- (-)	- (-)	- (-)
27	- (-)	- (-)	1 (1)	- (-)
34	1 (1)	- (-)	- (-)	- (-)
38	- (-)	1 (1)	- (-)	- (-)
46	4 (4)	2 (1)	- (-)	- (-)
DVS	7 (5)	7 (4)	4 (2)	2 (1)
UVS1	13 (8)	5 (4)	17 (10)	6 (6)
UVS3	- (-)	1 (1)	2 (2)	2 (2)
合計	76 (50)	61 (36)	86 (64)	51 (44)

DVS: Degraded Vi-positive strain 輸入例:再掲
UVS1: Untypable Vi-positive strain group 1
UVS3: Untypable Vi-positive strain group 3
国立感染症研究所細菌部に送付された菌株のファージ型別結果より作成。

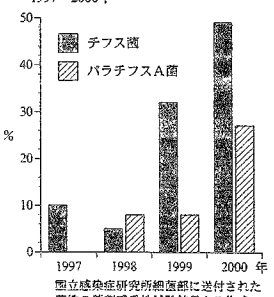
表3. パラチフスA菌のファージ型別分布, 1997~2000年

ファージ型	1997年 例数 (輸入例)	1998年 例数 (輸入例)	1999年 例数 (輸入例)	2000年 例数 (輸入例)
1	27 (18)	8 (8)	10 (9)	4 (4)
2	3 (3)	- (-)	1 (1)	1 (1)
3	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
4	- (-)	34 (9)	11 (10)	6 (5)
5	2 (2)	2 (2)	1 (1)	- (-)
6	- (-)	- (-)	2 (2)	- (-)
UT	4 (3)	5 (5)	3 (2)	2 (1)
合計	36 (26)	49 (24)	28 (25)	13 (11)

UT: Untypable 輸入例:再掲
国立感染症研究所細菌部に送付された菌株のファージ型別結果より作成。

い。感染研細菌部の調査によるとニューキノロン低感受性チフス菌、パラチフスA菌は1998~2000年にかけて急激に増加している。1997年には全チフス菌分離株中に占める低感受性菌の割合は10%であったのに対し、1999年では32%、2000年では49%に増加してきた(図3)。これらの株のほとんどはインドへの渡航歴のある人から分離されている。幸いそれらの中に第3世代セフェム系薬剤に対する低感受性菌は見られていない。ニューキノロン低感受性チフス菌、パラチフスA菌は、ますます増加することが予想されるので、今後の薬剤感受性の変化をきびしく監視する必要がある(本号3ページ参照)。このためにはこれまで以上に患者からの菌の分離が重要である。

図3. チフス菌・パラチフスA菌分離株におけるニューキノロン低感受性株の占める割合, 1997~2000年



国立感染症研究所細菌部に送付された菌株の薬剤感受性試験結果より作成

病原微生物検出情報

月報

Infectious Agents Surveillance Report (IASR)

http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html

Vol.22 No. 4 (No.254)

2001年4月発行

国立感染症研究所
厚生労働省健康局
結核感染症課

事務局 感染研感染症情報センター

〒162-8640 新宿区戸山1-23-1

Tel 03(5285)1111 Fax 03(5285)1177

E-mail iasr-c@nih.go.jp

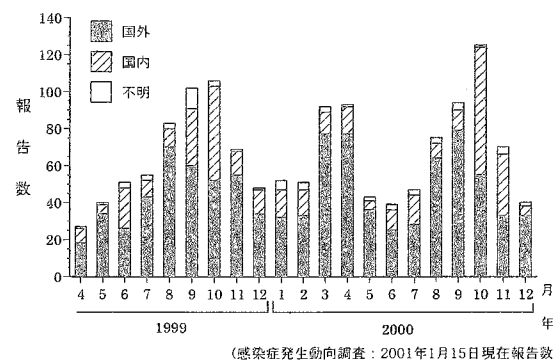
(禁、無断転載)

インドネシアでの志賀赤痢菌増加3, 海外旅行後の赤痢患者: 奈良県3, 小学校での *S. sonnei* 集発: 静岡県4, *S. flexneri* variant Y 検出例: 徳島県4, *S. flexneri* 2a 集発: 大阪市4, 近年分離された赤痢菌種・血清型・薬剤耐性: 東京都5, 路上生活者より採取されたコロモシラミから *B. quintana* 検出6, セラチア院内感染フォローアップ: 堺市7, 病原大腸菌 O126:H27 集発: 大阪市8, アデノウイルス分離状況: 兵庫県9, 長野県9, C型インフルエンザウイルス血清疫学: 広島県9, エコーウイルス22型分離: 広島県10, 前季インフルエンザの状況: 世界10, 来季用インフルエンザワクチン推奨株: WHO 11, 男性同性愛者梅毒の多発: 米国11, 結核患者増加: 英国11, BCGの現状: WHO 11, MMRワクチン論争: 英国12, オンコセルカ症インターアメリカン会議12, テメロサル添加HBワクチン接種指針への合同声明の影響13, 住血吸虫症と土壤媒介性寄生虫症: WHO 13, 薬剤耐性菌情報13

本誌に掲載された統計資料は、1)「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく感染症発生動向調査によって報告された、患者発生および病原体検出に関するデータ、2) 感染症に関する前記以外のデータに由来する。データは次の諸機関の協力により提供された: 保健所, 地方衛生研究所, 厚生労働省食品保健部, 検疫所, 感染性腸炎研究会。

<特集> 細菌性赤痢 1999~2000

図1. 細菌性赤痢患者月別・感染地別発生状況, 1999年4月~2000年12月



(感染症発生動向調査: 2001年1月15日現在報告数)

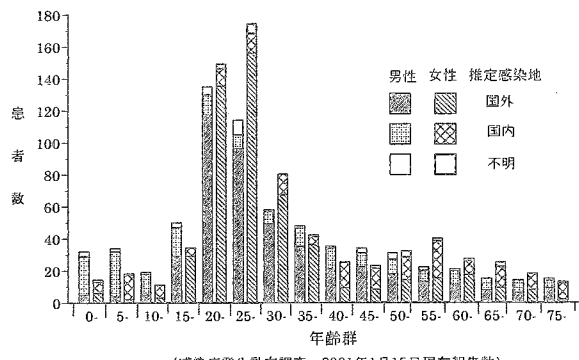
細菌性赤痢は、以前は伝染病予防法(旧法)に基づく法定伝染病として届け出が義務づけられていたが、1999年4月施行の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(感染症法)では2類感染症に位置づけられている。したがって患者、疑似症患者および無症状病原体保有者(保菌者)を診断した医師は速やかに最寄りの保健所を通じて都道府県知事に届けなければならない。なお、アメーバ赤痢は4類感染症に位置づけられている。

本特集では1999年と2000年の2年間のわが国における細菌性赤痢の発生状況について報告する。発生報告は、①感染症法による患者・保菌者の届け出(感染症発生動向調査)、②地方衛生研究所からの赤痢菌検出報告(病原微生物検出情報)に基づいて述べる。

感染症発生動向調査によると、細菌性赤痢の届出は1999年4~12月581人、2000年1~12月821人、計1,402人(男性677人、女性725人)で、推定感染地別にみると国外感染例(輸入例)968(69%)、国内感染例(国内例)376(27%)、感染地不明例58(4.1%)であった。月別発生状況を見ると、輸入例は8~9月および3~4月にピークがみられた。一方、国内例は1999年9~10月と2000年10~11月に増加がみられた(図1)。ちなみに、1999年1~3月の旧法(伝染病統計)による細菌性赤痢の届出は218人(疑似症は含まない)であった。

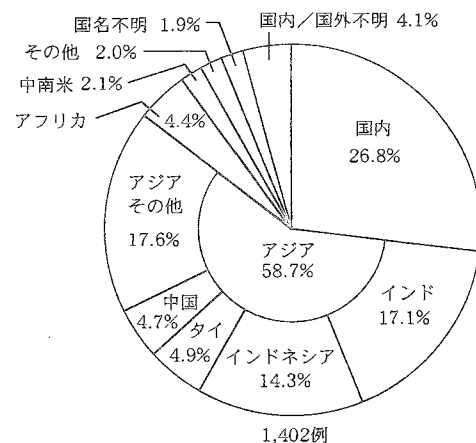
輸入例の年齢分布を見ると20代が多く、男性は20

図2. 細菌性赤痢患者の性別年齢分布, 1999年4月~2000年12月



(感染症発生動向調査: 2001年1月15日現在報告数)

図3. 細菌性赤痢患者の推定感染地, 1999年4月~2000年12月



1,402例
(感染症発生動向調査: 2001年1月15日現在報告数)

~24歳、女性は25~29歳がピークで、20~34歳の各年齢群では女性の方が多かった(図2)。推定感染地はアジアが多く、特にインドとインドネシアで31%を占めた(図3)。発生の多い感染地はここ数年間同様の傾向であった(本月報 Vol. 20, No. 3 参照)。また、インドでの感染例240人中122人、インドネシアでの感染例201人中114人が女性で、男性をやや上回っていた。

病原微生物検出情報に基づいた1985~2000年の16年間の赤痢菌の検出状況を表1(次ページ)に示す。血清群別での頻度は各年とも同様の傾向で、*S. sonnei*が最も多く、*S. flexneri*がこれに次いでいる。*S. boydii*と*S. dysenteriae*は少なく、主に輸入例から検出され

(特集つづき)

ている。1998年に国内例からの検出が増加した *S. flexneri* 2a が、1999年にも多数検出された(本号4ページ国内情報参照)。1999～2000年に地方衛生研究所(地研)および保健所で確認された赤痢菌の報告数は患者報告数に比べて少なく、特に輸入例の数が減少している。その理由の一つとして、感染症法施行後、海外旅行者の検便提出が自己申告制になり、地研での検査件数が減少していることが指摘されている(東京都微生物検出情報 Vol. 22, No. 1, p. 1 参照)。

1999年および2000年に病原微生物検出情報に報告された赤痢集団事例は表2のとおりである。1999年の集団発生は4件で、発生地は事例3のみが国外、後の3件は国内で、発生原因(感染源・感染経路)はいずれも不明であった。原因菌は事例1, 2が *S. sonnei*, 事例3, 4が *S. flexneri* 2a であった。事例4は保養施設宿泊者の集団発生事例で、疫学調査に従来の血清群・型別および薬剤感受性試験の他に遺伝子解析を実施した結果、複数グループ由来株の PFGE パターンが完全に一致し、同じ日に宿泊した複数のグループが同一の菌に感染したことが示唆された(本報 Vol. 21, No. 4 参照)。

2000年の集団発生は3件で、発生地は3事例とも国内、原因菌はすべて *S. sonnei* であった。事例5は赤痢菌に感染した寿司店従業員の握った寿司を喫食することによって多数の客が感染した事例で、患者は愛媛以外に、愛知、大阪、兵庫、島根、岡山、広島、高知、大分に及んだ。分離株の薬剤感受性および遺伝子解析結果(PFGEパターン)も一致した(本報 Vol. 22, No. 2 参照)。

1999年および2000年に都市立指定感染症医療機関で行われた赤痢菌の薬剤感受性成績を表3に示す。国内および輸入例とも82%以上がスルファメトキサゾール/トリメトプリム合剤およびテトラサイクリンに耐性であった。アンピシリン耐性株の割合は、国内例で75%を占め、輸入例の35%に比べ高率であった。1996

表1. 年別赤痢菌検出状況, 1985～2000年(地研・保健所集計)

年	<i>Shigella dysenteriae</i>	<i>Shigella flexneri</i>	<i>Shigella boydii</i>	<i>Shigella sonnei</i>	<i>Shigella</i> 群不明	計
1985	10 (8)	164 (74)	30 (23)	336 (117)	0	540 (222)
1986	14 (14)	214 (94)	11 (7)	448 (91)	0	687 (206)
1987	7 (7)	172 (76)	21 (19)	347 (168)	0	547 (270)
1988	12 (11)	148 (85)	16 (14)	322 (147)	0	498 (257)
1989	13 (12)	104 (72)	26 (12)	291 (143)	0	434 (239)
1990	7 (7)	84 (55)	15 (13)	271 (147)	0	377 (222)
1991	2 (2)	74 (40)	8 (7)	485 (129)	0	569 (178)
1992	4 (3)	65 (44)	11 (10)	399 (157)	0	479 (214)
1993	8 (7)	70 (42)	10 (8)	478 (184)	0	566 (241)
1994	3 (3)	83 (55)	7 (6)	267 (137)	0	360 (201)
1995	8 (8)	56 (36)	17 (13)	295 (200)	0	376 (257)
1996	6 (4)	83 (47)	7 (5)	312 (146)	0	408 (202)
1997	12 (9)	63 (39)	12 (8)	234 (187)	5 (1)	326 (244)
1998	7 (5)	167 (27)	1 (0)	441 (83)	0	616 (115)
1999	2 (2)	108 (24)	8 (5)	262 (83)	0	380 (114)
2000	4 (4)	29 (15)	4 (4)	165 (63)	0	202 (86)

(): 輸入例再掲 (病原微生物検出情報: 2001年3月23日現在報告数)

表3. 赤痢菌の各種薬剤に対する耐性頻度, 1999～2000年

	国内例			輸入例		
	検査株数	耐性株数	耐性%	検査株数	耐性株数	耐性%
CP	20	5	25.0	43	14	32.6
TC	15	15	100.0	39	37	94.9
KM	15	3	20.0	40	12	30.0
ABPC	65	49	75.4	89	31	34.8
NA	15	8	53.3	35	7	20.0
CL	8	0	0.0	12	1	8.3
ST	59	54	91.5	83	68	81.9
PPA	7	2	28.6	21	4	19.0
CEZ	46	1	2.2	37	1	2.7
GM	45	0	0.0	41	1	2.4
FOM	19	3	15.8	54	9	16.7
OFLX	48	0	0.0	32	0	0.0
ENX	4	0	0.0	8	0	0.0
NFLX	4	0	0.0	8	0	0.0

東京都および12指定都市の15指定感染症医療機関に入院した患者について集計した(感染性腸炎研究会による)

～1998年には現在注目されているニューキノロン剤のオフロキサシン耐性菌4株の報告があったが(本報 Vol. 20, No. 3 参照), 1999～2000年の分離菌株ではニューキノロン剤耐性菌は検出されなかった。

現在の検査体制では、まず検疫所、一般医療機関または民間検査所が海外帰国者や国内散発および集団発生時の患者からの赤痢菌検出を行っている。保健所や地研は、主に患者が届出によって探知された後、疫学調査に伴う病原体検査を実施している。迅速に感染源・感染経路を特定し、感染拡大を防ぐためには、赤痢菌を検出した検査機関と血清型別・薬剤感受性試験・遺伝子解析などを行う地研との一層の連携が望まれる。

1999年12月28日食品衛生法施行規則が一部改正され、赤痢菌は食中毒病因物質に追加された(生衛発第1836号)。食品の介在が疑われる赤痢の発生に際しては、食品からの赤痢菌の検出も大切である。

表2. 細菌性赤痢集団事例 1999～2000年(病原微生物検出情報「集団発生速報」)

事例	原因菌	発生期間	報告地研	発生施設	推定される原因(疑似を含む)	患者数(疑似を含む)	菌陽性者数/被験者数	備考
1	<i>S. sonnei</i>	1999.1.1-4.15	千葉県	福祉・養護施設	不明	49	49 / 160	
2	<i>S. sonnei</i>	1999.6.22-26	福島県	家庭	不明	4	4 / 11	
3	<i>S. flexneri</i> 2a	1999.10.20	新潟市	不明	不明	2	1 / 8	中国団体旅行(約100人)
4	<i>S. flexneri</i> 2a	1999.10.24	横須賀市	旅館・ホテル	不明	20	20 / 134	発生施設は群馬県 IASR V01.21, No. 4
5	<i>S. sonnei</i>	2000.10.19-28	愛媛県	飲食店	寿司	61	45 / 400	二次感染有り IASR Vol. 22, No. 2
6	<i>S. sonnei</i>	2000.10.28-11.7	静岡県	小学校	不明	9	12 / ?	二次感染有り IASR 本号4ページ
7	<i>S. sonnei</i>	2000.11.16-12.5	長野県	保育所	不明	?	6 / 315	

2001年3月23日現在報告数

病原微生物検出情報

月刊

Infectious Agents Surveillance Report (IASR)
http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html

Vol.22 No. 5 (No.255)
2001年 5月発行

国立感染症研究所
厚生労働省健康局
結核感染症課

事務局 感染研感染症情報センター
〒162-8640 新宿区戸山1-23-1
Tel 03(5285)1111 Fax 03(5285)1177
E-mail iasr-c@nih.go.jp

(薬、無断転載)

AIDS流行：世界の動向とその将来 3, タイにおける HIV ワクチン開発 5, 日赤血液センターにおける NAT の現状 6, HIV 定量用キットの精度管理全国調査 7, B/Victoria 系統の B 型インフルエンザウイルス分離速報 8, 麻疹の流行：高知県 10, アデノ 7 型分離速報：新潟県 10, ワクチン接種後に分離された麻疹ウイルスの鑑別：広島県 11, A 群溶連菌検出状況：九州地区 11, 秋田県 12, S. Isangi 集団食中毒：熊本県 13, HIV/AIDS：欧州 14, 2000/01 シーズンインフルエンザの状況：米国 15, 海外旅行中の狂犬病への暴露：ドイツ 16, ライム病：米国 16, 学童への BCG 定期接種再開：英国 17, 薬剤耐性菌情報 17, 日本の AIDS 患者・HIV 感染者 18, テフス菌・パラテフス菌ファージ型別成績 25

本誌に掲載された統計資料は、1)「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく感染症発生動向調査によって報告された、患者発生および病原体検出に関するデータ、2) 感染症に関する前記以外のデータに由来する。データは次の諸機関の協力により提供された：保健所、地方衛生研究所、厚生労働省食品保健部、検疫所、感染性腸炎研究会。

<特集> HIV/AIDS 2000年12月31日現在

エイズ発生動向調査は1984年に開始され、1989年～1999年3月31日までは「後天性免疫不全症候群の予防に関する法律（エイズ予防法）」に基づいて実施されてきた。1999年4月1日からは、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）」に基づく感染症発生動向調査の一部（4類感染症・全数把握疾患）として行われている（本月報 Vol. 21, No. 7 参照）。本特集はエイズ動向委員会によって2001年4月24日に確定された2000年エイズ発生動向年報集計に基づいてまとめた。

1. 2000年の HIV/AIDS 発生状況：2000年に新たに報告された HIV 感染者（AIDS 未発症者、以下 HIV）は462（男389, 女73）、AIDS 患者（以下 AIDS）は327（男278, 女49）であった。国籍・性別では、日本

国籍男性が HIV の 73%, AIDS の 73% と多数を占めた（図1）。感染地は、日本国籍例の大半が国内感染（HIV 80%, AIDS 73%）であった。感染経路は、異性間の性的接触（HIV 37%, AIDS 49%）および同性間の性的接触（同 47%, 22%）が多く、母子感染（同 0.6%, 0.6%）と静注薬物濫用（同 0.2%, 0.3%）は少なかった。

2. 1985年～2000年12月31日までの累積報告数と発生動向：2000年12月31日までの累積報告数（凝固因子製剤による感染例を除く）は HIV 3,905, AIDS 1,913 で、人口10万対 HIV 3.087, AIDS 1.512 である。HIV の年間報告数は1992年のピーク後一旦減少したが、1996年以降再び増加傾向が続いている（図2）。2000年は1999年より68減少したが、1年間の報告数としては過去2番目に多かった。AIDS の年間報告数は1998年を除き増加を続けており、2000年は1999年より27増加した（図2）。

なお、本発生動向調査とは別の全国調査によって、凝固因子製剤による HIV 1,432, AIDS 642 が確認されている（1998年5月末時点）。いずれも日本国籍例である。

国籍・性別：近年の HIV の増加は、主に日本国籍男性例の増加によるもので、日本国籍女性は過去5年間増減を繰り返している（図3a, b）。外国国籍例の報告数は過去5年間横這いないし減少傾向にある（図3c, d）。AIDS は、日本国籍男性において増加が著しいが、日本国籍女性、外国国籍

図1. HIV感染者およびAIDS患者の国籍・性別内訳, 2000年 (厚生労働省エイズ動向委員会)

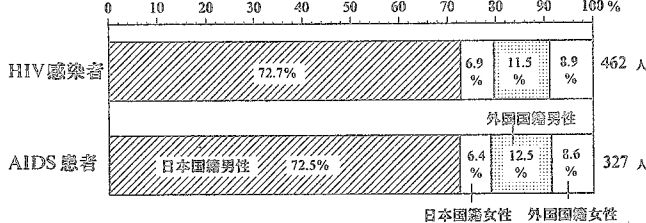


図3. HIV感染者の国籍・性・感染経路別年次推移, 1985～2000年 (厚生労働省エイズ動向委員会)

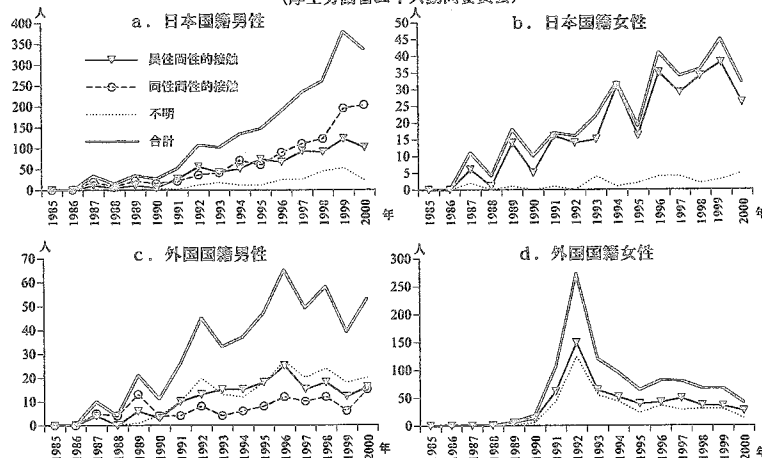
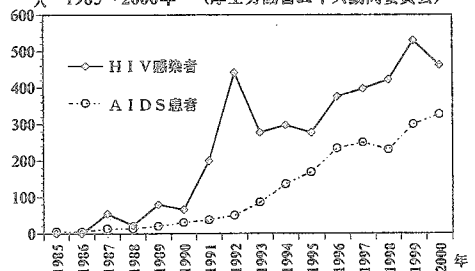


図2. HIV感染者およびAIDS患者の年次推移, 1985～2000年 (厚生労働省エイズ動向委員会)



(特集つづき)

男女はいずれも微増もしくは横這いである。

外国国籍例を地域別にみると、HIV、AIDSともに東南アジアがもっとも多く、ラテンアメリカ、サハラ以南アフリカがそれに次ぐ。

年齢分布：過去5年間（1996～2000年）に報告されたHIVの年齢を1991～1995年の報告例と比較して図4に示した。日本国籍男性ではピークの25～34歳を中心に、幅広い年齢で増加している。日本国籍女性では20～34歳と45歳以上で増加している。一方、外国国籍女性では20～24歳が大きく減少した。AIDSは、日本国籍男性が40～54歳と特に年齢が高いが、他は25～34歳にピークがある。

感染経路：HIVの74%、AIDSの69%が性的接触による感染であった。日本国籍例のHIVでは、男性同性間の性的接触が引き続き増加し、過去3年間で倍増している（図3a）。外国国籍例のHIVではいずれの感染経路区分も漸減ないし横這いである（図3c、d）。日本国籍例のAIDSでは、異性間の性的接触による報告が増加し、同性間の性的接触も過去4年間増加傾向が認められる。外国国籍例のAIDSでは、異性間の性的接触による報告が過去5年間増減を繰り返している。

感染地：HIVは、日本国籍男性の国内感染例と感染地不明例が1999年まで増加を続け、2000年にやや減少したが、海外感染は横這いである。AIDSは、日本国籍男女の国内感染例が大きく増加した。

AIDS報告における指標疾患：日本国籍例と外国国籍例のAIDSの累計報告数（1,407と506）を分母として各指標疾患を見ると、両国籍群ではほぼ類似しており、ニューモシスチス・カリニ肺炎がそれぞれ46%、42%ともっとも多く、カンジダ症が23%、15%、HIV消耗性症候群が各13%を占める。両群では活動性結核に差が認められ、日本国籍例が7.2%であるのに対し、外国国籍例では、13%とほぼ2倍になっている。また、サイトメガロウイルス感染症は、日本国籍例10

%、外国国籍例4.2%と、日本国籍例の割合が高くなっている。

病変死亡の動向：エイズ予防法に基づいて1999年3月31日までに報告された病変死亡例は596で、内訳は日本国籍が485（男性445、女性40）、外国国籍が111（男性77、女性34）であった。1999年4月に施行された感染症法では病変報告（HIV→AIDS、生存→死亡）の義務はなく、1999年4月1日～2000年12月31日までに医師から任意に報告された病変死亡例は83、このうち日本国籍例が67（男性62、女性5）、外国国籍例が16（男性11、女性5）であった。近年、日本国籍男女で病変死亡例報告数の減少がみられる。

3. 献血者のHIV抗体陽性率：献血者のHIV抗体陽性率は年々増加を続け、1999年には献血10万件当たり1.026となったが（本号20ページ参照）、2000年はこれをやや上回り、献血件数5,877,971中67、献血10万件当たり1.140（男1.812、女0.167）となった（過去最高値）（図5）。陽性例67の中にはNAT（核酸増幅検査）のみの陽性3が含まれている（本号6ページ参照）。

4. 保健所におけるHIV相談と抗体検査：2000年の保健所におけるHIVに関する相談件数は107,256件で、過去最多の1992年（251,926件）に対し、この4年間は半数以下の状態が続いている。HIV抗体検査数については、1998年53,218件、1999年48,218件、2000年48,620件であり、同じく1992年（135,674件）に対し半減している。

2000年にはHIV感染報告数がやや減少したものの、過去2番目に多かった。この数値は、AIDS未発症だが血清抗体検査でHIV感染が判明したものの報告数であり、抗体検査を受けていない人の中でのHIV感染者の数はわからない。今後、HIV感染を拡大させないためには、HIV/AIDSに関する相談・検査の窓口を幅広く誰もが受けやすい場所や時間帯に設定するなど、より積極的なエイズ予防対策を進めるべきである。

図4. HIV感染者の国籍・性別年齢分布（厚生労働省エイズ動向委員会）

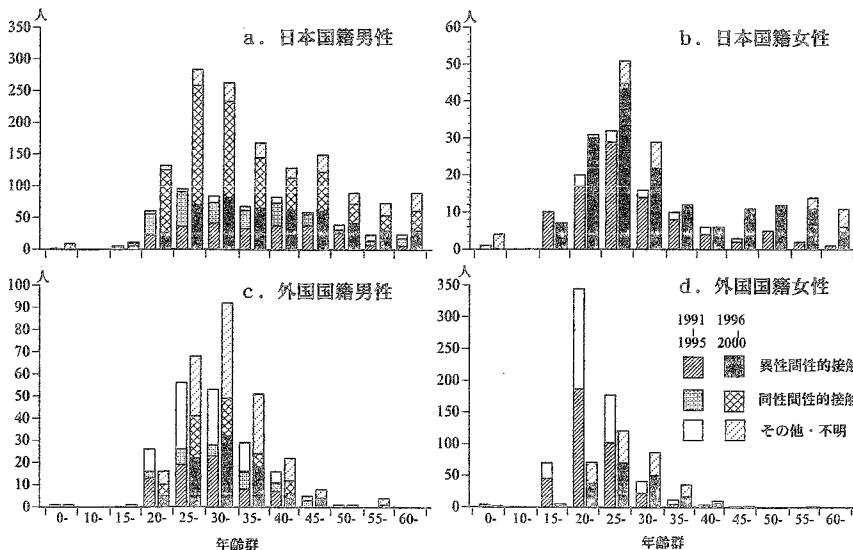
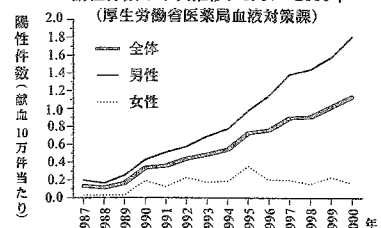


図5. 献血におけるHIV抗体確認検査陽性件数の年次推移、1987～2000年（厚生労働省医薬局血液対策課）



病原微生物検出情報

Infectious Agents Surveillance Report (IASR)

<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>

腸管出血性大腸菌 (EHEC) による食中毒の対策: 厚労省 3, レストランチェーン店での EHEC O157 感染症: 富山県 4, 神奈川県 6, 牛の丸焼きによる EHEC O157 集団発生: 千葉県 5, 牛が感染源と考えられた EHEC O121 による HUS 発症事例: 秋田県 7, 日本におけるバルスネットの構築 8, 感染症法施行後の現状と問題点 9, EV71 による脳炎死亡例を含む手足口病流行: 兵庫県 10, 老人保健施設における *C. pneumoniae* 集団感染: 山口県 11, 麻疹排除への行動計画: ス페인 11, 麻疹の減少: デンマーク 12, ダニ媒介性脳炎 - 旅行者へのアドバイス: チェコ 13, *M. pneumoniae* による地域的肺炎流行: 米国 13, メッカ巡礼関連髄膜炎菌感染症: 英国 13, レプトスピラ症: アゾレス諸島 13, 新生児破傷風排除の評価: ジンバブエ 13, コレラワクチン適性使用: WHO 14, リンパ系系状虫症: WHO 14, 薬剤耐性菌情報 14

Vol.22 No. 6 (No.256)

2001年 6月発行

国立感染症研究所
厚生労働省健康局
結核感染症課

事務局 感染研感染症情報センター

〒162-8640 新宿区戸山1-23-1

Tel 03(5285)1111 Fax 03(5285)1177

E-mail iasr-c@nih.go.jp

(禁、無断転載)

本誌に掲載された統計資料は、1) 「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく感染症発生動向調査によって報告された、患者発生および病原体検出に関するデータ、2) 感染症に関する前記以外のデータに由来する。データは次の諸機関の協力により提供された: 保健所, 地方衛生研究所, 厚生労働省食品保健部, 検疫所, 感染性腸炎研究会。

<特集> 腸管出血性大腸菌感染症 2001年 4月現在

図1. 腸管出血性大腸菌感染症週別発生状況, 1999年第14週~2001年第21週 (感染症発生動向調査)

表1. 腸管出血性大腸菌感染症届出数

年	期間	報告数
1996	8/6~12/31	1,287 *
1997	1/1~12/31	1,941 *
1998	1/1~12/31	2,077 *
1999	1/1~3/31	108 *
1999	4/1~12/31	2,849 **
2000	1/1~12/31	3,622 **
2001	1/1~5/27	668 **

患者および無症状病原体保有者を含む

*厚生省伝染病統計

**感染症発生動向調査(2001年6月5日現在報告数)

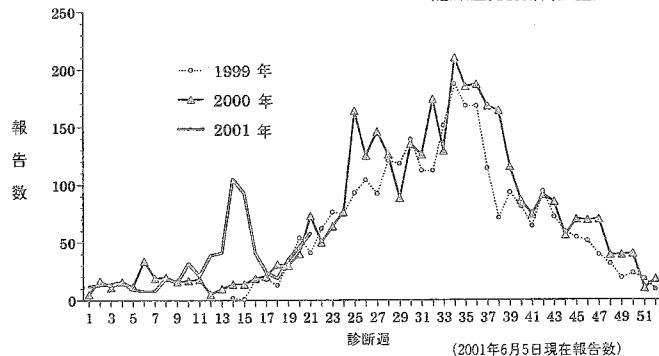


図2. 腸管出血性大腸菌感染症都道府県別発生状況, 2000年1~12月 (感染症発生動向調査)

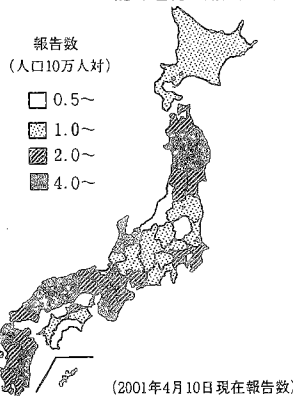
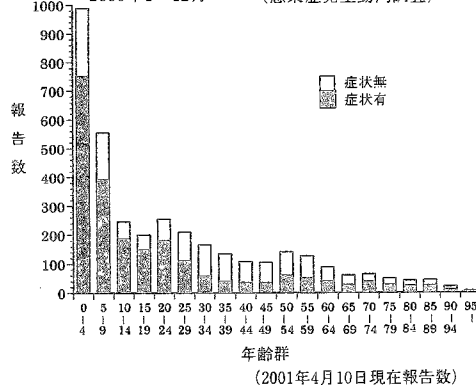


図3. 腸管出血性大腸菌感染症年齢別発生状況, 2000年1~12月 (感染症発生動向調査)



北, 北陸, 近畿, 中国, 九州地方で一部やや多い地域がみられる(図2)。秋田県, 岩手県, 鳥取県, 佐賀県, 宮崎県は1999年に引き続いて多かった。図3に2000年のEHEC感染者の年齢分布を示す。0~4歳がもっとも多く, 5~9歳がこれに次ぐ。有症者の比率は若年層で高く(19歳以下で74%), 成人層では約半数(20歳以上で53%)が

腸管出血性大腸菌 (Enterohemorrhagic *Escherichia coli*: EHEC, あるいは Vero 毒素産生性大腸菌: VTEC, 志賀毒素産生性大腸菌 Shiga toxin-producing *E. coli*: STEC) による感染症は, 1999年4月から施行された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律 (感染症法)」において, 3類感染症として位置づけられ, 診断した医師は直ちに患者および無症状病原体保有者を届け出る義務が課せられている。

表1に旧厚生省伝染病統計および感染症発生動向調査によるEHEC感染症患者および無症状病原体保有者(以下EHEC感染者)報告数を示す。2000年は3,622人と1999年の2,957人を上回った。週別報告数は例年同様夏季に増加している(図1)。2000年における都道府県別の人口10万人当たりの発生状況をみると, 東

無症状者で, 前年とほぼ同率であった(本月報 Vol. 21, No. 5 参照)。性別は19歳以下では男1,048人, 女942人と差が少ないが, 20歳以上では男570人, 女1,054人と女性が多かった。

一方, 地方衛生研究所(地研)から送られたEHEC検出報告数をみると(<http://idsc.nih.go.jp/prompt/graph-lj.html>), 1991~1995年までは毎年100前後であったが(本月報 Vol. 17, No. 1 参照), 1996年に3,022と激増した後, 1997年1,968, 1998年2,054, 1999年1,933, 2000年1,656と推移している。1999~2000年に感染症発生動向調査によるEHEC感染者報告数が増加している(表1)にもかかわらず, 菌の検出数が減少しているのは, すべての菌株検出の情報が地研に届いていないことによるのであろう。

(特集つづき)

表2. 腸管出血性大腸菌による集団発生事例*, 2000年

No.	発生地	発生期間	推定伝播経路	発生施設	血清型	毒素型	患者数/ 採取者数	患者 年齢	菌陽性者数 / 被検者数	二次 感染	IASR参照記事
1	富山県	5.24-28	食品媒介**	病院	O157:H7	VT1&2	? / ?	?	15 / 743	有	Vol.21, No.9
2	神奈川県	6.13-21	不明	病院・老人保 健施設	O157:H7	VT2	56 / ?	?	87 / 842	有	Vol.21, No.10
3	石川県	6.17-	不明	保育園	O26:H11	VT1	1 / ?	4-	16 / 180	有	
4	大阪府	6.26-7.21	不明	保育園	O26:H11	VT1	2 / 164	0- 1	20 / 211	有	
5	富山県	8.28-9.7	不明	保育園	O111:H-	VT1	2 / ?	4- 27	14 / 240	有	
6	大阪府	8.21-26	不明	キャンプ	O157:H7	VT2	2 / 13	9- 10	11 / 59	有	Vol.21, No.12
7	島根県	8.21-27	不明	?	O26:H-	VT1	7 / ?	?	11 / ?	有	
8	福岡市	9.16-10.5	人→人伝播	保育園	O26:H11	VT1	8 / ?	0- 77	33 / 251	有	Vol.21, No.12
9	千葉県	10.29-11.22	食品媒介***	イベント会場	O157:H-	VT2	41 / 569	1- 69	58 / 1,304	有	本号5ページ
10	静岡県	11.15-12.4	不明	?	O26:H11	VT1	2 / ?	3- 5	19 / 355	無	

*菌陽性者(無症状者を含む)11人以上の事例を示す、**レタスから菌を分離、***牛の丸焼きが推定原因食品 (「集団発生病原体票」による病原微生物検出情報への速報:2001年5月24日現在報告数)

集団発生事例については、1996年に小学校を中心とした食中毒事例が多発したものの(本報 Vol. 19, No. 6 参照), 1997年以降は小学校での大規模集団発生の報告はない。しかしながら、2000年には保育園4件に加え、病院等における集団発生も2件報告されており(表2), 施設における集団感染が依然として続いている。この一因として、EHECは少量の菌でも感染を起こし、食品媒介感染以外にも人→人伝播

による二次感染が起きやすいことが挙げられる(本報 Vol. 17, No. 8 参照)。EHEC感染症集団発生予防には、食中毒対策および施設内感染対策をさらに徹底する必要がある。ちなみに2000年の集団事例の中で汚染原因食品等が特定されたのは、千葉県の事例(イベント会場で提供された牛の丸焼きが原因食; 本号5ページ参照)のみであり、富山県の病院での事例では給食のレタスから菌が分離されたものの、汚染原因食品とは特定されなかった(本報 Vol. 21, No. 9 参照)。

EHEC感染症で溶血性尿毒症症候群(HUS)を起こした場合は重症となる。HUSは主に小児にみられ、原因菌はO157がほとんどである(本報 Vol. 17, No. 1 参照)。2000年においてもHUSが報告された菌検出例は小児に多く(0~1歳4人, 2~5歳18人, 6~15歳8人, 40歳以上1人), 31人中30人からO157が検出されている。

1999~2000年に検出されたEHECの血清型および毒素型を表3に示した。O157:H7の割合は、1991~1995年では83%(436/525)と高かったが、その後年々漸減し、1999年は55%まで低下していた。しかし、2000年は56%で前年とほぼ同率であった。一方、O26, O111などO157以外の血清型の割合は、1991~1995年では9.3%と低かったが、1996年以降増加が続き、2000年には30%となった。中でも特にO26:H11が増加した。これらの傾向は、2000年に起きた集団発生事例の原因菌の血清型でも同様であった(表2)。また、1999年にはO86感染でのHUSによる死亡例(本報 Vol. 20, No. 11 参照), 2000年にはO121感染によるHUS症例も報告されており(本号7ページ参照), 今後も引き続きO157以外の菌の動向について詳細に把握する必

表3. 腸管出血性大腸菌の血清型と毒素型, 1999~2000年

血清型	1999年						2000年					
	VT1	VT2	VT1&2	不明	計	(%)	VT1	VT2	VT1&2	不明	計	(%)
O157:H7	16	427	613	2	1,058	(54.7)	16	396	518	-	930	(56.2)
O157:H-	1	40	51	1	93	(4.8)	2	76	25	-	103	(6.2)
O157:HNT	11	96	135	1	243	(12.6)	2	43	78	2	125	(7.5)
O26:H7	1	-	-	-	1	(0.1)	-	-	-	-	-	-
O26:H11	196	-	4	-	200	(10.3)	272	2	10	2	286	(17.3)
O26:H21	1	-	-	-	1	(0.1)	-	-	-	-	-	-
O26:H27	1	-	-	-	1	(0.1)	-	-	-	-	-	-
O26:H-	33	-	5	-	38	(2.0)	31	7	2	-	40	(2.4)
O26:HNT	102	-	3	-	105	(5.4)	42	6	3	-	51	(3.1)
O111:H9	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	(0.1)
O111:H-	44	-	17	1	62	(3.2)	27	-	2	-	29	(1.8)
O111:HNT	19	-	-	-	19	(1.0)	10	-	2	-	12	(0.7)
その他	55	40	13	4	112	(5.8)	47	23	6	3	79	(4.8)
計	480	603	841	9	1,933	(100.0)	450	553	646	7	1,656	(100.0)

(病原微生物検出情報:2001年4月26日現在報告数)

要があろう。

1996年にはO157:H7分離菌の87%がVT1とVT2の両毒素を保有していたが、2000年にはその頻度が54%まで減少した。一方、O157:H7でVT2のみを保有する分離菌は、1996年では13%であったが、2000年には42%にまで増加した。O26やO111では9割以上がVT1単独保有であった。

2001年速報:本年5月27日までに診断されたEHEC感染者の届出数は668人(6月5日現在)であり(表1), 2000年同期を大きく上回っている(図1)。2月下旬~3月にかけて滋賀県, 富山県, 奈良県においてビーフ角切りステーキを原因食品とする6人のO157:H7による患者が発生した(本号3&4ページ参照)。また、3月中旬~4月下旬にかけては、千葉県, 埼玉県, 東京都, 神奈川県, 群馬県, 茨城県, 山形県において牛タタキまたはローストビーフを喫食した193人がO157に感染し(うち無症状者53人), 13人がHUSを発症している(本号3ページ参照)。いずれの事例も原材料である輸入冷凍牛肉が汚染源と考えられ、多地域に食材が流通していたために広域に被害が発生した、いわゆる“diffuse outbreak”であった。

広域に流通する食品・食材を原因とするEHEC感染症が発生した場合には、各機関の協力のもとに迅速に検知および対応を行い、被害の拡大を未然に防止する努力が求められる。このため、各地研で分離されたEHECのパルスフィールド・ゲル電気泳動法によるDNAパターンの画像データを比較解析するパルスネットが検討されている(本号8ページ参照)。EHEC感染症が増加する夏場に向けて、一層の注意喚起が必要である。

病原微生物検出情報

Infectious Agents Surveillance Report (IASR)

http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html

原虫性下痢症：症例報告3，発生動向4，クリプトスポリジウムの遺伝子型別5，水道原水等からのクリプトスポリジウム&ジアルジア検出6，災害時のレプトスピラ症：鳥取県7，海外旅行後のEHEC集団感染事例：山梨県7，ビーフ角切りステーキによるEHEC広域感染：滋賀県8，麻疹流行：石川県9，非流行期のB型インフルエンザウイルス分離：川崎市9，島根県10，沖縄県10，老人施設でのインフルエンザ感染：福井県11，今シーズンのCA2分離例：埼玉県11，デングウイルス感染事例：東京都12，2000年の手足口病：島根県12，クリプトスポリジウム症感染：米国13，水泳プールの糞便から検出された原虫類：米国13，動物死体処理と人の潜在的健康被害：英国14，ニトロのA(H5N1)型感染：香港14，陸軍基地での麻疹感染：ドイツ14，ポリオ根絶計画の進捗状況：WHO15，薬剤耐性菌情報15，テラス菌・パラチフス菌のファージ型別成績22

Vol.22 No. 7 (No.257)

2001年7月発行

国立感染症研究所
厚生労働省健康局
結核感染症課

事務局 感染研感染症情報センター

〒162-8640 新宿区戸山1-23-1

Tel 03(5285)1111 Fax 03(5285)1177

E-mail iasr-c@nih.go.jp

(禁、無断転載)

本誌に掲載された統計資料は、1)「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく感染症発生動向調査によって報告された、患者発生および病原体検出に関するデータ、2) 感染症に関する前記以外のデータに由来する。データは次の諸機関の協力により提供された：保健所、地方衛生研究所、厚生労働省食品保健部、検疫所、感染性腸炎研究会。

<特集> クリプトスポリジウム症およびジアルジア症

クリプトスポリジウム (*Cryptosporidium parvum*) は孢子虫類に属する腸管寄生性の原虫である。糞便中に排泄されるオーシスト (直径4.5~5.4×4.2~5.0μm) を経口摂取することで感染する。感染者1人が排出するオーシストは10¹⁰個にのぼる。臨床症状は主に非血性水様下痢、腹痛、食欲低下などである (本号3ページ参照)。クリプトスポリジウムに有効な薬剤は確立されていないが、健常人では自然治癒する。一方、免疫不全者では難治性となり、重症例では直接の死因となる (本号4ページ参照)。また、免疫不全者では胆嚢、胆管や呼吸器系への感染が知られている。これまで、ヒトへの感染は *C. parvum* 1種とされていたが、遺伝子解析により *C. meleagridis* (トリ由来) の人体寄生例が見つかった (本号5ページ参照)。今後も新たな病原種が追加される可能性がある。ちなみに、AIDS患者ではすでに *C. baileyi* や *C. muris*, その他の感染が報告されている。

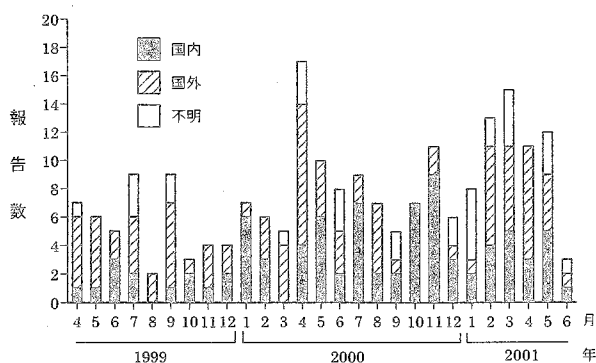
一方、ジアルジア [*Giardia lamblia* (異名 *G. duodenalis*, *G. intestinalis*); 別名ランブル鞭毛虫] は鞭毛虫類に属する原虫で、栄養型虫体は4対の鞭毛や吸着円盤など特徴的な形態を呈する。増殖形態は無性生殖のみが知られている。嚢子は5~8×8~12μmで、患者の糞便中に排出される。嚢子の経口摂取により感染し、十二指腸から小腸上部に寄生するが、胆道

から胆嚢に及ぶこともある。主な臨床症状は非血性の下痢、腹痛、脂肪便などである (本号3&4ページ参照)。治療には主にメトロニダゾールが使われる。

クリプトスポリジウム症およびジアルジア症は1999年4月施行の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律 (感染症法)」に基づく感染症発生動向調査において、4類感染症 (全数把握疾患) に挙げられている。症状や所見から当該疾患を疑った医師は、病原体診断で確認した患者を7日以内に最寄りの保健所を通じて都道府県知事に届けなければならない。

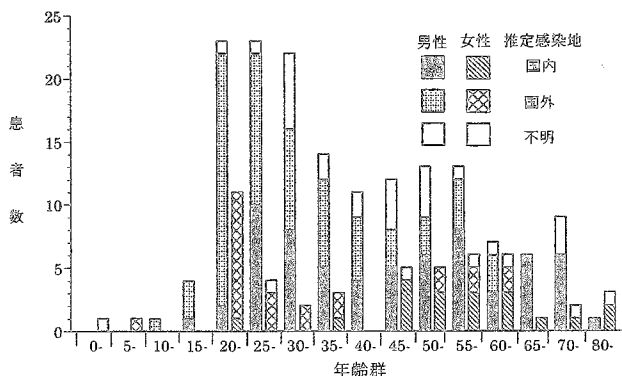
感染症法施行から2001年6月第2週までに届け出のあったクリプトスポリジウム症患者数は13名にとどまっている (表1)。そのうちの8名が国外感染例で、主な推定感染地はインド亜大陸であった。一方、ジアルジア症は同期間に209例が報告された。図1に月別・感染地別発生状況を示す。推定感染地はインド38、タイ17など国外93、国内84、不明32であった。国内での患者発生に季節性は認められなかった。患者の性別年齢分布をみると (図2)、わが国で届けられた患者はもっぱら成人に偏っており、20~34歳のピークに次いで50代にも低いピークが認められた。一方、20歳未満はわずか7例のみであった。男女比は約3:1で男性が多かった。諸外国の報告ではジアルジア症は

図1. ジアルジア症患者月別・感染地別発生状況、1999年4月~2001年6月



(感染症発生動向調査：2001年6月15日現在報告数)

図2. ジアルジア症患者の性別年齢分布、1999年4月~2001年6月



(感染症発生動向調査：2001年6月15日現在報告数)

(特集つづき)

表1 クリプトスポリジウム症患者発生報告、1999年4月～2001年5月(感染症発生動向調査)

診断年月	性別	年齢	検出方法	症状	推定感染地域
1999年3月*	男	25	抗酸染色	水様性下痢、発熱	インド
1999年3月*	女	24	抗酸染色	水様性下痢	インド
1999年3月*	女	30	蛍光抗体染色	水様性下痢、腹痛	国内(動物実験)
1999年6月	男	26	抗酸染色	下痢	国内(子牛から)
1999年7月	男	23	鏡検	下痢	国内
1999年8月	男	22	鏡検	水様性下痢	バングラデシュ
1999年9月	男	17	シヨ糖浮遊法、蛍光抗体染色	下痢	インド
2000年3月	女	22	鏡検	下痢	インド
2000年4月	男	20	抗酸染色、蛍光抗体染色	なし	インド
2000年7月	男	33	抗酸染色	下痢	ガーナ
2001年2月	男	33	鏡検	下痢	国内
2001年3月	男	25	シヨ糖浮遊法	下痢	国内
2001年4月	男	19	鏡検	下痢	インド

* 報告は1999年4月

(2001年6月15日現在報告数)

小児に多い感染症で、近年の米国の罹患率調査でも0～5歳に最大のピーク、次いで幼児たちと接触の機会が多い年齢層の31～40歳に第2のピークが認められている(CDC, MMWR, Vol. 49, SS07, 2000)。今回の集計結果からは、検査対象が開発途上国への渡航者など特定のリスクグループに偏っている可能性が示唆される。真の発生動向を知るためには、検査対象を下痢症患者一般に広げていく努力が必要となろう。

患者糞便からの原虫検出に用いられた検査方法に着目すると、クリプトスポリジウム症の検査では蛍光抗体染色法を含め、検出効率を高める手法が用いられていた(表1)。これに対し、ジアルジア症の検査では約75%は通常の鏡検が行われており、集嚢子法や染色法など検出効率を高める手法が用いられていた例は25%程度に留まっていた。両原虫に対してはすでに蛍光抗体試薬が開発されており、検出効率の向上に寄与している(ただし保険適用外)。なお、原虫類検査法に関しては国立感染症研究所から「クリプトスポリジウム等を中心とした原虫性下痢症の診断マニュアル」が配布されており、検査設備に応じた検査法が紹介されている(<http://www.nih.go.jp/~tendo/atlas/japanese/manual/index.html>)。

これらの原虫症は飲料水や食品を介して、あるいは接触感染によって伝播するが、4類感染症とされた主な理由は水道水を介した大規模集団感染防止には患者発生を早期に探知することが必須とされるからである。クリプトスポリジウム症に関しては米英を中心に1980年代中頃から現在にいたるまで水系集団感染が繰り返し報告されている。なかでも、1993年の米国ウィスコンシン州ミルウォーキーの事例では40万人を超える住民に被害がおよんだ。ジアルジア症に関しても同様で、米国では1965～1980年のあいだに42事例もの水系感染が報告されている。わが国では1994年に神奈川県平塚市の雑居ビル(本月報 Vol. 15, No. 11 参照)、1996年には埼玉県越生町の町営水道(本月報 Vol. 17, No. 9 参照)を介してクリプトスポリジウム水系感染が起き、後者では地域住民の約7割(8,812名)が罹患した。この事態を重く見て厚生省(当時)は1996

年8月に「クリプトスポリジウム緊急対策検討会」(1997年8月に「水道におけるクリプトスポリジウム等病原性微生物対策検討会」に改組)を組織し、同年10月に「水道におけるクリプトスポリジウム暫定対策指針(衛水第248号厚生省生活衛生局水道環境部長通知)」を定め、水道事業体および都道府県が当面講ずべき予防的措置や応急措置等を示した(1998年6月一部改正)。さらに、1999年4月の感染症法の施行を期に、クリプトスポリジウム症およびジアルジア症が4類感染症となり患者サーベイランスの強化がはかられた。

水系感染による事例以外では、動物への感染実験に従事した9名が発症した事例(第7回動物の原虫病研究会抄録1993年4月)が知られるが、散発例に関する情報はきわめて限られている(本号4ページ参照)。

クリプトスポリジウム等原虫類の水系汚染が問題とされる所以は、汚染された場合に完全な消毒、除去が困難なためである。すなわち、通常の上水処理はクリプトスポリジウムに対して99.9%、ジアルジアでは99.99%程度の除去効果とみられる。また、原虫、特にクリプトスポリジウムのオーシストは塩素消毒にきわめて強い抵抗性を示すため、塩素による消毒ができない。厚生労働省は水道原水、またはその他の水道および飲用井戸等から供給される飲料水で原虫類等が検出された場合、「飲料水健康危機管理実施要領について」(1997年4月10日付、衛水第162号水道整備課長通知)に基づいて報告することを求めている。これに伴い、1999年4月～2000年6月までに13都府県29河川での汚染が報告された(本号6ページ参照)。

加えて、欧米では水泳プールにおけるクリプトスポリジウム汚染(糞便汚染事故)に注意が集まっている(本号13ページ参照)。塩素消毒が無効であることから、クリプトスポリジウムによってプールが汚染された場合には集団感染の危険性が生じる。わが国においても水泳・水浴施設での衛生環境整備や下痢症患者の利用制限など、さらに総合的な衛生管理強化が必要である。

病原微生物検出情報

月刊

Infectious Agents Surveillance Report (IASR)

<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>

ブドウ球菌エンテロトキシン 3, 雪印事件調査結果 4, 雪印事件でのエンテロトキシンの検査 6, 黄色ブドウ球菌集団食中毒事例: 宮城県 7, 静岡県 8, 千葉市 9, 海外旅行者での ETEC & *S. sonnei* による集団下痢症: 宮城県 10, 老人ホームでの EPEC O119 食中毒事例: 石川県 11, 抗菌剤投与後に再排菌が見られた EHEC 感染症例 12, 麻疹流行と流行阻止緊急アピール: 沖縄県 13, 今夏のエンテロウイルス検出状況: 愛媛県 14, 北九州府 14, 夏季に分離されたピクトリア系統 B 型インフルエンザ: 香川県 14, 野菜サラダによる *S. Newport* 感染: 茨城県 14, 航空機内での髄膜炎菌感染症患者への暴露: 米国 15, ポリオ輸入症例: ブルガリア 15, 当初 O157 と誤認された NLV の集団発生: 米国 15, NLV CDC ガイドライン 15, メジナ虫症サーベイランス 16, 天然痘ウイルスの保有 16, 薬剤耐性菌情報 16

Vol.22 No. 8 (No.258)

2001年 8 月発行

国立感染症研究所
厚生労働省健康局
結核感染症課

事務局 感染研感染症情報センター

〒162-8640 新宿区戸山1-23-1

Tel 03(5285)1111 Fax 03(5285)1177

E-mail iasr-c@nih.go.jp

(禁、無断転載)

本誌に掲載された統計資料は、1)「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく感染症発生動向調査によって報告された、患者発生および病原体検出に関するデータ、2) 感染症に関する前記以外のデータに由来する。データは次の諸機関の協力により提供された: 保健所, 地方衛生研究所, 厚生労働省食品保健部, 検疫所, 感染症腸炎研究会。

<特集> ブドウ球菌食中毒

わが国では1970年代～1980年代前半にかけてブドウ球菌食中毒が多発したが、その後徐々に減少し、1990年代後半には、事件数・患者数とも全細菌性食中毒に占める割合は2～5%となり、食中毒原因菌としての注目度が次第に低下してきた。ところが、2000年6～7月に大阪を中心に乳製品を原因とするブドウ球菌食中毒（以下雪印事件）が発生し、その最終的な届出患者数は13,420人に及んだ。患者の規模では1988年に北海道で発生したサルモネラ食中毒事件（患者数10,476人）を上回り、国内で戦後最大の食中毒事件となった。この事件の社会的影響は甚大で、ブドウ球菌食中毒が依然として食品衛生上重要な毒素型食中毒であることが再認識されることとなった（本号4ページ & <http://www.mhlw.go.jp/topics/0012/tp1220-2.html>参照）。

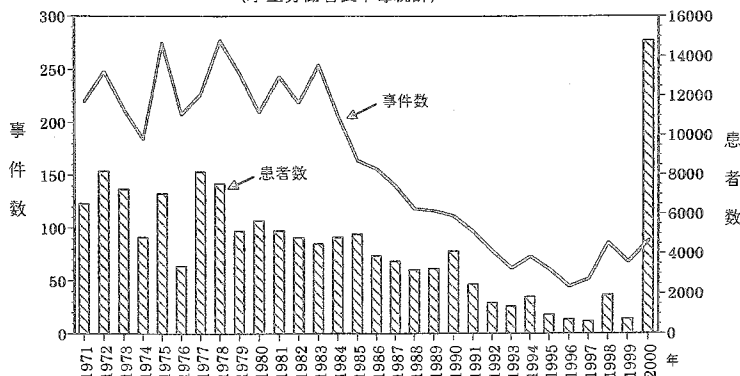
ブドウ球菌はミクロコッカス科に属する芽胞を形成しないグラム陽性通性嫌気性の球菌で、現在34菌種に分類されている。ブドウ球菌はヒトをはじめ、各種動物の皮膚や気道上部、腸管等の粘膜に常在菌叢として存在するため、ヒトを取り巻く環境から広く分離され、また、食品を汚染する機会が多い。食中毒の原因菌種としては黄色ブドウ球菌 (*Staphylococcus aureus*) に限られている。食品中で増殖した黄色ブドウ球菌が耐熱性のエンテロトキシンを産生し、ヒトがこの毒素を食品とともに摂取することにより発症する（エンテロトキシンについては、本号3ページ参照）。黄色ブド

ウ球菌以外では *S. intermedius* や *S. hyicus* のごく一部の菌株もエンテロトキシンを産生することが知られているが、実際の食中毒の原因となった事件は報告されていない。黄色ブドウ球菌は、食塩濃度10%で良好に増殖し、15%においても緩やかな増殖がみられるため、食塩による増殖抑制はあまり期待できないが、10℃以下では増殖が抑制されるので、温度管理により菌の増殖を抑えることが可能である。

毒素型食中毒は、サルモネラや腸炎ビブリオなどの感染型食中毒に比べ、潜伏時間が短いのが特徴で、通常、喫食後1～6時間程度で発症する。ブドウ球菌食中毒の症状は、悪心・嘔吐を主徴とし、下痢を伴う。ときに発熱がみられることがある。健常者が罹患した場合、特別な治療を行わなくても症状は6時間～24時間程度で回復し、一般に予後は良好である。しかし、重症例の場合には、患者は医師の診断を受け適切な対症療法を受ける必要がある。

わが国の過去30年間のブドウ球菌食中毒事件数と患者数の年次推移を図1に示した。1984年までの事件数は毎年約200件前後で、細菌性食中毒事件総数の25～35%を占めていた。1985年以降、事件数は急速に減少し、1996年には50件を下回り、細菌性食中毒総事件数に占める割合も5%以下となった。患者数は、1970年代には年間8,000人を超える年もあったが、1980年代には5,000人～3,000人台へと緩やかに減少し、1990

図1. ブドウ球菌食中毒発生状況, 1971～2000年
(厚生労働省食中毒統計)



年代になると1,000人以下の年もみられるようになった。しかし、2000年は、大規模な雪印事件の発生のために患者数が14,000を超えた。

1995～1999年の原因食品は、穀類および複合調理食品に分類されるものが多かった（次ページ図2）（本号7～9ページおよび本誌 Vol. 22, No. 2 参照）。穀類に分類される原因食品としては、“にぎりめし”が多い。原因施設別では、飲食店に起因するものが最も多かった（次ページ図3）。家庭での発生は事件数では第2位であるが、

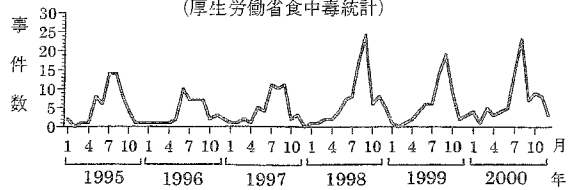
(特集つづき)

患者数では第4位に後退する。これは家庭では1事件あたりの患者数が少ないことによる。家庭で作られた“にぎりめし”を原因とする事件が多い傾向は以前からあまり変化していない。月別の食中毒事件数の推移からわかるように、本食中毒は5月～10月の気温の高い季節に集中して発生している(図4)。

ブドウ球菌食中毒は潜伏時間が短いため推定原因食品が確保されていることが多い。通常は原因食品中で菌が増殖しているため、患者は食品中のエンテロトキシンと多数の生菌を同時に摂取している。そのため、推定原因食品と患者検体(吐物、便)の両者から黄色ブドウ球菌が分離され、それら分離菌株のコアグラウゼ型、ファージ型や毒素型等が一致することが本食中毒の原因食品との因果関係判定の重要な基準となる。しかし、ブドウ球菌エンテロトキシンは耐熱性であるので、食品が加熱殺菌されても毒素活性が保たれ、食中毒の原因となることがある。この場合には、疑われる食品や患者検体から生菌が分離出来ない。

2000年の雪印事件はまさにこの例であり、原因食品および患者検体から黄色ブドウ球菌を分離することが困難であったため、エンテロトキシンを直接検出する必要があった(本号4～7ページ参照)。通常、エンテロトキシンの検出には、市販の簡易・迅速診断試薬あるいはキットが利用されている(本号3ページ参照)。

図4. ブドウ球菌食中毒事件数の推移, 1995～2000年
(厚生労働省食中毒統計)



今までの食中毒事件の原因食品は当該キットの感度(0.2～2ng/ml)以上の濃度のエンテロトキシンで汚染されており、これを直接検出することが可能であったが、雪印事件では検体を適当な方法で処理し、濃縮することによってはじめてエンテロトキシンが検出できた(本号6ページ参照)。

従来のブドウ球菌食中毒と比べると、雪印事件には以下の特徴があった。

1. 患者数が13,420人と大規模であった。
2. 原因食品が「低脂肪乳」等の加工乳および乳飲料であった。
3. 原因食品から菌は分離できず、低濃度のエンテロトキシン(0.05～1.6ng/ml)のみが検出された。
4. 原因食品の原料に使用された脱脂粉乳からエンテロトキシン(4ng/g)が検出された。
5. 脱脂粉乳の製造過程に停電による温度管理の不備があった。

以上から、従来の菌の検出を中心とした検出法の見直し、より高感度なエンテロトキシン検出法の確立という具体的な問題点と、このような事件の再発防止対策の必要性が示された。

他の細菌性食中毒の発生数があまり変化していない中で、1980年代中頃からブドウ球菌食中毒が目立って減少したのは、食品製造者、食品販売者、食品衛生関係者などの努力によるもので、特に、食品取り扱い時の手袋着用と徹底と調理後の温度管理が良好に行われた結果と考えられてきた。

しかし、今回の雪印事件を機に厚生労働省(当時厚生省)は2000年11月6日に、「総合衛生管理製造過程(HACCP)承認制度実施要領の改訂について(生衛発第1634号)」を都道府県知事等宛てに通知し(http://www1.mhlw.go.jp/topics/kaitei/tpl106-1_13.html),さらなる衛生管理の徹底を促した。

図2. ブドウ球菌食中毒の原因食品, 1995～1999年
(厚生労働省食中毒統計)

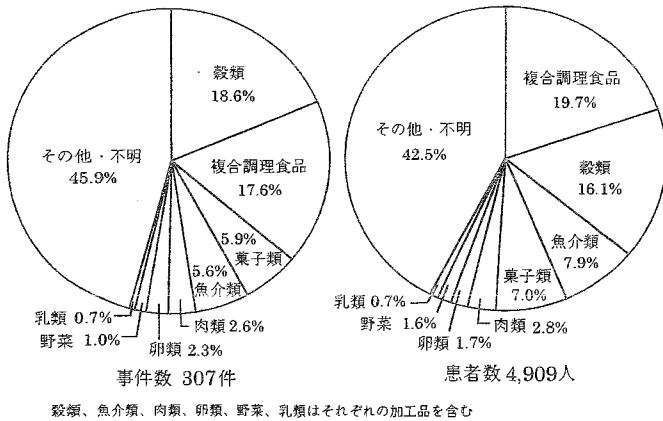
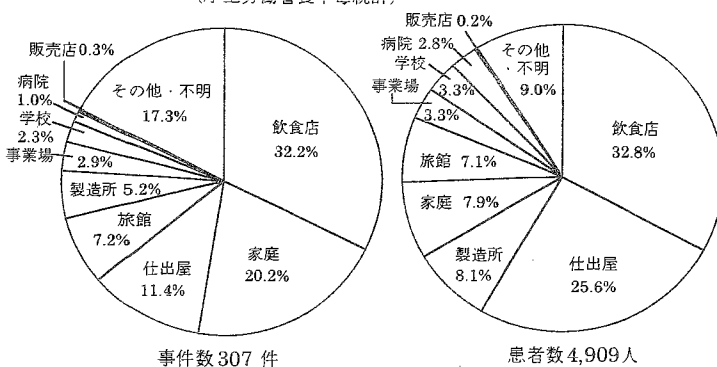


図3. ブドウ球菌食中毒の原因施設, 1995～1999年
(厚生労働省食中毒統計)



病原微生物検出情報

月刊

Infectious Agents Surveillance Report (IASR)

http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html

Vol.22 No. 9 (No.259)

2001年9月発行

国立感染症研究所
厚生労働省健康局
結核感染症課

事務局 感染研感染症情報センター
〒162-8640 新宿区戸山1-23-1
Tel 03(5285)1111 Fax 03(5285)1177
E-mail iasr-c@nih.go.jp

(禁) 無断転載

つつが虫病患者発生状況：神奈川県3, 宮崎県3, 鹿児島県4, 弱毒株によるつつが虫病：山形県5, つつが虫病死亡例：山形県6, 2001/02シーズン用インフルエンザワクチン株7, 2000/01シーズンインフルエンザウイルス分離状況9, ヘルパンギーナ患者からのウイルス分離速報：奈良県9, 鳥根県10, CB5による無菌性髄膜炎：奈良県10, ウェルシュ菌食中毒事例：広島市11, NLV 集団発生：福井県12, 鹿児島県12, 尿中からのHSV1分離13, 麻疹流行時における任意予防接種事業：沖縄県14, 黄熱ワクチン重篤な副反応15, アデノウイルス関連死亡例：米国15, アデノ3型によるPCF集発：オーストラリア15, Q熱集発：ドイツ16, Q熱などの職業的暴露危険度16, 多剤耐性 *S. Typhimurium* DT104の推移16, 薬剤耐性菌情報17, 日本のAIDS患者・HIV感染者18

本誌に掲載された統計資料は、1)「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく感染症発生動向調査によって報告された、患者発生および病原体検出に関するデータ、2) 感染症に関する前記以外のデータに由来する。データは次の諸機関の協力により提供された：保健所、地方衛生研究所、厚生労働省食品保健部、検疫所、感染性腸炎研究会。

<特集> つつが虫病 1996~2000

つつが虫病(恙虫病)は、リケッチア *Orientia tsutsugamushi* を保有する一部の有毒ツツガムシ幼虫に「吸着」された人に起こる感染症で、東南アジアを中心にインド亜大陸、オーストラリアでも発生している。わが国では1800年代初めには既に秋田県、山形県、新潟県など東北・北陸地方で夏季に河川敷で発生する風土病として知られていた。この古典型つつが虫病は主にアカツツガムシ (*Leptotrombidium akamushi*) によって媒介されることが知られていたが、戦後、フトゲツツガムシ (*L. pallidum*) およびタテツツガムシ (*L. scutellare*) によって媒介される新型つつが虫病的存在が明らかとなり、北海道、沖縄など一部の地域を除く全国で発生が報告されるようになった。

フトゲツツガムシは北海道南半部から鹿児島県まで分布し、秋に孵化した幼虫は初冬まで吸着源を求めて活動するが、吸着できなかった幼虫は積雪期に休眠し、翌春に再び活動する。タ

テツツガムシは南西日本を中心に東北中部まで分布し、秋に孵化して幼虫は冬まで活動する。*O. tsutsugamushi* の血清型はいくつかの亜型が知られており、アカツツガムシは Kato 型、フトゲツツガムシは Karp 型または Gilliam 型、タテツツガムシは Kawasaki 型または Kuroki 型を保有する。

伝染病予防法に基づくつつが虫病的届け出は1950年に開始され、その後1999年4月施行の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)」に基づく感染症発生動向調査でも全数把握の4類感染症に定められた。患者発生状況を見ると(図1, 表1), 1950年の患者届け出制度開始当時は大部分が古典型で患者数は年間100例程度であったが、

図2. つつが虫病都道府県別発生状況, 2000年1~12月 (感染症発生動向調査)

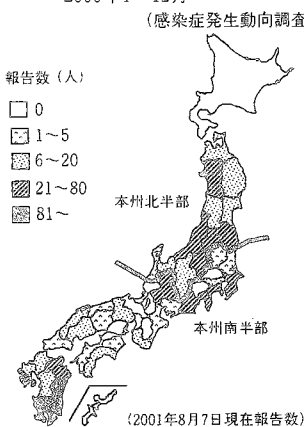


表1. つつが虫病患者都道府県別報告数, 1996~2000年

	1996~2000年				
	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年
北海道	-	-	-	-	-
青森	10	11	9	17	18
岩手	2	3	3	3	7
宮城	3	1	9	7	10
秋田	26	37	31	45	48
山形	9	3	10	7	14
福島	23	24	47	36	40
茨城	1	5	4	2	4
栃木	2	2	2	4	2
群馬	21	23	24	17	24
埼玉	2	2	4	1	-
千葉	37	34	37	99	60
東京	7	11	20	10	15
神奈川	15	14	20	33	44
新潟	36	25	26	21	27
福山	5	3	9	7	6
石川	4	1	4	2	1
福井	1	1	-	-	-
山梨	-	-	-	-	-
長野	8	4	4	6	10
岐阜	16	18	9	6	31
静岡	5	8	11	12	23
愛知	3	2	2	7	5
岐阜	8	7	5	5	3
滋賀	-	-	-	-	-
京都	-	2	1	1	-
大阪	1	-	-	1	-
兵庫	-	1	2	5	15
奈良	-	-	-	-	-
和歌山	-	-	-	6	6
鳥取	3	-	5	2	3
島根	1	-	4	9	12
岡山	-	-	1	4	4
広島	9	10	5	16	19
山口	1	2	-	1	3
徳島	-	-	-	1	1
香川	-	-	-	1	-
愛媛	4	1	-	-	-
高知	-	1	1	-	9
福岡	3	5	9	8	7
佐賀	-	8	1	9	6
長崎	11	14	15	25	30
熊本	9	15	21	9	19
大分	23	47	17	31	40
宮崎	47	35	69	59	93
鹿児島	67	109	97	86	134
沖縄	-	-	-	-	-
合計	423	487	538	622	794

1999年3月までは「厚生省伝染病統計」、1999年4月以降は「感染症発生動向調査」(2001年8月7日現在報告数)

図1. つつが虫病患者年別報告数, 1950年~2000年

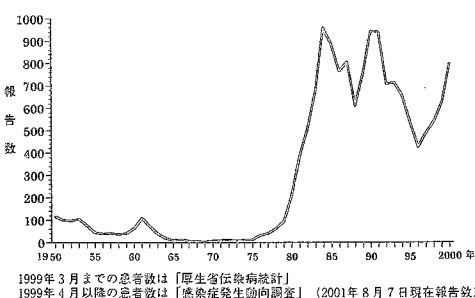
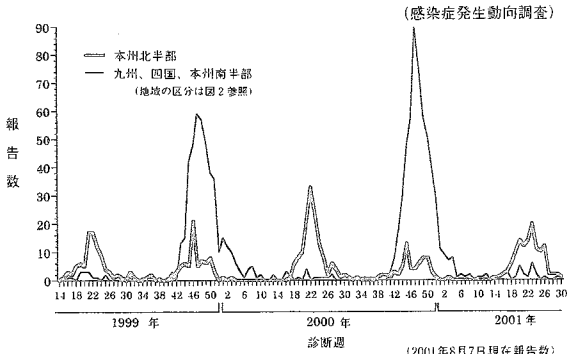
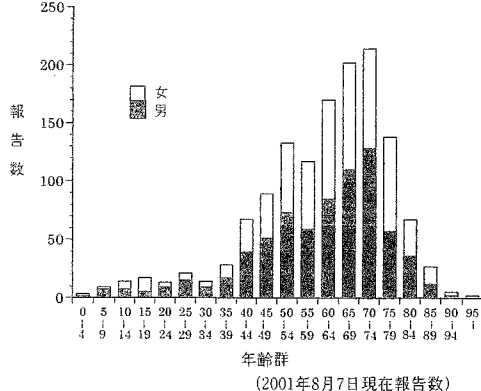


図3. つつが虫病患者週別発生状況, 1999年第14週~2001年第30週 (感染症発生動向調査)



(特集つづき)

図4. つつが虫病患者年齢別発生状況、
1999年4月～2000年12月 (感染症発生動向調査)



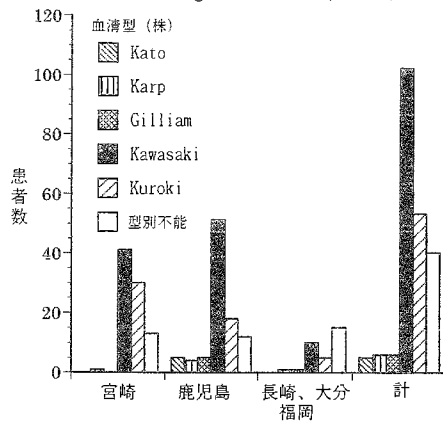
その後急速に減少した。しかし、1980年頃より新型つつが虫病患者が急増した。1991年以降は減少傾向にあったが(本月報 Vol. 18, No. 9 参照), 1997年から再び増加に転じ、2000年は794例を数えている。2000年の患者は37都県から報告された(前ページ図2)。また、人口動態統計による1996～2000年の5年間の死者は10例(秋田4, 青森3, 福島, 京都, 鹿児島各1)報告されている。

感染症法施行後の1999年第14週～2001年第30週の感染症発生動向調査では、いずれの年も21～23週(5～6月)と45～50週(11～12月)に患者発生のピークがある(前ページ図3)。地域別にみると、比較的寒冷で冬に積雪がある東北・北陸地方などでは秋～冬と春の両方に発生がみられ、九州から関東地方までの温暖な地方では秋～冬に発生が多く、その地域に分布するツツガムシの幼虫の活動時期と関係していた(本号3～5ページ参照)。1999年4月～2000年12月の患者の性別は男722例, 女628例と男性がやや多く、年齢は65～74歳がピーク(図4)で、31%を占めた。

一方、国立感染症研究所および地方衛生研究所で構成している衛生微生物技術協議会検査情報委員会つつが虫病小委員会では、1989年から詳細な患者調査票を収集している。以下に1998年の集計から得られた知見をまとめる(感染症誌, 75: 353-364, 2001参照)。つつが虫病が疑われた583例中、確認患者は416例であった。推定感染場所は山地・山間部が50%と最も多く、かつて古典型つつが虫の感染がよく見られた河川敷での感染は3.3%と激減している。感染時の作業の種類は農作業が32%, 森林作業14%, 山菜・山芋採り11%, レジャー6.5%, 工事3.5%であった。

九州地方における流行型を患者212例の血清抗体価から推定した結果、Kawasaki型, Kuroki型に感染した患者が大部分を占めた(図5)。また、Kawasaki株またはKuroki株には反応するが、従来用いられてきた標準3株(Kato, Karp, Gilliam株)には反応しない例があった。Kawasaki型, Kuroki型を保有するツツガムシが分布している地方ではこれらの株を抗原に使用した方がよいことが明らかとなった。なお、

図5. 九州地方のつつが虫病患者が感染したと推定される *Orientia tsutsugamushi* の血清型、1998年



患者血清が最も高い抗体価を示した株を推定感染株とした。
(小川ら, 感染症学雑誌 Vol. 75, p. 335, 2001)

急性期血液で血清抗体が検出できない場合には、血餅からのPCRによる *O. tsutsugamushi* DNA 検出率が高く、血清診断とPCRの併用が勧められる(本月報 Vol. 18, No. 1 および本号3ページ参照)。

臨床所見としてつつが虫の主要3徴候である刺し口、発熱、発疹は、それぞれ87%, 98%, 92%と高率であった。また、汎血管内凝固症候群(DIC)は21例に認められた。刺し口の場所は、胸部・腹部・背部・臀部および陰部など躯幹部が35%, 下肢が23%であった。初診時の刺し口の形状は痂皮状が60%であった。リンパ節腫脹は約半数の患者に認められ、刺し口の近傍に腫脹がみられる傾向があった。血液生化学検査所見では、CRP, GOT, GPT, LDHの上昇が、それぞれ96%, 85%, 78%, 91%にみられた。

つつが虫病には、多くの細菌性熱性疾患に第一選択剤として用いられるペニシリン系, β -ラクタム系薬剤は無効であるが、テトラサイクリン系薬剤が有効で耐性株もないため、臨床所見でつつが虫病を疑った段階でのテトラサイクリン系薬剤投与による早期治療が重症化を防ぐために重要である。一方、地域でつつが虫病患者が発生したという情報は、疑わしい患者の早期受診を促し、医師の臨床診断にも大きな助けとなる。また、患者の推定感染場所に住民や行楽客などが無防備に立ち入らないよう注意を呼びかけることも可能となる。このため、感染症発生動向調査において、医師はつつが虫病患者の病原体診断または血清診断を行って速やかに最寄りの保健所へ届け出ること、保健所および地方・中央感染症情報センターは医療機関および一般への迅速な情報提供を行うことが、つつが虫病対策の基本として要求される。

ツツガムシはダニの一種で、幼虫(約0.2mm)は成虫になるため一度だけ温血動物に1～2日間「吸着」する。「吸着」とは虫が口器を皮膚に突き刺して、ストロー状の吸取管を通して体液を吸うこと。口器は短く毛細血管に達しないため、吸血はできない。

病原微生物検出情報

月報

Infectious Agents Surveillance Report (IASR)

http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html

疥癬：集団発生の対策と予防3, 治療薬の現況4, 施設での治療5, ヒゼンダニの生物学6, 北海道のキツネでの疥癬流行7, 富士山で感染したライム病患者8, *V. vulnificus* 感染症：熊本県9, 静岡県9, EHEC感染症集団発生：金沢市10, 埼玉県10, 非流行期のA(H3)型インフルエンザウイルス分離：沖縄県11, 2000/01シーズンインフルエンザウイルスの解析12, 黄熱流行：コートジボワール19, CJDサーベイランス：英国19, ポリオ根絶計画進行状況：南東アジア20, エコー30無菌性髄膜炎の流行：英国20, ドイツ20, *S. Typhimurium* DT104 広域多国間集発：欧州21, C群髄膜炎菌感染症集発：オランダ21, 老人ホームでの肺炎球菌性肺炎集発：米国21, 薬剤耐性菌情報21

Vol.22 No.10 (No.260)

2001年10月発行

国立感染症研究所
厚生労働省健康局
結核感染症課

事務局 感染研感染症情報センター
〒162-8640 新宿区戸山1-23-1
Tel 03(5285)1111 Fax 03(5285)1177
E-mail iasr-c@nih.go.jp

(禁、無断転載)

本誌に掲載された統計資料は、1)「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく感染症発生動向調査によって報告された、患者発生および病原体検出に関するデータ、2) 感染症に関する前記以外のデータに由来する。データは次の諸機関の協力により提供された：保健所、地方衛生研究所、厚生労働省食品保健部、検疫所、感染性腸炎研究会。

<特集> 疥癬

疥癬はダニの一種であるヒゼンダニ（疥癬虫, *Sarcoptes scabiei*）が皮膚に寄生することにより発症する。従来、性感染症の一つとして認識されていたが、近年わが国では、病院、老人ホーム、養護施設などで集団発生の事例が増加し、疥癬は医療および介護関係者の間で深刻な問題となっている。本特集では、疥癬に対する検査、治療、集団発生の対応・予防に関する要点および問題点などの紹介により、関係者の理解を求めるとともに、今後の疥癬制圧への提言をまとめた。

ヒゼンダニと感染経路

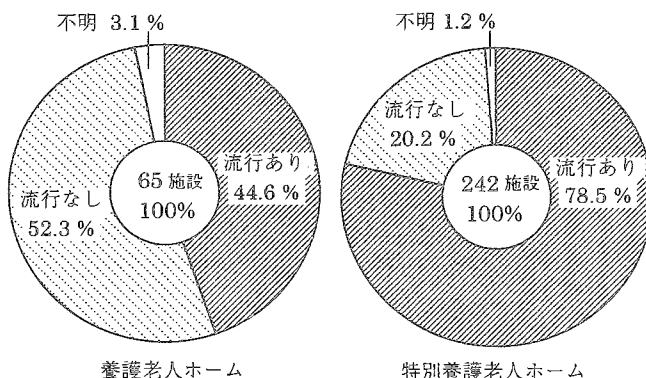
ヒゼンダニの大きさは雌成虫で体長400 μ m、体幅325 μ mで、卵形、円盤状である。雄は雌の約6割の大きさである。卵→幼虫→若虫→成虫と、約2週間で成熟する。幼虫、若虫、雄成虫は人の皮膚表面を歩き回っていたり、あるいは皮膚角質層内に穴を掘ってひそんでいたり、毛包内に隠れていたりするため、居場所を特定するのは難しい。皮表を歩き回っている雄は角質層内の雌を探し交尾する。交尾後の雌成虫は角質層に疥癬トンネルを掘り進みながら、寿命が尽きるまで4～6週間にわたって1日2～4個ずつ産卵しながら移動する。ヒゼンダニは乾燥に弱く、皮膚から離れるとおおむね2～3時間以内に死ぬ（本号6ページ参照）。なお、動物の疥癬も知られており（本号7ページ参照）、

偶発的な感染でヒトにも皮膚疾患をおこすが、ヒトの皮膚内で繁殖しないため一時的な寄生で終わる。

感染経路は人と人との接触がほとんどである。従って、家族、介護者、セックスパートナーの他、ダンスのパートナーやこたつで行う麻雀仲間、また、畳での雑魚寝などでも感染する可能性がある。まれに寝具、衣類などから感染することもある。ヒゼンダニはヒトの体温より低い温度では動きが鈍く、通常の社会生活で、数時間並んで座った程度では感染する可能性はほとんどない。潜伏期間は約4～6週間で、虫体やその糞に対するアレルギー反応として痒みなどがでてくる。

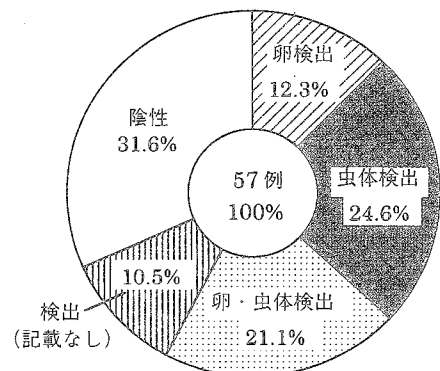
集団生活が行われている老人福祉施設や養護施設などでは、一人の感染者の入所で、集団発生の危険性が生じる。1996年4月に大滝が東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県の養護老人ホームと特別養護老人ホーム506施設にアンケートを実施したところ（回収率64%）、疥癬の集団発生を過去に経験したことがある施設は、養護老人ホームでは45%、特別養護老人ホームではさらに高値の79%であった（図1）。多くは10人以下の集団発生であったが、41人以上も5施設あった。発症期間は1～6カ月89%、6カ月～1年8.2%、1～2年2.6%で、2年以上も1施設あった（皮膚病診療19：468, 1997）。

図1. 養護老人ホームと特別養護老人ホームでの疥癬集団発生率



(大滝倫子、皮膚病診療 19:468, 1997)

図2. ヒゼンダニの検出率



疥癬疑いの57例の鏡検結果、陰性の18例中11例は家族内に患者がいた。

(石井則久、STD誌 70:19, 1989)

(特集つづき)

表 疥癬の主な治療薬剤

薬剤名	剤型	効果	副作用	入手法	使用感
イオウ剤	軟膏、ローション等	やや有効	刺激性、皮膚乾燥	各医療機関で調製(保険適用)	臭気、全身外用のため煩雑
イオウ剤	入浴剤	やや有効	刺激性、皮膚乾燥	一般薬局で購入可	臭気
クロタミトン	軟膏	やや有効	時に皮膚炎	医師の処方箋	全身外用のため煩雑
安息香酸ベンジル	ローション	やや有効	刺激性	各医療機関で調製	全身外用のため煩雑
γ-BHC(リンデン)	軟膏	有効	毒性あり	各医療機関で調製	全身外用のため煩雑
ベルメトリン	軟膏	有効	時に皮膚炎	日本では入手困難	全身外用のため煩雑
イベルメクチン	内服剤	著効	少ない	日本では入手困難	内服のため容易

臨床症状と診断

激しい痒みがあり、夜間に増強し、睡眠を妨げられる程である。ただし、高齢者などでは瘙癢の訴えの少ない場合もある。疥癬に特徴的な皮疹は疥癬トンネル(小隆起性茶色調、曲がりくねった線状疹)で、手首の屈側、手掌尺側、指、指間、肘、アキレス腱部などに認められる。その他丘疹、小水疱、痂皮、小結節などもみられる。陰嚢部には小結節を認めることがある。また下腹部や背部、腋下などにも丘疹を認めることもあるので、全身くまなく観察することが必要である。

疥癬の確定診断はヒゼンダニを検出することである。しかし、問診・皮膚症状で疥癬が疑われる患者からのヒゼンダニ検出率は、皮膚科医が行った場合でも60%前後であり(前ページ図2)、検出率向上は主治医の努力にかかっている。したがって、強い瘙癢を伴う疑わしい皮疹がある場合には早期に皮膚科専門医に診察を依頼する。検査で陰性であっても、瘙癢や皮膚症状が収まるまで数週間おいて繰り返し検査する必要がある。

ヒゼンダニの検出方法は、疥癬トンネルや皮疹部を先の曲がった眼科用ハサミで先端を切り取ったり、あるいはメスで皮疹の表面をこすって採取した組織片をスライドグラスに載せ、20%水酸化カリウム液を滴下して鏡検する。虫体や虫卵のほか、虫体の一部、卵の抜け殻などを検出する。血液像、血液生化学検査値は正常である。血清学的検査法は開発されていない。

角化型疥癬(痂皮型疥癬、ノルウェー疥癬)

角化型疥癬は桁違いに多数のヒゼンダニが感染した疥癬の重症型である。患部は肥厚した灰白色～帯黄白色の角質増殖と痂皮に覆われた状態になり、亀裂も生じる。ダニの数は通常の疥癬では数十匹であるが、角化型では100万～200万匹といわれている。患者から剥がれ落ちた鱗屑や痂皮には多数のヒゼンダニがいるので、集団発生の感染源になる。角化型疥癬患者には高齢者に多くみられる運動機能低下・障害、あるいは免疫学的異常など種々の基礎疾患があり、ステロイド剤の内服・注射などの全身投与や外用なども重症化の一因となる。角化型では爪なども侵され、瘙癢は不定で治療に抵抗性である。角化型はヒゼンダニの検出が容易であるので、特徴的な皮疹を診て疥癬を疑うことが診断上重要である。

治療と予防

現在使用されている抗ダニ薬剤を表に示す(本号4

～5ページ参照)。保険適用薬剤はイオウ剤のみであるが、外用剤は使用感が悪く効力も弱い。イオウ入浴剤はやや有効であるが、入浴しすぎたり、浴槽に多く入れすぎると、肌が荒れるので注意する。診療現場ではクロタミトン軟膏が多く使用されている。外用剤は首から下の全身に塗布するのが肝要で、特に手や指、陰部などに塗り残さないようにする。しかし、効果も弱く処置が煩雑なため、著効する内服剤への期待が高く、製造販売の認可・保険適用が望まれている。瘙癢に対しては抗ヒスタミン剤の内服が用いられている。角化型疥癬は厚い痂皮を取る必要がある。

疥癬を湿疹と誤診してステロイド塗布治療を行うと、一時的に皮疹と痒みは軽減するが、すぐに悪化してくる。ステロイド外用剤は使用してはならない。

感染拡大予防のためには患者の早期発見が重要で、疥癬が疑われる場合早期に皮膚科に検査を依頼すること、さらに一人の患者が見つかった場合、患者の家族や同じところで寝泊りした人など無症状者にも検査を行うことが必要となる。また、集団発生時は角化型疥癬患者など当該施設の感染源を特定すること、感染の機会があった入所者・スタッフの検査を行うことが必要となる。普通の疥癬患者とは皮膚の直接接触を避ければ感染の心配はないので、隔離は必要無いが、角化型疥癬患者は個室管理とし、処置をする場合は感染予防に努める(本号3ページ参照)。

今後の課題

現在まで疥癬発生に関する全国的な実態調査は皆無であり、早急に実施する必要がある。さらに、医師をはじめ看護者・介護者への疥癬に対する啓発を行い、疥癬患者の早期発見・治療、集団発生の予防に努める必要がある。また、老人施設のみならず、乳幼児が集団で生活する施設での集団発生や、エイズ患者など免疫力が低下している人の疥癬にも注意を払う必要がある。

現在、著効する薬剤が入手困難であるため、病院・施設などで疥癬がいったん他の患者・入所者や医療関係者・介護者へ感染拡大し始めると、鎮静化させるのに最低数カ月を要する。さらに当該機関の信用の失墜など、多大な損害をもたらす。このような事態を短期間に解決するためにも、わが国でも著効する薬剤が早く疥癬治療に使用できるように関係者の努力が求められる。

病原微生物検出情報 月報

Infectious Agents Surveillance Report (IASR)
<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>

Vol.22 No.11 (No.261)
 2001年11月発行

国立感染症研究所
 厚生労働省健康局
 結核感染症課
 事務局 感染研感染症情報センター
 〒162-8640 新宿区戸山1-23-1
 Tel 03(5285)1111 Fax 03(5285)1177
 E-mail iasr-c@nih.go.jp

(禁、無断転載)

2000年度麻疹流行予測調査3, 野外麻疹ウイルス6, 麻疹ウイルスに対する中和抗体価7, 地域の麻疹対策: 北海道7, 堺市8, 高知県10, 沖縄県12, 麻疹予防接種率向上に関する要望書13, 世界の麻疹14, 韓国の麻疹15, 麻疹死亡例統計16, インフルエンザウイルス分離速報: AH3型仙台市17, B型名古屋市17, 海外で感染のレプトスピラ症18, EHEC O157 集団感染: 埼玉県18, 堺市19, 兵庫県20, S. Tennessee 食中毒: 富山県20, S. Brandenburg と S. Corvallis による食中毒: 兵庫県21, ウェルシュ菌食中毒: 富山県22, 微生物学的リスクアセスメント22, 麻疹集団発生: オーストラリア23, ポリオ流行: ドミニカ&ハイチ23, インフルエンザの動向: 米国&世界24, バイオテロリズム対策24, WNVの動向: 米国24, 髄膜炎菌性髄膜炎流行: アフリカ24, 汚染ヘロインと重症敗血症: スコットランド他25, 薬剤耐性菌情報25, テフス菌・パラチフス菌フェージ型別成績32

本誌に掲載された統計資料は、1)「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく感染症発生動向調査によって報告された、患者発生および病原体検出に関するデータ、2) 感染症に関する前記以外のデータに由来する。データは次の諸機関の協力により提供された: 保健所, 地方衛生研究所, 厚生労働省食品保健部, 検疫所, 感染性腸炎研究会。

<特集> 麻疹 1999~2001年

図1. 麻疹患者数と死亡数の推移, 1950~2000年

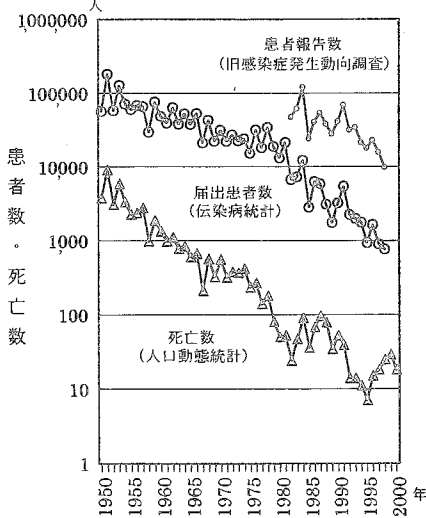
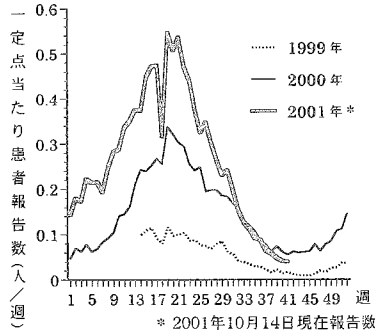


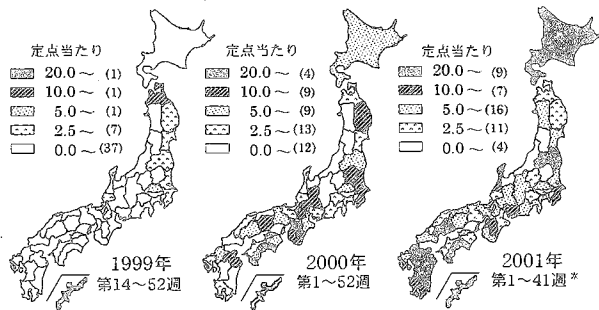
図2. 小児科定点からの麻疹患者報告数の推移, 1999~2001年 (感染症発生動向調査)



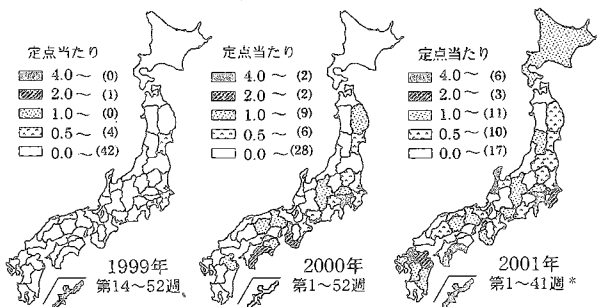
日本では麻疹ワクチンが1978年10月から定期接種となり、患者数・死亡数は著しく減少したが(図1), 厚生労働省予防接種副反応研究班磯村らの調査によれば、2000年度の全国のワクチン接種率は81%であり、初めて80%を超えた(1996年は75%, 本誌 Vol. 22, No. 2 参照)。予防接種法に基づく定期接種の対象年齢は生後12カ月~90カ月未満であり、標準として生後12カ月~24カ月のできるだけ早期に行うこととされている(対象年齢を超えた者は任意接種として可能)。前回の麻疹特集(本誌 Vol. 20, No. 2, 1999 参照)以降、2000~2001年に再び患者数が増加しているため、本特集ではさらなる麻疹対策の推進に資することを目的として、1999~2001年に得られた疫学データを解析した。

図3. 都道府県別麻疹患者発生状況 (感染症発生動向調査)

a. 小児科定点からの麻疹患者報告数



b. 基幹病院定点からの成人麻疹患者報告数



() は都道府県の数を示す。 * 2001年10月14日現在報告数

感染症発生動向調査: 1999年4月1日、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(感染症法) 施行に伴い、麻疹は定点把握の4類感染症として、従来の小児科定点からの麻疹患者数の報告(定点数は約2,000から約3,000に増加)に加えて、約500の基幹病院定点からの成人麻疹(18歳以上, 多くは入院例)患者数の報告が開始された。

1999年4月感染症法施行後の小児科定点からの麻疹患者報告数を図2に示す。1999年(14~52週累積)の患者報告数は、定点あたり2.04人と過去最低であったが、2000年から再び増加し、2001年は第41週現在、定点あたり10.95人(累積患者数は32,890)と、既に2000年1年間(7.57人)の約1.4倍となり、過去7年間で最も多い。都道府県別患者数をみると(図3), 2001年は9道県で小児科定点あたり20.0人を、6都県で基幹定点あたり4.0人を既に超えており、1999年, 2000年に比して、患者数が著増していることが明らかである[本誌 Vol.22, No.5 (高知) & No.7 (石川) 参照]。一方、小児科定点あたり2.5未満の県も4県あり、

(特集つづき)

患者の多い県と少ない県が隣り合って混在しているのが最近の特徴である(本月報 Vol. 20, No. 2, 1999参照)。患者の年齢は(図4), 小児科定点からの報告では1歳が最も多く、次いで6~11カ月, 2歳の順で、2歳以下が半数を占めている。成人麻疹を対象とする基幹定点からの報告では、20~24歳が最も多く、次いで15~19歳, 25~29歳の順である。2000年に比べ2001年に入って患者数増加が目立つ年齢群は、小児科定点の10歳以上(1.7倍), 基幹定点の20~39歳(2.3倍)である。

麻疹ウイルスの分離: 麻疹ウイルス高感受性のB95a細胞の普及により麻疹ウイルスの分離が容易となり、世界的な流行株の監視が行われている(本月報 Vol. 20, No. 2, 1999参照)。地方衛生研究所から感染症情報センターへの麻疹ウイルス分離報告は(2001年10月25日現在報告数), 1999年16, 2000年88, 2001年86, 計190で、分離材料は血液54, 鼻咽喉材料145であった(血液, 鼻咽喉材料両方から分離された例を含む)。国立感染症研究所ウイルス製剤部で実施した遺伝子解析の結果, 2001年に分離された麻疹ウイルスの遺伝子型は日本全国ほとんどの地域でD5型であったが、沖縄で分離されたウイルスはすべてD3型であった。また、中国や韓国で流行しているH1型が川崎と東京で分離されている(本号6ページ参照)。

感染症流行予測調査(本号3ページ参照): 2000年の調査では、1歳児のワクチン接種率が低く、ゼラチン粒子凝集反応法(PA法, 1:16以上が陽性)による抗体陰性者(図5の白抜き部分: 感受性者)は1歳で48%, 2歳で21%であった。麻疹のおたふくかぜ風疹混合(MMR)ワクチン接種中止後に生まれた5~6歳(8.8%)では3~4歳(6.7%)を上回る感受性者が残されていた。ワクチン接種群では、抗体保有率は99%と極めて高い。幾何平均抗体価も、低年齢から高年齢群まで高く維持されている。この調査と2000年の国勢調査で得られた年齢別人口から、2歳未満児のうちの約100万人が麻疹感受性者であることが推計された。

麻疹制圧計画と今後の課題: WHOはポリオ根絶に続く予防接種拡大計画(EPI)として麻疹罹患率・死亡率の大幅な減少を目標に挙げている(本号14ページ参照)。日本では人口動態統計により公式に把握されている死亡数だけでも依然として2桁が記録されている(図1および本号16ページ資料参照)。現在の日本における麻疹の流行の特徴は、ワクチン接種率が低迷しているために、麻疹の流行が中途半端に抑えられており、従来みられなかった動向を示していることで、1)小~中規模の流行が常にどこかの地域で起こっており、流行に地域差が認められる、2)1歳児を中心としたワクチン未接種者の感染が主であるが、成人麻

図4. 麻疹患者の年齢分布, 1999~2001年(感染症発生動向調査)

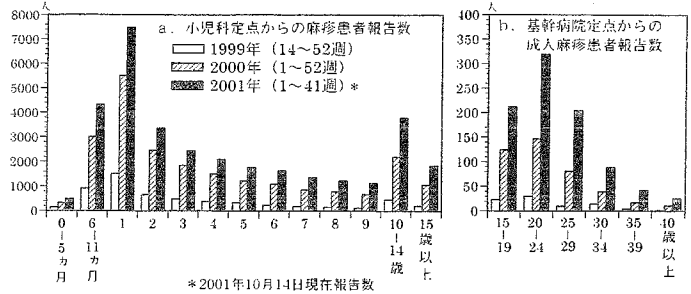
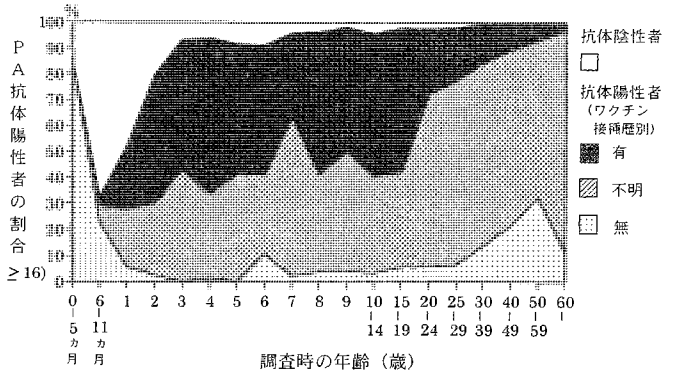


図5. 年齢別麻疹抗体保有状況, 2000年(感染症流行予測調査)



疹も増加している、の2点である。現状ではワクチン接種率の向上が当面の課題であり、現行の予防接種制度を活用し、1歳の誕生日を過ぎた子供達にできるだけ早期にワクチンを接種する必要がある。さらに、小児のワクチン接種率が向上し、麻疹流行が制圧されている地域では、野外ウイルスに暴露する機会が減ったために、1)未接種者およびワクチンを接種したが免疫を獲得できなかった者が感受性者のまま成長する、2)ワクチン接種によって一旦免疫を獲得した者も野外ウイルスの不顕性感染による追加免疫がかからないので、免疫レベルが減弱する。その結果、成人麻疹、特に妊婦麻疹と新生児麻疹の発生が問題となるので、国外のみならず、国内の流行地域からの輸入例による感染、および流行地域への旅行時の感染に注意が必要となる。今後は1)麻疹患者のワクチン接種歴の調査、2)各地域単位での住民の免疫状況を監視する血清疫学調査(本号7ページ参照)、3)流行ウイルス株の抗原・遺伝子解析、を行うサーベイランスの強化が必要である。

北海道、大阪府、高知県、沖縄県のように自治体をあげて麻疹対策に乗り出している地域もあり(本号7~13ページ参照)、日本小児科学会、日本小児保健協会、日本小児科医会も麻疹の予防接種率向上と麻疹排除に関する要望書を厚生労働省、文部科学省に提出した(本号13ページ参照)。2001年8月フィリピン・マニラでWHO西太平洋事務局により開催されたTechnical Advisory Groupミーティングでも麻疹対策が議題に取り上げられ、今後はアジア地域全体での麻疹対策への取り組みが行われようとしている。

病原微生物検出情報

月報

Infectious Agents Surveillance Report (IASR)

http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html

今秋のインフルエンザ抗体保有状況速報3, インフルエンザ発熱時に使用する解熱剤4, 予防接種法の一部を改正する法律5, ML インフルエンザ前線データベース7, 保育所でのNLV集団胃腸炎: 大阪市9, 髄膜炎患者からのエコー13の分離: 福島県9, パラインフルエンザ1型とエンテロウイルスの小流行: 仙台&山形市10, インフルエンザ検出キットと分離結果の不一致例: 名古屋市11, 麻疹ウイルス母児感染12, 自治会給水施設水によるEHEC O26感染例: 島根県13, 生物テロ関連炭疽暫定ガイドライン: CDC13, 生物テロ関連炭疽更新情報: CDC14, OPV 由菜ポリオウイルスによるAFP症例: フィリピン15, 輸入野生ポリオウイルスによる症例への対応: ブルガリア15, 薬剤耐性菌情報15, 日本のAIDS患者・HIV感染者の状況16

Vol.22 No.12 (No.262)

2001年12月発行

国立感染症研究所
厚生労働省健康局
結核感染症課

事務局 感染研感染症情報センター

〒162-8640 新宿区戸山1-23-1

Tel 03(5285)1111 Fax 03(5285)1177

E-mail iasr-c@nih.go.jp

(禁、無断転載)

本誌に掲載された統計資料は、1)「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく感染症発生動向調査によって報告された、患者発生および病原体検出に関するデータ、2) 感染症に関する前記以外のデータに由来する。データは次の諸機関の協力により提供された: 保健所, 地方衛生研究所, 厚生労働省食品保健部, 検疫所, 感染症腸炎研究会。

<特集> インフルエンザ 2000/01シーズン

1999年4月の感染症法施行に伴い、感染症発生動向調査小児科定点が約2,500から約3,000に増加し、成人患者の動向を把握するため内科約2,000定点が加わり、計約5,000定点がインフルエンザ定点となった。

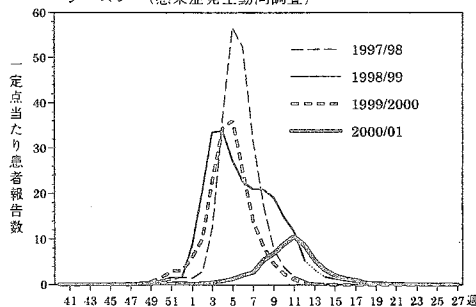
患者発生状況: 2000/01シーズンは、例年より5, 6週遅い2001年第5週に流行の指標である定点当たり1人を超え、第11週に小さなピークに達した(図1)。その後患者は緩やかに減少し、第18週には定点当たり1人以下となった。都道府県別にみると(図2)、高知と和歌山では他の県より流行が早く、第8週が流行のピーク(定点当たり31.0人と16.2人)となり、東北を中心に他の地域の多くは第11週がピークであった。患者の年齢は(表1)、20歳未満では4歳が最も多く、20歳以上の成人では1999/2000シーズン同様30代が

最も多かった(本月報 Vol. 21, No. 12参照)。

ウイルス分離状況: 次ページ図3に全国の地方衛生研究所(地研)で分離・検出されたインフルエンザウイルス週別報告数を示した。2000/01シーズンは3つの型の流行がほぼ同時に立ち上がり、ピークはA(H3N2)型が2001年第9週, A(H1N1)型が第10週, B型が第10~11週であった。報告数はB型がA(H1N1)型を上回ったが、この2つの型が共に多数分離されたのは1982年の病原体サーベイランス開始以来初めてである。B型は2シーズンぶりの流行, A(H1N1)型は2シーズン連続の流行で、さらに昨シーズンまで4シーズン連続で流行したA(H3N2)型も加わった混合流行であった(次ページ表2, 本月報 Vol. 21, No. 12参照)。都道府県別にみると、B型は45都道府県, A(H1N1)型は44都道府県とほぼ全国で分離され、A(H3N2)型も地域的な偏りはなく41都道府県で分離された。高知では患者発生がピークとなった第8週(図2)にはB型のみが分離されていた。インフルエンザウイルス検出例の年齢をみると(次ページ図4), B型は5~7歳, A(H1N1)型は4~5歳をピークに、成人からも高年齢まで幅広く検出された。一方、A(H3N2)型は1歳がピークで低年齢を中心に検出された。

ウイルス抗原解析: B型ウイルスは山形系統とVictoria系統に大別されるが、2000/01シーズン分離株

図1. インフルエンザ患者発生状況, 1997/98~2000/01シーズン (感染症発生動向調査)



1999年3月までは約2,500の小児科・内科定点からの報告。
1999年4月以降は約5,000のインフルエンザ定点(約3,000の小児科+約2,000の内科)からの報告。

図2. 都道府県別インフルエンザ患者発生状況, 2001年第8~12週 (感染症発生動向調査)

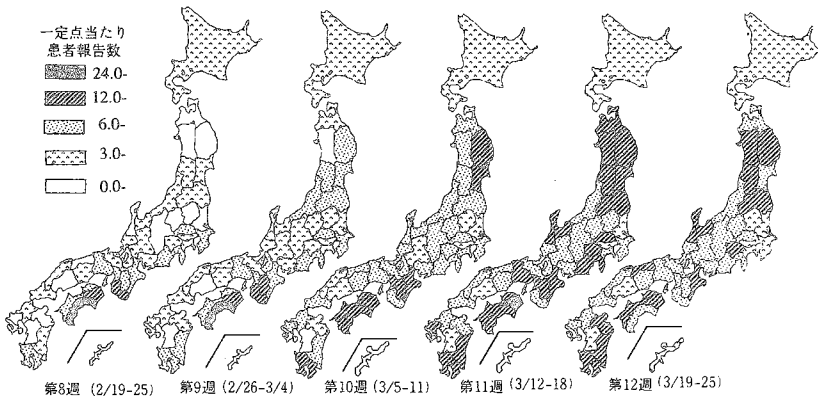


表1. インフルエンザ患者の年齢, 2000年第36週~2001年第35週 (感染症発生動向調査)

年齢	累積報告数	2000年人口*	人口10万当たり
~6ヶ月	1,374	1,171,652	570.5
~12ヶ月	5,310	1,166,160	1493.6
1歳	17,418	1,192,157	1805.6
2歳	20,957	1,189,303	1762.1
3歳	23,199	1,184,826	1958.0
4歳	22,285	1,204,133	1850.7
5歳	19,889	1,207,742	1646.8
6歳	16,741	1,188,966	1408.0
7歳	14,133	1,210,282	1167.7
8歳	12,048	1,210,666	995.2
9歳	38,939	6,548,812	594.8
10-14歳	15,201	7,488,165	203.0
15-19歳	24,143	16,211,769	132.6
20-29歳	26,698	16,891,475	158.1
30-39歳	12,211	16,716,227	73.0
40-49歳	7,742	19,176,162	40.4
50-59歳	4,829	14,841,772	32.5
60-69歳	2,653	10,051,176	26.4
70-79歳	1,085	4,848,037	22.4
80歳以上	305,996	126,925,843	241.1

*国勢調査

(特集つづき)

図3. 週別インフルエンザウイルス分離報告数の推移, 1997/98~2000/01シーズン (病原微生物検出情報: 2001年10月25日現在報告数)

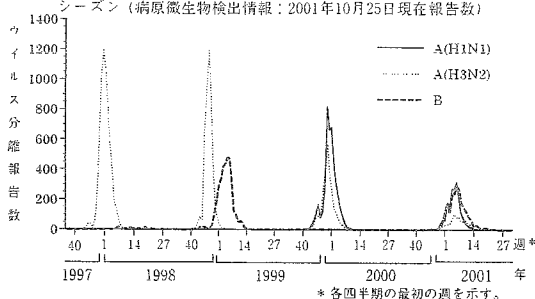
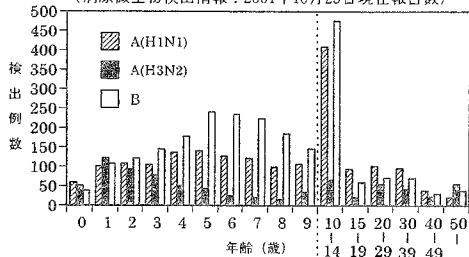


表2. インフルエンザウイルス分離報告数, 1997/98~2000/01シーズン

型	1997/98	1998/99	1999/2000	2000/01
A(H1N1)	16	17	4,462 (23)	1,862 (25)
A(H3N2)	6,111 (6)	5,153 (34)	2,711 (11)	803 (5)
B	146	4,242 (5)	10	2,280 (107)
C	2	-	6 (4)	-
合計	6,275 (6)	9,412 (39)	7,189 (38)	4,945 (137)

各シーズン9月~翌年8月の報告数。()内はPCRのみで検出された数を別掲 (病原微生物検出情報: 2001年10月25日現在報告数)

図4. インフルエンザウイルス検出例の年齢, 2000/01シーズン (病原微生物検出情報: 2001年10月25日現在報告数)

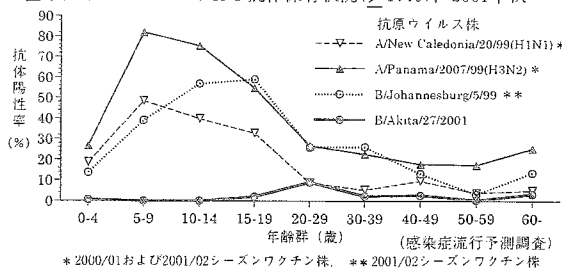


の大部分は山形系統に属しており, B/Sichuan(四川)/379/99およびB/Johannesburg/5/99(2001/02シーズンワクチン株)に抗原性が近い株が主流であった。2000/01シーズンワクチン株であるB/Yamanashi(山梨)/166/98に類似した株は13%程度であった。またVictoria系統に属するウイルスも少数みられた。A(H1N1)型分離株の80%はA/New Caledonia/20/99(2000/01および2001/02シーズンワクチン株)類似株であったが, HAの抗原性がこれより変異した株も少数分離されていた。A(H3N2)型分離株の92%はA/Panama/2007/99(2000/01および2001/02シーズンワクチン株)類似株であった(本月報 Vol. 22, No. 10参照)。

抗体保有状況: 2001/02シーズン前の2001年秋に, 2001/02シーズンのワクチン株3株を含む4株のインフルエンザウイルス抗原を用いて感染症流行予測調査による感受性調査が実施された。14道県分の集計による健康人の抗体保有率(HI抗体価40以上)は(図5), A/New Caledonia/20/99(H1N1)に対しては5~19歳で33~48%, 0~4歳で19%, 20歳以上はすべての年齢層で10%以下と極めて低い。A/Panama/2007/99(H3N2)は5~19歳で55~82%と高かったが, その他の年齢層では17~27%と低い。B/Johannesburg/5/99は5~19歳で39~59%であったが, 他の年齢層ではいずれも26%以下と低く, 0~4歳群と40歳以上で特に低い。Victoria系統のB/Akita(秋田)/27/2001に対する抗体保有率は, 全年齢層で極めて低い(本号3ページ参照)。

超過死亡: 比較的大きなインフルエンザ流行シーズ

図5. インフルエンザH1抗体保有状況(≥1:40), 2001年秋



ンには超過死亡が認められ, 高齢化社会を迎えたわが国ではその増加が問題となっている(本月報 Vol. 21, No. 12参照)。2000/01シーズンは流行規模が小さかったため, 有意な超過死亡は認められなかった。

脳症: インフルエンザ流行シーズンには小児の急性脳症の発生が多くみられることが最近明らかとなってきた。厚生労働省研究班(研究班長・森島恒雄・名古屋大学教授)による全国規模での調査では, 1999年1月1日~3月31日に報告された238例中217例, 2000年同期142例中109例, 2001年同期61例中55例を該当例としている。その発症機序はまだ明らかではないが, 解熱剤(ジクロフェナクナトリウム, メフェナム酸)の使用が脳症の重症化に関与している可能性が示唆され, 2001年5月30日, 厚生労働省は「インフルエンザによる発熱に対して使用する解熱剤について」の通知を出した(本号4ページ参照)。

2000/01シーズン中に, 地研における急性脳症患者からのインフルエンザウイルス分離・検出報告は32例(1999/2000シーズンの半数)であった。このうち, 咽頭からの分離26例(+2例PCRのみで検出), 髄液からの分離1例(+同2例)で, B型は17例, A(H3N2)型8例, A(H1N1)型7例であった。

予防接種法の改正: 平成13年11月7日予防接種法の一部改正が行われ, インフルエンザは2類疾病と規定された。1) 65歳以上の高齢者, 2) 60歳以上65歳未満の慢性高度心・肺・腎機能不全または後天性免疫不全症候群の患者がインフルエンザの予防接種を希望した場合定期接種の対象として一部公費負担となる(接種期間・接種対象者・自己負担額等は各市区町村が定める)。また, 定期接種による健康被害が生じた際には, 公費による救済が行われる(本号5ページ参照)。

平成13年11月12日, 厚生労働省は「今冬のインフルエンザ総合対策について」の通知を出し(<http://www.mhlw.go.jp/houdou/0111/h1112-1.html>), インフルエンザに関する特定感染症予防指針も改定される。

2001/02シーズンウイルス分離速報: 2001年12月6日現在, B型が9月26日に名古屋市で1株, A(H3N2)型が10月5日に仙台市で1株(本月報 Vol. 22, No. 11参照), 10月19~23日に沖縄県で4株分離されている。

最新のインフルエンザ情報は, 感染症情報センターホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/others/topics/newpage2.html>)上で随時更新されている。

第4章 病原体情報集計・病原細菌検出成績

I. 平成11(1999)年

協力機関一覧 1999年

協力地方衛生研究所

コードNo.	地方衛生研究所名	コードNo.	地方衛生研究所名
011	北海道立衛生研究所	361	徳島県保健環境センター
012	札幌市衛生研究所	371	香川県環境保健研究センター
013	函館市衛生試験所	381	愛媛県立衛生環境研究所
021	青森県環境保健センター	391	高知県衛生研究所
031	岩手県環境保健研究センター	401	福岡県保健環境研究所
041	宮城県保健環境センター	402	福岡市保健環境研究所
042	仙台市衛生研究所	403	北九州市環境科学研究所
051	秋田県衛生科学研究所	411	佐賀県衛生薬業センター
061	山形県衛生研究所	421	長崎県衛生公害研究所
071	福島県衛生研究所	422	長崎市保健環境試験所
081	茨城県衛生研究所	431	熊本県保健環境科学研究所
091	栃木県保健環境センター	432	熊本市環境総合研究所
101	群馬県衛生環境研究所	441	大分県衛生環境研究センター
111	埼玉県衛生研究所	451	宮崎県衛生環境研究所
121	千葉県衛生研究所	461	鹿児島県環境保健センター
122	千葉市環境保健研究所	471	沖縄県衛生環境研究所
131	東京都健康安全研究センター		
141	神奈川県衛生研究所		協力検疫所
142	横浜市衛生研究所		小樽検疫所千歳空港支所
143	川崎市衛生研究所		仙台検疫所
144	横須賀市衛生試験所		成田空港検疫所
151	新潟県保健環境科学研究所		東京検疫所東京空港支所
152	新潟市衛生試験所		名古屋検疫所名古屋空港支所
161	富山県衛生研究所		関西空港検疫所
171	石川県保健環境センター		広島検疫所広島空港支所
181	福井県衛生環境研究センター		福岡検疫所
191	山梨県衛生公害研究所		福岡検疫所福岡空港支所
201	長野県衛生公害研究所		那覇検疫所那覇空港支所
211	岐阜県保健環境研究所		
212	岐阜市衛生試験所		協力病院
221	静岡県環境衛生科学研究所		国立京都病院
222	静岡市衛生試験所		国立仙台病院
223	浜松市保健環境研究所		
231	愛知県衛生研究所		協力都市立伝染病院
232	名古屋市衛生研究所		市立札幌病院南ヶ丘分院
241	三重県科学技術振興センター保健環境研究部		仙台市立病院
251	滋賀県立衛生環境センター		千葉市立病院
261	京都府保健環境研究所		東京都立豊島病院
262	京都市衛生公害研究所		東京都立駒込病院
271	大阪府立公衆衛生研究所		東京都立墨東病院
272	大阪府立環境科学研究所		東京都立荏原病院
273	堺市衛生研究所		川崎市立川崎病院
281	兵庫県立健康環境科学研究所		横浜市立市民病院
282	神戸市環境保健研究所		名古屋市立東市民病院
283	姫路市環境衛生研究所		京都市立病院
284	尼崎市立衛生研究所		大阪市立総合医療センター。感染症センター
291	奈良県保健環境研究センター		神戸市立中央市民病院
301	和歌山県環境衛生研究センター		広島市立舟入病院
302	和歌山市衛生研究所		北九州市立医療センター
311	鳥取県衛生環境研究所		福岡市立こども病院感染症センター
321	島根県保健環境科学研究所		
331	岡山県環境保健センター		
341	広島県保健環境センター		
342	広島市衛生研究所		
351	山口県環境保健研究センター		

1. 病原細菌検出状況総括、由来ヒト、1999年

1. The number of bacteria isolated from human sources, Japan, 1999

1-1. 地研・保健所、検疫所、都市立伝染病院

1-1. Prefectural and municipal public health institutes and health centers,
quarantine stations and infectious diseases hospitals

() : Imported cases included in the total

	PREFECTURAL AND MUNICIPAL PUBLIC HEALTH INSTITUTE*	QUARANTINE STATION	INFECTIOUS DISEASES HOSPITAL
TOTAL	16226 (429)	2221 (2221)	512 (205)
<i>Escherichia coli</i>	3173 (135)	7 (7)	58 (19)
<i>Shigella</i>			
<i>Shigella dysenteriae</i>	2 (2)	7 (7)	5 (4)
<i>Shigella flexneri</i>	108 (24)	44 (44)	50 (11)
<i>Shigella boydii</i>	8 (5)	3 (3)	-
<i>Shigella sonnei</i>	262 (83)	182 (182)	80 (63)
<i>Shigella</i> species unknown	-	-	6 (5)
<i>Salmonella</i>			
<i>Salmonella</i> Typhi	42 (20)	1 (1)	38 (36)
<i>Salmonella</i> Paratyphi A	12 (7)	-	12 (10)
<i>Salmonella</i> O4(B)	550 (13)	18 (18)	16
<i>Salmonella</i> O7(C1,C4)	2108 (3)	14 (14)	20
<i>Salmonella</i> O8(C2,C3)	290 (6)	16 (16)	8 (6)
<i>Salmonella</i> O9(D1)	2942 (9)	27 (27)	86 (6)
<i>Salmonella</i> O9,46(D2)	5	-	-
<i>Salmonella</i> O3,10(E1,E2,E3)	71 (2)	17 (17)	1 (1)
<i>Salmonella</i> O1,3,19(E4)	18 (2)	1 (1)	-
<i>Salmonella</i> O13(G1,G2)	10	1 (1)	-
<i>Salmonella</i> O18(K)	15	2 (2)	-
<i>Salmonella</i> other groups	44 (2)	3 (3)	-
<i>Salmonella</i> group unknown	13	-	1
<i>Yersinia enterocolitica</i>	4	-	-
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Ogawa,CT(+)	21 (19)	10 (10)	7 (7)
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Ogawa,CT(-)	3 (3)	2 (2)	-
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Inaba,CT(+)	1	-	-
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Inaba,CT(-)	1 (1)	-	-
<i>Vibrio cholerae</i> O1 not typed	-	-	1 (1)
<i>Vibrio cholerae</i> O139,CT(-)	1	-	-
<i>Vibrio cholerae</i> non-O1	-	-	1 (1)
<i>Vibrio cholerae</i> non-O1&O139	7 (2)	103 (103)	-
<i>Vibrio parahaemolyticus</i>	1960 (10)	395 (395)	25 (3)
<i>Vibrio fluvialis</i>	11	14 (14)	-
<i>Vibrio mimicus</i>	-	4 (4)	-
<i>Aeromonas hydrophila</i>	9 (2)	46 (46)	3
<i>Aeromonas sobria</i>	7 (2)	100 (100)	2 (2)
<i>Aeromonas hydrophila/sobria</i>	8 (7)	-	-
<i>Plesiomonas shigelloides</i>	59 (25)	1203 (1203)	12 (11)
<i>Campylobacter jejuni</i>	837 (38)	-	35 (10)
<i>Campylobacter coli</i>	39 (1)	-	2 (1)
<i>Campylobacter jejuni/coli</i>	44 (5)	-	-
<i>Staphylococcus aureus</i>	366 (1)	-	2
<i>Clostridium perfringens</i>	364	-	2 (2)
<i>Clostridium botulinum</i> non-E	1	-	-
<i>Bacillus cereus</i>	37	-	-
<i>Entamoeba histolytica</i>	8	-	17
<i>Neisseria gonorrhoeae</i>	82	-	-
<i>Streptococcus</i> group A	2294	-	-
<i>Streptococcus</i> group B	98	-	-
<i>Streptococcus</i> group C	33	-	-
<i>Streptococcus</i> group G	73	-	-
<i>Streptococcus</i> unknown	1	-	-
<i>Streptococcus pneumoniae</i>	34	-	-
<i>Bordetella pertussis</i>	1	-	-
<i>Legionella pneumophila</i>	12	-	-
<i>Haemophilus influenzae</i>	51	-	-
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	1	-	-
<i>Leptospira</i> spp.	11	-	-
Others	74	1 (1)	22 (6)

*Including health centers

1-1. Continued

E. coli categorized by pathogenicity

(): Imported cases included in the total

	PREFECTURAL AND MUNICIPAL PUBLIC HEALTH INSTITUTE*	QUARANTINE STATION	INFECTIOUS DISEASES HOSPITAL
Enteroinvasive <i>Escherichia coli</i> (EIEC)	15 (2)	-	3 (2)
Enterotoxigenic <i>Escherichia coli</i> (ETEC)	492 (117)	-	10 (7)
Enteropathogenic <i>Escherichia coli</i> serotype (EPEC)	686 (15)	7 (7)	22 (7)
Verotoxin-producing <i>Escherichia coli</i> (EHEC/VTEC)	1835 (1)	-	23 (3)
<i>Escherichia coli</i> other/unknown	145	-	-

Shigella serovars

	PREFECTURAL AND MUNICIPAL PUBLIC HEALTH INSTITUTE*	QUARANTINE STATION	INFECTIOUS DISEASES HOSPITAL
<i>Shigella dysenteriae</i> 2	2 (2)	2 (2)	2 (2)
<i>Shigella dysenteriae</i> 3	-	2 (2)	3 (2)
<i>Shigella dysenteriae</i> 4	-	1 (1)	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 9	-	1 (1)	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 12	-	1 (1)	-
<i>Shigella flexneri</i> 1a	1	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 1b	1	3 (3)	1 (1)
<i>Shigella flexneri</i> 2a	88 (17)	18 (18)	41 (3)
<i>Shigella flexneri</i> 2b	1 (1)	3 (3)	-
<i>Shigella flexneri</i> 3a	5 (1)	5 (5)	1 (1)
<i>Shigella flexneri</i> 4a	-	1 (1)	1 (1)
<i>Shigella flexneri</i> 4	-	4 (4)	1 (1)
<i>Shigella flexneri</i> 5a	5	-	1
<i>Shigella flexneri</i> 6	2 (2)	10 (10)	3 (3)
<i>Shigella flexneri</i> other serovars	1	-	-
<i>Shigella flexneri</i> serovar unknown	4 (3)	-	1 (1)
<i>Shigella boydii</i> 1	-	1 (1)	-
<i>Shigella boydii</i> 2	2 (2)	-	-
<i>Shigella boydii</i> 4	3 (2)	1 (1)	-
<i>Shigella boydii</i> 9	1 (1)	-	-
<i>Shigella boydii</i> 10	-	1 (1)	-
<i>Shigella boydii</i> serovar unknown	2	-	-
<i>Shigella sonnei</i>	262 (83)	182 (182)	80 (63)
<i>Shigella</i> species unknown	-	-	6 (5)

*Including health centers

1-2. 医療機関

1-2. General clinical institutions

(): Imported cases included in the total

	SPECIMEN							
	STOOL	FLUID ¹⁾	CSF ²⁾	BLOOD	NASOPH. ³⁾	L.RESPI. ⁴⁾	URINE	GENIT. ⁵⁾
TOTAL	31766 (26)	6309	272	7019	39460	125918 (2)	128569	31786
<i>Escherichia coli</i>	11141 (1)	1078	21	1136	.	.	38154	.
<i>Shigella</i>								
<i>Shigella dysenteriae</i>	2
<i>Shigella flexneri</i>	17 (4)
<i>Shigella boydii</i>	-
<i>Shigella sonnei</i>	21 (4)
<i>Shigella</i> species unknown	1
<i>Salmonella</i>								
<i>Salmonella</i> Typhi	3 (1)	.	.	2
<i>Salmonella</i> Paratyphi A	4 (1)	.	.	5
<i>Salmonella</i> spp.	.	.	.	110
<i>Salmonella</i> O4(B)	656
<i>Salmonella</i> O7(C1,C4)	1405
<i>Salmonella</i> O8(C2,C3)	176
<i>Salmonella</i> O9(D1)	2131 (1)
<i>Salmonella</i> O9,46(D2)	24
<i>Salmonella</i> O3,10(E1,E2,E3)	16
<i>Salmonella</i> O1,3,19(E4)	3
<i>Salmonella</i> O13(G1,G2)	3
<i>Salmonella</i> O18(K)	5
<i>Salmonella</i> other groups	78
<i>Salmonella</i> group unknown	72
<i>Yersinia enterocolitica</i>	142
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Ogawa,CT(+)	3 (2)
<i>Vibrio cholerae</i> non-O1&O139	13
<i>Vibrio parahaemolyticus</i>	2423 (2)
<i>Vibrio fluvialis</i>	25
<i>Vibrio mimicus</i>	3
<i>Aeromonas hydrophila</i>	199
<i>Aeromonas sobria</i>	74
<i>Aeromonas hydrophila/sobria</i>	217 (1)
<i>Plesiomonas shigelloides</i>	44
<i>Campylobacter jejuni</i>	2318 (3)
<i>Campylobacter coli</i>	43
<i>Campylobacter jejuni/coli</i>	3003 (1)
<i>Staphylococcus aureus</i>	7360 (5)	1920	110	2058	.	50181 (2)	10233	.
<i>Staphylococcus</i> , coagulase(-)	.	1057	.	2655	.	.	15288	.
<i>Clostridium perfringens</i>	120
<i>Bacillus cereus</i>	21
<i>Streptococcus</i> group A	9401	571	.	.
<i>Streptococcus</i> group B	.	.	10	64	.	5213	.	10952
<i>Streptococcus pneumoniae</i>	.	82	76	171	12656	8292	.	.
<i>Neisseria meningitidis</i>	.	6	1	1	30	.	.	.
<i>Neisseria gonorrhoeae</i>	2981
<i>Corynebacterium diphtheriae</i>	5	.	.	.
<i>Listeria monocytogenes</i>	.	.	4	4
<i>Mycobacterium</i> spp.	.	26
<i>Mycobacterium tuberculosis</i>	5608	.	.
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	.	548	.	.	.	13553	8526	.
<i>Enterobacter</i> spp.	3995	.
<i>Enterococcus</i> spp.	28200	.
<i>Acinetobacter</i> spp.	1561	.
<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	.	813	.	482	.	32582	17325	.
<i>Legionella pneumophila</i>	4	.	.
<i>Haemophilus influenzae</i>	.	42	50	70	17330	9233	.	.
<i>Bordetella pertussis</i>	38	.	.	.
<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	.	2	.	.	.	52	.	.
<i>Ureaplasma</i>	31
Anaerobes	.	735	.	260	.	629	.	.
<i>Plasmodium</i> spp.	.	.	.	1
<i>Candida albicans</i>	5287	13218
<i>Trichomonas vaginalis</i>	405
<i>Chlamydia trachomatis</i>	4199

1) FLUID : Needle biopsy (thoracic fluid, ascites, synovial fluid, etc.)

2) C S F : Cerebrospinal fluid

3) NASOPH. : Nasopharyngeal source

4) L.RESPI. : Respiratory secretions (sputum, tracheal aspirates, specimen of the lower respiratory tract)

5) GENIT. : Genitourinary source

2. 病原細菌検出数の月別集計、由来ヒト、1999年
 2. Isolation of bacteria from human sources, by month, Japan, 1999

2-1. 地研・保健所
 2-1. Prefectural and municipal public health institutes and health centers

(): Imported cases included in the total

	TOTAL	1 JAN	2 FEB	3 MAR	4 APR	5 MAY	6 JUN
TOTAL	16226 (429)	548 (32)	730 (40)	988 (78)	1682 (27)	1112 (34)	1520 (24)
<i>Escherichia coli</i>	3173 (135)	87 (10)	78 (11)	172 (21)	212 (7)	170 (20)	254 (16)
<i>Shigella</i>							
<i>Shigella dysenteriae</i>	2 (2)	-	-	-	1 (1)	-	-
<i>Shigella flexneri</i>	108 (24)	8 (1)	19	13 (3)	10 (1)	1	2
<i>Shigella boydii</i>	8 (5)	-	1 (1)	1 (1)	2 (1)	1 (1)	-
<i>Shigella sonnei</i>	262 (83)	4	49	61 (11)	8 (3)	10 (6)	9
<i>Salmonella</i>							
<i>Salmonella</i> Typhi	42 (20)	5 (1)	2 (1)	5 (5)	11 (6)	1	7 (3)
<i>Salmonella</i> Paratyphi A	12 (7)	1 (1)	-	3 (2)	3 (3)	1 (1)	-
<i>Salmonella</i> O4(B)	550 (13)	22 (2)	21 (7)	40 (2)	116 (1)	35 (1)	29
<i>Salmonella</i> O7(C1,C4)	2108 (3)	20	58 (1)	233 (1)	882	219	255
<i>Salmonella</i> O8(C2,C3)	290 (6)	8	8	10 (4)	15	21	20
<i>Salmonella</i> O9(D1)	2942 (9)	57 (1)	48 (1)	55 (3)	43	114 (1)	447
<i>Salmonella</i> O9,46(D2)	5	-	-	-	-	-	-
<i>Salmonella</i> O3,10(E1,E2,E3)	71 (2)	1	3 (1)	6	6	5	7
<i>Salmonella</i> O1,3,19(E4)	18 (2)	-	1 (1)	3 (1)	2	2	3
<i>Salmonella</i> O13(G1,G2)	10	-	-	-	1	2	3
<i>Salmonella</i> O18(K)	15	1	-	-	2	1	1
<i>Salmonella</i> other groups	44 (2)	1	1	3	2	14	5 (1)
<i>Salmonella</i> group unknown	13	-	2	-	2	1	3
<i>Yersinia enterocolitica</i>	4	-	1	-	-	-	-
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Ogawa,CT(+)	21 (19)	4 (4)	2 (2)	3 (2)	-	-	1 (1)
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Ogawa,CT(-)	3 (3)	-	-	-	-	-	-
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Inaba,CT(+)	1	-	-	-	1	-	-
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Inaba,CT(-)	1 (1)	-	-	-	-	-	1 (1)
<i>Vibrio cholerae</i> O139,CT(-)	1	-	-	-	-	-	-
<i>Vibrio cholerae</i> non-O1&O139	7 (2)	-	1 (1)	-	-	-	-
<i>Vibrio parahaemolyticus</i>	1960 (10)	61 (4)	4 (3)	2 (1)	1	6	23
<i>Vibrio fluvialis</i>	11	-	-	-	-	-	-
<i>Aeromonas hydrophila</i>	9 (2)	-	1 (1)	2	-	1	-
<i>Aeromonas sobria</i>	7 (2)	1 (1)	-	2 (1)	-	-	-
<i>Aeromonas hydrophila/sobria</i>	8 (7)	1	-	3 (3)	-	-	-
<i>Plesiomonas shigelloides</i>	59 (25)	3 (2)	6 (6)	6 (6)	3 (1)	4 (2)	3 (1)
<i>Campylobacter jejuni</i>	837 (38)	27 (4)	36 (3)	46 (8)	64 (2)	142 (1)	115
<i>Campylobacter coli</i>	39 (1)	4	-	4	3 (1)	1	2
<i>Campylobacter jejuni/coli</i>	44 (5)	4	3	4 (3)	4	4 (1)	5 (1)
<i>Staphylococcus aureus</i>	366 (1)	16 (1)	12	46	27	36	22
<i>Clostridium perfringens</i>	364	2	112	11	56	54	9
<i>Clostridium botulinum</i> non-E	1	-	-	-	-	-	-
<i>Bacillus cereus</i>	37	-	-	-	-	9	8
<i>Entamoeba histolytica</i>	8	-	-	-	-	-	-
<i>Neisseria gonorrhoeae</i>	82	3	4	4	3	3	8
<i>Streptococcus</i> group A	2294	183	221	213	146	224	242
<i>Streptococcus</i> group B	98	11	10	17	16	7	9
<i>Streptococcus</i> group C	33	1	4	2	13	3	4
<i>Streptococcus</i> group G	73	8	8	5	7	4	7
<i>Streptococcus</i> group unknown	1	-	-	-	-	1	-
<i>Streptococcus pneumoniae</i>	34	4	12	9	-	-	-
<i>Bordetella pertussis</i>	1	-	-	-	-	-	-
<i>Legionella pneumophila</i>	12	-	-	1	-	-	-
<i>Haemophilus influenzae</i>	51	-	-	1	2	9	7
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	1	-	-	-	-	-	-
<i>Leptospira</i> spp.	11	-	-	-	-	-	-
Others	74	-	2	2	17	6	9

E. coli categorized by pathogenicity

Enteroinvasive <i>Escherichia coli</i>	15 (2)	-	1	1	-	-	2
Enterotoxigenic <i>Escherichia coli</i>	492 (117)	8 (7)	10 (9)	31 (21)	109 (6)	38 (17)	14 (14)
Enteropathogenic <i>Escherichia coli</i> serotype	686 (15)	36 (3)	32 (2)	68	72 (1)	38 (3)	28 (1)
Verotoxin-producing <i>Escherichia coli</i>	1835 (1)	36	35	21	30	92	206 (1)
<i>Escherichia coli</i> other/unknown	145	7	-	51	1	2	4

Shigella serovars

<i>Shigella dysenteriae</i> 2	2 (2)	-	-	-	1 (1)	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 1a	1	1	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 1b	1	-	-	-	1	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 2a	88 (17)	6	18	13 (3)	7	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 2b	1 (1)	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 3a	5 (1)	-	1	-	1	1	1
<i>Shigella flexneri</i> 5a	5	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 6	2 (2)	-	-	-	1 (1)	-	-
<i>Shigella flexneri</i> other serovars	1	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> serovar unknown	4 (3)	1 (1)	-	-	-	-	1
<i>Shigella boydii</i> 2	2 (2)	-	-	1 (1)	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 4	3 (2)	-	1 (1)	-	1	1 (1)	-
<i>Shigella boydii</i> 9	1 (1)	-	-	-	1 (1)	-	-
<i>Shigella boydii</i> serovar unknown	2	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella sonnei</i>	262 (83)	4	49	61 (11)	8 (3)	10 (6)	9

2-1. Continued

(): Imported cases included in the total

	7 JUL	8 AUG	9 SEP	10 OCT	11 NOV	12 DEC
TOTAL	1524 (26)	2829 (34)	1735 (38)	1556 (37)	1224 (42)	778 (17)
<i>Escherichia coli</i>	511 (9)	549 (11)	406 (12)	327 (8)	270 (1)	137 (9)
<i>Shigella</i>	-	-	1 (1)	-	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i>	-	-	1 (1)	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i>	9 (7)	8 (6)	6 (2)	7 (3)	24 (1)	1
<i>Shigella boydii</i>	-	1	-	-	2 (1)	-
<i>Shigella sonnei</i>	9 (1)	14 (9)	28 (11)	16 (3)	43 (33)	11 (6)
<i>Salmonella</i>	2 (1)	-	4 (2)	5 (1)	-	-
<i>Salmonella</i> Typhi	2	-	-	-	1	1
<i>Salmonella</i> Paratyphi A	59	78	76	45	21	8
<i>Salmonella</i> O4(B)	116	100 (1)	71	95	41	18
<i>Salmonella</i> O7(C1,C4)	38 (2)	53	37	53	19	7
<i>Salmonella</i> O8(C2,C3)	320 (1)	432 (1)	410	643 (1)	312	61
<i>Salmonella</i> O9(D1)	-	-	5	-	-	-
<i>Salmonella</i> O9,46(D2)	13	13	5	5	4	3 (1)
<i>Salmonella</i> O3,10(E1,E2,E3)	1	1	3	1	1	-
<i>Salmonella</i> O1,3,19(E4)	1	1	1	1	-	-
<i>Salmonella</i> O13(G1,G2)	2	2	3	-	3	-
<i>Salmonella</i> O18(K)	2	2	4 (1)	3	2	5
<i>Salmonella</i> other groups	1	2	1	1	-	-
<i>Salmonella</i> group unknown	-	1	2	-	-	-
<i>Yersinia enterocolitica</i>	3 (3)	2 (2)	1	1 (1)	4 (4)	-
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Ogawa,CT(+)	-	-	3 (3)	-	-	-
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Ogawa,CT(-)	-	-	-	-	-	-
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,inaba,CT(+)	-	-	-	-	-	-
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,inaba,CT(-)	-	-	-	-	-	-
<i>Vibrio cholerae</i> O139,CT(-)	-	1	-	-	-	-
<i>Vibrio cholerae</i> non-O1&O139	-	3	3 (1)	-	-	-
<i>Vibrio parahaemolyticus</i>	100	1262	395 (1)	86	10 (1)	10
<i>Vibrio fluvialis</i>	-	7	2	2	-	-
<i>Aeromonas hydrophila</i>	-	3	1	-	-	1 (1)
<i>Aeromonas sobria</i>	1	-	2	1	-	-
<i>Aeromonas hydrophila/sobria</i>	-	-	3 (3)	1 (1)	-	-
<i>Plesiomonas shigelloides</i>	7 (1)	14 (4)	6 (1)	4	2 (1)	1
<i>Campylobacter jejuni</i>	75 (1)	67	65	75 (19)	63	62
<i>Campylobacter coli</i>	4	12	1	2	5	1
<i>Campylobacter jejuni/coli</i>	4	8	4	2	2	-
<i>Staphylococcus aureus</i>	18	41	56	24	48	20
<i>Clostridium perfringens</i>	11	27	14	19	17	32
<i>Clostridium botulinum</i> non-E	-	-	1	-	-	-
<i>Bacillus cereus</i>	2	9	1	6	2	-
<i>Entamoeba histolytica</i>	-	8	-	-	-	-
<i>Neisseria gonorrhoeae</i>	6	3	5	5	23	15
<i>Streptococcus</i> group A	184	85	85	103	258	350
<i>Streptococcus</i> group B	6	5	3	3	6	5
<i>Streptococcus</i> group C	2	3	-	-	-	1
<i>Streptococcus</i> group G	6	3	4	6	11	4
<i>Streptococcus</i> group unknown	-	-	-	-	-	-
<i>Streptococcus pneumoniae</i>	-	1	-	-	-	8
<i>Bordetella pertussis</i>	-	1	-	-	-	-
<i>Legionella pneumophila</i>	-	1	-	6	3	1
<i>Haemophilus influenzae</i>	6	1	2	3	12	8
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	-	-	-	1	-	-
<i>Leptospira</i> spp.	-	-	9	1	1	-
Others	3	5	6	3	14	7

E.coli categorized by pathogenicity

Enteroinvasive <i>Escherichia coli</i>	3	1 (1)	-	3 (1)	4	-
Enterotoxigenic <i>Escherichia coli</i>	68 (8)	41 (9)	67 (11)	28 (5)	69 (1)	9 (9)
Enteropathogenic <i>Escherichia coli</i> serotype	95 (1)	81 (1)	52 (1)	89 (2)	27	68
Verotoxin-producing <i>Escherichia coli</i>	328	415	281	177	156	58
<i>Escherichia coli</i> other/unknown	17	11	6	30	14	2

Shigella serovars

<i>Shigella dysenteriae</i> 2	-	-	1 (1)	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 1a	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 1b	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 2a	8 (6)	6 (5)	5 (1)	2 (2)	22	1
<i>Shigella flexneri</i> 2b	-	1 (1)	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 3a	-	-	-	-	1 (1)	-
<i>Shigella flexneri</i> 5a	-	-	-	4	1	-
<i>Shigella flexneri</i> 6	-	-	1 (1)	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> other serovars	-	1	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> serovar unknown	1 (1)	-	-	1 (1)	-	-
<i>Shigella boydii</i> 2	-	-	-	-	1 (1)	-
<i>Shigella boydii</i> 4	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 9	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> serovar unknown	-	1	-	-	1	-
<i>Shigella sonnei</i>	9 (1)	14 (9)	28 (11)	16 (3)	43 (33)	11 (6)

2-2. 検疫所

2-2. Quarantine stations

	TOTAL	Imported cases											
		1 JAN	2 FEB	3 MAR	4 APR	5 MAY	6 JUN	7 JUL	8 AUG	9 SEP	10 OCT	11 NOV	12 DEC
TOTAL	2221	214	212	454	143	202	96	132	253	193	142	114	66
<i>Escherichia coli</i>	7	-	-	3	1	1	-	1	-	1	-	-	-
<i>Shigella</i>													
<i>Shigella dysenteriae</i>	7	1	1	2	1	1	-	-	-	-	-	-	1
<i>Shigella flexneri</i>	44	3	1	5	4	1	2	3	10	6	4	2	3
<i>Shigella boydii</i>	3	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella sonnei</i>	182	4	11	34	18	17	4	13	27	20	11	10	13
<i>Salmonella</i>													
<i>Salmonella</i> Typhi	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Salmonella</i> O4(B)	18	3	2	3	2	1	2	-	2	1	1	-	1
<i>Salmonella</i> O7(C1,C4)	14	-	-	3	-	2	2	1	2	3	1	-	-
<i>Salmonella</i> O8(C2,C3)	16	-	2	5	-	1	-	1	2	2	1	2	-
<i>Salmonella</i> O9(D1)	27	5	3	3	2	3	1	-	5	2	3	-	-
<i>Salmonella</i> O3,10(E1,E2,E3)	17	-	2	4	1	-	-	3	4	1	1	1	-
<i>Salmonella</i> O1,3,19(E4)	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Salmonella</i> O13(G1,G2)	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Salmonella</i> O18(K)	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
<i>Salmonella</i> other groups	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Ogawa,CT(+)	10	2	1	1	-	1	-	1	-	2	2	-	-
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Ogawa,CT(-)	2	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Vibrio cholerae</i> non-O1&O139	103	10	5	12	6	6	3	11	11	10	12	14	3
<i>Vibrio parahaemolyticus</i>	395	35	47	42	17	47	27	22	53	33	30	26	16
<i>Vibrio fluvialis</i>	14	3	-	2	-	1	-	1	1	3	2	-	1
<i>Vibrio mimicus</i>	4	-	1	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-
<i>Aeromonas hydrophila</i>	46	2	6	13	2	4	3	2	5	6	1	2	-
<i>Aeromonas sobria</i>	100	10	18	21	6	7	4	7	9	8	3	5	2
<i>Plesiomonas shigelloides</i>	1203	133	110	298	83	106	48	65	121	93	69	51	26
Others	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

E.coli categorized by pathogenicity

Enteropathogenic <i>Escherichia coli</i> serotype	7	-	-	3	1	1	-	1	-	1	-	-	-
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

Shigella serovars

<i>Shigella dysenteriae</i> 2	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 3	2	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 4	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 9	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 12	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Shigella flexneri</i> 1b	3	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 2a	18	1	1	2	1	-	-	-	8	2	1	1	1
<i>Shigella flexneri</i> 2b	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1
<i>Shigella flexneri</i> 3a	5	1	-	-	1	-	-	-	-	1	1	-	1
<i>Shigella flexneri</i> 4a	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
<i>Shigella flexneri</i> 4	4	-	-	-	-	-	-	2	1	1	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 6	10	1	-	2	2	-	1	1	1	2	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 4	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 10	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella sonnei</i>	182	4	11	34	18	17	4	13	27	20	11	10	13

2-3. 都市立伝染病院
2-3. Infectious diseases hospitals

(): Imported cases included in the total

	TOTAL	1 JAN	2 FEB	3 MAR	4 APR	5 MAY	6 JUN
TOTAL	512 (205)	43 (21)	49 (11)	78 (47)	42 (24)	33 (15)	34 (9)
<i>Escherichia coli</i>	58 (19)	5 (1)	1	4	1	3	10 (2)
<i>Shigella</i>							
<i>Shigella dysenteriae</i>	5 (4)	-	-	2 (2)	2 (2)	-	-
<i>Shigella flexneri</i>	50 (11)	7 (1)	19	14 (3)	1	1 (1)	-
<i>Shigella sonnei</i>	80 (63)	8 (7)	10 (4)	22 (22)	11 (8)	3 (3)	3 (2)
<i>Shigella</i> species unknown	6 (5)	-	2 (2)	3 (2)	-	-	1 (1)
<i>Salmonella</i>							
<i>Salmonella</i> Typhi	38 (36)	4 (3)	2 (2)	7 (7)	2 (2)	6 (5)	2 (2)
<i>Salmonella</i> Paratyphi A	12 (10)	2 (1)	-	1 (1)	4 (4)	3 (3)	-
<i>Salmonella</i> O4(B)	16	-	-	4	1	3	1
<i>Salmonella</i> O7(C1,C4)	20	-	4	3	4	1	3
<i>Salmonella</i> O8(C2,C3)	8 (6)	-	-	2 (2)	-	-	1 (1)
<i>Salmonella</i> O9(D1)	86 (6)	-	2 (1)	1 (1)	2	5	9 (1)
<i>Salmonella</i> O3,10(E1,E2,E3)	1 (1)	-	-	-	1 (1)	-	-
<i>Salmonella</i> group unknown	1	-	-	-	-	-	-
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Ogawa,CT(+)	7 (7)	1 (1)	1 (1)	-	-	1 (1)	-
<i>Vibrio cholerae</i> O1 not typed	1 (1)	1 (1)	-	-	-	-	-
<i>Vibrio cholerae</i> non-O1	1 (1)	-	-	-	-	-	-
<i>Vibrio parahaemolyticus</i>	25 (3)	2 (2)	-	-	-	-	-
<i>Aeromonas hydrophila</i>	3	2	-	-	-	-	-
<i>Aeromonas sobria</i>	2 (2)	-	-	1 (1)	-	-	-
<i>Plesiomonas shigelloides</i>	12 (11)	3 (2)	-	1 (1)	2 (2)	1 (1)	-
<i>Campylobacter jejuni</i>	35 (10)	1 (1)	1	6 (3)	8 (3)	3	4
<i>Campylobacter coli</i>	2 (1)	-	-	-	-	-	-
<i>Staphylococcus aureus</i>	2	-	-	-	-	1	-
<i>Clostridium perfringens</i>	2 (2)	-	-	1 (1)	1 (1)	-	-
<i>Entamoeba histolytica</i>	17	6	3	3	1	-	-
Others	22 (6)	1 (1)	4 (1)	3 (1)	1 (1)	2 (1)	-

E. coli categorized by pathogenicity

Enteroinvasive <i>Escherichia coli</i>	3 (2)	-	1	-	-	-	-
Enterotoxigenic <i>Escherichia coli</i>	10 (7)	-	-	-	-	-	2 (1)
Enteropathogenic <i>Escherichia coli</i> serotype	22 (7)	5 (1)	-	2	-	1	5 (1)
Verotoxin-producing <i>Escherichia coli</i>	23 (3)	-	-	2	1	2	3

Shigella serovars

<i>Shigella dysenteriae</i> 2	2 (2)	-	-	1 (1)	1 (1)	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 3	3 (2)	-	-	1 (1)	1 (1)	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 1b	1 (1)	-	-	-	-	1 (1)	-
<i>Shigella flexneri</i> 2a	41 (3)	7 (1)	19	12 (1)	1	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 3a	1 (1)	-	-	1 (1)	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 4a	1 (1)	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 4	1 (1)	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 5a	1	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 6	3 (3)	-	-	1 (1)	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> serovar unknown	1 (1)	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella sonnei</i>	80 (63)	8 (7)	10 (4)	22 (22)	11 (8)	3 (3)	3 (2)
<i>Shigella</i> species unknown	6 (5)	-	2 (2)	3 (2)	-	-	1 (1)

In addition, rotaviruses, SRSV and adenoviruses were detected in 75, 1 and 3 cases, respectively.

2-3. Continued

	() : Imported cases included in the total					
	7	8	9	10	11	12
	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC
TOTAL	49 (20)	53 (13)	49 (13)	37 (15)	24 (8)	21 (9)
<i>Escherichia coli</i>	6 (3)	6 (2)	7 (3)	7 (4)	5 (4)	3
<i>Shigella</i>						
<i>Shigella dysenteriae</i>	1	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i>	3 (2)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	1	-
<i>Shigella sonnei</i>	4 (4)	2 (2)	5 (4)	8 (4)	1 (1)	3 (2)
<i>Shigella</i> species unknown	-	-	-	-	-	-
<i>Salmonella</i>						
<i>Salmonella</i> Typhi	5 (5)	3 (3)	2 (2)	3 (3)	-	2 (2)
<i>Salmonella</i> Paratyphi A	1 (1)	-	-	1	-	-
<i>Salmonella</i> O4(B)	1	1	4	1	-	-
<i>Salmonella</i> O7(C1,C4)	-	2	1	2	-	-
<i>Salmonella</i> O8(C2,C3)	2 (1)	-	1	-	1 (1)	1 (1)
<i>Salmonella</i> O9(D1)	12 (1)	15	16 (1)	6 (1)	12	6
<i>Salmonella</i> O3,10(E1,E2,E3)	-	-	-	-	-	-
<i>Salmonella</i> group unknown	-	-	-	1	-	-
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Ogawa,CT(+)	2 (2)	2 (2)	-	-	-	-
<i>Vibrio cholerae</i> O1 not typed	-	-	-	-	-	-
<i>Vibrio cholerae</i> non-O1	-	1 (1)	-	-	-	-
<i>Vibrio parahaemolyticus</i>	5 (1)	11	6	1	-	-
<i>Aeromonas hydrophila</i>	-	-	-	-	1	-
<i>Aeromonas sobria</i>	-	-	-	-	1 (1)	-
<i>Plesiomonas shigelloides</i>	-	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)
<i>Campylobacter jejuni</i>	4	1	4 (1)	1	-	2 (2)
<i>Campylobacter coli</i>	1	-	-	-	-	1 (1)
<i>Staphylococcus aureus</i>	-	-	-	1	-	-
<i>Clostridium perfringens</i>	-	-	-	-	-	-
<i>Entamoeba histolytica</i>	1	2	-	1	-	-
Others	1	4	1	2 (1)	1	2

E.coli categorized by pathogenicity

Enteroinvasive <i>Escherichia coli</i>	1 (1)	-	-	-	1 (1)	-
Enterotoxigenic <i>Escherichia coli</i>	2 (2)	2 (1)	1 (1)	2 (1)	1 (1)	-
Enteropathogenic <i>Escherichia coli</i> serotype	1	1 (1)	1 (1)	4 (3)	-	2
Verotoxin-producing <i>Escherichia coli</i>	2	3	5 (1)	1	3 (2)	1

Shigella serovars

<i>Shigella dysenteriae</i> 2	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 3	1	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 1b	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 2a	-	1 (1)	-	-	1	-
<i>Shigella flexneri</i> 3a	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 4a	-	-	1 (1)	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 4	1 (1)	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 5a	1	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 6	1 (1)	-	-	1 (1)	-	-
<i>Shigella flexneri</i> serovar unknown	-	1 (1)	-	-	-	-
<i>Shigella sonnei</i>	4 (4)	2 (2)	5 (4)	8 (4)	1 (1)	3 (2)
<i>Shigella</i> species unknown	-	-	-	-	-	-

2-4. 医療機関

2-4. General clinical institutions

2-4-1. 分離材料:糞便

2-4-1. Specimen : Stool

(): Imported cases included in the total

	TOTAL	1 JAN	2 FEB	3 MAR	4 APR	5 MAY	6 JUN
TOTAL	31766 (26)	1713 (5)	1826	2451 (1)	2529 (2)	2486	2549 (7)
<i>Escherichia coli</i>	11141 (1)	708	797	1027	858	856	1017
<i>Shigella</i>							
<i>Shigella dysenteriae</i>	2	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i>	17 (4)	-	1	4	2	-	1
<i>Shigella sonnei</i>	21 (4)	-	-	4 (1)	-	2	4 (1)
<i>Shigella</i> species unknown	1	-	-	-	-	-	-
<i>Salmonella</i>							
<i>Salmonella</i> Typhi	3 (1)	-	-	-	1	-	-
<i>Salmonella</i> Paratyphi A	4 (1)	1 (1)	-	2	-	-	1
<i>Salmonella</i> O4(B)	656	47	38	59	83	55	30
<i>Salmonella</i> O7(C1,C4)	1405	49	113	250	430	162	55
<i>Salmonella</i> O8(C2,C3)	176	5	1	7	5	9	12
<i>Salmonella</i> O9(D1)	2131 (1)	98	59	91	76 (1)	95	145
<i>Salmonella</i> O9,46(D2)	24	-	3	-	1	3	9
<i>Salmonella</i> O3,10(E1,E2,E3)	16	2	-	1	1	2	3
<i>Salmonella</i> O1,3,19(E4)	3	-	-	1	-	-	-
<i>Salmonella</i> O13(G1,G2)	3	-	-	-	-	-	1
<i>Salmonella</i> O18(K)	5	-	-	-	-	-	-
<i>Salmonella</i> other groups	78	6	6	6	16	6	3
<i>Salmonella</i> group unknown	72	4	2	10	7	3	3
<i>Yersinia enterocolitica</i>	142	5	3	4	7	17	11
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Ogawa,CT(+)	3 (2)	1 (1)	-	-	-	-	2 (1)
<i>Vibrio cholerae</i> non-O1&O139	13	-	-	-	-	-	-
<i>Vibrio parahaemolyticus</i>	2423 (2)	10	3	18	4 (1)	4	18
<i>Vibrio fluvialis</i>	25	-	-	-	-	-	-
<i>Vibrio mimicus</i>	3	-	-	-	-	-	-
<i>Aeromonas hydrophila</i>	199	9	4	5	4	9	17
<i>Aeromonas sobria</i>	74	2	3	3	1	4	7
<i>Aeromonas hydrophila/sobria</i>	217 (1)	7	2	20	7	11	12
<i>Plesiomonas shigelloides</i>	44	2	1	1	-	-	1
<i>Campylobacter jejuni</i>	2318 (3)	100 (2)	108	112	176	292	260
<i>Campylobacter coli</i>	43	2	4	6	5	7	4
<i>Campylobacter jejuni/coli</i>	3003 (1)	129 (1)	99	138	227	298	314
<i>Staphylococcus aureus</i>	7360 (5)	510	568	674	606	639	609 (5)
<i>Clostridium perfringens</i>	120	16	10	8	11	10	6
<i>Bacillus cereus</i>	21	-	1	-	1	2	4

E.coli categorized by pathogenicity

Enteroinvasive <i>Escherichia coli</i>	56	3	6	5	4	6	6
Enterotoxigenic <i>Escherichia coli</i>	368	23	15	33	22	29	29
Enteropathogenic <i>Escherichia coli</i> serotype	7199 (1)	316	526	629	575	527	669
Verotoxin-producing <i>Escherichia coli</i>	342	14	9	6	8	21	34
<i>Escherichia coli</i> other/unknown	3176	352	241	354	249	273	279

Shigella serovars

<i>Shigella dysenteriae</i> 2	1	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 3	1	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 2a	11 (2)	-	1	4	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 2b	1	-	-	-	1	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 3a	1	-	-	-	-	-	1
<i>Shigella flexneri</i> 4	1 (1)	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 6	2 (1)	-	-	-	1	-	-
<i>Shigella flexneri</i> serovar unknown	1	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella sonnei</i>	21 (4)	-	-	4 (1)	-	2	4 (1)
<i>Shigella</i> species unknown	1	-	-	-	-	-	-

2-4-1. Continued

	(): Imported cases included in the total					
	7	8	9	10	11	12
	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC
TOTAL	3185 (5)	4751 (1)	3496 (1)	2420 (3)	2345 (1)	2015
<i>Escherichia coli</i>	1064 (1)	1156	1044	828	881	905
<i>Shigella</i>						
<i>Shigella dysenteriae</i>	1	-	-	-	-	1
<i>Shigella flexneri</i>	1 (1)	1 (1)	-	5 (2)	-	2
<i>Shigella sonnei</i>	-	1	9 (1)	1 (1)	-	-
<i>Shigella</i> species unknown	-	-	-	1	-	-
<i>Salmonella</i>						
<i>Salmonella</i> Typhi	1 (1)	1	-	-	-	-
<i>Salmonella</i> Paratyphi A	-	-	-	-	-	-
<i>Salmonella</i> O4(B)	61	116	81	43	30	13
<i>Salmonella</i> O7(C1,C4)	66	94	63	57	39	27
<i>Salmonella</i> O8(C2,C3)	31	45	22	21	10	8
<i>Salmonella</i> O9(D1)	247	326	393	289	203	109
<i>Salmonella</i> O9,46(D2)	4	2	-	-	2	-
<i>Salmonella</i> O3,10(E1,E2,E3)	2	3	1	-	1	-
<i>Salmonella</i> O1,3,19(E4)	-	1	1	-	-	-
<i>Salmonella</i> O13(G1,G2)	-	1	-	-	-	1
<i>Salmonella</i> O18(K)	-	2	2	1	-	-
<i>Salmonella</i> other groups	7	4	7	8	8	1
<i>Salmonella</i> group unknown	14	10	12	6	1	-
<i>Yersinia enterocolitica</i>	13	35	21	11	9	6
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Ogawa,CT(+)	-	-	-	-	-	-
<i>Vibrio cholerae</i> non-O1&O139	-	6	3	3	-	1
<i>Vibrio parahaemolyticus</i>	236 (1)	1401	583	117	24	5
<i>Vibrio fluvialis</i>	4	14	7	-	-	-
<i>Vibrio mimicus</i>	-	1	2	-	-	-
<i>Aeromonas hydrophila</i>	28	54	39	19	9	2
<i>Aeromonas sobria</i>	12	15	12	11	2	2
<i>Aeromonas hydrophila/sobria</i>	46	57	25	17	7 (1)	6
<i>Plesiomonas shigelloides</i>	8	13	6	8	3	1
<i>Campylobacter jejuni</i>	277 (1)	289	193	175	196	140
<i>Campylobacter coli</i>	3	5	2	2	3	-
<i>Campylobacter jejuni/coli</i>	390	376	300	277	246	209
<i>Staphylococcus aureus</i>	660	701	653	512	662	566
<i>Clostridium perfringens</i>	7	20	8	8	7	9
<i>Bacillus cereus</i>	2	1	7	-	2	1

E.coli categorized by pathogenicity

Enteroinvasive <i>Escherichia coli</i>	2	9	5	5	4	1
Enterotoxigenic <i>Escherichia coli</i>	34	55	43	33	31	21
Enteropathogenic <i>Escherichia coli</i> serotype	742 (1)	774	674	537	606	624
Verotoxin-producing <i>Escherichia coli</i>	55	81	45	33	25	11
<i>Escherichia coli</i> other/unknown	231	237	277	220	215	248

Shigella serovars

<i>Shigella dysenteriae</i> 2	-	-	-	-	-	1
<i>Shigella dysenteriae</i> 3	1	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 2a	-	-	-	4 (2)	-	2
<i>Shigella flexneri</i> 2b	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 3a	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 4	-	1 (1)	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 6	1 (1)	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> serovar unknown	-	-	-	1	-	-
<i>Shigella sonnei</i>	-	1	9 (1)	1 (1)	-	-
<i>Shigella</i> species unknown	-	-	-	1	-	-

2-4-2. 分離材料: 穿刺液(胸水、腹水、関節液など)

2-4-2. Specimen : Needle biopsy (thoracic fluid, ascites, synovial fluid, etc.)

	TOTAL	1 JAN	2 FEB	3 MAR	4 APR	5 MAY	6 JUN	7 JUL	8 AUG	9 SEP	10 OCT	11 NOV	12 DEC
TOTAL	6309	524	414	510	482	468	517	585	690	593	557	479	490
<i>Escherichia coli</i>	1078	77	70	78	104	90	87	101	104	104	98	86	79
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	548	43	35	27	36	42	34	63	71	52	56	40	49
<i>Haemophilus influenzae</i>	42	4	4	5	2	7	2	3	4	-	4	2	5
<i>Neisseria meningitidis</i>	6	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-
<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	813	73	41	44	53	53	72	84	114	94	71	50	64
<i>Mycobacterium</i> spp.	26	2	2	3	1	4	3	2	2	-	2	2	3
<i>Staphylococcus aureus</i>	1920	156	118	181	135	139	164	163	218	204	157	147	138
<i>Staphylococcus</i> , coagulase(-)	1057	75	82	103	84	71	83	90	103	88	93	96	89
<i>Streptococcus pneumoniae</i>	82	7	2	11	4	5	2	22	6	3	4	5	11
Anaerobes	735	87	60	58	62	57	64	56	68	48	72	51	52
<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	2	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-

2-4-3. 分離材料: 髄液

2-4-3. Specimen : Cerebrospinal fluid

	TOTAL	1 JAN	2 FEB	3 MAR	4 APR	5 MAY	6 JUN	7 JUL	8 AUG	9 SEP	10 OCT	11 NOV	12 DEC
TOTAL	272	45	18	20	28	18	22	17	18	14	22	29	21
<i>Escherichia coli</i>	21	1	1	2	2	1	1	3	4	1	-	2	3
<i>Haemophilus influenzae</i>	50	6	3	3	3	4	5	2	5	2	3	12	2
<i>Neisseria meningitidis</i>	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Listeria monocytogenes</i>	4	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-
<i>Staphylococcus aureus</i>	110	26	7	5	12	6	8	6	4	5	12	7	12
<i>Streptococcus</i> B	10	3	-	2	2	-	-	-	1	-	1	-	1
<i>Streptococcus pneumoniae</i>	76	9	7	7	9	7	8	6	4	3	6	7	3

2-4-4. 分離材料: 血液

2-4-4. Specimen : Blood

	TOTAL	1 JAN	2 FEB	3 MAR	4 APR	5 MAY	6 JUN	7 JUL	8 AUG	9 SEP	10 OCT	11 NOV	12 DEC
TOTAL	7019	466	478	643	577	594	512	576	748	680	596	571	578
<i>Escherichia coli</i>	1136	69	67	105	95	99	70	103	116	103	97	106	106
<i>Salmonella</i> Typhi	2	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
<i>Salmonella</i> Paratyphi A	5	-	-	1	-	2	1	-	-	1	-	-	-
<i>Salmonella</i> spp.	110	4	9	17	44	6	4	4	8	3	7	4	-
<i>Haemophilus influenzae</i>	70	8	4	3	7	8	10	3	5	4	4	12	2
<i>Neisseria meningitidis</i>	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Listeria monocytogenes</i>	4	-	-	1	1	2	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	482	31	30	28	36	48	49	39	45	57	47	36	36
<i>Staphylococcus aureus</i>	2058	131	137	240	180	190	143	157	205	183	157	156	179
<i>Staphylococcus</i> , coagulase(-)	2655	167	194	198	169	189	202	233	336	294	241	218	214
<i>Streptococcus</i> B	64	7	-	10	4	3	5	3	9	2	7	6	8
<i>Streptococcus pneumoniae</i>	171	28	19	18	20	21	7	9	5	5	10	15	14
Anaerobes	260	20	18	21	21	26	21	24	19	27	26	18	19
<i>Plasmodium</i> spp.	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-

2-4-5. 分離材料: 咽頭および鼻咽から材料

2-4-5. Specimen : Nasopharyngeal source

	TOTAL	1 JAN	2 FEB	3 MAR	4 APR	5 MAY	6 JUN	7 JUL	8 AUG	9 SEP	10 OCT	11 NOV	12 DEC
TOTAL	39460	3093	2865	3578	3148	4013	4206	3365	2150	2165	2937	3604	4336
<i>Bordetella pertussis</i>	38	-	-	1	1	2	1	8	7	6	7	5	-
<i>Haemophilus influenzae</i>	17330	1465	1189	1483	1363	1707	1844	1573	1039	1033	1214	1453	1967
<i>Neisseria meningitidis</i>	30	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	17	10
<i>Streptococcus A</i>	9401	664	825	1120	734	916	1000	753	498	414	561	924	992
<i>Streptococcus pneumoniae</i>	12656	964	851	974	1050	1388	1361	1031	604	712	1149	1205	1367
<i>Corynebacterium diphtheriae</i>	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-

2-4-6. 分離材料: 喀痰、気管吸引液および下気道から材料

2-4-6. Specimen : Respiratory secretions (sputum, tracheal aspirates, specimen of the lower respiratory tract)

	TOTAL	1 JAN	2 FEB	3 MAR	4 APR	5 MAY	6 JUN	7 JUL	8 AUG	9 SEP	10 OCT	11 NOV	12 DEC
TOTAL	125918 (2)	10149	9573	11297	9061	10863	10541 (2)	10633	11198	11129	10808	10894	9772
<i>Mycobacterium tuberculosis</i>	5608	393	369	460	453	428	407	478	477	565	610	492	476
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	13553	1003	867	915	886	1041	1128	1206	1510	1441	1354	1248	954
<i>Haemophilus influenzae</i>	9233	851	708	872	783	922	911	906	722	634	611	667	646
<i>Legionella pneumophila</i>	4	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	1	1
<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	32582	2306	2218	2734	2201	2764	2676	2895	3103	3245	3008	2924	2508
<i>Staphylococcus aureus</i>	50181 (2)	4096	4177	4999	3703	4343	4134 (2)	3996	4273	4168	4010	4311	3971
<i>Streptococcus A</i>	571	52	43	79	36	51	34	52	47	41	39	48	49
<i>Streptococcus B</i>	5213	394	382	442	364	480	427	399	454	448	495	451	477
<i>Streptococcus pneumoniae</i>	8292	994	741	705	616	784	775	629	586	536	621	685	620
Anaerobes	629	60	64	89	19	49	43	69	23	45	47	67	54
<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	52	-	4	2	-	-	5	3	3	6	13	-	16

2-4-7. 分離材料: 尿

2-4-7. Specimen : Urine

	TOTAL	1 JAN	2 FEB	3 MAR	4 APR	5 MAY	6 JUN	7 JUL	8 AUG	9 SEP	10 OCT	11 NOV	12 DEC
TOTAL	128569	9089	9023	11323	9649	10712	11061	11750	12543	12389	10770	10899	9361
<i>Escherichia coli</i>	38154	2590	2573	3447	2856	3315	3305	3542	3785	3536	3128	3198	2879
<i>Enterobacter spp.</i>	3995	275	253	306	269	298	356	373	406	458	400	318	283
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	8526	553	494	620	533	633	656	765	930	1065	839	796	642
<i>Acinetobacter spp.</i>	1561	91	74	120	123	115	132	160	199	159	134	137	117
<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	17325	1178	1169	1486	1186	1444	1332	1550	1703	1855	1584	1603	1235
<i>Staphylococcus aureus</i>	10233	770	764	986	791	928	893	843	947	894	817	843	757
<i>Staphylococcus, coagulase(-)</i>	15288	1178	1205	1299	1123	1264	1442	1490	1448	1388	1195	1220	1036
<i>Enterococcus spp.</i>	28200	2057	2075	2596	2346	2325	2510	2549	2605	2508	2251	2334	2044
<i>Candida albicans</i>	5287	397	416	463	422	390	435	478	520	526	422	450	368

2-4-8. 分離材料: 陰部尿道頸管擦過(分泌物)

2-4-8. Specimen : Genitourinary source

	TOTAL	1 JAN	2 FEB	3 MAR	4 APR	5 MAY	6 JUN	7 JUL	8 AUG	9 SEP	10 OCT	11 NOV	12 DEC
TOTAL	31786	2257	2092	2504	2367	2732	2665	2911	2902	3035	2923	2769	2629
<i>Neisseria gonorrhoeae</i>	2981	147	134	178	161	223	259	279	332	350	329	303	286
<i>Streptococcus B</i>	10952	786	752	922	851	1034	876	1022	908	941	980	955	925
<i>Chlamydia trachomatis</i>	4199	260	249	314	301	349	374	368	377	442	408	392	365
<i>Ureaplasma</i>	31	5	-	1	-	8	1	1	-	-	12	2	1
<i>Candida albicans</i>	13218	1024	926	1033	1022	1088	1101	1215	1260	1268	1175	1098	1008
<i>Trichomonas vaginalis</i>	405	35	31	56	32	30	54	26	25	34	19	19	44

2-4-9. 検出された *Staphylococcus aureus* のメチシリン感受性の内訳
 2-4-9. *Staphylococcus aureus* categorized by sensitivity to methicillin

CATEGORY	SOURCE OF ISOLATION	TOTAL	NUMBER OF ISOLATES											
			JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC
MRSA	STOOL	4500	326	353	423	371	414	353	398	398	387	334	414	329
	FLUID	1045	88	65	118	61	67	91	79	114	113	85	83	81
	CSF	78	22	2	5	12	3	6	4	3	4	7	4	6
	BLOOD	1233	66	81	137	95	111	95	94	122	117	95	105	115
	L.RESP.	36154	2810	3043	3813	2645	3185	3040	2839	3048	3071	2853	3036	2771
	URINE	7145	505	522	720	551	673	636	570	641	615	567	590	555
MSSA	STOOL	2742	123	201	248	223	212	233	257	293	262	174	253	263
	FLUID	830	58	48	60	70	68	68	80	99	90	69	64	56
	CSF	27	3	2	-	-	3	2	2	1	1	3	4	6
	BLOOD	728	54	51	65	69	71	45	56	78	65	58	57	59
	L.RESP.	12759	1012	986	1096	926	1055	1009	1103	1129	1009	1095	1221	1118
	URINE	2761	212	193	214	217	234	229	252	279	266	230	246	189

FLUID : Needle biopsy (thoracic fluid, ascites, synovial fluid, etc.)

CSF : Cerebrospinal fluid

L.RESP.: Respiratory secretions (sputum, tracheal aspirates, specimen of the lower respiratory tract)

MRSA : methicillin resistant *Staphylococcus aureus*

MSSA : methicillin sensitive *Staphylococcus aureus*

3. サルモネラの菌型分布、1999年
 3. *Salmonella* serovars isolated in Japan, 1999

3-1. 由来別集計、地研・保健所

3-1. *Salmonella* serovars, by source, 1999

-Prefectural and municipal public health institutes and health centers

GROUP	SEROVAR	HUMAN	ANIMAL	FOOD	ENVIRONMENT
O2(A)	Paratyphi A	11 (7)	-	-	-
O4(B)	Typhimurium	168 (2)	1	3	16
	Chester	158	-	128	5
	Saintpaul	57	-	1	3
	Agona	56	-	8	8
	Paratyphi B	18 (7)	-	-	2
	Schwarzengrund	15	2	2	6
	Brandenburg	9	-	-	2
	Heidelberg	9	-	-	2
	Stanley	8 (1)	-	-	1
	Bredeney	6	-	-	1
	Derby	5	4	-	3
	Haifa	4	-	-	-
	II	3	-	-	-
	Eppendorf	2	-	-	-
	Kiambu	2	-	-	2
	Reading	2 (1)	-	-	1
	Sandiego	2	-	-	-
	Fyris	1	-	-	-
	Abony	-	-	-	1
	Kunduchi	-	-	-	1
	Tsevie	-	1	-	-
	Not typed	58 (2)	2	7	7
	Subtotal	583 (13)	10	149	61
O7(C1,C4)	Oranienburg	1375	-	331	40
	Infantis	355	103	113	27
	Thompson	182	1	8	22
	Montevideo	59	-	1	7
	Braenderup	38	-	1	1
	Tennessee	29	-	3	4
	Virchow	25	-	2	3
	Bareilly	19	-	1	1
	Mbandaka	19 (2)	-	-	10
	Potsdam	7	-	-	1
	Rissen	6 (4)	-	-	-
	Singapore	6	-	-	-
	Hartford	2	-	-	-
	Isangi	2	-	-	3
	Livingstone	2	-	-	-
	Othmarschen	2	-	-	14
	Brazzaville	1	-	-	-
	Daytona	1	-	-	-
	Haelsingborg	1	-	-	-
	Nessziona	1	-	-	-
	Nigeria	1	-	-	-
	Ohio	1	1	-	1
	Oyonnax	1	-	-	-
	Richmond	1 (1)	-	-	-
	Riggil	1	-	-	-
	Winston	1	-	-	-
	Larochelle	-	-	-	3
	Lomita	-	-	-	1
	Mikawasima	-	-	-	1
	Not typed	69 (1)	-	10	6
	Subtotal	2207 (8)	105	470	145

(): Imported cases included in the total

3-1. Continued-1

GROUP	SEROVAR	HUMAN	ANIMAL	FOOD	ENVIRONMENT
O8(C2,C3)	Corvallis	107 (1)	13	5	5
	Litchfield	55	-	1	4
	Hadar	38 (1)	-	9	8
	Newport	29 (2)	-	3	5
	Blockley	5	-	1	1
	Manhattan	4	-	-	1
	Albany	4	-	-	-
	Emek	4	-	-	-
	Muenchen	4 (1)	-	1	1
	Narashino	4	-	-	-
	Nagoya	3	-	-	-
	Pakistan	3	-	-	-
	Istanbul	2	-	1	-
	Tallahassee	2	-	-	-
	Altona	1	-	-	1
	Bardo	1	3	-	-
	Bovismorbificans	1	-	-	1
	Brunei	1	-	-	-
	Chailey	1	-	-	-
	Cremieu	1	-	-	-
	Haardt	1	-	-	-
	Kentucky	1 (1)	-	-	-
	Virginia	-	-	1	-
Not typed	9	-	-	1	
	Subtotal	281 (6)	16	22	28
O9(D1)	Enteritidis	2874 (8)	2	90	46
	Typhi	45 (23)	-	-	-
	Miyazaki	6	-	-	-
	Javiana	5	-	-	-
	Dublin	3	-	-	-
	Panama	2 (1)	-	-	-
	Onarimon	1	-	-	-
	Seremban	1	-	-	-
	Not typed	139	-	-	-
		Subtotal	3076 (32)	2	90
O3,10(E1,E2,E3)	Anatum	26 (1)	-	-	9
	Weltevreden	15	-	-	-
	Orion	9	-	-	4
	London	6 (1)	-	-	1
	Amager	3	-	-	-
	Lexington	3	-	-	-
	Give	2	-	-	1
	Amsterdam	1	-	-	-
	Madjorio	1	-	-	-
	Muenster	1	-	-	6
	Not typed	2	-	-	-
	Subtotal	69 (2)	-	-	21

(): Imported cases included in the total

3-1. Continued-2

GROUP	SEROVAR	HUMAN	ANIMAL	FOOD	ENVIRONMENT
O1,3,19(E4)	Senftenberg	12 (3)	-	-	3
	Dessau	3	1	-	1
	Liverpool	3	-	-	-
	Not typed	-	-	-	1
	Subtotal	18 (3)	1	-	5
O11(F)	Aberdeen	1	-	-	-
O13(G1,G2)	Havana	2	-	-	1
	Kedougou	1	-	1	-
	Grumpensis	1	-	-	-
	Poona	1	-	-	-
	Worthington	-	-	-	4
	Not typed	1	-	-	3
Subtotal	6	-	1	8	
O6,14(H)	Madelia	2	-	-	-
	Lindern	1	-	-	-
	Subtotal	3	-	-	-
O16(I)	Hvittingfoss	2	-	-	3
	Rovaniemi	1	-	-	-
	Gaminara	-	-	1	-
	Subtotal	3	-	1	3
O18(K)	Cerro	13	-	11	1
	Not typed	2	-	-	1
	Subtotal	15	-	11	2
O21(L)	Not typed	1	-	-	-
O28(M)	Pomona	2	-	-	-
O30(N)	Grandhaven	1	-	-	-
	Matopeni	1	-	-	-
	Urbana	1	-	-	-
	Subtotal	3	-	-	-
O35(O)	Adelaide	1	-	-	-
	Alachua	-	-	1	-
	Not typed	2 (1)	-	-	-
	Subtotal	3 (1)	-	1	-
O38(P)	Lansing	3	-	-	-
	Not typed	1	-	-	-
	Subtotal	4	-	-	-
O39(Q)	Champaign	7	-	-	-
	Not typed	1 (1)	-	-	-
	Subtotal	8 (1)	-	-	-
O40(R)	Johannesburg	12	-	-	-
Group unknown		9	5	1	7
TOTAL		6315 (73)	139	746	326

(): Imported cases included in the total

3-2. 材料別集計、由来ヒト、医療機関

3-2. *Salmonella* serovars from human sources, by specimen, 1999

-General clinical institutions

GROUP	SEROVAR	SPECIMEN	
		STOOL	BLOOD
O2(A)	Paratyphi A	4 (1)	4
O4(B)	Chester	56	1
	Typhimurium	33	2
	Saintpaul	16	-
	Agona	6	-
	Paratyphi B	6	-
	Stanley	5	-
	Brandenburg	4	-
	Agama	3	-
	Haifa	2	-
	Heidelberg	2	-
	Sandiego	2	-
	Schleissheim	2	-
	Schwarzengrund	2	-
	Banana	1	-
	Bredeney	1	-
	Derby	1	-
	Eko	1	-
	Essen	1	-
	Reading	1	-
	Not typed	471	-
	Subtotal	616	3
O7(C1,C4)	Oranienburg	279	8
	Infantis	25	-
	Braenderup	19	-
	Thompson	18	-
	Montevideo	9	-
	Bareilly	5	-
	Virchow	4	-
	Othmarschen	3	-
	Nigeria	2	-
	Singapore	2	-
	Daytona	1	-
	Larochelle	1	-
	Mbandaka	1	-
	Paratyphi C	1	-
	Tennessee	1	-
	Not typed	967	8
	Subtotal	1338	16
O8(C2,C3)	Corvallis	9	-
	Hadar	6	-
	Haardt	4	-
	Newport	4	-
	Kentucky	2	-
	Korbol	2	-
	Litchfield	2	-
	Pakistan	2	-
	Albany	1	-
	Amherstiana	1	-
	Loanda	1	-
	Muenchen	1	-
	Not typed	145	2
		Subtotal	180

(): Imported cases included in the total

3-2. Continued

GROUP	SEROVAR	SPECIMEN	
		STOOL	BLOOD
O9(D1)	Enteritidis	457 (1)	2
	Miyazaki	3	-
	Typhi	3 (1)	-
	Dublin	2	-
	Not typed	1534	-
	Subtotal	1999 (2)	2
O9,46(D2)	Not typed	20	-
O3,10(E1,E2,E3)	Anatum	5	-
	London	1	-
	Weltevreden	1	-
	Not typed	9	-
	Subtotal	16	-
O1,3,19(E4)	Not typed	3	-
O13(G1,G2)	Not typed	4	-
O16(I)	Hvittingfoss	1	-
O18(K)	Cerro	4	-
	Not typed	3	-
	Subtotal	7	-
O28(M)	Pomona	1	-
O35(O)	Adelaide	1	-
O39(Q)	Champaign	1	-
Group unknown		99	69
TOTAL		4290 (3)	96

(): Imported cases included in the total

4. チフス菌、パラチフスA菌のファージ型分布、由来ヒト、1999年

4. Phage types of *S. Typhi* and *S. Paratyphi A* isolated from human sources, Japan, 1999

4-1. チフス菌の月別ファージ型分布

4-1. *S. Typhi* phage types from human sources, by month, 1999

Phage typing: Laboratory of Enteric Infection II
Department of Bacteriology, NIID

MONTH OF DIAGNOSIS	PHAGE TYPE OF <i>S. Typhi</i>																TOTAL			
	A	B1	B2	C1	C2	D1	D2	E1	E2	E3	E11	E14	F6	M1	M4	27		DVS*	UVS1**	UVS3***
JAN	-	2 (2)	1	-	-	-	1	2 (1)	-	-	2 (2)	-	-	-	-	-	1	-	1 (1)	10 (6)
FEB	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 (1)	-	-	-	-	-	-	1	-	2 (1)
MAR	-	1 (1)	-	-	-	-	-	9 (9)	-	1 (1)	-	-	-	-	1 (1)	-	-	-	-	12 (12)
APR	-	-	-	1 (1)	-	1 (1)	1	4 (3)	-	-	-	-	1 (1)	2 (1)	-	-	-	3 (2)	-	13 (9)
MAY	-	1 (1)	-	-	-	-	-	2 (1)	1 (1)	-	-	-	-	-	-	-	2 (1)	2 (1)	-	8 (5)
JUN	-	-	-	1 (1)	-	-	2 (1)	3 (1)	-	-	-	-	-	-	-	1 (1)	-	3 (2)	-	10 (6)
JUL	-	-	-	-	1 (1)	-	1 (1)	3 (3)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4 (3)	-	9 (8)
AUG	-	-	-	-	1 (1)	-	1 (1)	1 (1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 (1)	-	4 (4)
SEP	-	-	-	-	-	-	-	5 (4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2 (1)	1 (1)	8 (6)
OCT	1 (1)	-	-	1 (1)	-	1 (1)	-	-	-	-	-	-	-	2 (1)	-	-	-	-	-	5 (4)
NOV	-	-	-	-	-	1 (1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3 (1)
DEC	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 (1)	-	1 (1)	-	-	2 (2)
TOTAL	1 (1)	4 (4)	1	3 (3)	2 (2)	3 (2)	7 (4)	29 (23)	1 (1)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	4 (2)	2 (2)	1 (1)	4 (2)	17 (10)	2 (2)	86 (64)

* DVS : Degraded Vi-positive strain

** UVS1 : Untypable Vi-positive strain, group-1

*** UVS3 : Untypable Vi-positive strain, group-3

() : Imported cases included in the total

4-2. パラチフスA菌の月別ファージ型分布

4-2. *S. Paratyphi A* phage types from human sources, by month, 1999

MONTH OF DIAGNOSIS	PHAGE TYPE OF <i>S. Paratyphi A</i>							TOTAL
	1	2	3	4	5	6	UT*	
JAN	1 (1)	-	-	-	-	-	1	2 (1)
FEB	-	-	-	-	-	-	-	-
MAR	2 (2)	-	-	3 (3)	-	1 (1)	1 (1)	7 (7)
APR	4 (4)	-	-	4 (4)	-	-	-	8 (8)
MAY	1 (1)	-	-	4 (3)	-	-	-	5 (4)
JUN	-	-	-	-	-	-	-	-
JUL	-	-	-	-	1 (1)	-	1 (1)	2 (2)
AUG	-	-	-	-	-	-	-	-
SEP	-	-	-	-	-	-	-	-
OCT	-	1 (1)	-	-	-	1 (1)	-	2 (2)
NOV	2 (1)	-	-	-	-	-	-	2 (1)
DEC	-	-	-	-	-	-	-	-
TOTAL	10 (9)	1 (1)	-	11 (10)	1 (1)	2 (2)	3 (2)	28 (25)

* UT: Untypable

() : Imported cases included in the total

4-3. チフス菌の都道府県別フェージ型分布

4-3. *S. Typhi* phage types from human sources, by place of residence of the source case, 1999

PREFECTURE	PHAGE TYPE OF <i>S. Typhi</i>																	TOTAL			
	A	B1	B2	C1	C2	D1	D2	E1	E2	E3	E11	E14	F6	M1	M4	27	DVS*		UVS1**	UVS3***	
HOKKAIDO	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
AOMORI	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
IWATE	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
MIYAGI	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
AKITA	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2
YAMAGATA	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
FUKUSHIMA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
IBARAKI	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
TOCHIGI	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
				(1)																	(1)
GUNMA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
SAITAMA	-	1	-	1	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	7
		(1)		(1)			(1)	(2)										(1)			(6)
CHIBA	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
				(1)				(4)													(5)
TOKYO	-	-	-	-	1	1	2	10	1	1	1	-	-	-	1	1	-	9	1	-	29
					(1)	(1)	(2)	(8)	(1)	(1)	(1)				(1)	(1)		(5)	(1)		(23)
KANAGAWA	-	1	-	1	-	1	-	3	-	-	-	1	-	1	-	-	1	1	1	1	11
		(1)		(1)		(1)		(3)				(1)		(1)			(1)		(1)	(1)	(10)
NIIGATA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
TOYAMA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ISHIKAWA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
FUKUI	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
YAMANASHI	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
NAGANO	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
GIFU	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
								(1)													(1)
SHIZUOKA	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2
							(1)					(1)									(2)
AICHI	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2
								(1)										(1)			(2)
MIE	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SHIGA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KYOTO	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
OSAKA	-	2	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	9
		(2)						(2)										(1)			(5)
HYOGO	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
NARA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
WAKAYAMA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
TOTTORI	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SHIMANE	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
OKAYAMA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
															(1)						(1)
HIROSHIMA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
											(1)										(1)
YAMAGUCHI	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
TOKUSHIMA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KAGAWA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
EHIME	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KOCHI	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
FUKUOKA	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	6
								(2)									(1)	(2)			(5)
SAGA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
NAGASAKI	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KUMAMOTO	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
OITA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
MIYAZAKI	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KAGOSHIMA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
OKINAWA	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2
	(1)														(1)						(2)
TOTAL	1	4	1	3	2	3	7	29	1	1	2	1	1	4	2	1	4	17	2	-	86
	(1)	(4)		(3)	(2)	(2)	(4)	(23)	(1)	(1)	(2)	(1)	(1)	(2)	(2)	(1)	(2)	(10)	(2)		(64)

* DVS : Degraded Vi-positive strain
 ** UVS1 : Untypable Vi-positive strain, group-1
 *** UVS3 : Untypable Vi-positive strain, group-3
 () : Imported cases included in the total

4-4. パラチフスA菌の都道府県別ファージ型分布

4-4. *S. Paratyphi A* phage types from human sources, by place of residence of the source case, 1999

PREFECTURE	PHAGE TYPE OF <i>S. Paratyphi A</i>							TOTAL
	1	2	3	4	5	6	UT*	
HOKKAIDO	-	-	-	-	-	-	1	1
AOMORI	-	-	-	-	-	-	-	-
IWATE	-	-	-	-	-	-	-	-
MIYAGI	-	-	-	-	-	-	-	-
AKITA	-	-	-	-	-	-	-	-
YAMAGATA	-	-	-	-	-	-	-	-
FUKUSHIMA	-	-	-	-	-	-	-	-
IBARAKI	-	-	-	-	-	-	-	-
TOCHIGI	-	-	-	-	-	-	-	-
GUNMA	-	-	-	-	-	-	-	-
SAITAMA	-	-	-	-	-	-	-	-
CHIBA	1 (1)	-	-	-	-	1 (1)	1 (1)	3 (3)
TOKYO	3 (3)	-	-	4 (4)	1 (1)	1 (1)	-	9 (9)
KANAGAWA	1 (1)	-	-	1 (1)	-	-	1 (1)	3 (3)
NIIGATA	-	-	-	1 (1)	-	-	-	1 (1)
TOYAMA	-	-	-	-	-	-	-	-
ISHIKAWA	-	-	-	-	-	-	-	-
FUKUI	-	-	-	-	-	-	-	-
YAMANASHI	-	-	-	-	-	-	-	-
NAGANO	-	-	-	-	-	-	-	-
GIFU	-	-	-	-	-	-	-	-
SHIZUOKA	-	-	-	-	-	-	-	-
AICHI	1 (1)	-	-	1	-	-	-	2 (1)
MIE	-	-	-	-	-	-	-	-
SHIGA	-	-	-	1 (1)	-	-	-	1 (1)
KYOTO	-	-	-	-	-	-	-	-
OSAKA	-	-	-	2 (2)	-	-	-	2 (2)
HYOGO	-	-	-	-	-	-	-	-
NARA	1 (1)	-	-	-	-	-	-	1 (1)
WAKAYAMA	-	-	-	-	-	-	-	-
TOTTORI	-	-	-	-	-	-	-	-
SHIMANE	-	-	-	-	-	-	-	-
OKAYAMA	-	-	-	-	-	-	-	-
HIROSHIMA	-	-	-	-	-	-	-	-
YAMAGUCHI	-	-	-	-	-	-	-	-
TOKUSHIMA	-	-	-	-	-	-	-	-
KAGAWA	-	-	-	-	-	-	-	-
EHIME	-	-	-	-	-	-	-	-
KOCHI	-	-	-	1 (1)	-	-	-	1 (1)
FUKUOKA	1 (1)	1 (1)	-	-	-	-	-	2 (2)
SAGA	-	-	-	-	-	-	-	-
NAGASAKI	-	-	-	-	-	-	-	-
KUMAMOTO	1	-	-	-	-	-	-	1
OITA	1 (1)	-	-	-	-	-	-	1 (1)
MIYAZAKI	-	-	-	-	-	-	-	-
KAGOSHIMA	-	-	-	-	-	-	-	-
OKINAWA	-	-	-	-	-	-	-	-
TOTAL	10 (9)	1 (1)	-	11 (10)	1 (1)	2 (2)	3 (2)	28 (25)

* UT: untypable

() : Imported cases included in the total

5. A群溶血性レンサ球菌の菌型分布、由来ヒト、1999年

5. Group A *Streptococcus* serotypes isolated from human sources, Japan, 1999

5-1. 月別全国集計、地研・保健所

5-1. Group A *Streptococcus* serotypes from human sources, by month, 1999

- Prefectural and municipal public health institutes and health centers

	TOTAL	JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC
TYPE													
T1	290	28	19	19	17	18	32	13	6	8	10	47	73
T2	150	7	15	9	12	14	20	11	1	7	8	28	18
T3	4	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
T4	328	27	33	31	21	28	27	22	17	15	14	48	45
T6	100	14	20	16	13	10	8	5	1	-	1	5	7
T8	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
T9	11	1	-	2	1	-	-	1	2	1	1	1	1
T11	17	-	1	2	1	1	1	3	3	3	1	1	-
T12	555	43	56	59	31	61	62	48	17	15	16	59	88
T13	31	1	4	-	3	3	-	3	2	3	1	5	6
T22	24	-	1	1	2	5	4	5	3	1	1	1	-
T23	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
T25	254	25	27	20	15	36	41	30	10	4	13	8	25
T28	145	14	15	16	7	10	18	16	7	6	15	10	11
TB3264	91	4	9	8	6	11	11	5	3	5	10	12	7
T5/27/44	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
T14/49	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
Untypable	141	10	12	14	8	12	5	8	4	10	11	25	22
Not done	80	8	7	16	10	14	6	-	4	5	1	4	5
TOTAL	2226	182	222	213	147	223	236	170	82	83	103	256	309

5-2. 月別全国集計、医療機関

5-2. Group A *Streptococcus* serotypes from human sources, by month, 1999

- General clinical institutions

5-2-1. 分離材料：咽頭および鼻咽喉からの材料

5-2-1. Specimen : Nasopharyngeal source

	TOTAL	JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC
TYPE													
T1	131	3	24	30	16	10	12	14	2	1	5	4	10
T2	164	11	20	19	17	15	22	19	3	1	5	12	20
T3	4	-	-	1	-	-	2	-	-	-	-	1	-
T4	216	10	23	31	30	38	20	21	6	1	6	15	15
T6	51	8	6	10	5	4	9	3	2	-	1	3	-
T9	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
T11	6	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	1	2
T12	312	26	30	67	28	38	30	29	14	6	12	14	18
T13	7	-	-	-	-	1	1	1	-	-	2	2	-
T22	7	-	-	-	2	1	2	-	-	-	-	1	1
T25	63	3	5	2	3	5	8	6	1	-	10	9	11
T28	61	5	5	3	4	2	9	5	4	4	4	9	7
TB3264	73	9	5	8	4	2	5	11	4	1	6	8	10
T14/49	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
Untypable	91	4	9	12	9	10	10	9	6	3	3	11	5
Not done	7517	523	649	847	576	737	809	568	421	356	473	766	792
TOTAL	8706	602	777	1031	695	863	939	686	463	373	527	858	892

5-2-2. 分離材料：喀痰、気管吸引液および下気道からの材料

5-2-2. Specimen : Respiratory secretion (sputum, tracheal aspirates, specimen of the lower respiratory tract)

	TOTAL	JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC
TYPE													
T1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
T6	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
T12	2	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-
T25	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
TB3264	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Untypable	2	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-
Not done	563	52	43	77	36	49	34	50	46	40	39	48	49
TOTAL	571	52	43	79	36	51	34	52	47	41	39	48	49

6. 病原細菌検出数の年別集計、由来ヒト、1994～1999年
 6. Isolation of bacteria from human sources, by year, Japan, 1994 - 1999

6-1. 地研・保健所
 6-1. Prefectural and municipal public health institutes and health centers

() : Imported cases included in the total

	1994	1995	1996	1997	1998	1999
TOTAL	14581 (2176)	13636 (2979)	19086 (2001)	16288 (1477)	18610 (1136)	16226 (429)
<i>Escherichia coli</i>	1546 (689)	1539 (863)	5452 (587)	3584 (542)	3561 (440)	3173 (135)
<i>Shigella</i>						
<i>Shigella dysenteriae</i>	3 (3)	8 (8)	6 (4)	12 (9)	7 (5)	2 (2)
<i>Shigella flexneri</i>	83 (55)	56 (36)	83 (47)	63 (39)	167 (27)	108 (24)
<i>Shigella boydii</i>	7 (6)	17 (13)	7 (5)	12 (8)	1	8 (5)
<i>Shigella sonnei</i>	267 (137)	295 (200)	312 (146)	234 (187)	441 (83)	262 (83)
<i>Shigella</i> species unknown	-	-	-	5 (1)	-	-
<i>Salmonella</i>						
<i>Salmonella</i> Typhi	40 (17)	27 (10)	34 (20)	46 (21)	30 (11)	42 (20)
<i>Salmonella</i> Paratyphi A	38 (9)	41 (19)	12 (8)	15 (9)	32 (6)	12 (7)
<i>Salmonella</i> O4(B)	765 (62)	627 (81)	633 (118)	432 (24)	404 (27)	550 (13)
<i>Salmonella</i> O7(C1,C4)	824 (62)	849 (72)	857 (61)	689 (37)	548 (35)	2108 (3)
<i>Salmonella</i> O8(C2,C3)	480 (81)	509 (98)	426 (43)	639 (32)	450 (42)	290 (6)
<i>Salmonella</i> O9(D1)	3348 (99)	2484 (154)	4274 (69)	3059 (39)	3262 (44)	2942 (9)
<i>Salmonella</i> O9,46(D2)	-	1 (1)	2	9 (2)	3 (2)	5
<i>Salmonella</i> O3,10(E1,E2,E3)	155 (64)	194 (118)	152 (76)	94 (33)	92 (21)	71 (2)
<i>Salmonella</i> O1,3,19(E4)	51 (18)	83 (17)	39 (10)	28 (1)	23 (2)	18 (2)
<i>Salmonella</i> O13(G1,G2)	28 (5)	25 (1)	28 (3)	20 (2)	18 (4)	10
<i>Salmonella</i> O18(K)	37 (3)	23 (3)	16	30 (1)	12	15
<i>Salmonella</i> other groups	47 (6)	46 (8)	51 (1)	33 (4)	39 (6)	44 (2)
<i>Salmonella</i> group unknown	5	12	10	20	14 (1)	13
<i>Yersinia enterocolitica</i>	22	26	77	12 (1)	3	4
<i>Yersinia pseudotuberculosis</i>	1	-	-	-	4	-
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Ogawa,CT(+)	55 (39)	217 (192)	18 (12)	46 (21)	30 (27)	21 (19)
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Ogawa,CT(-)	1 (1)	3 (3)	2 (2)	3 (2)	3 (1)	3 (3)
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Inaba,CT(+)	3 (1)	1 (1)	-	3 (2)	1 (1)	1
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Inaba,CT(-)	-	-	-	1 (1)	-	1 (1)
<i>Vibrio cholerae</i> O139,CT(+)	5 (5)	-	-	-	-	-
<i>Vibrio cholerae</i> O139,CT(-)	1 (1)	-	-	-	-	1
<i>Vibrio cholerae</i> non-O1&O139	71 (50)	90 (65)	45 (28)	35 (19)	22 (11)	7 (2)
<i>Vibrio parahaemolyticus</i>	1280 (108)	1304 (85)	1065 (88)	1585 (69)	2560 (53)	1960 (10)
<i>Vibrio fluvialis</i>	16 (5)	14 (7)	13 (4)	10	23 (5)	11
<i>Vibrio mimicus</i>	3 (3)	11 (9)	4	3 (2)	2 (1)	-
<i>Aeromonas hydrophila</i>	22 (8)	30 (18)	25 (17)	33 (17)	33 (3)	9 (2)
<i>Aeromonas sobria</i>	21 (19)	59 (54)	45 (40)	24 (18)	43 (16)	7 (2)
<i>Aeromonas hydrophila/sobria</i>	135 (131)	140 (135)	122 (118)	97 (82)	74 (74)	8 (7)
<i>Plesiomonas shigelloides</i>	342 (300)	575 (542)	366 (325)	183 (130)	156 (100)	59 (25)
<i>Campylobacter jejuni</i>	850 (37)	534 (36)	802 (36)	1193 (69)	878 (44)	837 (38)
<i>Campylobacter coli</i>	19 (3)	16 (3)	17 (9)	48 (23)	33 (3)	39 (1)
<i>Campylobacter jejuni/coli</i>	210 (147)	141 (125)	174 (124)	87 (30)	139 (36)	44 (5)
<i>Staphylococcus aureus</i>	439	334	328	407	762	366 (1)
<i>Clostridium perfringens</i>	540	363	354	449	1203 (4)	364
<i>Clostridium botulinum</i> E	-	5	-	1	-	-
<i>Clostridium botulinum</i> non-E	-	-	-	-	-	1
<i>Bacillus cereus</i>	84	63	33	23	71	37
<i>Entamoeba histolytica</i>	8 (1)	4 (1)	55	18	4	8
<i>Neisseria gonorrhoeae</i>	34	38	57	62	77	82
<i>Neisseria meningitidis</i>	1	-	-	2	-	-
<i>Streptococcus</i> A	2388	2523	2822	2665	2967	2294
<i>Streptococcus</i> B	115	151	114	107	137	98
<i>Streptococcus</i> C	7	12	10	24	50	33
<i>Streptococcus</i> G	73	80	88	90	97	73
<i>Streptococcus</i> unknown	4	2	2	3	5	1
<i>Streptococcus pneumoniae</i>	12	19	7	22	46	34
<i>Bordetella pertussis</i>	9	4	3	-	-	1
<i>Legionella pneumophila</i>	-	-	1	-	-	12
<i>Haemophilus influenzae</i>	17	12	20	9	6	51
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	50	25	14	12	5	1
<i>Leptospira</i> spp.	1	1 (1)	-	-	-	11
<i>Plasmodium</i> spp.	-	-	-	-	1 (1)	-
Others	18 (1)	3	9	7	71	74

6-1. Continued

() : Imported cases included in the total

E. coli categorized by pathogenicity

	1994	1995	1996	1997	1998	1999
Enteroinvasive <i>Escherichia coli</i>	28 (7)	29 (16)	47 (16)	66 (6)	13 (3)	15 (2)
Enterotoxigenic <i>Escherichia coli</i>	843 (462)	972 (615)	1203 (422)	670 (410)	518 (304)	492 (117)
Enteropathogenic <i>Escherichia coli</i> serotype	473 (162)	407 (157)	1130 (99)	848 (81)	844 (93)	686 (15)
Verotoxin-producing <i>Escherichia coli</i>	131 (1)	27 (2)	2793 (3)	1782 (5)	2055 (25)	1835 (1)
<i>Escherichia coli</i> other/unknown	71 (57)	104 (73)	279 (47)	218 (40)	131 (15)	145

Shigella serovars

	1994	1995	1996	1997	1998	1999
<i>Shigella dysenteriae</i> 2	3 (3)	2 (2)	3 (1)	1 (1)	4 (3)	2 (2)
<i>Shigella dysenteriae</i> 3	-	1 (1)	-	1 (1)	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 4	-	1 (1)	-	3 (3)	1 (1)	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 6	-	-	-	1 (1)	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 7	-	-	1 (1)	-	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 8	-	1 (1)	2 (2)	-	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 9	-	2 (2)	-	2 (1)	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 12	-	1 (1)	-	2 (2)	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> other serovars	·	·	·	·	2 (1)	-
<i>Shigella dysenteriae</i> others/unknown	-	-	-	2	·	·
<i>Shigella flexneri</i> 1a	1 (1)	-	1 (1)	1 (1)	1	1
<i>Shigella flexneri</i> 1b	10 (10)	11 (8)	10 (7)	6 (5)	7 (6)	1
<i>Shigella flexneri</i> 1	-	-	1	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 2a	27 (7)	12 (4)	30 (15)	23 (15)	133 (8)	88 (17)
<i>Shigella flexneri</i> 2b	7 (7)	3 (2)	5 (4)	1 (1)	1 (1)	1 (1)
<i>Shigella flexneri</i> 3a	8 (5)	7 (4)	11 (1)	19 (10)	10 (6)	5 (1)
<i>Shigella flexneri</i> 3b	1 (1)	1 (1)	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 4a	1 (1)	2 (2)	5 (3)	2	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 4	3 (3)	1 (1)	3 (2)	2 (2)	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 5a	-	-	-	-	-	5
<i>Shigella flexneri</i> 6	21 (19)	8 (7)	10 (9)	3 (3)	4 (4)	2 (2)
<i>Shigella flexneri</i> var.X	-	7 (3)	2 (1)	-	1 (1)	-
<i>Shigella flexneri</i> var.Y	1	-	1 (1)	3 (2)	1	-
<i>Shigella flexneri</i> other serovars	·	·	·	·	4	1
<i>Shigella flexneri</i> serovar unknown	·	·	·	·	5 (1)	4 (3)
<i>Shigella flexneri</i> others/unknown	3 (1)	4 (4)	4 (3)	3	·	·
<i>Shigella boydii</i> 1	1 (1)	4 (3)	-	1 (1)	-	-
<i>Shigella boydii</i> 2	3 (3)	3 (3)	2 (1)	1 (1)	1	2 (2)
<i>Shigella boydii</i> 4	2 (1)	2	4 (3)	2 (2)	-	3 (2)
<i>Shigella boydii</i> 5	-	1 (1)	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 8	1 (1)	-	-	1 (1)	-	-
<i>Shigella boydii</i> 9	-	4 (4)	-	-	-	1 (1)
<i>Shigella boydii</i> 10	-	-	-	2 (1)	-	-
<i>Shigella boydii</i> 11	-	1 (1)	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 12	-	1 (1)	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 16	-	1	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 17	-	-	-	1 (1)	-	-
<i>Shigella boydii</i> 18	-	-	-	3 (1)	-	-
<i>Shigella boydii</i> serovar unknown	·	·	·	·	-	2
<i>Shigella boydii</i> others/unknown	-	-	1 (1)	1	·	·
<i>Shigella sonnei</i>	267 (137)	295 (200)	312 (146)	234 (187)	441 (83)	262 (83)
<i>Shigella</i> species unknown	-	-	-	5 (1)	-	-

· Not included in the survey

6-2. 検疫所

6-2. Quarantine stations

	Imported cases					
	1994	1995	1996	1997	1998	1999
TOTAL	2830	3513	3759	3270	3244	2221
<i>Escherichia coli</i>	51	61	46	20	33	7
<i>Shigella</i>						
<i>Shigella dysenteriae</i>	3	7	8	15	14	7
<i>Shigella flexneri</i>	57	46	59	65	38	44
<i>Shigella boydii</i>	13	13	13	21	15	3
<i>Shigella sonnei</i>	267	298	271	303	230	182
<i>Salmonella</i>						
<i>Salmonella</i> Typhi	-	-	2	-	-	1
<i>Salmonella</i> O4(B)	75	52	51	38	28	18
<i>Salmonella</i> O7(C1,C4)	58	60	70	41	36	14
<i>Salmonella</i> O8(C2,C3)	79	60	53	39	31	16
<i>Salmonella</i> O9(D1)	68	107	90	49	41	27
<i>Salmonella</i> O3,10(E1,E2,E3)	61	47	64	27	33	17
<i>Salmonella</i> O1,3,19(E4)	11	9	7	2	5	1
<i>Salmonella</i> O13(G1,G2)	3	3	4	3	4	1
<i>Salmonella</i> O18(K)	2	1	2	1	2	2
<i>Salmonella</i> other groups	2	5	4	3	3	3
<i>Salmonella</i> group unknown	1	1	-	-	-	-
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Ogawa,CT(+)	31	75	16	8	11	10
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Ogawa,CT(-)	1	1	-	8	4	2
<i>Vibrio cholerae</i> O139,CT(+)	4	-	-	1	-	-
<i>Vibrio cholerae</i> O139,CT(-)	-	-	-	-	1	-
<i>Vibrio cholerae</i> non-O1&O139	245	194	169	131	136	103
<i>Vibrio parahaemolyticus</i>	493	526	590	625	537	395
<i>Vibrio fluvialis</i>	30	35	29	19	20	14
<i>Vibrio mimicus</i>	18	19	8	7	4	4
<i>Aeromonas hydrophila</i>	14	46	78	78	87	46
<i>Aeromonas sobria</i>	49	163	189	212	255	100
<i>Aeromonas hydrophila/sobria</i>	2	1	-	-	-	-
<i>Plesiomonas shigelloides</i>	1184	1677	1932	1554	1675	1203
<i>Staphylococcus aureus</i>	1	2	1	-	-	-
<i>Plasmodium</i> spp.	-	-	-	-	1	-
Others	7	4	3	-	-	1

6-2. Continued

<i>E. coli</i> categorized by pathogenicity	Imported cases					
	1994	1995	1996	1997	1998	1999
Enteroinvasive <i>Escherichia coli</i>	9	8	9	3	4	-
Enterotoxigenic <i>Escherichia coli</i>	1	1	5	2	-	-
Enteropathogenic <i>Escherichia coli</i> serotype	41	52	31	13	26	7
<i>Escherichia coli</i> other/unknown	-	-	1	2	3	-

Shigella serovars

	1994	1995	1996	1997	1998	1999
<i>Shigella dysenteriae</i> 1	-	-	-	-	1	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 2	1	2	6	3	8	2
<i>Shigella dysenteriae</i> 3	1	1	-	6	1	2
<i>Shigella dysenteriae</i> 4	-	2	1	1	1	1
<i>Shigella dysenteriae</i> 6	-	-	-	1	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 7	-	-	1	1	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 9	1	2	-	1	2	1
<i>Shigella dysenteriae</i> 12	-	-	-	1	1	1
<i>Shigella dysenteriae</i> others/unknown	-	-	-	1	•	•
<i>Shigella flexneri</i> 1a	-	1	2	3	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 1b	4	4	7	11	6	3
<i>Shigella flexneri</i> 2a	16	9	20	21	12	18
<i>Shigella flexneri</i> 2b	9	-	4	7	2	3
<i>Shigella flexneri</i> 3a	5	8	5	11	8	5
<i>Shigella flexneri</i> 4a	3	1	4	-	2	1
<i>Shigella flexneri</i> 4b	-	1	-	-	1	-
<i>Shigella flexneri</i> 4	1	2	3	-	-	4
<i>Shigella flexneri</i> 5a	-	-	1	-	1	-
<i>Shigella flexneri</i> 6	6	16	11	8	5	10
<i>Shigella flexneri</i> var.X	6	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> var.Y	3	1	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> serovar unknown	•	•	•	•	1	-
<i>Shigella flexneri</i> others/unknown	4	3	2	4	•	•
<i>Shigella boydii</i> 1	2	1	1	3	4	1
<i>Shigella boydii</i> 2	6	2	4	6	2	-
<i>Shigella boydii</i> 3	-	-	-	2	-	-
<i>Shigella boydii</i> 4	4	2	5	2	4	1
<i>Shigella boydii</i> 5	-	1	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 6	-	-	-	1	-	-
<i>Shigella boydii</i> 8	-	-	-	3	2	-
<i>Shigella boydii</i> 9	-	-	1	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 10	-	1	-	1	-	1
<i>Shigella boydii</i> 11	-	2	1	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 12	-	-	-	-	2	-
<i>Shigella boydii</i> 13	1	2	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 14	-	1	1	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 18	-	1	-	3	1	-
<i>Shigella sonnei</i>	267	298	271	303	230	182

• Not included in the survey

6-3. 都市立伝染病院
6-3. Infectious diseases hospitals

() : Imported cases included in the total

	1994	1995	1996	1997	1998	1999
TOTAL	803 (502)	877 (619)	873 (498)	1004 (556)	947 (409)	512 (205)
<i>Escherichia coli</i>	24 (18)	47 (39)	97 (37)	92 (43)	86 (42)	58 (19)
<i>Shigella</i>						
<i>Shigella dysenteriae</i>	4 (4)	7 (7)	8 (8)	15 (11)	9 (8)	5 (4)
<i>Shigella flexneri</i>	90 (71)	83 (51)	63 (47)	80 (60)	191 (41)	50 (11)
<i>Shigella boydii</i>	7 (6)	19 (17)	10 (7)	12 (11)	9 (7)	-
<i>Shigella sonnei</i>	265 (216)	219 (208)	287 (252)	305 (262)	276 (181)	80 (63)
<i>Shigella species unknown</i>	13 (11)	16 (15)	17 (12)	18 (17)	13 (11)	6 (5)
<i>Salmonella</i>						
<i>Salmonella</i> Typhi	26 (20)	29 (23)	24 (19)	26 (22)	17 (13)	38 (36)
<i>Salmonella</i> Paratyphi A	16 (14)	19 (14)	18 (14)	20 (13)	14 (9)	12 (10)
<i>Salmonella</i> O4(B)	25 (2)	20 (5)	21 (7)	27 (8)	5 (2)	16
<i>Salmonella</i> O7(C1,C4)	17 (4)	15 (4)	10 (1)	12 (5)	4 (1)	20
<i>Salmonella</i> O8(C2,C3)	10 (9)	6 (4)	4 (2)	2 (1)	6 (4)	8 (6)
<i>Salmonella</i> O9(D1)	44 (6)	55 (18)	66 (6)	102 (5)	78 (6)	86 (6)
<i>Salmonella</i> O9,46(D2)	1	1 (1)	1 (1)	2 (1)	2 (1)	-
<i>Salmonella</i> O3,10(E1,E2,E3)	2 (1)	8 (7)	4 (4)	3 (3)	3	1 (1)
<i>Salmonella</i> O13(G1,G2)	-	1	-	-	-	-
<i>Salmonella</i> other groups	-	-	1 (1)	-	-	-
<i>Salmonella</i> group unknown	-	1	2	2	1	1
<i>Yersinia enterocolitica</i>	-	-	-	1	-	-
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Ogawa,CT(+)	33 (30)	106 (96)	13 (10)	19 (9)	14 (12)	7 (7)
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Inaba,CT(+)	3 (1)	1	-	1 (1)	-	-
<i>Vibrio cholerae</i> O1 not typed	-	2 (2)	-	-	1 (1)	1 (1)
<i>Vibrio cholerae</i> O139,CT(+)	2 (2)	-	-	-	-	-
<i>Vibrio cholerae</i> non-O1	1 (1)	1 (1)	2	4 (2)	3 (2)	1 (1)
<i>Vibrio cholerae</i> non-O1&O139	6 (5)	2 (1)	-	-	-	-
<i>Vibrio parahaemolyticus</i>	25 (6)	25 (10)	36 (2)	41 (8)	22 (4)	25 (3)
<i>Vibrio fluvialis</i>	1	1	1	-	4	-
<i>Vibrio mimicus</i>	1 (1)	-	-	-	-	-
<i>Aeromonas hydrophila</i>	7 (5)	5 (3)	6 (3)	5 (3)	13 (7)	3
<i>Aeromonas sobria</i>	4 (2)	8 (7)	8 (5)	2 (1)	7 (4)	2 (2)
<i>Aeromonas hydrophila/sobria</i>	1	-	-	1 (1)	-	-
<i>Plesiomonas shigelloides</i>	15 (15)	28 (28)	12 (11)	17 (15)	17 (15)	12 (11)
<i>Campylobacter jejuni</i>	55 (16)	45 (16)	57 (13)	61 (17)	41 (15)	35 (10)
<i>Campylobacter coli</i>	2 (1)	2 (1)	3 (2)	7 (1)	2 (1)	2 (1)
<i>Campylobacter jejuni/coli</i>	-	-	-	1 (1)	-	-
<i>Staphylococcus aureus</i>	1 (1)	4 (2)	4 (1)	-	-	2
<i>Clostridium perfringens</i>	-	-	3 (2)	3	-	2 (2)
<i>Entamoeba histolytica</i>	67 (18)	69 (27)	57 (16)	69 (14)	77 (8)	17
Others	35 (16)	32 (12)	38 (15)	54 (21)	32 (14)	22 (6)

6-3. Continued

E. coli categorized by pathogenicity

(): Imported cases included in the total

	1994	1995	1996	1997	1998	1999
Enteroinvasive <i>Escherichia coli</i>	1 (1)	2 (1)	3 (3)	3 (2)	2 (2)	3 (2)
Enterotoxigenic <i>Escherichia coli</i>	7 (6)	10 (10)	25 (19)	27 (20)	14 (13)	10 (7)
Enteropathogenic <i>Escherichia coli</i> serotype	6 (5)	9 (9)	21 (11)	27 (14)	24 (16)	22 (7)
Verotoxin-producing <i>Escherichia coli</i>	2 (1)	4	39 (1)	27 (1)	37 (3)	23 (3)
<i>Escherichia coli</i> other/unknown	8 (5)	22 (19)	8 (2)	8 (6)	9 (8)	-

Shigella serovars

	1994	1995	1996	1997	1998	1999
<i>Shigella dysenteriae</i> 1	2 (2)	-	1 (1)	-	2 (2)	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 2	1 (1)	2 (2)	6 (6)	4 (2)	3 (3)	2 (2)
<i>Shigella dysenteriae</i> 3	-	-	-	-	1 (1)	3 (2)
<i>Shigella dysenteriae</i> 4	-	-	1 (1)	2 (1)	1 (1)	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 6	-	-	-	3 (3)	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 9	1 (1)	2 (2)	-	-	1 (1)	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 11	-	-	-	1 (1)	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> others/unknown	-	2 (2)	-	5 (4)	1	-
<i>Shigella dysenteriae</i> not typed	-	1 (1)	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 1a	-	-	2 (1)	1	3 (2)	-
<i>Shigella flexneri</i> 1b	17 (15)	8 (8)	6 (6)	6 (6)	6 (4)	1 (1)
<i>Shigella flexneri</i> 2a	16 (8)	39 (14)	24 (15)	27 (23)	154 (11)	41 (3)
<i>Shigella flexneri</i> 2b	7 (7)	5 (3)	1 (1)	6 (4)	5 (5)	-
<i>Shigella flexneri</i> 3a	13 (8)	5 (5)	6 (6)	14 (12)	9 (8)	1 (1)
<i>Shigella flexneri</i> 3b	1	1 (1)	-	-	1 (1)	-
<i>Shigella flexneri</i> 4a	6 (5)	2 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)
<i>Shigella flexneri</i> 4b	-	1 (1)	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 4	1 (1)	3 (3)	1 (1)	-	-	1 (1)
<i>Shigella flexneri</i> 5a	-	-	1 (1)	-	-	1
<i>Shigella flexneri</i> 6	13 (12)	7 (6)	5 (4)	7 (7)	4 (4)	3 (3)
<i>Shigella flexneri</i> var.X	2 (2)	2	-	-	1	-
<i>Shigella flexneri</i> var.Y	2 (1)	2 (1)	1 (1)	5 (2)	-	-
<i>Shigella flexneri</i> others/unknown	11 (11)	6 (6)	13 (8)	13 (5)	7 (5)	1 (1)
<i>Shigella flexneri</i> not typed	1 (1)	2 (2)	2 (2)	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 1	1 (1)	1 (1)	-	1 (1)	2 (2)	-
<i>Shigella boydii</i> 2	2 (2)	4 (3)	2 (1)	1 (1)	2 (2)	-
<i>Shigella boydii</i> 4	1 (1)	4 (4)	1 (1)	1 (1)	-	-
<i>Shigella boydii</i> 5	-	1 (1)	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 7	1 (1)	-	-	1 (1)	-	-
<i>Shigella boydii</i> 8	-	1 (1)	-	2 (2)	-	-
<i>Shigella boydii</i> 10	-	1 (1)	-	2 (1)	-	-
<i>Shigella boydii</i> 11	1 (1)	1 (1)	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 12	-	1 (1)	-	-	1 (1)	-
<i>Shigella boydii</i> 13	-	2 (2)	1 (1)	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 14	-	2 (2)	1 (1)	1 (1)	-	-
<i>Shigella boydii</i> 16	-	1	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 18	-	-	-	2 (2)	1 (1)	-
<i>Shigella boydii</i> others/unknown	1	-	2 (2)	1 (1)	2 (1)	-
<i>Shigella boydii</i> not typed	-	-	3 (1)	-	1	-
<i>Shigella sonnei</i>	265 (216)	219 (208)	287 (252)	305 (262)	276 (181)	80 (63)
<i>Shigella</i> species unknown	13 (11)	16 (15)	17 (12)	18 (17)	13 (11)	6 (5)

6-4. 医療機関

6-4. General clinical institutions

6-4-1. 分離材料: 糞便

6-4-1. Specimen : Stool

() : Imported cases included in the total

	1994	1995	1996	1997	1998	1999
TOTAL	17615 (63)	18094 (131)	27827 (63)	27191 (71)	28236 (50)	31766 (26)
<i>Escherichia coli</i>	2142 (9)	2759 (20)	7182 (9)	8505 (11)	8907 (15)	11141 (1)
<i>Shigella</i>						
<i>Shigella dysenteriae</i>	2 (1)	1	-	3	1 (1)	2
<i>Shigella flexneri</i>	28 (12)	15 (2)	28 (9)	20 (5)	15 (5)	17 (4)
<i>Shigella boydii</i>	1 (1)	4 (3)	-	1	2 (1)	-
<i>Shigella sonnei</i>	46 (21)	44 (24)	51 (16)	50 (31)	151 (15)	21 (4)
<i>Shigella</i> species unknown	-	1	-	2 (1)	-	1
<i>Salmonella</i>						
<i>Salmonella</i> Typhi	6 (2)	5 (3)	8 (4)	12 (3)	10	3 (1)
<i>Salmonella</i> Paratyphi A	4 (1)	16 (4)	8 (4)	3 (1)	3	4 (1)
<i>Salmonella</i> O4(B)	626 (1)	493 (2)	550 (7)	497 (2)	423	656
<i>Salmonella</i> O7(C1,C4)	497 (1)	389 (5)	526 (2)	478 (2)	405	1405
<i>Salmonella</i> O8(C2,C3)	252	166 (2)	224 (1)	174	152 (2)	176
<i>Salmonella</i> O9(D1)	1970 (2)	1610 (10)	2895 (1)	2555	2147	2131 (1)
<i>Salmonella</i> O9,46(D2)	17	5	8	30	8	24
<i>Salmonella</i> O3,10(E1,E2,E3)	14 (1)	33 (2)	36 (1)	24	20	16
<i>Salmonella</i> O1,3,19(E4)	20	35 (1)	15	9	15	3
<i>Salmonella</i> O13(G1,G2)	9	6	15	7	5	3
<i>Salmonella</i> O18(K)	12	8	11	5	2	5
<i>Salmonella</i> other groups	57	19	67	61	76	78
<i>Salmonella</i> group unknown	61	53 (1)	71	64	89	72
<i>Yersinia enterocolitica</i>	126	138	210	188	211	142
<i>Yersinia pseudotuberculosis</i>	3	5	13	4	2	-
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Ogawa,CT(+)	8 (3)	46 (41)	1 (1)	8 (7)	7 (5)	3 (2)
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Inaba,CT(+)	1	-	-	-	-	-
<i>Vibrio cholerae</i> non-O1&O139	19	14	23 (1)	20 (1)	57	13
<i>Vibrio parahaemolyticus</i>	1054 (3)	990 (1)	1718 (2)	2276 (1)	2975 (1)	2423 (2)
<i>Vibrio fluvialis</i>	22	20	32	18	34	25
<i>Vibrio mimicus</i>	5	6	9	8	5	3
<i>Aeromonas hydrophila</i>	89	140 (1)	211 (1)	171 (1)	196	199
<i>Aeromonas sobria</i>	43	55	93 (1)	62	79	74
<i>Aeromonas hydrophila/sobria</i>	97	106	198	195 (1)	277 (2)	217 (1)
<i>Plesiomonas shigelloides</i>	30 (1)	54 (1)	80 (1)	49 (1)	53 (2)	44
<i>Campylobacter jejuni</i>	1553 (4)	1559 (2)	2426 (1)	2141 (2)	2040 (1)	2318 (3)
<i>Campylobacter coli</i>	21	39	60	50 (1)	48	43
<i>Campylobacter jejuni/coli</i>	3317	3192 (5)	4385 (1)	3001	3053	3003 (1)
<i>Staphylococcus aureus</i>	5297	5991	6400	6289	6631	7360 (5)
<i>Clostridium perfringens</i>	134	44	190	190	113	120
<i>Clostridium botulinum</i> non-E	-	-	1	2	4	-
<i>Bacillus cereus</i>	24	27	80	17	14	21
<i>Bacillus thuringiensis</i>	-	-	-	-	1	-
<i>Entamoeba histolytica</i>	8	6 (1)	2	2	5	-

E.coli categorized by pathogenicity

Enteroinvasive <i>Escherichia coli</i>	70	80	187	112 (1)	50	56
Enterotoxigenic <i>Escherichia coli</i>	142	229 (3)	813 (1)	407	370 (2)	368
Enteropathogenic <i>Escherichia coli</i> serotype	1379 (9)	1647 (17)	3886 (4)	4040 (6)	4450 (12)	7199 (1)
Verotoxin-producing <i>Escherichia coli</i>	13	8	315 (1)	332	338 (1)	342
<i>Escherichia coli</i> other/unknown	538	795	1981 (3)	3614 (4)	3699	3176

Shigella serovars

<i>Shigella dysenteriae</i> 2	2 (1)	-	-	2	-	1
<i>Shigella dysenteriae</i> 3	-	-	-	-	-	1
<i>Shigella dysenteriae</i> 4	-	-	-	1	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 6	-	-	-	-	1 (1)	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 9	-	1	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 1a	1	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 1b	3 (2)	-	3 (1)	1 (1)	1 (1)	-
<i>Shigella flexneri</i> 2a	12 (2)	9 (2)	16 (5)	15 (4)	11 (3)	11 (2)
<i>Shigella flexneri</i> 2b	2 (1)	1	1 (1)	-	-	1
<i>Shigella flexneri</i> 3a	2	2	-	1	3 (1)	1
<i>Shigella flexneri</i> 4a	1 (1)	1	1	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 4	-	-	1	1	-	1 (1)
<i>Shigella flexneri</i> 6	7 (6)	1	2 (1)	-	-	2 (1)
<i>Shigella flexneri</i> var.X	-	1	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> serovar unknown	-	-	-	-	-	1
<i>Shigella flexneri</i> others/unknown	-	-	4 (1)	2	-	-
<i>Shigella boydii</i> 1	-	1	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 2	-	-	-	-	1 (1)	-
<i>Shigella boydii</i> 4	-	-	-	-	1	-
<i>Shigella boydii</i> 9	-	1 (1)	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 14	-	2 (2)	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> others/unknown	1 (1)	-	-	1	-	-
<i>Shigella sonnei</i>	46 (21)	44 (24)	51 (16)	50 (31)	151 (15)	21 (4)
<i>Shigella</i> species unknown	-	1	-	2 (1)	-	1

* Not included in the survey

6-4-2. 分離材料: 穿刺液(胸水、腹水、関節液など)

6-4-2. Specimen : Needle biopsy (thoracic fluid, ascites, synovial fluid, etc.)

	1994	1995	1996	1997	1998	1999
TOTAL	6446	6853	6330	5212	6368	6309
<i>Escherichia coli</i>	1039	1042	990	850	1046	1078
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	576	537	510	418	526	548
<i>Haemophilus influenzae</i>	29	67	46	22	56	42
<i>Neisseria meningitidis</i>	-	-	-	-	-	6
<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	1007	1035	710	707	840	813
<i>Mycobacterium</i> spp.	17	6	24	14	46	26
<i>Staphylococcus aureus</i>	1939	2123	1889	1441	1819	1920
<i>Staphylococcus</i> , coagulase(-)	1051	1102	994	881	1067	1057
<i>Streptococcus pneumoniae</i>	67	88	71	75	74	82
Anaerobes	718	850	1092	786	893	735
<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	3	3	4	18	1	2

6-4-3. 分離材料: 髄液

6-4-3. Specimen : Cerebrospinal fluid

	1994	1995	1996	1997	1998	1999
TOTAL	240	243	261	192	256	272
<i>Escherichia coli</i>	18	12	24	14	21	21
<i>Haemophilus influenzae</i>	42	65	51	36	61	50
<i>Neisseria meningitidis</i>	1	3	-	-	-	1
<i>Listeria monocytogenes</i>	6	2	4	5	4	4
<i>Staphylococcus aureus</i>	115	110	102	84	86	110
<i>Streptococcus</i> B	14	7	14	7	24	10
<i>Streptococcus pneumoniae</i>	44	44	66	46	60	76

6-4-4. 分離材料: 血液

6-4-4. Specimen : Blood

() : Imported cases included in the total

	1994	1995	1996	1997	1998	1999
TOTAL	5273 (4)	5234 (8)	5744 (17)	5448 (2)	6306	7019
<i>Escherichia coli</i>	729	775	924	835	1063	1136
<i>Salmonella</i> Typhi	6 (2)	9 (3)	24 (14)	8 (2)	3	2
<i>Salmonella</i> Paratyphi A	5 (2)	8 (4)	8 (3)	1	-	5
<i>Salmonella</i> spp.	39	46 (1)	40	26	39	110
<i>Haemophilus influenzae</i>	47	51	48	43	60	70
<i>Neisseria meningitidis</i>	1	-	-	1	-	1
<i>Listeria monocytogenes</i>	-	-	-	4	6	4
<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	407	350	435	345	522	482
<i>Staphylococcus aureus</i>	1412	1379	1651	1589	1712	2058
<i>Staphylococcus</i> , coagulase(-)	2222	2133	2098	2169	2430	2655
<i>Streptococcus</i> B	71	129	82	79	79	64
<i>Streptococcus pneumoniae</i>	124	107	142	140	151	171
Anaerobes	210	247	291	207	239	260
<i>Plasmodium</i> spp.	-	-	1	1	2	1

6-4-5. 分離材料:咽頭および鼻咽腔からの材料

6-4-5. Specimen : Nasopharyngeal source

() : Imported cases included in the total

	1994	1995	1996	1997	1998	1999
TOTAL	36355	36325	36961	35044	39372	39460
<i>Bordetella pertussis</i>	22	29	37	10	1	38
<i>Haemophilus influenzae</i>	15204	17509	16644	15577	18339	17330
<i>Neisseria meningitidis</i>	2	3	-	-	27	30
<i>Streptococcus A</i>	13031	9059	10608	10258	9773	9401
<i>Streptococcus pneumoniae</i>	8095	9725	9672	9198	11230	12656
<i>Corynebacterium diphtheriae</i>	1	-	-	1	2	5

6-4-6. 分離材料:喀痰、気管吸引液および下気道からの材料

6-4-6. Specimen : Respiratory secretions (sputum, tracheal aspirates, specimen of the lower respiratory tract)

	1994	1995	1996	1997	1998	1999
TOTAL	119563	126634	116376	101166	107430	125918 (2)
<i>Mycobacterium tuberculosis</i>	4254	4671	4814	4913	5076	5608
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	12459	13534	12511	10755	11906	13553
<i>Haemophilus influenzae</i>	8260	8878	7798	7080	8340	9233
<i>Legionella pneumophila</i>	1	-	3	6	11	4
<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	36226	37263	32344	27635	29125	32582
<i>Staphylococcus aureus</i>	44313	47551	44668	38564	40821	50181 (2)
<i>Streptococcus A</i>	820	761	815	578	483	571
<i>Streptococcus B</i>	5472	5716	5277	4427	4231	5213
<i>Streptococcus pneumoniae</i>	7518	8027	7897	6913	7082	8292
Anaerobes	184	202	221	230	328	629
<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	56	31	28	65	27	52

6-4-7. 分離材料:尿

6-4-7. Specimen : Urine

	1994	1995	1996	1997	1998	1999
TOTAL	157725	158082	151064	126598	129755	128569
<i>Escherichia coli</i>	43054	43015	41981	35705	38263	38154
<i>Enterobacter spp.</i>	6415	5839	5723	4498	4674	3995
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	10909	10837	9959	8043	8166	8526
<i>Acinetobacter spp.</i>	2430	2340	2002	1580	1590	1561
<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	23918	22839	20649	16961	18031	17325
<i>Staphylococcus aureus</i>	12082	12388	11854	10857	10011	10233
<i>Staphylococcus, coagulase(-)</i>	19393	19897	19724	15653	16118	15288
<i>Enterococcus spp.</i>	33073	34120	32507	27663	27589	28200
<i>Candida albicans</i>	6451	6807	6665	5638	5313	5287

6-4-8. 分離材料:陰部尿道頸管擦過(分泌物)

6-4-8. Specimen : Genitourinary source

	1994	1995	1996	1997	1998	1999
TOTAL	25073	25365	27195	26386	29977	31786
<i>Neisseria gonorrhoeae</i>	463	766	1076	1294	2019	2981
<i>Streptococcus B</i>	9192	9143	9213	9018	10390	10952
<i>Chlamydia trachomatis</i>	1747	1866	2925	2446	3268	4199
<i>Ureaplasma</i>	234	181	304	55	93	31
<i>Candida albicans</i>	12779	12784	13094	13123	13800	13218
<i>Trichomonas vaginalis</i>	658	625	583	450	407	405

第4章 病原体情報集計・病原細菌検出成績

II. 平成12(2000)年

協力機関一覧 2000年

協力地方衛生研究所

コードNo.	地方衛生研究所名
011	北海道立衛生研究所
012	札幌市衛生研究所
013	函館市衛生試験所
021	青森県環境保健センター
031	岩手県環境保健研究センター
041	宮城県保健環境センター
042	仙台市衛生研究所
051	秋田県衛生科学研究所
061	山形県衛生研究所
071	福島県衛生研究所
081	茨城県衛生研究所
091	栃木県保健環境センター
101	群馬県衛生環境研究所
111	埼玉県衛生研究所
121	千葉県衛生研究所
122	千葉市環境保健研究所
131	東京都健康安全研究センター
141	神奈川県衛生研究所
142	横浜市衛生研究所
143	川崎市衛生研究所
144	横須賀市衛生試験所
151	新潟県保健環境科学研究所
152	新潟市衛生試験所
161	富山県衛生研究所
171	石川県保健環境センター
181	福井県衛生環境研究センター
191	山梨県衛生公害研究所
201	長野県衛生公害研究所
211	岐阜県保健環境研究所
212	岐阜市衛生試験所
221	静岡県環境衛生科学研究所
222	静岡市衛生試験所
223	浜松市保健環境研究所
231	愛知県衛生研究所
232	名古屋市衛生研究所
241	三重県科学技術振興センター保健環境研究部
251	滋賀県立衛生環境センター
261	京都府保健環境研究所
262	京都市衛生公害研究所
271	大阪府立公衆衛生研究所
272	大阪市立環境科学研究所
273	堺市衛生研究所
281	兵庫県立健康環境科学研究センター
282	神戸市環境保健研究所
283	姫路市環境衛生研究所
284	尼崎市立衛生研究所
291	奈良県保健環境研究センター
301	和歌山県環境衛生研究センター
302	和歌山市衛生研究所
311	鳥取県衛生環境研究所
321	島根県保健環境科学研究所
331	岡山県環境保健センター

コードNo.	地方衛生研究所名
341	広島県保健環境センター
342	広島市衛生研究所
351	山口県環境保健研究センター
361	徳島県保健環境センター
371	香川県環境保健研究センター
381	愛媛県立衛生環境研究所
391	高知県衛生研究所
401	福岡県保健環境研究所
402	福岡市保健環境研究所
403	北九州市環境科学研究所
411	佐賀県衛生薬業センター
421	長崎県衛生公害研究所
422	長崎市保健環境試験所
431	熊本県保健環境科学研究所
432	熊本市環境総合研究所
441	大分県衛生環境研究センター
451	宮崎県衛生環境研究所
461	鹿児島県環境保健センター
471	沖縄県衛生環境研究所

協力検疫所

小樽検疫所千歳空港支所
成田空港検疫所
東京検疫所東京空港支所
東京検疫所
名古屋検疫所名古屋空港支所
関西空港検疫所
広島検疫所広島空港支所
福岡検疫所福岡空港支所
那覇検疫所那覇空港支所

協力都市立伝染病院

市立札幌病院南ヶ丘分院
仙台市立病院
千葉市立病院
東京都立豊島病院
東京都立駒込病院
東京都立墨東病院
東京都立荏原病院
川崎市立川崎病院
横浜市立市民病院
名古屋市立東市民病院
京都市立病院
大阪市立総合医療センター・感染症センター
神戸市立中央市民病院
広島市立舟入病院
北九州市立医療センター
福岡市立こども病院感染症センター

1. 病原細菌検出数の地研・保健所集計、由来ヒト、2000年

1. Isolation of bacteria from prefectural and municipal public health institutes, Japan, 2000

1-1. 月別、由来ヒト、2000年

1-1. Isolation of bacteria from human sources, by month, Japan, 2000

-Prefectural and municipal public health institutes

Based on the data received before October 1, 2003

(): Imported cases included in the total

	TOTAL	1 JAN	2 FEB	3 MAR	4 APR	5 MAY	6 JUN
TOTAL	12096 (315)	514 (4)	524 (14)	605 (21)	657 (31)	996 (24)	1248 (17)
<i>Escherichia coli</i>	3394 (138)	78 (1)	103 (3)	116 (3)	151	238 (6)	439 (6)
<i>Shigella</i>							
<i>Shigella dysenteriae</i>	4 (4)	-	-	-	2 (2)	-	-
<i>Shigella flexneri</i>	45 (16)	3	3 (1)	4 (2)	-	2 (2)	6 (3)
<i>Shigella boydii</i>	4 (4)	-	1 (1)	-	-	-	1 (1)
<i>Shigella sonnei</i>	205 (77)	7 (2)	8 (3)	10 (9)	32 (23)	10 (6)	3 (2)
<i>Salmonella</i>							
<i>Salmonella</i> Typhi	33 (14)	1	2 (2)	5 (2)	7 (2)	4 (3)	4 (1)
<i>Salmonella</i> Paratyphi A	9 (5)	-	-	-	-	1 (1)	1 (1)
<i>Salmonella</i> O2	1	-	-	-	-	-	-
<i>Salmonella</i> O4	368 (3)	12	14 (1)	8	15 (1)	24	48
<i>Salmonella</i> O7	520 (3)	9	17	19	31	37	46
<i>Salmonella</i> O8	255 (3)	6 (1)	7	7	7	11	10
<i>Salmonella</i> O9	1893 (3)	43	23 (1)	31	38 (1)	92	184
<i>Salmonella</i> O3,10	65 (2)	3	4	5 (1)	7 (1)	6	6
<i>Salmonella</i> O1,3,19	8	1	-	-	-	1	2
<i>Salmonella</i> O11	3	-	-	1	-	1	-
<i>Salmonella</i> O13	13	1	-	-	1	1	-
<i>Salmonella</i> O6,14	3	-	2	-	-	-	-
<i>Salmonella</i> O16	4	1	-	-	1	-	1
<i>Salmonella</i> O18	13	1	1	3	-	-	1
<i>Salmonella</i> O28	1	-	-	-	-	1	-
<i>Salmonella</i> O30	2	-	-	-	2	-	-
<i>Salmonella</i> O35	2	1	-	-	-	-	1
<i>Salmonella</i> O39	3	-	-	-	-	-	-
<i>Salmonella</i> other groups	2	-	-	-	-	-	-
<i>Salmonella</i> group unknown	10	2	-	-	-	-	1
<i>Listeria monocytogenes</i>	1	-	-	-	-	-	-
<i>Yersinia enterocolitica</i>	10	-	-	-	1	1	-
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Ogawa,CT(+)	12 (6)	-	1 (1)	-	-	-	3 (3)
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Inaba,CT(+)	1 (1)	-	-	-	-	-	-
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Inaba,CT(-)	1 (1)	-	1 (1)	-	-	-	-
<i>Vibrio cholerae</i> O139,CT(-)	1	1	-	-	-	-	-
<i>Vibrio cholerae</i> non-O1&O139	10 (1)	-	-	-	-	1	2
<i>Vibrio parahaemolyticus</i>	698 (15)	-	-	4 (3)	7	6 (3)	17
<i>Aeromonas hydrophila</i>	13	-	2	-	4	1	-
<i>Aeromonas sobria</i>	12	-	-	1	-	-	-
<i>Aeromonas hydrophila/sobria</i>	2	-	-	1	-	-	-
<i>Plesiomonas shigelloides</i>	50 (9)	-	1	3	-	6 (1)	16
<i>Campylobacter jejuni</i>	737	31	15	31	46	78	86
<i>Campylobacter coli</i>	20	-	1	1	2	9	-
<i>Campylobacter jejuni/coli</i>	35 (4)	2	1	3	7	4 (2)	4
<i>Staphylococcus aureus</i>	351	11	22	27	14	8	15
<i>Clostridium perfringens</i>	247 (4)	21	2	5	9	91	5
<i>Bacillus cereus</i>	11	-	-	-	1	-	-
<i>Cryptosporidium</i>	1 (1)	-	-	-	1 (1)	-	-
<i>Giardia lamblia</i>	1 (1)	-	-	1 (1)	-	-	-
<i>Streptococcus</i> group A	2633	256	266	265	224	316	312
<i>Streptococcus</i> group B	111	4	9	17	10	5	11
<i>Streptococcus</i> group C	16	3	-	2	-	-	2
<i>Streptococcus</i> group G	66	4	8	4	3	11	8
<i>Streptococcus</i> others	1	-	-	-	-	-	-
<i>Streptococcus</i> unknown	2	-	2	-	-	-	-
<i>Streptococcus pneumoniae</i>	7	2	-	1	-	1	-
<i>Bordetella pertussis</i>	4	-	-	-	1	-	1
<i>Legionella pneumophila</i>	49	1	-	1	15	18	4
<i>Legionella</i> others	7	-	-	-	-	5	-
<i>Mycobacterium tuberculosis</i>	3	1	1	-	-	-	1
<i>Mycobacterium avium</i> - intracellulare complex	1	-	-	1	-	-	-
<i>Haemophilus influenzae</i> b	4	1	-	-	2	-	-
<i>Haemophilus influenzae</i> non-b	37	3	4	17	8	1	-
<i>Neisseria meningitidis</i>	4	-	-	2	1	-	-
<i>Neisseria gonorrhoeae</i>	76	4	3	9	6	5	7
<i>Leptospira</i> spp.	1	-	-	-	-	-	-

E.coli categorized by pathogenicity

Verotoxin-producing <i>Escherichia coli</i> (EHEC/VTEC)	2195 (14)	24	53	34	39	135	319
Enterotoxigenic <i>Escherichia coli</i> (ETEC)	237 (109)	2 (1)	5 (3)	13 (3)	3	20 (6)	24 (6)
Enteroinvasive <i>Escherichia coli</i> (EIEC)	5 (1)	-	-	-	-	2	-
Enteropathogenic <i>Escherichia coli</i> serotype (EPEC)	573 (8)	37	29	46	63	48	37
Other diarrheagenic <i>Escherichia coli</i>	384 (6)	15	16	23	46	33	59

Shigella serovars

<i>Shigella dysenteriae</i> 3	1 (1)	-	-	-	1 (1)	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 4	3 (3)	-	-	-	1 (1)	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 1a	1	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 1b	3 (1)	-	-	2 (1)	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 2a	17 (7)	2	1 (1)	1	-	-	2 (2)
<i>Shigella flexneri</i> 2b	1 (1)	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 3a	7 (2)	1	-	-	-	-	4 (1)
<i>Shigella flexneri</i> 4a	1	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 6	5 (4)	-	-	1 (1)	-	2 (2)	-
<i>Shigella flexneri</i> var.X	1 (1)	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> var.Y	3	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> unknown	6	-	2	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 2	2 (2)	-	1 (1)	-	-	-	1 (1)
<i>Shigella boydii</i> 4	1 (1)	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 14	1 (1)	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella sonnei</i>	205 (77)	7 (2)	8 (3)	10 (9)	32 (23)	10 (6)	3 (2)

(): Imported cases included in the total

	7 JUL	8 AUG	9 SEP	10 OCT	11 NOV	12 DEC
TOTAL	1430 (19)	1850 (26)	1499 (53)	1212 (82)	906 (15)	655 (9)
<i>Escherichia coli</i>	477 (8)	534 (4)	535 (34)	306 (67)	236 (1)	181 (5)
<i>Shigella</i>						
<i>Shigella dysenteriae</i>	1 (1)	1 (1)	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i>	5 (3)	3 (2)	4 (1)	8	6 (1)	1 (1)
<i>Shigella boydii</i>	-	-	-	1 (1)	1 (1)	-
<i>Shigella sonnei</i>	19 (3)	9 (4)	16 (6)	50 (10)	39 (8)	2 (1)
<i>Salmonella</i>						
<i>Salmonella</i> Typhi	2	4 (2)	2	-	1 (1)	1 (1)
<i>Salmonella</i> Paratyphi A	-	2 (1)	-	5 (2)	-	-
<i>Salmonella</i> O2	-	-	-	1	-	-
<i>Salmonella</i> O4	59	71	43	41	18 (1)	15
<i>Salmonella</i> O7	38	92	131 (1)	46 (1)	22 (1)	32
<i>Salmonella</i> O8	109	39 (1)	25 (1)	22	5	7
<i>Salmonella</i> O9	212	390	367 (1)	276	141	96
<i>Salmonella</i> O3,10	6	10	8	6	2	2
<i>Salmonella</i> O1,3,19	1	-	2	1	-	-
<i>Salmonella</i> O11	-	-	1	-	-	-
<i>Salmonella</i> O13	-	2	1	1	3	3
<i>Salmonella</i> O6,14	-	-	1	-	-	-
<i>Salmonella</i> O16	1	-	-	-	-	-
<i>Salmonella</i> O18	-	3	2	-	1	1
<i>Salmonella</i> O28	-	-	-	-	-	-
<i>Salmonella</i> O30	-	-	-	-	-	-
<i>Salmonella</i> O35	-	-	-	-	1	-
<i>Salmonella</i> O39	1	1	-	-	-	-
<i>Salmonella</i> other groups	1	-	-	-	1	-
<i>Salmonella</i> group unknown	-	-	3	3	-	1
<i>Listeria monocytogenes</i>	-	-	-	-	-	1
<i>Yersinia enterocolitica</i>	3	-	4	1	-	-
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Ogawa,CT(+)	1 (1)	2	4	1 (1)	-	-
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Inaba,CT(+)	-	-	-	-	-	1 (1)
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Inaba,CT(-)	-	-	-	-	-	-
<i>Vibrio cholerae</i> O139,CT(-)	-	-	-	-	-	-
<i>Vibrio cholerae</i> non-O1&O139	3 (1)	3	1	-	-	-
<i>Vibrio parahaemolyticus</i>	164 (2)	357 (7)	126	13	3	1
<i>Aeromonas hydrophila</i>	-	-	4	2	-	-
<i>Aeromonas sobria</i>	-	9	2	-	-	-
<i>Aeromonas hydrophila/sobria</i>	1	-	-	-	-	-
<i>Plesiomonas shigelloides</i>	3	8 (2)	8 (5)	2	1 (1)	2
<i>Campylobacter jejuni</i>	79	108	65	110	56	32
<i>Campylobacter coli</i>	-	4	1	-	1	1
<i>Campylobacter jejuni/coli</i>	3	5 (2)	1	2	1	2
<i>Staphylococcus aureus</i>	23	60	18	68	80	5
<i>Clostridium perfringens</i>	30	17	29 (4)	-	33	5
<i>Bacillus cereus</i>	7	1	2	-	-	-
<i>Cryptosporidium</i>	-	-	-	-	-	-
<i>Giardia lamblia</i>	-	-	-	-	-	-
<i>Streptococcus</i> group A	146	92	70	222	222	242
<i>Streptococcus</i> group B	8	10	6	11	15	5
<i>Streptococcus</i> group C	2	-	1	3	2	-
<i>Streptococcus</i> group G	6	7	5	4	4	2
<i>Streptococcus</i> others	1	-	-	-	-	-
<i>Streptococcus</i> unknown	-	-	-	-	-	-
<i>Streptococcus pneumoniae</i>	3	-	-	-	-	-
<i>Bordetella pertussis</i>	-	1	-	-	1	-
<i>Legionella pneumophila</i>	9	-	-	-	-	1
<i>Legionella</i> others	2	-	-	-	-	-
<i>Mycobacterium tuberculosis</i>	-	-	-	-	-	-
<i>Mycobacterium avium</i> - intracellulare complex	-	-	-	-	-	-
<i>Haemophilus influenzae</i> b	-	-	-	1	-	-
<i>Haemophilus influenzae</i> non-b	-	-	-	1	2	1
<i>Neisseria meningitidis</i>	-	-	1	-	-	-
<i>Neisseria gonorrhoeae</i>	4	5	10	3	8	12
<i>Leptospira</i> spp.	-	-	-	1	-	-

E. coli categorized by pathogenicity

Verotoxin-producing <i>Escherichia coli</i> (EHEC/VTEC)	308	438 (1)	395 (8)	186 (2)	200 (1)	63 (2)
Enterotoxigenic <i>Escherichia coli</i> (ETEC)	43 (7)	28 (2)	20 (15)	71 (63)	3	5 (3)
Enteroinvasive <i>Escherichia coli</i> (EIEC)	2	-	-	1 (1)	-	-
Enteropathogenic <i>Escherichia coli</i> serotype (EPEC)	67 (1)	42 (1)	70 (5)	27 (1)	24	83
Other diarrhegenic <i>Escherichia coli</i>	57	26	49 (6)	21	9	30

Shigella serovars

<i>Shigella dysenteriae</i> 3	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 4	1 (1)	1 (1)	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 1a	-	-	1	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 1b	-	-	1	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 2a	5 (3)	2 (1)	-	2	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 2b	-	-	-	-	1 (1)	-
<i>Shigella flexneri</i> 3a	-	1 (1)	-	1	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 4a	-	-	-	1	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 6	-	-	-	1	-	1 (1)
<i>Shigella flexneri</i> var.X	-	-	1 (1)	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> var.Y	-	-	-	-	3	-
<i>Shigella flexneri</i> unknown	-	-	1	3	-	-
<i>Shigella boydii</i> 2	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 4	-	-	-	1 (1)	-	-
<i>Shigella boydii</i> 14	-	-	-	-	1 (1)	-
<i>Shigella sonnei</i>	19 (3)	9 (4)	16 (6)	50 (10)	39 (8)	2 (1)

1-2. 月別サルモネラ血清型の内訳、由来ヒト、2000年
 1-2. *Salmonella* serovars, by month, 2000
 -Prefectural and municipal public health institutes

(): Imported cases included in the total

		TOTAL	1 JAN	2 FEB	3 MAR	4 APR	5 MAY	6 JUN	7 JUL	8 AUG	9 SEP	10 OCT	11 NOV	12 DEC
GROUP SEROVAR														
O2	Others	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
O4	Typhimurium	189	4	4	4	6	13	32	42	32	21	21	7	3
	Saintpaul	54	2	-	-	2	-	5	8	21	4	7	3	2
	Agona	39	1	3	2	2	2	5	3	5	7	7	-	2
	Paratyphi B	9 (1)	-	1	-	1 (1)	1	1	-	2	-	1	1	1
	Stanley	9 (1)	1	-	1	1	1	-	-	1	-	-	4 (1)	-
	Derby	8	-	2	-	-	1	-	1	1	-	2	-	1
	Heidelberg	8	-	-	1	-	-	-	2	-	-	2	2	1
	Agama	7	-	-	-	-	-	-	-	1	6	-	-	-
	Schwarzengrund	7	2	1	-	1	-	1	-	-	1	-	-	1
	Bredeney	4	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	1
	Brandenburg	3	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-
	Haifa	2	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	Kiambu	2	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-
	Schleissheim	2	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
	Abony	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	Brancaster	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	Chester	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	Duisburg	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
	Il [sofia]	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	Sandiego	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
	Tsevie	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	Others	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	Not typed	2 (1)	-	1 (1)	-	-	3	1	1	5	2	-	-	3
O7	Infantis	140	-	7	8	13	12	19	17	22	13	11	8	10
	Thompson	93	2	2	2	1	6	11	15	8	19	10	3	14
	Virchow	61 (1)	-	1	-	-	4	3	-	2	40	7	3 (1)	1
	Oranienburg	48	1	3	5	9	8	3	2	3	8	1	4	1
	Montevideo	47	2	-	-	1	1	1	-	5	32	4	1	-
	Bareilly	26	-	-	-	-	1	3	1	6	11	3	1	-
	Isangi	19	-	-	-	-	-	-	-	15	-	4	-	-
	Braenderup	12 (1)	-	1	-	-	-	2	-	3	2	3 (1)	1	-
	Tennessee	12	1	1	2	-	4	1	-	-	1	-	-	2
	Mbandaka	9	-	-	-	-	-	-	-	6	1	1	-	1
	Ohio	5	-	-	-	1	-	1	-	2	1	-	-	-
	Livingstone	3	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1
	Potsdam	3	-	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-
	Othmarschen	2	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-
	Rissen	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
	Nigeria	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
	Richmond	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	Singapore	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	Others	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	Not typed	32 (1)	2	1	2	1	-	2	1	17	3 (1)	2	1	-
O8	Nagoya	98	1	-	-	-	2	1	89	2	1	2	-	-
	Corvallis	35	-	3	-	1	-	1	1	7	11	7	1	3
	Hadar	25 (1)	1	1	3	2	2	1	4	5 (1)	1	3	1	1
	Newport	25 (1)	-	1	-	2	3	2	1	7	3 (1)	5	1	-
	Litchfield	14	1	-	-	-	2	1	3	6	-	-	1	-
	Blockley	12	-	-	1	-	-	2	6	-	3	-	-	-
	Narashino	7	-	-	-	-	-	-	1	3	3	-	-	-
	Kotibus	3 (1)	1 (1)	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
	Manhattan	3	-	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-
	Pakistan	3	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-
	Chailey	2	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-
	Duesseldorf	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	Istanbul	2	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	Albany	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	Emek	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
	Glostrup	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
	Haardt	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
	Kentucky	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	Manchester	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	Muenchen	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	Yovokome	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	Others	4	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
	Not typed	12	-	-	1	-	-	1	3	1	2	2	1	1

1-2. Continued

() : Imported cases included in the total

	TOTAL	1 JAN	2 FEB	3 MAR	4 APR	5 MAY	6 JUN	7 JUL	8 AUG	9 SEP	10 OCT	11 NOV	12 DEC	
GROUP SEROVAR														
O9	Enteritidis	1731 (2)	40	21 (1)	31	34	81	144	209	366	316 (1)	257	137	95
	Javiana	7	1	1	-	-	1	1	-	-	1	-	1	1
	Miyazaki	7	-	-	-	-	1	-	2	-	3	-	1	-
	Panama	2	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-
	Eastbourne	1 (1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	Berta	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
	Blegdam	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
	Dublin	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	Pensacola	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	Others	7	-	-	-	3	2	-	2	-	-	-	-	-
	Not typed	134	1	1	-	-	6	39	1	21	46	17	2	-
O3,10	Anatum	20	1	1	1	3	1	1	3	-	7	1	-	1
	Weitevreden	17 (1)	2	1	2 (1)	-	3	2	1	3	1	1	1	-
	Muenster	9	-	-	2	2	1	-	-	1	-	3	-	-
	London	5	-	1	-	-	1	-	1	2	-	-	-	-
	Falkensee	4	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-
	Suberu	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-
	Lexington	1 (1)	-	-	-	1 (1)	-	-	-	-	-	-	-	-
	Amager	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	Amsterdam	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	Meleagridis	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
	Orion	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	Not typed	3	-	-	-	1	-	-	2	-	-	-	-	-
O1,3,19	Senftenberg	5	1	-	-	-	-	2	1	-	1	-	-	-
	Liverpool	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
	Others	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	Not typed	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
O11	Aberdeen	3	-	-	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-
O13	Havana	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-
	Kedougou	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	Not typed	10	1	-	-	-	1	-	1	1	1	2	3	-
O6,14	Others	3	-	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
O16	Gaminara	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	Hvittingfloss	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	Shanghai	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	Not typed	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
O18	Cerro	8	1	1	3	-	-	-	-	1	-	-	1	1
	Fluntern	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	Others	2	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
	Not typed	2	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
O28	Pomona	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
O30	Godesberg	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
O35	Alachua	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
	Others	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
O39	Champaign	3	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-

1-3. 月別A群溶血性レンサ球菌T型別の内訳、由来ヒト、2000年
 1-3. Group A *Streptococcus* T serotypes, by month, 2000
 -Prefectural and municipal public health institutes

	TOTAL	1 JAN	2 FEB	3 MAR	4 APR	5 MAY	6 JUN	7 JUL	8 AUG	9 SEP	10 OCT	11 NOV	12 DEC
TYPE													
T1	433	40	38	45	27	53	62	29	18	5	31	30	55
T2	175	41	24	20	6	19	17	5	3	7	18	10	5
T3	15	1	3	1	2	2	-	-	1	-	3	1	1
T4	375	47	44	52	35	62	40	17	4	7	14	24	29
T6	45	3	3	7	6	2	11	3	3	-	4	2	1
T8	7	-	-	-	-	-	-	-	2	2	2	1	-
T9	7	-	1	1	1	2	-	1	-	1	-	-	-
T11	37	4	6	1	3	2	3	1	3	1	5	7	1
T12	816	63	84	64	76	90	104	53	25	18	75	82	82
T13	56	5	4	8	9	6	4	4	1	1	8	2	4
T22	46	1	2	1	10	7	7	6	2	1	3	2	4
T23	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
T25	203	18	16	23	21	27	22	9	5	5	18	16	23
T28	172	11	12	20	14	17	17	12	12	8	16	21	12
TB3264	138	14	8	13	6	16	13	2	8	7	16	18	17
T5/27/44	3	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-
T14/49	4	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	2	-
Untypable	93	8	21	8	7	7	10	3	4	5	9	4	7
Not done	6	-	-	-	1	1	2	1	-	1	-	-	-

1-4. 年別、由来ヒト、1995～2000年

1-4. Isolation of bacteria from human sources, by year, Japan, 1995-2000

-Prefectural and municipal public health institutes

Based on the data received before October 1, 2003

() : Imported cases included in the total

	1995	1996	1997	1998	1999	2000
TOTAL	13636 (2979)	19086 (2001)	16288 (1477)	18610 (1136)	16226 (429)	12096 (315)
<i>Escherichia coli</i>	1539 (863)	5452 (587)	3584 (542)	3561 (440)	3173 (135)	3394 (133)
<i>Shigella</i>						
<i>Shigella dysenteriae</i>	8 (8)	6 (4)	12 (9)	7 (5)	2 (2)	4 (4)
<i>Shigella flexneri</i>	56 (36)	83 (47)	63 (39)	167 (27)	108 (24)	45 (16)
<i>Shigella boydii</i>	17 (13)	7 (5)	12 (8)	1	8 (5)	4 (4)
<i>Shigella sonnei</i>	295 (200)	312 (146)	234 (187)	441 (83)	262 (83)	205 (77)
<i>Shigella</i> species unknown	-	-	5 (1)	-	-	-
<i>Salmonella</i>						
<i>Salmonella</i> Typhi	27 (10)	34 (20)	46 (21)	30 (11)	42 (20)	33 (14)
<i>Salmonella</i> Paratyphi A	41 (19)	12 (8)	15 (9)	32 (6)	12 (7)	9 (5)
<i>Salmonella</i> O2	-	-	-	-	-	1
<i>Salmonella</i> O4	627 (81)	633 (118)	432 (24)	404 (27)	550 (13)	368 (3)
<i>Salmonella</i> O7	849 (72)	857 (61)	689 (37)	548 (35)	2108 (3)	520 (3)
<i>Salmonella</i> O8	509 (98)	426 (43)	639 (32)	450 (42)	290 (6)	255 (3)
<i>Salmonella</i> O9	2484 (154)	4274 (69)	3059 (39)	3262 (44)	2942 (9)	1893 (3)
<i>Salmonella</i> O9,46	1 (1)	2	9 (2)	3 (2)	5	-
<i>Salmonella</i> O3,10	194 (118)	152 (76)	94 (33)	92 (21)	71 (2)	65 (2)
<i>Salmonella</i> O1,3,19	83 (17)	39 (10)	28 (1)	23 (2)	18 (2)	8
<i>Salmonella</i> O11	3
<i>Salmonella</i> O13	25 (1)	28 (3)	20 (2)	18 (4)	10	13
<i>Salmonella</i> O6,14	3
<i>Salmonella</i> O16	4
<i>Salmonella</i> O18	23 (3)	16	30 (1)	12	15	13
<i>Salmonella</i> O28	1
<i>Salmonella</i> O30	2
<i>Salmonella</i> O35	2
<i>Salmonella</i> O39	3
<i>Salmonella</i> other groups	46 (8)	51 (1)	33 (4)	39 (6)	44 (2)	2
<i>Salmonella</i> group unknown	12	10	20	14 (1)	13	10
<i>Listeria monocytogenes</i>	1
<i>Yersinia enterocolitica</i>	26	77	12 (1)	3	4	10
<i>Yersinia pseudotuberculosis</i>	-	-	-	4	-	-
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Ogawa,CT(+)	217 (192)	18 (12)	46 (21)	30 (27)	21 (19)	12 (6)
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Ogawa,CT(-)	3 (3)	2 (2)	3 (2)	3 (1)	3 (3)	-
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Inaba,CT(+)	1 (1)	-	3 (2)	1 (1)	1	1 (1)
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Inaba,CT(-)	-	-	1 (1)	-	1 (1)	1 (1)
<i>Vibrio cholerae</i> O139,CT(+)	-	-	-	-	-	-
<i>Vibrio cholerae</i> O139,CT(-)	-	-	-	-	1	1
<i>Vibrio cholerae</i> non-O1&O139	90 (65)	45 (28)	35 (19)	22 (11)	7 (2)	10 (1)
<i>Vibrio parahaemolyticus</i>	1304 (85)	1065 (88)	1585 (69)	2560 (53)	1960 (10)	698 (15)
<i>Vibrio fluvialis</i>	14 (7)	13 (4)	10	23 (5)	11	-
<i>Vibrio mimicus</i>	11 (9)	4	3 (2)	2 (1)	-	-
<i>Aeromonas hydrophila</i>	30 (18)	25 (17)	33 (17)	33 (3)	9 (2)	13
<i>Aeromonas sobria</i>	59 (54)	45 (40)	24 (18)	43 (16)	7 (2)	12
<i>Aeromonas hydrophila/sobria</i>	140 (135)	122 (118)	97 (82)	74 (74)	8 (7)	2
<i>Plesiomonas shigelloides</i>	575 (542)	366 (325)	183 (130)	156 (100)	59 (25)	50 (9)
<i>Campylobacter jejuni</i>	534 (36)	802 (36)	1193 (69)	878 (44)	837 (38)	737
<i>Campylobacter coli</i>	16 (3)	17 (9)	48 (23)	33 (3)	39 (1)	20
<i>Campylobacter jejuni/coli</i>	141 (125)	174 (124)	87 (30)	139 (36)	44 (5)	35 (4)
<i>Staphylococcus aureus</i>	334	328	407	762	366 (1)	351
<i>Clostridium perfringens</i>	363	354	449	1203 (4)	364	247 (4)
<i>Clostridium botulinum</i> E	5	-	1	-	-	-
<i>Clostridium botulinum</i> non-E	-	-	-	-	1	-
<i>Bacillus cereus</i>	63	33	23	71	37	11
<i>Entamoeba histolytica</i>	4 (1)	55	18	4	8	-
<i>Cryptosporidium</i>	.	.	-	-	-	1 (1)
<i>Giardia lamblia</i>	-	-	-	-	-	1 (1)
<i>Streptococcus</i> A	2523	2822	2665	2967	2294	2633
<i>Streptococcus</i> B	151	114	107	137	98	111
<i>Streptococcus</i> C	12	10	24	50	33	16
<i>Streptococcus</i> G	80	88	90	97	73	66
<i>Streptococcus</i> others	-	-	-	-	-	1
<i>Streptococcus</i> unknown	2	2	3	5	1	2
<i>Streptococcus pneumoniae</i>	19	7	22	46	34	7
<i>Bordetella pertussis</i>	4	3	-	-	1	4
<i>Legionella pneumophila</i>	-	1	-	-	12	49
<i>Legionella</i> others	7
<i>Mycobacterium tuberculosis</i>	-	-	-	-	-	3
<i>Mycobacterium avium</i> - intracellulare complex	1
<i>Haemophilus influenzae</i> b	4
<i>Haemophilus influenzae</i> non-b	37
<i>Haemophilus influenzae</i> NT	12	20	9	6	51	-
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	25	14	12	5	1	-
<i>Neisseria meningitidis</i>	-	-	2	-	-	4
<i>Neisseria gonorrhoeae</i>	38	57	62	77	82	76
<i>Leptospira</i> spp.	1 (1)	-	-	-	11	1
<i>Plasmodium</i> spp.	-	-	-	1 (1)	-	-
Others	3	9	7	71	74	.

*Not included in the survey

1-4. Continued

E. coli categorized by pathogenicity

(): Imported cases included in the total

	1995	1996	1997	1998	1999	2000
Verotoxin-producing <i>Escherichia coli</i> (EHEC/VTEC)	27 (2)	2793 (3)	1782 (5)	2055 (25)	1835 (1)	2195 (14)
Enterotoxigenic <i>Escherichia coli</i> (ETEC)	972 (615)	1203 (422)	670 (410)	518 (304)	492 (117)	237 (109)
Enteroinvasive <i>Escherichia coli</i> (EIEC)	29 (16)	47 (16)	66 (6)	13 (3)	15 (2)	5 (1)
Enteropathogenic <i>Escherichia coli</i> serotype (EPEC)	407 (157)	1130 (99)	848 (81)	844 (93)	686 (15)	573 (8)
<i>Escherichia coli</i> other/unknown	104 (73)	279 (47)	218 (40)	131 (15)	145	384 (6)

Shigella serovars

	1995	1996	1997	1998	1999	2000
<i>Shigella dysenteriae</i> 2	2 (2)	3 (1)	1 (1)	4 (3)	2 (2)	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 3	1 (1)	-	1 (1)	-	-	1 (1)
<i>Shigella dysenteriae</i> 4	1 (1)	-	3 (3)	1 (1)	-	3 (3)
<i>Shigella dysenteriae</i> 6	-	-	1 (1)	-	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 7	-	1 (1)	-	-	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 8	1 (1)	2 (2)	-	-	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 9	2 (2)	-	2 (1)	-	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 12	1 (1)	-	2 (2)	-	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> other serovars	-	-	-	2 (1)	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> others/unknown	-	-	2	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 1a	-	1 (1)	1 (1)	1	1	1
<i>Shigella flexneri</i> 1b	11 (8)	10 (7)	6 (5)	7 (6)	1	3 (1)
<i>Shigella flexneri</i> 1	-	1	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 2a	12 (4)	30 (15)	23 (15)	133 (8)	88 (17)	17 (7)
<i>Shigella flexneri</i> 2b	3 (2)	5 (4)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)
<i>Shigella flexneri</i> 3a	7 (4)	11 (1)	19 (10)	10 (6)	5 (1)	7 (2)
<i>Shigella flexneri</i> 3b	1 (1)	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 4a	2 (2)	5 (3)	2	-	-	1
<i>Shigella flexneri</i> 4	1 (1)	3 (2)	2 (2)	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 5a	-	-	-	-	5	-
<i>Shigella flexneri</i> 6	8 (7)	10 (9)	3 (3)	4 (4)	2 (2)	5 (4)
<i>Shigella flexneri</i> var.X	7 (3)	2 (1)	-	1 (1)	-	1 (1)
<i>Shigella flexneri</i> var.Y	-	1 (1)	3 (2)	1	-	3
<i>Shigella flexneri</i> other serovars	-	-	-	4	1	-
<i>Shigella flexneri</i> serovar unknown	-	-	-	5 (1)	4 (3)	6
<i>Shigella flexneri</i> others/unknown	4 (4)	4 (3)	3	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 1	4 (3)	-	1 (1)	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 2	3 (3)	2 (1)	1 (1)	1	2 (2)	2 (2)
<i>Shigella boydii</i> 4	2	4 (3)	2 (2)	-	3 (2)	1 (2)
<i>Shigella boydii</i> 5	1 (1)	-	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 8	-	-	1 (1)	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 9	4 (4)	-	-	-	1 (1)	-
<i>Shigella boydii</i> 10	-	-	2 (1)	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 11	1 (1)	-	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 12	1 (1)	-	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 14	-	-	-	-	-	1 (1)
<i>Shigella boydii</i> 16	1	-	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 17	-	-	1 (1)	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 18	-	-	3 (1)	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> serovar unknown	-	-	-	-	2	-
<i>Shigella boydii</i> others/unknown	-	1 (1)	1	-	-	-
<i>Shigella sonnei</i>	295 (200)	312 (146)	234 (187)	441 (83)	262 (83)	205 (77)
<i>Shigella</i> species unknown	-	-	5 (1)	-	-	-

*Not included in the survey

1-5. 病原体個票による報告、月別、由来ヒト、2000年

1-5. Individual reports of bacteria isolation from human sources, by month, Japan, 2000

-Prefectural and municipal public health institutes

Based on the data received before October 1, 2003

() : Imported cases included in the total

	TOTAL	1 JAN	2 FEB	3 MAR	4 APR	5 MAY	6 JUN
TOTAL	3967 (194)	156 (9)	158 (20)	217 (14)	217 (33)	329 (18)	467 (12)
Verotoxin-producing <i>Escherichia coli</i> (EHEC/VTEC)*	1779 (11)	33	41	24	42	119	213 (1)
Enterotoxigenic <i>Escherichia coli</i> (ETEC)*	36 (20)	4 (4)	11 (2)	1 (1)	1 (1)	9 (5)	2 (1)
Enteroinvasive <i>Escherichia coli</i> (EIEC)*	3	-	-	-	-	1	-
Enteropathogenic <i>Escherichia coli</i> serotype (EPEC)*	189 (5)	7	13 (1)	18	14	18	11
<i>Escherichia coli</i> others	219	14	11	49	18	13	18
<i>Salmonella</i> Typhi*	24 (17)	2 (2)	1 (1)	4 (2)	5 (4)	3 (2)	5 (3)
<i>Salmonella</i> Paratyphi A	4 (4)	-	-	-	1 (1)	-	-
<i>Salmonella</i> O4*	50	2	2	-	-	3	1
<i>Salmonella</i> O7*	54 (1)	2	1	1	1	1	13
<i>Salmonella</i> O8*	18 (2)	1 (1)	-	-	2	-	3
<i>Salmonella</i> O9*	328 (1)	10	2	7	8	21	60
<i>Salmonella</i> O3,10*	13	2	-	-	-	1	1
<i>Salmonella</i> O13	1	-	-	-	-	-	-
<i>Salmonella</i> O6,14	1	-	-	-	-	-	-
<i>Salmonella</i> O16	1	-	-	-	-	-	-
<i>Salmonella</i> O18*	4	-	-	-	-	-	1
<i>Salmonella</i> O35	1	1	-	-	-	-	-
<i>Salmonella</i> group unknown	1	1	-	-	-	-	-
<i>Vibrio cholerae</i> O1: El Tor, Ogawa, CT(+)	11 (6)	-	1 (1)	-	-	-	-
<i>Vibrio cholerae</i> non-O1&O139	2	-	-	-	-	-	-
<i>Vibrio parahaemolyticus</i> *	80 (3)	1	-	-	2	4 (2)	-
<i>Vibrio fluvialis</i>	1	-	-	-	-	-	-
<i>Vibrio furnissii</i>	1	-	-	-	-	-	-
<i>Vibrio vulnificus</i>	1	-	-	-	-	-	-
<i>Aeromonas hydrophila</i>	5	-	2	-	3	-	-
<i>Aeromonas sobria</i>	2	-	-	1	-	-	-
<i>Aeromonas hydrophila/sobria</i>	1 (1)	-	1 (1)	-	-	-	-
<i>Plesiomonas shigelloides</i>	16 (6)	-	1 (1)	-	1 (1)	-	10 (1)
<i>Campylobacter jejuni</i> *	174 (5)	14	6 (1)	7	20 (1)	23	23
<i>Campylobacter coli</i>	13	1	1	2	2	3	1
<i>Campylobacter jejuni/coli</i>	30 (9)	1	5 (4)	2	5	2 (1)	4
<i>Staphylococcus aureus</i> *	68	4	7	7	2	5	10
<i>Bacillus cereus</i>	3	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 2	1 (1)	-	-	1 (1)	-	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 4	3 (3)	-	-	-	1 (1)	-	1 (1)
<i>Shigella flexneri</i> 1a	1	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 1b	4 (1)	-	-	2 (1)	1	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 2a	15 (8)	-	1 (1)	1	-	2	2 (2)
<i>Shigella flexneri</i> 2b	1 (1)	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 3a	4 (3)	-	1 (1)	-	-	-	1 (1)
<i>Shigella flexneri</i> 4a	2 (2)	1 (1)	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 6	4 (4)	-	-	1 (1)	-	2 (2)	-
<i>Shigella flexneri</i> var.X	1 (1)	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> var.Y	3	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 2	2 (2)	-	1 (1)	-	-	-	1 (1)
<i>Shigella boydii</i> 4	1 (1)	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 14	1 (1)	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella sonnei</i>	122 (74)	5 (1)	8 (5)	10 (8)	29 (23)	9 (6)	2 (1)
<i>Cryptosporidium</i>	1 (1)	-	-	-	1 (1)	-	-
<i>Streptococcus pyogenes</i> * (<i>Streptococcus</i> A)	605	44	39	70	45	88	77
<i>Streptococcus agalactiae</i> (<i>Streptococcus</i> B)	3	-	-	-	-	-	-
<i>Streptococcus</i> C	2	1	-	-	-	-	-
<i>Streptococcus</i> G	2	-	-	-	-	-	1
<i>Enterococcus galinarum</i> var.C	1	-	-	1	-	-	-
<i>Bordetella pertussis</i>	2	2	-	-	-	-	-
<i>Legionella pneumophila</i> serogroup 1	15	1	-	5	8	-	-
<i>Legionella pneumophila</i> serogroup unknown	8	-	-	-	2	1	3
<i>Mycobacterium tuberculosis</i>	1	-	-	-	-	-	1
<i>Haemophilus influenzae</i>	4	-	-	1	-	-	-
<i>Neisseria gonorrhoeae</i>	21	1	2	2	3	1	2
<i>Leptospira borgpetersenii</i> serovar javanica	1	-	-	-	-	-	-
<i>Cryptococcus neoformans</i>	1	1	-	-	-	-	-
Others	1	-	-	-	-	-	-

1-5. Continued-1

	() : Imported cases included in the total					
	7 JUL	8 AUG	9 SEP	10 OCT	11 NOV	12 DEC
TOTAL	515 (14)	610 (22)	458 (18)	335 (19)	287 (11)	218 (4)
Verotoxin-producing <i>Escherichia coli</i> (EHEC/VTEC)*	288 (2)	381 (2)	298 (2)	149 (3)	147 (1)	44
Enterotoxigenic <i>Escherichia coli</i> (ETEC)*	1	4 (3)	1 (1)	2 (2)	-	-
Enteroinvasive <i>Escherichia coli</i> (EIEC)*	2	-	-	-	-	-
Enteropathogenic <i>Escherichia coli</i> serotype (EPEC)*	16	14 (1)	2	6 (1)	10 (2)	60
<i>Escherichia coli</i> others	22	15	9	7	19	24
<i>Salmonella</i> Typhi*	1	1 (1)	1 (1)	-	-	1 (1)
<i>Salmonella</i> Paratyphi A	-	1 (1)	1 (1)	1 (1)	-	-
<i>Salmonella</i> O4*	14	6	11	6	1	4
<i>Salmonella</i> O7*	6	15	9 (1)	1	3	1
<i>Salmonella</i> O8*	1	3	7 (1)	-	1	-
<i>Salmonella</i> O9*	55	53	46	38	14 (1)	14
<i>Salmonella</i> O3,10*	2	5	-	2	-	-
<i>Salmonella</i> O13	-	-	-	-	-	1
<i>Salmonella</i> O6,14	-	-	1	-	-	-
<i>Salmonella</i> O16	1	-	-	-	-	-
<i>Salmonella</i> O18*	-	3	-	-	-	-
<i>Salmonella</i> O35	-	-	-	-	-	-
<i>Salmonella</i> group unknown	-	-	-	-	-	-
<i>Vibrio cholerae</i> O1: El Tor, Ogawa, CT(+)	3 (3)	1	5 (1)	1 (1)	-	-
<i>Vibrio cholerae</i> non-O1&O139	-	2	-	-	-	-
<i>Vibrio parahaemolyticus</i> *	20	40	8	3	1	1 (1)
<i>Vibrio fluvialis</i>	-	1	-	-	-	-
<i>Vibrio furnissii</i>	-	-	1	-	-	-
<i>Vibrio vulnificus</i>	-	-	-	1	-	-
<i>Aeromonas hydrophila</i>	-	-	-	-	-	-
<i>Aeromonas sobria</i>	-	1	-	-	-	-
<i>Aeromonas hydrophila/sobria</i>	-	-	-	-	-	-
<i>Plesiomonas shigelloides</i>	1	1 (1)	1 (1)	1 (1)	-	-
<i>Campylobacter jejuni</i> *	15	25 (3)	9	17	5	10
<i>Campylobacter coli</i>	-	3	-	-	-	-
<i>Campylobacter jejuni/coli</i>	3	4 (2)	2 (2)	1	1	-
<i>Staphylococcus aureus</i> *	1	5	12	2	12	1
<i>Bacillus cereus</i>	-	-	2	-	1	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 2	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 4	-	1 (1)	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 1a	-	-	1	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 1b	-	-	1	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 2a	5 (3)	2 (2)	-	1	1	-
<i>Shigella flexneri</i> 2b	-	-	-	-	1 (1)	-
<i>Shigella flexneri</i> 3a	1 (1)	-	-	1	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 4a	-	-	-	1 (1)	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 6	-	-	-	-	-	1 (1)
<i>Shigella flexneri</i> var.X	-	-	1 (1)	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> var.Y	-	-	-	-	3	-
<i>Shigella boydii</i> 2	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 4	-	-	-	1 (1)	-	-
<i>Shigella boydii</i> 14	-	-	-	-	1 (1)	-
<i>Shigella sonnei</i>	15 (5)	7 (5)	6 (6)	24 (8)	5 (5)	2 (1)
<i>Cryptosporidium</i>	-	-	-	-	-	-
<i>Streptococcus pyogenes</i> * (<i>Streptococcus</i> A)	39	14	21	62	54	52
<i>Streptococcus agalactiae</i> (<i>Streptococcus</i> B)	-	-	-	-	3	-
<i>Streptococcus</i> C	-	-	-	-	1	-
<i>Streptococcus</i> G	-	-	1	-	-	-
<i>Enterococcus galinarum</i> var.C	-	-	-	-	-	-
<i>Bordetella pertussis</i>	-	-	-	-	-	-
<i>Legionella pneumophila</i> serogroup 1	-	-	-	-	-	1
<i>Legionella pneumophila</i> serogroup unknown	-	-	-	1	1	-
<i>Mycobacterium tuberculosis</i>	-	-	-	-	-	-
<i>Haemophilus influenzae</i>	-	-	-	2	-	1
<i>Neisseria gonorrhoeae</i>	3	2	1	2	2	-
<i>Leptospira borgpetersenii</i> serovar javanica	-	-	-	1	-	-
<i>Cryptococcus neoformans</i>	-	-	-	-	-	-
Others	-	-	-	1	-	-

1-5. Continued-2

* EHEC/VTEC serotypes	() : Imported cases included in the total						
	TOTAL	1 JAN	2 FEB	3 MAR	4 APR	5 MAY	6 JUN
O157:H7	1007 (4)	21	30	9	24	76	116 (1)
O157:H-	105	4	-	2	2	2	7
O157:HNT	129	2	7	6	3	3	22
O25:H-	1	-	-	-	-	-	1
O26:H11	291 (1)	1	1	2	4	20	36
O26:H-	41	-	-	2	-	3	9
O26:HNT	59	2	-	1	-	4	8
O55:HNT	1	-	-	-	-	-	-
O91:H14	7	1	1	-	-	-	-
O91:H-	2	-	-	-	-	-	-
O91:HNT	3	-	-	1	-	-	-
O103:H2	9	-	-	-	-	4	3
O103:HNT	9	-	-	-	-	-	2
O111:H9	1	-	-	-	-	-	-
O111:H-	31 (4)	-	-	-	3	1	2
O111:HNT	12	-	-	-	1	-	3
O114:HNT	1	-	-	-	-	-	-
O115:H10	3	-	-	-	-	-	-
O121:H19	4	-	-	-	-	1	-
O128:H2	1	-	-	-	-	-	1
O128:H-	2	-	-	-	-	-	-
O128:HNT	2 (1)	-	-	-	-	-	-
O145:H-	1	-	1	-	-	-	-
O153:HNT	1	1	-	-	-	-	-
O161:H-	1	-	-	-	1	-	-
OUT:H2	1	-	-	-	-	-	-
OUT:H19	3	-	-	-	-	-	-
OUT:H-	10 (1)	-	-	-	-	3	1
OUT:HNT	14	-	-	1	3	2	1
OUT:HUT	10	-	-	-	1	-	-
rough:H-	1	-	-	-	-	-	-
Others	16	1	1	-	-	-	1
* ETEC serotypes							
O6	5 (4)	-	1 (1)	1 (1)	-	-	-
O25	3 (3)	-	-	-	-	-	-
O148	1 (1)	-	-	-	-	-	1 (1)
O169	8 (4)	2 (2)	-	-	1 (1)	5 (1)	-
* EIEC serotypes							
O143	1	-	-	-	-	-	-
* EPEC serotypes							
O1	64	4	8	10	4	8	8
O18	17	1	-	4	1	5	-
O44	12	-	1	-	2	2	-
O128	3	-	-	-	2	-	-
O159	1	-	-	-	-	-	-
* <i>Salmonella</i> Typhi phage types							
D2	1 (1)	-	-	-	-	-	-
E1	2 (1)	-	-	1 (1)	-	-	-
M1	1 (1)	-	-	-	-	1 (1)	-
UVS1	2 (2)	1 (1)	-	-	-	-	-
* <i>Salmonella</i> serovars							
O4 Typhimurium	25	-	-	-	-	-	-
O4 Saintpaul	7	2	-	-	-	-	-
O4 Agama	5	-	-	-	-	-	-
O4 Derby	3	-	2	-	-	1	-
O4 Schleissheim	2	-	-	-	-	2	-
O4 Agona	1	-	-	-	-	-	1
O4 Haifa	1	-	-	-	-	-	-
O4 Heidelberg	1	-	-	-	-	-	-
O4 Paratyphi B	1	-	-	-	-	-	-
O4 Stanley	1	-	-	-	-	-	-
O7 Isangi	12	-	-	-	-	-	-
O7 infantis	10	1	-	1	1	1	1
O7 Thompson	10	-	-	-	-	-	6
O7 Bareilly	7	-	-	-	-	-	2
O7 Virchow	5	-	-	-	-	-	2
O7 Oranienburg	3	-	-	-	-	-	2
O7 Mbandaka	1	-	-	-	-	-	-
O7 Othmarschen	1	-	-	-	-	-	-

1-5. Continued-3

* EHEC/VTEC serotypes	() : Imported cases included in the total					
	7 JUL	8 AUG	9 SEP	10 OCT	11 NOV	12 DEC
O157:H7	173	208 (1)	158 (1)	109 (1)	68	15
O157:H-	5	9	12	2	53	7
O157:HNT	22	23	23	7	8	3
O25:H-	-	-	-	-	-	-
O26:H11	57 (1)	88	64	6	7	5
O26:H-	7	4	13	2	1	-
O26:HNT	10	9	7	6	1	11
O55:HNT	-	1	-	-	-	-
O91:H14	-	1	3	-	1	-
O91:H-	-	1	1	-	-	-
O91:HNT	-	-	-	2	-	-
O103:H2	-	1	-	-	1	-
O103:HNT	2	1	4	-	-	-
O111:H9	1	-	-	-	-	-
O111:H-	1 (1)	15	4 (1)	3 (1)	2 (1)	-
O111:HNT	1	3	3	-	1	-
O114:HNT	-	1	-	-	-	-
O115:H10	1	1	-	1	-	-
O121:H19	1	1	-	-	1	-
O128:H2	-	-	-	-	-	-
O128:H-	-	-	-	2	-	-
O128:HNT	-	2 (1)	-	-	-	-
O145:H-	-	-	-	-	-	-
O153:HNT	-	-	-	-	-	-
O161:H-	-	-	-	-	-	-
OUT:H2	-	-	-	1	-	-
OUT:H19	-	2	1	-	-	-
OUT:H-	2	2	1	1 (1)	-	-
OUT:HNT	-	-	1	2	2	2
OUT:HUT	1	4	2	1	1	-
rough:H-	1	-	-	-	-	-
Others	3	4	1	4	-	1
* ETEC serotypes						
O6	-	2 (1)	-	1 (1)	-	-
O25	-	1 (1)	1 (1)	1 (1)	-	-
O148	-	-	-	-	-	-
O169	-	-	-	-	-	-
* EIEC serotypes						
O143	1	-	-	-	-	-
* EPEC serotypes						
O1	6	5	-	1	2	8
O18	-	-	2	2	-	2
O44	2	1	-	-	3	1
O128	1	-	-	-	-	-
O159	-	-	-	1	-	-
* <i>Salmonella</i> Typhi phage types						
D2	-	-	-	-	-	1 (1)
E1	1	-	-	-	-	-
M1	-	-	-	-	-	-
UVS1	-	1 (1)	-	-	-	-
* <i>Salmonella</i> serovars						
O4 Typhimurium	11	2	4	6	-	2
O4 Saintpaul	-	3	1	-	-	1
O4 Agama	-	1	4	-	-	-
O4 Derby	-	-	-	-	-	-
O4 Schleissheim	-	-	-	-	-	-
O4 Agona	-	-	-	-	-	-
O4 Haifa	1	-	-	-	-	-
O4 Heidelberg	1	-	-	-	-	-
O4 Paratyphi B	-	-	-	-	-	1
O4 Stanley	-	-	-	-	1	-
O7 Isangi	-	12	-	-	-	-
O7 infantis	2	1	2	-	-	-
O7 Thompson	3	-	-	-	-	1
O7 Bareilly	1	-	3	1	-	-
O7 Virchow	-	-	2	-	1	-
O7 Oranienburg	-	-	-	-	1	-
O7 Mbandaka	-	1	-	-	-	-
O7 Othmarschen	-	1	-	-	-	-

1-5. Continued-4

* *Salmonella* serovars (Continued)

() : Imported cases included in the total

	TOTAL	1 JAN	2 FEB	3 MAR	4 APR	5 MAY	6 JUN
O8 Newport	5 (1)	-	-	-	1	-	1
O8 Corvallis	5	-	-	-	1	-	-
O8 Kottbus	2 (1)	1 (1)	-	-	-	-	-
O8 Hadar	2	-	-	-	-	-	-
O8 Nagoya	2	-	-	-	-	-	1
O8 Manchester	1	-	-	-	-	-	-
O8 Manhattan	1	-	-	-	-	-	1
O9 Enteritidis	319 (1)	9	2	7	8	20	60
O9 Blegdam	1	-	-	-	-	-	-
O9 Javiana	1	1	-	-	-	-	-
O9 Pensacola	1	-	-	-	-	-	-
O3,10 Weltevreden	9	2	-	-	-	1	1
O3,10 Anatum	1	-	-	-	-	-	-
O3,10 Meleagridis	1	-	-	-	-	-	-
O3,10 Suberu	1	-	-	-	-	-	-
O18 Fluntern	1	-	-	-	-	-	1

* *Vibrio parahaemolyticus* serotypes

K6	1	-	-	-	-	-	-
O1:K25	4	-	-	-	-	-	-
O3:K6	51 (2)	1	-	-	2	3 (1)	-
O3:K29	2	-	-	-	-	-	-
O4:K8	5	-	-	-	-	-	-
O4:K11	1	-	-	-	-	-	-
O4:K63	1	-	-	-	-	-	-
O4:K68	3 (1)	-	-	-	-	1 (1)	-

* *Campylobacter jejuni* serotypes

LIO2	3	-	-	-	-	-	1
LIO4	1	-	-	-	-	1	-
LIO7	3	1	-	-	-	-	1
LIO11	2	-	-	-	2	-	-
LIO50	1	-	1	-	-	-	-
TCK12	1	-	-	-	-	-	-
TCK13	2	-	-	-	-	2	-
Penner D	1	-	-	-	-	-	-
Penner O	2	-	-	-	-	-	-

* *Staphylococcus aureus* coagulase types

I	1	-	-	-	-	1	-
II	2	-	-	-	-	-	-
III	7	-	-	-	-	1	-
IV	1	-	1	-	-	-	-
V	3	-	1	-	1	-	-
VI	1	-	-	-	-	-	-
VII	24	-	1	4	-	-	-
VIII	1	-	-	1	-	-	-
Untypable	2	-	-	-	-	-	-

* *Streptococcus pyogenes* T serotypes

T1	96	10	11	11	5	22	15
T2	40	9	3	4	4	7	4
T3	1	-	1	-	-	-	-
T4	74	5	7	11	5	14	12
T6	4	2	1	-	-	-	1
T11	5	-	1	-	-	-	1
T12	245	8	11	31	16	29	30
T13	7	1	1	1	2	-	-
T22	16	-	-	1	5	3	2
T23	1	-	-	-	-	-	-
T25	24	1	-	-	-	1	2
T28	34	4	3	6	2	5	4
TB3264	30	2	-	5	2	5	3
T14/19	2	-	-	-	-	-	-
Untypable	19	1	-	-	3	1	1

1-5. Continued-5

* <i>Salmonella</i> serovars (Continued)	() : Imported cases included in the total					
	7 JUL	8 AUG	9 SEP	10 OCT	11 NOV	12 DEC
O8 Newport	-	-	3 (1)	-	-	-
O8 Corvallis	-	1	3	-	-	-
O8 Kottbus	-	1	-	-	-	-
O8 Hader	1	-	-	-	1	-
O8 Nagoya	-	-	1	-	-	-
O8 Manchester	-	1	-	-	-	-
O8 Manhattan	-	-	-	-	-	-
O9 Enteritidis	55	49	45	37	14 (1)	13
O9 Blegdam	-	-	-	1	-	-
O9 Javiana	-	-	-	-	-	-
O9 Pensacola	-	1	-	-	-	-
O3,10 Weltevreden	1	3	-	1	-	-
O3,10 Anatum	-	1	-	-	-	-
O3,10 Meleagridis	-	-	-	1	-	-
O3,10 Suberu	1	-	-	-	-	-
O18 Fluntern	-	-	-	-	-	-
* <i>Vibrio parahaemolyticus</i> serotypes						
K6	-	-	1	-	-	-
O1:K25	2	2	-	-	-	-
O3:K6	10	29	2	2	1	1 (1)
O3:K29	-	1	1	-	-	-
O4:K8	3	2	-	-	-	-
O4:K11	-	1	-	-	-	-
O4:K63	1	-	-	-	-	-
O4:K68	-	-	2	-	-	-
* <i>Campylobacter jejuni</i> serotypes						
LIO2	1	-	-	1	-	-
LIO4	-	-	-	-	-	-
LIO7	-	1	-	-	-	-
LIO11	-	-	-	-	-	-
LIO50	-	-	-	-	-	-
TCK12	1	-	-	-	-	-
TCK13	-	-	-	-	-	-
Penner D	-	-	-	1	-	-
Penner O	-	-	-	-	-	2
* <i>Staphylococcus aureus</i> coagulase types						
I	-	-	-	-	1	1
II	-	-	-	-	-	-
III	-	2	4	-	-	-
IV	-	-	-	-	-	-
V	-	-	-	-	1	-
VI	-	-	1	-	-	-
VII	1	2	6	1	9	-
VIII	-	-	-	-	-	-
Untypable	-	-	1	-	1	-
* <i>Streptococcus pyogenes</i> T serotypes						
T1	5	2	2	5	2	6
T2	2	1	1	3	-	2
T3	-	-	-	-	-	-
T4	8	-	2	4	3	3
T6	-	-	-	-	-	-
T11	1	2	-	-	-	-
T12	17	2	8	36	28	29
T13	-	-	-	1	1	-
T22	-	1	-	1	1	2
T23	-	-	-	-	-	1
T25	2	-	2	6	6	4
T28	1	3	2	-	3	1
TB3264	-	1	1	1	7	3
T14/19	-	-	-	-	2	-
Untypable	2	2	2	5	1	1

1-6. 集団発生病原体票による報告、由来ヒト、2000年
 1-6. Outbreak reports of bacteria isolation from human sources, Japan, 2000

1-6-1. 月別、2000年
 1-6-1. By month, 2000 - Prefectural and municipal public health institutes

	TOTAL	Based on the data received before October 1, 2003											
		1 JAN	2 FEB	3 MAR	4 APR	5 MAY	6 JUN	7 JUL	8 AUG	9 SEP	10 OCT	11 NOV	12 DEC
TOTAL	442	7	5	2	22	31	49	85	139	48	32	15	7
Verotoxin-producing <i>Escherichia coli</i> (EHEC/VTEC)*	32	-	-	-	-	4	4	1	11	4	4	3	1
Enterotoxigenic <i>Escherichia coli</i> (ETEC)*	20	-	1	-	3	3	2	1	7	2	1	-	-
Enteroinvasive <i>Escherichia coli</i> (EIEC)*	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
Enteropathogenic <i>Escherichia coli</i> serotype (EPEC)*	9	-	1	-	1	3	-	1	1	1	-	1	-
<i>Escherichia coli</i> others	2	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-
<i>Salmonella</i> O4*	15	-	-	-	1	3	1	2	3	4	1	-	-
<i>Salmonella</i> O7*	15	-	-	-	-	-	2	4	4	3	-	-	2
<i>Salmonella</i> O8*	2	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
<i>Salmonella</i> O9*	108	1	-	-	3	6	16	16	28	15	17	4	2
<i>Salmonella</i> O3,10*	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Vibrio parahaemolyticus</i> *	117	-	-	-	3	-	6	37	58	11	1	1	-
<i>Plesiomonas shigelloides</i>	3	-	-	-	-	-	1	-	1	1	-	-	-
<i>Campylobacter jejuni</i> *	49	3	1	-	7	6	11	9	5	2	3	1	1
<i>Campylobacter coli</i>	2	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
<i>Campylobacter jejuni/coli</i>	2	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-
<i>Staphylococcus aureus</i> *	33	1	1	1	3	1	1	6	14	-	2	3	-
<i>Clostridium perfringens</i>	21	2	1	-	1	2	1	4	5	3	-	1	1
<i>Bacillus cereus</i>	3	-	-	-	-	-	1	1	-	1	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 3a	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella sonnei</i>	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1	-
<i>Legionella pneumophila</i> serogroup 1	2	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
* EHEC/VTEC serotypes													
O157:H7	14	-	-	-	-	1	1	-	5	3	3	1	-
O157:H-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
O157:HNT	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
O26:H11	10	-	-	-	-	2	3	-	3	1	-	1	-
O26:H-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
O26:HNT	2	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
O111:H-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
O121:H19	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
OUT:HUT	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
* ETEC serotypes													
O6	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
O25	6	-	-	-	-	-	-	1	4	1	-	-	-
O148	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
O153	2	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-
O169	5	-	-	-	1	2	-	-	1	1	-	-	-
* EIEC serotypes													
O143	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
* EPEC serotypes													
O1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
O18	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
* Salmonella serovars													
O4 Typhimurium	11	-	-	-	1	3	1	2	-	3	1	-	-
O4 Saintpaul	2	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
O4 Heidelberg	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
O4 Schwarzengrund	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
O7 Thompson	4	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	1
O7 Bareilly	2	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-
O7 Isangi	2	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
O7 Montevideo	2	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-
O7 Virchow	2	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-
O7 Infantis	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
O7 Oranienburg	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
O8 Nagoya	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
O9 Enteritidis	107	1	-	-	3	6	16	16	28	15	16	4	2
O3,10 London	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
* Vibrio parahaemolyticus serotypes													
K6	2	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
O1:K25	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
O3:K6	87	-	-	-	2	-	5	25	47	8	-	-	-
O4:K8	3	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-
O4:K55	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
O4:K68	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
* Campylobacter jejuni serotypes													
LIO2	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
LIO4	2	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-
LIO6	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
LIO7	6	2	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
LIO36	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
LIO50	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
TCK13	3	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-
* Staphylococcus aureus coagulase types													
II	8	-	-	-	-	-	-	3	5	-	-	-	-
III	5	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-
IV	4	-	-	-	2	1	-	1	-	-	-	-	-
V	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
VI	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
VII	12	1	-	1	1	-	-	2	3	-	1	3	-
VIII	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-

1-6-2. 感染症発生動向調査2~4類全数報告疾患、2000年

1-6-2. Category II, III and IV notifiable diseases under the National Epidemiological Surveillance of Infectious Diseases, 2000
-Prefectural and municipal public health institutes

Based on the data received before October 1, 2003

Pathogenic bacteria or virus	Reported by	Period	Suspected route of infection	Place of eating food or acquiring infection	Patients	Consumer	Positive cases /examined	Secondary infection
Category II disease: Shigellosis								
<i>S. flexneri</i> 3a	Nagasaki P.	Jun.24-Jul. 1	Person to person	Welfare facility	4		4 / 177	
<i>S. sonnei</i>	Miyazaki P.	Oct.12-	Unknown	Uzbekistan tour	170	502	9 / 126	No
<i>S. sonnei</i>	Ehime P.	Oct.19-28	Foodborne	Restautant	61	310	45 / 400	Yes
<i>S. sonnei</i>	Shizuoka P.	Oct.28-Nov.7	Unknown	Primary school	9		12 / ?	Yes
<i>S. sonnei</i>	Nagano P.	Nov.21-Dec. 5	Unknown	Nursery school	8		6 / 315	
Category III disease: EHEC infection								
EHEC O26:H11 VT1	Nagasaki P.	May 2- 6	Person to person	Nursery school	4		8 / 69	
EHEC O26:H11 VT1	Toyama P.	May 7- 8	Unknown	Home for the aged	1		2 / ?	
EHEC O26:HNT VT1	Okinawa P.	May 9-15	Person to person	Nursery school	3		3 / ?	
EHEC O157:H7 VT1&2	Toyama P.	May 24-28	Foodborne	Hospital			15 / 743	Yes
EHEC O26:H11 VT1	Ishikawa P.	Jun.17-	Unknown	Nursery school	1		16 / 180	Yes
EHEC O157:H7 VT2	Kanagawa P.	Jun.19-	Unknown	Hospital			81 / 842	
EHEC O26:H11 VT1	Osaka P.	Jun.26-Jul.21	Unknown	Nursery school	2	164	20 / 211	Yes
EHEC O26:H11 VT1	Shimane P.	Jun.30-Jul. 6	Unknown		3		7 / ?	Yes
EHEC O157:H7 VT1&2	Tokyo M.	Jul.18-	Foodborne	Restautant	3	6	3 / 6	
EHEC O26:H11 VT1	Shimane P.	Aug. 4-24	Unknown		1		4 / 166	Yes
EHEC O157:H7 VT2	Himeji C.	Aug.11-28	Unknown	Nursery school			4 / 213	
EHEC O26:H11 VT1	Shimane P.	Aug.14-21	Unknown	Unknown	2		3 / ?	Yes
EHEC O157:H7 VT2	Osaka P.	Aug.21-26	Unknown		2	13	11 / 59	Yes
EHEC O26:H- VT1	Shimane P.	Aug.21-27	Unknown		7		11 / ?	Yes
EHEC O157:H7 VT1&2	Toyama P.	Aug.21-31	Unknown	Nursery school	1		4 / 253	
EHEC OUT:HUT VT1	Fukuoka C.	Aug.25-29	Foodborne	Hotel			3 / 22	
EHEC O157:H7 VT1&2	Fukuoka C.	Aug.26-Sep.1	Foodborne	Restautant			2 / 11	
EHEC O26:H11 VT1	Okinawa P.	Aug.26-Sep.11	Person to person	Nursery school	4		4 / ?	
EHEC O111:H- VT1	Toyama P.	Aug.28-Sep. 7	Unknown	Nursery school	2		14 / 240	Yes
EHEC O157:H7 VT1&2	Fukuoka C.	Aug.29-29	Foodborne	Restautant			1 / 8	
EHEC O157:H7 VT1&2	Kanagawa P.	Sep. 4-	Foodborne	Restautant	2		3 / ?	
EHEC O157:H7 VT1&2	Kanagawa P.	Sep. 6-	Foodborne	Restautant			2 / 7	
EHEC O157:H7 VT1&2	Fukuoka C.	Sep.13-14	Foodborne	Restautant			3 / 16	
EHEC O26:H11 VT1	Fukuoka C.	Sep.16-Oct.15	Person to person	Nursery school	8		32 / 251	
EHEC O157:H7 VT2	Tokyo M.	Oct. 4-	Foodborne	Restautant	1	4	2 / 20	
EHEC O157:H7 VT2	Okinawa P.	Oct. 5-16	Person to person	Nursery school			7 / ?	
EHEC O157:H7 VT2	Nagasaki P.	Oct.26-Nov. 4	Person to person	Nursery school	2		4 / 112	
EHEC O157:H- VT2	Chiba P.	Oct.29-Nov.22	Foodborne	Outdoor event	41	569	58 / 1304	Yes
EHEC O121:H19 VT2	Nagasaki P.	Nov. 5-10	Person to person	Nursery school	3		3 / 81	
EHEC O26:H11 VT1	Shizuoka C.	Nov.15-Dec. 4	Unknown		2		19 / 355	No
EHEC O157:H7 VT1&2	Tokushima P.	Nov.28-30	Foodborne	Restautant	5	7	6 / 26	No
EHEC O26:HNT VT1	Saga P.	Dec.12-	Unknown	Nursery school	2		9 / 133	
Category IV notifiable disease: Legionellosis								
<i>L. pneumophila</i> serogroup 1	Shizuoka P.	Mar. 2-Apr. 4	Unknown	Spa resort hotel	23	57000	23 / ?	No
<i>L. pneumophila</i> serogroup 1	Ibaraki P.	May 5-Jul. 3	Unknown	Welfare facility's bath	43	15995	24 / ?	No
Category IV notifiable disease: Hepatitis A								
Hepatitis A virus	Gifu P.	Aug.16-Nov. 5	Foodborne	Restaurant	23		12 / 12	Yes

*P.: Prefectural public health institute

C.: Municipal public health institute

M.: Metropolitan public health institute

2. 病原細菌検出数の検疫所集計、由来ヒト、2000年
 2. Isolation of bacteria from quarantine stations, Japan, 2000

2-1. 月別、由来ヒト、2000年
 2-1. Individual reports of bacteria isolation from human sources, by month, Japan, 2000
 - Quarantine stations

Based on the data received before October 1, 2003
 Imported cases

	TOTAL	1 JAN	2 FEB	3 MAR	4 APR	5 MAY	6 JUN	7 JUL	8 AUG	9 SEP	10 OCT	11 NOV	12 DEC
TOTAL	1932	64	76	223	139	143	88	174	283	264	159	187	132
<i>Escherichia coli</i>	13	-	-	-	2	-	1	1	4	2	1	1	1
<i>Shigella</i>													
<i>Shigella dysenteriae</i>	8	1	1	2	3	-	-	-	-	-	1	-	-
<i>Shigella flexneri</i>	42	3	2	8	7	-	2	1	9	4	2	1	3
<i>Shigella boydii</i>	5	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	2
<i>Shigella sonnei</i>	189	7	10	31	20	11	5	11	24	27	15	12	16
<i>Salmonella</i>													
<i>Salmonella</i> Typhi	2	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Salmonella</i> O4	11	-	1	2	-	-	1	-	3	2	2	-	-
<i>Salmonella</i> O7	18	-	-	1	-	-	3	2	2	3	5	-	2
<i>Salmonella</i> O8	16	-	-	1	-	-	1	1	2	2	3	1	5
<i>Salmonella</i> O9	15	1	-	1	1	2	2	-	1	2	2	-	3
<i>Salmonella</i> O3,10	11	-	-	2	1	1	-	-	3	1	-	2	1
<i>Salmonella</i> O1,3,19	3	-	-	-	2	-	-	1	-	-	-	-	-
<i>Salmonella</i> O13	2	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
<i>Salmonella</i> group unknown	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Ogawa,CT(+)	5	-	-	-	1	1	-	-	1	-	2	-	-
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Ogawa,CT(-)	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
<i>Vibrio cholerae</i> non-O1&O139	107	1	6	9	5	12	5	8	21	10	10	15	5
<i>Vibrio parahaemolyticus</i>	388	14	11	35	14	35	17	55	64	50	31	43	19
<i>Vibrio fluvialis</i>	15	1	-	-	-	2	-	2	6	1	1	-	2
<i>Vibrio mimicus</i>	6	-	-	-	2	1	-	2	-	-	1	-	-
<i>Vibrio furnissii</i>	2	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Aeromonas hydrophila</i>	39	-	1	2	7	3	1	3	10	2	5	4	1
<i>Aeromonas sobria</i>	58	2	2	6	7	6	1	4	4	11	4	7	4
<i>Aeromonas hydrophila / sobria</i>	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-
<i>Plesiomonas shigelloides</i>	973	34	42	118	66	68	49	81	127	146	73	101	68

E. coli categorized by pathogenicity

Enteroinvasive <i>Escherichia coli</i> (EIEC)	6	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	1	1
Enteropathogenic <i>Escherichia coli</i> serotype (EPEC)	7	-	-	-	2	-	1	1	-	2	1	-	-

Shigella serovars

<i>Shigella dysenteriae</i> 2	2	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 3	3	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 9	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 12	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 1a	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 1b	6	1	-	1	2	-	-	1	-	-	-	-	1
<i>Shigella flexneri</i> 2a	10	-	-	4	2	-	1	-	3	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 2b	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 3a	8	1	-	2	1	-	-	-	2	1	1	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 4a	2	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 6	11	1	2	1	1	-	1	-	1	-	1	1	2
<i>Shigella flexneri</i> var.X	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> others	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Shigella boydii</i> 4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Shigella boydii</i> 10	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 13	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 14	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella sonnei</i>	189	7	10	31	20	11	5	11	24	27	15	12	16

2-3. 年別、由来ヒト、1995～2000年
 2-3. By year, 1995-2000 - Quarantine stations

Based on the data received before October 1, 2003
 Imported cases

	1995	1996	1997	1998	1999	2000
TOTAL	3513	3759	3270	3244	2221	1932
<i>Escherichia coli</i>	61	46	20	33	7	13
<i>Shigella</i>						
<i>Shigella dysenteriae</i>	7	8	15	14	7	8
<i>Shigella flexneri</i>	46	59	65	38	44	42
<i>Shigella boydii</i>	13	13	21	15	3	5
<i>Shigella sonnei</i>	298	271	303	230	182	189
<i>Salmonella</i>						
<i>Salmonella</i> Typhi	-	2	-	-	1	2
<i>Salmonella</i> O4	52	51	38	28	18	11
<i>Salmonella</i> O7	60	70	41	36	14	18
<i>Salmonella</i> O8	60	53	39	31	16	16
<i>Salmonella</i> O9	107	90	49	41	27	15
<i>Salmonella</i> O3,10	47	64	27	33	17	11
<i>Salmonella</i> O1,3,19	9	7	2	5	1	3
<i>Salmonella</i> O13	3	4	3	4	1	2
<i>Salmonella</i> O18	1	2	1	2	2	-
<i>Salmonella</i> other groups	5	4	3	3	3	-
<i>Salmonella</i> group unknown	1	-	-	-	-	1
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Ogawa,CT(+)	75	16	8	11	10	5
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Ogawa,CT(-)	1	-	8	4	2	1
<i>Vibrio cholerae</i> O139,CT(+)	-	-	1	-	-	-
<i>Vibrio cholerae</i> O139,CT(-)	-	-	-	1	-	-
<i>Vibrio cholerae</i> non-O1&O139	194	169	131	136	103	107
<i>Vibrio parahaemolyticus</i>	526	590	625	537	395	388
<i>Vibrio fluvialis</i>	35	29	19	20	14	15
<i>Vibrio mimicus</i>	19	8	7	4	4	6
<i>Vibrio furnissii</i>	-	-	-	-	-	2
<i>Aeromonas hydrophila</i>	46	78	78	87	46	39
<i>Aeromonas sobria</i>	163	189	212	255	100	58
<i>Aeromonas hydrophila/sobria</i>	1	-	-	-	-	2
<i>Plesiomonas shigelloides</i>	1677	1932	1554	1675	1203	973
<i>Staphylococcus aureus</i>	2	1	-	-	-	-
<i>Plasmodium</i> spp.	-	-	-	1	-	-
Others	4	3	-	-	1	-

2-3. Continued

<i>E. coli</i> categorized by pathogenicity	Imported cases					
	1995	1996	1997	1998	1999	2000
Enterotoxigenic <i>Escherichia coli</i> (ETEC)	1	5	2	-	-	-
Enteroinvasive <i>Escherichia coli</i> (EIEC)	8	9	3	4	-	6
Enteropathogenic <i>Escherichia coli</i> serotype (EPEC)	52	31	13	26	7	7
<i>Escherichia coli</i> other/unknown	-	1	2	3	-	-
<i>Shigella</i> serovars						
	1995	1996	1997	1998	1999	2000
<i>Shigella dysenteriae</i> 1	-	-	-	1	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 2	2	6	3	8	2	2
<i>Shigella dysenteriae</i> 3	1	-	6	1	2	3
<i>Shigella dysenteriae</i> 4	2	1	1	1	1	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 6	-	-	1	-	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 7	-	1	1	-	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 9	2	-	1	2	1	2
<i>Shigella dysenteriae</i> 12	-	-	1	1	1	1
<i>Shigella dysenteriae</i> others/unknown	-	-	1	•	•	•
<i>Shigella flexneri</i> 1a	1	2	3	-	-	1
<i>Shigella flexneri</i> 1b	4	7	11	6	3	6
<i>Shigella flexneri</i> 2a	9	20	21	12	18	10
<i>Shigella flexneri</i> 2b	-	4	7	2	3	1
<i>Shigella flexneri</i> 3a	8	5	11	8	5	8
<i>Shigella flexneri</i> 4a	1	4	-	2	1	2
<i>Shigella flexneri</i> 4b	1	-	-	1	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 4	2	3	-	-	4	1
<i>Shigella flexneri</i> 5a	-	1	-	1	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 6	16	11	8	5	10	11
<i>Shigella flexneri</i> var.X	-	-	-	-	-	1
<i>Shigella flexneri</i> var.Y	1	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> other serovars	•	•	•	-	-	1
<i>Shigella flexneri</i> serovar unknown	•	•	•	1	-	-
<i>Shigella flexneri</i> others/unknown	3	2	4	•	•	•
<i>Shigella boydii</i> 1	1	1	3	4	1	1
<i>Shigella boydii</i> 2	2	4	6	2	-	-
<i>Shigella boydii</i> 3	-	-	2	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 4	2	5	2	4	1	1
<i>Shigella boydii</i> 5	1	-	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 6	-	-	1	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 8	-	-	3	2	-	-
<i>Shigella boydii</i> 9	-	1	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 10	1	-	1	-	1	1
<i>Shigella boydii</i> 11	2	1	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 12	-	-	-	2	-	-
<i>Shigella boydii</i> 13	2	-	-	-	-	1
<i>Shigella boydii</i> 14	1	1	-	-	-	1
<i>Shigella boydii</i> 18	1	-	3	1	-	-
<i>Shigella sonnei</i>	298	271	303	230	182	189

• Not included in the survey

3. チフス菌・パラチフスA菌のフェージ型別成績、由来ヒト、2000年

3. *S.Typhi* and *S.Paratyphi A* phage types from human sources, Japan, 2000

3-1. チフス菌の月別フェージ型分布、2000年

3-1. *S.Typhi* phage types, by month, 2000

フェージ型別：国立感染症研究所細菌部

Phage typing : Department of Bacteriology, NIID

MONTH OF DIAGNOSIS	PHAGE TYPE OF <i>S. Typhi</i>														TOTAL		
	A	B1	B2	D1	D2	D9	E1	E2	E14	F6	G1	M1	39	DVS*		UVS1**	UVS3***
JAN	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
FEB	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-	4
MAR	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3
APR	(1)	1	1	3	2	-	14	-	-	-	-	-	-	-	1	-	(2)
MAY	-	(1)	(1)	(3)	(1)	2	-	1	-	-	-	1	1	-	-	-	6
JUN	1	-	-	1	(1)	-	-	1	-	-	-	(1)	-	1	-	1	5
JUL	-	-	-	(1)	-	-	-	(1)	-	-	-	-	-	-	1	1	(3)
AUG	-	-	-	-	-	1	1	-	-	1	-	-	-	1	2	-	6
SEP	-	-	-	-	-	(1)	-	-	-	(1)	-	-	-	(1)	(1)	-	(4)
OCT	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	3
NOV	-	-	-	-	(1)	-	(1)	-	-	-	-	1	-	-	-	-	(3)
DEC	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(2)
TOTAL	4	1	1	5	8	1	19	1	1	1	1	2	1	2	8	2	58
	(1)	(1)	(1)	(5)	(6)	(1)	(18)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(7)	(2)	(47)

* DVS : Degraded Vi-positive strain

** UVS1 : Untypable Vi-positive strain, group-1

*** UVS3 : Untypable Vi-positive strain, group-3

() : Imported cases included in the total

3-2. パラチフスA菌の月別フェージ型分布、2000年

3-2. *S.Paratyphi A* phage types, by month, 2000

フェージ型別：国立感染症研究所細菌部

Phage typing : Department of Bacteriology, NIID

MONTH OF DIAGNOSIS	PHAGE TYPE OF <i>S. Paratyphi A</i>							TOTAL
	1	2	3	4	5	6	UT*	
JAN	-	-	-	1	-	-	-	1
FEB	-	-	-	-	-	-	-	-
MAR	-	-	-	-	-	-	-	-
APR	-	-	-	1	-	-	-	1
MAY	-	-	-	(1)	-	-	2	(1)
JUN	-	-	-	-	-	-	-	-
JUL	-	-	-	2	-	-	-	2
AUG	1	-	-	(2)	-	-	-	(2)
SEP	(1)	-	-	1	-	-	-	(2)
OCT	1	1	-	-	-	-	-	2
NOV	(1)	(1)	-	-	-	-	-	(2)
DEC	3	-	-	1	-	-	-	4
	(3)	-	-	(1)	-	-	-	(4)
NOV	-	-	-	-	-	-	-	-
DEC	-	-	-	-	-	-	-	-
TOTAL	5	1	-	6	-	-	2	14
	(5)	(1)	-	(5)	-	-	(1)	(12)

* UT: Untypable

() : Imported cases included in the total

3-3. チフス菌の都道府県別ファージ型分布、2000年

3-3. *S.*Typhi phage types, by place of residence of the source case, 2000

ファージ型別：国立感染症研究所細菌部
Phage typing : Department of Bacteriology, NIID

	PHAGE TYPE OF <i>S.</i> Typhi																TOTAL
	A	B1	B2	D1	D2	D9	E1	E2	E14	F6	G1	M1	39	DVS*	UVS1**	UVS3***	
HOKKAIDO	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
AOMORI	-	-	-	-	-	-	(1)	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
IWATE	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
MIYAGI	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
AKITA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
YAMAGATA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
FUKUSHIMA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
IBARAKI	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
TOCHIGI	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
GUNMA	(1)	-	-	(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(2)
SAITAMA	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3
CHIBA	-	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-	1	-	-	(1)	-	5
TOKYO	-	1	1	(1)	(1)	-	4	-	1	-	-	(1)	-	-	(1)	-	(4)
KANAGAWA	-	(1)	(1)	(1)	(1)	-	(4)	-	(1)	-	-	-	-	-	(1)	-	(10)
NIIGATA	-	-	-	-	-	-	3	-	-	1	-	-	-	-	1	1	6
TOYAMA	-	-	-	-	-	-	(3)	-	-	(1)	-	-	-	-	(1)	(1)	(6)
ISHIKAWA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
FUKUI	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
YAMANASHI	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
NAGANO	-	-	-	-	-	-	(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(1)
GIFU	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SHIZUOKA	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	3
AICHI	-	-	-	-	(1)	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	(1)
MIE	-	-	-	-	-	-	(1)	(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	2
SHIGA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(2)
KYOTO	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
OSAKA	-	-	-	-	-	-	(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(1)
HYOGO	-	-	-	-	-	-	2	-	-	1	1	-	1	-	-	1	6
NARA	1	-	-	-	-	-	(2)	-	-	-	-	-	-	(1)	-	(1)	(4)
WAKAYAMA	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	1	-	-	-	-	5
TOTTORI	-	-	-	-	(1)	-	(3)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(3)
SHIMANE	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
OKAYAMA	-	-	-	-	-	-	(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(1)
HIROSHIMA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
YAMAGUCHI	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
TOKUSHIMA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KAGAWA	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
EHIME	-	-	-	-	-	-	(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(1)
KOCHI	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
FUKUOKA	-	-	-	1	(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
SAGA	-	-	-	(1)	(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
NAGASAKI	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KUMAMOTO	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
OITA	-	-	-	-	(1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(1)
MIYAZAKI	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
KAGOSHIMA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
OKINAWA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
TOTAL	4	1	1	5	8	1	19	1	1	1	1	2	1	2	8	2	58
	(1)	(1)	(1)	(5)	(6)	(1)	(18)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(7)	(2)	(47)

* DVS : Degraded Vi-positive strain

** UVS1 : Untypable Vi-positive strain, group-1

*** UVS3 : Untypable Vi-positive strain, group-3

() : Imported cases included in the total

3-4. パラチフスA菌の都道府県別ファージ型分布、2000年

3-4. *S. Paratyphi A* phage types, by place of residence of the source case, 2000

ファージ型別: 国立感染症研究所細菌部

Phage typing : Department of Bacteriology, NIID

	PHAGE TYPE OF <i>S. Paratyphi A</i>							TOTAL
	1	2	3	4	5	6	UT*	
HOKKAIDO	-	-	-	-	-	-	-	-
AOMORI	-	-	-	-	-	-	-	-
IWATE	-	-	-	-	-	-	-	-
MIYAGI	-	-	-	-	-	-	-	-
AKITA	-	-	-	-	-	-	-	-
YAMAGATA	-	-	-	-	-	-	-	-
FUKUSHIMA	-	-	-	-	-	-	-	-
IBARAKI	-	-	-	-	-	-	-	-
TOCHIGI	-	-	-	-	-	-	-	-
GUNMA	-	-	-	-	-	-	-	-
SAITAMA	-	-	-	-	-	-	-	-
CHIBA	2 (2)	-	-	1	-	-	-	3 (2)
TOKYO	1 (1)	1 (1)	-	1 (1)	-	-	1 (1)	4 (4)
KANAGAWA	-	-	-	1 (1)	-	-	-	1 (1)
NIIGATA	-	-	-	-	-	-	-	-
TOYAMA	-	-	-	-	-	-	-	-
ISHIKAWA	-	-	-	-	-	-	-	-
FUKUI	-	-	-	-	-	-	-	-
YAMANASHI	-	-	-	-	-	-	-	-
NAGANO	-	-	-	-	-	-	-	-
GIFU	-	-	-	-	-	-	-	-
SHIZUOKA	-	-	-	-	-	-	-	-
AICHI	-	-	-	1 (1)	-	-	-	1 (1)
MIE	-	-	-	-	-	-	-	-
SHIGA	-	-	-	-	-	-	-	-
KYOTO	-	-	-	-	-	-	-	-
OSAKA	1 (1)	-	-	2 (2)	-	-	1	4 (3)
HYOGO	-	-	-	-	-	-	-	-
NARA	-	-	-	-	-	-	-	-
WAKAYAMA	-	-	-	-	-	-	-	-
TOTTORI	-	-	-	-	-	-	-	-
SHIMANE	-	-	-	-	-	-	-	-
OKAYAMA	1 (1)	-	-	-	-	-	-	1 (1)
HIROSHIMA	-	-	-	-	-	-	-	-
YAMAGUCHI	-	-	-	-	-	-	-	-
TOKUSHIMA	-	-	-	-	-	-	-	-
KAGAWA	-	-	-	-	-	-	-	-
EHIME	-	-	-	-	-	-	-	-
KOCHI	-	-	-	-	-	-	-	-
FUKUOKA	-	-	-	-	-	-	-	-
SAGA	-	-	-	-	-	-	-	-
NAGASAKI	-	-	-	-	-	-	-	-
KUMAMOTO	-	-	-	-	-	-	-	-
OITA	-	-	-	-	-	-	-	-
MIYAZAKI	-	-	-	-	-	-	-	-
KAGOSHIMA	-	-	-	-	-	-	-	-
OKINAWA	-	-	-	-	-	-	-	-
TOTAL	5 (5)	1 (1)	-	6 (5)	-	-	2 (1)	14 (12)

* UT: untypable

() : Imported cases included in the total

4. 病原細菌検出数の都市立伝染病院集計、由来ヒト、2000年
4. Isolation of bacteria from infectious diseases hospitals, Japan, 2000

4-1. 月別、由来ヒト、2000年

4-1. Individual reports of bacteria from human sources, by month, Japan, 2000
- Infectious diseases hospitals

Based on the data received before October 1, 2003
(): Imported cases included in the total

	TOTAL	1 JAN	2 FEB	3 MAR	4 APR	5 MAY	6 JUN
TOTAL	355 (147)	19 (3)	11 (9)	30 (22)	45 (32)	33 (14)	28 (6)
<i>Escherichia coli</i>	66 (24)	4 (3)	1 (1)	3 (1)	10 (6)	10 (4)	8 (1)
<i>Shigella</i>							
<i>Shigella dysenteriae</i>	1	1	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i>	16 (12)	2	2 (2)	1 (1)	3 (3)	1	2 (1)
<i>Shigella boydii</i>	1	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella sonnei</i>	51 (46)	-	2 (2)	8 (8)	12 (12)	6 (6)	1 (1)
<i>Shigella</i> species unknown	5 (3)	-	-	-	2	-	-
<i>Salmonella</i>							
<i>Salmonella</i> Typhi	17 (16)	-	3 (2)	2 (2)	7 (7)	-	1 (1)
<i>Salmonella</i> Paratyphi A	6 (6)	-	-	-	-	1 (1)	-
<i>Salmonella</i> O4	14 (1)	1	-	-	-	1	3
<i>Salmonella</i> O7	6	-	-	-	-	1	1
<i>Salmonella</i> O8	3 (2)	-	1 (1)	1 (1)	-	-	-
<i>Salmonella</i> O9	44	3	-	2	1	3	3
<i>Salmonella</i> O3,10	3 (1)	-	-	1 (1)	1	-	-
<i>Salmonella</i> other groups	1	-	-	-	-	-	-
<i>Salmonella</i> group unknown	1	1	-	-	-	-	-
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Ogawa,CT(+)	7 (5)	-	-	1 (1)	1 (1)	-	1 (1)
<i>Vibrio parahaemolyticus</i>	19 (4)	-	-	1 (1)	-	-	1 (1)
<i>Aeromonas hydrophila</i>	2 (1)	-	-	-	-	-	-
<i>Aeromonas sobria</i>	1 (1)	-	-	-	-	-	-
<i>Plesiomonas shigelloides</i>	3 (3)	-	-	-	-	1 (1)	-
<i>Campylobacter jejuni</i>	49 (9)	2	1	5 (3)	5 (1)	5	4
<i>Campylobacter coli</i>	1 (1)	-	-	-	1 (1)	-	-
<i>Staphylococcus aureus</i>	1	-	-	-	-	-	-
<i>Entamoeba histolytica</i>	5 (1)	-	-	-	-	-	1
Others	32 (11)	5	1 (1)	5 (3)	2 (1)	4 (2)	2

E. coli categorized by pathogenicity

Verotoxin-producing <i>Escherichia coli</i> (EHEC/VTEC)	27 (2)	-	-	2 (1)	2	2 (1)	6
Enterotoxigenic <i>Escherichia coli</i> (ETEC)	9 (4)	-	-	-	1 (1)	2 (1)	1
Enteroinvasive <i>Escherichia coli</i> (EIEC)	3 (2)	1 (1)	-	-	1 (1)	-	-
Enteropathogenic <i>Escherichia coli</i> serotype (EPEC)	17 (8)	2 (1)	1 (1)	1	3 (1)	5 (2)	-
<i>Escherichia coli</i> other/unknown	10 (8)	1 (1)	-	-	3 (3)	1	1 (1)

Shigella serovars

<i>Shigella dysenteriae</i> 2	1	1	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 1b	2 (2)	-	-	-	2 (2)	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 2a	6 (3)	2	2 (2)	-	-	-	1
<i>Shigella flexneri</i> 2b	1 (1)	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 3a	3 (3)	-	-	1 (1)	1 (1)	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 4a	1 (1)	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 4	1	-	-	-	-	1	-
<i>Shigella flexneri</i> 6	1 (1)	-	-	-	-	-	1 (1)
<i>Shigella flexneri</i> others/unknown	1 (1)	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 4	1	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella sonnei</i>	51 (46)	-	2 (2)	8 (8)	12 (12)	6 (6)	1 (1)
<i>Shigella</i> species unknown	5 (3)	-	-	-	2	-	-

In addition, rotaviruses, SRSV and adenoviruses were detected in 75, 1 and 3 cases, respectively.

4-1. Continued

	(): Imported cases included in the total					
	7	8	9	10	11	12
	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC
TOTAL	40 (8)	48 (17)	34 (14)	36 (11)	24 (9)	7 (2)
<i>Escherichia coli</i>	8 (1)	7 (2)	5 (2)	6 (1)	3 (1)	1 (1)
<i>Shigella</i>						
<i>Shigella dysenteriae</i>	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i>	-	3 (3)	2 (2)	-	-	-
<i>Shigella boydii</i>	-	-	-	1	-	-
<i>Shigella sonnei</i>	2 (1)	6 (6)	6 (5)	3 (2)	4 (2)	1 (1)
<i>Shigella</i> species unknown	1 (1)	-	-	2 (2)	-	-
<i>Salmonella</i>						
<i>Salmonella</i> Typhi	-	2 (2)	1 (1)	1 (1)	-	-
<i>Salmonella</i> Paratyphi A	2 (2)	1 (1)	2 (2)	-	-	-
<i>Salmonella</i> O4	1	4	2 (1)	2	-	-
<i>Salmonella</i> O7	-	2	2	-	-	-
<i>Salmonella</i> O8	1	-	-	-	-	-
<i>Salmonella</i> O9	3	6	7	7	6	3
<i>Salmonella</i> O3,10	1	-	-	-	-	-
<i>Salmonella</i> other groups	-	-	-	1	-	-
<i>Salmonella</i> group unknown	-	-	-	-	-	-
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Ogawa,CT(+)	-	1	1	1 (1)	1 (1)	-
<i>Vibrio parahaemolyticus</i>	7	5	2	2 (1)	1 (1)	-
<i>Aeromonas hydrophila</i>	1	-	-	1 (1)	-	-
<i>Aeromonas sobria</i>	1 (1)	-	-	-	-	-
<i>Plesiomonas shigelloides</i>	1 (1)	-	-	-	1 (1)	-
<i>Campylobacter jejuni</i>	8 (1)	7 (1)	1	4 (1)	5 (2)	2
<i>Campylobacter coli</i>	-	-	-	-	-	-
<i>Staphylococcus aureus</i>	-	1	-	-	-	-
<i>Entamoeba histolytica</i>	-	-	-	2	2 (1)	-
Others	3	3 (2)	3 (1)	3 (1)	1	-

E. coli categorized by pathogenicity

Verotoxin-producing <i>Escherichia coli</i> (EHEC/VTEC)	5	4	2	2	2	-
Enterotoxigenic <i>Escherichia coli</i> (ETEC)	2 (1)	1	-	1	1 (1)	-
Enteroinvasive <i>Escherichia coli</i> (EIEC)	-	-	1	-	-	-
Enteropathogenic <i>Escherichia coli</i> serotype (EPEC)	-	1 (1)	1 (1)	2	-	1 (1)
<i>Escherichia coli</i> other/unknown	1	1 (1)	1 (1)	1 (1)	-	-

Shigella serovars

<i>Shigella dysenteriae</i> 2	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 1b	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 2a	-	1 (1)	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 2b	-	-	1 (1)	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 3a	-	-	1 (1)	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 4a	-	1 (1)	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 4	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 6	-	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> others/unknown	-	1 (1)	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 4	-	-	-	1	-	-
<i>Shigella sonnei</i>	2 (1)	6 (6)	6 (5)	3 (2)	4 (2)	1 (1)
<i>Shigella</i> species unknown	1 (1)	-	-	2 (2)	-	-

4-2. 年別、由来ヒト、1995～2000年

4-2. By year, 1995-2000 - Infectious diseases hospitals

Based on the data received before October 1, 2003

() : Imported cases included in the total

	1995	1996	1997	1998	1999	2000
TOTAL	877 (619)	873 (498)	1004 (556)	947 (409)	512 (205)	355 (147)
<i>Escherichia coli</i>	47 (39)	97 (37)	92 (43)	86 (42)	58 (19)	66 (24)
<i>Shigella</i>						
<i>Shigella dysenteriae</i>	7 (7)	8 (8)	15 (11)	9 (8)	5 (4)	1
<i>Shigella flexneri</i>	83 (51)	63 (47)	80 (60)	191 (41)	50 (11)	16 (12)
<i>Shigella boydii</i>	19 (17)	10 (7)	12 (11)	9 (7)	-	1
<i>Shigella sonnei</i>	219 (208)	287 (252)	305 (262)	276 (181)	80 (63)	51 (46)
<i>Shigella</i> species unknown	16 (15)	17 (12)	18 (17)	13 (11)	6 (5)	5 (3)
<i>Salmonella</i>						
<i>Salmonella</i> Typhi	29 (23)	24 (19)	26 (22)	17 (13)	38 (36)	17 (16)
<i>Salmonella</i> Paratyphi A	19 (14)	18 (14)	20 (13)	14 (9)	12 (10)	6 (6)
<i>Salmonella</i> O4	20 (5)	21 (7)	27 (8)	5 (2)	16	14 (1)
<i>Salmonella</i> O7	15 (4)	10 (1)	12 (5)	4 (1)	20	6
<i>Salmonella</i> O8	6 (4)	4 (2)	2 (1)	6 (4)	8 (6)	3 (2)
<i>Salmonella</i> O9	55 (18)	66 (6)	102 (5)	78 (6)	86 (6)	44
<i>Salmonella</i> O9,46	1 (1)	1 (1)	2 (1)	2 (1)	-	-
<i>Salmonella</i> O3,10	8 (7)	4 (4)	3 (3)	3	1 (1)	3 (1)
<i>Salmonella</i> O13	1	-	-	-	-	-
<i>Salmonella</i> other groups	-	1 (1)	-	-	-	1
<i>Salmonella</i> group unknown	1	2	2	1	1	1
<i>Yersinia enterocolitica</i>	-	-	1	-	-	-
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Ogawa,CT(+)	106 (96)	13 (10)	19 (9)	14 (12)	7 (7)	7 (5)
<i>V. cholerae</i> O1:El Tor,Inaba,CT(+)	1	-	1 (1)	-	-	-
<i>Vibrio cholerae</i> O1 not typed	2 (2)	-	-	1 (1)	1 (1)	-
<i>Vibrio cholerae</i> non-O1	1 (1)	2	4 (2)	3 (2)	1 (1)	-
<i>Vibrio cholerae</i> non-O1&O139	2 (1)	-	-	-	-	-
<i>Vibrio parahaemolyticus</i>	25 (10)	36 (2)	41 (8)	22 (4)	25 (3)	19 (4)
<i>Vibrio fluvialis</i>	1	1	-	4	-	-
<i>Aeromonas hydrophila</i>	5 (3)	6 (3)	5 (3)	13 (7)	3	2 (1)
<i>Aeromonas sobria</i>	8 (7)	8 (5)	2 (1)	7 (4)	2 (2)	1 (1)
<i>Aeromonas hydrophila/sobria</i>	-	-	1 (1)	-	-	-
<i>Plesiomonas shigelloides</i>	28 (28)	12 (11)	17 (15)	17 (15)	12 (11)	3 (3)
<i>Campylobacter jejuni</i>	45 (16)	57 (13)	61 (17)	41 (15)	35 (10)	49 (9)
<i>Campylobacter coli</i>	2 (1)	3 (2)	7 (1)	2 (1)	2 (1)	1 (1)
<i>Campylobacter jejuni/coli</i>	-	-	1 (1)	-	-	-
<i>Staphylococcus aureus</i>	4 (2)	4 (1)	-	-	2	1
<i>Clostridium perfringens</i>	-	3 (2)	3	-	2 (2)	-
<i>Entamoeba histolytica</i>	69 (27)	57 (16)	69 (14)	77 (8)	17	5 (1)
Others	32 (12)	38 (15)	54 (21)	32 (14)	22 (6)	32 (11)

4-2. Continued

E. coli categorized by pathogenicity

(): Imported cases included in the total

	1995	1996	1997	1998	1999	2000
Verotoxin-producing <i>Escherichia coli</i> (EHEC/VTEC)	4	39 (1)	27 (1)	37 (3)	23 (3)	27 (2)
Enterotoxigenic <i>Escherichia coli</i> (ETEC)	10 (10)	25 (19)	27 (20)	14 (13)	10 (7)	9 (4)
Enteroinvasive <i>Escherichia coli</i> (EIEC)	2 (1)	3 (3)	3 (2)	2 (2)	3 (2)	3 (2)
Enteropathogenic <i>Escherichia coli</i> serotype (EPEC)	9 (9)	21 (11)	27 (14)	24 (16)	22 (7)	17 (8)
<i>Escherichia coli</i> other/unknown	22 (19)	8 (2)	8 (6)	9 (8)	-	10 (8)

Shigella serovars

	1995	1996	1997	1998	1999	2000
<i>Shigella dysenteriae</i> 1	-	1 (1)	-	2 (2)	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 2	2 (2)	6 (6)	4 (2)	3 (3)	2 (2)	1
<i>Shigella dysenteriae</i> 3	-	-	-	1 (1)	3 (2)	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 4	-	1 (1)	2 (1)	1 (1)	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 6	-	-	3 (3)	-	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 9	2 (2)	-	-	1 (1)	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> 11	-	-	1 (1)	-	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> others/unknown	2 (2)	-	5 (4)	1	-	-
<i>Shigella dysenteriae</i> not typed	1 (1)	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 1a	-	2 (1)	1	3 (2)	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 1b	8 (8)	6 (6)	6 (6)	6 (4)	1 (1)	2 (2)
<i>Shigella flexneri</i> 2a	39 (14)	24 (15)	27 (23)	154 (11)	41 (3)	6 (3)
<i>Shigella flexneri</i> 2b	5 (3)	1 (1)	6 (4)	5 (5)	-	1 (1)
<i>Shigella flexneri</i> 3a	5 (5)	6 (6)	14 (12)	9 (8)	1 (1)	3 (3)
<i>Shigella flexneri</i> 3b	1 (1)	-	-	1 (1)	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 4a	2 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)
<i>Shigella flexneri</i> 4b	1 (1)	-	-	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> 4	3 (3)	1 (1)	-	-	1 (1)	1
<i>Shigella flexneri</i> 5a	-	1 (1)	-	-	1	-
<i>Shigella flexneri</i> 6	7 (6)	5 (4)	7 (7)	4 (4)	3 (3)	1 (1)
<i>Shigella flexneri</i> var.X	2	-	-	1	-	-
<i>Shigella flexneri</i> var.Y	2 (1)	1 (1)	5 (2)	-	-	-
<i>Shigella flexneri</i> others/unknown	6 (6)	13 (8)	13 (5)	7 (5)	1 (1)	1 (1)
<i>Shigella flexneri</i> not typed	2 (2)	2 (2)	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 1	1 (1)	-	1 (1)	2 (2)	-	-
<i>Shigella boydii</i> 2	4 (3)	2 (1)	1 (1)	2 (2)	-	-
<i>Shigella boydii</i> 4	4 (4)	1 (1)	1 (1)	-	-	1
<i>Shigella boydii</i> 5	1 (1)	-	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 7	-	-	1 (1)	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 8	1 (1)	-	2 (2)	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 10	1 (1)	-	2 (1)	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 11	1 (1)	-	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 12	1 (1)	-	-	1 (1)	-	-
<i>Shigella boydii</i> 13	2 (2)	1 (1)	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 14	2 (2)	1 (1)	1 (1)	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 16	1	-	-	-	-	-
<i>Shigella boydii</i> 18	-	-	2 (2)	1 (1)	-	-
<i>Shigella boydii</i> others/unknown	-	2 (2)	1 (1)	2 (1)	-	-
<i>Shigella boydii</i> not typed	-	3 (1)	-	1	-	-
<i>Shigella sonnei</i>	219 (208)	287 (252)	305 (262)	276 (181)	80 (63)	51 (46)
<i>Shigella</i> species unknown	16 (15)	17 (12)	18 (17)	13 (11)	6 (5)	5 (3)

第5章 病原体情報集計・ウイルス、リケッチア、
クラミジア、マイコプラズマ検出成績

I. 平成 11 (1999) 年

(参考)PCRのみで検出された例

Detection by PCR-positive (other methods were not done or negative)

	Based on the data received before August 10, 2001												
	TOTAL	1 JAN	2 FEB	3 MAR	4 APR	5 MAY	6 JUN	7 JUL	8 AUG	9 SEP	10 OCT	11 NOV	12 DEC
TOTAL	583	71	54	51	13	28	25	8	5	14	14	57	243
Coxsackievirus A2	3	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
Influenza virus A H3 N unknown	34	18	13	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Influenza virus B	5	-	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Influenza virus C	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Respiratory syncytial virus	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	7	-
Mumps virus	12	-	-	1	-	-	2	-	4	1	-	-	4
Measles virus	6	3	-	-	-	1	-	1	-	-	1	-	-
Rotavirus group A	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Calicivirus	10	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Astrovirus	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
Small round structured virus	433	48	31	32	6	22	8	2	-	3	3	47	231
Adenovirus 2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Herpes simplex virus not typed	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
Herpes simplex virus 1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Epstein-Barr virus	4	-	-	-	1	-	2	-	-	1	-	-	-
Varicella-zoster virus	2	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
Cytomegalovirus	15	-	3	2	-	2	1	3	-	-	1	-	3
Human herpes virus 6	19	1	-	-	4	3	5	-	-	3	1	1	1
Human herpes virus 7	15	-	-	-	2	-	5	1	-	2	2	1	2
Hepatitis A virus	2	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
Parvovirus B19	3	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>Orientia(Rickettsia) tsutsugamushi</i>	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-
<i>Chlamydia trachomatis</i> not typed	52	2	2	8	5	3	4	6	4	2	6	6	4

2-2. 年齡群別
2-2. Age groups

Based on the data received before August 10, 2001

	AGE GROUP (AGE IN YEARS)											
	TOTAL	0~4	5~9	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~	UNKNOWN
TOTAL	15830	7966	4120	1984	374	277	360	165	102	103	141	238
Coxsackievirus A not typed	3	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A2	135	102	28	3	-	-	1	-	-	-	-	1
Coxsackievirus A3	4	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A4	239	195	39	3	-	-	-	-	-	-	-	2
Coxsackievirus A5	35	27	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A6	181	146	27	7	1	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A7	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A8	8	6	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A9	28	20	7	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A10	46	35	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A12	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A16	153	118	30	1	-	-	1	-	-	-	-	3
Coxsackievirus B1	106	66	31	5	1	-	1	-	-	-	-	2
Coxsackievirus B2	150	93	44	3	-	1	3	-	-	-	-	6
Coxsackievirus B3	52	35	13	4	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus B4	339	214	106	14	3	-	2	-	-	-	-	-
Coxsackievirus B5	149	99	39	4	2	-	2	-	-	-	1	2
Coxsackievirus B6	3	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus not typed	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 3	51	29	18	3	-	-	-	-	-	-	1	-
Echovirus 4	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 6	295	144	113	24	2	1	5	1	-	1	-	4
Echovirus 7	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 9	34	19	11	4	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 11	92	59	21	6	-	1	-	-	-	-	-	5
Echovirus 14	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 16	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 17	83	39	33	7	-	3	1	-	-	-	-	-
Echovirus 18	85	58	25	2	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 21	3	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 22	10	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Echovirus 25	50	30	16	3	-	-	-	-	-	-	-	1
Echovirus 30	36	13	19	2	1	1	-	-	-	-	-	-
Poliovirus not typed	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Poliovirus 1	57	54	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Poliovirus 2	57	53	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Poliovirus 3	27	25	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Enterovirus 71	44	37	6	-	-	-	1	-	-	-	-	-
Influenza virus A H1 N unknown	276	75	151	23	3	6	14	3	-	-	-	1
Influenza virus A H1 N1	175	27	112	22	2	2	6	2	-	-	-	2
Influenza virus A H3 N unknown	3343	1791	613	348	130	106	115	59	41	44	59	37
Influenza virus A H3 N2	1884	876	358	208	81	68	86	50	34	37	49	37
Influenza virus B	4168	964	1679	1180	126	44	63	31	14	3	10	54
Parainfluenza virus 1	54	40	9	2	-	1	1	1	-	-	-	-
Parainfluenza virus 2	16	9	5	1	-	-	-	-	-	-	-	1
Parainfluenza virus 3	78	62	9	6	-	-	-	-	-	-	-	1
Respiratory syncytial virus	151	121	14	5	1	3	2	-	1	1	-	3
Mumps virus	132	59	62	9	-	1	1	-	-	-	-	-
Measles virus	16	14	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Rotavirus not typed	63	55	6	-	-	-	-	1	-	-	-	1
Rotavirus group A	640	563	37	6	1	1	-	-	-	2	1	29
Rotavirus group C	26	6	16	1	-	1	-	-	-	-	1	1
Calicivirus	9	4	2	-	-	1	-	-	-	-	-	2
Astrovirus	22	16	5	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Small round structured virus	194	145	25	4	-	1	1	-	-	1	3	14
Adenovirus not typed	57	43	7	1	-	1	4	-	-	-	-	-
Adenovirus 1	284	229	42	7	-	1	2	2	-	-	-	1
Adenovirus 2	540	455	58	8	3	-	3	1	1	1	-	10
Adenovirus 3	343	196	109	17	1	3	6	1	1	1	-	8
Adenovirus 4	27	10	10	-	-	-	3	1	-	1	-	2
Adenovirus 5	208	159	37	4	-	1	2	2	-	1	-	2
Adenovirus 6	58	41	11	-	1	1	-	-	1	2	-	1
Adenovirus 7	61	27	18	8	1	3	3	-	-	-	-	1
Adenovirus 8	19	4	4	2	1	2	2	1	1	1	1	-
Adenovirus 11	6	1	2	1	-	-	-	1	-	-	-	1
Adenovirus 19	45	3	2	3	4	10	12	4	-	2	5	-
Adenovirus 37	8	2	-	-	1	3	1	-	1	-	-	-
Adenovirus 40	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Adenovirus 40/41	69	58	6	4	-	-	-	-	-	-	-	1
Herpes simplex virus not typed	11	9	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Herpes simplex virus 1	248	152	44	15	8	3	12	4	3	-	4	3
Herpes simplex virus 2	20	3	-	-	-	6	2	-	3	5	1	-
Varicella-zoster virus	5	-	-	-	-	1	1	-	1	-	2	-
Cytomegalovirus	6	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Coxiella burnetii</i>	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-
<i>Chlamydia trachomatis</i> not typed	46	-	-	-	3	24	13	3	2	1	-	-

* Isolation by culture and detection by immunoassay, PAGE and EM are tabulated.

2-3. 0歳児の月齢
2-3. Age in months of infants

Based on the data received before August 10, 2001

	AGE IN MONTHS													UNKNOWN
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11		
TOTAL	60	96	76	56	70	74	95	120	128	193	175	190	40	
Coxsackievirus A not typed	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Coxsackievirus A2	-	3	-	-	-	1	1	1	-	2	-	2	2	
Coxsackievirus A3	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
Coxsackievirus A4	-	1	1	-	1	-	2	2	5	3	1	4	2	
Coxsackievirus A5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	
Coxsackievirus A6	-	-	-	-	-	1	2	1	2	3	5	6	1	
Coxsackievirus A7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Coxsackievirus A8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Coxsackievirus A9	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	2	-	-	
Coxsackievirus A10	-	1	1	-	1	1	1	-	-	1	-	-	-	
Coxsackievirus A12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Coxsackievirus A16	-	-	1	-	1	1	-	-	2	2	3	-	-	
Coxsackievirus B1	4	2	5	-	1	1	2	-	-	-	1	1	4	
Coxsackievirus B2	10	6	4	1	-	-	-	3	1	-	1	1	-	
Coxsackievirus B3	1	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
Coxsackievirus B4	7	6	3	2	1	2	2	3	1	2	3	5	1	
Coxsackievirus B5	9	11	4	2	2	-	1	2	-	4	2	1	3	
Coxsackievirus B6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Echovirus not typed	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Echovirus 3	-	-	-	2	-	1	1	-	-	-	1	-	-	
Echovirus 4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Echovirus 6	5	1	1	2	3	1	3	1	1	3	1	6	1	
Echovirus 7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Echovirus 9	2	1	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	
Echovirus 11	-	3	3	-	-	1	-	-	1	2	3	1	1	
Echovirus 14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Echovirus 16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Echovirus 17	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-	
Echovirus 18	3	2	-	3	-	1	3	-	1	1	2	-	1	
Echovirus 21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
Echovirus 22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	
Echovirus 25	1	1	1	-	-	1	1	1	-	2	-	-	-	
Echovirus 30	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Poliovirus not typed	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Poliovirus 1	-	-	-	3	-	6	3	5	7	5	4	3	-	
Poliovirus 2	-	-	-	1	-	1	5	6	4	9	6	5	-	
Poliovirus 3	-	-	-	-	-	1	-	2	2	4	3	4	-	
Enterovirus 71	2	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	2	-	
Influenza virus A H1 N unknown	-	-	1	-	-	-	1	1	-	2	1	1	-	
Influenza virus A H1 N1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	
Influenza virus A H3 N unknown	-	19	20	8	12	12	16	20	18	37	36	36	7	
Influenza virus A H3 N2	2	7	8	6	11	7	8	10	10	16	16	18	1	
Influenza virus B	2	3	1	4	2	6	2	10	5	10	7	13	6	
Parainfluenza virus 1	-	-	1	-	-	-	1	2	1	-	-	1	-	
Parainfluenza virus 2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Parainfluenza virus 3	-	-	-	-	-	1	1	-	1	2	1	2	-	
Respiratory syncytial virus	-	8	4	3	6	4	3	6	4	4	3	3	-	
Mumps virus	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
Measles virus	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	
Rotavirus not typed	-	-	1	-	-	1	-	3	-	2	-	1	-	
Rotavirus group A	2	6	5	9	11	12	10	11	24	25	25	32	4	
Rotavirus group C	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
Calicivirus	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Astrovirus	-	1	-	-	1	-	1	1	-	1	1	-	-	
Small round structured virus	1	-	-	1	-	-	-	6	7	3	6	7	-	
Adenovirus not typed	1	-	-	-	2	2	2	1	1	2	2	-	-	
Adenovirus 1	-	3	1	1	1	1	2	6	10	8	4	4	-	
Adenovirus 2	4	3	2	1	7	-	7	6	9	18	12	10	2	
Adenovirus 3	-	-	-	1	1	-	1	-	1	4	4	-	-	
Adenovirus 4	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
Adenovirus 5	-	1	-	1	1	-	3	2	4	4	10	5	1	
Adenovirus 6	-	-	1	1	1	1	1	1	-	2	1	3	-	
Adenovirus 7	-	-	1	1	1	2	1	-	-	1	1	-	-	
Adenovirus 8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Adenovirus 11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
Adenovirus 19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Adenovirus 37	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Adenovirus 40	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	
Adenovirus 40/41	-	1	1	1	1	2	2	2	3	3	1	3	-	
Herpes simplex virus not typed	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Herpes simplex virus 1	1	-	-	1	1	-	-	2	1	3	3	7	-	
Herpes simplex virus 2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Varicella-zoster virus	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Cytomegalovirus	-	1	-	-	-	1	-	-	1	1	-	-	-	
<i>Coxiella burnetii</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Chlamydia trachomatis</i> not typed	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

* Isolation by culture and detection by immunoassay, PAGE and EM are tabulated.

4. 検体の種類、由来ヒト、1999年

4. Isolation/detection of viruses from human sources, by source of specimens, Japan, 1999

Based on the data received before August 10, 2001

	NUMBER OF CASES	STOOL	NASOPHARYNG.	EYE SWAB	SPINAL FLUID	SKIN/VESSICLE	URINE	BLOOD	LIVER	LUNG/BRONCHI	ORAL	GENITAL	OTHERS
TOTAL	15830	1816	13659	109	418	54	14	9	1	13	10	24	4
Coxsackievirus A not typed	3	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A2	135	7	129	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A3	4	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A4	239	6	234	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A5	35	-	35	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A6	181	8	172	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A7	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A8	8	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A9	28	7	20	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A10	46	2	45	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A12	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A16	153	5	125	-	1	30	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus B1	106	28	64	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus B2	150	36	102	-	26	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus B3	52	6	34	-	11	2	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus B4	339	80	260	-	19	2	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus B5	149	33	93	3	47	1	-	-	-	-	-	-	1
Coxsackievirus B6	3	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus not typed	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 3	51	9	37	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 4	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 6	295	66	158	-	100	1	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 7	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 9	34	1	24	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 11	92	29	51	-	27	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 14	2	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 16	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 17	83	35	33	-	34	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 18	85	17	62	-	15	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 21	3	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 22	10	3	6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 25	50	23	22	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 30	36	8	25	-	15	1	-	-	-	-	-	-	-
Poliovirus not typed	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Poliovirus 1	57	23	39	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Poliovirus 2	57	38	21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Poliovirus 3	27	14	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Enterovirus 71	44	6	41	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Influenza virus A H1 N unknown	276	1	275	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Influenza virus A H1 N1	175	-	175	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Influenza virus A H3 N unknown	3343	1	3336	-	5	-	-	-	-	4	1	-	-
Influenza virus A H3 N2	1884	-	1877	2	3	-	-	-	-	3	-	-	-
Influenza virus B	4168	1	4164	-	2	-	-	-	-	3	1	-	-
Parainfluenza virus 1	54	-	54	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Parainfluenza virus 2	16	-	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Parainfluenza virus 3	78	-	78	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Respiratory syncytial virus	151	-	148	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-
Mumps virus	132	-	101	1	31	-	-	-	-	-	-	-	-
Measles virus	16	-	10	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-
Rotavirus not typed	63	63	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Rotavirus group A	640	640	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
Rotavirus group C	26	26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Calicivirus	9	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Astrovirus	22	22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Small round structured virus	194	193	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Adenovirus not typed	57	38	12	6	-	-	1	-	-	-	-	-	-
Adenovirus 1	284	56	235	2	1	-	1	-	-	-	-	-	-
Adenovirus 2	540	94	466	-	3	-	-	-	-	-	-	-	1
Adenovirus 3	343	42	313	7	1	-	-	-	-	-	1	-	-
Adenovirus 4	27	1	20	6	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Adenovirus 5	208	44	167	3	8	-	-	-	-	-	-	-	-
Adenovirus 6	58	8	46	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Adenovirus 7	61	12	50	4	1	-	-	-	-	-	1	-	-
Adenovirus 8	19	-	5	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Adenovirus 11	6	-	1	1	-	-	4	-	-	-	-	-	-
Adenovirus 19	45	-	4	41	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Adenovirus 37	8	-	2	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Adenovirus 40	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Adenovirus 40/41	69	69	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Herpes simplex virus not typed	11	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Herpes simplex virus 1	248	-	212	6	1	15	-	-	-	-	6	10	-
Herpes simplex virus 2	20	-	-	1	1	3	-	-	1	-	-	14	1
Varicella-zoster virus	5	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-
Cytomegalovirus	6	-	6	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
<i>Coxiella burnetii</i>	3	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-
<i>Chlamydia trachomatis</i> not typed	46	-	-	1	-	-	3	-	-	-	-	-	42

* Isolation by culture and detection by immunoassay, PAGE and EM are tabulated. Including cases from which the same virus was isolated from multiple specimens.

7. 検出方法、由来ヒト、1999年

7. Isolation/detection of viruses from human sources, by method of isolation, Japan, 1999

Based on the data received before August 10, 2001

	NUMBER OF CASES	ISOLATED BY				ELECTRON MICROSCOPY	IMMUNOFLOURESCENCE	ELISA	RPHA	LATEX AGGLUTINATION	PCR	OTHER
		CULTURE	ANIMAL	CHICK EMBRYO	CELL CULTURE							
TOTAL	15830	14723	525	10	14217	398	38	609	38	167	214	15
Coxsackievirus A not typed	3	3	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A2	135	135	84	-	52	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A3	4	4	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A4	239	239	195	-	55	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A5	35	35	29	-	6	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A6	181	181	160	1	24	-	-	-	-	-	4	-
Coxsackievirus A7	2	2	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A8	8	8	6	-	2	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A9	28	28	-	-	28	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A10	46	46	30	-	16	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A12	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A16	153	153	17	-	139	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus B1	106	106	-	-	106	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus B2	150	150	-	-	150	-	-	-	-	-	1	-
Coxsackievirus B3	52	52	1	-	52	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus B4	339	339	-	-	339	-	-	-	-	-	2	-
Coxsackievirus B5	149	149	-	-	149	-	-	-	-	-	2	-
Coxsackievirus B6	3	3	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus not typed	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 3	51	51	-	-	51	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 4	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 6	295	295	-	-	295	1	-	-	-	-	1	-
Echovirus 7	2	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 9	34	34	-	-	34	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 11	92	92	-	-	92	-	-	-	-	-	3	-
Echovirus 14	2	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 16	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 17	83	83	-	-	83	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 18	85	85	-	-	85	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 21	3	3	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 22	10	10	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 25	50	50	-	-	50	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 30	36	36	-	-	36	-	-	-	-	-	-	-
Poliovirus not typed	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Poliovirus 1	57	57	-	-	57	-	-	-	-	-	-	-
Poliovirus 2	57	57	-	-	57	-	-	-	-	-	-	-
Poliovirus 3	27	27	-	-	27	-	-	-	-	-	-	-
Enterovirus 71	44	44	-	1	44	-	-	-	-	-	-	-
Influenza virus A H1 N unknown	276	276	-	-	276	-	-	4	-	-	3	-
Influenza virus A H1 N1	175	175	-	-	175	-	-	-	-	-	1	-
Influenza virus A H3 N unknown	3343	3343	-	2	3343	-	-	-	-	-	20	-
Influenza virus A H3 N2	1884	1884	-	1	1884	-	-	-	-	-	1	-
Influenza virus B	4168	4168	-	5	4168	-	-	-	-	-	36	-
Parainfluenza virus 1	54	54	-	-	54	-	-	-	-	-	6	-
Parainfluenza virus 2	16	16	-	-	16	-	-	-	-	-	-	-
Parainfluenza virus 3	78	78	-	-	78	-	-	-	-	-	33	-
Respiratory syncytial virus	151	127	-	-	127	-	24	-	-	-	-	-
Mumps virus	132	132	-	-	132	-	-	-	-	-	1	-
Measles virus	16	16	-	-	16	-	-	-	-	-	-	-
Rotavirus not typed	63	-	-	-	-	54	-	9	-	-	1	-
Rotavirus group A	640	-	-	-	-	64	-	488	13	142	2	14
Rotavirus group C	26	-	-	-	-	19	-	1	25	-	1	-
Calicivirus	9	-	-	-	-	9	-	-	-	-	5	-
Astrovirus	22	-	-	-	-	17	-	3	-	4	5	-
Small round structured virus	194	-	-	-	-	187	-	7	-	-	72	-
Adenovirus not typed	57	22	-	-	22	28	-	3	-	9	-	1
Adenovirus 1	284	284	-	-	284	-	-	-	-	-	2	-
Adenovirus 2	540	539	-	-	539	3	-	3	-	-	2	-
Adenovirus 3	343	343	-	-	343	-	-	1	-	1	-	-
Adenovirus 4	27	27	-	-	27	-	-	-	-	-	-	-
Adenovirus 5	208	208	-	-	208	1	-	-	-	-	2	-
Adenovirus 6	58	58	-	-	58	-	-	-	-	-	-	-
Adenovirus 7	61	61	-	-	61	-	-	-	-	-	1	-
Adenovirus 8	19	19	-	-	19	-	-	-	-	-	-	-
Adenovirus 11	6	6	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-
Adenovirus 19	45	45	-	-	45	-	-	-	-	-	-	-
Adenovirus 37	8	8	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-
Adenovirus 40	2	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
Adenovirus 40/41	69	2	-	-	2	15	-	64	-	11	4	-
Herpes simplex virus not typed	11	11	-	-	11	-	-	-	-	-	-	-
Herpes simplex virus 1	248	240	-	-	240	-	21	-	-	-	2	-
Herpes simplex virus 2	20	9	-	-	9	-	12	-	-	-	-	-
Varicella-zoster virus	5	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-
Cytomegalovirus	6	6	-	-	6	-	-	-	-	-	1	-
<i>Coxiella burnetii</i>	3	2	2	-	-	-	1	-	-	-	2	-
<i>Chlamydia trachomatis</i> not typed	46	20	-	-	20	-	22	4	-	-	-	-

* Isolation by culture and detection by immunoassay, PAGE and EM are tabulated.

Including cases from which the same virus was isolated by multiple methods

8. 検体採取の理由、由来ヒト、1999年

8. Isolation/detection of viruses from human sources, by reason for specimen collection, Japan, 1999

Based on the data received before August 10, 2001

	NUMBER OF CASES	SPORADIC CASE	EPIDEMIC CASE	FAMILIAL OUTBREAK	OUTBREAK	NATIONAL EPIDEMIOLOGICAL SURVEILLANCE OF VACCINE-PREVENTABLE DISEASES	REGIONAL (EPIDEMIOLOGICAL) SURVEILLANCE/SPECIAL STUDY	NATIONAL EPIDEMIOLOGICAL SURVEILLANCE OF INFECTIOUS DISEASES	IMPORTED CASE	OTHER
TOTAL	15830	11032	1638	1499	1661	1611	1432	12049	1	650
Coxsackievirus A not typed	3	1	-	-	2	-	-	3	-	-
Coxsackievirus A2	135	119	8	8	-	3	10	118	-	6
Coxsackievirus A3	4	4	-	-	-	-	1	3	-	-
Coxsackievirus A4	239	208	24	4	3	21	19	201	-	-
Coxsackievirus A5	35	34	1	-	-	2	-	32	-	1
Coxsackievirus A6	181	157	22	2	-	3	11	172	-	1
Coxsackievirus A7	2	1	1	-	-	-	1	1	-	-
Coxsackievirus A8	8	8	-	-	-	-	2	6	-	-
Coxsackievirus A9	28	25	3	-	-	-	5	20	-	3
Coxsackievirus A10	46	31	12	3	-	1	4	40	-	1
Coxsackievirus A12	1	-	-	-	1	-	-	1	-	-
Coxsackievirus A16	153	132	11	3	7	3	7	143	-	-
Coxsackievirus B1	106	93	11	-	2	4	2	101	-	-
Coxsackievirus B2	150	141	3	5	1	13	12	123	-	1
Coxsackievirus B3	52	46	3	2	1	1	6	44	-	-
Coxsackievirus B4	339	313	13	9	4	30	37	269	-	4
Coxsackievirus B5	149	140	3	5	1	1	31	114	-	3
Coxsackievirus B6	3	3	-	-	-	-	1	1	-	1
Echovirus not typed	1	1	-	-	-	-	-	1	-	-
Echovirus 3	51	49	-	2	-	1	4	44	-	3
Echovirus 4	1	1	-	-	-	-	-	1	-	-
Echovirus 6	295	251	28	10	6	6	25	258	-	5
Echovirus 7	2	2	-	-	-	-	-	2	-	-
Echovirus 9	34	30	2	2	-	1	1	31	-	1
Echovirus 11	92	86	5	-	1	8	8	76	-	1
Echovirus 14	2	2	-	-	-	-	1	1	-	-
Echovirus 16	1	1	-	-	-	-	-	1	-	-
Echovirus 17	83	76	3	2	2	1	15	65	-	1
Echovirus 18	85	77	7	1	-	-	2	74	-	9
Echovirus 21	3	3	-	-	-	-	-	3	-	-
Echovirus 22	10	9	1	-	-	-	2	7	-	1
Echovirus 25	50	44	4	-	2	8	7	35	-	-
Echovirus 30	36	33	-	3	-	1	8	27	-	-
Poliovirus not typed	1	1	-	-	-	-	1	-	-	-
Poliovirus 1	57	53	2	1	1	-	6	51	-	-
Poliovirus 2	57	57	-	-	-	1	8	47	-	1
Poliovirus 3	27	27	-	-	-	-	5	21	-	2
Enterovirus 71	44	39	1	1	3	1	1	37	-	1
Influenza virus A H1 N unknown	276	199	19	10	48	24	7	207	-	16
Influenza virus A H1 N1	175	69	63	10	33	45	10	114	-	1
Influenza virus A H3 N unknown	3343	2334	351	407	251	647	81	2484	1	182
Influenza virus A H3 N2	1884	935	252	463	234	142	302	1256	-	93
Influenza virus B	4168	2228	564	412	964	541	365	3055	-	192
Parainfluenza virus 1	54	53	-	1	-	8	15	31	-	-
Parainfluenza virus 2	16	11	3	-	2	1	-	15	-	-
Parainfluenza virus 3	78	74	1	-	3	2	39	34	-	-
Respiratory syncytial virus	151	148	-	2	1	1	62	85	-	4
Mumps virus	132	62	46	21	3	-	8	121	-	3
Measles virus	16	12	2	-	2	-	2	14	-	-
Rotavirus not typed	63	59	-	4	-	4	-	54	-	5
Rotavirus group A	640	537	70	30	3	11	58	548	-	11
Rotavirus group C	26	8	1	1	16	-	-	11	-	15
Calicivirus	9	5	1	-	3	-	-	6	-	3
Astrovirus	22	20	2	-	-	1	-	20	-	1
Small round structured virus	194	137	25	15	17	12	13	147	-	21
Adenovirus not typed	57	51	4	2	-	2	9	45	-	1
Adenovirus 1	284	256	13	10	5	9	26	243	-	5
Adenovirus 2	540	506	17	9	8	13	64	452	-	15
Adenovirus 3	343	303	7	15	18	14	16	302	-	16
Adenovirus 4	27	27	-	-	-	-	4	21	-	2
Adenovirus 5	208	195	7	2	4	8	35	165	-	2
Adenovirus 6	58	49	2	2	5	1	14	42	-	1
Adenovirus 7	61	52	4	4	1	9	6	54	-	-
Adenovirus 8	19	19	-	-	-	-	1	17	-	-
Adenovirus 11	6	6	-	-	-	-	1	4	-	1
Adenovirus 19	45	45	-	-	-	1	4	40	-	-
Adenovirus 37	8	8	-	-	-	-	2	6	-	-
Adenovirus 40	2	2	-	-	-	-	-	2	-	-
Adenovirus 40/41	69	54	10	3	2	2	4	61	-	2
Herpes simplex virus not typed	11	11	-	-	-	-	9	-	-	-
Herpes simplex virus 1	248	228	6	13	1	3	26	202	-	11
Herpes simplex virus 2	20	20	-	-	-	-	-	16	-	1
Varicella-zoster virus	5	5	-	-	-	-	-	1	-	-
Cytomegalovirus	6	6	-	-	-	-	6	-	-	-
<i>Coxiella burnetii</i>	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Chlamydia trachomatis</i> not typed	46	46	-	-	-	-	-	45	-	-

* Isolation by culture and detection by immunoassay, PAGE and EM are tabulated.
Including cases for which multiple answers were furnished

9. 報告機関、由来ヒト、1999年

9. Isolation/detection of viruses from human sources, by participating laboratory, Japan, 1999

Based on the data received before August 10, 2001

	011	012	021	031	041	042	051	061	071	081	091	101	111	121	122	131	141	142	143	151	161		
	TOTAL	HOKKAIDO PPHI	SAPPORO CPHI	AOMORI PPHI	IVATE PPHI	MAYAGI PPHI	SENDAI CPHI	AKITA PPHI	YAMAGATA PPHI	YUKUSHIMA PPHI	IBARAKI PPHI	TOCHIGI PPHI	GUNMA PPHI	SAITAMA PPHI	CHIBA PPHI	CHIBA CPHI	TOKYO MPHI	KANAGAWA PPHI	YOKOHAMA CPHI	KAWASAKI CPHI	NIIGATA PPHI	TOYAMA PPHI	
TOTAL	15830	145	534	29	338	117	286	356	206	632	498	177	217	306	386	164	227	197	282	291	1403	92	
Coxsackievirus A not typed	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A2	135	-	-	-	-	-	-	20	-	-	-	1	-	-	3	-	-	-	4	-	-	12	-
Coxsackievirus A3	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
Coxsackievirus A4	239	-	-	-	4	-	-	15	-	5	-	7	-	1	21	-	5	1	3	-	-	18	-
Coxsackievirus A5	35	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	4	-
Coxsackievirus A6	181	-	-	-	2	-	-	8	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	2	1	1	-	-
Coxsackievirus A7	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A8	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A9	28	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-
Coxsackievirus A10	46	-	-	-	-	-	-	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	1	-	-
Coxsackievirus A12	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A16	153	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	3	1	-	-	5	3	5	-	-	-
Coxsackievirus B1	106	-	1	-	2	-	-	-	28	-	-	1	1	-	1	-	7	-	-	-	-	49	-
Coxsackievirus B2	150	-	-	-	-	-	-	5	-	18	2	-	3	2	-	-	3	1	-	-	-	1	-
Coxsackievirus B3	52	-	-	-	-	-	-	-	10	-	2	3	3	-	-	-	5	1	1	-	-	1	-
Coxsackievirus B4	339	-	4	-	13	11	3	3	5	4	-	3	-	1	-	9	1	7	-	-	7	-	-
Coxsackievirus B5	149	-	-	-	3	-	1	-	1	-	18	-	1	2	1	-	3	1	4	-	-	4	-
Coxsackievirus B6	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	1	-
Echovirus not typed	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 3	51	-	2	-	8	-	-	-	4	-	-	-	-	1	1	-	-	-	1	-	-	2	-
Echovirus 4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 6	295	-	1	-	2	-	-	13	12	11	11	11	5	-	2	10	4	6	2	9	-	-	-
Echovirus 7	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-
Echovirus 9	34	1	2	-	2	-	1	-	2	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 11	92	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	1	16	1	-	3	6	-	-
Echovirus 14	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 16	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 17	83	-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	71	-
Echovirus 18	85	-	-	-	-	1	-	-	4	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-
Echovirus 21	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 22	10	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 25	50	-	-	-	3	-	-	-	1	-	1	-	1	1	-	7	-	-	1	-	-	23	-
Echovirus 30	36	-	1	-	2	-	-	3	2	-	-	4	2	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-
Poliovirus not typed	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
Poliovirus 1	57	-	-	-	2	-	-	-	11	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	7	-	-
Poliovirus 2	57	-	-	-	4	-	-	-	22	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	4	-	-
Poliovirus 3	27	-	-	-	1	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Enterovirus 71	44	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	2	-	-	-
Influenza virus A H1 N unknown	276	-	1	-	9	-	-	4	4	4	-	-	27	11	-	3	17	3	-	-	-	7	-
Influenza virus A H1 N1	175	-	-	1	-	34	55	-	4	-	1	-	10	-	1	1	-	-	-	23	6	-	-
Influenza virus A H3 N unknown	3343	105	274	12	98	-	168	-	255	4	-	-	116	131	-	53	58	28	-	-	-	24	-
Influenza virus A H3 N2	1884	-	1	1	-	57	97	1	82	-	153	34	111	-	99	-	1	-	-	87	535	-	-
Influenza virus B	4168	33	175	15	57	11	123	103	86	121	189	107	44	97	119	61	46	88	68	146	437	13	-
Parainfluenza virus 1	54	-	11	-	-	-	-	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	-	1	-	-
Parainfluenza virus 2	16	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Parainfluenza virus 3	78	-	-	-	-	1	-	-	29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	38	-	-	-	-
Respiratory syncytial virus	151	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	4	-	6	-	-	60	-	-	-	-
Mumps virus	132	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	4	3	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
Measles virus	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Rotavirus not typed	63	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Rotavirus group A	640	-	-	-	29	-	-	-	12	5	-	-	1	28	-	13	-	-	-	-	52	13	-
Rotavirus group C	26	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
Calicivirus	9	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Astrovirus	22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	1	-
Small round structured virus	194	-	-	-	35	-	-	-	-	-	2	-	5	34	-	-	-	-	-	-	-	27	-
Adenovirus not typed	57	-	-	-	3	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	1	-	4	-	5	5	-	-
Adenovirus 1	284	-	17	-	9	-	1	-	2	8	6	4	4	5	3	-	7	-	2	2	29	-	-
Adenovirus 2	540	2	17	-	8	-	1	-	31	26	4	7	4	2	-	9	-	8	1	45	-	-	-
Adenovirus 3	343	-	4	-	17	-	-	-	4	4	1	2	3	7	1	3	2	2	-	4	-	-	-
Adenovirus 4	27	-	1	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-
Adenovirus 5	208	1	6	-	6	-	2	-	12	37	-	1	-	1	-	5	-	1	2	19	-	-	
Adenovirus 6	58	1	1	-	-	-	-	-	4	13	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	15	-	
Adenovirus 7	61	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	6	5	1	-	2	-	-	
Adenovirus 8	19	-	1	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	3	-	8	-	-	-	
Adenovirus 11	6	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Adenovirus 19	45	-	5	-	-	-	-	1	-	2	-	-	2	-	-	-	6	4	3	-	-	-	
Adenovirus 37	8	-	3	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Adenovirus 40	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Adenovirus 40/41	69	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	1	3	-	
Herpes simplex virus not typed	11	-	-	-	-	-	-	2	-														

9. Continued-2

Based on the data received before August 10, 2001

	351 YAMAGUCHI PPHI	361 TOKUSHIMA PPHI	371 KAGAWA PPHI	381 EHIME PPHI	391 KOCHI PPHI	401 FUKUOKA PPHI	402 FUKUOKA CPHI	403 KITAKYUSHU CPHI	431 KUMAMOTO PPHI	441 OITA PPHI	451 MIYAZAKI PPHI	461 KAGOSHIMA PPHI	471 OKINAWA PPHI	602 KYOTO NHVRC	607 SENDAI NHVRC
TOTAL	15	98	822	677	286	104	181	135	71	169	234	188	37	20	253
Coxsackievirus A not typed	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A2	-	-	2	10	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-
Coxsackievirus A3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A4	-	-	1	1	1	1	3	6	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A5	-	-	-	-	-	1	2	1	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A6	-	-	-	-	5	3	5	23	-	12	8	-	-	-	-
Coxsackievirus A7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A8	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A9	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A10	-	-	-	9	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A16	-	-	5	67	17	1	1	1	-	-	5	-	-	-	-
Coxsackievirus B1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3	-	-
Coxsackievirus B2	-	2	-	4	1	4	7	5	4	3	1	-	-	-	-
Coxsackievirus B3	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	1	-	-	-	1
Coxsackievirus B4	-	-	22	11	-	-	8	4	11	3	5	11	4	-	1
Coxsackievirus B5	-	-	4	3	-	2	9	7	1	13	-	-	-	-	-
Coxsackievirus B6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus not typed	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 3	-	-	24	1	-	-	-	-	3	1	-	-	1	-	-
Echovirus 4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 6	-	-	1	7	4	21	7	7	1	7	10	10	-	-	-
Echovirus 7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 9	-	-	-	2	-	-	2	9	-	4	1	-	-	-	-
Echovirus 11	-	-	-	-	3	-	-	-	2	-	7	-	-	-	-
Echovirus 14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 17	-	-	-	1	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-
Echovirus 18	-	-	-	4	1	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-
Echovirus 21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 22	-	-	-	-	-	-	1	-	1	2	-	-	-	-	-
Echovirus 25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-
Echovirus 30	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Poliovirus not typed	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Poliovirus 1	-	-	-	1	-	-	1	-	-	2	4	-	-	-	-
Poliovirus 2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3	-	-	-	-
Poliovirus 3	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-
Enterovirus 71	-	2	-	-	-	-	1	11	-	-	13	-	-	-	-
Influenza virus A H1 N unknown	-	-	4	31	-	1	-	-	-	-	-	8	-	-	-
Influenza virus A H1 N1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Influenza virus A H3 N unknown	-	-	318	155	-	45	50	-	6	-	73	40	-	-	-
Influenza virus A H3 N2	1	52	-	-	97	2	-	-	50	-	-	1	-	-	103
Influenza virus B	14	31	265	139	34	22	54	6	27	27	49	35	16	-	128
Parainfluenza virus 1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Parainfluenza virus 2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Parainfluenza virus 3	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Respiratory syncytial virus	-	-	-	45	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2
Mumps virus	-	1	67	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Measles virus	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
Rotavirus not typed	-	-	-	41	-	1	8	-	-	-	-	-	-	-	-
Rotavirus group A	-	1	44	-	47	-	2	-	-	16	2	55	-	10	-
Rotavirus group C	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Calicivirus	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Astrovirus	-	-	-	11	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
Small round structured virus	-	-	-	15	-	-	-	17	-	-	5	-	-	-	-
Adenovirus not typed	-	-	-	8	9	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-
Adenovirus 1	-	1	7	14	7	-	4	2	1	3	3	1	-	-	-
Adenovirus 2	-	1	26	16	10	-	1	4	2	7	4	5	2	-	3
Adenovirus 3	-	2	13	36	22	1	3	10	-	1	12	9	1	-	3
Adenovirus 4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	2	-	-	-	-
Adenovirus 5	-	-	4	7	5	-	1	-	1	2	2	5	1	-	-
Adenovirus 6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
Adenovirus 7	-	-	-	-	-	-	9	2	1	-	1	-	8	-	-
Adenovirus 8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Adenovirus 11	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Adenovirus 19	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-
Adenovirus 37	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Adenovirus 40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Adenovirus 40/41	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Herpes simplex virus not typed	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
Herpes simplex virus 1	-	3	12	23	7	-	3	4	4	3	12	3	-	-	3
Herpes simplex virus 2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	3
Varicella-zoster virus	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
Cytomegalovirus	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
<i>Coxiella burnetii</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Chlamydia trachomatis</i> not typed	-	-	-	-	-	-	-	1	6	-	-	-	-	-	-

* Isolation by culture and detection by immunoassay, PAGE and EM are tabulated.
 PPHI: Prefectural public health institute
 CPHI: Municipal public health institute
 MPH: Metropolitan public health institute
 NHVRC: National hospital virus research center

10. 年別、由来ヒト、1994～1999年

10. Isolation/detection of viruses from human sources , by year, Japan, 1994-1999

Based on the data received before August 10, 2001

	1994	1995	1996	1997	1998	1999
TOTAL	9180	13564	10587	12042	17883	15830
Coxsackievirus A not typed	-	-	-	-	2	3
Coxsackievirus A2	99	19	51	137	45	135
Coxsackievirus A3	3	7	-	7	55	4
Coxsackievirus A4	87	208	97	139	117	239
Coxsackievirus A5	81	55	38	83	42	35
Coxsackievirus A6	30	74	159	22	95	181
Coxsackievirus A7	2	-	1	1	-	2
Coxsackievirus A8	3	4	36	1	7	8
Coxsackievirus A9	82	72	49	42	71	28
Coxsackievirus A10	204	39	209	89	113	46
Coxsackievirus A12	-	-	-	6	13	1
Coxsackievirus A16	124	712	56	67	538	153
Coxsackievirus A24	3	4	3	4	2	-
Coxsackievirus B not typed	-	-	-	1	-	-
Coxsackievirus B1	107	11	70	81	62	106
Coxsackievirus B2	338	79	127	180	133	150
Coxsackievirus B3	188	467	25	325	179	52
Coxsackievirus B4	212	101	351	34	32	339
Coxsackievirus B5	379	269	125	119	112	149
Coxsackievirus B6	3	9	15	12	3	3
Echovirus not typed	1	-	-	26	-	1
Echovirus 1	2	1	-	1	3	-
Echovirus 2	-	8	1	-	-	-
Echovirus 3	101	15	-	6	31	51
Echovirus 4	7	2	16	1	4	1
Echovirus 5	5	-	1	7	-	-
Echovirus 6	17	12	7	10	70	295
Echovirus 7	23	326	288	49	4	2
Echovirus 9	592	58	56	407	105	34
Echovirus 11	59	14	32	23	359	92
Echovirus 14	6	18	7	22	9	2
Echovirus 15	1	-	-	-	-	-
Echovirus 16	7	71	6	15	6	1
Echovirus 17	12	6	-	2	77	83
Echovirus 18	26	9	7	23	436	85
Echovirus 19	-	-	-	1	-	-
Echovirus 20	-	-	6	-	-	-
Echovirus 21	-	-	7	5	1	3
Echovirus 22	21	15	12	10	15	10
Echovirus 24	9	1	1	15	5	-
Echovirus 25	50	94	39	88	15	50
Echovirus 30	8	4	4	1423	3608	36
Echovirus 33	11	-	-	-	-	-
Poliovirus not typed	-	-	-	2	1	1
Poliovirus 1	38	41	44	41	33	57
Poliovirus 2	29	30	40	60	41	57
Poliovirus 3	21	16	30	23	26	27
Enterovirus 71	153	49	41	266	45	44
Rhinovirus	2	1	1	1	-	-

* Isolation by culture and detection by immunoassay, PAGE and EM are tabulated.

10. Continued-1

Based on the data received before August 10, 2001

	1994	1995	1996	1997	1998	1999
Influenza virus A not typed	-	1	28	-	-	-
Influenza virus A H1 N unknown	20	647	796	-	7	276
Influenza virus A H1 N1	7	428	1536	-	12	175
Influenza virus A H3 N unknown	1023	1755	949	901	3606	3343
Influenza virus A H3 N2	843	1895	1058	1183	2629	1884
Influenza virus B	194	1914	31	2433	222	4168
Influenza virus C	-	-	8	1	1	-
Parainfluenza virus 1	16	54	52	38	13	54
Parainfluenza virus 2	27	3	52	1	30	16
Parainfluenza virus 3	47	57	41	52	29	78
Respiratory syncytial virus	87	94	202	198	169	151
Mumps virus	171	160	258	122	152	132
Measles virus	20	55	52	41	82	16
Rubella virus	1	-	-	-	-	-
Reovirus not typed	1	-	-	1	-	-
Reovirus 1	3	1	1	2	-	-
Reovirus 2	3	2	-	8	7	-
Rotavirus not typed	907	785	772	124	103	63
Rotavirus group A	°	°	°	389	651	640
Rotavirus group C	-	-	18	-	10	26
Calicivirus	°	°	°	3	7	9
Astrovirus	°	°	°	18	11	22
Small round structured virus	318	268	247	202	167	194
Adenovirus not typed	95	152	123	80	69	57
Adenovirus 1	193	175	207	269	312	284
Adenovirus 2	279	296	328	457	494	540
Adenovirus 3	647	545	394	437	1422	343
Adenovirus 4	57	70	21	23	74	27
Adenovirus 5	139	126	123	138	134	208
Adenovirus 6	51	37	44	49	40	58
Adenovirus 7	-	104	220	303	294	61
Adenovirus 8	25	144	61	37	15	19
Adenovirus 11	49	53	59	12	9	6
Adenovirus 15	-	-	-	1	-	-
Adenovirus 19	23	6	27	170	141	45
Adenovirus 22	-	-	2	-	1	-
Adenovirus 31	-	2	1	1	1	-
Adenovirus 34/35	-	2	-	1	-	-
Adenovirus 35	-	-	-	1	1	-
Adenovirus 37	30	78	40	20	8	8
Adenovirus 40	-	3	5	-	-	2
Adenovirus 41	4	-	-	-	2	-
Adenovirus 40/41	5	21	15	67	44	69
Herpes simplex virus not typed	77	91	85	42	38	11
Herpes simplex virus 1	411	335	348	253	283	248
Herpes simplex virus 2	46	16	57	24	28	20
Varicella-zoster virus	25	25	11	6	4	5
Cytomegalovirus	188	240	257	48	45	6
Hepatitis A virus	2	3	-	9	-	-
Parvovirus B19	-	-	-	-	1	-
<i>Coxiella burnetii</i>	-	-	-	-	-	3
<i>Chlamydia</i> not typed	54	54	57	43	15	-
<i>Chlamydia trachomatis</i> not typed	185	135	189	177	110	46
<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	-	-	19	4	9	-

* Isolation by culture and detection by immunoassay, PAGE and EM are tabulated.

** See next page for detection by PCR-positive (other methods were not done or negative).

° Not included in the survey

(参考)PCRのみで検出された例

Detection by PCR-positive (other methods were not done or negative)

Based on the data received before August 10, 2001

	1997	1998	1999
TOTAL	287	325	583
Coxsackievirus A2	-	-	3
Influenza virus A H3 N unknown	19	4	34
Influenza virus A H3 N2	-	2	-
Influenza virus B	17	-	5
Influenza virus C	-	-	1
Respiratory syncytial virus	-	-	13
Mumps virus	16	14	12
Measles virus	3	34	6
Rubella virus	12	7	-
Dengue virus	-	1	-
Rotavirus group A	1	4	1
Calicivirus	-	3	10
Astrovirus	-	-	1
Small round structured virus	92	170	433
Adenovirus not typed	22	-	-
Adenovirus 2	-	-	1
Adenovirus 41	-	1	-
Adenovirus 40/41	-	1	-
Herpes simplex virus not typed	1	5	2
Herpes simplex virus 1	2	1	1
Epstein-Barr virus	6	5	4
Varicella-zoster virus	8	3	2
Cytomegalovirus	21	22	15
Human herpes virus 6	16	23	19
Human herpes virus 7	10	8	15
Hepatitis A virus	16	1	2
Parvovirus B19	25	16	3
<i>Orientia(Rickettsia) tsutsugamushi</i>	-	5	5
<i>Chlamydia trachomatis</i> not typed	27	38	52

第5章 病原体情報集計・ウイルス、リケッチア、
クラミジア、マイコプラズマ検出成績

II. 平成12(2000)年

(参考)PCRのみで検出された例、月別、由来ヒト、2000年
 Detection of viruses from human sources by PCR, by month, Japan, 2000
 -Prefectural and municipal public health institutes

Based on the data received before October 1, 2003

	TOTAL	1 JAN	2 FEB	3 MAR	4 APR	5 MAY	6 JUN	7 JUL	8 AUG	9 SEP	10 OCT	11 NOV	12 DEC
TOTAL	1021	129	89	78	67	54	56	27	19	18	27	78	379
Coxsackievirus A16	3	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-
Echovirus 9	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 25	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
Enterovirus 71	15	-	1	1	-	-	3	6	3	1	-	-	-
Rhinovirus	16	-	-	-	-	6	5	-	-	-	1	4	-
Influenza virus A H1 N unknown	13	4	3	-	-	-	1	-	-	1	-	-	4
Influenza virus A H1 N1	15	1	12	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Influenza virus A H3 N unknown	11	7	1	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-
Influenza virus A H3 N2	3	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Influenza virus C	3	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Parainfluenza virus 2	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
Parainfluenza virus 3	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
Respiratory syncytial virus	24	-	2	-	1	-	2	-	-	1	2	8	8
Mumps virus	40	-	1	5	3	4	7	5	4	3	4	3	1
Measles virus	21	-	-	-	1	1	8	6	1	4	-	-	-
Rotavirus group A	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Rotavirus group C	15	-	-	-	-	11	4	-	-	-	-	-	-
Astrovirus - not typed	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Astrovirus 1	2	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
Astrovirus 2	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
Norwalk-like virus group unknown	340	41	41	19	34	1	4	2	2	1	8	27	160
Norwalk-like virus genogroup I	37	5	2	2	3	8	1	-	-	-	2	-	14
Norwalk-like virus genogroup II	331	70	19	33	5	6	-	1	-	1	1	26	169
Sapporo-like virus	8	-	-	1	1	1	1	-	-	-	-	-	4
Adenovirus - not typed	13	-	1	4	-	-	2	-	-	-	-	2	4
Adenovirus 1	9	-	-	-	1	5	3	-	-	-	-	-	-
Adenovirus 2	2	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
Adenovirus 8	9	-	-	-	-	2	-	2	1	-	1	2	1
Adenovirus 19	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Adenovirus 37	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Adenovirus 41	5	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-
Adenovirus 40/41	3	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Herpes simplex virus 1	2	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
Herpes simplex virus 2	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Varicella-zoster virus	7	-	1	-	-	1	-	2	-	-	1	-	2
Cytomegalovirus	5	-	-	2	-	-	2	-	-	1	-	-	-
Human herpes virus 6	29	-	1	-	5	3	3	1	3	3	3	5	2
Human herpes virus 7	7	-	1	-	4	-	1	-	1	-	-	-	-
Epstein-Barr virus	18	-	-	1	1	1	2	1	4	2	1	1	4
Parvovirus B19	4	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	3
<i>Chlamydia trachomatis</i>	8	-	1	-	1	1	-	1	2	1	-	1	-
<i>Orientia (Rickettsia) tsutsugamushi</i>	9	-	-	-	-	4	2	-	-	-	1	1	1

* Including PCR-positive cases (other methods were not done or negative)

7. 検出方法、由来ヒト、2000年

7. Isolation/detection of viruses from human sources, by method of isolation, Japan, 2000
-Prefectural and municipal public health institutes

Based on the data received before October 1, 2003

	NUMBER OF CASES	ISOLATED BY				DETECTED BY						GENE DETECTION (PCR/RT-PCR)	
		CULTURE	CELL CULTURE	CHICK EMBRYO	ANIMAL	ANTIGEN DETECTION	ELECTRON MICROSCOPY	IMMUNOFLUORESCENCE	ENZYME IMMUNOASSAY	REHA	LATEX AGGLUTINATION		ANTIGEN OTHERS
TOTAL	13375	12153	11813	38	415	1281	673	30	639	34	162	30	307
Coxsackievirus A - not typed	2	2	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A1	2	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A2	24	24	8	-	18	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A3	8	8	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A4	138	138	93	-	55	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A5	41	41	9	-	33	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A6	81	81	23	-	71	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A7	14	14	5	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A8	15	15	5	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A9	87	87	80	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A10	284	284	147	-	166	-	-	-	-	-	-	-	8
Coxsackievirus A12	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus A16	215	215	196	-	30	-	-	-	-	-	-	-	4
Coxsackievirus B1	88	88	88	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus B2	35	35	35	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus B3	196	196	195	-	5	-	-	-	-	-	-	-	6
Coxsackievirus B4	120	120	120	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Coxsackievirus B5	295	295	295	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Coxsackievirus B6	4	4	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 2	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 3	112	112	112	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 4	7	7	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 5	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 6	39	39	39	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Echovirus 7	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 9	249	249	249	-	-	1	1	-	-	-	-	-	2
Echovirus 11	134	134	134	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 14	5	5	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 16	4	4	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 17	25	25	25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 18	65	65	65	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Echovirus 20	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 21	23	23	23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 22	27	27	27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 23	3	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 24	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 25	240	240	240	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Echovirus 30	41	41	41	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
Poliovirus 1	33	33	33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Poliovirus 2	35	35	35	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Poliovirus 3	27	27	27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Enterovirus 71	476	476	476	-	2	-	-	-	-	-	-	-	9
Rhinovirus	6	6	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Influenza virus A H1 N unknown	2657	2657	2657	15	-	9	-	-	9	-	-	-	15
Influenza virus A H1 N1	1374	1374	1373	16	-	-	-	-	-	-	-	-	16
Influenza virus A H3 N unknown	1405	1405	1404	3	-	6	-	-	6	-	-	-	15
Influenza virus A H3 N2	1023	1023	1023	4	-	-	-	-	-	-	-	-	8
Influenza virus B	14	14	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Influenza virus C	6	6	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
Parainfluenza virus - not typed	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Parainfluenza virus 1	12	12	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Parainfluenza virus 2	34	34	34	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Parainfluenza virus 3	23	23	23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Respiratory syncytial virus	116	105	105	-	12	-	1	11	-	-	-	-	1
Mumps virus	91	91	91	-	1	2	-	2	-	-	-	-	1
Measles virus	89	89	88	-	5	-	4	1	-	-	-	-	2
Rotavirus - not typed	41	-	-	-	-	41	40	-	-	-	-	-	1
Rotavirus group A	667	-	-	-	-	667	123	-	485	21	144	27	7
Rotavirus group C	14	-	-	-	-	14	8	-	3	12	-	-	-
Astrovirus - not typed	6	-	-	-	-	6	5	-	1	-	-	-	-
Astrovirus 1	4	-	-	-	-	4	3	-	2	1	-	-	2
Astrovirus 2	6	1	1	-	-	5	4	-	3	-	1	-	3
Astrovirus 4	2	-	-	-	-	2	2	-	2	-	-	-	1
Astrovirus 5	1	-	-	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-
Small round structured virus	187	-	-	-	-	187	187	-	1	-	-	-	2
Norwalk-like virus group unknown	69	-	-	-	-	69	68	-	5	-	-	-	67
Norwalk-like virus genogroup I	32	-	-	-	-	32	21	-	18	-	-	-	22
Norwalk-like virus genogroup II	71	-	-	-	-	71	52	-	26	-	-	-	61
Sapporo-like virus	15	-	-	-	-	15	15	-	-	-	-	-	15
Reovirus 1	3	3	3	-	-	3	3	-	-	-	-	-	-
Reovirus 2	4	4	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Adenovirus - not typed	37	5	5	-	-	32	22	-	2	-	9	-	-
Adenovirus 1	273	273	273	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
Adenovirus 2	499	498	498	-	-	6	2	-	4	-	1	-	4
Adenovirus 3	687	687	687	-	-	5	2	-	1	-	2	-	9
Adenovirus 4	80	80	80	-	-	1	1	-	1	-	-	-	1
Adenovirus 5	131	131	130	-	1	2	1	-	1	-	-	-	2
Adenovirus 6	40	40	40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Adenovirus 7	29	29	29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Adenovirus 8	27	27	27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Adenovirus 11	10	10	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Adenovirus 19	14	14	14	-	-	1	-	-	1	-	-	-	1
Adenovirus 22	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Adenovirus 31	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Adenovirus 37	37	37	37	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Adenovirus 41	1	-	-	-	-	1	1	-	1	-	1	-	1
Adenovirus 40/41	60	2	2	-	-	58	12	-	54	-	6	-	1
Herpes simplex virus - not typed	21	21	21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Herpes simplex virus 1	239	237	237	-	-	19	-	19	-	-	-	-	4
Herpes simplex virus 2	10	8	8	-	-	4	-	4	-	-	-	-	-
<i>Chlamydia trachomatis</i>	5	-	-	-	-	5	-	4	1	-	-	-	-
<i>Coxiella burnetii</i>	5	5	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	4

* Isolation by culture and detection by immunoassay, PAGE and EM are tabulated.
Including cases from which the same virus was isolated/detected by multiple methods.

8. 検体採取の理由、由来と、2000年

8. Isolation/detection of viruses from human sources, by reason for specimen collection, Japan, 2000
-Prefectural and municipal public health institutes

Based on the data received before October 1, 2003

	NUMBER OF CASES	SPORADIC CASE	EPIDEMIC CASE	FAMILIAL OUTBREAK	OUTBREAK	NATIONAL EPIDEMIOLOGICAL SURVEILLANCE OF INFECTIOUS DISEASES (NESID)	CATEGORY I-IV	CATEGORY V SENTINEL	KIND OF SENTINEL					OTHER THAN NESID
									INFLUENZA SENTINEL	PEDIATRIC DISEASE SENTINEL	EYE DISEASE SENTINEL	STD SENTINEL	HOSPITAL SENTINEL	
TOTAL	13375	9295	1394	1378	1569	7624	7624	1555	5522	131	5	411	5751	
Coxsackievirus A - not typed	2	1	-	1	-	2	-	2	-	2	-	-	-	
Coxsackievirus A1	2	-	1	1	-	1	-	1	-	1	-	-	1	
Coxsackievirus A2	24	20	3	1	1	22	-	22	1	20	-	1	2	
Coxsackievirus A3	8	2	3	2	1	6	-	6	1	5	-	-	2	
Coxsackievirus A4	138	121	12	5	2	56	-	56	2	51	-	3	82	
Coxsackievirus A5	41	35	5	1	-	23	-	23	-	23	-	-	18	
Coxsackievirus A6	81	68	10	3	-	63	-	63	2	60	-	1	18	
Coxsackievirus A7	14	8	5	1	-	10	-	10	3	7	-	-	4	
Coxsackievirus A8	15	15	-	-	-	5	-	5	-	5	-	-	10	
Coxsackievirus A9	87	68	9	2	11	50	-	50	2	38	-	10	37	
Coxsackievirus A10	284	242	21	15	8	137	-	137	-	132	-	5	147	
Coxsackievirus A12	1	1	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	
Coxsackievirus A16	215	122	35	19	50	150	-	150	1	145	-	4	65	
Coxsackievirus B1	88	73	5	9	2	33	-	33	5	23	-	5	55	
Coxsackievirus B2	35	30	2	-	3	23	-	23	11	11	-	1	12	
Coxsackievirus B3	196	176	7	8	5	56	-	56	5	31	-	20	140	
Coxsackievirus B4	120	103	6	7	7	53	-	53	6	38	-	9	67	
Coxsackievirus B5	295	251	11	26	9	84	-	84	-	73	-	11	211	
Coxsackievirus B6	4	4	-	-	-	2	-	2	-	1	-	1	2	
Echovirus 2	1	1	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	
Echovirus 3	112	103	6	3	1	38	-	38	-	30	-	8	74	
Echovirus 4	7	6	-	-	1	5	-	5	1	2	-	2	2	
Echovirus 5	2	-	1	1	-	2	-	2	-	2	-	-	-	
Echovirus 6	39	34	-	5	-	15	-	15	-	11	-	4	24	
Echovirus 7	2	2	-	-	-	2	-	2	-	2	-	-	-	
Echovirus 9	349	179	18	21	31	70	-	70	-	51	-	19	179	
Echovirus 11	134	124	7	3	-	30	-	30	1	21	-	8	104	
Echovirus 14	5	5	-	-	-	5	-	5	-	3	-	2	-	
Echovirus 16	4	4	-	-	-	2	-	2	1	-	-	1	2	
Echovirus 17	25	22	3	-	-	13	-	13	3	9	-	1	12	
Echovirus 18	65	51	6	3	4	19	-	19	2	16	-	1	46	
Echovirus 20	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
Echovirus 21	23	11	7	4	1	14	-	14	-	12	-	2	9	
Echovirus 22	27	23	4	-	-	8	-	8	1	6	-	1	19	
Echovirus 23	3	2	1	-	-	1	-	1	-	1	-	-	2	
Echovirus 24	2	-	2	-	-	2	-	2	-	2	-	-	-	
Echovirus 25	240	211	13	3	13	77	-	77	-	52	-	25	163	
Echovirus 30	41	31	6	4	-	29	-	29	1	4	-	24	12	
Poliovirus 1	33	30	3	-	-	11	-	11	1	10	-	-	22	
Poliovirus 2	35	35	-	-	-	8	-	8	-	8	-	-	27	
Poliovirus 3	27	25	2	-	-	17	-	17	-	16	-	1	10	
Enterovirus 71	476	320	91	23	50	344	-	344	-	307	-	37	132	
Rhinovirus	6	4	-	2	-	5	-	5	3	2	-	-	1	
Influenza virus A H1 N unknown	2657	1674	226	260	522	1614	-	1614	240	1334	-	40	1043	
Influenza virus A H1 N1	1374	546	317	259	355	1062	-	1062	550	490	-	22	312	
Influenza virus A H3 N unknown	1405	954	144	204	123	872	-	872	257	600	-	15	533	
Influenza virus A H3 N2	1023	487	194	264	126	819	-	819	384	405	1	29	204	
Influenza virus B	14	11	2	1	1	7	-	7	1	4	-	2	7	
Influenza virus C	6	4	1	1	-	2	-	2	-	2	-	-	4	
Parainfluenza virus - not typed	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
Parainfluenza virus 1	12	10	2	-	-	5	-	5	2	3	-	-	7	
Parainfluenza virus 2	34	29	2	3	1	1	-	1	-	1	-	-	33	
Parainfluenza virus 3	23	23	-	-	-	2	-	2	-	2	-	-	21	
Respiratory syncytial virus	116	99	1	11	5	16	-	16	-	15	-	1	100	
Mumps virus	91	63	15	4	9	66	-	66	-	59	-	7	25	
Measles virus	89	71	9	4	6	71	-	71	-	68	-	3	18	
Rotavirus - not typed	41	36	3	1	1	37	-	37	-	37	-	-	4	
Rotavirus group A	667	562	60	38	12	511	-	511	2	466	-	43	156	
Rotavirus group C	14	11	-	-	3	8	-	8	-	4	-	4	6	
Astrovirus - not typed	6	6	-	-	-	6	-	6	-	6	-	-	-	
Astrovirus 1	4	4	-	-	-	3	-	3	-	3	-	-	1	
Astrovirus 2	6	6	-	-	-	4	-	4	-	4	-	-	2	
Astrovirus 4	2	2	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	1	
Astrovirus 5	1	1	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	
Small round structured virus	187	125	12	18	36	123	-	123	-	123	-	-	64	
Norwalk-like virus group unknown	69	17	4	8	42	20	-	20	-	18	-	2	49	
Norwalk-like virus genogroup I	32	13	1	-	18	10	-	10	-	10	-	-	22	
Norwalk-like virus genogroup II	71	29	5	7	31	32	-	32	-	31	-	1	39	
Sapporo-like virus	15	14	-	1	-	8	-	8	-	8	-	-	7	
Reovirus 1	3	3	-	-	-	3	-	3	-	3	-	-	-	
Reovirus 2	4	2	-	-	2	2	-	2	-	2	-	-	2	
Adenovirus - not typed	37	29	5	3	-	29	-	29	-	28	-	1	8	
Adenovirus 1	273	237	19	13	5	87	-	87	5	79	1	2	186	
Adenovirus 2	499	447	19	25	13	161	-	161	23	130	2	6	338	
Adenovirus 3	687	592	24	48	31	232	-	232	25	162	33	12	455	
Adenovirus 4	80	64	1	7	9	50	-	50	1	25	22	2	30	
Adenovirus 5	131	114	9	6	3	39	-	39	5	31	-	3	92	
Adenovirus 6	40	36	-	1	3	9	-	9	2	6	1	-	31	
Adenovirus 7	29	24	2	3	-	10	-	10	-	5	1	4	19	
Adenovirus 8	27	23	-	1	3	14	-	14	-	1	13	-	13	
Adenovirus 11	10	10	-	-	-	4	-	4	-	4	-	-	6	
Adenovirus 19	14	12	-	2	-	13	-	13	-	1	12	-	1	
Adenovirus 22	2	2	-	-	-	2	-	2	-	2	-	-	-	
Adenovirus 31	2	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	
Adenovirus 37	37	34	-	1	2	32	-	32	-	-	-	-	5	
Adenovirus 41	1	1	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	
Adenovirus 40/41	60	49	5	3	3	52	-	52	-	48	-	4	8	
Herpes simplex virus - not typed	21	18	1	2	1	1	-	1	-	1	-	-	20	
Herpes simplex virus 1	239	225	6	6	2	83	-	83	5	69	5	3	156	
Herpes simplex virus 2	10	10	-	-	-	4	-	4	-	2	2	2	6	
<i>Chlamydia trachomatis</i>	5	5	-	-	-	3	-	3	-	-	3	-	2	
<i>Coxiella burnetii</i>	5	4	-	1	-	5	5	-	-	-	-	-	-	

* Isolation by culture and detection by immunoassay, PAGE and EM are tabulated. Including cases for which multiple answers were furnished.

10. 年別、由来ヒト、1995～2000年

10. Isolation/detection of viruses from human sources, by year, Japan, 1995-2000
-Prefectural and municipal public health institutes

Based on the data received before October 1, 2003

	1995	1996	1997	1998	1999	2000
TOTAL	13564	10587	12042	17883	15830	13375
Coxsackievirus A - not typed	-	-	-	2	3	2
Coxsackievirus A1	-	-	-	-	-	2
Coxsackievirus A2	19	51	137	45	135	24
Coxsackievirus A3	7	-	7	55	4	8
Coxsackievirus A4	208	97	139	117	239	138
Coxsackievirus A5	55	38	83	42	35	41
Coxsackievirus A6	74	159	22	95	181	81
Coxsackievirus A7	-	1	1	-	2	14
Coxsackievirus A8	4	36	1	7	8	15
Coxsackievirus A9	72	49	42	71	28	87
Coxsackievirus A10	39	209	89	113	46	284
Coxsackievirus A12	-	-	6	13	1	1
Coxsackievirus A16	712	56	67	538	153	215
Coxsackievirus A24	4	3	4	2	-	-
Coxsackievirus B - not typed	-	-	1	-	-	-
Coxsackievirus B1	11	70	81	62	106	88
Coxsackievirus B2	79	127	180	133	150	35
Coxsackievirus B3	467	25	325	179	52	196
Coxsackievirus B4	101	351	34	32	339	120
Coxsackievirus B5	269	125	119	112	149	295
Coxsackievirus B6	9	15	12	3	3	4
Echovirus - not typed	-	-	26	-	1	-
Echovirus 1	1	-	1	3	-	-
Echovirus 2	8	1	-	-	-	1
Echovirus 3	15	-	6	31	51	112
Echovirus 4	2	16	1	4	1	7
Echovirus 5	-	1	7	-	-	2
Echovirus 6	12	7	10	70	295	39
Echovirus 7	326	288	49	4	2	2
Echovirus 9	58	56	407	105	34	249
Echovirus 11	14	32	23	359	92	134
Echovirus 14	18	7	22	9	2	5
Echovirus 15	-	-	-	-	-	-
Echovirus 16	71	6	15	6	1	4
Echovirus 17	6	-	2	77	83	25
Echovirus 18	9	7	23	436	85	65
Echovirus 19	-	-	1	-	-	-
Echovirus 20	-	6	-	-	-	1
Echovirus 21	-	7	5	1	3	23
Echovirus 22	15	12	10	15	10	27
Echovirus 23	-	-	-	-	-	3
Echovirus 24	1	1	15	5	-	2
Echovirus 25	94	39	88	15	50	240
Echovirus 30	4	4	1423	3608	36	41
Echovirus 33	-	-	-	-	-	-
Poliovirus - not typed	-	-	2	1	1	-
Poliovirus 1	41	44	41	33	57	33
Poliovirus 2	30	40	60	41	57	35
Poliovirus 3	16	30	23	26	27	27
Enterovirus 71	49	41	266	45	44	476
Rhinovirus	1	1	1	-	-	6
Influenza virus A - not typed	1	28	-	-	-	-
Influenza virus A H1 N unknown	647	796	-	7	276	2657
Influenza virus A H1 N1	428	1536	-	12	175	1374
Influenza virus A H3 N unknown	1755	949	901	3606	3343	1405
Influenza virus A H3 N2	1895	1058	1183	2629	1884	1023
Influenza virus B	1914	31	2433	222	4168	14
Influenza virus C	-	8	1	1	-	6
Parainfluenza virus - not typed	-	-	-	-	-	1
Parainfluenza virus 1	54	52	38	13	54	12
Parainfluenza virus 2	3	52	1	30	16	34
Parainfluenza virus 3	57	41	52	29	78	23
Respiratory syncytial virus	94	202	198	169	151	116
Mumps virus	160	258	122	152	132	91
Measles virus	55	52	41	82	16	89
Rubella virus	-	-	-	-	-	-

* Isolation by culture and detection by immunoassay, PAGE and EM are tabulated.

** See next page for detection by PCR-positive (other methods were not done or negative).

10. Continued

	1995	1996	1997	1998	1999	2000
Rotavirus - not typed	785	772	124	103	63	41
Rotavirus group A	•	•	389	651	640	667
Rotavirus group C	-	18	-	10	26	14
Calicivirus	•	•	3	7	9	•
Astrovirus - not typed	•	•	18	11	22	6
Astrovirus 1	•	•	•	•	•	4
Astrovirus 2	•	•	•	•	•	6
Astrovirus 4	•	•	•	•	•	2
Astrovirus 5	•	•	•	•	•	1
Small round structured virus	268	247	202	167	194	187
Norwalk-like virus group unknown	•	•	•	•	•	69
Norwalk-like virus genogroup I	•	•	•	•	•	32
Norwalk-like virus genogroup II	•	•	•	•	•	71
Sapporo-like virus	•	•	•	•	•	15
Reovirus - not typed	-	-	1	-	-	-
Reovirus 1	1	1	2	-	-	3
Reovirus 2	2	-	8	7	-	4
Adenovirus - not typed	152	123	80	69	57	37
Adenovirus 1	175	207	269	312	284	273
Adenovirus 2	296	328	457	494	540	499
Adenovirus 3	545	394	437	1422	343	687
Adenovirus 4	70	21	23	74	27	80
Adenovirus 5	126	123	138	134	208	131
Adenovirus 6	37	44	49	40	58	40
Adenovirus 7	104	220	303	294	61	29
Adenovirus 8	144	61	37	15	19	27
Adenovirus 11	53	59	12	9	6	10
Adenovirus 15	-	-	1	-	-	-
Adenovirus 19	6	27	170	141	45	14
Adenovirus 22	-	2	-	1	-	2
Adenovirus 31	2	1	1	1	-	2
Adenovirus 34/35	2	-	1	-	-	-
Adenovirus 35	-	-	1	1	-	-
Adenovirus 37	78	40	20	8	8	37
Adenovirus 40	3	5	-	-	2	-
Adenovirus 41	-	-	-	2	-	1
Adenovirus 40/41	21	15	67	44	69	60
Herpes simplex virus - not typed	91	85	42	38	11	21
Herpes simplex virus 1	335	348	253	283	248	239
Herpes simplex virus 2	16	57	24	28	20	10
Varicella-zoster virus	25	11	6	4	5	-
Cytomegalovirus	240	257	48	45	6	-
Hepatitis A virus	3	-	9	-	-	-
Parvovirus B19	-	-	-	1	-	-
<i>Coxiella burnetii</i>	-	-	-	-	3	5
<i>Chlamydia</i> - not typed	54	57	43	15	-	-
<i>Chlamydia trachomatis</i>	135	189	177	110	46	5
<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	-	19	4	9	-	-

* Isolation by culture and detection by immunoassay, PAGE and EM are tabulated.

•Not included in the survey

(参考)PCRのみで検出された例、年別、由来ヒト、1997～2000年
 Detection of viruses from human sources by PCR, by year, Japan, 1997-2000
 -Prefectural and municipal public health institutes

Based on the data received before October 1, 2003

	1997	1998	1999	2000
TOTAL	287	325	583	1021
Coxsackievirus A2	-	-	3	-
Coxsackievirus A16	-	-	-	3
Echovirus 9	-	-	-	1
Echovirus 25	-	-	-	1
Enterovirus 71	-	-	-	15
Rhinovirus	-	-	-	16
Influenza virus A H1 N unknown	-	-	-	13
Influenza virus A H1 N1	-	-	-	15
Influenza virus A H3 N unknown	19	4	34	11
Influenza virus A H3 N2	-	2	-	3
Influenza virus B	17	-	5	-
Influenza virus C	-	-	1	3
Parainfluenza virus 2	-	-	-	1
Parainfluenza virus 3	-	-	-	1
Respiratory syncytial virus	-	-	13	24
Mumps virus	16	14	12	40
Measles virus	3	34	6	21
Rubella virus	12	7	-	-
Rotavirus group A	1	4	1	1
Rotavirus group C	-	-	-	15
Calicivirus	-	3	10	•
Astrovirus - not typed	-	-	1	2
Astrovirus 1	•	•	•	2
Astrovirus 2	•	•	•	1
Small round structured virus	92	170	433	-
Norwalk-like virus group unknown	•	•	•	340
Norwalk-like virus genogroup I	•	•	•	37
Norwalk-like virus genogroup II	•	•	•	331
Sapporo-like virus	•	•	•	8
Adenovirus - not typed	22	-	-	13
Adenovirus 1	-	-	-	9
Adenovirus 2	-	-	1	2
Adenovirus 8	-	-	-	9
Adenovirus 19	-	-	-	1
Adenovirus 37	-	-	-	1
Adenovirus 41	-	1	-	5
Adenovirus 40/41	-	1	-	3
Herpes simplex virus - not typed	1	5	2	-
Herpes simplex virus 1	2	1	1	2
Herpes simplex virus 2	-	-	-	1
Varicella-zoster virus	8	3	2	7
Cytomegalovirus	21	22	15	5
Human herpes virus 6	16	23	19	29
Human herpes virus 7	10	8	15	7
Epstein-Barr virus	6	5	4	18
Hepatitis A virus	16	1	2	-
Parvovirus B19	25	16	3	4
Dengue virus	-	1	-	-
<i>Chlamydia trachomatis</i>	27	38	52	8
<i>Orientia (Rickettsia) tsutsugamushi</i>	-	5	5	9

* Including PCR-positive cases (other methods were not done or negative)

• Not included in the survey

11. 集団発生病原体票による報告、月別、由来ヒト、2000年

11. Outbreak reports of virus isolation/detection from human sources, by month, Japan, 2000
-Prefectural and municipal public health institutes

Based on the data received before October 1, 2003

	TOTAL	1 JAN	2 FEB	3 MAR	4 APR	5 MAY	6 JUN	7 JUL	8 AUG	9 SEP	10 OCT	11 NOV	12 DEC
TOTAL	317	119	38	44	17	4	5	3	3	-	6	20	58
Small round structured virus	24	7	4	5	2	-	1	1	-	-	1	-	3
Norwalk-like virus genogroup unknown	69	21	10	13	3	1	2	-	-	-	-	5	14
Norwalk-like virus genogroup I	45	16	7	4	6	-	1	-	-	-	3	1	7
Norwalk-like virus genogroup II	116	38	14	17	3	2	-	1	2	-	-	12	27
Rotavirus group A	6	-	-	4	2	-	-	-	-	-	-	-	-
Rotavirus group C	2	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-
Influenzavirus A H1 N unknown	25	22	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Influenzavirus A H1 N1	2	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Influenzavirus A H3 N unknown	5	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Influenzavirus A H3 N2	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Adenovirus 3	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
Adenovirus 4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Herpes simplex virus 1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Hepatitis A virus	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
Negative	16	7	1	-	-	-	1	1	-	-	2	1	3

第6章

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律
の施行に伴う感染症発生動向調査事業の実施について

(平成11年3月19日 厚生省保健医療局長通知)

健医発第 458 号

平成11年3月19日

都道府県知事
政令市長
特別区長

） 殿

厚生省保健医療局長

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の施行に伴う感染症発生動向調査事業の実施について

感染症発生動向調査事業の実施については、かねてからご尽力を賜っているところであるが、平成11年4月から「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」が施行されることに伴い、同法の主要な柱となる感染症発生動向調査を抜本的に見直しその充実を図ることとし、別添「感染症発生動向調査事業実施要綱」を定めたので、実施にあたっては格段の御配意をお願いします。

なお、本事業実施上の細部については、別途当局結核感染症課長から通知することとしているので申し添える。

感染症発生動向調査事業実施要綱

第1 趣旨及び目的

感染症発生動向調査事業については、昭和56年7月から18疾病を対象に開始され、昭和62年1月からはコンピュータを用いたオンラインシステムにおいて27疾病を対象にする等、充実・拡大されて運用されてきたところである。平成10年9月に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症新法」という。）が成立し、平成11年4月から施行されるが、感染症新法の大きな柱として、感染症発生動向調査が挙げられる。感染症の発生情報の正確な把握と分析、その結果の国民や医療関係者への的確な提供・公開は、感染症対策の基本であり、全ての対策の前提となるものである。したがって、感染症新法においては、第三章（第12条～第16条）に感染症発生動向調査を位置づけ、医師等の医療関係者の協力のもと、的確な体制を構築していくこととしている。

これまで、感染症の発生状況の把握については、伝染病予防法等の法律に基づく届出や予算事業で行ってきた（旧）結核・感染症発生動向調査事業があるが、感染症新法においては、新しい感染症類型である1類感染症から4類感染症の全てについて、一元的な情報収集、分析、提供・公開体制を構築することとしている。すなわち、1類感染症から4類感染症（全数把握対象と定点把握対象）の全てを統一して、週報単位（一部感染症は月単位）で、情報収集、分析、提供・公開していくこととしている。また、感染症の病原体に関する情報は、患者への良質かつ適切な医療の提供のために不可欠であるが、感染症の発生の予防及びまん延の防止のためにも極めて重要な意義を有している。したがって、患者情報とともに、病原体に関する情報が統一的に収集、分析及び提供・公開される体制を構築していく必要がある。さらに、提供・公開していく内容としては、一般国民や第一線の医療現場の方々の予防、診療、研究等に役立つ情報とすることとしている。また、感染症新法においては、法第15条に積極的疫学調査（感染症の発生の状況、動向及び原因の調査）の規定を設けており、日常実施していく感染症発生動向調査等の結果に基づいた的確な実施が求められている。

これらのことから、これまでの（旧）結核・感染症発生動向調査の体制を充実・強化し、対象とする感染症に関する情報を全国規模で迅速に収集、分析、提供・公開していくコンピュータ・オンラインシステムの再構築と積極的疫学調査の実施により、有効かつ的確な感染症対策の確立に資することを目的として、本事業を実施するものとする。なお、結核に関する情報収集、分析及び提供・公開のための体制については、当分の間、現行のとおりとする。

第2 対象感染症

本事業の対象とする感染症は次のとおりとする。

1. 全数把握の対象

(1) 1類感染症

(1) エボラ出血熱、(2) クリミア・コンゴ出血熱、(3) ペスト、(4) マールブルグ病及び
(5) ラッサ熱

(2) 2類感染症

(6) 急性灰白髄炎、(7) コレラ、(8) 細菌性赤痢、(9) ジフテリア、(10) 腸チフス及び
(11) パラチフス

(3) 3類感染症

(12) 腸管出血性大腸菌感染症

(4) 4類感染症

(13) アメーバ赤痢、(14) エキノコックス症、(15) 急性ウイルス性肝炎、(16) 黄熱、
(17) オウム病、(18) 回帰熱、(19) Q熱、(20) 狂犬病、(21) クリプトスポリジウム症、(22)
クロイツフェルト・ヤコブ病、(23) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症、(24) 後天性免疫不全
症候群、(25) コクシジオイデス症、(26) ジアルジア症、(27) 腎症候性出血熱、(28) 髄膜炎
菌性髄膜炎、(29) 先天性風疹症候群、(30) 炭疽、(31) ツツガムシ病、(32) デング熱、(33)
日本紅斑熱、(34) 日本脳炎、(35) 乳児ボツリヌス症、(36) 梅毒、(37) 破傷風、(38) バンコ
マイシン耐性腸球菌感染症、(39) ハンタウイルス肺炎症候群、(40) Bウイルス病、(41) ブル
セラ症、(42) 発疹チフス、(43) マラリア、(44) ライム病、(45) レジオネラ症

2. 定点把握の対象（4類感染症）

(46) インフルエンザ、(47) 咽頭結膜熱、(48) 突発性発疹、(49) A群溶血性レンサ球菌咽頭
炎、(50) 百日咳、(51) 感染性胃腸炎、(52) 風疹、(53) 水痘、(54) ヘルパンギーナ、(55) 手
足口病、(56) 麻疹（成人麻疹を除く。）、(57) 伝染性紅斑、(58) 流行性耳下腺炎、(59) 急
性出血性結膜炎、(60) 流行性角結膜炎、(61) 性器クラミジア感染症、(62) 性器ヘルペスウ
イルス感染症、(63) 尖形コンジローム、(64) 淋菌感染症、(65) 急性脳炎（日本脳炎を除
く）、(66) クラミジア肺炎（オウム病を除く）、(67) 細菌性髄膜炎、(68) ペニシリン耐性
肺炎球菌感染症、(69) マイコプラズマ肺炎、(70) 成人麻疹、(71) 無菌性髄膜炎、(72) メチ
シリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(73) 薬剤耐性緑膿菌感染症

第3 実施主体

実施主体は、国、都道府県及び保健所を設置する市（特別区を含む）とする。

第4 実施体制の整備

1. 中央感染症情報センター

中央感染症情報センターは、都道府県、保健所を設置する市及び特別区（以下「都道府県等」という。）の本庁から伝送又は報告された患者情報及び病原体情報を収集、分析し、その結果を全国情報として速やかに都道府県等に提供・公開するための中心的役割を果たすものとして、国立感染症研究所感染症情報センター内に設置する。

2. 地方感染症情報センター及び基幹地方感染症情報センター

地方感染症情報センターは各都道府県等域における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、都道府県等の本庁に報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開することとして、各都道府県等域内に1カ所、地方衛生研究所等の中に設置する。また、都道府県、保健所を設置する市、特別区間等の協議の上、当該都道府県内の地方感染症情報センターの中で1カ所を基幹地方感染症情報センターとして、都道府県全域の患者情報及び病原体情報を収集、分析し、その結果を各地方感染症情報センターに送付するものとする。

なお、以下の実施方法において、地方感染症情報センターが都道府県等の本庁の役割を代替する機能を担うことができるものとする。

3. 指定届出機関（定点）

都道府県は、定点把握対象の4類感染症について、患者情報及び病原体情報を収集するため、患者定点及び病原体定点をあらかじめ選定する。

4. 感染症発生動向調査企画委員会

（1）中央感染症発生動向調査企画委員会

本事業の適切な運用を図るために、厚生省に国立感染症研究所の代表、全国の保健所及び地方衛生研究所の代表、その他感染症対策に関する学識経験者からなる中央感染症発生動向調査企画委員会を置く。同委員会の事務局は中央感染症情報センターとする。

（2）地方感染症発生動向調査企画委員会

各都道府県域内における情報の収集、分析の効果的・効率的な運用を図るため、都道府県に小児科、内科、眼科、皮膚科、泌尿器科、微生物学、疫学等の専門家、保健所及び地方衛生研究所の代表、地域の医師会の代表等（10名程度）からなる地方感染症発生動向調査企画委員会を置く。同委員会の事務局は地方感染症情報センターとする。

第5 事業の実施

1. 1類感染症、2類感染症及び3類感染症

(1) 対象とする感染症患者等の状態

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、コレラ、細菌性赤痢、腸チフス及びパラチフスについては、疑似症患者、患者及び無症状病原体保有者とする。ジフテリア、急性灰白髄炎及び腸管出血性大腸菌感染症については、患者及び無症状病原体保有者とする。

(2) 調査単位及び実施方法

ア. 診断した医師

(1) に該当する患者等を診断した医師は、別記様式1を用いて、直ちに最寄りの保健所に届出を行う。また保健所から当該患者の病原体検査のための検体又は病原体情報の提供の依頼を受けた場合にあつては、協力可能な範囲において、検体又は病原体情報について、保健所の協力を得て別記様式2の検査票を添付して地方衛生研究所に送付する。

イ. 保健所

- ① 当該届出を受けた保健所は、別記様式3に該当する項目について、直ちに都道府県等の本庁及び地方感染症情報センターへコンピュータ・オンラインシステムにより伝送するものとする。また保健所は、当該患者を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の地方衛生研究所への提供について、別記様式2の検査票を添付して依頼するものとする。
- ② 保健所は、地方感染症情報センターから呼び出した患者情報及び病原体情報について、週報（月単位の場合は月報）として、市町村、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に配布する。なお、保健所においては、1類感染症、2類感染症及び3類感染症患者の届出があつた場合には、地域の特性に応じた適切な方法を用いて、届出があつた事実（個人情報に関する事項を除く）を前記の関係機関に連絡する。

ウ. 地方衛生研究所

- ① 地方衛生研究所は、別記様式2の検査票及び検体又は病原体情報が送付された場合にあつては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、別記様式2により保健所、都道府県等の本庁及び地方感染症情報センターに送付する。
- ② 検査のうち、地方衛生研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。
- ③ 地方衛生研究所は、患者が1類感染症と診断されている場合、都道府県域を超えた集団発生があつた場合等の緊急の場合にあつては、厚生省保健医療局結核感染症課からの依頼に基づき、検体を国立感染症研究所に送付する。

エ. 国立感染症研究所

国立感染症研究所は、地方衛生研究所から検査依頼を受けた検体について検査を実施し、その結果を当該地方衛生研究所及び中央感染症情報センターへ通知する。

オ. 都道府県等の本庁

- ① 都道府県等の本庁にあっては、それぞれの管内の患者情報について、保健所からの情報の伝送があり次第、コンピュータ・オンラインシステムにより、中央感染症情報センターへ伝送する。
- ② 都道府県庁等の本庁にあっては、別記様式 2 をもって地方衛生研究所から送付された検査情報について、直ちに中央感染症情報センターに報告する。

カ. 地方感染症情報センター及び基幹地方感染症情報センター

- ① 地方感染症情報センターは、当該都道府県等域内の全ての患者情報及び病原体情報（検査情報を含む。以下カ及びキにおいても同じ）を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、保健所等の関係機関に提供・公開する。
- ② 基幹地方感染症情報センターは、当該都道府県域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

キ. 中央感染症情報センター

- ① 中央感染症情報センターは、都道府県等の本庁から伝送された患者情報を速やかに集計し、分析評価を加えた全国情報を、全数把握の 4 類感染症及び定点把握の 4 類感染症の収集、分析結果とともに、週報（月単位の場合は月報）等として作成して、都道府県等の本庁に送付する。
- ② 中央感染症情報センターは、都道府県等の本庁から報告された病原体情報及びエに基づいて国立感染症研究所が実施した検査の情報の分析評価を行い、その結果を速やかに都道府県等の本庁に送付するとともに、必要に応じて週報（月単位の場合は月報）等に掲載する。

2. 全数把握対象の 4 類感染症

(1) 対象とする感染症の状態

各々の全数把握対象の 4 類感染症について、別に定める報告基準を参考とし、当該疾病の患者と診断される場合とする。

(2) 調査単位及び実施方法

ア. 診断した医師

上記（1）に該当する患者を診断した医師は、別記様式 4 を用いて、7 日以内に最寄り

の保健所に届出を行う。また保健所から当該患者の病原体検査のための検体又は病原体情報の提供の依頼を受けた場合にあっては、協力可能な範囲において、検体又は病原体情報について、保健所の協力を得て別記様式2の検査票を添付して地方衛生研究所に送付する。

イ. 保健所

- ① 当該届出を受けた保健所は、別記様式5に該当する項目について、医師が当該患者を診断してから7日以内の可能な限り早い段階で都道府県等の本庁及び地方感染症情報センターへコンピュータ・オンラインシステムにより伝送するものとする。また保健所は、第2の(13)、(14)、(16)、(17)、(18)、(19)、(20)、(22)、(23)、(24)、(25)、(27)、(28)、(29)、(30)、(31)、(32)、(33)、(34)、(35)、(37)、(39)、(40)、(41)、(42)、(44)又は(45)の患者を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の地方衛生研究所への提供について、別記様式2の検体等依頼票を添付して依頼するものとする。
- ② 保健所は、地方感染症情報センターから呼び出した患者情報及び病原体情報について、週報（月単位の場合は月報）等として、市町村、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に配布する。

ウ. 地方衛生研究所

- ① 地方衛生研究所は、別記様式2の検査票と検体又は病原体情報等が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を診断した医師に通知するとともに、別記様式2により保健所、都道府県等の本庁及び地方感染症情報センターに送付する。
- ② 検査のうち、当該地方衛生研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。
- ③ 地方衛生研究所は、患者の診断が都道府県域を超えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、厚生省保健医療局結核感染症課からの依頼に基づき、検体を国立感染症研究所に送付する。

エ. 国立感染症研究所

国立感染症研究所は、当該地方衛生研究所から検査依頼を受けた検体について検査を実施し、その結果を当該地方衛生研究所及び中央感染症情報センターへ通知する。

オ. 都道府県等の本庁

- ① 都道府県等の本庁にあっては、それぞれの管内の患者情報について、保健所が診断した医師から届出を受けてから7日以内に、コンピュータ・オンラインシステムにより、中央感染症情報センターへ伝送する。
- ② 都道府県等の本庁にあっては、別記様式2をもって地方衛生研究所から送付された検査情報について、直ちに中央感染症情報センターに報告する。

カ. 地方感染症情報センター及び基幹地方感染症情報センター

- ① 地方感染症情報センターは、当該都道府県等域内の全ての患者情報及び病原体情報

（検査情報を含む。以下カ及びキにおいて同じ）を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、保健所等の関係機関に提供・公開する。

- ② 基幹地方感染症情報センターは、当該都道府県域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

キ. 中央感染症情報センター

- ① 中央感染症情報センターは、都道府県等の本庁から伝送された患者情報を速やかに集計し、分析評価を加えた全国情報について、1類感染症から3類感染症及び定点把握の4類感染症の収集、分析結果とともに、週報（月単位の場合は月報）等として作成して、都道府県等の本庁へ送付する。
- ② 中央感染症情報センターは、都道府県等の本庁から報告された病原体情報及びエに基づいて国立感染症研究所が実施した検査の情報の分析評価を行い、その結果を速やかに都道府県等の本庁に送付するとともに、必要に応じて週報（月単位の場合は月報）等として掲載する。

3. 定点把握対象の4類感染症

（1）対象とする感染症の状態

各々の定点把握対象の4類感染症について、別に定める報告基準を参考とし、当該疾病の患者と診断される場合とする。

（2）定点の選定

ア. 患者定点

定点把握対象の4類感染症の発生状況を地域的に把握するため、都道府県は次の点に留意し、関係医師会等の協力を得て、医療機関の中から可能な限り無作為に患者定点を選定する。

- ① 人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ当該都道府県全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮すること。
- ② 対象感染症のうち、第2の(47)から(58)までに掲げるものについては、小児科を標榜する医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）を小児科定点として指定すること。小児科定点の数は下記の計算式を参考として算定すること。

保健所管内人口	定 点 数
～3万人	1
3万人～7.5万人	2
7.5万人～	$3 + (\text{人口} - 7.5 \text{万人}) / 5 \text{万人}$

- ③ 対象感染症のうち、第2の(46)に掲げるインフルエンザについては、前記②で選定した小児科定点に加え、内科を標榜する医療機関（主として内科医療を提供しているもの）を内科定点として指定し、両者を合わせてインフルエンザ定点とすること。内科定点の数は下記の計算式を参考として算定すること。

保健所管内人口	定 点 数
～7.5万人	1
7.5万人～12.5万人	2
12.5万人～	$3 + (\text{人口} - 12.5\text{万人}) / 10\text{万人}$

- ④ 対象感染症のうち、第2の(59)及び(60)に掲げるものについては、眼科を標榜する医療機関（主として眼科医療を提供しているもの）を眼科定点として指定すること。眼科定点の数は下記の計算式を参考として算定すること。

保健所管内人口	定 点 数
～12.5万人	0
12.5万人～	$1 + (\text{人口} - 12.5\text{万人}) / 15\text{万人}$

（注）総定点数が3未満と計算された都道府県においては、3定点とする。

- ⑤ 対象感染症のうち、第2の(61)から(64)に掲げるものについては、産婦人科又は産科若しくは婦人科（産婦人科系）、性病科又は泌尿器科若しくは皮膚科若しくは皮膚泌尿器科（泌尿器科・皮膚科系）を標榜する医療機関（主として各々の標榜科の医療を提供しているもの）を性感染症定点として指定すること。性感染症定点の数は下記の計算式を参考として算定すること。

保健所管内人口	定 点 数
～7.5万人	0
7.5万人～	$1 + (\text{人口} - 7.5\text{万人}) / 13\text{万人}$

（注）各都道府県においては、産婦人科系を泌尿器科・皮膚科系が概ね同数になるように指定することとする。

- ⑥ 対象感染症のうち、第二の(65)から(73)までに掲げるものについては、対象患者がほとんど入院患者であるため、患者を300人以上収容する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）を各2次医療圏域毎に1カ所以上、基幹定点として指定すること。

イ. 病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、都道府県は、病原体定点を選定する。この場合においては、次の点に留意する。

- ① 原則として、患者定点として選定された医療機関の中から選定すること。
- ② アの②により選定された患者定点の概ね10%を小児科病原体定点として、第二の(47)、(49)、(50)、(51)、(54)、(55)、(56)及び(58)を対象感染症とすること。
- ③ アの②及び③により選定された患者定点の概ね10%をインフルエンザ病原体定点として、第二の(46)を対象感染症とすること。
- ④ アの④により選定された患者定点の概ね10%を眼科病原体定点として、第二の(59)及び(60)を対象感染症とすること。
- ⑤ アの⑥により選定された患者定点は、全て基幹病原体定点として、第二の(65)、(67)、(70)及び(71)を対象感染症とすること。

(3) 調査単位等

ア. 患者情報のうち、(2)のアの②、③、④及び⑥(第二の(68)、(72)及び(73))に関する患者情報を除く)により選定された患者定点に関するものについては、1週間(月曜日から日曜日)を調査単位として、(2)のアの⑤及び⑥(第二の(68)、(72)及び(73))に関する患者情報のみ)により選定された患者定点に関するものについては、各月を調査単位とする。

イ. 病原体情報については、原則として結果がまとまり次第、報告することとする。

(4) 実施方法

ア. 患者定点

- ① 患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時における別に定める報告基準により、患者発生状況の把握を行うものとする。
- ② (2)のアの②により選定された小児科定点においては別記様式6により、同②及び③により選定されたインフルエンザ定点においては別記様式7により、同④により選定された眼科定点においては別記様式8により、同⑤により選定された性感染症定点においては別記様式9により、同⑥により選定された基幹定点においては別記様式10により、それぞれ調査単位の患者発生状況等を記載する。
- ③ 別記様式6から10までによる患者情報については、調査単位が週の場合は翌週の月曜日に、月単位の場合は翌月の初日に保健所への発送を行うものとする。この場合において、提供の方法については、患者情報の円滑な収集の観点から、地域の特性に応じた適切な方法を採用することができるものとする。

イ. 病原体定点

- ① 病原体定点として選定された医療機関は、別に定める病原体検査指針により、微生物学的検査のために検体を採取する。
- ② 病原体定点で採取された検体は、別記様式2の検査票を添えて、速やかに地方衛生研究所へ送付する。

ウ. 保健所

- ① 保健所は、患者定点から得られた患者情報（別記様式6～10）の情報項目を、調査単位が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の3日までに、都道府県等の本庁及び地方感染症情報センターへコンピュータ・オンラインにより伝送する。また、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報についても都道府県等の本庁及び地方感染症情報センターへ報告する。
- ② 保健所は、地方感染症情報センターから呼び出した患者情報及び病原体情報について、週報（月単位の場合は月報）として、市町村、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に配布する。

エ. 地方衛生研究所

- ① 地方衛生研究所は、別記様式2の検査票及び検体が送付された場合にあつては、当該検体を検査し、その結果を病原体情報として病原体定点に通知するとともに、都道府県等の本庁及び地方感染症情報センターに送付するものとする。
- ② 検査のうち、当該地方衛生研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。
- ③ 地方衛生研究所は、都道府県域を超えた集団発生があつた場合等の緊急の場合にあつては、厚生省保健医療局結核感染症課からの依頼に基づき、検体を国立感染症研究所に送付する。

オ. 国立感染症研究所

国立感染症研究所は、地方衛生研究所から検査依頼を受けた検体について検査を実施し、その結果を病原体情報として当該地方衛生研究所及び中央感染症情報センターへ通知する。

カ. 都道府県等の本庁

- ① 都道府県等の本庁にあつては、それぞれの管内の患者情報について、保健所からの情報の伝送があり次第、コンピュータ・オンラインシステムにより、中央感染症情報センターへ伝送する。
- ② 都道府県等の本庁にあつては、別記様式2をもって地方衛生研究所から送付された病原体情報について、直ちに中央感染症情報センターに報告する。

キ. 地方感染症情報センター及び基幹地方感染症情報センター

- ① 地方感染症情報センターは、当該都道府県等域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、保健所等の関係機関に提供・公開する。
- ② 基幹地方感染症情報センターは、当該都道府県域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

ク. 中央感染症情報センター

- ① 中央感染症情報センターは、都道府県等の本庁から伝送された患者情報を速やかに集計し、分析評価を加えた全国情報を、1類から3類感染症及び全数把握の4類感染症の収集、分析結果とともに、週報（月単位の場合は月報）等として作成し、都道府県等の本庁に送付する。
- ② 中央感染症情報センターは、都道府県等の本庁から報告された病原体情報及び前記オに基づいて国立感染症研究所が実施した検査の情報の分析評価を行い、その結果を速やかに都道府県等の本庁に送付するとともに、必要に応じて週報（月単位の場合は月報）等に掲載する。

4. 積極的疫学調査

- (1) 積極的疫学調査（法第15条に規定する感染症の発生の状況、動向及び原因の調査をいう。）は、これまで一般的に保健所等における業務として、患者の診断を行った医師等の協力を得つつ、実施されてきたが、新しい時代の感染症対策において重要な位置付けを占めると考えられることから、今般、都道府県知事等の事務として法に新たに規定されたものである。
- (2) 積極的疫学調査が行われる場合としては、①1類感染症、2類感染症又は3類感染症が発生した場合、②4類感染症等に係る感染症発生動向調査において通常と異なる傾向が認められた場合等が考えられるが、個別の事例に応じ、都道府県知事等において適切に判断されるべきものである。また、都道府県知事等が積極的疫学調査を行う場合にあっては、この調査を実施することとなる保健所等の機関において、関係者の理解と協力を得つつ、関係機関と密接な連携を図ることにより、地域における詳細な流行状況や原因不明の感染症等の迅速な把握を進めていくことが重要である。

5. その他

- (1) 感染症発生動向調査は、全国一律の基準で実施されるべきものであるが、上記の実施方法以外の部分について、必要に応じて、各都道府県等の実状に応じた追加を行い、地域における効果的・効率的な感染症発生動向調査体制を構築していくことが求められる。
- (2) 地方衛生研究所を有さない当事業の実施主体においては、近隣の地方衛生研究所を有する地方自治体と協議の上、必要な事務について委託等を行うこととする。
- (3) 本実施要綱に定める事項以外の内容については、必要に応じて保健医療局長が定めることとする。

第6 費用

国は、本事業に要する費用のうち、都道府県が支弁する法第14条から第16条の規定の基づく本事業の事務に要する費用に対して、法第61条の規定に基づき負担する。

第7 実施時期

この実施要綱は、平成11年4月1日から施行する。ただし、病原体情報及び病原体定点に関する項目については、各都道府県等において実施可能となり次第、実施することとして差し支えない。

別記様式一覧表

別記様式 1	1 類感染症、2 類感染症及び 3 類感染症医師届出票（患者）
別記様式 2	1 類感染症、2 類感染症、3 類感染症及び 4 類感染症検査票（病原体）
別記様式 3	1 類感染症、2 類感染症及び 3 類感染症保健所報告項目（患者）
別記様式 4	4 類感染症（全数把握対象）医師届出票（患者）
別記様式 5	4 類感染症（全数把握対象）保健所報告項目（患者）
別記様式 6	4 類感染症（定点把握対象）小児科患者定点報告票
別記様式 7	4 類感染症（定点把握対象）インフルエンザ患者定点報告票
別記様式 8	4 類感染症（定点把握対象）眼科患者定点報告票
別記様式 9	4 類感染症（定点把握対象）性感染症患者定点報告票
別記様式 1 0	4 類感染症（定点把握対象）基幹患者定点報告票

(参 考)

別記様式 1 1 ～ 1 4 病原体情報報告様式

1・2・3類感染症発生届出票

保健所コード	西	曆	ID
□□□□□□	□□□□	□□□□	□□□□□□

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条の規定により、以下のとおり届け出る。
 報告年月日（ 年 月 日）
 医師の氏名
 所属する病院・診療所等施設名
 上記施設の住所・電話番号*

（電話）
 * 所属する施設がない場合は医師の自宅の住所・電話番号を記載すること

1 患者氏名	2 性別 男・女	3 診断時の年齢 生年月日	4 患者職業 歳
5 患者住所	6 患者所在地	7 保護者氏名	
電話（ ）		電話（ ）	
8 保護者連絡先		電話（ ）	
		電話（ ）	

この届出は診断後直ちに行ってください

9 病名	10 診断方法	11 症状	12 発病年月日	
・ エボラ出血熱	病原検査 (検体) (方法) () (型) ()	有	平成 年 月 日	
・ クリスミア・ゴンゴ出血熱	血清学的検査 (検体) (方法) () (型) ()		13 初診年月日	平成 年 月 日
・ ペリスミア	臨床決定 () ()		14 診断(検査)年月日	平成 年 月 日
・ マラリア	その他() ()		15 感染したと推定される年月日	平成 年 月 日
・ コレラ	病原検査 (検体) (方法) () (型) ()		16 死亡年月日*	平成 年 月 日
・ 細菌性赤痢	血清学的検査 (検体) (方法) () (型) ()			
・ 腸チフス	臨床決定 () ()			
・ パラチフス	その他() ()			
・ 急性灰白髄炎	病原検査 (検体) (方法) () (型) ()			
・ ジフテリア	血清学的検査 (検体) (方法) () (型) ()			
・ 腸管出血性大腸菌感染症	病原検査 (検体) (方法) () (型) ()			
	その他() ()			

17 推定される感染地域・感染原因・感染経路
 ・ 推定される感染地域
 1 日本国内
 2 その他 ()
 3 不明

・ 推定される感染原因・感染経路

18 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために必要と認める事項

(2,9,10,11,17欄は該当する番号等を○で囲み、3,4,12,13,14,15,16欄は年齢・年月日等を記入すること。※欄は、死亡者を検査した場合のみ記入すること)

1 類感染症、2 類感染症、3 類感染症及び 4 類感染症検査票 (病原体)

患者 性別 (男・女) 年齢 (歳 カ月)		
[主治医等記載欄] 医療機関等名及び 主治医等医師名 (記載者)		
検体送付日	年 月 日	分離株 (無、有、検査中)
診断日	年 月 日	
発病日	年 月 日	
検取日	年 月 日	
検取材料の種類 [該当するもの一つを 〇で囲んで下さい]	・ふん便 (腸内容物、直腸ぬぐい液) ・髄液 ・喀痰 ・気管吸引液 ・咽頭ぬぐい液 (うがい液、鼻汁) ・皮膚病巣 (水疱内容、痂皮、創傷) ・結膜ぬぐい液 (結膜擦過物、眼脂) ・陰部尿道頸管擦過物/分泌物 ・細胞診、生検、剖検材料 (臓器) ・血液 (全血、血清、血漿、血漿、抗凝固剤) ・その他 [] ・無症状 ・発熱 (最高 ℃) ・関節痛、筋肉痛 ・口内炎、上気道炎、下気道炎 (肺炎、気管支炎) ・発疹 (水疱、丘疹、紅斑、バラ疹) ・循環器障害 (心筋炎、心膜炎、心不全) 出血傾向 ・リンパ節腫脹、腫脹 (部位) ・黄疸 ・浮腫 (部位) ・腎機能障害 (HUS、血尿、乏尿、蛋白尿、多尿、腎不全) ・ショック症状 (低血圧、循環不全) ・尿路上皮器症状 ・その他の症状 (上記以外の症状や臨床徴候) []	
臨床徴候等 [該当するものを全て 〇で囲んで下さい。 (基礎疾患を除く)]		
基礎疾患 転 経過観察中、軽快、治癒、死亡 (原因)		
主治医等から地方衛生研究所への連絡事項		

[保健所等記載欄] (主治医記載可)		
発生の状況	・散発 ・地域流行 ・家族内発生 (無、有) ・集団発生 (無、有) 有の場合 (保育所、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学、宿舍・寮、病棟、老人ホーム、福祉・養護施設、旅館・ホテル、飲食店、事業所、その他 [])	
最近の海外渡航歴	国名	
ワクチン接種歴	ワクチン名	最近の接種年月日
[地方衛生研究所記載欄]		
記載者名		
抗体検出方法	(蛍光、IP、ELISA、CF、HI、PA、中和、イムノブロット、ゲル内沈降、凝集反応、その他 [])	
検出年月日	年 月 日	
病原体検出	検出方法 [陽性となった方法 〇で囲んで下さい]	結果 ()
検出病原体 (株、型、亜型)	検出病原体 (培養細胞: 細胞名 [人工培地、発育鶏卵、動物、その他]) ・抗原検出等 (電顕、鏡検、蛍光、EIA、凝集反応、その他) ・遺伝子検出 (1. 非増幅 [ハイブリ、PAGE、その他] 2. 増幅 [PCR、その他])	
[その他特記事項]		

注1) 主治医記載欄については、検体送付日において記載できる範囲で記載をお願いします。
 注2) ワクチン接種歴については、当該疾患に係るものにつき記載して下さい。
 注3) 2類、3類感染症について医療機関 (民間検査所を含む) で病原体を分離した場合は、可能な範囲で地方衛生研究所への分離株の送付をお願いします。

別記様式 3

1 類感染症、2 類感染症及び3 類感染症保健所報告項目（患者）

1 類感染症、2 類感染症及び3 類感染症につき、保健所が、都道府県等の本庁及び地方感染症情報センターへコンピュータ・オンラインにより伝送する項目は以下のとおりとする。

別記様式 1 のうち、

- 「 9 病名」
 - 「10 診断方法」
 - 「11 症状」
 - 「12 発病年月日」
 - 「13 初診年月日」
 - 「14 診断（検案）年月日」
 - 「15 感染したと推定される年月日」
 - 「16 死亡年月日」
 - 「17 推定される感染地域・感染原因・感染経路」
- 及び
- 「3 診断時の年齢」のうち、患者の「生年月日」

以上

4 類感染症発生届
(クロイツフェルト・ヤコブ病、後天性免疫不全症候群、先天性風疹症候群を除く)

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日（平成 年 月 日）

医師の氏名 _____ 印
 所属する病院・診療所等施設名 _____
 上記施設の住所・電話番号 _____ (電話 _____)
 (* 所属する施設がない場合は医師の自宅の住所・電話番号を記載すること)

1 性別	男・女
2 診断時の年齢	歳

3 病名 (該当する番号等を○で囲むこと)	1 アメーバ赤痢
	2 エキノコックス症 (1)単包条虫、(2)多包条虫
	3 黄熱
	4 オウム病
	5 回帰熱
	6 急性ウイルス性肝炎 (1)A型、(2)B型、(3)C型、(4)D型 (5)E型、(6)その他() (7)不明
	7 〇熱
	8 狂犬病
	9 クリプトスポリジウム症
	10 劇症型溶血性レンサ球菌感染症
	11 コクシジオイデス症
	12 ジアルジア症
	13 腎症候性出血熱
	14 髄膜炎菌性髄膜炎
	15 炭疽
	16 ツツガムシ病
	17 デング熱 (1)デング熱、(2)デング出血熱
	18 日本紅斑熱
	19 日本脳炎
	20 乳児ポツリヌス症
21 梅毒 (1)早期顕症梅毒 (7. I期、4. II期) (2)晩期顕症梅毒、(3)無症候梅毒、 (4)先天梅毒	
22 破傷風	
23 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	
24 ハンタウイルス肺症候群	
25 Bウイルス病	
26 ブルセラ症	
27 発疹チフス	
28 マラリア (1)三日熱、(2)四日熱、(3)卵形、 (4)熱帯熱、(5)不明	
29 ライム病	
30 レジオネラ症	

4 診断方法	1) 病原検査 (検体 _____) (方法 _____) (型 _____)
	2) 血清学的検査 (検体 _____) (方法 _____) (型 _____)
	3) 臨床決定
	4) その他 (_____) (該当するもの全てに記載すること)

5 診断時の症状	1) 有 (_____)
	2) 無

6	発病年月日	平成	年	月	日
7	初診年月日	平成	年	月	日
8	診断(検察)年月日	平成	年	月	日
9	感染したと推定される年月日	昭和・平成	年	月	日
10	死亡年月日	※ 平成	年	月	日

11-12 推定される感染地域・感染原因・感染経路	
・最近数年間の主な居住地	
1	日本国内
2	その他()
3	不明
・推定される感染地域	
1	日本国内
2	その他()
3	不明
・病原体や媒介動物等との接触または生息場所での活動	
1	あり()
2	なし
・推定される感染源・感染経路等	
1	経口感染(推定される飲食物 _____)
2	性行為感染
	ア.異性間性的接触 イ.同性間性的接触
3	静注薬物使用
4	母子感染
5	輸血
6	媒介動物等からの感染(動物の種類 _____)
7	その他(_____)
8	不明
・同疾患または同様の症状の者の発症	
1	同居者にいる
2	同じ職場や学校等にいる
3	その他(_____)
4	いない

この届出は診断から7日以内に行ってください

(1, 3, 4, 11・12欄は該当する番号等を○で囲み、2, 6, 7, 8, 9欄は年齢・年月日を記入すること。※欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること)

クロイツフェルト・ヤコブ病発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日（平成 年 月 日）

医師の氏名

印
(自署または記名押印のこと)

所属する病院・診療所等施設名

上記施設の住所・電話番号

(電話)

(* 所属する施設がない場合は医師の自宅の住所・電話番号を記載すること)

1 性別	男・女
2 診断時の年齢	歳
3 病名	クロイツフェルト・ヤコブ病 1) 孤発性CJD 2) 家族性CJD 3) 新変異型CJD 4) GSS 5) FFI (7. 確実 4. ほぼ確実 3. 疑い)
4 診断方法	1) 病原検査(異常プリオンたん白の検出) 部位 (1) 脳 (2) 扁桃 (3) その他 方法 (1) Western Blot法 (2) 免疫染色法 型(免疫染色法による) (1) アミロイド斑型 (2) シナプス型 2) プリオンたん白遺伝子検査 (1) コドン()の異常 (2) コドン129の多型 (7. M/M 4. M/V 3. V/V) (3) コドン219の多型 (7. E/E 4. E/K 3. K/K) (4) その他() 3) 臨床決定 4) その他() (該当するもの全てに記載すること)

5 診断時の症状	1) 有 7. 進行性痴呆 (年 月より) イ. 記憶障害 (年 月より) ウ. 精神・知能障害 (年 月より) エ. 臨床的に頑固な不眠 (年 月より) オ. 視覚異常 (年 月より) カ. 錯感覚・異常感覚 (年 月より) キ. 錐体路症状 (年 月より) ク. 痙性対麻痺 (年 月より) ケ. 錐体外路症状 (年 月より) コ. 筋強剛 (年 月より) サ. 小脳症状 (年 月より) シ. ミオクローヌス (年 月より) ス. 無動性無言状態 (年 月より) セ. 脳波検査でPSDあり (年 月より) ソ. その他() (年 月より) 2) 無
6 発病年月日	平成 年 月 日
7 初診年月日	平成 年 月 日
8 診断(検案※)年月日	平成 年 月 日
9 感染したと推定される年月日	昭和・平成 年 月 日
10 死亡年月日	※ 平成 年 月 日

11・12 推定される感染地域・感染原因・感染経路	
<ul style="list-style-type: none"> 最近数年間の主な居住地 1) 日本国内 2) その他() 3) 不明 推定される感染地域 1) 日本国内 2) その他() 3) 不明 同疾患または同様の症状の者 1) 家族にいる 2) 同じ職場等にいる 3) その他() 4) いない 	<ul style="list-style-type: none"> 推定される感染経路等 1) ヒト乾燥硬膜 2) ヒト下垂体由来成長ホルモン製剤 3) 角膜移植 4) 手術等観血的処置 (種類) 5) 輸血等 6) その他() 7) 不明

この届出は診断から7日以内に行ってください

(1, 3, 4, 5, 11・12欄は該当する番号等を○で囲み、2, 6, 7, 8, 9, 10欄は年齢・年月日を記入すること。※欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること)

後天性免疫不全症候群発生届 (HIV感染症を含む)

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 (平成 年 月 日)

医師の氏名 所属する病院・診療所等施設名 上記施設の住所・電話番号

Table with 3 columns: 1 性別 (男・女), 2 診断時の年齢 (歳), 3 病名 (1) 無症候性キャリア, 2) AIDS, 3) その他. 4-1 診断方法 (1) 抗HIV抗体スクリーニング検査, 2) 確認検査, 3) 病原検査, 4) その他.

Table with 5 rows: 5 診断時の症状 (1) 有, 2) 無. 6 発病年月日 (AIDSの初発疾患(4-2)の発病日). 7 初診年月日. 8 診断(検案※)年月日 (AIDSの場合は指検疾患(4-2)の診断日). 9 感染したと推定される年月日. 10 死亡年月日※.

Table with 4-2 AIDSを診断した指検疾患 (該当する全てに○) and a list of 23 diseases including 1) カンジダ症, 2) クリプトコッカス症, 3) コクシジオイデス症, etc.

Table with 11-12 推定される感染地域・感染原因・感染経路. Columns for 最近数年間の主な居住地, 推定される感染地域, 国籍, 推定される感染経路等.

この届出は診断から7日以内に行ってください

(1, 3, 4-1, 2, 5, 11・12欄は該当する番号等を○で囲み、2, 6, 7, 8, 9, 10欄は年齢・年月日を記入すること。※欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること)

先天性風疹症候群発生届

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日（平成 年 月 日）

医師の氏名 _____ 印
（自署または記名押印のこと）

所属する病院・診療所等施設名 _____

上記施設の住所・電話番号 _____
（電話 _____）

（* 所属する施設がない場合は医師の自宅の住所・電話番号を記載すること）

1 性別	男 ・ 女
2 診断時の年齢	歳
3 病名	先天性風疹症候群
4 診断方法	1) 病原検査 （検体 _____） （方法 _____） 2) 血清学的検査 （検体 _____） （方法 _____） 3) 臨床決定 4) その他 （ _____ ） <small>（該当するもの全てに記載すること）</small>

5	診断時の症状	1) 有 _____ 2) 無 _____
6	発病年月日	平成 年 月 日
7	初診年月日	平成 年 月 日
8	診断（検案※）年月日	平成 年 月 日
9	感染したと推定される年月日	昭和・平成 年 月 日
10	死亡年月日	※ 平成 年 月 日

11・12 推定される感染地域・感染原因・感染経路	
・最近数年間の主な居住地 1) 日本国内 2) その他(_____) 3) 不明 ・推定される感染地域 1) 日本国内 2) その他(_____) 3) 不明	・母親の妊娠中の風疹罹患歴 1) あり 2) なし ・母親の風疹抗体価と測定時期 _____ _____ _____ ・母親の風疹予防接種歴 1) あり 2) なし

この届出は診断から7日以内に行ってください

（1, 3, 4, 5, 11・12欄は該当する番号等を○で囲み、2, 6, 7, 8, 9, 10欄は年齢・年月日を記入すること。※欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること）

別記様式 5

4 類感染症（全数把握対象）保健所報告項目（患者）

4 類感染症のうち全数把握対象のものにつき、保健所が、都道府県等の本庁及び地方感染症情報センターへコンピュータ・オンラインにより伝送する項目は以下のとおりとする。

別記様式 4 のうち、すべての項目

以上

感染症発生動向調査(小児科定点)

調査期間 平成 年 月 日 ~ 年 月 日 (週報)

西曆 年 第 週 保健所コード 定点コード

疾患名	年齢		~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10~14	15~19	20歳以上	合計
	男	女															
咽頭結膜熱	男	女															
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	男	女															
感染性胃腸炎	男	女															
水痘	男	女															
手足口病	男	女															
伝染性紅斑	男	女															
突発性発疹	男	女															
百日咳	男	女															
風疹	男	女															
ヘルパンギーナ	男	女															
麻疹	男	女															
流行性耳下腺炎	男	女															

感染症発生動向調査(インフルエンザ定点)

調査期間 平成 年 月 日 ~ 月 日 (週報)

西暦 年 第 週 保健所コード 定点コード

疾患名	年齢		~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上	合計	
	インフルエンザ	男	女																					

感染症発生動向調査(眼科定点)

調査期間 平成 年 月 日 ~ 月 日 (週報)

西暦 年 第 週 保健所コード 定点コード

疾患名	年齢		1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上	合計	
	~6ヶ月	~12ヶ月																			
急性出血性結膜炎	男																				
	女																				
流行性角結膜炎	男																				
	女																				

感染症発生動向調査(STD定点)

調査期間 平成 年 月 日 ~ 月 日 (月報)

西暦 年 月 日 保健所コード 定患コード

疾患名	年齢		0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上	合計	
	男	女																		
性器クラミジア感染症	男																			
	女																			
性器ヘルペスウイルス感染症	男																			
	女																			
尖形コンジローム	男																			
	女																			
淋菌感染症	男																			
	女																			

感染症発生動向調査(基幹定点)

調査期間 平成 年 月 日 ~ 月 日 (週報)

西暦 年 月 日

第 週 保健所コード

定点コード

ID番号	性	年・月・年齢	病名	採取年月日	検査方法	検査結果 (病原体名称)
			1 2 3 4 5 6		1 2 3 4 5 6	
			1 2 3 4 5 6		1 2 3 4 5 6	
			1 2 3 4 5 6		1 2 3 4 5 6	
			1 2 3 4 5 6		1 2 3 4 5 6	
			1 2 3 4 5 6		1 2 3 4 5 6	
			1 2 3 4 5 6		1 2 3 4 5 6	
			1 2 3 4 5 6		1 2 3 4 5 6	
			1 2 3 4 5 6		1 2 3 4 5 6	
			1 2 3 4 5 6		1 2 3 4 5 6	
			1 2 3 4 5 6		1 2 3 4 5 6	

- 検査方法
- 1: 分離・培養
 - 2: 抗原検出
 - 3: 核酸・PCR
 - 4: 塗末検鏡
 - 5: 電顕
 - 6: 血清
- 病名
- 1: 急性脳炎(日本脳炎を除く)
 - 2: 細菌性髄膜炎(真菌性を含む)
 - 3: 無菌性髄膜炎
 - 4: マイコプラズマ肺炎
 - 5: クラミジア肺炎(オウム病を除く)
 - 6: 成人麻疹

調査期間 平成 年 月 日 ~ 月 日 (月報)

西暦 年 月 日

第 月 保健所コード

定点コード

ID番号	性	年・月・年齢	病名	採取年月日	採取部位
			1 2 3		
			1 2 3		
			1 2 3		
			1 2 3		
			1 2 3		

- 病名
- 1: メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
 - 2: ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
 - 3: 薬剤耐性緑膿菌感染症

様式 1 1 病原体情報報告様式・病原菌検出状況報告 (3A:地研・保健所)

病原菌検出状況報告 (3A:地研・保健所)

報告内容 _____
 報告年月日 _____ 年 _____ 月 _____ 日
 検体採取年月 _____ 年 _____ 月

報告機関名 _____

コード	菌種・群・型	ヒト由来 検出数	海外旅行者 分再掲
100-004	Escherichia coli 病原大腸菌血清型(EPEC)	7	0
204-001	Vibrio cholerae 01:El Tor,Ogawa,CT(+)	1	0
304-001	Shigella sonnei	1	0
501-001	Streptococcus A T1	4	0
501-004	Streptococcus A T4	1	0
501-005	Streptococcus A T6	5	0
501-009	Streptococcus A T12	5	0
501-015	Streptococcus A T28	1	0
501-016	Streptococcus A T83264	1	0
502-002	Streptococcus C	1	0
502-003	Streptococcus G	1	0
502-005	Streptococcus 群不明	1	0
502-006	Streptococcus pneumoniae	10	0
515-001	Haemophilus influenzae b型	1	0
515-002	Haemophilus influenzae b型以外	10	0
合計		50	0

受付年月日 2005 年 03 月 17 日

病原体個票

報告内容 _____

報告機関名 _____
 報告種別 _____

報告年月日 _____年 _____月 _____日
 病原体種別 _____

検体提供者番号 _____
 検出病原体 _____

検体採取年月日 _____年 _____月 _____日

型別結果

血清型 _____ (_____)
 毒素型および病原因子 _____ (_____)
 _____ (_____)
 _____ (_____)

特記すべき生化学的性状等 _____

検体提供者

性別 _____ 年齢 _____ 歳 月齢 _____ ヶ月
 検体採取機関名 _____
 診断名 _____ 症状の有無 _____
 発病年月日 _____年 _____月 _____日 転帰 _____

EHEC/VTEC陽性者の臨床症状

- 不明 無症状（←健康保菌者） HUS 血便（←粘血便） 下痢（←水様便） 腹痛
 嘔吐 発熱（ _____ ℃） 脳症 その他（ _____ ）

陽性となった分離材料

- 糞便（←腸内容物、直腸ぬぐい液） 生検、剖検材料 【臓器名 _____】
 喀痰・気管吸引液 血液（全血、血清、血漿） 穿刺液（←腹水、胸水、関節液）
 咽頭ぬぐい液（←うがい液、鼻汁） 髄液 皮膚病巣（←水疱内容、痂皮、創傷）
 結膜ぬぐい液（←結膜擦過物、眼脂） 尿 陰部尿道頭管擦過物／分泌物
 その他（ _____ ）

疫学的事項

発生の状況 散発 地域流行 家族内発生 集団発生 集団発生の場所 _____
 最近の海外渡航歴 無 _____ （発生市区町村 静岡・沼津市 _____）
 渡航先 _____（ _____ ） _____（ _____ ）
 _____（ _____ ） _____（ _____ ）
 渡航期間 _____年 _____月 _____日 ~ _____年 _____月 _____日
 当該疾患のワクチン接種歴 不明 _____ ワクチン名 _____
 最近の接種年月日 _____年 _____月 _____日

備考

管理No _____

様式13 病原体情報報告様式・病原体個票（ウイルス検出報告用）

病原体個票

報告内容 _____

報告機関名 _____
報告種別 _____

報告年月日 _____年 _____月 _____日
病原体種別 ウイルス

検体提供者番号 _____
検出病原体 _____

検体採取年月日 _____年 _____月 _____日

検体提供者	性別 _____	年齢 _____歳	月齢 _____ヶ月
検体採取機関名	定点の種類 _____		
診断名	症状の有無 _____		
発病年月日 _____年 _____月 _____日	転帰 _____		

陽性となった分離材料

<input type="checkbox"/> 糞便（←腸内容物、直腸ぬぐい液）	<input type="checkbox"/> 生検、剖検材料 【臓器名 _____】
<input type="checkbox"/> 喀痰・気管吸引液	<input type="checkbox"/> 血液（全血、血清、血漿）
<input checked="" type="checkbox"/> 咽頭ぬぐい液（←うがい液、鼻汁）	<input type="checkbox"/> 穿刺液（←腹水、胸水、関節液）
<input type="checkbox"/> 結膜ぬぐい液（←結膜擦過物、眼脂）	<input type="checkbox"/> 髄液
<input type="checkbox"/> その他（ _____ ）	<input type="checkbox"/> 皮膚病巣（←水疱内容、痂皮、創傷）
	<input type="checkbox"/> 陰部尿道頭管擦過物／分泌物

臨床症状・徴候等（基礎疾患を除く）

<input type="checkbox"/> 不詳	<input type="checkbox"/> ショック症状（←低血圧、循環不全）
<input type="checkbox"/> 無症状（←健康者）	<input type="checkbox"/> 胃腸炎（ <input type="checkbox"/> 下痢 <input type="checkbox"/> 嘔気・嘔吐）
<input checked="" type="checkbox"/> 発熱（最高体温 _____℃）	<input type="checkbox"/> 角膜炎 <input type="checkbox"/> 結膜炎 <input type="checkbox"/> 角結膜炎
<input type="checkbox"/> 熱性けいれん <input type="checkbox"/> 関節痛、筋肉痛（←関節炎・筋炎）	<input type="checkbox"/> 髄膜炎（←項部硬直） <input type="checkbox"/> 意識障害
<input type="checkbox"/> 口内炎（←歯肉炎）	<input type="checkbox"/> 麻痺（全身性、中枢神経系のもの）
<input checked="" type="checkbox"/> 上気道炎（←咽頭炎、咽頭痛、扁桃炎）	<input type="checkbox"/> 脳炎 <input type="checkbox"/> 脳症 <input type="checkbox"/> 腎臓炎
<input type="checkbox"/> 下気道炎（ <input type="checkbox"/> 肺炎 <input type="checkbox"/> 気管支炎）	<input type="checkbox"/> 循環器障害（←心筋炎、心膜炎、心不全）
<input type="checkbox"/> 水疱 <input type="checkbox"/> 発疹（←丘疹、紅斑、バラ疹）	<input type="checkbox"/> 黄疸 <input type="checkbox"/> 肝機能障害
<input type="checkbox"/> 出血傾向（←紫斑病、出血熱） ※全身性のもの	<input type="checkbox"/> 腎機能障害（←HUS、血尿、乏尿、蛋白尿、多尿、腎不全）
<input type="checkbox"/> リンパ節腫脹 <input type="checkbox"/> 唾液腺腫脹（←耳下腺炎、顎下腺炎）	<input type="checkbox"/> 尿路生殖器症状（←膀胱炎、尿道炎、外陰炎、頸管炎）
<input type="checkbox"/> その他の症状（ _____ ）	

陽性となった検出方法

<input checked="" type="checkbox"/> 分離培養	<input checked="" type="checkbox"/> 培養細胞	<input type="checkbox"/> 人工培地	<input type="checkbox"/> 発育鶏卵（ _____代）	<input type="checkbox"/> 動物	<input type="checkbox"/> その他
	細胞名 _____		細胞名 _____		細胞名 _____
<input type="checkbox"/> 抗原検出等	<input type="checkbox"/> 電顕	<input type="checkbox"/> 蛍光	<input type="checkbox"/> EIA	<input type="checkbox"/> RPHA	<input type="checkbox"/> LA <input type="checkbox"/> PA <input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 遺伝子検出	非増幅 [<input type="checkbox"/> ハイブリ <input type="checkbox"/> PAGE <input type="checkbox"/> その他]				
	増幅 [<input type="checkbox"/> PCR <input type="checkbox"/> その他]				
<input type="checkbox"/> 鏡検					
<input type="checkbox"/> その他（ _____ ）					

疫学的事項

発生の状況 散发 地域流行 家族内発生 集団発生 集団発生の場所 _____

最近の海外渡航歴 _____（発生市区町村 _____）

渡航先 _____（ _____ ） _____（ _____ ）

_____（ _____ ） _____（ _____ ）

渡航期間 _____年 _____月 _____日～ _____年 _____月 _____日

当該疾患のワクチン接種歴 無 _____ ワクチン名 _____

最近の接種年月日 _____年 _____月 _____日

備考 _____

受付年月日 _____年 _____月 _____日

整理番号 _____

集団発生病原体票

報告内容 _____

報告機関名 _____ 報告年月日 _____ 年 _____ 月 _____ 日
 報告種別 _____ 病原体種別 _____

推定伝播経路 _____
 診断名 _____ 問い合わせ番号 _____
 発生地 国内(市区町村 _____) 国外(_____)
 発生期間 _____ 年 _____ 月 _____ 日 ~ _____ 年 _____ 月 _____ 日

推定原因施設 _____
 推定感染・摂取場所 _____
 推定される原因食品種別 _____
 推定原因食品名 _____
 推定される発生原因 _____

摂取者数 _____ 患者数 _____
 患者年齢幅 _____ 歳 ~ _____ 歳
 被検者数 _____ 病原体陽性者数 _____
 平均潜伏時間 _____ 時間 二次感染の有無 _____

ヒトからの検出	
検出病原体	_____
型別結果	_____
血清型	_____ (_____)
_____	(_____)
_____	(_____)
_____	(_____)
特記すべき生化学的性状等 _____	

食品および飲料水からの検出	
食品名	_____
検出病原体	_____
型別結果	_____
血清型	_____ (_____)
_____	(_____)
_____	(_____)
_____	(_____)
特記すべき生化学的性状等 _____	

調理環境からの検出	
検体	_____
検出病原体	_____
型別結果	_____
_____	(_____)
_____	(_____)
_____	(_____)
_____	(_____)
特記すべき生化学的性状等 _____	

備考	_____
----	-------

第7章

感染症新法に基づく医師から都道府県知事等への

届出のための基準について

(平成11年3月30日 厚生省保健医療局結核感染症課長通知)

健医感発第 46 号
平成11年3月30日

各 { 都道府県
政令市
特別区 } 衛生主管部(局)長 殿

厚生省保健医療局
結核感染症課長

感染症新法に基づく医師から都道府県知事等への
届出のための基準について

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第114号）が本年4月1日から施行されることに伴い、別添のとおり「医師から都道府県知事等への届出のための基準」を作成したのでお知らせする。

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の施行に伴う感染症発生動向調査事業の実施について」（平成11年3月19日健医発第458号厚生省保健医療局長）における4類感染症の報告基準として活用されるとともに、関係機関に対し周知されたい。

なお、1類、2類及び3類感染症等の報告基準については、参考として添付しているので申し添える。

また、都道府県等においては、医師から報告のあった患者の個人情報の保護について特段の配慮をお願いする。

4 類感染症

(1) アメーバ赤痢

《 定 義 》

赤痢アメーバ (*Entamoeba histolytica*) の感染に起因する疾患で、消化器症状を主症状とするが、それ以外の臓器にも病変を形成する。

《 臨 床 的 特 徴 》

病型は腸管アメーバ症と腸管外アメーバ症に大別される。

腸管アメーバ症は下痢、粘血便、しぶり腹、鼓腸、排便時の下腹部痛あるいは不快感などの症状を伴う慢性腸管感染症であり、典型的にはイチゴゼリー状の粘血便を排泄するが、数日から数週間の間隔で憎悪と寛解をくり返すことが多い。潰瘍の好発部位は盲腸から上行結腸にかけてとS字結腸から直腸にかけての大腸である。まれに肉芽腫性病変が形成されたり潰瘍部が壊死性に穿孔することもある。

腸管外アメーバ症は多くは腸管部よりアメーバが血行性に転移することによるが、肝膿瘍が最も高頻度にみられる。成人男性に多い。発熱 (38~40℃)、季肋部痛、嘔気、嘔吐、体重減少、寝汗、全身倦怠などを伴う。膿瘍が破裂すると腹膜、胸膜や心外膜にも病変が形成される。その他、皮膚、脳や肺に膿瘍が形成されることがある。

《 報 告 の た め の 基 準 》

○ 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断や血清学的診断がなされたもの。

・ 病原体の検出

例、糞便からの赤痢アメーバ栄養体の検出

病変部位 (組織切片または膿瘍液) からの本原虫の検出など

・ 病原体の遺伝子の検出

例、赤痢アメーバに特有な遺伝子配列の検出 (PCR 法等) など

・ 病原体に対する抗体の検出

例、患者血清からの赤痢アメーバに対する特異抗体の検出など

《 備 考 》

検便は場合によって1回の検査に留めず、連続3日間程度の集中検査で検出精度を高める措置が求められる。

(2) エキノコックス症

《 定 義 》

エキノコックス (*Echinococcus*) による感染症で、単包条虫 (*Echinococcus granulosus*) と多包条虫 (*Echinococcus multilocularis*) の2種類がある。

《 臨 床 的 特 徴 》

ヒトへの感染はキツネやイヌなどから排泄された虫卵に汚染された水、食べ物、埃などを経口的に摂取した時に起こる。体内に発生した嚢胞は緩慢に増大し、周囲の臓器を圧迫する。多包虫病巣の拡大は極めてゆっくりで、肝臓の腫大、腹痛、黄疸、貧血、発熱や腹水貯留などの初期症状が現れるまで、成人では通常10年以上を要する。放置すると約半年で腹水がたまり、やがて死に至る。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断や血清学的診断がなされたもの。
 - ・ 病原体の検出
 - 例、患者から包虫の嚢胞、嚢胞壁の一部、原頭節及び鉤などが検出された場合など
 - ・ 病原体に対する抗体の検出
 - 例、ELISA 法及び Western Blot 法など

(3)急性ウイルス性肝炎

《 定 義 》

ウイルス感染が原因と考えられる急性肝炎（A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎、その他のウイルス性肝炎）である。慢性肝疾患、無症候性キャリア及びこれらの急性増悪例は含まない。

《 臨 床 的 特 徴 》

一般に全身倦怠感、感冒様症状、食思不振、悪感、嘔吐などの症状で急性に発症して、数日後に褐色尿や黄疸をともなうことが多い。発熱、その他の全身症状を呈する発病もない時期には、感冒あるいは急性胃腸炎などと類似した症状を示す。

臨床病型は、黄疸をともなう定型的急性肝炎のほかに、顕性黄疸を示さない急性無黄疸性肝炎、高度の黄疸を呈する胆汁うっ滞性肝炎、急性肝不全症状を呈する劇症肝炎などに分類される。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって検査所見による診断がなされたもの

1) A型肝炎

- ・血清抗体の検出

例、血清中の IgM・HA 抗体が陽性のもの

2) B型肝炎

- ・血清抗体の検出

例、患者血清中の IgM・HBc 抗体が陽性のもの

(キャリアの急性増悪例は含まない)

3) C型肝炎

- ・抗原の検出

例、HCV 抗体陰性で、HCV・RNA または HCV コア抗原が陽性のもの

- ・血清抗体の検出

例、患者ペア血清で、第2あるいは第3世代 HCV 抗体の明らかな抗体価上昇を認めるもの

4) その他のウイルス性肝炎

HDV、HEV など上記以外の肝炎ウイルスによる急性肝炎や、その他の非特異的ウイルスによる急性肝炎

- ・病原体検査や血清学的診断によって、急性ウイルス性肝炎と推定されるもの。

(この場合には、病原体の名称についても報告すること)

- 上記の急性ウイルス性肝炎の報告のための基準を満たすもので、かつ、劇症肝炎とな

ったものについては、報告書の「症状」欄にその旨を記載する。劇症肝炎については、以下の基準を用いる

- ・ 肝炎のうち症状発現後8週以内に高度の肝機能障害に基づいて肝性昏睡Ⅱ度以上の脳症をきたし、プロトロンビン時間40%以下を示すもの。発病後10日以内の脳症の出現は急性型、それ以降の発現は亜急性型とする。

(4) 黄熱

《 定 義 》

フラビウイルス科に属する黄熱ウイルスの感染によるウイルス性出血熱である。南米やアフリカの熱帯地域にみられる。

《 臨 床 的 特 徴 》

潜伏期間は3～6日間で発症は突然である。悪寒または悪寒戦慄とともに高熱を出し、嘔吐、筋肉痛、出血（鼻出血、歯齦出血、黒色嘔吐、下血、子宮出血）、蛋白尿、比較的除脈、黄疸等を来す。普通は7～8病日から治癒に向かうが、重症の場合には乏尿、心不全、肝性昏睡などで、5～10病日に約10%が死亡する。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断や血清学的診断がなされたもの。
 - ・ 病原体の検出
 - 例、ウイルスの分離など
 - ・ 病原体の遺伝子の検出
 - 例、血液からのPCR法による検出など
 - ・ 病原体に対する抗体の検出
 - 例、黄熱IgM抗体の検出
 - ペア血清を用いたブラック減少中和試験など

(5) オウム病

《 定 義 》

クラミジア *Chlamydia psittaci* を病原体とし、オウムなどの愛玩用のトリからヒトに感染し、肺炎などの気道感染症を起こす疾患である。

《 臨 床 的 特 徴 》

1～2週間の潜伏期の後に、突然の発熱で発病する。軽い場合はかぜ程度の症状であるが、老人などでは重症になることが多い。初期症状として悪寒を伴う高熱、頭痛、全身倦怠感、食欲不振、筋肉痛、関節痛などがみられる。呼吸器症状として咳、粘液性痰などがみられる。胸部レントゲンで広範な肺病変はあるが理学的所見は比較的軽度である。重症になると呼吸困難、意識障害、DICなどがみられる。発症前にトリとの接触があったかどうか報告のための参考になる。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断や血清学的診断がなされたもの。
 - ・病原体の検出
例、痰、血液、剖検例では諸臓器などからの病原体の分離など
 - ・病原体の遺伝子の検出
例、PCR法、PCR-RFLP法など
 - ・病原体に対する抗体の検出
例、間接蛍光抗体（IF）法で抗体価が4倍以上（精製クラミジア粒子あるいは感染細胞を用いた場合は種の同定ができる）など

(6) 回帰熱

《 定 義 》

シラミ或いはヒメダニ（Ornithodoros 属：ヒメダニ属）によって媒介されるスピロヘータ（回帰熱ボレリア）感染症である。コロモジラミ媒介性 *Borrelia recurrentis* やヒメダニ媒介性 *B. duttoni* 等がヒトに対する病原体である。

《 臨 床 的 特 徴 》

菌血症による発熱期、菌血症を起こしていない無熱期を3ないし5回程度繰り返す、いわゆる回帰熱を主訴とする。感染後5～10日を経て菌血症による頭痛、筋肉痛、関節痛、羞明、咳などをともなう発熱、悪寒がみられる（発熱期）。またこのとき点状出血、紫斑、結膜炎、肝臓や脾臓の腫大、黄疸もみられる。発熱期は3～7日続いた後、一旦解熱する（無熱期）。無熱期では血中から菌は検出されない。発汗、倦怠感、時に低血圧や斑状丘疹をみることもある。この後5～7日後再び発熱期にはいる。

上記症状以外で肝炎、心筋炎、脳出血、脾破裂、大葉性肺炎などがみられる場合もある。

《 報告のための基準 》

○ 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断がなされたもの。

・病原体の検出

例、発熱期の血液からの分離培養

暗視野顕微鏡下鏡検での病原体の確認など

・病原体の抗原の検出

例、スメアの観察（蛍光抗体法）など

(7) Q熱

《 定 義 》

リケッチアの一種である *Coxiella burnetii* の感染によって起こる動物由来感染症である。

《 臨 床 的 特 徴 》

急性感染ではインフルエンザ様で突然の高熱、頭痛、筋肉痛、全身倦怠感、眼球後部痛の症状で始まる。未治療の場合、有熱期間は5～57日とされるが、多くは14日以内に解熱する。肺炎や肝機能障害を起こすこともあるが、予後は一般に良い。慢性感染では心内膜炎を起こし死亡率が高くなる。急性症例の20～40%に慢性疲労症候群に類似した症状がみられたという報告もある。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断や血清学的診断がなされたもの。
 - ・ 病原体の検出
例、血液などからの病原体の分離など
 - ・ 病原体の遺伝子の検出
例、PCR法など
 - ・ 病原体に対する抗体の検出
例、間接蛍光抗体（IF）法で抗体が4倍以上の上昇など

(8) 狂犬病

《 定 義 》

ラブドウイルス科に属す狂犬病ウイルスの感染による神経疾患である。

《 臨 床 的 特 徴 》

狂犬病は狂犬病ウイルスを保有するイヌ、ネコおよびコウモリ、キツネ、スカンク、コヨーテなどの野生動物に咬まれたり、引っ掻かれたりして感染し、発症する。潜伏期は1～3カ月で、まれに1年以上に及ぶ。臨床的には咬傷周辺の知覚異常、疼痛、不安感、不穏、頭痛、発熱、恐水発作、麻痺と進む。発症すると致命的となる。

感染動物の唾液中にはウイルスが存在していることがある。米国ではアライグマやコウモリにおける狂犬病の増加が問題となっているが、狂犬病ウイルス感染動物との接触が明らかでないヒトの感染事例が時々報告され、コウモリが原因と推測される場合がある。ワクチン接種により防御免疫を確立できる。狂犬病ウイルス暴露後であっても、ワクチン接種により発症予防が可能である。

《 報告のための基準 》

○ 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断や血清学的診断がなされたもの。

・ 病原体の検出

例、唾液からのウイルスの分離

脳の一部によって得られた脳組織および脳乳剤を用いた、乳のみマウス、マウス神経芽腫細胞への接種試験によるウイルス分離など

・ 病原体の抗原の検出

例、角膜塗沫標本、頸部の皮膚、気管吸引材料および唾液腺の生検材料からの直接蛍光抗体（FA）法などによる検出

死後脳の剖検によって得られた脳組織および脳乳剤からの蛍光抗体（FA）法によるウイルス抗原の検出など

・ 病原体の遺伝子の検出

例、唾液、髄液などからの RT-PCR 法

脳の一部によって得られた脳組織および脳乳剤からの RT-PCR 法など

・ 病原体に対する抗体の検出

例、Fluorescent Focus Inhibition Test、ELISA 法など

（注）血中抗体価は治療のためのガンマグロブリン、ワクチン投与により上昇するため診断価値が少ない。髄液中の高い抗体価は診断の目安となる。

(9) クリプトスポリジウム症

《 定 義 》

クリプトスポリジウム属原虫 (*Cryptosporidium spp.*) のオーシストを経口接種することによる感染症である。

《 臨 床 的 特 徴 》

潜伏期は4～5日ないし10日程度と考えられ、無症状のものから、食思不振、嘔吐、腹痛、下痢（水様性下痢や粘血便）などを呈するものまで様々である。患者の免疫力が正常であれば通常は数日間で自然治癒するが、エイズなどの各種の免疫不全者には重篤な感染を起こすことがあり、1日に3～5リットル、時に10リットルをこえる下痢によって脱水死することもある。

《 報 告 の た め の 基 準 》

○ 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断がなされたもの。

・ 病原体の検出

例、糞便などからの鏡検による原虫（オーシスト）の証明など

《 備 考 》

世界的に広く分布し、本原虫による水道水の汚染が問題となっている。また、米国等ではエイズ患者の重篤な合併症として注目されている。

(10) クロイツフェルト・ヤコブ病

《定義》

クロイツフェルト・ヤコブ病（以下、「CJD」という。）は、脳内に異常なプリオン蛋白（蛋白性感染粒子、プリオン、proteinaceous infectious particle、prion）が蓄積し、脳が海綿状となる「伝達性海綿状脳症（transmissible spongiform encephalopathy、TSE）」又は「プリオン病」と呼ばれる疾患の代表的な疾患。

《臨床的特徴》

本疾患の有病率は100万人に1人前後、その8割は孤発性CJDで、地域差、男女差はない。発病は50～70歳代が多い。約2割に遺伝性CJDがあり、発病が早い(40歳代)ものもある。また、医原性感染が疑われるものに、ヒト由来脳下垂体制剤（成長ホルモン等）、ヒト乾燥硬膜移植等がある。孤発性CJDでは、初老期以降に不定の精神・神経症状が生じ、急速に憎悪し、数ヶ月で無動性無言状態となり、全経過は1～2年といわれている。家族性CJDでは、プリオン蛋白遺伝子の変異に応じて臨床症状、経過が異なる。この場合は、静脈血から遺伝子診断が可能である。新変異型CJDは、近年、英国で報告され、20歳代の若年に発症し、不安、感覚障害等で初発し、経過が従来のCJDよりやや長い。この新変異型CJDは、異常なプリオン蛋白の泳動パターンが牛海綿状脳症（狂牛病）のものと類似していることが指摘されている。この他、亜型として、GSS（ゲルストマン・ストロイスラー・シャインカー症候群、Gerstmann-Sträussler-Scheinker syndrome）、FFI（致死性家族性不眠症、Fatal Familial Insomnia）がある。

《報告のための基準》

I 孤発性CJD

- 1 進行性痴呆を示し、表1に掲げる疾患を除外できる症例。
 - 2 ①ミオクローヌス、②錐体路又は錐体外路症状、③小脳症状又は視覚異常、④無動性無言の4項目のうち2項目以上の症状を示す症例。
 - 3 脳波に周期性同期性放電（PSD）を認める症例。
 - 4 CJDに特徴的な病理所見を呈する症例、又はWestern Blot法や免疫染色法で脳に異常なプリオン蛋白を検出し得た症例。
- ・ 疑い（possible） 上記1、2の両方を満たす症例。
 - ・ ほぼ確実（probable） 上記1～3をすべて満たす症例。
 - ・ 確実（definite） 上記4を満たす症例。

II 家族性CJD

- 1 進行性痴呆を示し、表1に掲げる疾患を除外できる症例。
- 2 ①ミオクローヌス、②錐体路又は錐体外路症状、③小脳症状又は視覚異常、④無動性無言の4項目のうち2項目以上の症状を示す症例。

- 3 脳波に周期性同期性放電（PSD）を認める症例。
- 4 疾患特異的プリオン蛋白遺伝子変異が証明された症例。
- 5 CJD に特徴的な病理所見を呈する症例、又は Western Blot 法や免疫染色法で脳に異常なプリオン蛋白を検出し得た症例。

- ・ ほぼ確実（probable） 上記 1～4 をすべて満たす症例。
- ・ 確実（definite） 上記 4、5 の両方を満たす症例。

III 新変異型 C J D

- 1 若年発症（平均年齢：20歳代）で、亜急性進行性痴呆（発病してから無動性無言状態にいたるまでの臨床経過が6ヶ月～2年かかる）を呈し、表1に掲げる疾患を除外できる症例。
- 2 ①早期に出現する精神症状（不安、抑うつ、行動異常など）、②早期より認められる四肢、顔面の錯感覚又は異常感覚、③小脳症状、④ミオクローヌス、ジストニア又は舞踏運動のいずれか1つ以上の症状、⑤痴呆、⑥無動性無言の6項目のうち5項目以上の症状を示す症例。
- 3 脳波にて典型的な PSD が見られない症例。
- 4 医原性感染を疑わせる既往がない症例。
- 5 プリオン蛋白遺伝子変異が見られない症例。
- 6 新変異型 CJD に特徴的な病理所見（異常なプリオン蛋白からなるアミロイド斑が多数存在し、アミロイド斑の周りを海綿状態が取り囲む、いわゆる florid plaque）を呈する、または、Western Blot 法や免疫染色法で、脳もしくは扁桃に新変異型 C J D に特徴的な異常なプリオン蛋白を検出し得た症例。

- ・ 疑い（possible） 上記 1～5 のすべてを満たす症例。
- ・ 確実（definite） 上記 5、6 の両方を満たす症例。

表1. CJD（孤発性、家族性、新変異型）と鑑別を要する疾患

- ・ 老年痴呆（アルツハイマー型、脳血管障害型）
- ・ パーキンソン痴呆症候群
- ・ 脊髄小脳変性症
- ・ 痴呆を伴う運動ニューロン疾患
- ・ 単純ヘルペス、後天性免疫不全症候群などのウイルス性脳炎
- ・ 悪性リンパ腫
- ・ 梅毒
- ・ 代謝性脳症（Adrenoleukodystrophy、ウェルニッケ脳症、甲状腺疾患に伴う脳症、肝性脳症、リポドーシス等）
- ・ 低酸素脳症
- ・ その他の原因による老年期痴呆性疾患

IV GSS (ゲルストマン・ストロイスラー・シャインカー症候群)

- 1 進行性小脳症状か痙性対麻痺のいずれか又は両方に、痴呆を合併し、表2に掲げる疾患を除外できる症例。
 - 2 プリオン蛋白遺伝子に疾患特異的な変異が認められる症例。
 - 3 病理所見で、異常なプリオン蛋白陽性のアミロイド斑が認められる症例。
- ・ 疑い (possible) 上記1を満たす症例。
 - ・ ほぼ確実 (probable) 上記1、2の両方を満たす症例。
 - ・ 確実 (definite) 上記1～3のすべてを満たす症例。

表2. GSSと鑑別を要する疾患

- ・ 家族性痙性対麻痺
- ・ 脊髄小脳変性症
- ・ 老年痴呆 (アルツハイマー型、脳血管障害型)
- ・ パーキンソン痴呆症候群
- ・ 痴呆を伴う運動ニューロン疾患
- ・ 代謝性脳症 (Adrenoleukodystrophy、ウェルニッケ脳症、甲状腺疾患に伴う脳症、肝性脳症、リポドーシス等)
- ・ 低酸素脳症
- ・ その他の病因による老年期痴呆性疾患

V FFI (致死性家族性不眠症)

- 1 臨床的に頑固な不眠、記憶障害、交感神経興奮状態 (高体温、発汗、頻脈など)、ミオクローヌスなどを認め、表3に掲げる疾患を除外できる症例。
 - 2 プリオン蛋白遺伝子のコドン178変異を有する症例。
 - 3 病理学的に視床の選択的的海綿状変性が認められ、Western Blot法で脳に異常なプリオン蛋白を検出し得た症例。
- ・ ほぼ確実 (probable) 上記1、2の両方を満たす症例。
 - ・ 確実 (definite) 上記2、3の両方を満たす症例。

表3. FFIと鑑別を要する疾患

- ・ 視床変性症
- ・ 両側視床部血管障害
- ・ 老年痴呆 (アルツハイマー型、脳血管障害型)
- ・ 代謝性脳症 (Adrenoleukodystrophy、ウェルニッケ脳症、甲状腺疾患に伴う脳症、肝性脳症、リポドーシス等)
- ・ 低酸素脳症

- ・ 単純ヘルペス、後天性免疫不全症候群などのウイルス性脳炎
- ・ 悪性リンパ腫
- ・ 梅毒
- ・ その他の病因による視床症候群

《備考》

本診断基準による「疑い」は、それぞれの条件に該当する症例である。従って、「いわゆる疑似症」ではないので、留意されたい。

(11) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

《 定 義 》

突発的に発症し、急激に進行するA群レンサ球菌による敗血症性ショック病態である。

《 臨 床 的 特 徴 》

初発症状は咽頭痛、発熱、消化管症状（食欲不振、嘔気、嘔吐、下痢）、全身倦怠感、低血圧などの敗血症症状、筋痛などであるが、明らかな前駆症状がない場合もある。後発症状としては軟部組織病変、循環不全、呼吸不全、血液凝固症状、腎肝症状など多臓器不全を来し、日常生活を営む状態から24時間以内に多臓器不全が完結する程度の進行を示す。A群レンサ球菌による軟部組織炎、壊死性筋膜炎、上気道炎・肺炎、産褥熱は現在でも致命的となりうる疾患である。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の3つの基準を全て満たすもの
 - 1. 血液または通常ならば菌の生息しない臓器からA群レンサ球菌を検出
(末梢血塗抹標本または壊死軟部組織の鏡検によるレンサ球菌の確認も含む)
 - 2. ショック症状
 - 3. 多臓器不全（以下の症状のうち3つ以上）
 - 肝不全、腎不全、成人型呼吸窮迫症、播種性血管内凝固症候群、軟部組織炎（壊死性筋膜炎を含む）、発疹、痙攣・意識喪失などの中枢神経症状

(鑑別を要する病態)

- 1. A群レンサ球菌による軟部組織炎（丹毒）
- 2. 他の菌による敗血症または敗血症性ショック

(12) 後天性免疫不全症候群

《 定 義 》

レトロウイルスの一種であるヒト免疫不全ウイルス (human immunodeficiency virus; HIV) の感染によって免疫不全が生じ、日和見感染症や悪性腫瘍が合併した状態。

感染からエイズ発症まで通常約10年の無症候期がある。

感染症新法における発生動向調査においては、HIV感染症を診断した時点から報告することが求められている。

《 臨 床 的 特 徴 》

HIVに感染した後、CD4陽性リンパ球数が減少し、無症候性の時期（無治療で約10年）を経て、生体が高度の免疫不全症に陥り、日和見感染症や悪性腫瘍が生じてくる。

（サーベイランスのための HIV 感染症/AIDS 診断基準 （厚生省エイズ動向委員会、1999）抜粋）

《 報 告 の た め の 基 準 》

（サーベイランスのための HIV 感染症/AIDS 診断基準 （厚生省エイズ動向委員会、1999）抜粋）

I HIV感染症の診断

1 HIVの抗体スクリーニング検査法（酵素抗体法（ELISA）、粒子凝集法（PA）、免疫クロマトグラフィー法（IC）等）の結果が陽性であって、以下のいずれかが陽性の場合にHIV感染症と診断する。

（1）抗体確認検査（Western Blot 法、蛍光抗体法（IFA）等）

（2）HIV抗原検査、ウイルス分離及び核酸診断法（PCR等）等の病原体に関する検査（以下、「HIV病原検査」という。）

2 ただし、周産期に母親がHIVに感染していたと考えられる生後18か月未満の児の場合は少なくともHIVの抗体スクリーニング法が陽性であり、以下のいずれかを満たす場合にHIV感染症と診断する。

（1）HIV病原検査が陽性

（2）血清免疫グロブリンの高値に加え、リンパ球数の減少、CD4陽性Tリンパ球数の減少、CD4陽性Tリンパ球数/CD8陽性Tリンパ球数比の減少という免疫学的検査所見のいずれかを有する

II AIDSの診断

Iの基準を満たし、IIIの指標疾患（Indicator Disease）の1つ以上が明らかに認められる場合にAIDSと診断する。

III 指標疾患（Indicator Disease）

A. 真菌症

1. カンジダ症（食道、気管、気管支、肺）

2. クリプトコッカス症（肺以外）

3. コクシジオイデス症

①全身に播種したもの

②肺、頸部、肺門リンパ節以外の部位に起こったもの

4. ヒストプラズマ症

①全身に播種したもの

②肺、頸部、肺門リンパ節以外の部位に起こったもの

5. カリニ肺炎（注）原虫という説もある

B. 原虫症

6. トキソプラズマ脳症（生後1か月以後）
7. クリプトスポリジウム症（1か月以上続く下痢を伴ったもの）
8. イソスポラ症（1か月以上続く下痢を伴ったもの）

C. 細菌感染症

9. 化膿性細菌感染症（13歳未満で、ヘモフィルス、連鎖球菌等の化膿性細菌により以下のいずれかが2年以内に、二つ以上多発あるいは繰り返して起こったもの）
 - ①敗血症
 - ②肺炎
 - ③髄膜炎
 - ④骨関節炎
 - ⑤中耳・皮膚粘膜以外の部位や深在臓器の膿瘍
10. サルモネラ菌血症（再発を繰り返すもので、チフス菌によるものを除く）
- ※11. 活動性結核（肺結核又は肺外結核）
12. 非定型抗酸菌症
 - ①全身に播種したもの
 - ②肺、皮膚、頸部、肺門リンパ節以外の部位に起こったもの

D. ウイルス感染症

13. サイトメガロウイルス感染症（生後1か月以後で、肝、脾、リンパ節以外）
14. 単純ヘルペスウイルス感染症
 - ①1か月以上持続する粘膜、皮膚の潰瘍を呈するもの
 - ②生後1か月以後で気管支炎、肺炎、食道炎を併発するもの
15. 進行性多巣性白質脳症

E. 腫瘍

16. カポジ肉腫
17. 原発性脳リンパ腫
18. 非ホジキンリンパ腫
L S G分類により
 - ①大細胞型
免疫芽球型
 - ②Burkitt型
- ※19. 浸潤性子宮頸癌

F. その他

20. 反復性肺炎
21. リンパ性間質性肺炎／肺リンパ過形成：LIP/PLH complex（13歳未満）
22. HIV脳症（痴呆又は亜急性脳炎）
23. HIV消耗性症候群（全身衰弱又はスリム病）

※ C11活動性結核のうち肺結核及びE19浸潤性子宮頸癌については、HIVによる免疫不全を示唆する症状または所見がみられる場合に限る。

《 備 考 》

報告のための基準は、サーベイランスのための診断基準であり、治療の開始等の指標となるものではない。近年の治療の進歩により、一度指標疾患（Indicator Disease）が認められた後、治療によって軽快する場合もあるが、発生動向調査上は、報告し直す必要はない。しかしながら、病状に変化が生じた場合（無症候性キャリア→AIDS、AIDS→死亡等）には、必ず届け出ることが、サーベイランス上重要である。

なお、報告票上の記載は、

- 1) 無症候性キャリアとは、Ⅰの基準を満たし、症状のないもの
- 2) AIDS とは、Ⅱの基準を満たすもの
- 3) その他とは、Ⅰの基準を満たすが、Ⅱの基準を満たさない何らかの症状があるものを指すことになる。

(13) コクシジオイデス症

《 定 義 》

カリフォルニア州、アリゾナ州、ニューメキシコ州をはじめとする米国西南部各州、メキシコの太平洋側の半乾燥地帯、ベネズエラのコロ地方、アルゼンチンのパンパ地域に発生する風土病で、原因菌は真菌で *Coccidioides immitis* である。

《 臨 床 的 特 徴 》

南北アメリカ、特にカリフォルニア州のサンホアキン溪谷で患者が多発している。強風や土木工事などにより土壌中の *C. immitis* の分節型分生子が土埃と共に空中に舞い上がり、これを吸入することにより肺感染が起こり、そのうち約0.5%の患者が全身感染へと進み、約半数が死亡する最も危険な真菌症である。特に皮膚病巣は特徴があり、結節、潰瘍を繰り返し、花キャベツ状の腫瘤を形成する。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断がなされたもの。

・病原体の検出

例、喀痰などからの分離・培養と菌の分離（鏡検）など

(14) ジアルジア症

《 定 義 》

ジアルジア（消化管寄生虫鞭毛虫の一種）による原虫感染症である。糞便中に排出された原虫により食物や水が汚染されることによって経口感染を起こす。

《 臨 床 的 特 徴 》

糞便中に排出された原虫により食物や水が汚染されることによって経口感染を起こす。健康な者の場合には無症状のことも多いが、食欲不振、腹部不快感、下痢等の症状を示すこともあり、免疫不全者では重篤となることもある。

《 報 告 の た め の 基 準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断がなされたもの。

- ・病原体の検出

- 例、糞便または十二指腸液などから原虫の証明（鏡検）など

《 備 考 》

世界的に広く分布し、熱帯・亜熱帯における主要な下痢疾患の病原体であり、我が国においても昭和20年代には国民の5～10%が感染していたが、水道の普及とともに減少した。現在まで水道水による感染例はないが、河川水等よりの検出が報告されている。

(15) 腎症候性出血熱 (HFRS)

《 定 義 》

ハンタウイルス（ブニヤウイルス科ハンタウイルス属）による熱性・腎性疾患で、極東アジアから東欧、北欧にかけて広く分布する。HFRS ウイルスとも称する。

《 臨 床 的 特 徴 》

ネズミに咬まれたり、排泄物（エアロゾルの吸入を含む）に接触することによりヒトにウイルスが伝播する。このウイルスはヒトに感染すると状況により重篤な全身感染、あるいは腎疾患を生じ、以下の型が知られている。

重症アジア型：ドブネズミ、高麗セスジネズミが媒介する。潜伏期間は10～30日で、発熱で始まる有熱期、低血圧期（ショック）（4～10日）、乏尿期（8～13日）、利尿期（10～28日）、回復期に分けられる。全身皮膚に点状出血斑が出ることもある。発症から死亡までの時間は4～28日で尿素窒素は50～300mg に達する。常時高度の蛋白尿、血尿を伴う。

軽症スカンジナビア型：ヤチネズミによる。ごく軽度の発熱、蛋白尿、血尿がみられるのみで、きわめてまれに重症化する。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断や血清学的診断がなされたもの
 - ・ 病原体の検出
 - 例、急性期の血液、尿からのウイルスの分離など
 - ・ 病原体の遺伝子の検出
 - 例、PCR 法など
 - ・ 病原体に対する抗体の検出
 - 例、血清抗体の検出（ELISA、免疫蛍光法）など

(16) 髄膜炎菌性髄膜炎

《 定 義 》

Neisseria meningitidis による急性化膿性髄膜炎で、ヒトからヒトへ飛沫感染し、ときに流行性発症があるので流行性髄膜炎ともいわれる。

《 臨 床 的 特 徴 》

突然の発症がみられ（潜伏期は2～4日）、髄膜炎症状（頭痛、発熱、痙攣、意識障害、髄膜刺激症状、乳児では大泉門膨隆）を示す。点状出血斑がみられることもある。敗血症例ではショックならびにDICを来し（Waterhouse-Friderichsen 症候群）、細菌性の関節炎をとともなうこともある。世界各地に散発性または流行性に発生し、温帯では寒い季節に、熱帯では乾季に多発する。本邦では稀である。

《 報 告 の た め の 基 準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断がなされたもの
 - ・病原体の検出
 - 例、髄液からの菌の分離・同定など

《 備 考 》

咽頭培養陽性となっても、この菌による感染症とは断定できない（健康者の2～4%の鼻咽腔に存在）。主としてA、B、C血清群によって起こされる。

(17)先天性風疹症候群

《 定 義 》

風疹ウイルスの経胎盤感染によって起こる先天異常である。

《 臨 床 的 特 徴 》

先天異常の発生は妊娠週齢と明らかに相関し、妊娠12週までの妊娠初期の初感染に最も多くみられ、20週を過ぎるとほとんどなくなる。三徴は、難聴、白内障、動脈管開存症であるが、その他知能障害、小頭症、緑内障、角膜混濁、脈絡網膜炎、小眼球、斜視、心室中隔欠損症などを来しうる。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の1)と2)の基準を両方とも満たすもの

1)臨床症状による基準

「Aから2項目以上」または「Aから1つと、Bから2つ以上」若しくは「Aの②または③と、B①」

A. ①先天性白内障、または緑内障

②先天性心疾患（動脈管開存、肺動脈狭窄、心室中隔欠損、心房中隔欠損など）

③感音性難聴

B. ①網膜症

②骨端発育障害（X線診断によるもの）

③低出生時体重

④血小板減少性紫斑病（新生児期のもの）

⑤肝脾腫

2)病原体診断等による基準

以下のいずれかの一つを満たし、出生後の風疹感染を除外できるもの

1. 風疹ウイルスの分離陽性、またはウイルス遺伝子の検出

例、RT-PCR法など

2. 血清中に風疹特異的IgM抗体の存在

3. 血清中の風疹HI価が移行抗体の推移から予想される値を高く越えて持続。

（出生児の風疹HI価が、月あたり1/2の低下率で低下していない。）

(18)炭疽

《 定 義 》

本症は炭疽菌 (*Bacillus anthracis*) によるヒトと動物の感染症で、温血動物、主にウシなどの草食獣に急性敗血症死を起こす。

《 臨 床 的 特 徴 》

ヒト炭疽には4つの主要な病型がある。国内の動物の発生はほとんどがウシで、感染の機会は農業従事者、獣医師、動物産品処理従事者などに多い。

- 1) 皮膚炭疽：全体の95～98%を占める。潜伏期は1～7日である。初期病変はニキビや虫さされ様で、かゆみを伴うことがある。初期病変周囲には水疱が形成され、次第に典型的な黒色の痂皮となる。およそ80%の患者では痂皮の形成後7～10日で治癒するが、20%では感染はリンパ節および血液へと進展し、敗血症へと進展し致死的である。
- 2) 肺炭疽：上部気道の感染で始まる初期段階はインフルエンザ等のウイルス性呼吸器感染や軽度の気管支肺炎に酷似しており、軽度の発熱、倦怠感、筋肉痛等を訴える。数日して第2の段階へ移行すると突然呼吸困難、発汗およびチアノーゼを呈する。この段階に達すると通常、24時間以内に死亡する。
- 3) 腸炭疽：本症で死亡した動物の肉を摂食した後2～5日で発症する。腸病変部は回腸下部および盲腸に多い。初期症状として悪心、嘔吐、食欲不振、発熱があり、次いで腹痛、吐血をあらわし、血液性の下痢を呈する場合もある。毒血症へと移行すると、ショック、チアノーゼを呈し死亡する。腸炭疽の死亡率は25～50%とされる。
- 4) 髄膜炭疽：皮膚炭疽の約5%、肺炭疽の2/3に引き続いて起こるが、稀に初感染の髄膜炭疽もある。髄膜炭疽は治療を行っても、発症後2～4日で100%が死亡する。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断がなされたもの
 - ・病原体の検出
例、病巣組織や血液からの菌の分離・同定（鏡検・培養）と、分離した菌のガンマファージテスト、パールテスト、アスコリーテストによる確認など

(19) ツツガムシ病

《 定 義 》

ツツガムシ病リケッチア (*Orientia tsutsugamusi*) に感染した「つつが虫 (恙虫)」の幼虫がヒトを刺すことによって経皮感染する急性感染症である。

《 臨 床 的 特 徴 》

5～14日の潜伏期の後に、全身倦怠感、食欲不振とともに頭痛、悪寒、発熱などを伴って発症する。体温は段階的に上昇し数日で40度にも達する。刺し口の所属リンパ節は発熱する前頃から次第に腫脹する。第3～4病日より不定型の発疹が出現するが、発疹は顔面、体幹に多く四肢には少ない。治療が適切に行われると早期に消退する。重症になると肺炎や脳炎症状を来す。刺し口は皮膚の柔らかい隠れた部分に多い。発生は初夏および晩秋から冬で、初夏の発生は主として東北・北陸である。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断や血清学的診断がなされたもの
 - ・ 病原体の検出
 - 例、血液からの病原体の分離など
 - ・ 病原体の遺伝子の検出
 - 例、PCR 法など
 - ・ 病原体に対する抗体の検出
 - 例、血液からの間接蛍光抗体法あるいは間接免疫ペルオキシダーゼ法で抗体価の4倍以上の上昇か、IgM 抗体上昇など

(20) デング熱

《 定 義 》

フラビウイルス科に属するデングウイルス感染症で、蚊によって媒介される。

《 臨 床 的 特 徴 》

デング熱：2～15日（多くは3～7日）の潜伏期の後に突然の高熱で発症。頭痛、眼窩痛、顔面紅潮、結膜充血を伴う。発熱は2～7日間持続（二峰性であることが多い）。初期症状に続いて全身の筋痛、骨関節痛、全身倦怠感を呈する。発症後3～4日後胸部、体幹からはじまる発疹が出現し、四肢、顔面へ広がる。症状は1週間程度で回復する。血液所見では軽度の白血球減少、血小板減少がみられる。出血やショック症状を伴う重症型としてデング出血熱*があり、全身管理が必要となることもある。ヒトからヒトへの直接感染はないが、熱帯・亜熱帯（特にアジア、オセアニア、中南米）に広く分布する。日本国内での感染はないが、海外で感染した人が国内で発症することがある。

*デング出血熱：デング熱とほぼ同様に発症経過するが、解熱の時期に血液漏出や血小板減少による出血傾向に基づく症状が出現し、死に至ることもある。

《 報告のための基準 》

○ 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断や血清学的診断がなされたもの

・病原体の検出

例、血液等からのウイルスの分離など

・病原体の遺伝子の検出

例、PCR 法など

・病原体に対する抗体の検出

例、血清中のデングウイルス特異的 IgM 抗体の検出

特異的 IgG 抗体価のペア血清での4倍以上の上昇など

○ 上記の基準に加えて、下記の4つの基準を全て満たした場合にはデング出血熱として報告する。

①2～7日持続する発熱（時に2峰性のパターンをとる）

②血管透過性亢進による以下の血漿漏出症状のうち1つ以上

- ・ヘマトクリットの上昇（補液なしで同性、同年代の者に比べ20%以上の上昇）
- ・ショック症状の存在
- ・胸水、腹水の存在、血清蛋白の低下

③血小板減少（ $100,000/\text{mm}^3$ 以下）

④以下の出血傾向のうち1つ以上

- ・Tourniquet テスト陽性
- ・点状出血、斑状出血あるいは紫斑
- ・粘膜あるいは消化管出血、あるいは注射部位や他の部位からの出血
- ・血便

(21) 日本紅斑熱

《 定 義 》

新型の紅斑熱リッケチア (*Rickettsia japonica*) による感染症である。

《 臨 床 的 特 徴 》

マダニに刺されることで感染すると考えられている。刺されてから2～8日頃から頭痛、全身倦怠感、関節痛、発熱などを伴って発病する。発熱とほぼ同時に紅色の斑丘疹が四肢末端から求心性に多発する。リンパ節腫脹はあまりみられない。CRP 陽性、白血球減少、肝機能異常などはツツガムシ病と同様である。発生は主として夏である。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断や血清学的診断がなされたもの
 - ・ 病原体の検出
例、血液からのリケッチアの分離など
 - ・ 病原体の遺伝子の検出
例、PCR 法など
 - ・ 病原体に対する抗体の検出
例、間接蛍光抗体法（抗体価の4倍以上の上昇か、IgM 抗体上昇）など

《 備 考 》

昭和59年に新たに見つかった疾患であり、これまでに四国、北九州、千葉などに存在することが分かっている。

(22) 日本脳炎

《 定 義 》

フラビウイルス科に属す日本脳炎ウイルスの感染による急性脳炎である。ブタが増幅動物となり、蚊が媒介する。

《 臨 床 的 特 徴 》

感染後1～2週間の潜伏期を経て、急激な発熱と頭痛を主訴として発症する。その他、初発症状として全身倦怠感、食欲不振、嘔気、嘔吐、腹痛も存在する。その後、症状は悪化し、項部硬直、羞明、意識障害、興奮性の上昇、仮面様顔貌、筋硬直、頭部神経麻痺、眼振、四肢振戦、不随意運動、運動失調、病的反射が出現する。知覚障害はまれである。発熱は発症4～5日に最も高くなり、発症後一週間程度で死亡する例が多い。熱はその後次第に低下する。致命率は約25%、患者の50%は後遺症を残して回復、25%はほぼ完全に回復する。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断や血清学的診断がなされたもの
 - ・ 病原体の検出
 - 例、血清、髄液からの日本脳炎ウイルスの分離など
 - ・ 病原体の遺伝子の検出
 - 例、PCR 法など
 - ・ 病原体に対する抗体の検出
 - 例、血清または髄液中の日本脳炎ウイルス特異的 IgM 抗体の存在
血清抗体価の上昇（IgG 抗体価がペア血清で4倍以上の上昇）など

(23) 乳児ボツリヌス症

《 定 義 》

ボツリヌス菌 (*Clostridium botulinum*) が産生するボツリヌス毒素により発症する運動神経・筋の麻痺性疾患である。

《 臨 床 的 特 徴 》

ボツリヌス毒素を産生するボツリヌス菌の芽胞が混入した食品（蜂蜜、コーンシロップなど）を乳児が摂取することにより、嫌気的な環境の腸管内で芽胞が発芽・増殖し、産生される毒素が腸管から吸収されることにより、中枢神経（特に延髄）における神経刺激伝達障害が発生し、四肢の脱力、嚥下障害、呼吸麻痺、複視などの症状が出現し、重症例では死亡する。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断がなされたもの
 - ・病原体及び毒素の検出
例、吐物や腸内容物等からのボツリヌス菌の分離と同定と、分離した菌からのボツリヌス毒素の検出など
 - ・病原体の遺伝子の検出
例、患者の糞便からの毒素遺伝子のPCR法による検出など

(24) 梅毒

《 定 義 》

スピロヘータの一種である梅毒トレポネーマ (*Treponema pallidum*) の感染によって生じる性感染症である。

《 臨 床 的 特 徴 》

I 期梅毒として感染後3～6週間の潜伏期の後に、感染局所に初期硬結や硬性下疳、無痛性のそけい部リンパ節腫脹がみられる。II 期梅毒では、感染後3カ月を経過すると皮膚や粘膜に梅毒性バラ疹や丘疹性梅毒疹などの特有な発疹が見られる。

感染後3年以上を経過すると晩期顕症梅毒としてゴム腫、梅毒によると考えられる心血管症状、神経症状、眼症状などが認められることがある。なお、感染していても臨床症状が認められない無症候梅毒もある。

先天梅毒は、梅毒に罹患している母体から出生した児で、胎内感染を示す検査所見のある症例、II 期梅毒疹、骨軟骨炎など早期先天梅毒の症状を呈する症例、乳幼児期は症状を示さずに経過し学童期以後に Hutchinson 3 徴候(実質性角膜炎、内耳性難聴、Hutchinson 歯)などの晩期先天梅毒の症状を呈する症例がある。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって検査所見による診断がなされたもの。
 - ・ 病原体の検出
 - 発疹からパーカーインク法などで *T. pallidum* が認められた場合
 - ・ 血清抗体の検出 (以下の(1)と(2)の両方に該当する場合)
 - (1) カルジオリピンを抗原とする以下のいずれかの検査で陽性のもの
 - ・ RPR カードテスト
 - ・ 凝集法
 - ・ ガラス板法
 - (2) *T. pallidum* を抗原とする以下のいずれかの検査に陽性のもの
 - ・ TPHA 法
 - ・ FTA-ABS 法
- 無症候梅毒では、カルジオリピンを抗原とする検査で16倍以上陽性かつ *T. pallidum* を抗原とする検査が陽性のもの
- 先天梅毒は、下記の5つのうち、いずれかの要件をみたすもの
 - (1) 母体の血清抗体価に比して、児の血清抗体価が著しく高い場合
 - (2) 血清抗体価が移行抗体の推移から予想される値を高く越えて持続する場合。
 - (3) TPHA・IgM 抗体陽性
 - (4) 早期先天梅毒の症状を呈する場合

(5) 晩期先天梅毒の症状を呈する場合

○以下の4つに分類して報告する

1. 早期顕症梅毒
 - ア. I 期梅毒
 - イ. II 期梅毒
2. 晩期顕症梅毒
3. 無症候梅毒
4. 先天梅毒

(25)破傷風

《 定 義 》

破傷風毒素を産生する破傷風菌 (*Clostridium tetani*) が、外傷部位などから組織内に侵入し、嫌気的な環境下で増殖した結果産生される破傷風毒素による神経刺激伝達障害を起こす。

《 臨 床 的 特 徴 》

外傷部位などで増殖した破傷風菌が産生する毒素により、運動神経終板、脊髄前角細胞、脳幹の抑制性の神経回路が遮断され、感染巣近傍の筋肉のこわばり、顎から頸部のこわばり、開口障害、四肢の強直性痙攣、呼吸困難（痙攣性）、刺激に対する興奮性の亢進、反弓緊張（opisthotonus）などの症状が出現する。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、外傷の既往と臨床症状などから、破傷風が疑われる場合

なお、感染部位（外傷部位）からの破傷風菌の分離と同定、及び分離菌からの破傷風毒素の検出がなされれば、病原体診断である旨を報告する。

(26) バンコマイシン耐性腸球菌感染症

《 定 義 》

バンコマイシン耐性遺伝子(*vanA*, *vanB* など) を保有する腸球菌(VRE)による感染症である。

《 臨 床 的 特 徴 》

主に悪性疾患などの基礎疾患を有する易感染状態の患者において、日和見感染症や術後感染症、カテーテル性敗血症(*line sepsis*)などを引き起こす。発熱やショックなどの症状を呈し、死亡することもある。

《 報 告 の た め の 基 準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断がなされたもの

1) *vanA*, *vanB* 型

・ 病原体の検出

血液、腹水、胸水、髄液など通常は無菌的であるべき臨床検体から分離された菌(当面は、便や尿から分離されるなど定着例が疑われるものを含む)で、以下の検査室での判断基準を満たすもの

バンコマイシン(VCM)のMIC値が $\geq 16 \mu\text{g/ml}$ 、あるいは分離菌における*vanA*, *vanB* 遺伝子の検出

なお、バンコマイシンに生来耐性を示す *Lactobacillus*, *Pediococcus*, *Leuconostoc*, *Lactococcus* などとの鑑別が必要である。

2) *vanC* 型

○ 報告対象

- ・ 血液、腹水、胸水、髄液など通常は無菌的であるべき臨床検体から分離された菌であって、*vanC* 型遺伝子が検出されたもの

(27) ハンタウイルス肺症候群 (HPS)

《 定 義 》

ブニヤウイルス科、ハンタウイルス属のウイルス (Sin Nombre virus) による急性呼吸器感染症で、現在米国あるいは一部南米の国で発生がある。

《 臨 床 的 特 徴 》

前駆症状として発熱と筋肉痛が100%にみられる。次いで咳、急性に進行する呼吸困難が特徴的で、消化器症状及び頭痛が70%以上に伴う。最もありふれた症状は頻呼吸(100%)、頻拍である。半数に低血圧等を伴う。発熱・悪寒は1~4日続き、次いで進行性呼吸困難、酸素不飽和状態に陥る(肺水腫、肺浮腫による)。早い場合は発熱等発症後24時間以内の死亡も頻繁にみられる。肺水腫等の機序は心性ではない。X線で肺水の貯留した特徴像が出る。死亡率は約60%という報告もある。

感染経路としては、手足の傷口からウイルスに汚染されたネズミの尿、唾液が接触して入る、ネズミに咬まれる、ウイルスを含む尿、唾液により汚染されたほこりを吸い込む(これが最も多い)等による。

媒介動物は、米国ではシカシロアシネズミ (*Peromyscus maniculatus*) がウイルス保有動物として最も一般的である。ウイルスを媒介するこの群のネズミは米国、カナダ、南米(チリ、アルゼンチン等)にも存在する。このネズミとウイルスは日本では見つからない(1998)。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断や血清学的診断がなされたもの
 - ・ 病原体の検出
 - 例、ウイルスの分離など
 - ・ 病原体の遺伝子の検出
 - 例、PCR法など
 - ・ 病原体に対する抗体の検出
 - 例、免疫蛍光法やELISA法でのIgM、IgGの検出など

(28) Bウイルス病

《 定 義 》

マカク属のサルに常在するBウイルス（ヘルペス群ウイルス）による熱性・神経性疾患である。

《 臨 床 的 特 徴 》

サルによる咬傷後、症状発現までの潜伏期間は早い場合2日、通常2～5週間である。早期症状としてはサルとの接触部位（外傷部）周囲の水疱性あるいは潰瘍性皮膚粘膜病変、接触部位の疼痛、搔痒感、所属リンパ節腫大を来し、中期症状としては発熱、接触部位の感覚異常、接触部位側の筋力低下あるいは麻痺、眼にサルの分泌物等のはねがとんだ際に結膜炎を来す。晩期には副鼻腔炎、項部強直、持続する頭痛、悪心・嘔吐、脳幹部症状として複視、構語障害、目まい、失語症、交差性麻痺及び知覚障害、意識障害、脳炎症状を来し、無治療での死亡率は70～80%で、生存例でも重篤な神経障害が後遺症としてみられる。

感染経路は実験室、動物園あるいはペットのマカク属サルとの接触（咬傷、擦過傷）及びそれらのサルの唾液、粘液とヒト粘膜との接触（とびはね）の経過があることが重要な点である。また実験室ではサルに使用した注射針の針刺し、培養ガラス器具による外傷によっても感染する。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断や血清学的診断がなされたもの
 - ・ 病原体の検出
例、臨床検体（咽頭ぬぐい液、脳脊髄液、咬傷部、擦過部位の生検組織など）からのウイルス分離と中和試験による確認など
 - ・ 病原体の遺伝子の検出
例、PCR法など
 - ・ 病原体に対する抗体の検出
例、ドットブロット法、ELISA法など
(ヒトではHSV-1とBウイルスの抗原性は交差するので、従来の抗原抗体反応系（免疫蛍光法等）は使用できない)

《 備 考 》

- ・ ウイルスは外傷部、結膜、唾液からウイルスが分離されることから、これらの部位の治療の際には必ず手袋をする。またマスク、眼鏡等により粘膜を保護する。

(29) ブルセラ症

《 定 義 》

本症はウシ、ブタ、ヤギ、イヌおよびヒツジの感染症であるが、原因菌 (*Brucella abortus*、*B. suis*、*B. melitensis*、*B. rangiferi*、および *B. canis*) がヒトに感染して発症する。波状熱、マルタ熱、地中海熱などの名前でも呼ばれる。

《 臨 床 的 特 徴 》

感染源は感染動物の組織、乳汁、血液、尿、胎盤、膣排泄物、流産胎児などである。*B. canis* に感染したイヌの尿も感染源になるとされる。潜伏期間は1～18週、通常2～8週との報告がある。感染によって誘導される所見として比較的共通のものは脾腫、リンパ節特に頸部および鼠径部リンパ節の腫脹、および関節の腫脹と痛みがあり、その他に20～50%の患者に、進行の時期によって泌尿器生殖器症状があらわれる。*B. melitensis* の感染では約70%の患者に肝腫大が認められる。本感染による死亡率は一般的には低率であるが、心内膜炎を併発している場合には致死率は上昇し、ヒトのブルセラ症による死亡の多くはこれが原因である。ヒトブルセラ症の3～5%に神経症状や精神神経的な症状との関連性があるとされる。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断や血清学的診断がなされたもの
 - ・病原体の検出
例、血液、骨髄その他の組織からの菌の培養・同定など
 - ・病原体に対する抗体の検出
例、試験管凝集反応 (1:160倍以上の力価)
補体結合反応、競合酵素抗体法では急性期と寛解期で4倍以上の力価上昇など

《 備 考 》

国内にはかつてウシにおける発生があったが、近年は殆どない。国内ではヒトの感染はほとんどが実験室感染である。

(30) 発疹チフス

《 定 義 》

Rickettsia prowazekii による急性感染症で、シラミによって媒介される。

《 臨 床 的 特 徴 》

発熱、頭痛、悪寒、脱力感、手足の疼痛を伴って突然発症する。熱は39～40度に急上昇する。発疹は発熱第5～6病日体幹から全身に広がるが、顔面、手掌、足底に出現することは少ない。発疹は急速に暗紫色の点状出血斑となる。患者は明らかな急性症状を呈するが、発熱からおよそ2週間後に急速に解熱する。重症例の半数に精神神経症状が出現する。初感染後潜伏感染し数年後に再発することがある(Brill-Zinsser 病)。症状は軽度である。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断や血清学的診断がなされたもの
 - ・ 病原体の検出
 - 例、血液からのリケッチアの分離など
 - ・ 病原体に対する抗体の検出
 - 例、補体結合 (CF) 法、酵素抗体 (EIA) 法など

(31) マラリア

《 定 義 》

マラリアは *Plasmodium* 属原虫の *Plasmodium vivax*(三日熱マラリア原虫)、*Plasmodium falciparum*(熱帯熱マラリア原虫)、*Plasmodium malariae* (四日熱マラリア原虫)、*Plasmodium ovale*(卵形マラリア原虫)などの単独または混合感染に起因する疾患であり、特有の熱発作、貧血および脾腫を主徴とする。

《 臨 床 的 特 徴 》

最も多い症状は発熱と悪寒で、発熱の数日前から全身倦怠や背痛、食欲不振など不定の前駆症状を認めることがある。熱発は間隔をあけて発熱期と無熱期を繰り返す。発熱期は悪寒を伴って体温が上昇する悪寒期（1～2時間）と、悪寒がとれて熱感を覚える灼熱期（4～5時間）に分かれる。典型的には三日熱及び四日熱マラリアでは悪寒期に戦慄を伴うことが多い。発熱期には頭痛、顔面紅潮や嘔気、関節痛などを伴う。その後に発汗・解熱し、無熱期へ移行する。発熱発作の間隔は虫種により異なり、三日熱と卵形マラリアで48時間、四日熱マラリアで72時間である。熱帯熱マラリアでは36～48時間、あるいは不規則となる。他の症状としては脾腫、貧血、血小板減少、低血糖、腎肺機能不全、錯乱などがあげられるが、原虫種、血中原虫数及び患者の免疫状態によって異なる。未治療の熱帯熱マラリアは急性の経過を示し、中枢神経（マラリア脳症）、急性腎不全、重度の貧血、DICや肺水腫を併発して発病数日以内に重症化し、致命的となる。

《 報 告 の た め の 基 準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断がなされたもの
 - ・ 病原体の検出
 - 例、血液塗抹標本による顕微鏡下でのマラリア原虫の証明と、鏡検による虫種の確認など
 - ・ 病原体の遺伝子の検出
 - 例、PCR法など

《 備 考 》

診断のため、マラリア原虫の形態保持の観点から採血後は速やかに血液塗抹標本を作製することが強く望まれる。

(32) ライム病

《 定 義 》

マダニ (Ixodes 属) 刺咬により媒介されるスピロヘータ (ライム病ボレリア ; *Borrelia burgdorferi sensulato*) 感染症である。北米、欧州、ロシア、本邦を含む極東地域で広くみられ、患者は皮膚症状、神経症状、心筋炎など多様な症状を示す。本邦では国内例、輸入例ともに見られる。

《 臨 床 的 特 徴 》

感染初期 (stage I) には、マダニ刺咬部を中心として限局性に特徴的な遊走性紅斑を呈することが多い。随伴症状として、筋肉痛、関節痛、頭痛、発熱、悪寒、倦怠感などのインフルエンザ様症状を伴うこともある。紅斑の出現期間は数日から数週間といわれ、形状は環状紅斑または均一性紅斑がほとんどである。

播種期 (stage II) には、体内循環を介して病原体が全身性に拡散する。これにともない、皮膚症状、神経症状、心疾患、眼症状、関節炎、筋肉炎など多彩な症状が見られる。

感染から数カ月ないし数年を経て、慢性期 (stage III) に移行する。患者は播種期の症状に加えて、重度の皮膚症状、関節炎などを示すといわれる。本邦では、慢性期に移行したとみられる症例は現在のところ報告されていない。症状としては、慢性萎縮性肢端皮膚炎、慢性関節炎、慢性脳脊髄炎などがあげられる。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断や血清学的診断がなされたもの
 - ・ 病原体の検出
 - 例、生体試料からの分離培養など
 - ・ 病原体に対する抗体の検出
 - 例、血清の ELISA 法や Western Blot 法検査など

(33) レジオネラ症

《 定 義 》

Legionella 属菌 (*Legionella pneumophila*) が原因で起こる感染症の総称である。

《 臨 床 的 特 徴 》

在郷軍人病（レジオネラ肺炎）とポンティアック熱が主要な病型である。免疫不全者に感染すると、時に心内膜炎や腹膜炎など全身の化膿性病変を起こす。臨床症状で他の細菌性肺炎と区別することは困難である。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断や血清学的診断がなされたもの
 - ・ 病原体の検出
 - 例、臨床材料（肺組織、痰、胸水、血液、他の無菌的部位）からの菌の分離、Serogroup 1の場合は臨床材料（肺組織または気道分泌物）からの菌の検出（直接蛍光抗体染色法）など
 - ・ 病原体の抗原の検出
 - 例、尿中抗原の検出（EIA 法）など
 - ・ 病原体の遺伝子の検出
 - 例、臨床材料からの遺伝子の検出（PCR 法）など
 - ・ 病原体に対する抗体の検出
 - 例、間接蛍光抗体法での特異抗体価の上昇（ペア血清で4倍以上の上昇、または単一血清で256倍以上）など

(34) インフルエンザ

《 定 義 》

インフルエンザウイルス感染による急性気道感染症である。

《 臨 床 的 特 徴 》

上気道炎症状に加えて、突然の高熱、全身倦怠感、頭痛、筋肉痛を伴うことを特徴とする。流行期（我が国ではおおむね例年11月～3月）にこれらの症状のあったものはインフルエンザと考えられるが、非流行期での臨床診断は困難である。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の4つの基準を全て満たすもの

1. 突然の発症
2. 38℃を超える発熱
3. 上気道炎症状
4. 全身倦怠感等の全身症状

なお、非流行期での臨床診断は、他疾患とのより慎重な鑑別が必要である。

- 上記の基準は必ずしも満たさないが、診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、病原体診断や血清学的診断によって当該疾患と診断されたもの

(35)咽頭結膜熱

《 定 義 》

発熱・咽頭炎および結膜炎を主症状とする急性のアデノウイルス感染症である。

《 臨 床 的 特 徴 》

潜伏期は5～7日、症状は発熱、咽頭炎（咽頭発赤、咽頭痛）、結膜炎が3主症状である。アデノウイルス3型が主であるが、他に7、11、4型なども本症を起こす。発生は年間を通じてみられるが、さまざまな規模の流行的発生をみる。とくに夏季、プールを介して流行的発生をみるので、プール熱の病名がある。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の2つの基準のすべてを満たすもの
 1. 発熱・咽頭発赤
 2. 結膜充血

- 上記の基準は必ずしも満たさないが、診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、病原体診断や血清学的診断によって当該疾患と診断されたもの

(36) 突発性発疹

《 定 義 》

乳幼児がヒトヘルペスウイルス6、7型の感染による突然の高熱と解熱前後の発疹を来す疾患である。

《 臨 床 的 特 徴 》

乳児期とくに6～18カ月の間に罹患することが多い。突然、高熱で発症、不機嫌で大泉門の膨隆をみることがある。咽頭部の発赤、とくに口蓋垂の両側に強い斑状発赤を認めることがある。軟便もしくは下痢を伴うものが多く、発熱は3～4日持続した後に解熱する。解熱に前後して紅色の丘疹が出現し、散在性、時に斑状融合性に分布する。発疹は体幹から始まり上肢、頸部の順に広がるが、顔面、下肢には少ない。発疹は1～2日で消失する。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の2つの基準のすべてを満たすもの
 1. 突然に発熱（38℃以上）し、2～4日間持続
 2. 解熱に前後して体幹部、四肢、顔面の発疹が出現

- 上記の基準は必ずしも満たさないが、診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、病原体診断や血清学的診断によって当該疾患と診断されたもの

(37) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

《 定 義 》

レンサ球菌のうち、Lancefield の血清型分類のA群に分類されるものによる上気道感染症である。

《 臨 床 的 特 徴 》

乳幼児では咽頭炎、年長児や成人では扁桃炎が現れ、発赤毒素に免疫のない人は猩紅熱といわれる全身症状を呈する。気管支炎を起こすことも多い。リウマチ熱や急性糸球体腎炎などの二次疾患を起こすこともある。

《 報 告 の た め の 基 準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の3つの基準を全て満たすもの
 1. 発熱
 2. 咽頭痛、咽頭発赤および頸部リンパ節炎（発疹を伴うこともある）
 3. 莓舌

- 上記の基準は必ずしも満たさないが、診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、病原体診断や血清学的診断によって当該疾患と診断されたもの

(38) 百日咳

《 定 義 》

Bordetella pertussis によって起こる急性の気道感染症である。

《 臨 床 的 特 徴 》

かぜ様症状で始まるが、次第に咳が著しくなり百日咳特有の咳が出始める。この咳込みは、顔を真っ赤にしてコンコンと激しく咳込み、最後にヒューッと音を立てて大きく息を吸う発作でレプリーゼと呼ばれる。嘔吐も伴い、眼瞼の浮腫や顔面の点状出血がみられることがある。

乳児では重症になり、特に新生児がかかると無呼吸となり、致命的となることがある。

《 報 告 の た め の 基 準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の2つの基準を全て満たすもの
 - 1. 2週間以上持続する咳嗽
 - 2. 以下のいずれかの要件のうち少なくとも一つを満たすもの
 - ・ スタッカートやレプリーゼを伴う咳嗽発作
 - ・ 新生児や乳児で、他に明らかな原因がない咳嗽後の嘔吐または無呼吸発作

- 上記の基準は必ずしも満たさないが、診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、病原体診断や血清学的診断によって当該疾患と診断されたもの

(39) 感染性胃腸炎

《 定 義 》

細菌あるいはウイルスなどの感染性病原体による嘔吐、下痢を主症状とし、その結果種々の程度の脱水、電解質喪失症状、全身症状が加わるものである。1才以下の乳児は症状の進行が早い。

《 臨 床 的 特 徴 》

乳幼児に好発し、主症状は嘔吐と下痢であるが、嘔吐または下痢のみの場合、嘔吐の後下痢がみられる場合とさまざま、症状の程度にも個人差がある。37～38℃の発熱がみられることもある。年長児では嘔気や腹痛がしばしばみられる。嘔吐や下痢、発熱で脱水症状を来すことがあるので注意が必要である。

原因はウイルス感染（ロタウイルス、小型球形ウイルス(SRSV)など）が多く、毎年秋から冬にかけて流行する。また、エンテロウイルス、アデノウイルスによるものや細菌性のももみられる。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の2つの基準を満たすもの
 1. 急に発症する腹痛（新生児や乳児では不明）、嘔吐、下痢
 2. 他の原因によるものの除外

- 上記の基準は必ずしも満たさないが、診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、病原体診断や血清学的診断によって当該疾患と診断されたもの

(40)風疹

《 定 義 》

風疹ウイルスによる急性発疹性疾患である。

《 臨 床 的 特 徴 》

潜伏期は2～3週間で、経気道飛沫感染により、冬から春に流行する。症状は、斑状の紅丘疹、リンパ節腫脹（全身とくに頸部、後頭部、耳介後部）、発熱を三主徴とする。リンパ節腫脹は発疹出現数日前に出現し、3～6週間で消退する。発熱は38～39℃で3日程度続くため、三日はしかの病名があるが、無熱のものも存在する。

妊婦の風疹感染が、先天性風疹症候群（出生児に白内障、心疾患、難聴などを来す）の原因となることがある。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の3つの基準を全て満たすもの
 1. 突然の全身性の斑状丘疹状の発疹 (maculopapular rash) の出現
 2. 37.5℃以上の体温
 3. リンパ節腫脹
- 上記の基準は必ずしも満たさないが、診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、病原体診断や血清学的診断によって当該疾患と診断されたもの

(41)水痘

《 定 義 》

水痘・帯状疱疹ウイルスの初感染による感染症である。

《 臨 床 的 特 徴 》

冬から春の感染症であるが、年間を通じて患者の発生をみる。飛沫あるいは接触感染で感染し、潜伏期は2～3週間である。乳幼児や学童いずれの年齢でも罹患する。母子免疫は麻疹ほど強力ではなく、新生児も罹患することがある。症状は発熱と発疹である。それぞれの発疹は紅斑、紅丘疹、水疱形成、痂皮化を順次約3日で経過するが、次々の発疹が出現するので新旧種々の段階の発疹が同時に混在する。発疹は体幹に多発し、四肢に少ない。発疹は頭皮及び粘膜にも出現する。健康児の罹患は軽症で予後は良好であるが、免疫不全状態の小児の罹患は重症で、致死的経過をとることもある。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の2つの基準を満たすもの
 1. 全身性の丘疹性水疱疹の突然の出現
 2. 新旧種々の段階の発疹（丘疹、水疱、痂皮）が同時に混在すること

- 上記の基準は必ずしも満たさないが、診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、病原体診断や血清学的診断によって当該疾患と診断されたもの

(42) ヘルパンギーナ

《 定 義 》

コクサッキーウイルスA群による口峽部に特有の小水疱と発熱を主症状とする夏かぜの一種である。

《 臨 床 的 特 徴 》

潜伏期は2～4日、初夏から秋にかけて、乳幼児に多い。突然の38～40℃の発熱が1～3日間続き、全身倦怠感、食欲不振、咽頭痛、嘔吐、四肢痛などがある場合もある。咽頭所見は、軽度に発赤し、口蓋から口蓋帆にかけて1～5mmの小水疱、これから生じた小潰瘍、その周辺に発赤を伴ったものが数個認められる。コクサッキーウイルスA群1～10、17、22型、まれにコクサッキーウイルスB群、エコーウイルスも病原として分離されることがある。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の2つの基準を満たすもの
 1. 突然の高熱での発症
 2. 口蓋垂付近の水疱疹や潰瘍や発赤

- 上記の基準は必ずしも満たさないが、診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、病原体診断や血清学的診断によって当該疾患と診断されたもの

(43) 手足口病

《 定 義 》

主として乳幼児にみられる手、足、下肢、口腔内、口唇に小水疱が生ずる伝染性のウイルス感染症である。コクサッキーA16型、エンテロウイルス71型のほか、コクサッキーA10型その他によっても起こることが知られている。

《 臨 床 的 特 徴 》

典型的なものでは、軽い発熱、食欲不振、のどの痛み等で始まり、発熱から2日ぐらい過ぎた頃から、手掌、足底にやや紅暈を伴う小水疱が多発し、舌や口腔粘膜に浅いびらんアフタを生じる。この水疱はやや楕円形を呈し、殿部、膝部などに紅色の小丘疹が散在することもある。皮疹は1週間から10日で自然消退するが、ごくまれに髄膜炎や脳炎などが生じることがあるので、発熱や嘔吐、頭痛などがある場合は注意を要する。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の2つの基準を満たすもの
 1. 手のひら、足底または足背、口腔粘膜に出現する2～5mm程度の水疱
 2. 水疱は痂皮を形成せずに治癒

- 上記の基準は必ずしも満たさないが、診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、病原体診断や血清学的診断によって当該疾患と診断されたもの

(44)麻疹（成人麻疹を除く）

《 定 義 》

麻疹ウイルスによる赤い発疹を呈する急性発疹性疾患であり、ここでは成人を除く。

《 臨 床 的 特 徴 》

潜伏期は9～11日であり、症状はカタル期（2～4日）には38℃前後の発熱、咳、鼻汁、くしゃみ、結膜充血、眼脂、羞明などであり、熱が下降した頃に頬粘膜にコプリック斑が出現する。発疹期（3～4日）には一度下降した発熱が再び高熱となり（39～40℃）、特有の発疹が出現する。発疹は耳後部、頸部、顔、体幹、上肢、下肢の順に広がる。回復期（7～9日）には解熱し、発疹は消退し、色素沈着を残す。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の3つの基準を全て満たすもの
 1. 全身の発疹（回復期には色素沈着を伴う）
 2. 38.5℃以上の発熱
 3. 咳嗽、鼻汁、結膜充血などのカタル症状なお、コプリック斑の出現は診断のための有力な所見となる。

- 上記の基準は必ずしも満たさないが、診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、病原体診断や血清学的診断によって当該疾患と診断されたもの

(45) 伝染性紅斑

《 定 義 》

ヒトパルボウイルス B19型の感染による紅斑を主症状とする発疹性疾患である。

《 臨 床 的 特 徴 》

幼少児（2～12歳）に多いが、乳児、成人が罹患することもある。潜伏期は4～15日。顔面、とくに頬部に境界明瞭な紅斑が突然出現し、鼻背で融合して蝶型の紅斑になる。つづいて四肢に対側性に小紅斑が出現し、環状又は融合して地図状になる。消退後さらに日光照射、外傷などによって再度出現することがある。発疹の他に発熱、関節痛、咽頭痛、鼻症状、胃腸症状、粘膜疹、リンパ節腫脹、関節炎を合併することがある。予後は通常、良好である。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の2つの基準を満たすもの
 1. 左右の頬部の紅斑の出現
 2. 四肢の網目状の紅斑の出現

- 上記の基準は必ずしも満たさないが、診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、病原体診断や血清学的診断によって当該疾患と診断されたもの

(46) 流行性耳下腺炎

《 定 義 》

ムンプスウイルス感染による耳下腺の腫脹する感染症である。

《 臨 床 的 特 徴 》

上気道を介する飛沫感染をし、好発年齢は乳児や学童である。潜伏期は2～3週間で、両側又は片側の耳下腺が腫脹し、ものを嘔むときに顎に痛みを訴えることが多い。このとき数日の発熱を伴うものが多い。耳下腺腫脹は有痛性で、境界不鮮明な柔らかい腫脹が耳朵を中心として起こる。他の唾液腺の腫脹をみることもある。耳下腺開口部の発赤が認められるが、膿汁の排泄はない。合併症としては、髄膜炎、脳炎、睪炎、難聴などがあり、その他成人男性には睪丸炎、成人女子には卵巣炎がみられることがある。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の2つの基準を満たすもの
 1. 片側ないし両側の耳下腺の突然の腫脹と、2日以上持続
 2. 他に耳下腺腫脹の原因がないこと

- 上記の基準は必ずしも満たさないが、診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、病原体診断や血清学的診断によって当該疾患と診断されたもの

(47) 急性出血性結膜炎

《 定 義 》

エンテロウイルス70型及びコクサッキーウイルスA24亜型の感染によって起こる急性結膜炎である。

《 臨 床 的 特 徴 》

潜伏期は1日で強い眼の痛み、異物感で始まり、結膜の充血、とくに結膜下出血を伴うことが多い。眼瞼の腫脹、眼脂、結膜浮腫、角膜表層のび慢性混濁などがみられ眼痛、異物感がある。約1週間続いて治癒することが多いが、この疾患に罹患したのち6～12カ月後に四肢の運動麻痺を来すことがある。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の3つの基準のうち2つ以上を満たすもの
 1. 急性濾胞性結膜炎
 2. 眼脂、眼痛、異物感などを伴う眼瞼腫脹
 3. 結膜下出血

- 上記の基準は必ずしも満たさないが、診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、病原体診断や血清学的診断によって当該疾患と診断されたもの

(48) 流行性角結膜炎

《 定 義 》

アデノウイルス8、19、37、4型などによる眼感染症である。

《 臨 床 的 特 徴 》

約1～2週間の潜伏期の後、急性濾胞性結膜炎の臨床症状を示して発病する。結膜の浮腫や充血、眼瞼浮腫が強く、流涙や眼脂を伴う。耳前リンパ節の腫脹と圧痛を来す。角膜にはび慢性表層角膜症がみられ、異物感、眼痛を訴えることがある。偽膜を伴うことも多い。発病後2～3週間で治癒することが多い。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の3つの基準のうち2つ以上を満たすもの
 1. 重症な急性濾胞性結膜炎
 2. 角膜点状上皮混濁
 3. 耳前リンパ節腫脹・圧痛

- 上記の基準は必ずしも満たさないが、診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、病原体診断や血清学的診断によって当該疾患と診断されたもの

(49)性器クラミジア感染症

《 定 義 》

Chlamydia trachomatis による性感染症である。

《 臨 床 的 特 徴 》

男性では、尿道から感染して急性尿道炎を起こすが、症状は淋菌感染症よりも軽い。さらに、前立腺炎、副睾丸炎を起こすこともある。女性では、まず子宮頸管炎を起こし、その後、感染が子宮内膜、卵管へと波及し、子宮内膜炎、卵管炎、骨盤内感染、肝周囲炎を起こす（しかし女性の場合、症状が軽く自覚のないことも多い）。また、子宮外妊娠、不妊、流産の誘因ともなる。妊婦が感染している場合には、主として産道感染により、新生児に封入体結膜炎を生じさせることがある。また、1～2カ月の潜伏期を経て、乳幼児の肺炎を引き起こすことがある。淋菌との混合感染も多く、淋菌感染症の治癒後も尿道炎が続く場合にはクラミジア感染症が疑われる。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの検査による診断がなされたもの
 - ・病原体の検出
例、尿道、性器から採取した材料からの培養、蛍光抗体法など
 - ・病原体の抗原の検出
例、尿道、性器から採取した材料からの酵素抗体法など
 - ・病原体の遺伝子の検出
例、尿道、性器から採取した材料からの検出（PCR法等）など

なお、スクリーニングによる病原体・抗原・遺伝子に関する検査陽性例は報告対象に含まれるが、抗体陽性のみの場合は除外する。

(50) 性器ヘルペスウイルス感染症

《 定 義 》

単純ヘルペスウイルス（HSV1型または2型）が感染し、性器またはその付近に発症したものを性器ヘルペスという。

《 臨 床 的 特 徴 》

性器ヘルペスは、外部から入ったウイルスによる初感染の場合と仙髄神経節に潜伏しているウイルスの再活性化による場合の二つがある。

初感染では、感染後3～7日の潜伏期の後に外陰部に小水疱または浅い潰瘍性病変が数個ないし集簇的に出現する。発熱などの全身症状を伴うことが多い。2～4週間で自然に治癒するが、治癒後も月経、性交その他の刺激が誘因となって、再発を繰り返す。再発疹は外陰部のほか、臀部、大腿にも生じる。

病変部位は男性では包皮、冠状溝、亀頭、女性では外陰部や子宮頸部である。HSV2型による場合はより再発しやすい。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の基準を満たすもの
 - ・男女ともに、性器や殿部にヘルペス特有な有痛性の一から多数の小さい水疱性あるいは浅い潰瘍性病変を認めるもの

なお、血清抗体のみ陽性のものは除外する。

(51) 尖形コンジローム

《 定 義 》

尖形コンジロームは、ヒトパピローマウイルス(ヒト乳頭腫ウイルス、HPV)の感染により、性器周辺に生じる腫瘍である。ヒトパピローマウイルスは80種類以上が知られているが、尖形コンジロームの原因となるのは主にHPV6型とHPV11型であり、時にHPV16型の感染でも生じる。

《 臨 床 的 特 徴 》

感染後、数週間から2~3カ月を経て、陰茎亀頭、冠状溝、包皮、大小陰唇、肛門周囲等の性器周辺部に、イボ状の小腫瘍が多発する。腫瘍は、先の尖った乳頭状の腫瘤が集簇した独特の形をしており、乳頭状、鶏冠状、花キャベツ状等と形容される。尖形コンジローム自体は、良性の腫瘍であり、自然に治癒することも多いが、時に癌(悪性の腫瘍)に移行することが知られている。特に、HPV16、52、58、18型などに感染した女性の場合、子宮頸部に感染し、子宮頸癌の発癌要因になると考えられている。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の基準を満たすもの
 - ・ 男女ともに、性器及びその周辺に淡紅色または褐色調の乳頭状、または鶏冠状の特徴的病変を認めるもの

(52) 淋菌感染症

《 定 義 》

淋菌(*Neisseria gonorrhoeae*)による性感染症である。

《 臨 床 的 特 徴 》

男性は急性前部尿道炎として発症するのが一般的であるが、放置すると前立腺炎、副睾丸炎となる。後遺症として尿道狭窄が起こる。

女子は子宮頸管炎を起こすが、自覚症状のない場合が多い。感染が上行すると子宮内膜炎、卵管炎、骨盤内感染症を起こし、発熱、下腹痛を来す。後遺症として不妊症が起きる。その他、喉頭や直腸などへの感染や新生児結膜炎などもある。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの検査による診断がなされたもの
 - ・ 病原体の検出
 - 例、(男性場合)尿道性器から採取した材料からの鏡検・培養、蛍光抗体法など
 - ・ 病原体の抗原の検出
 - 例、尿道性器から採取した材料からの酵素抗体法による検出など
 - ・ 病原体の遺伝子の検出
 - 例、尿道性器から採取した材料からのPCR法等による検出など

- 上記の基準は必ずしも満たさないが、診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、病原体診断や血清学的診断によって当該疾患と診断されたもの

(53)急性脳炎（日本脳炎を除く）

《 定 義 》

種々のウイルスなどの感染による脳実質の感染症である。しかし、まだその原因が明らかにされていないところから、炎症所見が明らかではないが同様の症状を呈する脳症もここには含まれる。

《 臨 床 的 特 徴 》

多くは何らかの先行感染を伴い、高熱に続き意識障害やけいれんが突然現れ持続する。髄液細胞数が増加しているものを急性脳炎、正常であるものを急性脳症と診断することが多いが、その臨床症状に差はない。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の3つの基準を全て満たすもの
 - ・発熱
 - ・突然の意識障害
 - ・以下の疾患の鑑別診断
熱性けいれんや代謝性疾患、脳血管性疾患、脳腫瘍、外傷など
(炎症所見が明らかではないが同様の症状を呈する脳症も含まれる)

また、原因となった病原体の検索が望ましく、判明した場合にはその名称についても併せて報告すること。

- 上記の基準は必ずしも満たさないが、診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、病原体診断や血清学的診断によって当該疾患と診断されたもの

(54) クラミジア肺炎（オウム病を除く）

《 定 義 》

Chlamydia trachomatis, *Chlamydia pneumoniae* の感染による肺炎である。

《 臨 床 的 特 徴 》

いずれも発熱に乏しい下気道感染症である。*Chlamydia trachomatis* は新生児乳児に多く主に産道感染で間質性肺炎像を呈することが多く、*C. pneumoniae* は飛沫感染により異型肺炎像を呈することが多い。

《 報告のための基準 》

○ 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断や血清学的診断がなされたもの。

・ 病原体の検出

例、気道から病原体（*C. trachomatis* または *C. pneumoniae*）の検出など

・ 病原体に対する抗体の検出

例、血清抗体の有意な上昇など

・ 病原体の抗原の検出

例、蛍光抗体法、酵素抗体法など

なお、原因となる病原体の名称についても併せて報告すること

(55) 細菌性髄膜炎

《 定 義 》

種々の細菌感染による髄膜の感染症である。

《 臨 床 的 特 徴 》

発熱、頭痛、嘔吐を主な特徴とする。項部硬直、Kernig 徴候、Brudzinski 徴候などの髄膜刺激症状が見られることがあるが、新生児や乳児などではこれらの臨床症状が明らかではないことが多い。

《 報 告 の た め の 基 準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の2つの基準を全て満たすもの
 - 1. 以下の臨床症状を呈するもの
 - ・ 発熱、頭痛、嘔吐を主な特徴とする
 - ・ 項部硬直、Kernig 徴候、Brudzinski 徴候などの髄膜刺激症状
(いずれも新生児や乳児などでは臨床症状が明らかではないことが多い)
 - 2. 以下の検査所見を有すること
 - ・ 髄液細胞数の増加 (多核球優位であることが多い)
 - ・ 髄液蛋白量の増加

- 上記の基準は必ずしも満たさないが、診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、病原体診断や血清学的診断によって当該疾患と診断されたもの

《 備 考 》

- ・ 原因となる病原体が病原体診断や血清学的診断によって判明した場合には、病原体の名称についても併せて報告すること

(56) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

《 定 義 》

ペニシリンGに対して耐性のある肺炎球菌による感染症である。

《 臨 床 的 特 徴 》

小児及び成人の化膿性髄膜炎や中耳炎で検出されるが、その他、副鼻腔炎、耳炎、髄膜炎、心内膜炎、心嚢炎、腹膜炎、関節炎、髄膜炎、まれには尿路生殖器感染から菌血症を引き起こすこともある。

《 報告のための基準 》

○ 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断がなされたもの。

・病原体の検出

- (1) 血液、腹水、胸水、髄液など、通常は無菌的であるべき臨床検体から分離された場合（敗血症・心内膜炎、腹膜炎、胸膜炎、髄膜炎、骨髄炎など）で、以下の検査室での判断基準を満たすもの
- (2) 喀痰、膿、尿、便など無菌的ではない検体からの分離では、感染症の起因菌と判定された場合（肺炎などの呼吸器感染症、肝・胆道系感染症、創傷感染症、腎盂腎炎・複雑性尿路感染症、扁桃炎、細菌性中耳炎・副鼻腔炎、皮膚・軟部組織感染症など）で、以下の検査室での判断基準を満たすもの

(検査室での判断基準)

ペニシリンのMIC, $\geq 0.125 \mu\text{g/ml}$

または、オキサシリンの感受性ディスク(KB)の阻止円の直径が19 mm以下

(57) マイコプラズマ肺炎

《 定 義 》

Mycoplasma pneumoniae の感染によって発症する肺炎である。

《 臨 床 的 特 徴 》

好発年齢は、6～12歳の小児であり、小児では発生頻度の高い感染症の一つである。潜伏期は2～3週間とされ、飛沫で感染する。異型肺炎像を呈することが多い。頑固な咳嗽と発熱を主症状に発病し、中耳炎、胸膜炎、心筋炎、髄膜炎などの合併症を併発する症例も報告されている。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断や血清学的診断がなされたもの。
 - ・ 病原体の検出
 - 例、気道から病原体が検出されたものなど
 - ・ 病原体に対する抗体の検出
 - 例、血清抗体の有意な上昇
 - 血清抗体の異常高値（間接血球凝集反応(IHA)抗体価320～640倍以上、または補体結合反応(CF)抗体価64倍以上）など

(58) 成人麻疹

《 定 義 》

18歳以上の成人に見られる急性麻疹ウイルス感染症である。

《 臨 床 的 特 徴 》

小児の麻疹と同様で、発熱、カタル症状、咳嗽、コプリック斑、色素沈着を残す発疹が特徴である。

《 報告のための基準 》

○ 18歳以上の成人であって、診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断や血清学的診断がなされたもの。

・ 病原体の検出

例、麻疹ウイルスの分離・同定など

・ 病原体の遺伝子の検出

例、咽頭ぬぐい液、血液からの PCR 法による検出など

・ 病原体に対する抗体の検出

例、血清抗体の有意な上昇など

(59) 無菌性髄膜炎

《 定 義 》

種々のウイルス感染による髄膜の感染症である。

《 臨 床 的 特 徴 》

発熱、頭痛、嘔吐を主な特徴とするが、新生児や乳児などでは臨床症状が明らかではないことが多い。項部硬直、Kernig 徴候、Brudzinski 徴候などの髄膜刺激症状が見られるが同じく新生児や乳児などではこれらが明らかではないことも多い。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の2つの基準を全て満たすもの
 - 1. 以下の臨床症状を呈するもの
 - ・ 発熱、頭痛、嘔吐を主な特徴とする
 - ・ 項部硬直、Kernig 徴候、Brudzinski 徴候などの髄膜刺激症状
(いずれも新生児や乳児などでは臨床症状が明らかではないことが多い)
 - 2. 以下の検査所見を有すること
 - ・ 髄液細胞数の増加（単核球優位であることが多い）かつ、髄液蛋白量、糖量が正常であるもの。

- 上記の基準は必ずしも満たさないが、診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、病原体診断や血清学的診断によって当該疾患と診断されたもの

《 備 考 》

- ・ 原因となる病原体が病原体診断や血清学的診断によって判明した場合には、病原体の名称についても併せて報告すること

(60)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

《 定 義 》

メシチリンなどのペニシリン剤をはじめとして、β-ラクタム剤、アミノ配糖体剤、マクロライド剤などの多くの薬剤に対し多剤耐性を示す黄色ブドウ球菌による感染症である。

《 臨 床 的 特 徴 》

外科手術後の患者や免疫不全者、長期抗菌薬投与患者などに日和見感染し、腸炎、敗血症、肺炎などを来し、突然の高熱、血圧低下、腹部膨満、下痢、意識障害、白血球減少、血小板減少、腎機能障害、肝機能障害などの症状を示す。

《 報 告 の た め の 基 準 》

○ 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断がなされたもの。

・病原体の検出

- (1)血液、腹水、胸水、髄液など、通常は無菌的であるべき臨床検体から分離された場合（敗血症・心内膜炎、腹膜炎、胸膜炎、髄膜炎、骨髄炎など）で、以下の検査室での判断基準を満たすもの
- (2)喀痰、膿、尿、便など無菌的ではない検体からの分離では、感染症の起原菌と判定された場合（肺炎などの呼吸器感染症、肝・胆道系感染症、創傷感染症、腎盂腎炎・複雑性尿路感染症、扁桃炎、細菌性中耳炎・副鼻腔炎、皮膚・軟部組織感染症など）で、以下の検査室での判断基準を満たすもの

（検査室での判断基準）

オキサシリンのMIC, $\geq 4 \mu\text{g/ml}$

または、オキサシリンの感受性ディスク(KB)の阻止円の直径が10 mm 以下

(61) 薬剤耐性緑膿菌感染症

《 定 義 》

ペニシリン剤、 β -ラクタム剤等多くの薬剤に対して耐性を示す緑膿菌による感染症である。

《 臨 床 的 特 徴 》

感染防御機能の低下した患者や抗生物質長期使用中の患者に日和見感染し、敗血症や骨髄、気道、尿路、皮膚、軟部組織、耳、眼などに多彩な感染症を起こす。

《 報告のための基準 》

○ 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断がなされたもの。

・病原体の検出

(1) 血液、腹水、胸水、髄液など、通常は無菌的であるべき臨床検体から分離された場合（敗血症・心内膜炎、腹膜炎、胸膜炎、髄膜炎、骨髄炎など）で、以下の検査室での判断基準を満たすもの

(2) 喀痰、膿、尿、便など無菌的ではない検体からの分離では、感染症の起因为菌と判定された場合（肺炎などの呼吸器感染症、肝・胆道系感染症、創傷感染症、腎盂腎炎・複雑性尿路感染症、扁桃炎、細菌性中耳炎・副鼻腔炎、皮膚・軟部組織感染症など）で、以下の検査室での判断基準を満たすもの

(検査室での判断基準)

以下の3つの条件を全て満たした場合

・イミペネムの MIC, $\geq 16 \mu\text{g/ml}$

または、イミペネムの感受性ディスク (KB) の阻止円の直径が 13 mm 以下

・アミカシンの MIC, $\geq 32 \mu\text{g/ml}$

または、アミカシンの感受性ディスク (KB) の阻止円の直径が 14 mm 以下

・シプロフロキサシンの MIC, $\geq 4 \mu\text{g/ml}$

または、シプロフロキサシンの感受性ディスク (KB) の阻止円の直径が 15 mm 以下

1 類感染症

(1) エボラ出血熱

《 定 義 》

エボラウイルス（フィロウイルス科）による熱性疾患である。

《 臨 床 的 特 徴 》

潜伏期間は2～21日で、平均1週間、針刺しによる場合は6日で、発症は突発的である。初期症状は発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛、咽頭痛で、次いで下痢、腹胸部痛が続く。一過性に皮膚発疹が出ることもある。その他滲出性の咽頭炎、結膜炎、黄疸、浮腫が見られる。発症3日後から出血傾向が見られる。点状出血、軀幹部出血に続き、消化管出血、嘔吐があらわれる。死亡例の90%以上で重篤出血が見られている。ヒトからヒトへの感染は血液、体液、排泄物等との直接接触により、空気感染は否定的である。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断や血清学的診断がなされたもの
(材料) 血液、血清、剖検材料及び生剖検皮膚（ホルマリン固定）など
 - ・ 病原体の検出
例、ウイルスの分離など
 - ・ 抗原の検出
例、ELISA 法など
 - ・ 病原体の遺伝子の検出
例、PCR 法など
 - ・ 血清抗体の検出
例、IgM あるいは IgG の免疫蛍光法あるいは ELISA 法による検出など
- 当該疾患を疑う症状や所見はないが、病原体か抗原が検出されたもの
(病原体や抗原は検出されず、遺伝子や抗体のみが検出されたものを含まない)
- 疑似症の診断
臨床的特徴に合致し、以下の疾患の鑑別診断がなされたもの
(鑑別診断) 他のウイルス性出血熱、チフス、赤痢、マラリア、デング熱、黄熱等

《 備 考 》

当該疾患を疑う症状や所見はないが、病原体や抗原は検出されず、遺伝子や抗体のみが検出されたものについては、法による報告は要しないが、確認のため保健所に相談することが必要である。

(2) クリミア・コンゴ出血熱

《 定 義 》

クリミア・コンゴウイルス（ブニヤウイルス科）による熱性疾患である。

《 臨 床 的 特 徴 》

潜伏期間は2～9日。初期症状は特異的ではない。時に突発的に発生する。発熱、頭痛、悪寒、筋肉痛、関節痛、腹痛、嘔吐がみられ、続いて咽頭痛、結膜炎、黄疸、羞明及び種々の知覚異常が現れる。点状出血が一般的にみられ、進行すると大紫斑も生ずる。特に針を刺した部位から拡がる。重症化するとさらに全身出血、血管虚脱を来し、死亡例では消化管出血が著明である。肝・腎不全も出現する。血液と体液は感染力がきわめて強い。

《 報 告 の た め の 基 準 》

○ 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断や血清学的診断がなされたもの

(材料) 血液、血清

・病原体の検出

例、ウイルスの分離など

・抗原の検出

例、ELISA 法など

・病原体の遺伝子の検出

例、PCR 法など

・血清抗体の検出

例、IgG の IFA、補体結合反応による検出など

○ 当該疾患を疑う症状や所見はないが、病原体か抗原が検出されたもの

(病原体や抗原は検出されず、遺伝子や抗体のみが検出されたものを含まない)

○ 疑似症の診断

臨床的特徴に合致し、以下の疾患の鑑別診断がなされたもの

(鑑別診断) 他のウイルス性出血熱、チフス、赤痢、マラリア、デング熱、黄熱等

《 備 考 》

当該疾患を疑う症状や所見はないが、病原体や抗原は検出されず、遺伝子や抗体のみが検出されたものについては、法による報告は要しないが、確認のため保健所に相談することが必要である。

(3)ペスト

《 定 義 》

腸内細菌科に属するグラム陰性桿菌である *Yersinia pestis* の感染によって起こる全身性疾患である。

《 臨 床 的 特 徴 》

リンパ節炎、敗血症等を起こし、重症例では高熱、意識障害などを伴う急性細菌性感染症であり、死に至ることも多い。臨床的所見により以下の3種に分けられる。

(a) 腺ペスト (ヒトペストの80~90%を占める)

潜伏期は2~7日。感染部のリンパ節が痛みとともに腫れる。菌は血流を介して全身のリンパ節、肝や脾でも繁殖し、多くは1週間くらいで死亡する。

(b) 敗血症ペスト (約10%を占める)

時に局所症状がないまま敗血症症状が先行し、皮膚のあちこちに出血斑が生じて全身が黒色となり死亡する。

(c) 肺ペスト

ペスト菌による気管支炎や肺炎を起こし、強烈な頭痛、嘔吐、39~41℃の弛張熱、急激な呼吸困難、鮮紅色の泡立った血痰を伴う重篤な肺炎像を示し、2~3日で死亡する。

《 報 告 の た め の 基 準 》

○ 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断がなされたもの

(材料) 臨床材料 (血液、リンパ節腫吸引物、痰、組織等)

・ 病原体の検出

例、ペスト菌 (*Yersinia pestis*) の分離・同定 (染色後塗抹標本の鏡検も参考となる) など

・ 抗原の検出

例、エンベロープ (Fraction I 抗原) 抗原に対する蛍光抗体法など

・ 病原体の遺伝子の検出

例、ペスト菌特異的遺伝子の PCR 法による検出など

○ 当該疾患を疑う症状や所見はないが、病原体か抗原が検出されたもの (病原体や抗原は検出されず、遺伝子のみが検出されたものを含まない)

○ 疑似症の診断

・ 臨床所見、ペスト流行地への渡航歴、齧歯類に寄生しているノミによる咬傷の有無を参考に診断し、また、以下の鑑別診断がなされたもの

(鑑別診断)

Burkholderia pseudomallei (臨床症状が肺ペストと類似)

野兔病(臨床症状が腺ペストに類似し、かつ共通抗原決定基を持つ) など

なお、血清抗体価については診断の参考として用いることができる(抗 Fraction1 抗体価が passive haemagglutination test (PHA) で10倍以上が目安)

《備 考》

当該疾患を疑う症状や所見はないが、病原体や抗原は検出されず、遺伝子や抗体のみが検出されたものについては、法による報告は要しないが、確認のため保健所に相談することが必要である。

(4) マールブルグ病

《 定 義 》

マールブルグウイルス（フィロウイルス科）による熱性疾患である。

《 臨 床 的 特 徴 》

潜伏期間は3～10日間である。発症は突発的である。発熱、頭痛、筋肉痛、皮膚粘膜発疹、咽頭結膜炎に続き、重症化すると下痢、鼻口腔・消化管出血が見られる（エボラ出血熱に類似する）。マールブルグウイルスの自然界からヒトへの感染経路は不明である。ヒトからヒトへは血液、体液、排泄物との濃厚接触及び性的接触によりウイルスが伝播する。ドイツにおける大発生（1967年）においてはアフリカミドリザルの血液、組織との接触によるものであった。アフリカ（ケニヤ等）での発生例にはサルは無関係であった。治療法はなく、対症療法のみである。

《 報告のための基準 》

（材料）血液、尿、咽頭スワブ等

- ・ 病原体の検出
例、ウイルスの分離など
- ・ 抗原の検出
例、ELISA 法による特異抗原の検出など
- ・ 病原体の遺伝子の検出
例、PCR 法など
- ・ 血清抗体の検出
例、免疫蛍光法、ELISA 法など

○ 当該疾患を疑う症状や所見はないが、病原体か抗原が検出されたもの
（病原体や抗原は検出されず、遺伝子や抗体のみが検出されたものを含まない）

○ 疑似症の診断

臨床的特徴に合致し、以下の疾患の鑑別診断がなされたもの
（鑑別診断）他のウイルス性出血熱、チフス、赤痢、マラリア、デング熱、黄熱等

《 備 考 》

当該疾患を疑う症状や所見はないが、病原体や抗原は検出されず、遺伝子や抗体のみが検出されたものについては、法による報告は要しないが、確認のため保健所に相談することが必要である。

(5) ラッサ熱

《 定 義 》

ラッサウイルス（アレナウイルス科）による熱性疾患である。

《 臨 床 的 特 徴 》

発症は突発的で進行は緩やかである。マストミスに咬まれたり尿や血液に触れる、あるいは感染発症者の血液、体液、排泄物等に直接接する等の後、潜伏期間（7～18日）を経て、高熱（39～41℃）、全身倦怠感に続き、3～4日目に大関節痛、咽頭痛、咳、筋肉痛、次いで心窩部痛、後胸部痛、嘔吐、悪心、下痢、腹部痛が認められる。重症化すると顔面頸部の浮腫、眼球、結膜、消化管出血、心のう胸膜炎、ショック。重症経過で治癒後、一側あるいは両側のろう（難聴）を示すことが20%以上ある。発症期の症状はインフルエンザ様である。

《 報告のための基準 》

○ 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断や血清学的診断がなされたもの。

（材料）血液、血清、尿、咽頭スワブ及び剖検材料等

- ・ 病原体の検出
例、ウイルスの分離など
- ・ 抗原の検出
例、ELISA 法など
- ・ 病原体の遺伝子の検出
例、PCR 法など
- ・ 血清抗体の検出
例、IgM、IgG の免疫蛍光法による検出など

○ 当該疾患を疑う症状や所見はないが、病原体か抗原が検出されたもの
（病原体や抗原は検出されず、遺伝子や抗体のみが検出されたものを含まない）

○ 疑似症の診断
臨床的特徴に合致し、以下の疾患の鑑別診断がなされたもの
（鑑別診断）他のウイルス性出血熱、チフス、赤痢、マラリア、デング熱、黄熱等

《 備 考 》

当該疾患を疑う症状や所見はないが、病原体や抗原は検出されず、遺伝子や抗体のみが検出されたものについては、法による報告は要しないが、確認のため保健所に相談することが必要である。

2 類感染症

(1) 急性灰白髄炎

《 定 義 》

ポリオウイルス1～3型感染による急性運動中枢神経感染症である。

《 臨 床 的 特 徴 》

潜伏期は3～12日で、発熱（3日間程度）、倦怠感、頭痛、嘔気、項部・背部硬直などの髄膜刺激症状を呈するが、軽症例（不全型）では軽い風邪症状または胃腸症状で終わることもある。髄膜炎症状だけで麻痺を来さないもの（非麻痺型）もあるが、重症例（麻痺型）では発熱に引き続きあるいは一旦解熱し再び熱発した後に、突然四肢の随意筋（多くは下肢）の弛緩性麻痺が現れる。罹患部位の腱反射は減弱ないし消失、知覚感覚異常を伴わない。

《 報告のための基準 》

○ 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の方法によって病原体診断がなされたもの。

（材料）便など

・ 病原体の検出

ポリオウイルスの分離・同定など

《 備 考 》

- ・ 急性灰白髄炎には疑似症の適用はない
- ・ 法による入院の勧告は、無症状の者は対象とならない。
- ・ ポリオ生ワクチンに用いられているワクチン株ウイルスによる急性灰白髄炎の発症が極めて稀に発生することがあるが、これについては法による入院の勧告の対象とはならない。

したがって、ポリオ生ワクチン接種後90日以内の発症及びワクチン接種者の家族等の発症など、ワクチン株由来の発症が疑われる場合には、即座に急性灰白髄炎として扱う必要はないが、野生株とワクチン株の鑑別及び予防接種対策上の観点から、保健所等への連絡が必要である。

(2) コレラ

《 定 義 》

コレラはコレラ毒素(CT)産生性コレラ菌 (*Vibrio cholerae* O1) または *V. cholerae* O139 に汚染された飲料水や食品を介した経口感染により、激しい水様性下痢と嘔吐、著しい脱水と電解質の流失をきたす疾病である。

《 臨 床 的 特 徴 》

コレラの潜伏期間は数時間から5日、通常1日前後である。近年のエルトールコレラは軽症の水様性下痢や軟便で経過することが多いが、まれに“米のとぎ汁”様の便臭のない水様便を1日数リットルから数十リットルも排泄し、激しい嘔吐を繰り返す。その結果、著しい脱水と電解質の喪失、チアノーゼ、体重の減少、頻脈、血圧の低下、皮膚の乾燥や弾力性の消失、無尿、虚脱などの症状および低カリウム血症による腓腹筋（ときには大腿筋）の痙攣がおこる。胃切除を受けた人や高齢者では重症になることがあり、また死亡例もまれにみられる。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の方法によって病原体診断がなされたもの。

(材料) 便など

- ・ 病原体の検出

コレラ菌 (*V.cholerae* O1) または *V.cholerae* O139 を分離・同定し、かつ、コレラ毒素産生性あるいはコレラ毒素遺伝子の保有が確認された場合

- 疑似症の診断

臨床所見、コレラ流行地への渡航歴、集団発生の状況などにより判断する
(鑑別診断) 食中毒、その他の感染性腸炎等

《 備 考 》

- ・ 法による入院の勧告は、無症状のものは対象とならない。

(3)細菌性赤痢

《 定 義 》

赤痢菌 (*Shigella dysenteriae*、*S.flexneri*、*S.boydii*、*S.sonnei*) の経口感染で起こる急性感染性大腸炎である。

《 臨 床 的 特 徴 》

潜伏期は1～5日（大多数は3日以内）。主要病変は大腸、特にS状結腸の粘膜の出血性化膿炎、潰瘍を形成することもある。このため発熱、下痢、腹痛を伴うテネスマス（tenesmus；しぶり腹 - 便意は強いがなかなか排便できない）、膿・粘血便の排泄などの赤痢特有の症状を呈する。近年軽症下痢あるいは無症状に経過する例が多い。症状は一般に成人よりも小児の方が重い。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の方法によって病原体診断がなされたもの。

（材料）便など

- ・ 病原体の検出
赤痢菌の分離・同定

- 疑似症の診断

臨床所見、赤痢流行地への渡航歴、集団発生の状況などにより判断する
（鑑別診断）カンピロバクター、赤痢アメーバ、腸管出血性大腸菌等による他の
感染性腸炎等

《 備 考 》

- ・ 法による入院の勧告は、無症状のものは対象とならない。

(4) ジフテリア

《 定 義 》

ジフテリア菌 (*Corynebacterium diphtheriae*) の感染による急性感染症である。

《 臨 床 的 特 徴 》

ジフテリア菌が咽頭などの粘膜に感染し、感染部位の粘膜や周辺の軟部組織の障害を引き起こし、扁桃から咽頭粘膜表面の偽膜性炎症、下顎部から前頸部の著しい浮腫とリンパ節腫張 (bullneck) などの症状が出現する。重症例では心筋の障害などにより死亡する。

《 報告のための基準 》

○ 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の方法によって病原体診断がなされたもの。

(材料) 病変 (感染) 部位からの採取材料

・ 病原体の検出

ジフテリア菌の分離と同定、ならびに分離菌におけるジフテリア毒素の検出

・ 病原体の遺伝子の検出

例、PCR 法など

《 備 考 》

- ・ ジフテリアには疑似症の適用はない
- ・ 法による入院の勧告は、無症状のものは対象とならない。

(5) 腸チフス

《 定 義 》

腸チフスはチフス菌(*Salmonella* serovar Typhi)の感染による全身性疾患である。

《 臨 床 的 特 徴 》

腸チフスの潜伏期間は7～14日で発熱を伴って発症する。患者、保菌者の糞便と尿が感染源となる。39℃を超える高熱が1週間以上も続き、比較的徐脈、バラ疹、脾腫、下痢などの症状を呈し、腸出血、腸穿孔を起こすこともある。重症例では意識障害や難聴が起きることもある。健康保菌者はほとんどが胆嚢内保菌者であり、胆石保有者や慢性胆嚢炎に合併することが多く、永続保菌者となることが多い。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の方法によって病原体診断がなされたもの。

(材料) 末梢血、骨髄液、便、尿、胆汁等

・ 病原体の検出

チフス菌の分離・培養

- 疑似症の診断

臨床所見、腸チフス流行地への渡航歴、集団発生の状況などにより判断する
(鑑別診断) マラリア、デング熱、A型肝炎、つつが虫病など

《 備 考 》

- ・ 法による入院の勧告は、無症状のものは対象とならない。

(6) パラチフス

《 定 義 》

パラチフスはパラチフス A 菌 (*Salmonella* serovar Paratyphi A) の感染によって起こる全身性疾患である。(*Salmonella* Paratyphi B、*Salmonella* Paratyphi C による感染症はパラチフスから除外され、サルモネラ症として取り扱われる)

《 臨 床 的 特 徴 》

臨床的症狀は腸チフスに類似する。7～14日の潜伏期間の後に38℃以上の高熱が続く。徐脈、脾腫、便秘、時には下痢、等の症狀を呈する。症狀は腸チフスと比較して、軽症の場合が多い。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の方法によって病原体診断がなされたもの。

(材料) 末梢血、骨髓液、便、尿、胆汁等

- ・ 病原体の検出

Salmonella serovar Paratyphi A の分離・培養

(*Salmonella* Paratyphi B、C はサルモネラ症として扱う)

- 疑似症の診断

臨床所見、パラチフス流行地への渡航歴、集団発生の状況などにより判断する
(鑑別診断) マラリア、デング熱、A型肝炎、つつが虫病など

《 備 考 》

- ・ 法による入院の勧告は、無症状のものは対象とならない。

3 類感染症

(1) 腸管出血性大腸菌症

《 定 義 》

ベロ毒素 (Verotoxin, VT) を産生する腸管出血性大腸菌 (enterohemorrhagic *E. coli*, EHEC あるいは Shigatoxin-producing *E. coli*, STEC) の感染によっておこる全身性疾病である。

《 臨 床 的 特 徴 》

臨床症状はその血清型により差異があるが、一般的な特徴は腹痛、水様性下痢および血便である。嘔吐や38℃台の発熱を伴うこともある。さらにベロ毒素の作用により溶血性貧血、急性腎不全をきたし、溶血性尿毒症症候群 (Hemolytic Uremic Syndrome, HUS) をひきおこすことがある。小児や高齢者では痙攣、昏睡、脳症などによって致命症となることがある。

《 報告のための基準 》

- 診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の方法によって病原体診断がなされたもの。

(材料) 患者便等

- ・ 病原体の検出

腸管出血性大腸菌を分離・同定し、かつ、分離された菌のベロ毒素産生性試験陽性またはベロ毒素遺伝子の確認 (PCR 法など) もしくは便中のベロ毒素の検出

《 備 考 》

- ・ 腸管出血性大腸菌症には疑似症の適用はない
- ・ わが国で分離される本菌の代表的な血清型は O157:H7 であるが、本症の診断には血清型の如何は問わない (報告に際しては血清型をあわせて報告することが望ましい) 。